

外国語学部 中国学科 (2012年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 小林 道彦	1学期	1	2	1
	1年				
	家族を問う 閉講	1学期	1	2	
	1年				
	人間と文化 神原 ゆうこ	1学期	1	2	2
	1年				
	ことばの科学 漆原 朗子	1学期	1	2	3
	1年				
	国際学入門 伊野 憲治	1学期	1	2	4
	1年				
	教養としての平和学 戸蒔 仁司	1学期	1	2	5
	1年				
	可能性としての歴史 小林 道彦	2学期	2	2	6
	2年				
	家族の再生 閉講	2学期	2	2	
	2年				
	文化と政治 神原 ゆうこ	2学期	2	2	7
	2年				
	言語と認知 漆原 朗子 他	1学期	2	2	8
2年					
共生社会論 伊野 憲治	2学期	2	2	9	
2年					
戦争と平和 戸蒔 仁司	2学期	2	2	10	
2年					
生活世界の哲学 伊原木 大祐	1学期	1	2	11	
1年					
共同体と身体 伊原木 大祐	2学期	2	2	12	
2年					
■スキル科目	メンタル・ヘルスI 中島 俊介	1学期	1	2	13
1年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	メンタル・ヘルスII 中島 俊介	2学期	1	2	14
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 高西 敏正	1学期	1	2	15
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 徳永 政夫	1学期	1	2	16
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 加倉井 美智子	1学期	1	2	17
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 高西 敏正	2学期	1	2	18
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 徳永 政夫	2学期	1	2	19
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 加倉井 美智子	2学期	1	2	20
		1年			
	自己管理論 河津 慶太	2学期	1	2	21
		1年			
	キャリア・デザイン 眞鍋 和博	1学期	1	2	22
		1年			
	キャリア・デザイン 見館 好隆	1学期	1	2	23
		1年			
コミュニケーションと思考法 眞鍋 和博	2学期	1	2	24	
	1年				
プロフェッショナルの仕事 見館 好隆	1学期	2	2	25	
	2年				
大学論・学問論 閉講	1学期	1	2		
	1年				
法律の読み方 小野 憲昭 他	2学期	1	2	26	
	1年				
社会調査 叶堂 隆三	2学期	1	2	27	
	1年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	統計を読む・統計をつくる	1学期	1	2	
	閉講	1年			
	フィジカル・エクササイズI (ソフトボール)	1学期	1	1	28
	黒田 次郎	1年			
	フィジカル・エクササイズI (サッカー)	1学期	1	1	29
	磯貝 浩久	1年			
	フィジカル・エクササイズI (テニス)	1学期	1	1	30
	黒田 次郎	1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン)	1学期	1	1	31
	美山 泰教	1年			
	フィジカル・エクササイズI (バレーボール)	1学期	1	1	32
	美山 泰教	1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン)	1学期	1	1	33
	鯨 吉夫	1年			
	フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ)	1学期	1	1	34
	加倉井 美智子	1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン)	2学期	1	1	35
	磯貝 浩久	1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン)	2学期	1	1	36
	黒田 次郎	1年			
フィジカル・エクササイズII (バスケットボール)	2学期	1	1	37	
黒田 次郎	1年				
フィジカル・エクササイズII (バレーボール)	2学期	1	1	38	
美山 泰教	1年				
フィジカル・エクササイズII (サッカー)	2学期	1	1	39	
鯨 吉夫	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン)	2学期	1	1	40	
鯨 吉夫	1年				
フィジカル・エクササイズII (サッカー)	2学期	1	1	41	
磯貝 浩久	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	フィジカル・エクササイズII (バドミントン)	2学期	1	1	42
	徳永 政夫	1年			
■教養演習科目	教養基礎演習I	1学期	1	2	43
	伊野 憲治 他	1年			
	教養基礎演習I	1学期	1	2	44
	日高 京子	1年			
	教養基礎演習I	1学期	1	2	45
	小林 道彦	1年			
	教養基礎演習I	1学期	1	2	46
	神原 ゆうこ	1年			
	教養基礎演習I	1学期	1	2	47
	徳永 政夫	1年			
	教養基礎演習I	1学期	1	2	48
	稲月 正	1年			
	教養基礎演習I	1学期	1	2	49
	廣川 祐司	1年			
	教養基礎演習I (防衛セミナー)	1学期	1	2	50
	戸蒔 仁司	1年			
	教養基礎演習I	1学期	1	2	51
	伊原木 大祐	1年			
	教養基礎演習I	1学期	1	2	52
	二宮 正人	1年			
	教養基礎演習I	1学期	1	2	53
	高西 敏正	1年			
	教養基礎演習II	2学期	1	2	54
	伊野 憲治 他	1年			
	教養基礎演習II	2学期	1	2	55
	眞鍋 和博 他	1年			
	教養基礎演習II	2学期	1	2	56
	日高 京子	1年			

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養基礎演習II	2学期	1	2	57
	小林 道彦	1年			
	教養基礎演習II	2学期	1	2	58
	神原 ゆうこ	1年			
	教養基礎演習II	2学期	1	2	59
	徳永 政夫	1年			
	教養基礎演習II	2学期	1	2	60
	廣川 祐司	1年			
	教養基礎演習II (防衛セミナー)	1学期	1	2	61
	戸蒔 仁司	1年			
	教養基礎演習II	2学期	1	2	62
	伊原木 大祐	1年			
	教養基礎演習II	2学期	1	2	63
	高西 敏正	1年			
	教養演習AI	1学期	2	2	64
	徳永 政夫 他	2年			
	教養演習AI	1学期	2	2	65
	伊野 憲治 他	2年			
	教養演習AI	1学期	2	2	66
日高 京子	2年				
教養演習AI	1学期	2	2	67	
小林 道彦	2年				
教養演習AI	1学期	2	2	68	
神原 ゆうこ	2年				
教養演習AI (防衛セミナー)	1学期	2	2	69	
戸蒔 仁司	2年				
教養演習AI	1学期	2	2	70	
稲月 正	2年				
教養演習AI	1学期	2	2	71	
伊原木 大祐	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習AII 伊野 憲治 他	2学期	2	2	72
		2年			
	教養演習AII 徳永 政夫 他	2学期	2	2	73
		2年			
	教養演習AII 日高 京子	2学期	2	2	74
		2年			
	教養演習AII 小林 道彦	2学期	2	2	75
		2年			
	教養演習AII 神原 ゆうこ	2学期	2	2	76
		2年			
	教養演習AII (防衛セミナー) 戸蒔 仁司	1学期	2	2	77
		2年			
	教養演習AII 伊原木 大祐	2学期	2	2	78
		2年			
	教養演習AII 二宮 正人	2学期	2	2	79
		2年			
	教養演習BI 伊野 憲治 他	1学期	3	2	80
		3年			
教養演習BI 徳永 政夫 他	1学期	3	2	81	
	3年				
教養演習BI 日高 京子	1学期	3	2	82	
	3年				
教養演習BI 小林 道彦	1学期	3	2	83	
	3年				
教養演習BI 神原 ゆうこ	1学期	3	2	84	
	3年				
教養演習BI (防衛セミナー) 戸蒔 仁司	1学期	3	2	85	
	3年				
教養演習BI 稲月 正	1学期	3	2	86	
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習BⅠ 伊原木 大祐	1学期	3	2	87
	3年				
	教養演習BⅡ 徳永 政夫 他	2学期	3	2	88
	3年				
	教養演習BⅡ 伊野 憲治 他	2学期	3	2	89
	3年				
	教養演習BⅡ 日高 京子	2学期	3	2	90
	3年				
	教養演習BⅡ 小林 道彦	2学期	3	2	91
	3年				
	教養演習BⅡ 神原 ゆうこ	2学期	3	2	92
	3年				
	教養演習BⅡ(防衛セミナー) 戸蒔 仁司	1学期	3	2	93
	3年				
教養演習BⅡ 伊原木 大祐	2学期	3	2	94	
3年					
教養演習BⅡ 二宮 正人	2学期	3	2	95	
3年					
プロジェクト演習Ⅰ 見館 好隆	2学期	2	2	96	
2年					
プロジェクト演習Ⅱ 見館 好隆	1学期	3	2	97	
3年					
■テーマ科目	自然学のまなざし 竹川 大介 他	1学期	1	2	98
	1年				
	動物のみかた 到津の森公園、文学部 竹川大介	2学期	1	2	99
	1年				
地球の生いたち 長井 孝一	2学期	1	2	100	
1年					
自然史へのいざない 北九州市立自然史・歴史博物館、基盤教育センター 日高京子	2学期	1	2	101	
1年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	くらしと化学 秋貞 英雄	1学期	1	2	102
		1年			
	現代人のこころ 松尾 太加志 他	1学期	1	2	103
		1年			
	現代人のこころ 森永 今日子	1学期	1	2	104
		1年			
	数のたのしみ 閉講	集中	1	2	
		1年			
	私たちと宗教 関 一敏	2学期	1	2	105
		1年			
	思想と現代 伊原木 大祐	1学期	1	2	106
		1年			
	ものがたりと人間 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	文化と表象 真鍋 昌賢	2学期	1	2	107
		1年			
	言語とコミュニケーション 漆原 朗子 他	2学期	1	2	108
		1年			
芸術と人間 花田 伸一	2学期	1	2	109	
	1年				
文学を読む 岩本 真理子 他	2学期	1	2	110	
	1年				
戦争と人間 閉講	1学期	1	2		
	1年				
現代正義論 重松 博之	2学期	1	2	111	
	1年				
民主主義とは何か 中道 壽一	1学期	1	2	112	
	1年				
人権論 柳井 美枝	1学期	1	2	113	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	ジェンダー論 カ武 由美	1学期	1	2	114
		1年			
	障がい学 伊野 憲治 他	2学期	1	2	115
		1年			
	共生の作法 二宮 正人 他	1学期	1	2	116
		1年			
	北九州学 日高 京子	2学期	1	2	117
		1年			
	市民活動論 西田 心平	2学期	1	2	118
		1年			
	企業と社会 山岡 敏秀	1学期	1	2	119
		1年			
	つながりの人間学 坂本 毅啓	1学期	1	2	120
		1年			
	現代社会と倫理 伊原木 大祐	1学期	1	2	121
		1年			
	現代社会の諸問題 西日本新聞社、基盤教育センター 稲月正	1学期	1	2	122
	1年				
現代の国際情勢 下野 寿子 他	1学期	1	2	123	
	1年				
国際社会論 休講	1学期	1	2		
	1年				
国際紛争と国連 二宮 正人	1学期	1	2	124	
	1年				
民族・エスニシティ問題 久木 尚志 他	1学期	1	2	125	
	1年				
開発と統治 三宅 博之 他	2学期	1	2	126	
	1年				
グローバル化する経済 前田 淳 他	1学期	1	2	127	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	テロリズム論 戸蒔 仁司	2学期	1	2	128
		1年			
	国際社会と日本 金 鳳珍	2学期	1	2	129
		1年			
	歴史の読み方I 八百 啓介	1学期	1	2	130
		1年			
	歴史の読み方II 小林 道彦	1学期	1	2	131
		1年			
	そのとき世界は 小林 道彦 他	2学期	1	2	132
		1年			
	戦後の日本経済 迎 由理男	2学期	1	2	133
		1年			
	都市と農村の生活文化史 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	ものと人間の歴史 中野 博文 他	1学期	1	2	134
		1年			
人物と時代の歴史 山崎 勇治 他	1学期	1	2	135	
	1年				
教養特講I 休講	2学期	1	2		
	1年				
教養特講II (ホスピタリティ論) 西澤 健次 他	2学期	1	2	136	
	1年				
教養特講III 休講	2学期	1	2		
	1年				
教養特講IV 休講	2学期	1	2		
	1年				
■教職関連科目	日本史 内山 一幸	2学期	1	2	137
		1年			
	西洋史 疇谷 憲洋	1学期	1	2	138
		1年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教職関連科目	東洋史 藤野 月子	2学期	1	2	139
		1年			
	社会学 稲月 正	1学期	1	2	140
		1年			
	人文地理学 外柙保 大介	2学期	1	2	141
		1年			
	土地地理学 野井 英明	1学期	1	2	142
		1年			
地誌学 外柙保 大介	1学期	1	2	143	
	1年				
日本国憲法 植木 淳	2学期	1	2	144	
	1年				
倫理学 清水 満	2学期	1	2	145	
	1年				
■情報教育科目	エンドユーザコンピューティング 中尾 泰士	2学期	1	2	146
		1年			
	データ処理 岩田 一男	1学期	1	2	147
		中			
	データ処理 浅羽 修丈	2学期		2	148
		再履			
	情報表現 浅羽 修丈	2学期	2	2	149
		2年			
情報表現 中尾 泰士	2学期	2	2	150	
	2年				
情報表現 棚次 奎介	2学期	2	2	151	
	2年				
プログラミング基礎 浅羽 修丈	2学期	2	2	152	
	2年				
■外国語教育科目 ■第一外国語	中国語7 (総合) 一木 達彦	1学期	2	1	153
		2 - 1			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
		備考				
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	中国語7 (総合)	1学期	2	1	154	
	一木 達彦	2 - 2				
	中国語7 (総合)	1学期	2	1	155	
	一木 達彦	2 - 3				
	中国語8 (総合)	2学期	2	1	156	
	一木 達彦	2 - 1				
	中国語8 (総合)	2学期	2	1	157	
	一木 達彦	2 - 2				
	中国語8 (総合)	2学期	2	1	158	
	一木 達彦	2 - 3				
	■第二外国語	英語I (中 1 - A)	1学期	1	1	159
		安丸 雅子	中 1 - A			
英語I (中 1 - B)		1学期	1	1	160	
酒井 秀子		中 1 - B				
英語II (中 1 - A)		2学期	1	1	161	
安丸 雅子		中 1 - A				
英語II (中 1 - B)		2学期	1	1	162	
酒井 秀子		中 1 - B				
英語III (中 1 - A)		1学期	1	1	163	
ダニー・ミン		中 1 - A				
英語III (中 1 - B)		1学期	1	1	164	
デビッド・アダム・ストット		中 1 - B				
英語IV (中 1 - A)	2学期	1	1	165		
ダニー・ミン	中 1 - A					
英語IV (中 1 - B)	2学期	1	1	166		
デビッド・アダム・ストット	中 1 - B					
英語V (中 2 - A)	1学期	2	1	167		
渡邊 嘉則	中 2 - A					
英語V (中 2 - B)	1学期	2	1	168		
木梨 安子	中 2 - B					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	英語VI (中 2 - A) 渡邊 嘉則	2学期	2	1	169
		中 2 - A			
	英語VI (中 2 - B) 木梨 安子	2学期	2	1	170
		中 2 - B			
	英語VII (中 2 - A) ケネス・ギブソン	1学期	2	1	171
		中 2 - A			
	英語VII (中 2 - B) ジェイムズ・ヒックス	1学期	2	1	172
		中 2 - B			
	英語VIII (中 2 - A) ケネス・ギブソン	2学期	2	1	173
		中 2 - A			
	英語VIII (中 2 - B) ジェイムズ・ヒックス	2学期	2	1	174
		中 2 - B			
	英語IX (英中国 3 年) 永末 康介	1学期	3	1	175
		英中国 3 年			
	英語X (英中国 3 年) 葛西 宏信	2学期	3	1	176
		英中国 3 年			
	英語XI (英中国 3 年) ロバート・マーフィ	1学期	3	1	177
		英中国 3 年			
英語XII (英中国 3 年) ロバート・マーフィ	2学期	3	1	178	
	英中国 3 年				
朝鮮語I チャン ユンヒャン	1学期	1	1	179	
	中 1 年				
朝鮮語II チャン ユンヒャン	2学期	1	1	180	
	中 1 年				
朝鮮語III チャン ユンヒャン	1学期	1	1	181	
	中 1 年				
朝鮮語IV チャン ユンヒャン	2学期	1	1	182	
	中 1 年				
朝鮮語V 金 貞愛	1学期	2	1	183	
	中 2 年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	朝鮮語VI 金 貞愛	2学期	2	1	184
		中2年			
	朝鮮語VII 金 貞淑	1学期	2	1	185
		中2年			
	朝鮮語VIII 金 貞淑	2学期	2	1	186
		中2年			
	上級朝鮮語I 金 貞淑	1学期	3	1	187
		英中国済営比人3年			
	上級朝鮮語II 金 貞淑	2学期	3	1	188
		英中国済営比人3年			
	上級朝鮮語III 金 貞愛	1学期	3	1	189
		英中国済営比人3年			
	上級朝鮮語IV 金 貞愛	2学期	3	1	190
		英中国済営比人3年			
	ロシア語I 芳之内 雄二	1学期	1	1	191
		中国1年			
	ロシア語II 芳之内 雄二	2学期	1	1	192
		中国1年			
	ロシア語III ナタリア・シエスタコーワ	1学期	1	1	193
		中国1年			
ロシア語IV ナタリア・シエスタコーワ	2学期	1	1	194	
	中国1年				
ロシア語V 芳之内 雄二	1学期	2	1	195	
	中国2年				
ロシア語VI 芳之内 雄二	2学期	2	1	196	
	中国2年				
ロシア語VII ナタリア・シエスタコーワ	1学期	2	1	197	
	中国2年				
ロシア語VIII ナタリア・シエスタコーワ	2学期	2	1	198	
	中国2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	ドイツ語I 山下 哲雄	1学期	1	1	199
		中国 1年			
	ドイツ語II 山下 哲雄	2学期	1	1	200
		中国 1年			
	ドイツ語III 山下 哲雄	1学期	1	1	201
		中国 1年			
	ドイツ語IV 山下 哲雄	2学期	1	1	202
		中国 1年			
	ドイツ語V 山下 哲雄	1学期	2	1	203
		中国 2年			
	ドイツ語VI 山下 哲雄	2学期	2	1	204
		中国 2年			
	ドイツ語VII 山下 哲雄	1学期	2	1	205
		中国 2年			
	ドイツ語VIII 山下 哲雄	2学期	2	1	206
		中国 2年			
	フランス語I 坂田 由紀	1学期	1	1	207
		中国 1年			
	フランス語II 坂田 由紀	2学期	1	1	208
		中国 1年			
フランス語III 山下 広一	1学期	1	1	209	
	中国 1年				
フランス語IV 山下 広一	2学期	1	1	210	
	中国 1年				
フランス語V 坂田 由紀	1学期	2	1	211	
	中国 2年				
フランス語VI 坂田 由紀	2学期	2	1	212	
	中国 2年				
フランス語VII ドゥラボード・ブランシュ	1学期	2	1	213	
	中国 2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	フランス語VIII ドゥラボード・ブランシュ	2学期	2	1	214
		中国 2 年			
	スペイン語I 青木 文夫	1学期	1	1	215
		中国 1 年			
	スペイン語II 青木 文夫	2学期	1	1	216
		中国 1 年			
	スペイン語III 辻 博子	1学期	1	1	217
		中国 1 年			
	スペイン語IV 辻 博子	2学期	1	1	218
		中国 1 年			
スペイン語V 辻 光博	1学期	2	1	219	
	中国 2 年				
スペイン語VI 辻 光博	2学期	2	1	220	
	中国 2 年				
スペイン語VII 辻 博子	1学期	2	1	221	
	中国 2 年				
スペイン語VIII 辻 博子	2学期	2	1	222	
	中国 2 年				
■留学生特別科目	日本語 A 清水 順子 木曜 2 限 (月曜 2 限とペア)	1学期 (ペア)	1	2	223
		留学生 1 年			
	日本語 A 清水 順子 木曜 3 限 (月曜 3 限とペア)	1学期 (ペア)	1	2	224
		留学生 1 年			
	日本語 A 中山 亜紀子 月曜 2 限 (木曜 2 限とペア)	1学期 (ペア)	1	2	225
		留学生 1 年			
	日本語 A 中山 亜紀子 月曜 3 限 (木曜 3 限とペア)	1学期 (ペア)	1	2	226
		留学生 1 年			
	日本語 B 清水 順子 金曜 2 限 (火曜 2 限とペア)	1学期 (ペア)	1	2	227
		留学生 1 年			
日本語 B 清水 順子 金曜 3 限 (火曜 3 限とペア)	1学期 (ペア)	1	2	228	
	留学生 1 年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■留学生特別科目	日本語 B 小林 浩明 火曜 3 限 (金曜 3 限とペア)	1 学期 (ペア)	1	2	229
	留学生 1 年				
	日本語 B 小林 浩明 火曜 2 限 (金曜 2 限とペア)	1 学期 (ペア)	1	2	230
	留学生 1 年				
	日本語 C 清水 順子 木曜 3 限 (月曜 3 限とペア)	2 学期 (ペア)	1	2	231
	留学生 1 年				
	日本語 C 清水 順子 木曜 2 限 (月曜 2 限とペア)	2 学期 (ペア)	1	2	232
	留学生 1 年				
	日本語 C 清水 順子 月曜 3 限 (木曜 3 限とペア)	2 学期 (ペア)	1	2	233
	留学生 1 年				
	日本語 C 清水 順子 月曜 2 限 (木曜 2 限とペア)	2 学期 (ペア)	1	2	234
	留学生 1 年				
	日本語 D 清水 順子 金曜 2 限 (火曜 2 限とペア)	2 学期 (ペア)	1	2	235
	留学生 1 年				
	日本語 D 清水 順子 金曜 3 限 (火曜 3 限とペア)	2 学期 (ペア)	1	2	236
	留学生 1 年				
	日本語 D 小林 浩明 火曜 3 限 (金曜 3 限とペア)	2 学期 (ペア)	1	2	237
	留学生 1 年				
日本語 D 小林 浩明 火曜 2 限 (金曜 2 限とペア)	2 学期 (ペア)	1	2	238	
留学生 1 年					
日本事情 (人文) A 清水 順子	1 学期	1	2	239	
留学生 1 年					
日本事情 (人文) B 家根橋 伸子	2 学期	1	2	240	
留学生 1 年					
日本事情 (社会) A 山崎 勇治	1 学期	1	2	241	
留学生 1 年					
日本事情 (社会) B 山崎 勇治	2 学期	1	2	242	
留学生 1 年					
■専門教育科目 ■必修科目 ■専攻外国語	中国語初級会話 A I 張 景珊	1 学期	1	1	243
1 年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■必修科目 ■専攻外国語	中国語初級会話AⅡ	2学期	1	1	244
	張 景珊	1年			
	中国語初級会話BⅠ	1学期	1	1	245
	葉 言材	1年			
	中国語初級会話BⅠ	1学期	1	1	246
	葉 言材	1年			
	中国語初級会話BⅠ	1学期	1	1	247
	葉 言材	1年			
	中国語初級会話BⅡ	2学期	1	1	248
	葉 言材	1年			
	中国語初級会話BⅡ	2学期	1	1	249
	葉 言材	1年			
	中国語初級会話BⅡ	2学期	1	1	250
	葉 言材	1年			
	中国語中級会話AⅠ	1学期	2	1	251
	馬 叢慧	2 - 1			
	中国語中級会話AⅠ	1学期	2	1	252
	馬 叢慧	2 - 2			
	中国語中級会話AⅠ	1学期	2	1	253
	馬 叢慧	2 - 3			
中国語中級会話AⅡ	2学期	2	1	254	
馬 叢慧	2 - 1				
中国語中級会話AⅡ	2学期	2	1	255	
馬 叢慧	2 - 2				
中国語中級会話AⅡ	2学期	2	1	256	
馬 叢慧	2 - 3				
中国語中級会話BⅠ	1学期	2	1	257	
王 曉芳	2 - 1				
中国語中級会話BⅠ	1学期	2	1	258	
王 曉芳	2 - 2				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■専門教育科目 ■必修科目 ■専攻外国語	中国語中級会話BⅠ	1学期	2	1	259
	王 曉芳	2 - 3			
	中国語中級会話BⅡ	2学期	2	1	260
	王 曉芳	2 - 1			
	中国語中級会話BⅡ	2学期	2	1	261
	王 曉芳	2 - 2			
	中国語中級会話BⅡ	2学期	2	1	262
	王 曉芳	2 - 3			
	中国語講読Ⅰ	1学期	2	2	263
	板谷 俊生	2 - 1			
	中国語講読Ⅰ	1学期	2	2	264
	板谷 俊生	2 - 2			
	中国語講読Ⅰ	1学期	2	2	265
	板谷 俊生	2 - 3			
	中国語講読Ⅱ	2学期	2	2	266
	板谷 俊生	2 - 1			
	中国語講読Ⅱ	2学期	2	2	267
	板谷 俊生	2 - 2			
	中国語講読Ⅱ	2学期	2	2	268
	板谷 俊生	2 - 3			
中国語中級作文Ⅰ	1学期	2	2	269	
陳 振華	2 - 1				
中国語中級作文Ⅰ	1学期	2	2	270	
陳 振華	2 - 2				
中国語中級作文Ⅰ	1学期	2	2	271	
陳 振華	2 - 3				
中国語中級作文Ⅱ	2学期	2	2	272	
陳 振華	2 - 1				
中国語中級作文Ⅱ	2学期	2	2	273	
陳 振華	2 - 2				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■専門教育科目 ■必修科目 ■専攻外国語	中国語中級作文II	2学期	2	2	274
	陳 振華	2 - 3			
	中国語上級会話AI	1学期	3	2	275
	胡 玉華	3 - 1			
	中国語上級会話AI	1学期	3	2	276
	胡 玉華	3 - 2			
	中国語上級会話AI	1学期	3	2	277
	胡 玉華	3 - 3			
	中国語上級会話AII	2学期	3	2	278
	胡 玉華	3 - 1			
	中国語上級会話AII	2学期	3	2	279
	胡 玉華	3 - 2			
	中国語上級会話AII	2学期	3	2	280
	胡 玉華	3 - 3			
	中国語上級作文I	1学期	3	2	281
	篠原 征子	3 - 1			
	中国語上級作文I	1学期	3	2	282
	篠原 征子	3 - 2			
	中国語上級作文I	1学期	3	2	283
	篠原 征子	3 - 3			
中国語上級作文II	2学期	3	2	284	
篠原 征子	3 - 1				
中国語上級作文II	2学期	3	2	285	
篠原 征子	3 - 2				
中国語上級作文II	2学期	3	2	286	
篠原 征子	3 - 3				
中国語リスニングI	1学期	2	1	287	
宋 健華	2 - 1				
中国語リスニングI	1学期	2	1	288	
宋 健華	2 - 2				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■専門教育科目 ■必修科目 ■専攻外国語	中国語リスニングI	1学期	2	1	289
	宋 健華	2 - 3			
	中国語リスニングII	2学期	2	1	290
	宋 健華	2 - 1			
	中国語リスニングII	2学期	2	1	291
	宋 健華	2 - 2			
	中国語リスニングII	2学期	2	1	292
	宋 健華	2 - 3			
	中国語リスニングIII	1学期	3	1	293
	王 雲燕	3 - 1			
	中国語リスニングIII	1学期	3	1	294
	王 雲燕	3 - 2			
	中国語リスニングIII	1学期	3	1	295
	王 雲燕	3 - 3			
	中国語リスニングIV	2学期	3	1	296
	王 雲燕	3 - 1			
中国語リスニングIV	2学期	3	1	297	
王 雲燕	3 - 2				
中国語リスニングIV	2学期	3	1	298	
王 雲燕	3 - 3				
■演習科目	研究演習 10 A	1学期	3	2	
	休講	3年			
	研究演習 1 A	1学期	3	2	299
	板谷 俊生	3年			
	研究演習 2 A	1学期	3	2	
	休講	3年			
研究演習 3 A	1学期	3	2	300	
平田 直子	3年				
研究演習 4 A	1学期	3	2	301	
白石 麻保	3年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■必修科目 ■演習科目	研究演習 5 A	1学期	3	2	
	休講	3年			
	研究演習 6 A	1学期	3	2	302
	西 香織	3年			
	研究演習 7 A	1学期	3	2	303
	堀地 明	3年			
	研究演習 8 A	1学期	3	2	304
	山本 進	3年			
	研究演習 9 A	1学期	3	2	305
	葉 言材	3年			
	研究演習 10 B	2学期	3	2	
	休講	3年			
	研究演習 1 B	2学期	3	2	306
	板谷 俊生	3年			
	研究演習 2 B	2学期	3	2	
	休講	3年			
	研究演習 3 B	2学期	3	2	307
	平田 直子	3年			
	研究演習 4 B	2学期	3	2	308
	白石 麻保	3年			
研究演習 5 B	2学期	3	2		
休講	3年				
研究演習 6 B	2学期	3	2	309	
西 香織	3年				
研究演習 7 B	2学期	3	2	310	
堀地 明	3年				
研究演習 8 B	2学期	3	2	311	
山本 進	3年				
研究演習 9 B	2学期	3	2	312	
葉 言材	3年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■必修科目 ■演習科目	卒業研究演習 1 0 A	1学期	4	2	
	休講	4年			
	卒業研究演習 1 A	1学期	4	2	313
	板谷 俊生	4年			
	卒業研究演習 2 A	1学期	4	2	314
	金縄 初美	4年			
	卒業研究演習 3 A	1学期	4	2	315
	平田 直子	4年			
	卒業研究演習 4 A	1学期	4	2	316
	白石 麻保	4年			
	卒業研究演習 5 A	1学期	4	2	
	休講	4年			
	卒業研究演習 6 A	1学期	4	2	317
	西 香織	4年			
	卒業研究演習 7 A	1学期	4	2	318
	堀地 明	4年			
	卒業研究演習 8 A	1学期	4	2	319
	山本 進	4年			
	卒業研究演習 9 A	1学期	4	2	320
	葉 言材	4年			
卒業研究演習 1 0 B	2学期	4	2		
休講	4年				
卒業研究演習 1 B	2学期	4	2	321	
板谷 俊生	4年				
卒業研究演習 2 B	2学期	4	2	322	
金縄 初美	4年				
卒業研究演習 3 B	2学期	4	2	323	
平田 直子	4年				
卒業研究演習 4 B	2学期	4	2	324	
白石 麻保	4年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■必修科目 ■演習科目	卒業研究演習 5 B	2学期	4	2	
	休講	4年			
	卒業研究演習 6 B	2学期	4	2	325
	西 香織	4年			
	卒業研究演習 7 B	2学期	4	2	326
	堀地 明	4年			
	卒業研究演習 8 B	2学期	4	2	327
	山本 進	4年			
	卒業研究演習 9 B	2学期	4	2	328
	葉 言材	4年			
■選択科目 ■専門科目	中国文学史I	1学期	2	2	329
	劉 丹	2年			
	中国文学史II	2学期	2	2	330
	劉 丹	2年			
	時事中国語講読I	1学期	2	2	331
	白石 麻保	2年			
	時事中国語講読II	2学期	2	2	332
	白石 麻保	2年			
	中国の政治外交I	1学期	2	2	333
	下野 寿子	2年			
	中国の政治外交II	2学期	2	2	334
	下野 寿子	2年			
	中国文化論	1学期	2	2	335
	板谷 秀子	2年			
日中文化比較	2学期	2	2	336	
板谷 秀子	2年				
比較中国思想	2学期	2	2	337	
鄧 紅	2年				
中国社会経済史I	1学期	2	2	338	
山本 進	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目 ■専門科目	中国社会経済史II 山本 進	2学期	2	2	339
		2年			
	中国経済論I 白石 麻保	1学期	2	2	340
		2年			
	中国経済論II 白石 麻保	2学期	2	2	341
		2年			
	漢文学 榑崎 洋一郎	1学期	2	2	342
		2年			
	文学作品講読A 与小田 隆一	1学期	3	2	343
		3年			
	文学作品講読B 与小田 隆一	2学期	3	2	344
		3年			
	中国歴史社会研究I 山本 進	1学期	3	2	345
		3年			
	中国歴史社会研究II 山本 進	2学期	3	2	346
		3年			
	ビジネス中国語A 唐 雋	1学期	3	2	347
		3 - A			
ビジネス中国語A 唐 雋	1学期	3	2	348	
	3 - B				
ビジネス中国語B 唐 雋	2学期	3	2	349	
	3 - A				
ビジネス中国語B 唐 雋	2学期	3	2	350	
	3 - B				
中国の社会 鄧 紅	1学期	3	2	351	
	3年				
東アジア経済論 尹 明憲	1学期	3	2	352	
	3年				
■関連科目	地域研究入門 (朝鮮半島) 綴田 芳憲	2学期	2	2	353
		2年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目 ■関連科目	地域研究入門(東南アジア)	1学期	2	2	354
	篠崎 香織	2年			
	英米文化概論I	1学期	2	2	355
	久木 尚志	2年			
	英米文化概論II	2学期	2	2	356
	川上 耕平	2年			
	国際関係論I	1学期	3	2	357
	未定	3年			
	国際関係論II	2学期	3	2	358
	大平 剛	3年			
	アメリカの政治I	1学期	3	2	359
	中野 博文	3年			
	アメリカの政治II	2学期	3	2	360
	川上 耕平	3年			
	アメリカの政治III	1学期	3	2	
	休講	3年			
	アメリカの政治IV	2学期	3	2	
	休講	3年			
	東アジア地域秩序論I	1学期	3	2	361
	久芳 崇	3年			
東アジア地域秩序論II	2学期	3	2	362	
金 鳳珍	3年				
国際経済論I	1学期	3	2	363	
魏 芳	3年				
国際経済論II	2学期	3	2	364	
福間 比呂志	3年				
アジア地域統合論	2学期	3	2	365	
篠崎 香織	3年				
韓国・北朝鮮の政治外交I	1学期	3	2	366	
綴田 芳憲	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目 ■関連科目	韓国・北朝鮮の政治外交II 綴田 芳憲	2学期	3	2	367
	3年				
	国際法I (法学部のみ)	1学期	3	2	
	3年				
	国際法II 休講	2学期	3	2	
	3年				
	世界経済論I 尹 明憲	2学期	3	2	368
	3年				
	世界経済論II 尹 明憲	2学期	3	2	369
	3年				
	途上国開発論 三宅 博之	1学期	4	2	370
	4年				
	アメリカ経済 休講	2学期	4	2	
	4年				
アメリカの社会I 朝立 康太郎	1学期	4	2	371	
4年					
アメリカの社会II 北 美幸	2学期	4	2	372	
4年					
国際貿易論I 水戸 康夫	1学期	4	2	373	
4年					
国際貿易論II 水戸 康夫	2学期	4	2	374	
4年					
■基礎教育科目	地域研究入門(中国) 下野 寿子	1学期	1	2	375
	1年				
	中国近現代史I 堀地 明	1学期	1	2	376
	1年				
中国近現代史II 堀地 明	2学期	1	2	377	
1年					
中国語学概論I 西 香織	1学期	1	2	378	
1年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目 ■基礎教育科目	中国語学概論II 西 香織	2学期	1	2	379
		1年			
	中国語音声学I 平田 直子	1学期	1	2	380
		1年			
	中国語音声学II 平田 直子	2学期	1	2	381
		1年			
■教職に関する科目	中国語科教育法III 胡 玉華	1学期	2	2	382
		2年			
	中国語科教育法IV 胡 玉華	2学期	2	2	383
		2年			
■必修科目	教師論 黒田 耕司	1学期	1	2	384
		1年			
	教育原理 見玉 弥生	2学期	1	2	385
		1年			
	発達心理学 税田 慶昭	1学期	2	2	386
		2年			
	教育制度 見玉 弥生	1学期	3	2	387
		3年			
	中国語科教育法I 休講	1学期	2	2	
		2年			
	中国語科教育法II 休講	2学期	2	2	
		2年			
	道德教育の研究 黒田 耕司	2学期	2	2	388
		2年			
	特別活動の研究 楠 凡之	1学期	2	2	389
	2年				
教育方法学 黒田 耕司	1学期	2	2	390	
	2年				
教育工学 大塚 一徳	2学期	2	2	391	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■教職に関する科目 ■必修科目	教育実習 1 黒田 耕司 他	2学期	3	2	392
		3年			
	教育実習 2 恒吉 紀寿 他	1学期	4	2	393
		4年			
	教育相談 楠 凡之	1学期	2	2	394
		2年			
生徒・進路指導論 楠 凡之	2学期	2	2	395	
	2年				
	教職実践演習(中・高) 休講	2学期	4	2	
		4年			
■選択科目	教育心理学 五十嵐 亮	2学期	2	2	396
		2年			
	教育実習 3 恒吉 紀寿 他	1学期	4	2	397
		4年			
	教育法規 休講	2学期	3	2	
		3年			
障害児の心理と指導 税田 慶昭	2学期	2	2	398	
	2年				
教育社会学 見玉 弥生	1学期	2	2	399	
	2年				
■教科または教職に関する科目	人権教育論 弓野 勝族	1学期	2	2	400
		2年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 小林 道彦	2学期	1	2	401
		1年			
	家族を問う 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	人間と文化 神原 ゆうこ	1学期	1	2	402
		1年			
	ことばの科学 漆原 朗子	1学期	1	2	403
		1年			
	国際学入門 伊野 憲治	1学期	1	2	404
		1年			
	教養としての平和学 戸蒔 仁司	1学期	1	2	405
		1年			
	可能性としての歴史 (昼のみ開講)		2	2	
		2年			
	家族の再生 閉講		2	2	
		2年			
	文化と政治 (昼のみ開講)		2	2	
		2年			
	言語と認知 (昼のみ開講)		2	2	
	2年				
共生社会論 (昼のみ開講)		2	2		
	2年				
戦争と平和 (昼のみ開講)		2	2		
	2年				
生活世界の哲学 伊原木 大祐	2学期	1	2	406	
	1年				
共同体と身体 (昼のみ開講)		2	2		
	2年				
■スキル科目	メンタル・ヘルスI 中島 俊介	1学期	1	2	407
		1年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
備考						
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	メンタル・ヘルスII	2学期	1	2		
	休講	1年				
	フィジカル・ヘルスI	1学期	1	2		
	休講	1年				
	フィジカル・ヘルスII	2学期	1	2		
	休講	1年				
	自己管理論		1	2		
	休講	1年				
	キャリア・デザイン	(昼のみ開講)		1	2	
			1年			
	コミュニケーションと思考法	(昼のみ開講)	2学期	1	2	
			1年			
	プロフェッショナルの仕事	(昼のみ開講)	1学期	2	2	
			2年			
	大学論・学問論	閉講		1	2	
		1年				
法律の読み方	休講		1	2		
		1年				
社会調査	山本 努	2学期	1	2	408	
		1年				
統計を読む・統計をつくる	閉講		1	2		
		1年				
フィジカル・エクササイズI (バドミントン)	徳永 政夫	1学期	1	1	409	
		1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン)	休講	2学期	1	1		
		1年				
■教養演習科目	教養基礎演習I		1	2		
	(昼のみ開講)	1年				
	教養基礎演習II		1	2		
	(昼のみ開講)	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習AⅠ (昼のみ開講)		2	2	2年
	教養演習AⅡ (昼のみ開講)		2	2	2年
	教養演習BⅠ (昼のみ開講)		3	2	3年
	教養演習BⅡ (昼のみ開講)	2学期	3	2	3年
	プロジェクト演習Ⅰ (昼のみ開講)		2	2	2年
	プロジェクト演習Ⅱ (昼のみ開講)		3	2	3年
■テーマ科目	自然学のまなざし (昼のみ開講)	2学期	1	2	1年
	動物のみかた (昼のみ開講)		1	2	1年
	地球の生いたち 長井 孝一	2学期	1	2	1年
	自然史へのいざない (昼のみ開講)		1	2	1年
	くらしと化学 (昼のみ開講)	1学期	1	2	1年
現代人のこころ 休講	1学期	1	2	1年	
数のたのしみ 閉講		1	2	1年	
私たちと宗教 (昼のみ開講)		1	2	1年	
思想と現代 伊原木 大祐	1学期	1	2	1年	

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	ものがたりと人間		1	2	
	閉講	1年			
	文化と表象		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
	言語とコミュニケーション		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
	芸術と人間		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
	文学を読む	2学期	1	2	412
	馬場 美佳 他	1年			
	戦争と人間		1	2	
	閉講	1年			
	現代正義論	2学期	1	2	
	休講	1年			
	民主主義とは何か	1学期	1	2	413
	中道 壽一	1年			
	人権論	1学期	1	2	414
	柳井 美枝	1年			
	ジェンダー論	1学期	1	2	415
	カ武 由美	1年			
障がい学	2学期	1	2		
休講	1年				
共生の作法	1学期	1	2		
(昼のみ開講)	1年				
北九州学		1	2		
(昼のみ開講)	1年				
市民活動論	2学期	1	2	416	
西田 心平	1年				
企業と社会	1学期	1	2	417	
山岡 敏秀	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	つなぐりの人間学 (昼のみ開講)	1学期	1	2	
		1年			
	現代社会と倫理 休講	1学期	1	2	
		1年			
	現代社会の諸問題 (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
	現代の国際情勢 下野 寿子 他	1学期	1	2	418
		1年			
	国際社会論 休講	1学期	1	2	
		1年			
	国際紛争と国連 二宮 正人	2学期	1	2	419
		1年			
	民族・エスニシティ問題 休講	1学期	1	2	
		1年			
	開発と統治 三宅 博之 他	2学期	1	2	420
		1年			
	グローバル化する経済 休講		1	2	
		1年			
	テロリズム論 (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
国際社会と日本 休講		1	2		
	1年				
歴史の読み方I 小林 道彦	1学期	1	2	421	
	1年				
歴史の読み方II 休講	1学期	1	2		
	1年				
そのとき世界は (昼のみ開講)		1	2		
	1年				
戦後の日本経済 (昼のみ開講)		1	2		
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	都市と農村の生活文化史	1学期	1	2	
	閉講	1年			
	ものと人間の歴史		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
	人物と時代の歴史	1学期	1	2	422
	山崎 勇治 他	1年			
	教養特講I		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
	教養特講II		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
教養特講III		1	2		
(昼のみ開講)	1年				
教養特講IV		1	2		
(昼のみ開講)	1年				
■教職関連科目	日本史	2学期	1	2	
	休講	1年			
	西洋史	1学期	1	2	423
	疇谷 憲洋	1年			
	東洋史	2学期	1	2	424
	藤野 月子	1年			
	社会学	1学期	1	2	
	休講	1年			
	人文地理学	2学期	1	2	
	休講	1年			
土地地理学	1学期	1	2		
休講	1年				
地誌学	1学期	1	2	425	
外 护 保 大介	1年				
日本国憲法	2学期	1	2		
休講	1年				

外国語学部 中国学科 (2012年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教職関連科目	倫理学	2学期	1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
■情報教育科目	エンドユーザコンピューティング	2学期	1	2	426
	中尾 泰士	1年			
	データ処理	2学期	1	2	427
	中尾 泰士	再履・夜間主コース			
	データ処理	1学期	1	2	428
	廣渡 栄寿	群・再履・夜間主コース			
	情報表現	1学期	2	2	429
	中尾 泰士	2年			
	プログラミング基礎		2	2	
	(昼のみ開講)	2年			
■外国語教育科目 ■第一外国語	中国語1 (総合)	1学期	1	1	430
	一木 達彦	1年			
	中国語2 (総合)	2学期	1	1	431
	一木 達彦	1年			
	中国語3 (音声中心)	1学期	1	1	432
	有働 彰子	1年			
	中国語4 (音声中心)	2学期	1	1	433
	有働 彰子	1年			
	中国語5 (文法中心)	1学期	1	1	434
	一木 達彦	1年			
中国語6 (文法中心)	2学期	1	1	435	
一木 達彦	1年				
■第二外国語	英語I (中夜 1年)	1学期	1	1	436
	杉山 智子	中夜 1年			
	英語II (中夜 1年)	2学期	1	1	437
	杉山 智子	中夜 1年			
	英語III (中夜 1年)	1学期	1	1	438
	クリストファー・オサリバン	中夜 1年			

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	英語Ⅳ(中夜1年)	2学期	1	1	439
	クリストファー・オサリバン	中夜1年			
	英語Ⅴ(中夜2年)	1学期	2	1	440
	伊藤 晃	中夜2年			
	英語Ⅵ(中夜2年)	2学期	2	1	441
	伊藤 晃	中夜2年			
	朝鮮語Ⅰ	1学期	1	1	442
	金 光子	中夜1年			
	朝鮮語Ⅱ	2学期	1	1	443
	金 光子	中夜1年			
	朝鮮語Ⅲ	1学期	1	1	444
	金 光子	中夜1年			
	朝鮮語Ⅳ	2学期	1	1	445
	金 光子	中夜1年			
	ロシア語Ⅰ	1学期	1	1	446
	芳之内 雄二	中国夜1年			
	ロシア語Ⅱ	2学期	1	1	447
	芳之内 雄二	中国夜1年			
	ロシア語Ⅲ	1学期	1	1	448
	芳之内 雄二	中国夜1年			
ロシア語Ⅳ	2学期	1	1	449	
芳之内 雄二	中国夜1年				
ドイツ語Ⅰ	1学期	1	1	450	
山下 哲雄	中国夜1年				
ドイツ語Ⅱ	2学期	1	1	451	
山下 哲雄	中国夜1年				
ドイツ語Ⅲ	1学期	1	1	452	
山下 哲雄	中国夜1年				
ドイツ語Ⅳ	2学期	1	1	453	
山下 哲雄	中国夜1年				

外国語学部 中国学科 (2012年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	フランス語I 福島 勲	1学期	1	1	454
		中国夜 1年			
	フランス語II 福島 勲	2学期	1	1	455
		中国夜 1年			
	フランス語III 福島 勲	1学期	1	1	456
		中国夜 1年			
	フランス語IV 福島 勲	2学期	1	1	457
		中国夜 1年			
スペイン語I 岡住 正秀	1学期	1	1	458	
	中国夜 1年				
スペイン語II 岡住 正秀	2学期	1	1	459	
	中国夜 1年				
スペイン語III 岡住 正秀	1学期	1	1	460	
	中国夜 1年				
スペイン語IV 岡住 正秀	2学期	1	1	461	
	中国夜 1年				
■専門教育科目 ■必修科目 ■専攻外国語	中国語初級会話A I 休講	1学期	1	1	
		1年			
	中国語初級会話A II 休講	2学期	1	1	
		1年			
■演習科目	卒業研究演習7 A 堀地 明	1学期	4	2	462
		4年			
	卒業研究演習7 B 堀地 明	2学期	4	2	463
		4年			
■選択科目 ■関連科目	国際経済論I 魏 芳	1学期	3	2	464
		3年			
	国際経済論II 福間 比呂志	2学期	3	2	465
	3年				
	国際法I 二宮 正人	1学期	3	2	466
		3年			

外国語学部 中国学科 (2012年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目 ■関連科目	国際法II 二宮 正人	2学期	3	2	467
		3年			
	途上国開発論 休講	2学期	4	2	
		4年			
	アメリカ経済 山崎 好裕	2学期	4	2	468
		4年			
	国際貿易論I 山口 実	1学期	4	2	469
		4年			
	国際貿易論II 山口 実	2学期	4	2	470
		4年			
■教職に関する科目	中国語科教育法III 休講	1学期	2	2	
		2年			
	中国語科教育法IV 休講	2学期	2	2	
		2年			
■必修科目	教師論 黒田 耕司	1学期	1	2	471
		1年			
	教育原理 見玉 弥生	2学期	1	2	472
		1年			
	発達心理学 税田 慶昭	1学期	2	2	473
		2年			
	教育制度 見玉 弥生	1学期	3	2	474
		3年			
	中国語科教育法I 休講	1学期	2	2	
		2年			
	中国語科教育法II 休講	2学期	2	2	
		2年			
	道德教育の研究 黒田 耕司	2学期	2	2	475
	2年				
特別活動の研究 楠 凡之	1学期	2	2	476	
	2年				

外国語学部 中国学科 (2012年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■教職に関する科目 ■必修科目	教育方法学 黒田 耕司	1学期	2	2	477
	2年				
	教育工学 大塚 一徳	2学期	2	2	478
	2年				
	教育実習 1 黒田 耕司	2学期	3	2	479
	3年				
	教育実習 2 恒吉 紀寿	1学期	4	2	480
	4年				
教育相談 楠 凡之	1学期	2	2	481	
2年					
生徒・進路指導論 楠 凡之	2学期	2	2	482	
2年					
教職実践演習 (中・高) 楠 凡之 他	2学期	4	2	483	
4年					
■選択科目	教育心理学 五十嵐 亮	2学期	2	2	484
	2年				
	教育実習 3 恒吉 紀寿	1学期	4	2	485
	4年				
	教育法規 見玉 弥生	2学期	3	2	486
	3年				
障害児の心理と指導 休講	2学期	2	2		
2年					
教育社会学 休講	1学期	2	2		
2年					
■教科または教職に関する科目	人権教育論 弓野 勝族	1学期	2	2	487
	2年				

歴史と政治【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

ペリー来航（1853）から1970年代までの日本政治の歩みを外交政策の展開と関連させて概説します。日本のことを知らないで、国際化社会に対処することはできません。この講義では、日本近現代史を学び直すことを通じて、21世紀にふさわしい歴史的感覚を涵養していきます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○伊藤之雄『明治天皇』（ミネルヴァ書房）、○小林道彦『児玉源太郎』・『桂太郎』（ともにミネルヴァ書房）、○岡義武『山県有朋』（岩波新書）、○岡義武『近衛文麿』（岩波新書）、○高坂正堯『宰相吉田茂』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 明治維新【木戸孝允】【大久保利通】【西郷隆盛】
- 第3回 明治憲法と自由民権運動【伊藤博文】【井上毅】【板垣退助】【大隈重信】
- 第4回 日清戦争【伊藤博文】【陸奥宗光】
- 第5回 立憲政友会の成立【伊藤博文】【山県有朋】【星亨】
- 第6回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第7回 政党内閣への道【原敬】【山県有朋】【桂太郎】
- 第8回 憲政の常道【浜口雄幸】【田中義一】
- 第9回 満州事変【関東軍】
- 第10回 日中戦争【軍部】【近衛文麿】
- 第11回 太平洋戦争【昭和天皇】
- 第12回 敗戦と戦後改革【マッカーサー】【吉田茂】
- 第13回 55年体制と日米安保【吉田茂】【鳩山一郎】【岸信介】
- 第14回 高度経済成長【池田勇人】【佐藤栄作】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...10% 期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義前に高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間と文化【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

「文化」という言葉から伝統芸能や芸術活動を連想する受講者も多いかもしれない。本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。(おそらく大部分が)北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではくくまれたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。

本講義は、A文化とB文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既存概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身に着ける手掛かりを学んでほしい。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかり取ること。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 田中雅一ほか(編)2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
- 波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：グローバルでローカルな世界を理解するてがかりとしての文化

第I部 文化の基礎としての家族

第2回 家族は普遍的な概念か？

第3回 生殖医療の時代の家族・親族関係を考える

第4回 近代家族 / 伝統的家族？

第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張

第6回 ジェンダーと文化

第7回 伝統について：構築主義と本質主義

第8回 文化相対主義の考え方

第9回 中間試験

第II部 文化と世界観

第10回 現代社会における儀礼の役割

第11回 不幸への対処と文化

第12回 宗教紛争と日常の中の宗教

第13回 中間試験の講評 / 呪術・占いとリスク社会① 呪術とは

第14回 呪術・占いとリスク社会② 現代社会のなかの呪術

第15回 講義のまとめ：人権と文化の独自性

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 30%、期末試験 70% を基本に、エッセイによる授業貢献を適宜加点する。
※受講者の数によっては中間試験はレポートになることもあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回最後の10-15分は授業の感想と、指定するトピック(次回のテーマに関するもの)についてのエッセイを記述し、提出してもらいます。次の講義の冒頭で、提出されたエッセイの中から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進めます。専門分野に関わらず、日常的に新聞、雑誌、書籍などを読む習慣をつけ、自分の考えをまとめる訓練を心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 出席しただけでは評価しません。講義に9割出席していても、偶然1回休んだ日の内容がテストに出て回答できなければ、結果として単位を落とすこともあります（ほかの日の内容が完全に理解できているならばそんなことはありませんが）。出席することより理解することを心がけてください。質問は歓迎します。
- ・ 中間試験の無断欠席者および授業態度が目に見えて余る受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。
- ・ 受講者が多い場合は受講制限をします。第1回目は来てください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義「異文化理解の基礎」の応用編はテーマ科目「政治のなかの文化（新カリのみ）」とビジョンII「現代社会と文化（旧カリ：文化と政治）」です。基礎が分かるからこそ面白いと思える内容ですので、受講すると、文化についてより包括的な理解が深まります。

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、共同体、社会関係

ことばの科学 【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語はじめその他の言語のデータや最近の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』大津由紀雄編著、ミネルヴァ書房、2009年。
- 『言語を生み出す本能(上)・(下)』スティーヴン・ピンカー著、椋田 直子訳、NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序(1)：ことばの不思議
- 第2回 序(2)：ことばの習得
- 第3回 ことばの単位(1)：音韻
- 第4回 連濁
- 第5回 鼻濁音
- 第6回 ことばの単位(2)：語
- 第7回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第8回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第9回 ことばの単位(3)：文
- 第10回 動詞の自他
- 第11回 日本語と英語の受動態
- 第12回 数量詞
- 第13回 時制と相：方言比較
- 第14回 ことばと脳：言語野と他の領域
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度...10% 課題...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門 【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究(国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など)と②世界の多様化に対応するための研究(地域研究、比較文化論、比較政治論など)である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、「地域研究のルーツ」
- 第4回～6回：「地域研究」における総合的認識。【総合化】【全体像の把握】
- 第7回～9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ。【文化主義】【オリエンタリズム】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題。
- 第13回～14回：地域研究の視点、ミャンマー研究を事例として。
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養としての平和学 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

皆さんがこれまで漠然と認識してきた「戦争」や「平和」という既成概念を改めて真剣に問い返して、戦争アレルギーに基づく思考停止的反戦主義や現実性に乏しい理想主義的平和主義を廃し、現実的な平和思考を養うことを目的とします。一言で言えば「平和とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～5回 問題提起、戦争の定義
- 6回～8回 平和の定義、積極平和論
- 9回～11回 日本の平和主義
- 12回～13回 正戦論(正義の戦争はあるか)
- 14回 二重結果の原則
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

可能性としての歴史【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

「歴史にイフは禁物」とよく言われるが、本当にそうなのか？安易なイフの設定はたしかに禁物だが、イフを上手に導入すれば、歴史の失われた可能性が見えてくるだろう。この講義では、おもに日本外交史を講義する中で、いくつかのイフを導入して、日本近代史の別の可能性をみなさんとともに考えていこうと思う。なお、「歴史と政治」を受講していただいた方が、講義の理解はより深まります。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『桂太郎』(ミネルヴァ書房)、○小林道彦『児玉源太郎』など。適宜、講義の中で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 日清戦争 - 戦争回避の可能性はなかったのか？【陸奥宗光】
- 3回 日露戦争 - 戦争回避の可能性はなかったのか？【小村寿太郎】
- 4回 もし、伊藤博文が暗殺されなかったら - 韓国併合回避の可能性はあったか？ - 【山県有朋】
- 5回 もし、明治天皇がもっと長生きしていたら - 2大政党制の誕生 - 【桂太郎】
- 6回 もし、シーメンス事件が発覚しなかったら？ - 大隈内閣と21カ条要求 - 【山本権兵衛】
- 7回 もし、原敬が暗殺されなかったら？ - 政党政治による軍部支配 - 【田中義一】
- 8回 もし、加藤高明が急死しなかったら？ - 外交政策の安定化 - 【護憲三派内閣】
- 9回 もし、若槻礼次郎内閣が崩壊しなかったら？ - 満州事変は失敗していた？ - 【石原莞爾】
- 10回 もし、2・26事件が起こらなかったら？ - 日中戦争回避の可能性 - 【高橋是清】
- 11回 もし、1940年夏にフランスがドイツに勝利していたら？(日独伊三国同盟)【ヒトラー】
- 12回 もし、鈴木貫太郎内閣がポツダム宣言を受諾しなかったら？(太平洋戦争)【本土決戦】。
- 13回 もし、西郷隆盛が亡くならなかったら【西南戦争】【藩閥政府】。
- 14回 歴史にifは必要だ！
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...10%、期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

※学生諸君の理解度に鑑みて、講義内容を若干変更する可能性があります。「ただ聴くだけ」という受講態度は駄目です。最低限、高校教科書レベル+αの予習を毎回やってきて下さい。そのための文献は適宜指示します。

履修上の注意 /Remarks

相当量の板書をするので、ノートはこまめにとること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文化と政治【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

グローバルな現代世界において、異なる文化同士の対立がしばしば政治的な問題となり、その解決のために異なる文化同士の共生が必要とされている。しかし、どの文化とも共生が可能になる万能のマニュアルのようなものは存在しない。ケースに応じて対応する能力が必要であり、本講義では、現代社会が抱える問題を取り上げながら、判断のための基礎知識を身につけることを目的とする。

講義の前半は、「文化を知ること」そのものが持つ政治性について講義を行い、後半はグローバルな現代社会が抱える具体的な問題に注目しつつ、その思想的背景について講義を行う。文化に関する外国の問題は解説をうのみにしてしまいがちであるが、前提が正しいか常に問い返すことができるような総合的な知識の獲得をめざす。

教科書 /Textbooks

以下の参考文献を各人の興味にあわせて読んでおくことが望ましい。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかりとる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岩竹美加子 1996 『民俗学の政治性』 未来社
- ウルリヒ・ベック 2010 『世界リスク社会論』 ちくま学芸文庫
- 関根政美 2000 『多文化主義社会の到来』 朝日選書
- 陳天璽 2005 『無国籍』 新潮社
- デヴッド・ヘルド 2002 『グローバル化とは何か』 法律文化社
- 本多俊和ほか 2011 『グローバリゼーションの人類学』 放送大学教育振興会
- 吉田憲司 1999 『文化の「発見」』 岩波書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：授業の説明 / 本講義において文化とは何を意味するのか

- 第I部 文化を知ることの政治性
- 第2回 文化を「知っている」とはどういうことか？
- 第3回 ナショナリズムと文化
- 第4回 先住民・少数民族の文化に関して
- 第5回 異文化を知ることの歴史①「未開の人々」へのエキゾチズム
- 第6回 異文化を知ることの歴史②植民地主義
- 第7回 中立・公平は可能か？
- 第8回 中間試験

- 第II部 現代社会と文化に関する問題
- 第9回 グローバリゼーションの時代と人の移動
- 第10回 共生のための政治①：多文化主義とは
- 第11回 共生のための政治②：多文化主義の限界
- 第12回 中間テストの講評 / 自己決定とはどういうことか？
- 第13回 近代・ポスト近代という時代の認識
- 第14回 「わからないもの / こと」を取り巻く政治①グローバルな危機への対応
- 第15回 「わからないもの / こと」を取り巻く政治②リスク社会 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験30%、期末試験70%
そのほか講義中に課した提出物にすばらしいものがあれば評価に加える。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校レベルの世界史、地理、現代社会などに自信がない学生は、背景となる事象を知らないままにせず、調べておくこと。

文化と政治【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 中間試験を無断欠席した学生は、評価割合をこえて厳しく減点することもあります。
- ・ 出席しただけでは評価しません。講義にはほとんど出席していても、偶然1回休んだ日の内容がテストに出て回答できなければ、結果として単位を落とすこともあります（ほかの日の内容が完全に理解できているならばそんなことはありませんが）。出席しただけで安心せず、理解することを心がけてください。わからないことについての質問は歓迎します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ ビジョン科目「異文化理解の基礎（旧カリ：人間と文化）」を受講済みの学生は、授業の理解度が高まります。
- ・ 履修上の注意では、厳しいことを書いていますが、記憶することは何もありません。講義で自分が学んだと思うことを用いて現代の文化に関する問題を自分なりに理解することが大切です。国際時事問題に興味ある意欲的な学生の受講を歓迎します。

キーワード /Keywords

文化、ナショナリズム、マイノリティ、グローバリゼーション、多文化主義

言語と認知【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 中溝 幸夫 / NAKAMIZO SACHIO / 非常勤講師
杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター, 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

言語の習得やコミュニケーションにおける処理はどのように行われるのか。特に、それらはヒトの他の認知能力（視覚、聴覚）や活動（記憶、認識）と同じなのか。また、語彙や構文はどのようにして私たちの頭の中に蓄えられ、用いられるのか。これらの問いについて、言語学(特に認知言語学)、認知科学、心理学の側面から学際的に考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実際の日程により順番が変わる可能性があります。第1回授業時配布の予定表を参照して下さい。

- 第1回 序 (漆原・全員)
- 第2回 眼はどのように動いているか、それをどう測定するか (中溝)
- 第3回 文を読むとき、眼はどのように動いているのか (中溝)
- 第4回 言語活動時、脳のどこが働いているか (中溝)
- 第5回 ことばはどのように身につけられるのか (言語習得) (漆原)
- 第6回 ことばはどのように失われるのか (失語症・失文法) (漆原)
- 第7回 脳と心のなりたち (脳のはたらきを支配する遺伝子) (日高)
- 第8回 ことばはなぜヒトに特有なのか (言語と遺伝子) (日高)
- 第9回 特別講義 (外部講師)
- 第10回 概念と言葉 (概念におけるプロトタイプ効果など) (ストラック)
- 第11回 隠喩とは何か (隠喩論) (ストラック)
- 第12回 詩とほのめかし (アイコン性、phonaesthemesなど) (ストラック)
- 第13回 文の形と意味をつなぐもの (文法形式と意味の類像性) (杉山)
- 第14回 左右の区別がなかったら (ことばと思考・言語相対論) (杉山)
- 第15回 まとめ: 担当者によるパネル・ディスカッション (全員)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 20% レポート 16% × 5 = 80%
(すべての教員のレポートを提出しない限り評価不能(-)となります。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

* 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生社会論【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

「共存」「共生」という言葉をキーワードとし、地域社会から国際社会における、共生のあり方を考え、実現可能性について探って見る。特に、異質なものを異文化ととらえ、異文化の共存・共生のあり方を掘り下げる中で、この問題に迫っていきたい。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「共存」「共生」の意味、共生社会の阻害要因【共存】【共生】【オリエンタリズム】。
- 第3回～第6回：異文化共存の方法、オリエンタリズムの克服方法【一元論的理解VS.多元論的理解】【文化相対主義】
- 第7回：障がい者との共生、「障害」の捉えかた【文化モデル】
- 第8回～第12回：具体的事例「自閉症児者との共存・共生」
- 第13回～14回：文化相対主義の可能性と限界【文化相対主義】【反文化相対主義】【反反文化相対主義】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本講義受講に当たっては、「国際学入門」[担当：伊野]や「障がい学」[担当：伊野・狭間]を既に受講していることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

戦争と平和【昼】

担当者名
/Instructor

戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 2年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 2年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

1年次ビジョン科目「教養としての平和学」からさらに進んで、戦争とは何かを体系的に考えてみることをねらいとします。「教養としての平和学」を履修済みの人はもちろん、まだ履修したことのない人の受講も大歓迎です。一言で言えば、「戦争とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

なし。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 安全保障とは何か(1)
- 第3回 安全保障とは何か(2)
- 第4回 戦争概論
- 第5回 戦争の経歴(1)絶対主義時代の戦争
- 第6回 戦争の経歴(2)革命戦争、近代戦争
- 第7回 両大戦の特徴(総力化、イデオロギー化、全面化)
- 第8回 戦争の変質(勢力均衡、アメリカ的戦争観)
- 第9回 原爆の開発過程
- 第10回 原爆の完成と投下
- 第11回 核兵器の種類と威力
- 第12回 核兵器出現に伴う変化(1)
- 第13回 核兵器出現に伴う変化(2)
- 第14回 核兵器の役割(抑止概念、抑止条件、相互確証破壊)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし。ただし、「教養としての平和学」「国際紛争と国連」「テロリズム論」「戦争と人間」「国際社会と日本」「防衛セミナー」などを受講しておくこと、さらに深く理解できる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活世界の哲学【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
								○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、マックス・ヴェーバーからフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明したあと、近年盛んに論じられている公共性と親密圏の交錯という問題に取り組む。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 姜尚中『マックス・ウェーバーと近代—合理化論のプロブレマティーク』御茶ノ水書房
- ハンナ・アーレント『人間の条件』(志水速雄訳)ちくま学芸文庫
- 斎藤純一『公共性(思考のフロンティア)』岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション(成績評価法・授業上の注意など)
- 2回 歴史的概説【市民革命と産業革命】
- 3回 近代とはいかなる時代だったのか(1)【形式合理性】
- 4回 近代とはいかなる時代だったのか(2)【官僚制】
- 5回 近代とはいかなる時代だったのか(3)【工場労働】
- 6回 近代とはいかなる時代だったのか(4)【物象化】
- 7回 近代とはいかなる時代だったのか(5)【啓蒙の逆説】
- 8回 生活世界論のはじまり(1)【ガリレオ・ガリレイと科学革命】
- 9回 生活世界論のはじまり(2)【フッサールの科学批判】
- 10回 生活世界論のひろがり【アーレントの近代批判】
- 11回 公私の区別とその起源(1)【古代ギリシャ概説】
- 12回 公私の区別とその起源(2)【古代ギリシャにおける公と私】
- 13回 宗教の私事性と公的領域(1)【迫害と弾圧】
- 14回 宗教の私事性と公的領域(2)【社会との確執】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中の私語に対しては断固とした措置をとる。甚だしい場合には退席を命じる。

内容としては1年生向け科目であることを考慮に入れ、分かりやすい講義となるよう心がけたい。しかしながら、学期末に実施する試験はかなり難度の高いものである。とりわけ「高校世界史」を学習していない者が本授業の単位を取得するには、人一倍の努力と学習意欲が要求されることになるだろう。

キーワード /Keywords

生活世界 形式合理性 活動 ポリス

共同体と身体 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
								○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

人間が自分（たち）の体について抱いている観念は、歴史を通じて必ずしも一貫しているわけではない。身体に対するイメージは、その人間が生きている時代の共同体によって微妙に変化してゆく。この授業では、共同体と身体という二つの「体」がどのように関係してきたのかを思想的な観点から考察する。継続的な受講により、生活世界と自己とのつながりが以前よりもはっきりと理解できるようになるだろう。また本授業は、古代から近代にかけての哲学的身体論の基本パターンを体系的に学べるようプログラムされている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は授業時にそのつど指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 日本的身体のイメージ 1【九鬼周造】
- 3回 日本的身体のイメージ 2【溝口健二】
- 4回 近代哲学における心身二元論の成立
- 5回 古代ギリシャの身体観 1【プラトンからホメロスへ】
- 6回 古代ギリシャの身体観 2【『オイディプス王』】
- 7回 古代ギリシャの身体観 3【通時的総括】
- 8回 キリスト教共同体と身体
- 9回 ドイツ表現主義と身体
- 10回 現代社会と身体の規律 1【『メトロポリス』】
- 11回 現代社会と身体の規律 2【シユレーバー】
- 12回 現代社会と身体の規律 3【ヒトラー】
- 13回 現代社会と身体の規律 4【オーウェル】
- 14回 現代社会と身体の規律 5【『1984年』】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で扱われる内容は、1年生向けビジョン科目「生活世界の哲学」の続編である。
「生活世界の哲学」の単位を取得している場合は、本講義についていくのが比較的容易なはずである。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

テスト方式・時間の詳細は初回の授業で説明する。この説明を聞かなかった場合に生じる不利益はすべて受講者本人の自己責任とする。

キーワード /Keywords

心身二元論 身体像 権力 規律と監視

メンタル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルのタフさがなければ生活人としての活動は難しい。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされる。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。本講義では一般的な心理学を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を生涯発達（エリクソン理論）の視点からとらえながら、日々の生活を充実させるための、人生でのその時期、その時期でのストレスマネジメントの力を身につけることを大きな目的とする。

またこの授業での本大学の学位授与方針に関わる到達目標は、以下のとおりである。1．自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができるようになる。（自己管理）2．現実の諸問題を一面的な価値観にとらわれることなく多面的に考え解決策を考えることができる（思考判断）3．卒業後も現実社会で理想を失うことなく主体的に学ぶ姿勢を持ちつづける事ができる（生涯学習）。以上の到達を目標とする。

教科書 /Textbooks

教科書はない。適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「こころの旅」神谷美恵子著 みすず書房
 「こころと人間」中島俊介著,ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 以下のスケジュールで行う（【 】はキーワード）
- 1回 オリエンテーション, 受講上の注意, 講師自己紹介など。
 - 2回 心の健康を学ぶ目的。「心」とは「健康」とは。【心の健康】【生涯発達心理学】
 - 3回 乳幼児の心の健康を知る。【エリクソンの自我発達理論】
 - 4回 児童期の心の健康を知る 【勤労性と劣等感】
 - 5回 思春期の心のありよう【第二反抗期】
 - 6回から11回 青年期から壮年期までの人生と心の健康 【豊かな心とは】
 同一性の視点から ・遊びと人生
 配偶者の選択 ・病いと人生
 - 12回から13回 発達の障がいについての理解 【自閉症】【アスペルガー - 】
 - 14回 健康な心と身体が行く末について。【老いと死の受容】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績評価の方法
 定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

当該個所に対する自分の課題や疑問を整理しておくこと。自分なりの意見をまとめておいて授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスII【昼】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）を友情の哲学と呼んだ識者がいた。多様な文化・人間性を周囲・地域に認めようということである。心の健康な人とは異端・極端を認め、そこから思考しようと努力する人であり「一人ひとりの幸福な生き方を配慮し援助する実践的な思想」といえる。時代は多文化共生の生き方を求めている。本講座では、一般的な心理学を基盤にした「メンタルヘルスI」勘案しながら、さらにポジティブ心理学やアドラーや森田正馬の心理療法領域や平和や人権文化の視点から心の健康増進の要件を学ぶ。青年期における健康な生活スタイルにも言及したい。欧米の理論も紹介しながら、特にわが国の文化的背景から出てきた、心の健康法にもふれることにより、受講者自身のセルフカウンセリングの能力がさらに高まることを期待したい。

またこの授業での本大学の学位授与方針に関わる到達目標は、以下のとおりである。1. 自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができるようになる。(自己管理) 2. 現実の諸問題を一面的な価値観にとらわれることなく多面的に考え解決策を考えることができる(思考判断) 3. 卒業後も現実社会で理想を失うことなく主体的に学ぶ姿勢を持ちつづける事ができる(生涯学習)。以上の到達を目標とする。

教科書 /Textbooks

テキスト 特に設けない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容とタイムスケジュール (【 】はキーワード)

- 1回 オリエンテーション。受講上の注意など。【健康行動と感情】
- 2回 心的態度と生き方のセルフチェック、うつや不安との付き合い方【あるがまま・とらわれ】
- 3回～5回 人間の発達と自己形成【コフト理論やアドラー心理学などの理論紹介】
- 6回～8回 心の体操。自分の価値観を知る。自分の人間関係スキルを磨く。【傾聴・対話】
- 9回～10回 心のリフレッシュ。内観療法の視点から。森田療法の視点から。【感謝】
- 11回～12回 ライフスタイルについて。平和志向や非暴力、DV防止、人権文化について。【人権・平和】
- 13回～14回 ライフプランについて(ワークライフ・バランス)。地域や世界の心の健康を考える。
キャリアプラン 【仕事】【遊び】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

自己の心の健康のみならず、他者や地域、国家や地球の環境にまで視野を拡大することを望みたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 準備運動と整理運動
- 4回 ストレッチング実習<実習>
- 5回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など)<実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定)<実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとストックウォーキング<実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど)<実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して)<実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動)<実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・ヘルスI【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ライフ・スキル

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks

授業時に資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。
 授業内容(講義・実習)によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)
 実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習)ソフト・トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義)ストレッチの理論
- 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義)ふとる・やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・向上】、【継続性】
- 13回 (講義)レッツ・スポーツ【計画・企画】
- 14回 (実習)レッツ・スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。

実習の場合は、運動ができる服装と体育館シューズを準備して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

授業全体のキーワードは、【笑顔】と【コミュニケーション】である。

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 準備運動と整理運動
- 4回 ストレッチング実習<実習>
- 5回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など)<実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定)<実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとストックウォーキング<実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど)<実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して)<実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動)<実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力

フィジカル・ヘルスII 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ライフ・スキル

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks

授業時に資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習)ソフト・トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義)ストレッチの理論
- 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義)ふとる・やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・向上】、【継続性】
- 13回 (講義)レッツ・スポーツ【計画・企画】
- 14回 (実習)レッツ・スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。

実習の場合は、運動できる服装と体育館シューズを準備して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

授業全体のキーワードは、【笑顔】と【コミュニケーション】である。

自己管理論 【昼】

担当者名 /Instructor 河津 慶太 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

大学生のほとんどがあてはまる青年期は、自我意識が高まる時期であり、精神の動揺も著しくなる。加えて、生活環境も大きく変化する。そのような状況下で、自己決定に基づいた健康的で自立した生活をおくることは容易ではない。そのためには、学生一人一人が自己管理の能力を身に付けていく必要がある。この授業では、各分野のプロフェッショナルの実体験や知識を学ぶことで、自己管理についての正しい知識と自己管理に対する意識を高め、心身ともに健康で前向きに生きられる自分づくりを目指す。

教科書 /Textbooks

パワーポイントや配布資料など

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に設けない。授業中に関連文献を随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 自己管理I 総論【心理学】：青年期の心と身体に関する問題を総論する。
- 第2回 防犯の心得【警察官】：安心・安全とはなにか。被害にあわないための具体的な自己防衛法について学ぶ
- 第3回 若者に最も大切な栄養の話【管理栄養士】：健康的に生活するために必要な栄養について学ぶ
- 第4回 自己管理II 体の健康【保健師】：多様な疾病・リスクを中心に生涯にわたる健康を見直す
- 第5回 考えるということ【心理学】：「考えることの出来る人間」を目指して、人の「思考」について学ぶ
- 第6回 コミュニケーション【心理学】：人間関係を円滑にするためのコミュニケーションについて学ぶ
- 第7回 薬と健康【薬剤師】：医療薬の効果や、サプリメントなどの健康のため薬について学ぶ
- 第8回 歯と口と健康を保つセルフケア【歯科技師】：歯および口腔のセルフケアについて学ぶ
- 第9回 依存と健康【精神科専門職】：心身ともに破滅に陥りやすい依存症の医学的知識を学ぶ
- 第10回 自己管理III 心の健康【臨床心理士】：心と身体の関係から起こる疾病の予防、対処法について学ぶ
- 第11回 障害とノーマライゼーション【作業療法士】：障がい者の地域福祉、関係法、ケアマネジメントの基本理念、自立生活を支援するための資源、サービス、情報などを身近な事例として紹介する。
- 第12回 健康な体と性感染症【助産師】：自分で予防できる感染症の知識や命の尊さを学ぶ
- 第13回 人権・ハラスメント関係【関係専門職】：人権侵害、ハラスメント防止などの知識と予防対策について学ぶ
- 第14回 目標設定【心理学】：日常生活のさまざまな場面に応用できる目標設定理論について学ぶ
- 第15回 自己管理IV まとめ【心理学】：小試験(選択、記述)、ポイントの復習などで総合的に理解を深める

成績評価の方法 /Assessment Method

①毎回のミニレポート：60% ②小試験：40% ①と②の総合点で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回授業で配布するレジュメをよく読みこんでおくこと

履修上の注意 /Remarks

- 1 一回目の総論で「自己管理論のプログラム」を配布する。
- 2 外部講師による講義のため、授業開始後20分には入室禁止する。私語厳禁。
- 3 毎回のミニレポートは出席確認としても取り扱う。
- 4 欠席した場合は、自己管理論用欠席届を提出する。
- 6 最終回の「自己管理IV まとめ」では小試験をおこなうので、必ず出席する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では、自分の学びたい学問や、自分が将来したいことをみつけるというよりは、そのための基礎、基盤を培うためのものです。基礎がちゃんとしていない家は建てても歪んでしまいますが、それは人間も一緒です。みなさんもこの授業でしっかりと基礎、基盤をかためて社会に出ていく準備を整えましょう!!

キーワード /Keywords

キャリア・デザイン【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

大学生の就職活動だけでなく、企業などで働いている社会人にとっても現在の労働環境は厳しいものがあります。皆さんは本学卒業後には何らかの職業に就くことになると思います。この授業は、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いていってもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の5点をねらいとしています。

- ①様々な職業や企業の見方などの労働環境について知る
- ②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく
- ③コミュニケーションをとることに慣れる
- ④社会人としての基本的な態度を身につける
- ⑤自分について知る

授業では、グループワーク、個人作業、ゲーム、講義などを組み合わせて進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間になりたいと考えています。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス【授業の目的、授業のルール】
- 2回 進路の現状【就職・公務員・教員等の進路準備スケジュール】
- 3回 学生生活とキャリア【社会人基礎力・学力、企業が求める能力、大学時代の過ごし方】
- 4回 自分を知る(1)【自分の歴史を振り返る、自分の強みを知る】
- 5回 インターンシップ【インターンシップ経験者の話、インターンシップの効用】
- 6回 仕事をするということ【仕事を考える視点、仕事のやりがい】
- 7回 企業・業界について【企業の組織について、業界の見方】
- 8回 働いている人の話を聞く【実際の仕事、仕事のやりがいについて】
- 9回 就職試験を体験する【SPI、一般常識】
- 10回 様々な働き方【働き方の多様化、キャリアに対する考え方】
- 11回 キャリアとお金【働き方別の賃金、生活費シミュレーション】
- 12回 自分を知る(2)【自分の価値観を考える、多様性を認識する】
- 13回 就職活動の実体験【内定した4年生の話、就職活動のポイント】
- 14回 学生生活を考える【将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか】
- 15回 まとめ【授業全体を振り返る、総括】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60% 授業内のレポート...20% まとめのレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に準備することはありませんが、自分のキャリアは自分で考えるしかありません。積極的・主体的に授業に参加し、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業に参加するには、社会人としての態度が求められます。以下の10カ条を守ってください。

- ①遅刻厳禁②携帯メール厳禁、携帯はマナーモードでバッグの中③脱帽④飲食禁止⑤作業時間は守る⑥授業を聞くところ、話し合うところのメリハリをつける⑦グループワークでは積極的に発言する⑧周りのメンバーの意見にしっかり耳を傾ける⑨分からないことは聞く⑩授業に「出る」ではなく、「参加する」意識を持つ

キャリア・デザイン【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
キャリア・スキル

キーワード /Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、SPI、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

将来の進路に対する不安や迷いを解消するために、また将来のために有意義な大学生活を営むために、

- ①アイデンティティを獲得するために、自分について深く知る
- ②働くこと、つまり様々な業界や企業、そして働き方などを知る
- ③多様な人々と協働する力を身に付けるために、初対面の学生とのコミュニケーションに慣れる
- ④社会で働く上でお互いが気持ちよく活動するための最低限の倫理感、社会人マナーを身につける
- ⑤将来の進路に向けた学生生活の過ごし方を知る

以上5点を獲得目標とし、グループワーク、個人ワーク、講義、先輩や社会人のゲストとのディスカッションなどを組み合わせて授業を進めていきます。最終授業では、将来の目標のためにどんな学生生活を過ごすのかをプランしていただきます。

皆さんと一緒に、無限の可能性を秘めた自分の将来について、じっくり考える時間したいと思います。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。
 以下書籍はその参考例です。

- 金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
- 大久保幸夫『キャリアデザイン入門1基礎力編』日本経済新聞社
- 渡辺三枝子『新版キャリアの心理学』ナカニシヤ出版
- モーガン・マッコール『ハイフライヤー 次世代リーダーの育成法』プレジデント社
- エドガー・H.シャイン『キャリア・アンカー 自分のほんとうの価値を発見しよう』白桃書房
- 見館好隆『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社
- 平木典子『改訂版 アサーション・トレーニング-さわやかな自己表現のために』金子書房
- 中原淳・長岡健『ダイアログ 対話する組織』ダイヤモンド社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス (授業の目的やルール、キャリアの基本知識)
- 2回 学生生活とキャリア(社会で働く上で必要となる力、大学時代の過ごし方)
- 3回 自分を知る① (一皮むける経験、身の丈を超えた経験、経験学習、ライフライン)
- 4回 地域活動に挑戦する (地域活動を経験した先輩とのディスカッション)※先輩登壇
- 5回 社会人としての倫理やマナー①(傾聴、多様性理解)
- 6回 自分を知る② (働く価値観や仕事へのこだわり、セルフアセスメントの実施)
- 7回 働くということ (仕事を考える視点、仕事のやりがい)※社会人ゲストを予定
- 8回 社会人としての倫理やマナー②(アサーショントレーニング)
- 9回 知ろう!使おう!労働法 (雇用形態と生涯賃金、ブラック企業、知るべき労働法)
- 10回 業界&企業研究 (業界のしくみ、業界研究および企業研究の方法)
- 11回 社会人としての倫理やマナー③(ダイアログ、ワールドカフェ)
- 12回 就職活動を知る (就職活動を体験した先輩とのディスカッション)※内定者登壇
- 13回 大学生活を面白くする (計画された偶発性・セレンディピティ)
- 14回 まとめ&発表 (自分を振り返り、将来の目標のためにどんな学生生活を過ごすのか)
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課されるレポート...90% 最終回のレポート...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ※毎回、来週の課題が提示されますので準備してください。
- ※自分の将来に対して真剣に向き合う姿勢、そして自分を成長させたい意欲が求められます。

履修上の注意 /Remarks

- ※真鍋先生の「キャリアデザイン」と合わせて、全8コマあります。グループワークの運営上、1コマ150名以内にしたいたと思います。その場合には履修者調整をしますので、必ず第1回の授業は出席してください。何らかの事情で出席できない場合は、事前に教員 (mitate@kitakyu-u.ac.jp) までメールで連絡をしてください。
- ※本授業は必修ではありませんが、将来の進路のために大学生活をどう営むかを考える、主に1年生向けの授業です。真鍋先生の「キャリアデザイン」か本講義いずれかを履修することをお勧めします。
- ※毎回、授業開始直後にグループワークがあります。よって、遅刻すると他のメンバーに迷惑がかかりますので注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

グループワークのメンバーは毎回シャッフルされます。毎週、初対面の学生と話せて学内の知り合いが増えます。また、地域活動やインターシップなど、自らのキャリア形成に役立つインフォメーションもあります。積極的にご参加ください。

キーワード /Keywords

キャリア、キャリア発達、大学生活、アイデンティティ、コミュニケーション、社会人マナー、倫理観

コミュニケーションと思考法【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
キャリア・スキル

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

日本経団連の調査では、大卒新卒者に求める能力として『コミュニケーション力』が常にトップとなっています。ダイバーシティと言われるように、多様な価値観を持った人と円滑なコミュニケーションができることが、仕事を進めていく上でのポイントになります。しかし、コミュニケーションが得意であると感じている人は少ないのではないのでしょうか。この授業では、コミュニケーションに対する考え方から基本的技術、ディスカッション技法など、コミュニケーションにおける実践的な知識、技術をテーマとします。コミュニケーションが苦手な人にとってはコミュニケーションへの抵抗感を軽減しコミュニケーションに慣れていただきます。それだけではなく、就職活動や将来社会で実践できるコミュニケーションについて体験します。講師は企業研修等の実務を行っている方が担当します。講師の話聞くだけでなく現実場面を想定し、実践しながらコミュニケーションのトレーニングをします。したがって1クラスの人数を限定した講義となります。多数コマ開講していますので、都合のいい時間のコマに受講してください。

教科書 /Textbooks

レジュメを準備して進めていきます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、授業中に参考になる文献等を適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス 【授業の目的、授業のルール】
- 2回 コミュニケーション実践1
- 3回 コミュニケーション実践2
- 4回 コミュニケーション実践3
- 5回 コミュニケーション実践4
- 6回 コミュニケーション実践5
- 7回 コミュニケーション実践6
- 8回 コミュニケーション実践7
- 9回 コミュニケーション実践8
- 10回 コミュニケーション実践9
- 11回 コミュニケーション実践10
- 12回 コミュニケーション実践11
- 13回 コミュニケーション実践12
- 14回 コミュニケーション実践13
- 15回 まとめ 【授業のまとめ、総括】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50%、授業の成果物...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に準備することはありません。

履修上の注意 /Remarks

講義の性格上、1クラス50名程度での開講となります。例年多数の履修希望者があり抽選となっています。まずは、履修登録をしていただきますが、その後の履修者調整の方法は掲示等でお知らせしますので、注意しておいてください。また、抽選に当たったにも関わらず、授業を履修しない学生が見られます。そうすると、本当に受講したくても受講できない学生に迷惑がかかります。受講したいという意思を強く持っている学生に履修登録をしていただきたいと思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニケーション、マナー、傾聴、プレゼンテーション

プロフェッショナルの仕事【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

<目的> 現場の第一線で活躍している社会人に教壇に立って頂き、仕事のやりがいや辛さ、そして自らが成長した学生時代の物語を語って頂きます。その話を聴くことで、①ビジネスの仕組み ②仕事の現実 ③将来の進路の手掛かりやヒント ④大学時代に何をすべきかを学びます。プレゼンテーションの流れは以下です。

- 1.所属企業団体の概要とご自身の仕事内容
 (①企業団体の概要、②ご自身の仕事内容、仕事のやりがい、③仕事をする上で大切なこと)、
- 2.ご自身の学生時代
 (①大学時代に打ちこんできたこと、気づいたこと、②現在の所属企業団体を選んだ理由)、
- 3.今の仕事に繋がっている学生時代
 (①自分を飛躍的に成長させた一皮むけた仕事体験、②その原動力の一つとなった、学生時代の経験)、
- 4.学生へのメッセージ
 (学生が自分の将来を考えていく上でのアドバイス)

<進め方> 講演者の企業や仕事を予習して、講演を傾聴します。そこで得た新しい知識や払拭できた先入観、将来へのヒントを元に、「将来のために今すべきこと」をレポートにまとめます。

<期待される効果> 将来の自分の進路がイメージできない人は、様々な企業や団体の第一線で働いている社会人の話を聴くことで、自らの将来の姿を描くヒントを得ることが出来ます。また、企業や団体の第一線でいきいきと輝いて働いている社会人の話を聴くことで、大学時代においてどんな大学生生活を過ごせば良いかを理解できます。

なお、企業・団体は先方の都合もあり毎年変わります。事情によってはビデオ上映の場合もあります。

以下は過去の実績です。

<2012年度> 北九州市役所、朝日新聞社、フリーアナウンサー長崎真友子氏、日本放送協会、ベネッセコーポレーション、ナフコ、日本生命、スターフライヤー、コクヨ、TOTO、ショーワグローブ、ジェイアイエヌ (JiNS)、山口銀行 (北九州銀行)、アイ・ケイ・ケイ
 <2011年度> マイナビ、スターフライヤー、東芝ロジスティクス、北九州市役所、ナフコ、アイ・ケイ・ケイ、ベネッセコーポレーション、日本生命、西日本高速道路 (NEXCO西日本)、デンソー九州、山口銀行 (北九州銀行)、ジェイアイエヌ (JiNS)、フリーアナウンサー長崎真友子氏

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。企業・団体によっては会社案内などを当日配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。以下書籍はその参考例です。

- 金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
- 中原淳ほか『企業内人材育成入門』ダイヤモンド社
- モーガン・マッコール『ハイフライヤー 次世代リーダーの育成法』プレジデント社
- 見館好隆『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 全体ガイダンス
- 第2～15回 各企業・団体の第一線で働く社会人の講演

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課されるレポート...90% 最終回のレポート...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講演者が所属する企業・団体および仕事について必ず予習をしてください。予習するポイントはその都度指示します。

履修上の注意 /Remarks

※履修者が多かった場合、履修者の調整を行います。その際、第1回の授業を欠席した学生の履修申請を取り消しますので、必ず第1回は出席するようにしてください。何らかの事情で出席できない場合は、事前に教員 (mitate@kitakyu-u.ac.jp) までメールで連絡をしてください。
※1年次に「キャリア・デザイン」を受講していることが望ましい。
※授業の特性上、出席しなければ点数は付きません。よって課外活動で欠席が多くなる学生は履修を避けてください。
※本務でお忙しい中、本学の学生のために、わざわざ来学していただいている講演です。よって、以下の7項目は特別な事情があるときを除き厳守してください。①遅刻厳禁 ②携帯操作厳禁 (マナーモードでバッグの中に) ③脱帽 ④飲食禁止 ⑤私語厳禁 ⑥居眠り厳禁 ⑦講演者の方への感謝の気持ちを忘れない
※授業終了後、キャリアセンターにて座談会を開催する場合があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本学の学生は、首都圏の大学生よりも立地的に、企業・団体で働いている社会人と出会う機会が少なくなっています。そんな中、自分の将来への視野を広げたい、将来のために自分を成長させるヒントを得たいと考えている学生のために設計しました。講演者の皆様は大学生活ではなかなか出会うことができない方ばかりです。講演者の皆様が本学の学生のために語ってくれた言葉を聞き逃さず、何かを学ぼうという意思を持ってご参加ください。

キーワード /Keywords

働くこと、成長、キャリア、キャリア発達、大学生生活、アイデンティティ

法律の読み方 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科, 山本 光英 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

六法全書や法律書を開いてみても難しい。裁判所の判例を読んでみてもどうしてそういう判断をするのかわからない。法律はどのような仕組みになっているのかわからない。そういう疑問に少しでも応え、法律の世界を理解するために必要なスキルを提供します。法律に興味や関心を抱き、社会生活を円滑に営むための指針、心構えをつくる手助けになればと思っています。

到達目標は次の通りです。

- ・ 法律の世界に共通する諸概念や基本的な考え方を理解することができるようになっていただきます。
- ・ 講義で紹介する法制度の内容、社会における運用状況を知り、法律問題解決の仕方を理解できるようになっていただきます。
- ・ 法律が私たちの社会生活における基盤となっており、法律を学ぶことを通じて私たちが社会生活を円滑に営むための不可欠の素養を身につけることができることを知っていただきます。

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメ、資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス-法律を読むために
- 2回 民法法を読む①【社会規範】【行為規範】【法律用語】【裁判所】
- 3回 民法法を読む②【法解釈の方法】【文理解釈】【類推解釈】
- 4回 刑法法を読む①【法規範の特性】【法の機能】【法の存在形式】【法源】【罪刑法定主義】
- 5回 刑法法を読む②【刑事法】【法の適用】【憲法と刑事法の関係】【法の解釈】
- 6回 判例の読み方 【判例】【先例】【認定事実】【判決理由】
- 7回 民事判例を読む①【判例研究の方法】【判例部分の抽出】【判例研究の目的】
- 8回 民事判例を読む②【判例評価の方法】【生命保険金】【特別受益】
- 9回 刑事判例を読む①【判例集の名称】【判例集の調べ方】【判例集の体裁】
- 10回 刑事判例を読む②【刑事判例の勉強の仕方】【事実の概要】【判旨】【解説】【因果関係】
- 11回 民法法の視点から社会を読む①【婚姻】【内縁】【パートナーシップ】
- 12回 民法法の視点から社会を読む②【人工生殖】【親子関係】【相続権】
- 13回 刑法法の視点から社会を読む①【一厘事件】【3銭電気窃盗事件】【窃盗罪の客体】
【可罰的違法性】【起訴便宜主義】
- 14回 刑法法の視点から社会を読む②【裁判員制度】【刑事裁判の流れ】【公判の基本原則】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 20 % 定期試験... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

六法を持参してください。法学部生以外の受講生には、石川明他編『法学六法'13』信山社(1,000円)をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会調査【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 叶堂 隆三 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

社会調査は、私たちの社会生活がどのような状況にあるのかを把握する有効な方法の一つです。さらに、この社会調査を実施する技法である社会調査法は、アンケート等の調査票を用いて多くの人から情報を得ることで正確な情報把握を志向する量的社会調査と興味深い少数の事例に深く取り組むことを通して新しい社会傾向や社会の多様性を理解しようとする質的社会調査の二つに区別することができます。そして、20世紀以降、実は、こうした社会調査法は社会状況の把握のための学術的関心を越えて、市場調査や選挙予想等さまざまな状況の理解に応用されています。

本授業では、この社会調査法のうち質的社会調査法に焦点を当て、現代社会の様々な状況・事象への関心のテーマ化、こうした関心を究明するための方法、究明した結果をどのように人に伝えるか、について学習していきます。

教科書 /Textbooks

谷富夫・山本務編『よくわかる質的社会調査プロセス編』ミネルヴァ書房、2010年

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

谷富夫・芦田徹郎編『よくわかる質的調査技法編』ミネルヴァ書房、2009年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

社会のどのような状況を理解したいのかという社会的関心を究明していくプロセスに沿って、以下のように授業を進めていくことにする。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 質的社会調査の方法と意義
- 第3回 名著に学ぶ質的社会調査
- 第4回 質的社会調査概説3
- 第5回 問いを立てる
- 第6回 先行研究に学ぶ
- 第7回 技法を選ぶ
- 第8回 フィールドに入る
- 第9回 フィールドワークを楽しむ
- 第10回 フィールドノートを作成する
- 第11回 インタビューを記録する
- 第12回 インタビュー記録を利用する
- 第13回 ビジュアルな資料を利用する
- 第14回 報告書を作成する
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小レポートや作成物等(50%)、授業時間外の課題の提出(50%)等による平常点によって評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

質的社会調査法に関して、一連のプロセスに沿って進めますので欠席しないようにして下さい。また、授業中及び授業時間外の課題を必ず提出して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (ソフトボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、ソフトボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 キャッチボール(スローイング、キャッチング)
- 3回 ピッチング(ウインドミル)
- 4回 バッティング(トスバッティング)
- 5回 ゴロの捕球・フライの捕球
- 6回 守備練習
- 7回 フリーバッティング
- 8回 ベースランニング
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ゲーム(1) 内野の連係プレイ
- 12回 ゲーム(2) 内外野の連係プレイ
- 13回 ゲーム(3) 走者の進め方
- 14回 ゲーム(4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の説明
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術(オフENS)の説明
- 8回 サッカーの戦術(オフENS)の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用説明
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (テニス) 【昼】

担当者名 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 ストロークの基礎練習 (球出しによるフォアハンド練習)
- 3回 ストロークの基礎練習 (ラリーの中でのフォアハンド練習)
- 4回 ストロークの基礎練習 (球出しによるバックハンド練習)
- 5回 ストロークの基礎練習 (ラリーの中でのバックハンド練習)
- 6回 サービスの基礎練習
- 7回 ボレーの基礎練習
- 8回 スマッシュの基礎練習
- 9回 ルールの説明
- 10回 戦術の説明・実践
- 11回 シングルスゲーム (1) ゲーム法の解説
- 12回 シングルスゲーム (2) ゲームの実践
- 13回 ダブルスゲーム (1) ゲーム法の解説
- 14回 ダブルスゲーム (2) ゲームの実践
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス>
- 5回 パス練習(2) <オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこでこの授業では、体力・技術にあまり自信のない女性を対象に、身体活動の理論を踏まえ、レクリエーションスポーツ種目を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そしてその到達度をふまえて、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

スポーツルール百科

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (受講上の注意)
- 2回 バレーボール (1) サーブ、パスの基礎練習
- 3回 バレーボール (2) ルール説明とゲーム
- 4回 バドミントン (1) 基本的な打ち方とフライト練習
- 5回 バドミントン (2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 6回 卓球 (1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 7回 卓球 (2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 8回 ソフトバレーボール (1) サーブ、パス、アタックの基本練習
- 9回 ソフトバレーボール (2) ルール説明とゲーム
- 10回 ショートテニス (1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 11回 ショートテニス (2) ルール作りとゲーム
- 12回 選択種目 (1) 【バレーボール】 【卓球】
- 13回 選択種目 (2) 【バドミントン】 【ショートテニス】
- 14回 選択種目 (3) 【ソフトバレーボール】 【バドミントン】
- 15回 スキル獲得の確認 (選択種目)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バスケットボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 集団行動 (走る (ラン)・跳ぶ (ジャンプ)・投げる (スロー))
- 3回 ボールに慣れる (ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習 (レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習 (2対1)
- 6回 応用練習 (3対2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフェンス・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ (ドリブルシュート・リバウンド)
- 10回 スキルアップ (速攻、スクリーンプレイ)
- 11回 ゲーム (1) ゾーンディフェンス (2 - 3)
- 12回 ゲーム (2) ゾーンディフェンス (2 - 1 - 2)
- 13回 ゲーム (3) マンツーマンディフェンス
- 14回 ゲーム (4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス>
- 5回 パス練習(2) <オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関する諸注意)
- 2回 サッカーの基本技術 (リフティング) の習得と試しのゲーム (1)
- 3回 サッカーの基本技術 (パス) の習得と試しのゲーム (2)
- 4回 サッカーの基本技術 (シュート) の習得と試しのゲーム (3)
- 5回 サッカーの戦術 (ディフェンス) の説明
- 6回 サッカーの戦術 (ディフェンス) の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術 (オフense) の説明
- 8回 サッカーの戦術 (オフense) の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用習得
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合 (1) パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合 (2) 戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合 (3) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の説明
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術(オフENS)の説明
- 8回 サッカーの戦術(オフENS)の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用説明
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(3) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(4) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践に際してのマナーやP D C Aサイクルの基本を身につけることを目的とする。特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～4回：事前学習
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
 第11回・12回：活動報告
 第13回・14回：振り返り学習
 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習における議論への参加度50%
 活動への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

関連活動に関する文献学習。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における研究の進歩は急速であり、難しそうに見える多くの用語はカタカナ用語（主として英語）である。そこで、本演習では「語源で学ぶ生命科学」を主たるテーマとし、カタカナ用語の由来とその意味を学ぶことによって、生命科学の基礎知識を身につけるとともに、これをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○「文系のための生命科学 第2版」東京大学生命科学教材書籍編集委員会編 2011年（羊土社）
高校生物およびIIの教科書または参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認（1）
- 3回 基本的事項の確認（2）
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備（1）
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備（2）
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験（学期内のいずれかの土曜日午後実施）
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション（1）
- 12回 個人によるプレゼンテーション（2）
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み10%（配布するカードに記入した内容で評価する）、発表60%、期末レポート30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでまったく生物の勉強をしなかった者も歓迎します。この演習をきっかけに生命科学に興味を持ってもらうことが狙いです。さらに学びたい者は2学期開講の「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

教養基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

文献読解能力を訓練し、レジюме（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。あわせて、日本近代史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたい。

毎回、全受講者から「レジюме」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジюме」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジюмеを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。15回の演習で、一冊完読します。

教科書 /Textbooks

受講者と相談の上で決定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告・レジюмеの内容...50%
 無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

演習が始める前に大学図書館を見学しておいて下さい。
 毎週必ず、テキストの該当ページを読んで、レジюмеを作ってもらいます。

履修上の注意 /Remarks

小林担当の「教養基礎演習Ⅱ」とセットで履修することを希望します。
 この演習は2年生・3年生との合同演習です。
 受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 中原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

大学での学び方入門：
本演習では、大学での勉強の仕方の基礎を学びます。最終的には、文献を読んで自分の考えをまとめるレポート（高校までの小論文でも調べ学習でも感想文でもなく）を書くことを目指す。前半では、現代社会とまちづくり、職業に論じているテキスト『商店街はなぜ滅びるのか』の批判的読解を試みることを通して、レジュメの作りかた、論点の見つけ方を学び、それをわかりやすく報告するコミュニケーション能力を養う。後半では、自分で関連する文献をさらに探して、2000字程度のレポートを書くプロセスを報告しながら、受講者とともにより完成度の高いレポートの作成を目指す。

教科書 /Textbooks

新雅史2012『商店街はなぜ滅びるのか：社会・政治・経済史から探る再生の道』光文社。
北九州市出身の社会学者が執筆した新書です。地域社会や小売業の歴史に興味がなくとも読めますが、興味があればより楽しく読めます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 佐藤望ほか(編) 2006 『アカデミック・スキルズ』 慶應大学出版会
- 専修大学出版企画委員会(編) 2009 『知のツールボックス』 専修大学出版会
- 白井利明・高橋一郎 2008 『よくわかる卒論の書き方』 ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：大学の授業とは
- 第2回 大学における本の読みかた・探し方
- 第3回 レジュメの作りかた
- 第4回 テキスト輪読型の演習における報告と議論 テキスト：『商店街はなぜ滅びるのか』
- 第5回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
- 第6回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
- 第7回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
- 第8回 テーマの見つけかた・レポートの書きかた
- 第9回 テーマの見つけかた・レポートの書きかた
- 第10回 レポート構想報告
- 第11回 レポート構想報告
- 第12回 レポート構想報告
- 第13回 レポート構想報告
- 第14回 文章を推敲する：レポートの相互添削
- 第15回 文章のブラッシュアップ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、授業貢献(報告内容、積極的な発言など)50%
(第14回で学生相互にレポートを添削し、その後最終的に書き直したレポートを評価の対象とします。)
ただし、報告者の無断欠席は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

問題意識は、漠然と本を読み、授業を聞くだけで生まれるものではありません。4月の段階で特定の学問的興味関心を持つことは求めませんが、学期末までには課題に対する問題意識を見つけることを心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

- ・出席者の報告を重視するので、人数が多すぎる場合、受講制限をします。したがって、第1回目の授業は必ず出席してください。
- ・教養基礎演習IIも継続して受講することが望ましいです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学での本の読みかたやレポートの書きかたを基礎から学ぶので、どの学部の学生でも怖気づかずに履修してください。ですが、演習の準備に時間がかかることは嫌がらないでください。現代社会や地域社会に関する問題に興味のある学生の受講を歓迎します。

キーワード /Keywords

レポートの書き方、問題意識の発見、レポート作成

教養基礎演習I【昼】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。そこで本演習では、共同生活を伴った野外活動体験や冒険教育の理論をもとに構築されたレクリエーション活動などによる人間関係トレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。尚、本演習では野外活動特に「キャンプ」実習に力を入、学内では経験できない「レクリエーション種目」なども多数実践していきます。キャンプ実習に参加できない学生については単位認定ができない場合がありますので注意してください。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 グループディスカッション (1)
- 2回 グループディスカッション (2)
- 3回 グループディスカッション (3)
- 4回 グループゲーム (1)
- 5回 グループゲーム (2)
- 6回 自分自身を理解する
- 7回 自分自身を人に理解させること
- 8回 人を理解すること
- 9回 集団で克服していくトレーニング
- 10回 キャンプのオリエンテーション (1)
- 11回 キャンプのオリエンテーション (2)
- 12回 キャンプのオリエンテーション (3)
- 13回 キャンプのオリエンテーション (4)
- 14回 キャンプのオリエンテーション (5)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

受講態度 ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡する。
 キャンプ実習は別途実習費 (約 4000円) かかりますので注意してください

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この演習では、以下のことを身につけることを目指す。

- (1) 社会的なもの見方・考え方
- (2) 文献資料の調べ方
- (3) 質的調査の考え方とやり方
- (4) レポート・論文の書き方

報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人とする(それを越える場合、受講者数調整をかける)。

教科書 /Textbooks

- 『知的複眼思考法』、刈谷剛彦、講談社+α文庫、2002
- 『自分で調べる技術 - 市民のための調査入門』、宮内泰介、岩波アクティブ新書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会
- その他、講義の中で、その都度、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業内容の紹介
- 第2回 社会的なもの見方・考え方(1) - 『知的複眼思考法』
- 第3回 社会的なもの見方・考え方(2) - 『知的複眼思考法』
- 第4回 社会的なもの見方・考え方(3) - 『知的複眼思考法』
- 第5回 情報収集の仕方(1) - 図書館の利用
- 第6回 情報収集の仕方(2) - Webサイトの利用
- 第7回 情報のまとめかた(3) - KJ法 - 『自分で調べる技術 - 市民のための調査入門』
- 第8回 情報のまとめ方(4) KJ法(実習)
- 第9回 質的調査の考え方と方法(1)
- 第10回 質的調査の考え方と方法(2)
- 第11回 質的調査の考え方と方法(3)
- 第12回 質的調査の考え方と方法(4)
- 第13回 調査倫理について
- 第14回 分析事例
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度... 40% 課題(レポート)... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告者は、レジュメを準備すること。
レジュメには、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論等を含めること(レジュメの作成方法については授業中に説明する)。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この演習では、大学における学習や研究の方法を身につけることを目的とする。環境問題をテーマとして取り上げ、受講者の①レジュメ作成能力、②プレゼンテーション能力、③学術的コミュニケーション能力(対話・議論)の向上を目指す。

教科書 /Textbooks

富山和子(2001)『環境問題とは何か』PHP新書

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○大江正章(2008)『地域のカー・食・農・まちづくり』岩波新書
その他、必要に応じて授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：授業内容についての紹介(イントロダクション)
- 第2回：学習法：レジュメの作成方法・プレゼンテーション方法について
- 第3回：環境問題についての考え方について
- 第4回：テキストの輪読①
- 第5回：テキストの輪読②
- 第6回：テキストの輪読③
- 第7回：テキストの輪読④
- 第8回：テキストの輪読⑤
- 第9回：テキストの輪読⑥
- 第10回：テキストの輪読⑦
- 第11回：テキストの輪読⑧
- 第12回：レポートを書く際の考え方とその方法
- 第13回：プレ・レポート報告会
- 第14回：プレ・レポート報告会
- 第15回：プレ・レポート報告会+まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献度(積極的発言・報告姿勢等)：40%
最終レポート：60%

(※最終レポートとは、第13回～第15回において各自の関心において作成したレポートに対し、参加者から寄せられた批判や修正点等をふまえ、改善をした上で学期末に提出するレポートである。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業には予めテキスト、ならびに事前に配布されるレジュメを精読してのぞむこと。

履修上の注意 /Remarks

原則として、後期に開講する「教養基礎演習II」とセットで履修すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業は、自分の考え方や意思を的確に相手に伝えることができるようになることを目指す。これは就職活動や社会に出ても必要な能力である。受講者の積極的な参加を望む。

教養基礎演習I【昼】

キーワード /Keywords

大学における学習方法、レジюме・レポート作成、コミュニケーション能力の向上

教養基礎演習I (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

【注意①】2013年度入学生(新1年生)は、必ず、同じく1学期に開かれているビジョン科目「日本の防衛」とセットで受講すること。

【注意②】2012年度以前入学の新2年生以上は、必ず、同じく1学期に開かれている「演習All(防衛セミナー)」とセットで履修すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官(陸海空、尉官・佐官クラス)をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。また、2回のバスハイクを予定しており、海上自衛隊佐世保基地での護衛艦体験搭乗、航空自衛隊築城基地の見学などを行う(予定)。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。また、上述の通り、2回はバスハイクの予定。そして1回は、隣にある陸上自衛隊小倉駐屯地の見学を行う予定。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。上記の注意を必ず守ること。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄（とくに人文的教養）に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、これから大学生として学んでゆくにあたって最低限必要と思われる基礎的な能力を身につけることが、本演習の目的である。
年度ごとに思想上の古典を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。今回は、19世紀ドイツの哲学者A・ショーペンハウアーの随想集より「処世知に関する箴言（Aphorismen zur Lebensweisheit）」を取り上げる。

教科書 /Textbooks

ショーペンハウアー（橋本文夫訳）『幸福について-人生論』、新潮文庫、1958年、578円（税込）。
（※本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス1（演習でのルール、成績評価法の説明）
- 2回 ガイダンス2（対象となるテキスト、著者の紹介）
- 3回 読解と議論1
- 4回 読解と議論2
- 5回 読解と議論3
- 6回 読解と議論4
- 7回 読解と議論5
- 8回 読解と議論6
- 9回 読解と議論7
- 10回 読解と議論8
- 11回 読解と議論9
- 12回 読解と議論10
- 13回 復習と補助学習1
- 14回 復習と補助学習2
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況（予習・議論・発言の積極性）...50% 課題（議事録作成）...50%
（3回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないもの見なし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全15回出席していたとしても、議事録を作成しなかった者に単位は認めない。）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習への参加を希望している者は、遅くとも第3回の授業までに上記のテキスト（578円）を購入しておく必要がある。

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言・課題作成の機会を得られるよう、受講者の最大人数は15人までとする。それを越える場合は受講者数調整をかける。調整に際しては、【本演習に友人や知人と一緒に参加するのではなく、たった一人で参加する意欲のある者】を優先的に配慮したい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では毎回の「予習」（指定ページの読解、分からない単語の調査）と「復習」（授業議事録の作成）が必須となります。この授業は、2年生以上の先輩も参加する合同演習です。予習・復習に十分な時間をかけることができない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

このクラスのテーマは、「バレーボールを科学する！技術編」です。
「映像情報および公式情報に基づくゲームの見直し作業」を通じて得られた知見をもとに、戦術理解の深化をキーワードに、大学生の武器である「頭（頭脳）」を使って「バレーボール」と真正面から向き合うための基礎知識・技術を習得してもらおうと思っています。バレーボールで試合に勝つためには、連続失点を少なくすること、連続得点を多くすることを考えたチーム作りが必要になりますが、今回、ここでは「連続得点をとる」をキーワードに、基本的な戦術の理解とともに映像等を基にしたデータ分析の基礎的な手法を学んでいきます。
作業は、座学と調査・実習を組み合わせながら、グループで行うことを予定しています。このプロセスを通じ、①情報を収集する力、②データを分析する力、③問題（ポイント）を発見する力、④自分の考えを人に伝達する力、⑤考えを異にする人と討論し、説得する力を、みなさんには身につけ、高めていってほしいと思います。

教科書 /Textbooks

テキスト等はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書等は、初回の授業時に、紹介します。
授業の理解に必要な資料等は、適宜、配布します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス，受講者の確定
- 第2回 バレーボールとアナリストの役割，公式記録の見方
- 【連続得点をとるための分析軸I：サービス⇒レセプション（サービスによって先手を取る）】
- 第3回 戦術理解I：レセプションフォーメーション&サービス
- 第4回 ゲーム映像からの分析I①：フォーメーションのチェック
- 第5回 ゲーム映像からの分析I②：ローテーションごとに結果を整理（レセプションの評価）
- 第6回 分析結果の発表I：サービスの狙い目はどこか
- 【連続得点をとるための分析軸II：レセプション⇒アタック（相手チームの攻撃パターンを知る）】
- 第7回 戦術理解II：アタックフォーメーション
- 第8回 ゲーム映像からの分析II①：レセプション⇒攻撃（軌跡化）
- 第9回 ゲーム映像からの分析II②：レセプション⇒攻撃（選手ごとの特徴）
- 第10回 分析結果の発表II：どのような特徴がレセプションからの攻撃に見られるか
- 【連続得点をとるための分析軸III：ディグ⇒アタック（拾って攻撃につなげる）】
- 第11回 戦術理解III A：ブロックシステム，フロアディフェンスフォーメーション
- 第12回 ケーススタディIII A：チーム事情に応じたシステムを考えよう
- 第13回 戦術理解III B：アタック&ブロックフォローフォーメーション
- 第14回 ケーススタディIII B：高さを理解した攻撃を考えよう（2つの最高到達点の比較から）
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。
具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）を基準として評価することになります。
ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

サブゼミなどのため、正規の授業時間外にも時間を取ってもらうことになります。
受講申請にあたってはこの点に注意してください。

履修上の注意 /Remarks

最大で12人を予定しています。
欠席や遅刻は、ゼミの運営に支障をきたし、グループでの作業に深刻な影響を与えることになります。参加状況が悪い場合には、その後のゼミ受講を認めませんので、注意してください。

教養基礎演習I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

バレーボールが真に好きな人、得られた知見を、現在、そして将来にわたって、活かしてくれる人を募集します。
あなたの『バレーボール力』をさらに伸ばしてみませんか。

キーワード /Keywords

バレーボール アナリスト データ分析 各スキル・エリアの記号化 スキル評価の基準

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

初めてあった人や普段話したことがない人の中にいたり、自分自身を人に理解してもらうためにはどうしたらいいのが困ったことなどはありませんか。そんな中、身体活動を通して、知らない人同士で自然に打ち解け、楽しみを感じたことはありませんでしたか。身体活動は、健康体力の増進のみならず、コミュニケーションづくりにも有効な方法なのです。本演習では、身体活動やグループワークを通して、どうしたら、コミュニケーション能力(人間関係力)を高めることができるかを焦点に考えていきたいと思います。

また、学内と離れた場所での野外活動(キャンプ実習)を通して、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養っていききたいと思います。

教科書 /Textbooks

適宜資料配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 自己紹介と他己紹介
- 3回 人間関係力とは
- 4回 人間関係力演習(1)簡単なゲームを通して
- 5回 人間関係力演習(2)簡単なゲームを通して
- 6回 人間関係力演習(3)身体活動を通して
- 7回 人間関係力演習(4)身体活動を通して
- 8回 人間関係力演習(5)身体活動を通して
- 9回 人間関係力演習(6)身体活動を通して
- 10回 人間関係力演習(7)身体活動を通して
- 11回 野外活動とは?
- 12回 キャンプ実習についての講義(1)
- 13回 キャンプ実習についての講義(2)
- 14回 キャンプ実習についての講義(3)
- 15回 キャンプ実習のふり返り

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

実習については、別途参加費がかかります(約4000円)。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description
 地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、活動に際してのマナーやPDCAサイクルの基本を身につけることを目的とする。特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks
 適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 第1回～4回：事前学習
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
 第11回・12回：活動報告
 第13回・14回：振り返り学習
 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習における議論への参加度50%
 活動への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 関連活動に関する文献学習。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター, 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講義は、株式会社スターフライヤーの協力を得て開講します。将来、社会人として求められる能力、特に対人接点を必要とする仕事に必要なコミュニケーション能力やホスピタリティについて学びます。航空業界、百貨店・小売業界、ホテル業界、ブライダル業界等をを目指す学生にとって役に立つ講義です。

この講義を開講する理由は大きく三つあります。一点目は、昨今の企業が求める人材要件として、コミュニケーション能力が重視されていることです。単に同質な人との接点ではなく、多様な方々と円滑なコミュニケーションが取れることが求められています。二点目は、コミュニケーションやホスピタリティに関するスキル獲得だけでなく、それらを発揮するための素養を育む必要性があるからです。三点目は、上にあげた業界に就職したいと考えている学生にとってのチャンスを拡大するためです。

このような理由から、常に最高の接客コミュニケーションが求められるキャビンアテンダント教育の要素を取り入れたいと考え、株式会社スターフライヤーに協力をいただきます。日々業務を行っている実務家の講義は、現場に即した実践的な学びを学生の皆さんに提供します。

教科書 /Textbooks

授業開始時に説明します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業開始時に説明します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 コミュニケーションとは？(1)【エアラインでの実例をもとに考察する】
- 3回 コミュニケーションとは？(2)【エアライン等、対人職において求められる人物像の考察】
- 4回 コミュニケーションとは？(3)【コミュニケーションスキル他】
- 5回 コミュニケーションとは？(4)
- 6回 マナーとホスピタリティ(1)【ホスピタリティの意味～今なぜホスピタリティなのか？】
- 7回 マナーとホスピタリティ(2)【ホスピタリティマインドとアクション】
- 8回 マナーとホスピタリティ(3)【ホスピタリティ溢れるポジティブマナーとは】
- 9回 マナーとホスピタリティ(4)
- 10回 コミュニケーション&マナー実践(5)【対人職に求められるコミュニケーションスキル実践】
- 11回 コミュニケーション&マナー実践(6)
- 12回 コミュニケーション&マナー実践(7)【サービス適正確認 実践(ロールプレー)】
- 13回 コミュニケーション&マナー実践(8)【苦情/クレームについて考える】
- 14回 コミュニケーション&マナー実践(9)【面接におけるマナー】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

指定回スーツを着用しての受講となります。

履修上の注意 /Remarks

クラス定員を30名程度としますので、履修希望者多数の場合は抽選とします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

主として客室乗務員研修(ホスピタリティ/サービス実践等)を軸に対人職に求められるパーソナリティや接客スキルを学び磨いていく講義です。

「生」、「現場」の情報をお届けしますので、客室乗務員やグランドスタッフ、ホテルコンシェルジュ等高い接客スキルが求められる職業を将来希望される学生にぜひ受講して頂きたいと思っております。

キーワード /Keywords

コミュニケーション、ホスピタリティ、エアライン、ブライダル、ホテル

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における進歩は急速であり、一般には知られていないが、意味が正確に理解されていない用語も多い。本演習では「ニュースの中の生命科学」を主たるテーマとし、新聞記事などから対象となるトピック・用語を探し出し、生物学的な背景や用語の意味を学ぶと同時に、それをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○「文系のための生命科学 第2版」東京大学生命科学教材書籍編集委員会編 2011年(羊土社)
高校生物およびIIの教科書または参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認(1)
- 3回 基本的事項の確認(2)
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備(1)
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備(2)
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験(学期内のいずれかの土曜日午後実施)
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション(1)
- 12回 個人によるプレゼンテーション(2)
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み10%(配布するカードに記入した内容で評価する)、発表60%、期末レポート30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでまったく生物の勉強をしなかった者も歓迎します。この演習をきっかけに生命科学に興味を持ってもらうことが狙いです。さらに学びたい者は2学期開講の「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description
日本政治外交史に関するゼミ・レポートを書いてもらう(400字×10枚以上)。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。

教科書 /Textbooks
コピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』(平凡社新書、2001年、700円)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
1回 演習運営方針に関する話し合い。
2~14回 各自の研究報告。
15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method
日常的な授業への取り組み...50% 課題...50%
無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。
なお、ゼミ・レポート未提出は「D」評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
演習が始める前に大学図書館を見学しておいて下さい。

履修上の注意 /Remarks
小林担当の「教養基礎演習I」とセットで履修することを希望します。
この演習は2年生、3年生との合同演習です。
受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

考えを深める訓練：
教養基礎演習Iの続きとして、一つのテーマについて考えを深める訓練を行います。レポートが書けることと、内容の濃い (=評価される) レポートが書けることは違います。
具体的には、教養基礎演習Iのレポートをもとに、受講者同士の問題関心に近いテキストをディスカッションを通して、各自のテーマをより掘り下げ、課題発見能力を養う。その成果を活かし、学期末にはまとまった分量の程度度のレポートを書くことを目指す。この演習を通して、他の人の考えにコメントをつける、人からもらったコメントを活かす力を身につけることをめざし、問題の本質を探る能力、すなわち生涯にわたって役立つ基礎的な探求能力を身につけることを目的とする。

教科書 /Textbooks

教養基礎演習Iのレポート提出者の興味関心にあわせて第1回目の演習で指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 佐藤望ほか(編) 2006 『アカデミック・スキルズ』慶應大学出版会
- 専修大学出版企画委員会(編) 2009 『知のツールボックス』専修大学出版会
- 白井利明・高橋一郎 2008 『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマを決めて文章を書くとはどういう事か？今学期のテキストについて
- 第2回 考えと深めるにはどうしたらいいか？：教養基礎演習Iのレポートの講評と反省
- 第3回 テーマを深めるための議論のしかた
- 第4回 テーマを深めるための議論のしかた
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 レポート構想報告
- 第10回 レポート構想報告
- 第11回 レポート構想報告
- 第12回 レポート構想報告
- 第13回 文章を推敲する：レポート相互添削
- 第14回 文章のブラッシュアップのために
- 第15回 報告会と演習のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、授業貢献(報告内容、演習中の発言、その他の提出物など)50%
レポートについては教養基礎演習Iのレポートからの発展性を評価する。
ただし、報告者の無断欠席は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レポートは大変ですが、それは書く時間がかかるのではなく、それまでの準備に時間がかかります。本を探し、読む時間を計算に入れて準備しましょう。

履修上の注意 /Remarks

原則として教養基礎演習Iを受講した者を対象とします。ですが、レポートは書けるけれど、いい(評価される?)レポートとはどんなものか意欲的に考えてみたい方は教養基礎演習IIのみ受講しても構いません。自分がどのようにものに興味関心があるか考えをまとめて第1回目の授業に来てください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1学期は基本的な書き方を学ぶのに対し、2学期はより完成度の高いレポートを書くために、自分の意見を説得力をもって話し、議論することも重視します。積極的な発言を心がけてください。

教養基礎演習II 【昼】

キーワード /Keywords

議論、多角的視野、説得力のあるレポート

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。そこで本演習では、共同生活を伴った野外活動体験や冒険教育の理論をもとに構築されたレクリエーション活動などによる人間関係トレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。本演習においては、演習Iを踏まえ、自然克服型である「スキー」を実施する。「スキー」等において学内では経験できないスポーツ活動を体験し、さらに集団スポーツで求められるチームワークやコミュニケーション能力の強化を目指します。キャンプ実習同様実習の参加ができないときは単位の認定ができない場合がありますので注意してください。実習は実費です。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自分自身を理解すること
- 2回 自分自身を人に理解させること
- 3回 人を理解すること
- 4回 集団で克服していくトレーニング
- 5回 ビデオによるスキー技術の習得 (1)
- 6回 ブルークターン (2)
- 7回 パラレルターン (3)
- 8回 ウデルン (4)
- 9回 学生自身によるスキー計画 (1) 場所
- 10回 学生自身によるスキー計画 (2) 期間
- 11回 学生自身によるスキー計画 (3) 金額
- 12回 学生自身によるスキー計画 (4) グループ分け
- 13回 スキープログラムの作成 (1)
- 14回 スキープログラムの作成 (2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

受講態度 ... 70% レポート ...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。
スキー実習は別途実習費が必要です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名
 /Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この演習では、調査やフィールドワークをするための基礎的な能力を身につけることを目的とする。環境問題やコミュニティ問題などの地域社会が抱える問題の多くは、1つの学問分野では解決することが困難な複合的要因によって発生している。そのため、その解決策を模索する際には、地域社会に出て実際に調査することが必要である。「他地域の事例から学ぶ」または「地域の人々から学ぶ」という学習方法・姿勢の習得を目指す。

教科書 /Textbooks

『成功する！「地方発ビジネス」の進め方』（島田晴雄＋N T Tデータ経営研究所 著） ¥1,600＋税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

宮本常一・安溪遊地（2008）『調査されるという迷惑-フィールドに出る前に読んでおく本』みずのわ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業内容についての紹介（イントロダクション）
- 第2回 テキストの輪読① 【生活に関するサービスで地域ビジネスを展開する】
- 第3回 テキストの輪読② 【自動車はもういらない！！地域交通サービスを考える】
- 第4回 テキストの輪読③ 【高齢化社会におけるコミュニティ・コンシェルジュ】
- 第5回 テキストの輪読④ 【成功する！！コミュニティ・ビジネス】
- 第6回 テキストの輪読⑤ 【地域資源を生かしたヘルスケアビジネス - 地域社会を健康に保つことが活性化に繋がる - 】
- 第7回 テキストの輪読⑥ 【コミュニティ・ビジネスの場としての商店街を考える】
- 第8回 テキストの輪読⑦ 【地域ブランドによるまちおこし】
- 第9回 テキストの輪読⑧ 【地域に住む！！という視点から考えるコミュニティ・ビジネス】
- 第10回 総合討論（北九州地域におけるコミュニティ・ビジネスの可能性を探る）
- 第11回 フィールドに出る前に身につけておく基礎知識について①
- 第12回 フィールドに出る前に身につけておく基礎知識について②
- 第13回 調査されるという迷惑について考える①
- 第14回 調査されるという迷惑について考える②
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題の達成度：50%
 授業への貢献度（積極的発言・報告姿勢等）：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

演習とは、議論する時間・場である。そのため、議論するために必要な知識や資料は事前に各自で準備する必要があることを理解してほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者には1年次である程度、興味・関心のあるテーマを自分で見つけることを目指してほしい。春季休業中に実際に「地域社会」に出て調査を行うことが望ましい。

教養基礎演習II 【昼】

キーワード /Keywords

教養基礎演習II (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

【注意①】2012年度以前に入学したの新2年生以上は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養基礎演習I」とセットで受講すること。

【注意②】新1年生(2013年度入学生)は、この科目と並行して「教養基礎演習I(防衛セミナー)」を履修した方が理解が増す。なお、「教養基礎演習I(防衛セミナー)」を履修せずに、この科目のみを履修しても、あまり利益はない。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。

この授業では、実際に自衛官を招聘する「教養基礎演習I」を補完するために、戸蒔が『防衛白書』等を用いて各ポイントの解説をする。防衛問題についてほとんど知識がない者から、多少の知識のある者までを想定し、わかりやすく解説する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 ガイダンス(戸蒔)

2回~14回 この授業は、各回の「教養基礎演習I」の内容に備えるための事前勉強という側面が強いので、「教養基礎演習I」のスケジュールと連動している。現段階で「教養基礎演習I」のゲストが調整中であるため、ここにスケジュールの詳細を明記することはできない。当面の予定は、概説、『防衛白書』『防衛計画の大綱』などの解説、ビデオ観賞などである。

15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄（とくに人文的教養）に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、これから大学生として学んでゆくにあたって最低限必要と思われる基礎的な能力を身につけることが、本演習の目的である。
年度ごとに思想上の古典を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。今回は、19世紀ドイツの哲学者A・ショーペンハウアーの随想集より「処世知に関する箴言（Aphorismen zur Lebensweisheit）」を取り上げる。

教科書 /Textbooks

ショーペンハウアー（橋本文夫訳）『幸福について-人生論』、新潮文庫、1958年、578円（税込）。
（※本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 1学期の復習と内容確認
- 2回 読解と議論 1
- 3回 読解と議論 2
- 4回 読解と議論 3
- 5回 読解と議論 4
- 6回 読解と議論 5
- 7回 読解と議論 6
- 8回 読解と議論 7
- 9回 読解と議論 8
- 10回 読解と議論 9
- 11回 読解と議論 10
- 12回 読解と議論 11
- 13回 復習と補助学習 1
- 14回 復習と補助学習 2
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況（予習・議論・発言の積極性）...50% 課題（議事録作成）...50%
（3回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないものとみなし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全15回出席していたとしても、議事録を作成しなかった者に単位は認めない。）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参加を希望する場合は、第2回の授業までに上記のテキスト（578円）を購入しておくこと。
本演習は「教養基礎演習I（伊原木）」の続きにあたるため、1学期に参加していなかった者は、授業前の準備事項として少なくともテキストの第四章「人の与える印象について」の前まで（全部で三章分）を自分で読み通しておくことが必要になる。

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言・課題作成の機会を得られるよう、受講者の最大人数は15人までとする。それを越える場合は受講者数調整をかける。調整に際しては、【本演習に友人や知人と一緒に参加するのではなく、たった一人で参加する意欲のある者】を優先的に配慮したい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では毎回の「予習」（指定ページの読解、分からない単語の調査）と「復習」（授業議事録の作成）が必須となります。この授業は、2年生以上の先輩も参加する合同演習です。予習・復習に十分な時間をかけることができない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

自分自身を人に理解してもらうためにはどうしたらいいでしょうか。初めてあった人や普段話したことがない人の良いところを見つけるためにはどうしたらよいかを見つける術について考えていきます。本演習では、身体活動を通して、自分自身を理解する能力、そして人に自分を理解させる能力を身につけることを主眼においています。

また、学内と離れた場所での野外活動（スキー実習）を通して、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養っていききたいと思います。

教科書 /Textbooks

適宜資料配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 自分自身を理解するためには (1)
- 3回 自分自身を理解するためには (2)
- 4回 自分自身を人に理解させるためには (1)
- 5回 自分自身を人に理解させるためには (2)
- 6回 身体活動を用いた自己表現 (1)
- 7回 身体活動を用いた自己表現 (2)
- 8回 身体活動を用いた自己表現 (3)
- 9回 身体活動を用いた自己表現 (4)
- 10回 身体活動を用いた自己表現 (5)
- 11回 身体活動を用いた自己表現 (6)
- 12回 スキー実習についての講義 (1)
- 13回 スキー実習についての講義 (2)
- 14回 スキー実習についての講義 (3)
- 15回 スキー実習のふり返り

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

スキー実習については、別途参加費がかかります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本演習では、身体活動を通して、初めてあった人や知らない人同士でどうしても自然に打ち解け、お互いに楽しみを共有できるかについて主眼をおく。そこで、学内での実習や学外での実習（キャンプ実習や地域の中高齢者を対象とした運動プログラム）を通して、教示の仕方や振る舞い方などでどのように楽しみを共有できるかについて考えていきたい。
 また、キャンプ実習（教養基礎演習I）のリーダーとして関わりながら、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養ってきたい。

教科書 /Textbooks

適宜資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回ガイダンス
- 2 回リーダーとリーダーシップ
- 3 回安全性と有効性
- 4 回キャンプ実習の計画（1）リーダーとしての関わり
- 5 回キャンプ実習の計画（2）安全性と有効性
- 6 回キャンプ実習の計画（3）プログラム作成
- 7 回キャンプ実習の実施
- 8 回キャンプ実習の評価
- 9 回中高齢者にあった身体活動プログラムの計画（1）安全性と有効性
- 10 回中高齢者にあった身体活動プログラムの計画（2）プログラム作成
- 11 回中高齢者にあった身体活動プログラムの計画（3）プログラム作成
- 12 回中高齢者にあった身体活動プログラムの実施（1）
- 13 回中高齢者にあった身体活動プログラムの実施（2）
- 14 回中高齢者にあった身体活動プログラムの評価
- 15 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

身体活動を伴うので、運動のできる服装とシューズを準備すること。
 キャンプ実習については、別途参加費がかかります。（約4000円）。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践的な企画力・運営力を養うことを目的とする。
 特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～4回：事前学習・企画
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
 第11回・12回：活動報告
 第13回・14回：振り返り学習
 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習における議論への参加度50%
 活動への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

関連活動に関する文献学習。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における研究の進歩は急速であり、難しそうに見える多くの用語はカタカナ用語（主として英語）である。そこで、本演習では「語源で学ぶ生命科学」を主たるテーマとし、カタカナ用語の由来とその意味を学ぶことによって、生命科学の基礎知識を身につけるとともに、これをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○「文系のための生命科学 第2版」東京大学生命科学教材書籍編集委員会編 2011年（羊土社）
高校生物およびIIの教科書または参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認（1）
- 3回 基本的事項の確認（2）
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備（1）
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備（2）
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験（学期内のいずれかの土曜日午後実施）
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション（1）
- 12回 個人によるプレゼンテーション（2）
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10%（配布するカードに記入した内容で評価する）、発表 60%、期末レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでまったく生物の勉強をしなかった者も歓迎します。この演習をきっかけに生命科学に興味を持ってもらうことが狙いです。さらに学びたい者は2学期開講の「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

文献読解能力を訓練し、レジюме（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。あわせて、日本近代史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたい。

毎回、全受講者から「レジюме」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジюме」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジюмеを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。15回の演習で、一冊完読します。

教科書 /Textbooks

受講者と相談の上で指定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告・レジюмеの内容...50%
無断欠席やレジюмеの未提出は、それぞれたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週必ず、テキストの該当ページを読んで、レジюмеを作ってもらいます。

履修上の注意 /Remarks

小林担当の「教養演習 AIII」とセットで履修することを希望します。
この演習は1年生、3年生との合同演習です。
受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A1 【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

異文化の社会問題へのアプローチ法を考える：

本演習では、漠然とヨーロッパの現代社会に関する問題や異文化に関する問題に興味があり、漠然と卒業論文などでそれらの問題を扱いたいと考えている学生を対象とする。

本演習では、受講者の関心に応じて現代ヨーロッパ社会における文化に関する問題についての文献を購読し、報告、議論を行うことで、自身の問題関心を深めることを目的とする。専門用語については講義を適宜行うので、安心してください。ですが、知識を蓄えることが演習の目的ではありません。自分で知識を獲得する方法を学ぶのが演習です。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に合わせて、現代ヨーロッパ社会における文化に関する問題についての文献を1-2冊程度読む。テキストについては第1回で決定する。

(候補：石川真作ほか(編)『周縁から照射するEU社会』、高橋秀寿ほか(編)『東欧の20世紀』、森明子(編)『ヨーロッパ人類学』など)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：本演習の目的説明、テキスト決定
- 第2回 映像からわかること、文章からわかること(講義)
- 第3回 映像からわかること、文章からわかること(議論)
- 第4回 テキスト輪読と議論
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 レポートの書き方、問題関心の深め方について(講義)
- 第10回 テキスト輪読と議論
- 第11回 テキスト輪読と議論
- 第12回 テキスト輪読と議論
- 第13回 テキスト輪読と議論
- 第14回 レポート構想報告
- 第15回 レポート構想報告

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の報告と提出物30%、期末レポート70%、
報告の無断欠席は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・ 演習参加者には、輪読のテキストについて各自で読書ノートを取り、意見を述べるのが求められる。具体的な説明は第1回で行う。
- ・ テキストを読むだけでなく、各自でなんらかの研究関心を持ってください。学期末のレポートでは興味あるテーマについて論じることを求めます。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 輪読するテキストを準備する資金はそれなりに必要です。注意してください。
- ・ 履修を希望する場合、第1回か第2回のいずれかに必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ ヨーロッパの現代社会や文化に関する問題に関心があるけれど、どんな本を読めばいいのか、何をすればいいのかわからないという学生同士が積極的に協力関係をつくることを期待します。
- ・ 担当者のほかの授業(教養基礎演習、人間と文化、文化と政治)を履修したことがあれば、理解がさらに深まります。

キーワード /Keywords

現代社会、異文化、ヨーロッパ、

教養演習 AI (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

【注意①】2013年度入学生(新1年生)は、必ず、同じく1学期に開かれているビジョン科目「日本の防衛」とセットで受講すること。

【注意②】2012年度以前入学の新2年生以上は、必ず、同じく1学期に開かれている「演習AI(防衛セミナー)」とセットで履修すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官(陸海空、尉官・佐官クラス)をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。また、2回のバスハイクを予定しており、海上自衛隊佐世保基地での護衛艦体験搭乗、航空自衛隊築城基地の見学などを行う(予定)。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。ただし、1~2回は高級幹部(1佐・将補の司令クラス)を招聘し、講演会に充てたい。また、上述の通り、2回はバスハイクの予定。そして1回は、隣にある陸上自衛隊小倉駐屯地の見学を行う予定。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%、レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

上記、注意①と注意②は必ず守ること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この演習では、以下のことを身につけることを目指す。

- (1) 社会学的なものの見方・考え方
- (2) 文献資料の調べ方
- (3) 質的社会調査の考え方とやり方
- (4) レポート・論文の書き方

報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人とする(それを越える場合、受講者数調整をかける)。

教科書 /Textbooks

- 『知的複眼思考法』、刈谷剛彦、講談社+α文庫、2002
- 『自分で調べる技術 - 市民のための調査入門』、宮内泰介、岩波アクティブ新書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会
- その他、講義の中で、その都度、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業内容の紹介
- 第2回 社会学的なものの見方・考え方(1) - 『知的複眼思考法』
- 第3回 社会学的なものの見方・考え方(2) - 『知的複眼思考法』
- 第4回 社会学的なものの見方・考え方(3) - 『知的複眼思考法』
- 第5回 情報収集の仕方(1) - 図書館の利用
- 第6回 情報収集の仕方(2) - Webサイトの利用
- 第7回 情報のまとめかた(3) - KJ法 - 『自分で調べる技術 - 市民のための調査入門』
- 第8回 情報のまとめ方(4) KJ法(実習)
- 第9回 質的社会調査の考え方と方法(1)
- 第10回 質的社会調査の考え方と方法(2)
- 第11回 質的社会調査の考え方と方法(3)
- 第12回 質的社会調査の考え方と方法(4)
- 第13回 調査倫理について
- 第14回 分析事例
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度... 40% 課題(レポート)... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告者は、レジュメを準備すること。
レジュメには、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論等を含めること(レジュメの作成方法については授業中に説明する)。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A1【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。
年度ごとに思想上の基本文献を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。今回は、19世紀ドイツの哲学者A・ショーペンハウアーの随想集より「処世知に関する箴言 (Aphorismen zur Lebensweisheit)」を取り上げる。

教科書 /Textbooks

ショーペンハウアー (橋本文夫訳) 『幸福について-人生論』、新潮文庫、1958年、578円 (税込)。
(※本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス1 (演習でのルール、成績評価法の説明)
- 2回 ガイダンス2 (対象となるテキスト、著者の紹介)
- 3回 読解と議論1
- 4回 読解と議論2
- 5回 読解と議論3
- 6回 読解と議論4
- 7回 読解と議論5
- 8回 読解と議論6
- 9回 読解と議論7
- 10回 読解と議論8
- 11回 読解と議論9
- 12回 読解と議論10
- 13回 復習と補助学習1
- 14回 復習と補助学習2
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 (予習・議論・発言の積極性) ...50% 課題 (議事録作成) ...50%
(3回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないもの見なし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全15回出席していたとしても、議事録を作成しなかった者に単位は認めない。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習への参加を希望している者は、遅くとも第三回の授業までに上記のテキスト (578円) を購入しておく必要がある。

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言・課題作成の機会を得られるよう、受講者の最大人数は15人までとする。それを越える場合は受講者数調整をかける。その際の優先基準は原則として以下のとおりである。
(1) 同じ担当者によるビジョン科目「生活世界の哲学」、もしくはテーマ科目「思想と現代」を履修済みの者
(2) 上記科目の試験で「A」以上の成績を収めている者
(3) 本演習に友人や知人と一緒に参加するのではなく、たった一人で参加する意欲のある者

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では毎回の「予習」(指定ページの読解、分からない単語の調査)と「復習」(授業議事録の作成)が必須となります。予習・復習に十分な時間をかけることができない方は、他の参加者に迷惑をかけることになりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description
 地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践的な企画力・運営力を養うことを目的とする。
 特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks
 適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 第1回～4回：事前学習・企画
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
 第11回・12回：活動報告
 第13回・14回：振り返り学習
 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習における議論への参加度50%
 活動への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 関連活動に関する文献学習。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本演習では、学内や学外での実習（スキー実習や地域の健康増進プログラムなど）を通して、自分自身を理解する能力、そして人に自分を理解させる能力を身につけることに主眼をおく。さらに、身体活動を通して、初めてあった人や普段話したことがない人の良いところを見つけるためにはどうしたらよいかを見つける術について考えていく。
 また、スキー実習（教養基礎演習II）のリーダーとして関わり、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養っていききたい。

教科書 /Textbooks

適宜資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 コミュニケーションゲーム(1)
- 3回 コミュニケーションゲーム(2)
- 4回 地域における健康ニーズ
- 5回 健康と体力
- 6回 地域住民に必要な体力とは
- 7回 健康増進プログラムの計画(1) 体力測定
- 8回 健康増進プログラムの計画(2) 安全性と有効性
- 9回 健康増進プログラムの計画(3) プログラム作成
- 10回 健康増進プログラムの実施
- 11回 健康増進プログラムの評価
- 12回 スキー実習の計画(1) 野外活動の意義
- 13回 スキー実習の計画(2) 安全性と有効性
- 14回 スキー実習の計画(3) プログラム作成
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

身体活動を伴うので、運動のできる服装とシューズを準備すること。
 スキー実習については、別途参加費がかかります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位 2学期
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における進歩は急速であり、一般には知られていないか、意味が正確に理解されていない用語も多い。本演習では「ニュースの中の生命科学」を主たるテーマとし、新聞記事などから対象となるトピック・用語を探し出し、生物学的な背景や用語の意味を学ぶと同時に、それをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○「文系のための生命科学 第2版」東京大学生命科学教材書籍編集委員会編 2011年(羊土社)
高校生物およびIIの教科書または参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認(1)
- 3回 基本的事項の確認(2)
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備(1)
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備(2)
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験(学期内のいずれかの土曜日午後実施)
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション(1)
- 12回 個人によるプレゼンテーション(2)
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み10%(配布するカードに記入した内容で評価する)、発表60%、期末レポート30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでまったく生物の勉強をしなかった者も歓迎します。この演習をきっかけに生命科学に興味を持ってもらうことが狙いです。さらに学びたい者は2学期開講の「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

ゼミ論文をかいてもらう(400字×20枚以上)。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。

教科書 /Textbooks

コピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』(平凡社新書、2001年)700円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習運営方針に関する話し合い。
- 2~14回 各自の研究報告(同時並行的に論文執筆)。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50%課題...50%
無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。なお、ゼミ論未提出は「D」評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週こつこつと原稿を作っておいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

小林担当の「教養演習AⅠ」とセットで履修することを希望します。
AⅠを履修できない場合には、事前に相談して下さい。
この演習は1年生、3年生との合同演習です。
受講希望者が合計で11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

問題関心を深めるために：

本演習では、自分の問題関心の深めかたについて学ぶ。ひとりで読んでもなかなか理解することが難しい現代社会または異文化に関する古典的な文献、または専門的ではあるけれどよく読まれている文献の輪読を行う。自分の興味関心について意見交換することを通し、最終的に各自が設定したテーマに沿ってレポートを作成する（受講者によって多少の変更の可能性はある）。
一学期は比較的具体的な対象のある文献を対象としたが、二学期はより抽象的な文献を読む。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に合わせて（1学期からの受講者を優先する）現代社会または異文化に関するテキストを1-2冊程度読む。テキストについては第1回で決定する。

（候補：世界思想社社会学ベーシックシリーズ『自己・他者・関係』『政治・権力・公共性』から適宜。または、レベッカ・ソルニット『災害ユートピア』、竹沢尚一郎『社会とは何か』など）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 問題関心についての説明、テキストの選定
- 第2回 議論のしかたについて（講義）
- 第3回 問題関心共有ための導入：講義と議論
- 第4回 テキスト輪読と議論
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 テキスト輪読と議論
- 第10回 テキスト輪読と議論
- 第11回 テキスト輪読と議論
- 第12回 レポート構想報告
- 第13回 レポート構想報告
- 第14回 レポート構想報告
- 第15回 レポート構想報告

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の報告と提出物30%、期末レポート70%、
報告の無断欠席は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・ 演習参加者には、輪読のテキストについて各自で読書ノートを取り、意見を述べるのが求められます。具体的な説明は第1回で行います。
- ・ 本演習は自分の問題関心を深めることが目的です。議論やレポート作成に主体的に取り組んでください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 輪読するテキストを準備する資金はそれなりに必要です。注意してください。
- ・ 履修を希望する場合、第1回の授業に必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 現代社会に関する問題、文化に関する問題に興味ある学生の受講を歓迎します。
- ・ 担当者のほかの授業（教養基礎演習、人間と文化、文化と政治）を履修したことがあれば、理解がさらに深まります。
- ・ 2学期からの出席も歓迎します。

キーワード /Keywords

現代社会、文化

教養演習 AII (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

【注意】2012年度以前入学の新2年生以上は、必ず、同じく1学期に開かれている「演習AI(防衛セミナー)」とセットで履修すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。

この授業では、実際に自衛官を招聘する「教養基礎演習I」を補完するために、戸蒔が『防衛白書』等を用いて各ポイントの解説をする。防衛問題についてほとんど知識がない者から、多少の知識のある者までを想定し、わかりやすく解説する。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 ガイダンス(戸蒔)

2回~14回 この授業は、各回の「教養演習AI」の内容に備えるための事前勉強という側面が強いので、「教養基礎演習I」のスケジュールと連動している。現段階で「教養演習AI」のゲストが調整中であるため、ここにスケジュールの詳細を明記することはできない。当面の予定は、概説、『防衛白書』『防衛計画の大綱』などの解説、ビデオ観賞などである。

15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AII 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。
年度ごとに思想上の基本文献を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。今回は、19世紀ドイツの哲学者A・ショーペンハウアーの随想集より「処世知に関する箴言 (Aphorismen zur Lebensweisheit)」を取り上げる。

教科書 /Textbooks

ショーペンハウアー (橋本文夫訳) 『幸福について-人生論』、新潮文庫、1958年、578円 (税込)。
(※本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 1学期の復習と内容確認
- 2回 読解と議論 1
- 3回 読解と議論 2
- 4回 読解と議論 3
- 5回 読解と議論 4
- 6回 読解と議論 5
- 7回 読解と議論 6
- 8回 読解と議論 7
- 9回 読解と議論 8
- 10回 読解と議論 9
- 11回 読解と議論 10
- 12回 読解と議論 11
- 13回 復習と補助学習 1
- 14回 復習と補助学習 2
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 (予習・議論・発言の積極性) ...50% 課題 (議事録作成) ...50%
(3回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないもの見なし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全15回出席していたとしても、議事録を作成しなかった者に単位は認めない。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参加を希望する場合は、初回の授業までに上記のテキスト (578円) を購入しておくこと。
本演習は「教養演習 AI (伊原木)」の続きにあたるため、1学期に参加していなかった者は、授業前の準備事項として少なくともテキストの第四章「人の与える印象について」の前まで (全部で三章分) を自分で読み通しておく必要がある。

履修上の注意 /Remarks

- 参加者全員ができるだけ多くの発言・課題作成の機会を得られるよう、受講者の最大人数は15人までとする。それを越える場合は受講者数調整をかける。その際の優先基準は原則として以下のとおりである。
- (1) 同じ担当者によるビジョン科目「生活世界の哲学」、もしくはテーマ科目「思想と現代」を履修済みの者
 - (2) 上記科目の試験で「A」以上の成績を収めている者
 - (3) 本演習に友人や知人と一緒に参加するのではなく、たった一人で参加する意欲のある者

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では毎回の「予習」 (指定ページの読解、分からない単語の調査) と「復習」 (授業議事録の作成) が必須となります。予習・復習に十分な時間をかけることができない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業は、中学校教諭一種免許状（社会）や高等学校教諭一種免許状（公民）の取得を目指し、4年次に教育実習に行きたいと考えている学生のために、開講します。
教育実習において、実習生は、実習先の学校で少なくとも数度の授業を担当することになります。塾などで実践経験を積み、自信满满で教育実習に臨む実習生もいるでしょうが、おそらく実習生の多くは、模擬授業を経験する十分な機会にも恵まれないまま、不安な気持ちを抱えながら、教育実習に臨むことになっているのではないのでしょうか。このクラスは、そのような不安を少しでも軽減するために、学習指導要領に対する理解を深めるとともに、模擬授業の実践と相互観察を通じ、受講生のティーチングスキルの向上を図ることを目的としています。
なおこのクラスでは、高等学校における「現代社会」の授業を題材にして、授業を展開していくこととします。

教科書 /Textbooks

高等学校学習指導要領 解説（公民編）
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afiedfile/2010/09/07/1282000_4_1.pdf

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書は、初回の授業時に、紹介します。
また授業の理解に必要な資料等は、適宜、配布します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 高等学校学習指導要領 解説（公民編：現代社会）を読み解く① pp.6-19
- 第3回 高等学校学習指導要領 解説（公民編：現代社会）を読み解く② pp.20-22, 59-61, 62-63
- 第4回 学習指導案の作成①【単元】【目標】【指導計画】【指導上の立場】
- 第5回 学習指導案の作成②【本時案の位置づけ・目標】【導入・展開・まとめ】【学習内容・学習活動】
- 第6回 学習指導案の発表と相互検討
- 第7回 模擬授業における相互観察のポイント【授業構成】【説明】【発問・指示】【板書】【レジュメ】
- 第8回 模擬授業と相互観察①：範囲「人権、国家主権、領土に関する国際法の意義」
- 第9回 模擬授業と相互観察②：範囲「人種・民族問題」
- 第10回 模擬授業と相互観察③：範囲「核兵器と軍縮問題」
- 第11回 模擬授業と相互観察④：範囲「我が国の安全保障と防衛および国際貢献」
- 第12回 模擬授業と相互観察⑤：範囲「南北問題など国際社会における貧困や格差」
- 第13回 模擬授業と相互観察⑥：範囲「国際平和、国際協力や国際協調を推進する上での国際的な組織の役割」
- 第14回 模擬授業と相互観察⑦：範囲「男女が共同して社会に参画することの重要性」
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、課題・模擬授業などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）によって総合的に評価することになります。
ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学習指導案の作成や模擬授業の準備等、正規の授業時間外にも時間を取ってもらうことになります。
受講申請にあたってはこの点に注意してください。

履修上の注意 /Remarks

①社会科教育法AまたはC、もしくは公民科教育法Aを受講していること、②社会科教育法BまたはD、もしくは公民科教育法Bを受講中であること、を受講の条件とします。
なお最大でも10人程度を予定しています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教員を目指す人、自分の夢に向かって、自分の力を磨いてください。

キーワード /Keywords

【公民】【現代社会】【学習指導要領】【教材研究】【学習指導案】【模擬授業】【相互観察】

教養演習BI【昼】

担当者名
 /Instructor

伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 3年次
 /Year

単位 2単位
 /Credits

学期 1学期
 /Semester

授業形態 演習
 /Class Format

クラス 3年
 /Class

対象入学年度
 /Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践力・総合力を養うことを目的とする。
 特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～4回：事前学習・企画
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
 第11回・12回：活動報告
 第13回・14回：振り返り学習
 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習における議論への参加度20%
 活動への参加度50%
 活動報告書30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

関連活動に関する文献学習。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本演習では、身体活動を通して、初めてあった人や知らない人同士でどうしてもしたら自然に打ち解け、お互いに楽しみを共有できるかについて主眼をおく。そこで、学内での実習や学外での実習（キャンプ実習や地域の中高齢者を対象とした運動プログラム）を通して、教示の仕方や振る舞い方などでどのように楽しみを共有できるかについて考えていきたい。また、社会人に必要なマナーや振る舞いについても考えていく。
 また、キャンプ実習（教養基礎演習I）のリーダーとして関わりながら、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養っていきたい。

教科書 /Textbooks

適宜資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回ガイダンス
- 2 回リーダーとリーダーシップ
- 3 回安全性と有効性
- 4 回キャンプ実習の計画（1）リーダーとしての関わり
- 5 回キャンプ実習の計画（2）安全性と有効性
- 6 回キャンプ実習の計画（3）プログラム作成
- 7 回キャンプ実習の実施
- 8 回キャンプ実習の評価
- 9 回中高齢者にあつた身体活動プログラムの計画（1）安全性と有効性
- 10 回中高齢者にあつた身体活動プログラムの計画（2）プログラム作成
- 11 回中高齢者にあつた身体活動プログラムの計画（3）プログラム作成
- 12 回中高齢者にあつた身体活動プログラムの実施（1）
- 13 回中高齢者にあつた身体活動プログラムの実施（2）
- 14 回中高齢者にあつた身体活動プログラムの評価
- 15 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

身体活動を伴うので、運動のできる服装とシューズを準備すること。
 キャンプ実習については、別途参加費がかかります。（約4000円）。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における研究の進歩は急速であり、難しそうに見える多くの用語はカタカナ用語（主として英語）である。そこで、本演習では「語源で学ぶ生命科学」を主たるテーマとし、カタカナ用語の由来とその意味を学ぶことによって、生命科学の基礎知識を身につけるとともに、これをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○「文系のための生命科学 第2版」東京大学生命科学教材書籍編集委員会編 2011年（羊土社）
 高校生物およびIIの教科書または参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認（1）
- 3回 基本的事項の確認（2）
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備（1）
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備（2）
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験（学期内のいずれかの土曜日午後実施）
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション（1）
- 12回 個人によるプレゼンテーション（2）
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み10%（配布するカードに記入した内容で評価する）、発表60%、期末レポート30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでまったく生物の勉強をしなかった者も歓迎します。この演習をきっかけに生命科学に興味を持ってもらうことが狙いです。さらに学びたい者は2学期開講の「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

文献読解能力を訓練し、レジюме（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。あわせて、日本近代史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたい。

毎回、全受講者から「レジюме」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジюме」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジюмеを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。15回の演習で、一冊完読します。

教科書 /Textbooks

受講者と相談の上で指定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告・レジюмеの内容...50%
 無断欠席やレジюмеの未提出は、それぞれたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週必ず、テキストの該当ページを読んで、レジюмеを作ってもらいます。

履修上の注意 /Remarks

小林担当の「教養演習AI・AII」「教養演習BII」とセットで履修することを希望します。
 AI・AIIを履修できなかった場合、事前に相談して下さい。
 この演習は1年生、2年生との合同演習です。
 受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

異文化の社会問題へのアプローチ法を考える：

本演習では、漠然とヨーロッパの現代社会に関する問題や異文化に関する問題に興味があり、漠然と卒業論文などでそれらの問題を扱いたいと考えている学生を対象とする。

本演習では、受講者の関心に応じて現代ヨーロッパ社会における文化に関する問題についての文献を購読し、報告、議論を行うことで、自身の問題関心を深めることを目的とする。専門用語については講義を適宜行うので、安心してください。ですが、知識を蓄えることが演習の目的ではありません。自分で知識を獲得する方法を学ぶのが演習です。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に合わせて、現代ヨーロッパ社会における文化に関する問題についての文献を1-2冊程度読む。テキストについては第1回で決定する。

(候補：石川真作ほか(編)『周縁から照射するEU社会』、高橋秀寿ほか(編)『東欧の20世紀』、森明子(編)『ヨーロッパ人類学』など)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：本演習の目的説明、テキスト決定
- 第2回 映像からわかること、文章からわかること(講義)
- 第3回 映像からわかること、文章からわかること(議論)
- 第4回 テキスト輪読と議論
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 レポートの書き方、問題関心の深め方について(講義)
- 第10回 テキスト輪読と議論
- 第11回 テキスト輪読と議論
- 第12回 テキスト輪読と議論
- 第13回 テキスト輪読と議論
- 第14回 レポート構想報告
- 第15回 レポート構想報告

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の報告と提出物30%、期末レポート70%、報告の無断欠席は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・演習参加者には、輪読のテキストについて各自で読書ノートを取り、意見を述べるのが求められる。具体的な説明は第1回で行う。
- ・テキストを読むだけでなく、各自でなんらかの研究関心を持ってください。学期末のレポートでは興味あるテーマについて論じることを求めます。

履修上の注意 /Remarks

- ・輪読するテキストを準備する資金はそれなりに必要です。注意してください。
- ・履修を希望する場合、第1回か第2回のいずれかに必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ヨーロッパの現代社会や文化に関する問題に関心があるけれど、どんな本を読めばいいのか、何をすればいいのかわからないという学生同士が積極的に協力関係をつくることを期待します。
- ・担当者のほかの授業(教養基礎演習、人間と文化、文化と政治)を履修したことがあれば、理解がさらに深まります。

キーワード /Keywords

現代社会、異文化、ヨーロッパ、

教養演習BI (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

【注意①】2013年度入学生(新1年生)は、必ず、同じく1学期に開かれているビジョン科目「日本の防衛」とセットで受講すること。

【注意②】2012年度以前入学の新2年生以上は、必ず、同じく1学期に開かれている「演習AII(防衛セミナー)」とセットで履修すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官(陸海空、尉官・佐官クラス)をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。また、2回のバスハイクを予定しており、海上自衛隊佐世保基地での護衛艦体験搭乗、航空自衛隊築城基地の見学などを行う(予定)。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。また、上述の通り、2回はバスハイクの予定。そして1回は、隣にある陸上自衛隊小倉駐屯地の見学を行う予定。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%、レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。また、将来、自衛隊の幹部候補生試験を受ける可能性のある者は、受講を強く勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この演習では、以下のことを身につけることを目指す。

- (1) 社会的なものの方見方・考え方
- (2) 文献資料の調べ方
- (3) 質的調査の考え方とやり方
- (4) レポート・論文の書き方

報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人とする(それを越える場合、受講者数調整をかける)。

教科書 /Textbooks

- 『知的複眼思考法』、刈谷剛彦、講談社+α文庫、2002
- 『自分で調べる技術 - 市民のための調査入門』、宮内泰介、岩波アクティブ新書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会
- その他、講義の中で、その都度、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業内容の紹介
- 第2回 社会的なものの方見方・考え方(1) - 『知的複眼思考法』
- 第3回 社会的なものの方見方・考え方(2) - 『知的複眼思考法』
- 第4回 社会的なものの方見方・考え方(3) - 『知的複眼思考法』
- 第5回 情報収集の仕方(1) - 図書館の利用
- 第6回 情報収集の仕方(2) - Webサイトの利用
- 第7回 情報のまとめかた(3) - KJ法 - 『自分で調べる技術 - 市民のための調査入門』
- 第8回 情報のまとめ方(4) KJ法(実習)
- 第9回 質的調査の考え方と方法(1)
- 第10回 質的調査の考え方と方法(2)
- 第11回 質的調査の考え方と方法(3)
- 第12回 質的調査の考え方と方法(4)
- 第13回 調査倫理について
- 第14回 分析事例
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度... 40% 課題(レポート)... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告者は、レジュメを準備すること。
レジュメには、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論等を含めること(レジュメの作成方法については授業中に説明する)。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B I 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。
年度ごとに思想上の基本文献を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。今回は、19世紀ドイツの哲学者A・ショーペンハウアーの随想集より「処世知に関する箴言 (Aphorismen zur Lebensweisheit)」を取り上げる。

教科書 /Textbooks

ショーペンハウアー (橋本文夫訳) 『幸福について-人生論』、新潮文庫、1958年、578円 (税込)。
(※本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 1 (演習でのルール、成績評価法の説明)
- 2回 ガイダンス 2 (対象となるテキスト、著者の紹介)
- 3回 読解と議論 1
- 4回 読解と議論 2
- 5回 読解と議論 3
- 6回 読解と議論 4
- 7回 読解と議論 5
- 8回 読解と議論 6
- 9回 読解と議論 7
- 10回 読解と議論 8
- 11回 読解と議論 9
- 12回 読解と議論 10
- 13回 復習と補助学習 1
- 14回 復習と補助学習 2
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 (予習・議論・発言の積極性) ...50% 課題 (議事録作成) ...50%
(3回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないもの見なし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全15回出席していたとしても、議事録を作成しなかった者に単位は認めない。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参加を希望している者は、第三回の授業までに上記のテキスト (578円) を購入しておく必要がある。

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言・課題作成の機会を得られるよう、受講者の最大人数は15人までとする。それを越える場合は受講者数調整をかける。その際の優先基準は原則として以下のとおりである。
(1) 同じ担当者によるビジョン科目「生活世界の哲学」「共同体と身体」、もしくはテーマ科目「思想と現代」を履修済みの者
(2) 上記科目いずれかの試験で「A」以上の成績を収めている者
(3) 本演習に友人や知人と一緒に参加するのではなく、たった一人で参加する意欲のある者

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では毎回の「予習」(指定ページの読解、分からない単語の調査)と「復習」(授業議事録の作成)が必須となります。予習・復習に十分な時間をかけることができない方は、他の参加者に迷惑をかけることになりますので、ご遠慮ください。1・2年生との合同演習になります。

キーワード /Keywords

教養演習BⅡ【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本演習では、学内や学外での実習（スキー実習や地域の健康増進プログラムなど）を通して、自分自身を理解する能力、そして人に自分を理解させる能力はもちろんのこと社会人として必要なマナー（振る舞いなど）を身につけることに主眼をおく。さらに、初めてあった人や普段話したことのない人の良いところを見つけるためにはどうしたらよいかを見つける術について考えていく。
 また、スキー実習（教養基礎演習Ⅱ）のリーダーとして関わり、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養っていききたい。

教科書 /Textbooks

適宜資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回ガイダンス
- 2 回コミュニケーションゲーム (1)
- 3 回コミュニケーションゲーム (2)
- 4 回地域における健康ニーズ
- 5 回健康と体力
- 6 回地域住民に必要な体力とは
- 7 回健康増進プログラムの計画 (1) 体力測定
- 8 回健康増進プログラムの計画 (2) 安全性と有効性
- 9 回健康増進プログラムの計画 (3) プログラム作成
- 10 回健康増進プログラムの実施
- 11 回健康増進プログラムの評価
- 12 回スキー実習の計画 (1) 野外活動の意義
- 13 回スキー実習の計画 (2) 安全性と有効性
- 14 回スキー実習の計画 (3) プログラム作成
- 15 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

身体活動を伴うので、運動のできる服装とシューズを準備すること。
 スキー実習については、別途参加費がかかります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BⅡ【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践力・総合力を養うことを目的とする。
 特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～4回：事前学習・企画
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
 第11回・12回：活動報告
 第13回・14回：振り返り学習
 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習における議論への参加度20%
 活動への参加度50%
 活動報告書30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

関連活動に関する文献学習。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における進歩は急速であり、一般には知られていないが、意味が正確に理解されていない用語も多い。本演習では「ニュースの中の生命科学」を主たるテーマとし、新聞記事などから対象となるトピック・用語を探し出し、生物学的な背景や用語の意味を学ぶと同時に、それをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○「文系のための生命科学 第2版」東京大学生命科学教材書籍編集委員会編 2011年(羊土社)
高校生物およびIIの教科書または参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認(1)
- 3回 基本的事項の確認(2)
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備(1)
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備(2)
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験(学期内のいずれかの土曜日午後実施)
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション(1)
- 12回 個人によるプレゼンテーション(2)
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み40%(配布するカードに記入した内容で評価する)、発表40%、課題20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでまったく生物の勉強をしなかった者も歓迎します。この演習をきっかけに生命科学に興味を持ってもらうことが狙いです。さらに学びたい者は2学期開講の「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

教養演習BⅡ【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description
 ゼミ論文をかいてもらう(400字×30枚以上)。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。

教科書 /Textbooks
 コピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』(平凡社新書、2001年)700円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 第1回 演習運営方針に関する話し合い。
 第2回～14回 各自の研究報告(同時並行的に論文執筆)。
 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 日常的な授業への取り組み...50%課題...50%
 無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。なお、ゼミ論未提出は「D」評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 毎週、こつこつと原稿を書いておいて下さい。

履修上の注意 /Remarks
 小林担当の「教養演習AⅠ・AⅡ」「教養演習BⅠ」とセットで履修することを希望します。
 以上の科目を履修できなかった場合には、事前に相談して下さい。
 この演習は1年生、2年生との合同演習です。受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

問題関心を深めるために：

本演習では、自分の問題関心の深めかたについて学ぶ。ひとりで読んでもなかなか理解することが難しい現代社会または異文化に関する古典的な文献、または専門的ではあるけれどよく読まれている文献の輪読を行う。自分の興味関心について意見交換することを通し、最終的に各自が設定したテーマに沿ってレポートを作成する（受講者によって多少の変更の可能性はある）。
一学期は比較的具体的な対象のある文献を対象としたが、二学期はより抽象的な文献を読む。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に合わせて（1学期からの受講者を優先する）現代社会または異文化に関するテキストを1-2冊程度読む。テキストについては第1回で決定する。

（候補：世界思想社社会学ベーシックシリーズ『自己・他者・関係』『政治・権力・公共性』から適宜。または、レベッカ・ソルニット『災害ユートピア』、竹沢尚一郎『社会とは何か』など）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 問題関心についてのせつめい テキストの選定
- 第2回 議論のしかたについて（講義）
- 第3回 問題関心共有ための導入：講義と議論
- 第4回 テキスト輪読と議論
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 テキスト輪読と議論
- 第10回 テキスト輪読と議論
- 第11回 テキスト輪読と議論
- 第12回 レポート構想報告
- 第13回 レポート構想報告
- 第14回 レポート構想報告
- 第15回 レポート構想報告

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の報告と提出物30%、期末レポート70%、
報告の無断欠席は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・ 演習参加者には、輪読のテキストについて各自で読書ノートを取り、意見を述べるのが求められます。具体的な説明は第1回で行います。
- ・ 本演習は自分の問題関心を深めることが目的です。議論やレポート作成に主体的に取り組んでください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 輪読するテキストを準備する資金はそれなりに必要です。注意してください。
- ・ 履修を希望する場合、第1回の授業に必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 現代社会に関する問題、文化に関する問題に興味ある学生の受講を歓迎します。
- ・ 担当者のほかの授業（教養基礎演習、人間と文化、文化と政治）を履修したことがあれば、理解がさらに深まります。
- ・ 2学期からの出席も歓迎します。

キーワード /Keywords

現代社会、文化

教養演習BII (防衛セミナー) 【昼】

担当者名
 /Instructor

戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

【注意】この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養演習BI」とセットで受講すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。この授業では、実際に自衛官を招聘する「教養基礎演習I」を補完するために、戸蒔が『防衛白書』等を用いて各ポイントの解説をする。防衛問題についてほとんど知識がない者から、多少の知識のある者までを想定し、わかりやすく解説する。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っている能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 この授業は、各回の「教養演習BI」の内容に備えるための事前勉強という側面が強いので、「教養基礎演習I」のスケジュールと連動している。現段階で「教養演習BI」のゲストが調整中であるため、ここにスケジュールの詳細を明記することはできない。当面の予定は、概説、『防衛白書』『防衛計画の大綱』などの解説、ビデオ観賞などである。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。また、卒業後、幹部自衛官になることを希望する者は、受講を強く勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。
年度ごとに思想上の基本文献を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。今回は、19世紀ドイツの哲学者A・ショーペンハウアーの随想集より「処世知に関する箴言 (Aphorismen zur Lebensweisheit)」を取り上げる。

教科書 /Textbooks

ショーペンハウアー (橋本文夫訳) 『幸福について-人生論』、新潮文庫、1958年、578円 (税込)。
(※本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 1学期の復習と内容確認
- 2回 読解と議論 1
- 3回 読解と議論 2
- 4回 読解と議論 3
- 5回 読解と議論 4
- 6回 読解と議論 5
- 7回 読解と議論 6
- 8回 読解と議論 7
- 9回 読解と議論 8
- 10回 読解と議論 9
- 11回 読解と議論 10
- 12回 読解と議論 11
- 13回 復習と補助学習 1
- 14回 復習と補助学習 2
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 (予習・議論・発言の積極性) ...50% 課題 (議事録作成) ...50%
(3回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないもの見なし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全15回出席していたとしても、議事録を作成しなかった者に単位は認めない。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参加を希望する場合は、初回の授業までに上記のテキスト (578円) を購入しておくこと。
本演習は「教養演習 B I (伊原木)」の続きにあたるため、1学期に参加していなかった者は、授業前の準備事項として少なくともテキストの第四章「人の与える印象について」の前まで (全部で三章分) を自身で読み通しておく必要がある。

履修上の注意 /Remarks

- 参加者全員ができるだけ多くの発言・課題作成の機会を得られるよう、受講者の最大人数は15人までとする。それを越える場合は受講者数調整をかける。その際の優先基準は原則として以下のとおりである。
- (1) 同じ担当者によるビジョン科目「生活世界の哲学」「共同体と身体」、もしくはテーマ科目「思想と現代」を履修済みの者
 - (2) 上記科目いずれかの試験で「A」以上の成績を収めている者
 - (3) 本演習に友人や知人と一緒に参加するのではなく、たった一人で参加する意欲のある者

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では毎回の「予習」 (指定ページの読解、分からない単語の調査) と「復習」 (授業議事録の作成) が必須となります。予習・復習に十分な時間をかけることができない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。1・2年生との合同演習になります。

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業は、中学校教諭一種免許状（社会）や高等学校教諭一種免許状（公民）の取得を目指し、4年次に教育実習に行きたいと考えている学生のために、開講します。
 教育実習において、実習生は、実習先の学校で少なくとも数度の授業を担当することになります。塾などで実践経験を積み、自信満々で教育実習に臨む実習生もいるでしょうが、おそらく実習生の多くは、模擬授業を経験する十分な機会にも恵まれないまま、不安な気持ちを抱えながら、教育実習に臨むことになっているのではないのでしょうか。このクラスは、そのような不安を少しでも軽減するために、学習指導要領に対する理解を深めるとともに、模擬授業の実践と相互観察を通じ、受講生のティーチングスキルの向上を図ることを目的としています。
 なおこのクラスでは、高等学校における「現代社会」の授業を題材にして、授業を展開していくこととします。

教科書 /Textbooks

高等学校学習指導要領 解説（公民編）
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afiedfile/2010/09/07/1282000_4_1.pdf

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書は、初回の授業時に、紹介します。
 また授業の理解に必要な資料等は、適宜、配布します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 高等学校学習指導要領 解説（公民編：現代社会）を読み解く① pp.6-19
- 第3回 高等学校学習指導要領 解説（公民編：現代社会）を読み解く② pp.20-22, 59-61, 62-63
- 第4回 学習指導案の作成①【単元】【目標】【指導計画】【指導上の立場】
- 第5回 学習指導案の作成②【本時案の位置づけ・目標】【導入・展開・まとめ】【学習内容・学習活動】
- 第6回 学習指導案の発表と相互検討
- 第7回 模擬授業における相互観察のポイント【授業構成】【説明】【発問・指示】【板書】【レジュメ】
- 第8回 模擬授業と相互観察①：範囲「人権、国家主権、領土に関する国際法の意義」
- 第9回 模擬授業と相互観察②：範囲「人種・民族問題」
- 第10回 模擬授業と相互観察③：範囲「核兵器と軍縮問題」
- 第11回 模擬授業と相互観察④：範囲「我が国の安全保障と防衛および国際貢献」
- 第12回 模擬授業と相互観察⑤：範囲「南北問題など国際社会における貧困や格差」
- 第13回 模擬授業と相互観察⑥：範囲「国際平和、国際協力や国際協調を推進する上での国際的な組織の役割」
- 第14回 模擬授業と相互観察⑦：範囲「男女が共同して社会に参画することの重要性」
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、課題・模擬授業などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）によって総合的に評価することになります。
 ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学習指導案の作成や模擬授業の準備等、正規の授業時間外にも時間を取ってもらうことになります。
 受講申請にあたってはこの点に注意してください。

履修上の注意 /Remarks

①教育実習1を受講中であること、②社会科教育法ないしは公民科教育法をセットで受講していること、を受講の条件とします。
 なお最大でも10人程度を予定しています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教員を目指す人、自分の夢に向かって、自分の力を磨いてください。

キーワード /Keywords

【公民】【現代社会】【学習指導要領】【教材研究】【学習指導案】【模擬授業】【相互観察】

プロジェクト演習I【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。JOB×HUNTERのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたい力と、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2012年1月現在の、プロジェクト演習Iの対象プロジェクト：JOB×HUNTER、キャリアーナ、ギラヴァンツ応援プロジェクト

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 目標設定と実施計画策定
- 第2～14回 プロジェクトに取り組みます。
- 第15回 リフレクション・最終レポート作成

成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポートでの総合判断となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特にありません。やる気のみです。

履修上の注意 /Remarks

- ※履修対象者は2年次以上です。
- ※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。2学期の履修登録の修正登録期間に履修登録してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。なお、応募者が多いプロジェクトは参加の審査があります。

キーワード /Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

プロジェクト演習II【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。オープンキャンパスのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたい力と、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2011年1月現在の、プロジェクト演習Iの対象プロジェクト：オープンキャンパスプロジェクト、キャリアーナ、ギラヴァンツ応援プロジェクト

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 目標設定と実施計画策定
- 第2～14回 プロジェクトに取り組みます。
- 第15回 リフレクション・最終レポート作成

成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポートでの総合判断となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特にありません。やる気のみです。

履修上の注意 /Remarks

※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。なお、応募者が多いプロジェクトは参加の審査があります。

キーワード /Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

自然学のまなざし【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科, 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

街に住んでいると、海や森を懐かしく思う。殺風景な自分の部屋にもどるたびに、緑を置きたくなったり、せめて小さな生き物がそこにいてくれたらなあ、なんて考える。

西洋の学問の伝統では、ながらく文化と自然を切り離して考えてきた。文系・理系と人間の頭を2つに分けてしまう発想は、未だに続くそのなごりだ。でもそれでは解らないことがある。だれだって「あたま(文化)」と「からだ(自然)」がそろって初めてひとりの人間になれるように、文化と自然は人間の内においても外においても、それぞれが融合し合い調和し合いながら世界を作り上げている。

野で遊ぶことが好きで、旅に心がワクワクする人ならば、だれでも「自然学のすすめ」の講義をつうじて、たくさんの智恵を学ぶことができるだろう。教室の中でじっとしていることだけが勉強ではない。海や森に出かけよう、そんな小さなきっかけをつくるための講義です。教室の中の講義だけではなく、講義中に紹介するさまざまな活動に参加してほしい。大学生活を変え、自分の生き方を考えるための入り口となればと願っています。

自然環境と人間の営みに対する総合的な理解をすることが達成目標となる

教科書 /Textbooks

- 『風の谷のナウシカ』1-7宮崎 駿

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『イルカとナマコと海人たち』NHKブックス
「自然学の展開」「自然学の提唱」今西錦司
「自然学の未来」黒田末寿

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 竹川
 - 第1講 「今西錦司と自然学」
 - 第2講 「私とあなたの自然学」
 - 第3講 「バックミンスターフラーと自然学」
 - 第4講 「海と人の自然学1：沖縄の海人たち」
 - 第5講 「海と人の自然学2：ソロモンの海洋民たち」
 - 第6講 「海と人の自然学：軍艦島を考える」
 - 第7講 「風の谷のナウシカの自然学」
 - 第8講 「人の進化と自然学」
- 岩松
 - 第9講 人々はどのように自然に親しんできたか(旅と観光)
 - 第10講 人々はどのように自然を観てきたか(森林風景)
 - 第11講 人々はどのように自然を利用してきたか(木と竹の文化史)
 - 第12講 人々はどのように自然を利用していけるか(竹産業と生態技術)
 - 第13講 人々はどのように自然の中で暮らしているか(木造民家の生活)
 - 第14講 日本人と森林の関係にはどのような特徴があるか(中国・台湾との比較)
 - 第15講 第九講～第十四講のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- (竹川)
 - 講義で紹介するさまざまな活動に参加する・・・15%
 - 講義で紹介するさまざまな本を読み考える・・・15%
 - 講義の内容を元に人間の生き方について小論を書く・・・20%
- (岩松)
 - 小レポート...25% 試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

自然科学のまなざし【昼】

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学ぶことはまねること。さまざまな活動に参加するなかで、ソーシャルスキルは伸びていきます。

履修上の注意 /Remarks

講義は教室の中だけでは終わりません。
そんなつもりで受講して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学のもっとも大学らしい自由な講義を心がけています。
教えられるのではなく覚えるのでもなく、行動すること、考えること、楽しむことを一番に心がけて下さい。

キーワード /Keywords

人類学
環境学
フィールドワーク

動物のみかた 【昼】

担当者名 /Instructor 到津の森公園、文学部 竹川大介

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

動物園とのかかわる事項等を検証し、環境や教育など様々な問題を考える。

動物園は教育機関としてのみならず、情感に影響を与える施設として様々な広がりを持っている。
 動物園の本来的な姿を追求し、どうすれば地域の施設として欠くべからざる施設となりうるのかを検証する。

動物にかんする知識を深め、自然環境に関する知見を広げることが到達目標となる

教科書 /Textbooks

テキストなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『戦う動物園』島泰三編 小菅正夫・岩野俊郎共著

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 動物園学概論 1
- 2回 動物園学概論 2
- 3回 キーパーの仕事 1
- 4回 キーパーの仕事 2
- 5回 キーパーの仕事 3
- 6回 キーパーの仕事 4
- 7回 キーパーの仕事 5
- 8回 キーパーの仕事 6
- 9回 校外実習 1
- 10回 校外実習 2
- 11回 獣医の仕事 1
- 12回 獣医の仕事 2
- 13回 動物園学まとめ 1
- 14回 動物園学まとめ 2
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 80% 平常の学習状況 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義では実際の動物園施設の見学もあります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地球の生いたち【昼】

担当者名 /Instructor 長井 孝一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

我々の住む地球は太陽系の第3惑星として、今から約46億年前に誕生した。その46億年の地球史の中で、大地や海、大気が形成され、地球生命が誕生し、さらに、そのそれぞれが進化あるいは変遷を繰り返してきた。地球生命は約38億年前に誕生し、長大な時間をかけて進化を繰り返してきた。我々人類は今、地球の生物史上初めて地球に能動的にかかわる生物として、その長大な時間の延長線上にいる。高度文明社会が人類や地球の未来を危うくしかねない問題を次々と引き起こしている現在、我々はこれまでも増して地球のしくみと地球史について正しく理解する必要がある。

この授業では、地球のしくみと地球史に対する講義を通して、地球と人間とのあるべき関係を正しく理解するとともに、地球と人間との共生の道をさぐる。

教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、プリントを適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川上伸一『生命と地球の共進化』(日本放送協会), 1071円
丸山茂徳・磯崎行雄著『生命と地球の歴史』(岩波書店), 861円
田近英一著『地球環境46億年の大変動史』(化学同人), 1680円
その他の参考書については授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目: 地球の歴史の表し方【地質時代と絶対年代】
- 2回目: 生きている地球1【プレートテクトニクス】
- 3回目: 生きている地球2【ウエゲナーと大陸移動説】
- 4回目: 地球惑星の起源と進化【水の惑星の誕生】
- 5回目: 地球生命の起源と目に見えない生物の長い長い時代【先カンブリア時代】
- 6回目: 先カンブリア時代末の大事変【全球凍結】
- 7回目: 生物進化史上最大の事変1【カンブリア爆発】
- 8回目: 生物進化史上最大の事変2【カンブリア爆発の意義】
- 9回目: 顕生累代の生物の変遷史1【古生代】
- 10回目: 繰り返す大量絶滅1【ペルム紀末の大量絶滅】
- 11回目: 顕生累代の生物の変遷史2【中生代】
- 12回目: 繰り返す大量絶滅2【白亜紀末の大量絶滅】
- 13回目: 顕生累代の生物の変遷史3【新生代】
- 14回目: 人間圏の成立と地球環境問題【人類と環境】
- 15回目: まとめと演習

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験: 90%, ミニレポート: 10%
欠席の多い学生は減点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回配布する資料プリントの説明文や図表類を帰宅後に読み直し、授業の内容を復習すること。また、シラバスによって次回の授業内容の確認を行ない、可能であればシラバスに載せている参考書等を用いて、授業に関係する部分を適宜予習・復習すること。

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地球史を学ぶ事を通して、地球と人間との関係について考えましょう。

キーワード /Keywords

地球史, 生命と地球, 共進化

自然史へのいざない【昼】

担当者名 /Instructor 北九州市立自然史・歴史博物館、基盤教育センター 日高京子

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

北九州市立自然史・歴史博物館（愛称：いのちのたび博物館）の学芸員が、北九州の自然と自然史博物館の魅力、そして各学芸員の調査や研究について紹介をする授業です。北九州市は多様な化石を産する化石の一大産地であり、多様な自然に囲まれた都市でもあります。このような恵まれた北九州の自然と、それを展示している博物館を、まずみなさんに知ってもらうことがこの授業の大きな目的です。各学芸員は、海外での発掘や、調査・研究も積極的に行っています。講義では、海外の話題も含めた、各自然史分野の最先端の話も聞くことができます。よりグローバルな視点から自然史を学んでもらうことも、この授業の目的としています。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各学芸員が担当する講義のテーマは下記の通りです（【】内はキーワード、()内は担当学芸員名）。講義の順番は変更となる場合があります。北方キャンパスでの13回の講義のほか、北九州市立自然史・歴史博物館での講義および見学を予定しています。

- 1回 ガイダンス
- 2回 自然史博物館での講義および見学
- 3回 昆虫分類学の歴史(担当者未定)：【分類】【学名】【アリストテレス、リンネ、ビュフォン】
- 4回 化石が語る魚類の進化(蘆本)：【魚類化石】
- 5回 二次的自然と哺乳類(馬場)：【都市近郊に棲む哺乳類】【生物多様性の価値】
- 6回 ちょっと前の自然～植物の世界を例に(真鍋)：【里山】【二次的自然】【生態遷移】
- 7回 鳥類の絶滅危機と生物多様性の保全(武石)：【絶滅危機】【生物多様性】
- 8回 化石記録が物語るいのちのたび「絶滅と繁栄」(太田)：【化石】【生命史】【絶滅】
- 9回 サウジアラビアの自然と人と文化と(山根)：【アラビア半島】【人と自然と文化】
- 10回 岩石に見られる「大地の暗号」(森)：【岩石の模様・構造】【大地のダイナミクス】
- 11回 自然史博物館での講義および見学
- 12回 深海生物～その形と適応的意義～(下村)：【深海】
- 13回 アンモナイトの古生物学(御前)：【化石】【進化】【古生態】
- 14回 骨から知る脊椎動物進化(大橋)：【系統進化】【形態と機能】【恐竜】
- 15回 まとめ

※北九州市立自然史・歴史博物館のホームページ：<http://www.kmnh.jp/>

成績評価の方法 /Assessment Method

授業回数の3分の2以上の出席をもって成績評価の対象とします。2回の博物館見学は必須となります。授業への積極的な参加および見学レポート40%、期末レポート60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

博物館見学は10月6日(日)と12月8日(日)を予定していますが、日程を変更する可能性もあります。授業スケジュールについての説明もありますので、第1回目の授業には必ず出席するとともに、掲示物に注意してください。博物館までの交通費および入館料は自己負担となります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

くらしと化学 【昼】

担当者名 /Instructor 秋貞 英雄 / Akisada Hideo / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

化学物質と化学知識は生活に不可欠なものです。それらは生活を豊かにし、豊かな未来社会を展望するのに必要です。一方、地球環境汚染など否定的現象にも関わる知識です。また、工セ科学を利用した詐欺的商法もあります。市民は其中で、単なる教養としてだけでなく、正しい判断のための正確な科学知識が必要とされます。

まず基礎的な化学知識を正確に掴む必要があります。そのために、基礎的な化学知識と身近な問題の関わりを認識し、化学への興味、関心化学知識の理解を深め、それによる生活や環境に対する能力を高めることがこの授業のねらいである。

自然界の重要物質水と炭酸ガスと物質三態(気・液・固)、生活に必要な食品・薬、環境に重要な、放射能・地球温暖化に関連した事項に絞って解説をする。

教科書 /Textbooks

「身の回りから見た化学の基礎」 化学同人 芝原 寛泰、後藤 景子 著
 出版年月日：2009/11/02、 ISBN： 9784759812923 定価：本体1,800円＋税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「ゼロからはじめる化学」立屋敷 哲著 (丸善) \2200、ISBN 978-4-621-08016-0
- 「逆説・化学物質 - あなたの常識に挑戦する」 John Emsley著、渡辺正訳 (丸善) \2200円、ISBN 978-4-621-04227-4
- 「沈黙の春」 R. Carson著、青木 梁一訳 (新潮社)
- 「奪われし未来」 T. Colbon, D. Dumanoski, P. Myers著、長尾 力著 (翔泳社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 1章 化学ってなんだ? - 物質と化学の関係
- 2 1章 化学ってなんだ? - 化学の基本事項(補足)
- 3 14, 8章 物質は自在に変わる - 気・液・固
- 4 5, 2章 水の化学、酸・塩基(真水・お酢・石けん水)
- 5 7章 料理の化学(3大栄養素)
- 6 0章(教科書補足)放射能って何だ - 放射能、原子力
- 7 0章(教科書補足)放射能って何だ - 放射性元素と自然界)
- 8 7章 料理の化学(3大栄養素)
- 9 6章(教科書補足)生活材料今昔物語 - プラスチックとその添加物質
- 10 4章 環境にやさしい洗濯を - 洗濯の化学
- 11 9章 化学の力で命を守る - 薬と副作用
- 12 6章(教科書補足)生活材料今昔物語 - プラスチックとその添加物質
- 13 10章 身の回りには石油製品がいっぱい! - 化石資源の化学
- 14 0章(教科書補足) - 二酸化炭素と温暖化の科学的仕組み、
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

簡単レポート20%、期末試験80%で総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校の理科、化学の教科書があると望ましい(手引き代わり)。
 テレビ・新聞等の科学関連ニュースには注目して欲しい。疑問点は質問して欲しい。

履修上の注意 /Remarks

教科書外の内容も講義する。それがテストの範囲になるので、プリントを受け取り、ノートはきちんととること。やむを得ない欠席時はノート模写をしておくこと。教科書は事前事後どちらでもよいが目を通して置く。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新聞、雑誌、放送機関、インターネット等の科学情報に関心を持ち、質問するような姿勢が好ましい。質問には即答できないときは後日に答えるようにします。

キーワード /Keywords

現代人のこころ【昼】

担当者名 /Instructor 松尾 太加志 / Takashi Matsuo / 人間関係学科, 中島 俊介 / 基盤教育センター
 齋藤 朗宏 / Akihiro SAITO / 経営情報学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業の概要 /Course Description

現代の心理学では、人間個人や集団の行動から無意識の世界に至るまで幅広い領域での実証的研究の成果が蓄えられている。この講義は、現代の心理学が明らかにしてきた、知覚、学習、記憶、発達、感情、社会行動などの心理過程を考察する。とくに、現代人の日常生活のさまざまな場面における「こころ」の働きや構造をトピック的にとりあげ、心理学的に考察し、現代人の取り巻く世界について、心理学的な理論と知見から理解する。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する

現代人のこころ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
心理学に対する誤解
- 第2回 心理学の研究法
心理学は科学である。【実験】【観察】【調査】
- 第3回 著名な心理学研究
人は命じられれば人を殺すのか？【ミルグラム実験】【スタンフォード監獄実験】【スモールワールド実験】
- 第4回 他分野との繋がり
心理学者はノーベル賞を取れるのか？【行動経済学】【人間工学】【プロファイリング】
- 第5回 人間の発達の心理学
人間の心理的な発達について学ぶ。主な発達理論の紹介と概念の説明。特に生涯発達の視点から人生を俯瞰する。【生涯発達】【エリクソンの発達論】
- 第6回 感情はコントロールできるか
精神の働き、「知・情・意」のなかの「情」を取り上げる。日常問題となる感情のさまざまを上手にマネジメントできるかなどを考えたい。【感情の法則】【3大陰性感情】
- 第7回 幸せの人間関係を求めて
私たちの悩みの多くは人間関係の悩みである。良好な人間関係を構築するためには何が大切か。どのようなスキルが望まれるかなどを学ぶ。【積極的傾聴法】【私メッセージ】
- 第8回 知覚の世界
人はどのように外界世界を知覚しているのか。【錯視】【体制化】【興行き知覚】
- 第9回 記憶のしくみ
人間の記憶の貯蔵のしくみ。【感覚記憶】【短期記憶】【長期記憶】
- 第10回 記憶の保持と変容
どのようにすれば記憶しやすいのか。【処理水準】【スキーマ】【偽記憶】
- 第11回 学習のメカニズム
条件づけによる学習のメカニズム。【古典的条件づけ】【オペラント条件づけ】
- 第12回 学習の生物学的制約
生物であるために生じる学習の特別な形。【ガルシア効果】【刻印づけ】
- 第13回 社会的影響
人の判断は社会からどのような影響を受けるのか。【同調】【規範】【説得】
- 第14回 コンピュータは心を持つか
人と同じような知能や心を持つコンピュータやロボットは実現できるのか？【人工知能】【ロボット】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 50% 課題(レポート) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

とくにありません。

履修上の注意 /Remarks

北方ひびきの連携科目になっています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代人のこころ【昼】

担当者名 森永 今日子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業の概要 /Course Description

心理学というと、まずイメージされるのが「カウンセリング」というのが一般的です。カウンセリングは心理学の大切な一分野ですが、実は心理学のごく一部分に過ぎません。心理学は人間の一般的傾向（良い側面、悪い側面の両方）を、実験や調査などで客観的に把握し、日常生活や仕事などに応用することができる学問です。

人間は大きな可能性を持つとともに、弱くて不完全な存在です。それを受け入れ（自分についても他人についても）、問題が生じないように工夫をするために、心理学を活用してみましょう。そのためには、心理学の研究がどのように行われ、何が明らかにされているかという基礎的な理論を学び、考える力が必要です。自分の行動や気持ち（自分の中・誰かに対して・集団の中で）を振り返り、心理学の理論と照らし合わせて考えてみましょう。講義の大枠は暫定的に作っていますが、毎回終了時に感想や質問などのコメントを提出してもらい、それをもとに次回講義を展開していきます。

教科書 /Textbooks

資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 【心理学的に効果のあるガイダンス】担当者の心理学や大学教育に対する考え方、講義の狙いや内容やルールとそれらの根拠を紹介し、良いコミュニケーション関係を作るための準備について心理学的に説明します。
- 2回 【人の心の一般的傾向と多様性】心を理論で捉えるとはどういうことか？心をどうやって測定するか？について学びましょう
- 3回 【コミュニケーションを共有という概念から紐解く】「わからない」「わかってもらえない」ということはなぜ起きるのか、なぜわかるのか？コミュニケーションを「共有」という概念から心理学的に紐解いてみましょう。
- 4回 【人から相談されてうまく答えられないという悩みに】相談というコミュニケーションにはどんな機能や効果があるのか？そもそもどうして人に相談したくなるのか？相手の問題解決を支援し心を軽くするのに役立つヒントについて心理学の理論で考えていきましょう。
- 5回 【ネットワークの中の私】私たちはたくさんの人とコミュニケーションし、支え合って暮らしています。そこから得られるもの、一方で人とのやり取りで感じるストレスについて、ソーシャルサポート理論から学び考えましょう。
- 6回 【自分らしさのなりたち】「私って何？」という疑問に、心理学はどこまで答えられるのでしょうか。「自分らしさ」を性格理論で紐解いて、「血液型と性格は関係あるのか？」ということについて考えましょう。
- 7回 【今ここにある私はどうやって私になったか】これまでの人生を振り返るワークを通じて、人が成長する過程と体験するもの、得られるもの、どうしても起きる苦しみについて、発達心理学の視点から学び考えましょう。
- 8回 【「やる気」がなげりや「その気」にさせる】「やる気」はどこから来るのか？やる気がない時、やる気のない人にどんな工夫をして「その気」にさせるのか、動機づけ理論から学び考えてみましょう。
- 9回 【人は思い込み、とらわれる】購入した商品の口コミを確認したことはありませんか？都合の良い情報ばかり集め、都合の悪い情報をシャットダウンしてしまう心について心理学の理論で学び考えてみましょう。
- 10回 【偏見はなぜ起きる？】偏見は「ワカラナイ」ものから自分を守るために発生してしまいます。自分の中にある偏見に向き合って、なぜそれが生まれるのか、偏見解消に何が有効か心理学的に考えましょう。
- 11回 【心の揺らぎと痛み】健やかな心とはどんな状態なのか？心が揺れるのはどんな時なのか？健やかな心を保つためにはどんな工夫ができるのかについて学び考えましょう。
- 12回 【集団の中の自分】私たちは様々な集団に属し、それに大きな影響を受けて生活しています。自分の心や行動への集団の影響について、集団で話し合いをするとどんなことが起きるのか、実験を体験して集団の理論から考えてみましょう。
- 13回 【組織事故-なぜ起きるのか？どうやったら防げるのか？】様々な産業組織での事故は、個人の問題だけでなく、人との関わりの中で発生します。事例分析を通じて、なぜ事故が起きるのか、防ぐためにはどうすれば良いのか、を心理学理論を使って考えましょう。
- 14回 【言いたいことを言えていますか？】日常の対人関係において、言いたいことを言えなくて苦しくなったこと、「言えば良かった」と後悔したことはありませんか？言いたいことを言えない気持ち、どうやったらうまく言えるかについて、心理学的に学び考えましょう。
- 15回 まとめと振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

試験100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

現代人のこころ【昼】

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私語は他の受講生への迷惑行為なので厳禁です。※2回目の注意で退席してもらいます。
評価は、試験の結果のみで行います。
試験は、全て持ち込み可とします。
講義で行ったこと、話したことは、全て試験の範囲に含まれます。(含まれないもの、雑談などは先に「これは試験に関係のないことですが」と断ります)
欠席した場合は、配布物やノートを次の講義までに手に入れ、次の講義に差し障ることのないようにしてください。理解できない理由や配布資料を揃えていない理由に、「休んでいたから」という言い訳は通用しません。
その他、評価や試験に関することを講義中に話したり、掲示したりします。「聞いていません。知りません」という言い訳は通用しません。

履修上の注意 /Remarks

前年度単位取得率: 57% (受講者92名)
S: 6名(7%) A: 22名(23%) B: 12名(13%) C: 19名(21%) D: 19名(21%) -: 14名(15%)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

私たちと宗教【昼】

担当者名 /Instructor 関 一敏 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

宗教は、わたしたちの日常生活とかけはなれた存在ではない。それは日常の倫理や道徳を支え、わたしたちの生き方と死に方とを方向づける強い力をもっている。さらにまた、メディアの発達していない時代に宗教は文字文化の担い手であり、音楽や身体技法など、文化の貯蔵所やくわりをはたしていた。かつまた、20世紀から21世紀にかけて民族とともに宗教が紛争と葛藤の焦点となり、原理主義の高まりとともに各地でさまざまな政治問題を生んでいることは、日々報道されることである。

にもかかわらず、日本にあってわたしたちは宗教とのつきあいを苦手だと感じるのはなぜだろうか。この講義では、そうした現代日本人の感受性そのものをも視野におさめて、過去から現在にいたる「宗教的なもの」の根っこに迫ってみたい。

なお今年はトピックスごとに、諸宗教を横断的にとらえるところみをする。

教科書 /Textbooks

使用しない。適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○橋爪大三郎『世界がわかる宗教社会学入門』ちくま文庫
堀一郎監修『宗教学辞典』東京大学出版

あとは講義の通りに適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. はじめに 宗教について考える、宗教を分類する
2. 神々の世界(日本) 起源神話、神を祀る神、異類婚姻譚
3. 神々の世界(世界) 渾沌と秩序、神の疲労、塔と洪水、石とイモ
4. あの世 地獄と天国、煉獄と金利、極楽浄土、六道輪廻
5. 苦と悪 悪霊、天使、魔女、神義論、四苦八苦
6. 出世間 修道院、荒野、出家とサンガ
7. 聖者と菩薩 殉教者、列聖、霊力、慈悲
8. 修行と戒律 身体、戒と律、聖地巡礼、体験
9. 願かけと祈り 念仏と題目、報恩、応答、祈願
10. 祭り 年中行事、通過儀礼、祝祭日
11. 声と文字 声の文化と文字の文化、聖典、賛美歌と声明
12. 物語 話法と話芸、伝説、昔話
13. 運命 予定説、宿命論、造悪論
14. 呪いと祝福 呪術、呪詛、病治し
15. まとめ 幸福の四象限、しあわせ、スカブラと笑い

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習よりも、講義の場で以下のことに力を注ぐこと。
講義をよく聴く。
配布資料をよく読む。
資料をもとに、また講義や本をヒントに、自分で考える習慣をつける。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

宗教的なものは、その周辺にカルト的集団やオカルト的現象を生むことがある。神秘的な力にはよい方向とよくない方向がともに備わっており、わたしたちにはそのよい方向を識別する目をやしなう必要がある。なによりも宗教に関する正確な知識を心がけるよう、また距離を置いた受けとめ方のレッスンをかさねるよう、意識的な努力を心がけたい。

キーワード /Keywords

上記授業計画を参照のこと。

思想と現代【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

19世紀末から20世紀にかけて発展してきた重要な思想の流れを解説する。この時代がいわゆる「哲学の終焉」以降の時代であることを意識しつつ、その中から生まれてきた新たな哲学的発想（実存思想・精神分析・フェミニズム）に着目してゆく。これらの発想をヒントにすることで、自我の成立、および他者との関係性について複眼的な思索ができるようになることを本授業の目的とする。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『哲学の歴史 第9巻—反哲学と世紀末』中央公論新社、2007年。
- 『哲学の歴史 第12巻—実存・構造・他者』中央公論新社、2008年。
- 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社現代新書、2002年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 実存の思想(1)【概説】
- 3回 実存の思想(2)【キルケゴール】
- 4回 実存の思想(3)【ハイデガー】
- 5回 実存の思想(4)【サルトル】
- 6回 実存の思想(5)【メルロ=ポンティ】
- 7回 中間総括(確認テスト)
- 8回 精神分析の思想(1)【前期フロイト】
- 9回 精神分析の思想(2)【後期フロイト】
- 10回 精神分析の思想(3)【メラニー・クライン】
- 11回 フェミニズムの思想(1)【第一波~第二派】
- 12回 フェミニズムの思想(2)【日本のウーマン・リブ】
- 13回 フェミニズムの思想(3)【フレンチ・フェミニズム】
- 14回 フェミニズムの思想(4)【クイア】
- 15回 全体総括

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト... 50% 期末テスト... 50%
(※確認テストを受験していない者は、期末テスト受験の権利を失う)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

第7回に確認テスト(第3回~第6回が試験範囲)を実施するので、受講希望者は遅くとも第3週目から出席しておく必要がある。テスト予定日は授業内で早めに通知するつもりである。原則としてこのテストを受験していない者には単位を認めないので、あらかじめ注意しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ろくに事前連絡もなく、授業最終日になってから「いろいろ忙しくて確認テスト受けられませんでした」などと言いに來る者もいるが、この手のチープな言い訳はまったく通用しない。その場合は当然不合格となる。本授業に対しては、一切の甘えを捨てた上で取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

文化と表象【昼】

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講義では、表象概念の基礎を理解し、表象論の視点・テーマのひろがりを知ることが目的としている。受講者は、講義を受けるなかで各自の生活環境を「表象」という視点から見つめ直すことが求められる。
まず前半の講義では表象論事始めとして、理論的背景の説明や、イメージとしての〈日本〉について多様な角度から言及するなかで、表象研究の導入をおこなう。
次に比較分析の例として映画を原作と比べて、その差異について論じる。さらに、後半では、テーマ研究として具体的なテーマに焦点を絞り、表象についての理解を深めていく。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 【表象論事始め】 理論的背景
- 3回 イメージとしての〈日本〉①
- 4回 イメージとしての〈日本〉②
- 5回 イメージとしての〈日本〉③
- 6回 【表象分析事始め】方法としての「比較」
- 7回 映画分析①
- 8回 映画分析②
- 9回 映画分析③
- 10回 映画分析④
- 11回 テーマ研究①
- 12回 テーマ研究②
- 13回 テーマ研究③
- 14回 テーマ研究④
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(課題・コメントカードなど) ... 20% 中間レポート・期末テスト ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習は特に必要ないが、毎回の授業を復習するなかで、各自の身近な生活環境から問題をつねに内省的に「発見」することが求められるので、緊張感をもった態度で受講してほしい。単位取得のためには、中間レポート・期末テストにおいて十分な準備が要求される。全体的にハードなプログラムであることを受講希望者は意識しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

言語とコミュニケーション【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 北方キャンパス 非常勤講師

平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科, 松尾 太加志 / Takashi Matsuo / 人間関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

種としての「ヒト」は、「ことば」を用いてコミュニケーションできるという点において他の動物と大きく異なります。しかし、「ことば」によるコミュニケーションがすべてなののでしょうか。そもそもコミュニケーションとは何で、どのようにして行われるのでしょうか。「現代の若者はコミュニケーション力がない」などよく言われますが、コミュニケーションがうまく成立したり、しなかったりするのなぜなのでしょう。この講義では、コミュニケーション論、心理学、言語学、さらには情報科学における研究成果をふまえ、私たちの日常と関連づけながらそのような問いについて考えます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『コミュニケーションの心理学』松尾 太加志著、ナカニシヤ出版、1999年。
- 『異文化コミュニケーション』古田 暁著、有斐閣、1999年。
- 『社会言語学への招待-社会・文化・コミュニケーション』田中 春美(他)著、ミネルヴァ書房、1996年。
- 『社会言語学入門-生きた言葉のおもしろさにせまる』東 照二著、研究社出版、1997年。
- 『ジェンダーの言語学』永原 浩行(他)編、明石書店、2004年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日程等により順番が変わる可能性があります。第1回授業時に予定表を配布します。

- 第1回 序：「ことば」とは(漆原)
- 第2回 コミュニケーションとことばの発達(松尾)
- 第3回 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション(松尾)
- 第4回 語用論(山崎)
- 第5回 ことばと文化(山崎)
- 第6回 異文化間コミュニケーション(山崎)
- 第7回 会話の規則(平野)
- 第8回 日本語の方言(平野)
- 第9回 ことばのバリエーション(平野)
- 第10回 ことばとジェンダー(漆原)
- 第11回 外部講師による講義(予定)
- 第12回 メディアを使ったコミュニケーション(松尾)
- 第13回 人と機械とのコミュニケーション(松尾)
- 第14回 コミュニケーション力(漆原)
- 第15回 まとめ(担当者によるパネル・ディスカッション)(全員)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...20% レポート...20% × 4
4名の担当教員のレポートをすべて出さない限り、評価不能(-)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

* 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

芸術と人間【昼】

担当者名 /Instructor 花田 伸一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

現代美術を中心に国内外の芸術活動の事例を紹介します。
それらを鑑賞・趣味の対象としてではなく、批評・実践のツールとして解釈・応用できるよう、アート・リテラシーの向上を促します。

教科書 /Textbooks

ナシ

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

今道友信『美について』(講談社現代新書)
佐々木健一『美学への招待』(中公新書)
暮沢剛巳編『現代美術を知るクリティカル・ワーズ』(フィルムアート社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 美をめぐる言葉の整理：美×美術×美術館×美学
- 2回 作品の鑑賞とは 1
- 3回 作品の鑑賞とは 2
- 4回 引き算の美・足し算の美
- 5回 メディア×アート：浮世絵
- 6回 サブカルチャーと社会
- 7回 芸術作品に見るジェンダー
- 8回 作品のコンテキスト
- 9回 芸術のカ×権力×暴力
- 10回 芸術と宗教
- 11回 芸術とリアリティ：現実の不確かさ
- 12回 芸術と生活：限界芸術、民芸
- 13回 芸術と教育：ワークショップの事例
- 14回 芸術と地域：アートプロジェクトの事例
- 15回 北九州のアートシーン

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

上記の講義内容は変更する場合があります。
また講義室内での受講にとどまらず、できる限り近隣の展覧会・レクチャー・トーク・ワークショップ等に足を運び、「現場」での体験と省察とを心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文学を読む【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 真理子 / 比較文化学科, 五月女 晴恵 / 比較文化学科
田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科, 馬場 美佳 / MIKA BABA / 比較文化学科
福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科, 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科
木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 / 1 Year 単位 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Class クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

◎総合テーマ

大学に入るまでに私たちは「国語」という科目の中で「文学」に触れ、また自ら図書館や書店の棚で「文学」を手にとってきた体験があります。こうした「文学を読む」という行為は、人間にとって当たり前の営みだと感じられがちなのですが、それは本当なのでしょうか？さらには「古典」「名作」と名づけられた作品は、今なお読むに値するどのような意味・意義を有しているのでしょうか。一見自明に見える課題を再度問い直し、私たちにとって現実的な営みとしての「文学」を捉えなおすことが、この科目の目的です。

◎2013年のテーマ：「言葉の力」

文学とは、言語を用いた芸術作品である、という当たり前のことがわかっていながら、ひとつひとつの言葉の持つ深い意味や、そこから広がる世界の大きさをじっくり考えながら文学作品を読んでいる人は、一体どのくらいいるのでしょうか。たとえば文学の中でも「詩」という表現形式は、芸術作品としての「言葉」の密度がきわめて高いものです。また、「言葉」はその力を拡大して、文学というジャンルを超えた表現形式へ生まれ変わることもあります。この授業では、複数の教員がオムニバス方式で各国言語で書かれた詩や警句・ことわざ、また言語芸術から生まれた造形芸術について講義し、芸術作品としての「言葉」の深さ、可能性、美しさなどの発見を促します。

この授業の主な到達目標は、以下の通りです。

- ① 言語芸術に関する基本的・総合的な知識を獲得する。
- ② 「言葉」の意味の深さや可能性について考え、自分で課題を設定し、解決する能力を磨く。
- ③ 修得した知識を今後の知的生活の中で応用できるようになる。

教科書 /Textbooks

特定のテキストを使用するのではなく、各教員が講義ごとにプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に各教員が指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入・言語芸術の可能性
- 2回 岩本(文学部比較文化学科)
- 3回 岩本
- 4回 馬場(文学部比較文化学科)
- 5回 馬場
- 6回 田部井(文学部比較文化学科)
- 7回 田部井
- 8回 福島(文学部比較文化学科)
- 9回 福島
- 10回 伊藤(外国語学部英米学科)
- 11回 伊藤
- 12回 五月女(文学部比較文化学科)
- 13回 五月女
- 14回 木原(外国語学部英米学科)
- 15回 木原

(各講義の題目や順番は変更になる場合があります。第1回に詳細な予定表を配布します。)

成績評価の方法 /Assessment Method

各教員ごとのレポートまたは小テスト・100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私語と授業中の教室への出入りは厳禁します。

文学を読む【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代正義論【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 /1st Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2nd Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 1年 /1st Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、初回に現代正義論の流れを概観する。その上で、次に現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題を取りあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的で身近な生命倫理にかかわる諸問題を取りあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①現代正義論に関する基礎的な知識を獲得したうえで、理解力・思考力を鍛える。
- ②現代社会における諸問題について、課題を発見し、分析したうえで解決する力を獲得する。
- ③修得した知識や思考力を自らのものとし、今後の社会実践の中でより深めていくことができるようにする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』(早川書房)
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』(早川書房)
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』(勁草書房)
- 平井亮輔編『正義』(嵯峨野書院)
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』(創文社)
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』(講談社)
- 葛生栄二郎他『いのちの法と倫理』(法律文化社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ~ 問題の所在
- 第2回 現代正義論とは ~ 本講義の概観
- [第3回~第7回まで 「正義」の応用問題(生命倫理と法)]
- 第3回 脳死・臓器移植① ~ 臓器移植法の制定と改正
- 第4回 脳死・臓器移植② ~ 法改正時の諸論点
- 第5回 脳死・臓器移植③ ~ 改正臓器移植法の施行と課題
- 第6回 安楽死・尊厳死① ~ 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② ~ 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ~ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ~ ノージックのリバタリアニズム
- 第10回 現代正義論③ ~ 共同体主義
- 第11回 現代正義論④ ~ アマルテア・センの正義論
- 第12回 現代正義論⑤ ~ センとロールズ・ノージック
- 第13回 現代正義論⑥ ~ 狭義の(ロールズ以後の)「現代正義論」のまとめ
- 第14回 法と正義 ~ 現代正義論と正義の応用問題
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解にとって、大変に役にたつと思います。

キーワード /Keywords

ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

民主主義とは何か【昼】

担当者名 /Instructor 中道 壽一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

今年度は、「比較民主主義論」というテーマで講義を行います。

民主主義を理論、運動（組織）、制度の3つのレベルに区分し、まず、民主主義の理論の比較として、同質性民主主義論、エリート主義的民主主義論、参加民主主義論、共生の民主主義論、熟議民主主義論等について考察します。次に、運動（組織）のレベルでは、1938年と1968年における日独の青年の政治的位置の比較を行い、制度のレベルでは、議院内閣制民主主義と大統領制民主主義を比較します。そして、こうした比較を通じて見えてくる差異性（多様性）や共通性から、「新しい政治」について検討します。

教科書 /Textbooks

テキストはなし。
基本的にレジュメを配布して講義します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献としては、
○中道『政治思想のデッサン』（ミネルヴァ書房）、
○J・リンズ他『大統領制民主主義の失敗』（南窓社）、
○中道編『現代デモクラシー論のトポグラフィー』（日本経済評論社）、
○イアン・シャピロ『民主主義理論の現在』（慶應義塾大学出版会）
を挙げておきます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

「授業計画・内容」としては、下記の通りです。

- 第1回 はじめに・・・民主主義の3レベルについて
- 第2回 民主主義の理論の比較・同質性民主主義論、エリート主義的民主主義論
- 第3回 参加民主主義論、共生の民主主義論
- 第4回 熟議民主主義論、ラディカル・デモクラシー論
- 第5回 民主主義理論の比較のまとめ
- 第6回 まとめのグループ討論、グループ発表
- 第7回 民主主義の運動（組織）の比較・1989年の東欧革命について
- 第8回 1968年の「青年の反乱」の日独比較
- 第9回 1938年の日独青少年交歓事業について
- 第10回 民主主義の運動の比較についてのまとめ・1938、68、89年の日独青年の政治的位置の比較について（グループ討論、グループ発表）
- 第11回 民主主義の制度の比較について・議院内閣制と大統領制
- 第12回 議院内閣制民主主義の諸問題について
- 第13回 大統領制民主主義の諸問題について
- 第14回 民主主義制度の比較のまとめ・首相公選制について
- 第15回 全体のまとめ・「新しい政治」について

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は、下記のような配分で、総合評価します。

日常の授業への取り組み	20%
小テスト	10%
レポート	20%
定期試験	50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

民主主義に興味があれば、どなたでも受講できますが、国内外のニュースを読んだり見たりしておいてください。多くの情報を持っていれば、それだけ講義の内容に興味を持つようになります。

民主主義とは何か【昼】

履修上の注意 /Remarks

毎回、講義のレジユメを配布しますので、紛失ないようにファイルし、毎回の講義に持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

3人一組のグループを作り、グループ内で議論したことを、代表者に発表してもらうという、「まとめ」を2回ほど行うつもりですので、講義に積極的に参加してほしいし、講義を楽しんでください。

キーワード /Keywords

講義を楽しむ

人権論 【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

「人権」といえば「特別なこと」というイメージを持つかもしれないが、実際には「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無意識に他者の「人権」を侵害していることがある。

本講義では、「人権とは何か」という基本的な概念をふまえて、現存する「人権課題」の実情や社会的背景を考察していく。その上で、自分自身がどのように「人権」と向き合っていくのかを問う。

目標

1. 人権とは何かについての理論的概念が理解できる。
2. 人権獲得の歴史を体系的に理解できる。
3. 現代社会における様々な人権課題についての認識を深め、自分との関係を知る。
4. 自分自身にとっての人権課題を明確にする。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / 福岡県人権研究所発行 ¥1000）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『部落問題資料と解説』（解放出版社発行）
必要な参考書は授業時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 「自分にとっての人権課題」：自分と人権との関わりを考える。
- 2 「人権とは何か」：人権とは何かについて解説する。
- 3 「人権獲得の歴史」：人権獲得の歴史を近代革命を中心に解説する。
- 4 「世界人権宣言と人権条約」：世界人権宣言採択の歴史的経緯や意義などを解説する。
- 5 「部落問題について」：現存する部落問題の事例から部落問題とは何かを解説する。
- 6 「部落問題について」：当事者の思いを聞き、部落差別とは何かを考える。
- 7 「在日外国人と人権課題」：急増する在日外国人の現状と人権課題を解説する。
- 8 「在日コリアンについて」：在日コリアンの歴史、現状、課題などを解説する。
- 9 「ハンセン病について」：ハンセン病についての認識を深めることや元患者を取り巻く日本社会の歴史や現状を解説する。
- 10 「教育と人権～識字問題」：読み書きができないことがもたらす人権侵害などを解説する。
- 11 「教育と人権～夜間中学」：教育を受ける権利の保障とは何かを事例を交えて解説する。
- 12 「障害者と人権」：障害者の立場からみる人権課題を知る。
- 13 「アジアの人権状況」：アジアの人権問題を事例を交えて解説する。
- 14 「アジアの人権状況」：アジアの人権問題を事例を交えて解説する。
- 15 「まとめ」：現代社会の人権課題に自分たちはどう向き合うのか、共に考える。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 50% 期末テスト・ミニレポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日常生活の中にあるさまざまな人権課題に関心をもち、授業のミニレポートまたは感想用紙に反映させることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

私語は厳禁
出席回数が基準を満たさない場合は期末テストの受験資格を失う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生自身が持つ「学ぶ権利」を意識して授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

「すべての人」「人間らしく生きる」

ジェンダー論 【昼】

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

なぜ男言葉と女言葉があるのか、なぜ女性の大芸術家は現れないのか、「男は仕事、女は家庭」は自然な役割なのか、なぜ政治学や法学・科学の分野に女性教員や女子学生が少ないのか、なぜ戦時・平時にかかわらず女性に対して暴力が振るわれるのか—そのような日常的に「当たり前」となっていることをジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を学ぶ。

教科書 /Textbooks

牟田和恵編『ジェンダー・スタディーズ—女性学・男性学を学ぶ』（大阪大学出版会、2009）
適宜、補足資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編『岩波女性学辞典』（岩波書店、2002）
マギー・ハム『フェミニズム理論辞典』（明石書店、1997）
R.W. Connell, Gender: Short Introduction. Polity, 2002.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本語とジェンダー—戦後から現代までの日本歌謡曲【女言葉】【男言葉】
- 2回 ジェンダー・リテラシーで読み解く文学—村上春樹作・小説『ノルウェイの森』【眼差し】
- 3回 現代アートとジェンダー—映画『ロダンが愛したカミーユ・クローデル』【制度】
- 4回 男もつらいよ—アーサー・ミラー作・戯曲『セールスマンの死』【男らしさ】【性別分業】
- 5回 ジェンダー—家族を超えて—週刊誌『女性自身』にみる皇室家族の肖像【近代家族】
- 6回 セクシュアリティを考える—あだち充作・マンガアニメ『タッチ』【ホモソーシャル】
- 7回 学校教育の今昔—学園TVドラマの系譜【隠れたカリキュラム】
- 8回 社会保障とジェンダー—津村記久子作・小説『ポトスライムの舟』【貧困の女性化】
- 9回 ジェンダーの視点からみる農業—エレン・グラスゴー作・小説『不毛の大地』【農業経営】
- 10回 アジア現代女性史の試み—ミュージカル『ミス・サイゴン』【女性に対する暴力】
- 11回 女性差別撤廃条約と人権—絵本『世界中のひまわり姫へ』【民法】【均等法】【DV防止法】
- 12回 ジェンダーと平和学—女性戦士の系譜『リボンの騎士』『風の谷のナウシカ』【平和構築】
- 13回 グローバリゼーションと労働市場—国連『人間開発計画報告書』【移住労働】
- 14回 デートDV—TVドラマ「ラスト・フレンズ」【ドメスティック・バイオレンス(DV)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の積極的な発言...25%、プレゼン...25%、レポート...25%、期末試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

(1)法制度改正の動きを新聞等で把握しておく。(2)メディア表現を含め日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発言、プレゼン、レポート、期末試験に反映させる。(3)プレゼンにはパワーポイント使用のためプレゼンおよびPPTスキルズを身に付けておく。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

「ジェンダー」「セクシュアリティ」「ポリティクス」

障がい学【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。障害者問題をテーマとしたテレビドラマ等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。また、ゲスト・スピーカーとして、当事者や家族、支援者にもお話をうかがう予定ている。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第3回～4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回～第8回：「文化モデル」の可能性、自閉症児者との共生をめぐる【文化モデル】【文化相対主義】【自閉症】
- 第9回～12回：日本の福祉制度の現状と課題【当事者の声】
- 第13回～14回：自己の問題としての障がい
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生の作法【昼】

担当者名 /Instructor
 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科, 石田 信平 / shinpei ishida / 法律学科
 今泉 恵子 / 法律学科, 植木 淳 / 法律学科
 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科, 岡 邦信 / 法律学科
 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科, 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
 高橋 衛 / 法律学科, 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科
 中村 英樹 / 法律学科, 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
 福重 さと子 / SATOKO FUKUSHIGE / 法律学科, 矢澤 久純 / 法律学科
 山本 光英 / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業の概要 /Course Description

現代社会は、国家としても個人としても、極めて複雑な様々な関係から成り立っている。われわれは個人としてどのような関係の中で生活しているのか、どのような関係の中で生活すればよいのかを考える必要がある。われわれの生活が、およそ一人では成り立たない以上、人と人との関係、人と国家との関係、国家と国家との関係、世代と世代との関係、人と自然との関係など様々な関係の中で成り立っていることを考えなければならない。

他者との共存ないし共生は我々の生活には不可欠なものであり、そのためお互いの良好な関係を維持し、これを発展させるためには、お互いを守るべきルールやマナー（作法）を知ることが必要である。

今現在、そのような他者との関係がどのようになっているのかを考え、そして、これらの関係をどのように維持し、あるいは改善しなければならないかを考えることが、本講義の目的である。

この授業の到達目標は、以下のとおりである。

- ①法についての基本的な知識を獲得した上で、社会での共生に必要となる理解力や思考力を鍛える。
- ②共生をめぐる現代社会の諸問題について、課題を発見しそれを分析したうえで解決する力を獲得する。
- ③修得した知識や思考力を自らのものとし、今後の社会実践の中でより深めていくことができるようにする。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞、法と道徳について(重松)
- 第2回 障害のある人の権利 ~ 日本国憲法から(植木)
- 第3回 死刑制度の是非(中村)
- 第4回 契約について(契約の意義、種類、契約自由の原則等)(矢沢)
- 第5回 家族とは何か(小野)
- 第6回 規範意識とは何か(3銭の電気窃盗)(山本)
- 第7回 犯罪とは何か ~ 国家刑罰権をどのように制約するか(大杉)
- 第8回 商法とは何か(今泉)
- 第9回 企業形態と法(高橋)
- 第10回 民事少額訴訟とは何か(小池)
- 第11回 行政は「個人の権利」をもつか(福重)
- 第12回 社会保障の必要性和社会保険について考えよう(津田)
- 第13回 雇用とは何か(雇用関係の成立、雇用関係の展開、雇用関係の終了)(石田)
- 第14回 国際社会と日本(二宮)
- 第15回 まとめ(岡)

成績評価の方法 /Assessment Method

原則としてレポートによる。

①受講者は学籍番号に応じて指定されたテーマ群の中から、テーマを1つ選び、レポートを1本作成して提出すること。②レポートの書式等は掲示により別途指示する。レポートは6000字以上とする。③レポートには、所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名等を明記した所定の表紙を必ず添付すること。④授業態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

共生の作法【昼】

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回のテーマについて事前に情報を収集し、予習しておくとう理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

レポート課題は、学籍番号に応じて選択することができる範囲（テーマ群）が決まります。全ての授業に出席していないと書けないことになるので注意して下さい。各人が選択できる範囲（テーマ群）は、試験期間開始よりも前の適切な時期に掲示により指定します。

キーワード /Keywords

現代社会 共生 作法 ルール

北九州学 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

環境問題の全体像を把握し、持続可能な社会作りに向けた行動の重要性を理解する。そのために、行政・企業・NPO・マスコミ等の実務担当者を招へいし、様々な視点から北九州の環境を学習する。また、「環境首都検定」を受験し、市民の立場に立って環境に対する取り組みを幅広く学習する。さらに、環境関連施設（環境ミュージアム、エコタウンなど）を見学し、その体験を講義での学習につなげる。

この授業の主な到達目標は以下の通り。

- ① 環境に関する幅広い基礎知識を獲得する。
- ② 環境にはさまざまな立場からの意見・考え方があることを理解し、自らがとるべき環境行動を判断できる素養を身につける。
- ③ 卒業後も誰もが身近なところから環境行動に取り組むことができることを理解する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

北九州市環境首都検定公式テキスト

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 持続可能な社会をめざして～ESD～
- 3回 北九州における環境問題
- 4回 北九州における環境政策
- 5回 北九州の自然・生態系
- 6回 環境問題とソーシャルビジネス
- 7回 環境問題と市民の関わり
- 8～9回 環境関連施設見学①
- 10回 環境問題とジャーナリズムの役割
- 11～12回 環境関連施設見学②
- 13回 北九州の環境経済
- 14回 環境問題と企業の取り組み
- 15回 環境都市としての北九州

成績評価の方法 /Assessment Method

授業回数の3分の2以上の出席をもって成績評価の対象とする。環境首都検定受検および2回の施設見学参加は原則必須とする。環境首都検定の成績(40%)、施設見学および期末レポート(30%)、授業への参加度・授業中の課題など(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

環境首都検定は12月15日(日)、施設見学は①環境ミュージアム(12月1日(日))、②エコタウン(11月20日(水)午後)を予定しているが、変更の可能性もある。スケジュールに注意すること。環境ミュージアムおよび首都検定会場までの交通費は自己負担とする。定員は200名とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

市民活動論 【昼】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものか、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。
主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 枠組みの設定
 - 3回 民衆行動の分析①
 - 4回 民衆行動の分析②
 - 5回 市民運動の分析
 - 6回 市民の活動の展開 / 戦前 (上)
 - 7回 市民の活動の展開 / 戦前 (下)
 - 8回 市民の活動の展開 / 戦後 (上)
 - 9回 市民の活動の展開 / 戦後 (下)
 - 10回 市民の活動の展開 / 高度成長期 (上)
 - 11回 市民の活動の展開 / 高度成長期 (下)
 - 12回 市民の活動の展開 / ポスト高度成長期 (上)
 - 13回 市民の活動の展開 / ポスト高度成長期 (下)
 - 14回 市民活動の現在
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極参加... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業と社会【昼】

担当者名 /Instructor 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

我が国は、アジア太平洋戦争に敗北した。しかし、その後の日本は、日米同盟という軍事的・政治的・経済的枠組みのもとで、奇跡的とも言うべき復活・再生（高度成長から安定成長）を果たした。そして、その後の不況下の物価上昇というスタグフレーションをひとまず克服した日本経済は、欧米からジャパンアズナンバーワン[日本の経営(温情主義的経営)]とも賞賛された。しかし、こうした日本の企業社会であるが、その「ピーク=破壊」たる1990年代前半のバブル崩壊を契機として、一転して失われた10年さらには15年とも評価されるにいたっている。

終身雇用 (= ライフタイム・コミットメントという英語の日本語訳、広義には職場共同体という感覚)・年功制や労使協調型経営のシステムは、今や、液化して剥き出しの資本制経済の荒波(マーケット中心主義)にさらされている。日く、ワーキングプア(働いていても生活がいよいよ苦しい)・ネットカフェ難民(帰るべく家がない)・格差から貧困(経済的格差・貧困から意欲の格差が目される)・99%対1%、等々。

にもかかわらず、経済政策をリードしている新自由主義(マーケット型資本主義)路線。すなわち「市場=マーケット」万能路線である。ここでは、市場から脱落・排除(彼女/彼らはこれを退出という)された者は、もはや回帰不可能な存在として処理されているかのようである(例えば、退場をしたサッカー選手は、帰るべく家があるが、市場から退場を命じられた労働者に帰るべく家は必ずしも存在しない)。

だからこそ、これまでの日本経済においては、ケインズ型経済政策を基底にして、社会そのものがこうした人々を支えるセーフティネットをもってたと判断される(社会統合機能)。しかし、赤字財政と経済危機という観点から、いよいよ新自由主義なる路線が浸透しているかのようである(社会統合機能の麻痺と当該社会の正統性の危機)。

そうすると行き着くところ、社会(資本制経済あるいは資本家の生産社会)というものは、必ずしも人々の生命の再生産を所与としないかのように振る舞うことが可能なのだろうか？

こうした問題を、日本の企業社会という文脈にひきつけて展開してみようというのが講義のねらいである。

教科書 /Textbooks

テキストは、竹内章郎『新自由主義の嘘』岩波書店、2007年。レジユメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 1、市場を扱った文献については、カール・ポランニー『市場社会と人間の自由』大月書店、2012』(○)
- 2、格差と貧困に関わるテーマを扱った文献については、①雑誌『世界』(○)・岩波新書(白波佐和子『生き方の不平等』2010(○)等の最新の文献、②『私たちは"99%"だ』(岩波書店、2012)』(○)、③國島・重本・山崎編『「社会と企業」の経営学～新自由主義的経営から社会共生的経営へ～』ミネルヴァ書房(2009年)(○)、森岡孝二編『貧困社会ニッポンの断層』桜井書店、2012。
- 3、社会統合と社会の正統性に関する議論については、ハバースとルーマンの議論を紹介した文献を参照。①山之内靖『システム社会の現代的位相』岩波書店、2011、②尾関周二『言語的コミュニケーションと労働の弁証法』大月書店、2002。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会とは(社会認識の諸類型)。資本制経済(資本家の生産様式)。【社会認識】
- 2回 資本主義という俗語と市民社会という講学用語。【資本主義】【市民社会】
- 3回 市場とは。買い物物を反省しよう。日常的に観察される買い物物すなわち商品流通から、ふたつの人間類型が見いだされる。 → 「C(商品) - M(貨幣) - C(商品)」[私達]と「M(貨幣) - C(商品) - M(貨幣)」[資本家]。私達と資本家は、商品流通レベルでは平等。【商品流通】【資本家】【労働者】【市民社会】【資本制経済】
- 4回 商品流通(商品交換)の次元における私達→私達は平等である(等価交換と市民法)。【商品流通(商品交換)】【平等・自由】
- 5回 商品流通の次元における私達は平等であるのに、何故、格差・貧困・「99%対1%」なのか。【格差】・【貧困】
- 6回 市民社会の歴史的創出 = 本源的蓄積過程。商品流通 (C - M - C) の内実たる(M - C - M)での剰余価値の生産。資本家と労働者。【本源的蓄積過程】【剰余価値】【賃労働関係】
- 7回 労働者および資本家の歴史的誕生。英国のケース。【本源的蓄積過程】
- 8回 商品流通と生産過程・利潤の源泉【剰余価値】【賃労働関係】
- 9回 長時間労働・過労死そして格差・貧困の発生【剰余価値】【絶対的剰余価値】【相対的剰余価値】
- 10回 戦後資本主義の特性=恐慌と危機。ケインズ政策の登場。【恐慌】【危機】【ケインズ政策】
- 11回 セーフティネット装置のビルトインされた国家=福祉国家(混合経済)の登場。【福祉国家】
- 12回 福祉国家の危機=赤字財政というシステム統合危機。市場回帰志向の新自由主義の台頭。【赤字財政】【新自由主義】
- 13回 新自由主義の台頭とセーフティネット装置の浸食。システム統合危機から社会統合危機へ。【危機】【統合】
- 14回 システム統合と社会統合。マーケットとその外側(生活世界)。【システム統合】【社会統合】【生活世界】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%、およびボーナスとして、レポート...10%と小テスト...10%。この配分を100点満点に換算して評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ①、テキストを用意すること。②、レジユメだけにしがみつかない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

最近では、ブラック企業という言葉が頻繁に聞きます。就活にとって無視できません。私たちは、次々とこうした魔物にからめとられてしまうのでしょうか。だから、私達にとって社会とは、単なる観察対象ではなく、観察主体である自らも観察対象であることを常に意識してもらいたい。

キーワード /Keywords

【商品流通】 【資本家】 【労働者】 【市民社会】 【資本制経済】 【市民法】 【本源的蓄積過程】 【剰余価値】 【賃労働関係】 【福祉国家】 【ケインズ政策】 【新自由主義】 【システム統合】 【社会統合】 【生活世界】

つながりの人間学【昼】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講義は、地域共生教育センター担当科目として開講します。
地域貢献活動へ参加する入門科目として、以下の6点をねらいとします。

- ①地域活動に関する実践的方法論の習得
- ②マッチング型などへの参加学生への指導
- ③プロジェクト型等は基盤演習
- ④実際に1つ以上の地域活動を体験することを通して、地域活動への参加意欲を高める
- ⑤既に地域活動に参加している学生によるシンポジウムを開催し、参加意欲を高める。
- ⑥地域活動家による講演会を開催し、地域活動への理解を深める。

教科書 /Textbooks

レジメを配布します。
講義時に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 ガイダンス
講義の目的、留意事項、421Lab.の紹介
- 第2回目 地域活動概論①
地域活動の紹介、北九州市への理解
- 第3回目 地域活動概論②
コミュニティワークの紹介と応用
- 第4回目 地域活動家特別講演会(予定)
- 第5回目 地域活動参加学生によるシンポジウム(予定)
- 第6回目 演習:基本的コミュニケーション技術
話し方、姿勢・立ち位置、表情
- 第7回目 プロジェクトドライブ①
情報収集
- 第8回目 プロジェクトドライブ②
企画作成
- 第9回目 プロジェクトドライブ③
模擬作成したプロジェクトのプレゼンテーション
- 第10回目 プロジェクトドライブ④
記録、報告、連絡、相談
- 第11回目 マナー講座①
- 第12回目 マナー講座②
- 第13回目 地域活動と価値観
- 第14回目 地域活動とキャリアプラン
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中の課題(50点)+期末レポート試験(50点)=合計100点評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講を希望するものは、ボランティア活動、地域活動に関する文献を1冊以上は読んでおくこと。

つながりの人間学【昼】

履修上の注意 /Remarks

詳細については、第1回目の講義時に資料を配布しますので、そちらを必ずご参考ください。地域活動に既に参加しているかどうか、受講中に参加するかは関係ありませんので、多くの方に履修していただきたいと考えています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目は、全学組織である地域共生教育センターが提供する科目です。この科目をきっかけとして地域活動へ参加していただきたいと思います。この講義を通して、地域活動に興味を持った方は、第2学期開講の「サービスラーニング入門2」も受講してください。より深く地域活動とおして学びたい方は、基盤教育の教養基礎演習、教養演習も履修していただきたいです。

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、キャリア形成

現代社会と倫理【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

現代社会の中で生じている倫理的問題のいくつかを考察しながら、実践倫理学の基礎を学ぶ。「われわれ現代人は生と死の問題、差別と平等の問題にどう立ち向かうべきなのか」という問いかけを中心に、個々の社会問題に対する批判的思考の育成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ピーター・シンガー『実践の倫理 新版』(山内友三郎・塚崎智監訳) 昭和堂、1999年。
- 加藤尚武・飯田亘之編『バイオエシックスの基礎』東海大学出版会、1988年。
- 江口聡編・監訳『妊娠中絶の生命倫理』勁草書房、2011年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 20世紀の倫理学【規範倫理学とメタ倫理学】
- 3回 現代における人命の価値(1)【生命の神聖説】
- 4回 現代における人命の価値(2)【積極的行為と消極的行為】
- 5回 現代における人命の価値(3)【最大幸福原理】
- 6回 現代における人命の価値(4)【自己意識】
- 7回 現代における人命の価値(5)【FLO】
- 8回 現代における差別の問題(1)【人種差別】
- 9回 現代における差別の問題(2)【差別反対論】
- 10回 現代における差別の問題(3)【種差別の基礎】
- 11回 現代における差別の問題(4)【種差別の諸相】
- 12回 現代における公平性の意義(1)【世界の貧困】
- 13回 現代における公平性の意義(2)【公平主義】
- 14回 現代における公平性の意義(3)【援助義務論】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の概要と詳しい参考文献の紹介は、第1回もしくは第2回の授業時に行なう。
参考文献に挙げた『バイオエシックスの基礎』および『妊娠中絶の生命倫理』に収められた論文を一部授業の素材にするので、簡単にでも目を通しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業の期末試験は、持ち込みが一切不可(プリント・ノート類も禁止)となっている。それに応じて成績評価のハードルもかなり高くなる。このため、受講者には継続的な学習意欲とそれ相応の記憶力が求められる。この方式に伴うリスクと負担をよく理解した上で講義に臨むこと。

キーワード /Keywords

生命 義務論 功利主義 公平性

現代社会の諸問題【昼】

担当者名 西日本新聞社、基盤教育センター 稲月正
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業の概要 /Course Description

この授業は西日本新聞社による寄付講座である。毎回、新聞ジャーナリズムのさまざまな現場で活躍されている方からお話いただき、新聞と現代社会についての考察することを目指す。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション / 新聞ジャーナリズムの現状と今後 (編集企画委員長)
- 第2回 ニュースを編集する / 見出しはこうして決まる (編集センターデスク)
- 第3回 政治を見る目 / 政権交代と現政権の行方 (編集委員)
- 第4回 地域とともに / 分権時代と地域紙 (都市圏総局長)
- 第5回 アジアを考える / 国際報道の現場から (国際部長)
- 第6回 裁判員制度と人権 / 事件報道の現場から (社会部総合デスク)
- 第7回 デジタルが紙か / デジタルメディアの行方 (コンテンツ事業局)
- 第8回 罪と更生 / キャンペーン報道の力 (社会部デスク)
- 第9回 被災地を歩く / 東日本大震災をどう伝えるか (社会部長)
- 第10回 原発と地域経済 / 経済記者の立ち位置 (経済部長)
- 第11回 スポーツ報道の世界 / 地域スポーツ紙が目指すもの (運動部デスク)
- 第12回 言葉を越える1枚 / 報道写真の力 (写真部記者)
- 第13回 北九州発の環境問題を考える / 地域ジャーナリズムの役割 (北九州本社記者)
- 第14回 文化と新聞 / 地域を見つめ育てる (文化部長)
- 第15回 新聞をデザインする / ビジュアル紙面とは (デザイン部デスク)

成績評価の方法 /Assessment Method

- 以下の2つをもとに総合的に評価する。
- (1) 毎回の感想(レポート提出の要件とする。)
 - (2) レポート(レポート提出は3回を予定している。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日々の新聞をよく読み、現代社会に対する感性を磨くこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代の国際情勢【昼】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科, 板谷 俊生 / 中国学科
 総田 芳憲 / Kaseda Yoshinori / 国際関係学科, 篠崎 香織 / 国際関係学科
 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科, 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科
 鄧 紅 / DENG HONG / 比較文化学科, 横山 宏章 / Yokoyama Hiroaki / 社会システム研究科 博士後期課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業の概要 /Course Description

東アジア現代の国際情勢を政治・経済・思想などを中心に考察する。近年、国際関係分野において注目されている諸理論・現象を紹介しながら講義を進める。

教科書 /Textbooks

各担当教員が適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各担当教員が適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

この授業は複数の教員が各自の専門と関心からアジアと国際関係を論じるオムニバス授業である。授業テーマと担当者については初回授業で紹介するので、必ず出席すること。

※授業では出席をとることがある。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 下野寿子「グローバル化の中の中国」
- 第3回 " "
- 第4回 尹明憲「北東アジアの経済事情」
- 第5回 " "
- 第6回 鄧紅「日中関係の過去、現在と未来」
- 第7回 " "
- 第8回 総田芳憲「日本の安全保障」
- 第9回 " "
- 第10回 山本直「アジアとヨーロッパ」
- 第11回 " "
- 第12回 板谷俊生 「中国のノーベル文学賞作家」
- 第13回 横山宏章「東アジアの安全保障」
- 第14回 篠崎香織 「東南アジア：『周縁』で形成される文明の新たなかたち」
- 第15回 " "

※都合により、講義の順番は変わることがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートで評価する(100%)。
 レポートの本数・形式など詳細については初回のオリエンテーションで指示する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

適宜参考文献などを紹介するので自主的に読むこと。
 平素から新聞や関連する本を読んで、授業内容への理解を深める努力をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際紛争と国連【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

国際紛争に対し国連がどのような対応を取ってきているのかについて、法的・制度的枠組みや実際の活動の紹介・分析を通じ、学習することで、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題についての認識を深めてもらうことを目指します。

まずは国際紛争とは何か、時間経過軸による紛争の分類 (Phase化)の議論を紹介し、紛争の各段階における国連の対応の必要性を認識してもらいます。次に、その分析軸を基に、総論として、国連における国際の平和と安全のための活動の基本的枠組みと、そこでの加盟国が果たすべき役割を認識してもらった上で、各論として、①平和的解決の手法を駆使し平和を創出する段階、②停戦合意後の暫定的な平和を維持する段階、③政治的意思の欠如から平和を強制せざるを得ない段階、④紛争後の平和を持続・定着させる段階についてそれぞれ取り上げ、Case Studyとしての事例の紹介も交えながら、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題について、学んでもらいます。

教科書 /Textbooks

テキストは設定しません。
講義の理解に必要な参考資料を、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書 財団法人日本国際連合協会『わかりやすい国連の活動と世界(改訂版)』(三修社・2007)○
その他の参考文献は、適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 国連を知る【国連の生立ち】【国連の目的】【国連の組織構造】
- 第3回 国際紛争を見る分析軸【DisputeとConflict】【紛争のPhase】
- 第4回 国連における紛争処理のメカニズム【国連憲章上の枠組み】
- 第5回 国連による国際の平和と安全のための活動と加盟国【加盟国の地位の二重性】
- 第6回 国連による平和の創出【和平合意の形成】【勧告】【事務総長による周旋】
- 第7回 国連による平和の維持【国連平和維持活動(PKO)】
- 第8回 国連による平和の強制【平和に対する脅威等の認定】【強制措置】
- 第9回 Case Study①: 湾岸戦争と国連【多国籍軍】
- 第10回 Case Study②: ソマリア問題と国連【平和執行型PKO】
- 第11回 Case Study③: リビア問題と国連【保護する責任】
- 第12回 国連による持続的平和の定着【和解】【国家再建】【平和構築】
- 第13回 Case Study④: アフガニスタン問題と国連【平和構築】
- 第14回 Case Study⑤: PKOと日本の国際平和協力【PKO協力法】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題等への対応および学期末試験で評価します。
課題等への対応...30% 学期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、予習を前提とした講義を展開します。
指示された課題に誠実に取り組んでから、授業に臨むようにしてください。
詳細は、学習支援フォルダーで確認してください。

履修上の注意 /Remarks

成績評価において、授業を通じ提出を求められる課題への対応の比率が高く設定されています。
そのため単位取得のためには、提出を求められた課題に対し、誠実に取り組むことが必要となりますので、受講の決定の際には、この点に注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

3つの願いがあります。
国際問題に関心を持ってほしい。国連の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際問題は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

キーワード /Keywords

【国際紛争】 【国連】 【平和創出】 【平和維持】 【平和強制】 【平和構築】

民族・エスニシティ問題【昼】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科, 篠崎 香織 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

冷戦終了後、世界各地で民族紛争が激化している。また、移民をめぐる動きやエスニシティ、人種に関する議論も活発化している。これらは、新しい政治現象であると思われがちであるが、決してそうではない。この授業では、エスニシティ問題に関する史的・総合的な理解を目指すとともに、多文化主義に基づく社会の再編成がどのような経緯で進み、いかなる課題を負っているかを幅広い事例を取り上げて検討する。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ヨーロッパにおけるエスニシティと社会
- 2回 イギリスにおけるエスニシティ【連合王国】【ロンドン同時爆破事件】
- 3回 イギリスにおける文化摩擦【オルダム暴動】【ブリクストン暴動】
- 4回 イギリスにおける多文化主義の試み【スカーマン報告】【イスラム嫌い】
- 5回 フランスにおけるエスニシティ【都市郊外暴動】【サルコジ】
- 6回 フランスにおける文化摩擦【スカーフ問題】【ブルカ禁止法】
- 7回 フランスにおける同化主義と多文化主義【ライシテ】【共和国憲法】
- 8回 東南アジアと「エスニシティ論」
- 9回 「本物・本質」探し(1)ベトナムにおける民族の生成
- 10回 「本物・本質」探し(2)「マレー人」概念をめぐる包摂・排除
- 11回 「独立か否か」(1)インドネシア・アチエの事例から
- 12回 「独立か否か」(2)フィリピン・ミンダナオの事例から
- 13回 「ニセモノ」のネイション(1)アンダーソンの「想像の共同体」
- 14回 「ニセモノ」のネイション(2)マレーシアの「民族の政治」
- 15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

開発と統治【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

グローバル化が刻々と進行している中、現在、持続可能な社会の構築が求められています。なかにはその目標に向かって進んでいる国や地域がある一方で、紛争や対立を繰り返している国や地域もあります。本講義では各国や地域を熟知・精通した教員が、各自が考える「ガバナンス(統治)」の意味を世界各地の国(ミャンマー、バングラデシュ、韓国、米国と日本が対象国)や地域社会の具体的な実例を用いて説明します。そして、最後に受講生にとって「ガバナンス」とは何なのかについてグループワークを通じて回答してもらいます。

以上の概要を通して、ガバナンス概念の知識を吸収すると同時に理解し、地域においては自らもガバナンスの一翼を担えるような能力を付けてもらいたいと考えています。

教科書 /Textbooks

その都度配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『○○を知るための○章』シリーズ(明石書店)、特にミャンマー、バングラデシュ、韓国を参照のこと。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「開発と統治」をはじめるとあって 担当：三宅
- 第2回 民主化問題を考える視座(1) 【民主化問題】 担当：伊野
- 第3回 民主化問題を考える視座(2) 担当：伊野
- 第4回 理論と現実-ミャンマーの民主化をめぐる 【ミャンマー】 担当：伊野
- 第5回 もっと知りたいアジア-ソーシャルビジネスとユニクロ 【ソーシャルビジネス】
担当：チョウドリ・三宅
- 第6回 お祭り騒ぎ・内戦模様の今年の総選挙を通して見たバングラデシュの政治活動
【バングラデシュ】 担当：チョウドリ・三宅
- 第7回 途上国と一村一品運動 【一村一品運動】 担当：チョウドリ・三宅
- 第8回 NGOs活動とし叟社会のガバナンスの変化 【BRAC】 担当：チョウドリ・三宅
- 第9回 韓国の民主化とガバナンスの形成過程 【韓国】 担当：申
- 第10回 アメリカにおけるガバナンスと環境 【米国】 担当：申
- 第11回 エネルギー問題にみるガバナンス形成 【エネルギー問題】 担当：申
- 第12回 地域社会から見たガバナンス 【地域社会】 担当：三宅
- 第13回 日本の子ども会を取り巻く環境 【子ども会】 担当：三宅
- 第14回 ガバナンスについてのグループ・ワーク 【グループワーク】 担当：三宅
- 第15回 まとめ 担当：三宅

成績評価の方法 /Assessment Method

参加態度...30% 小課題の提出...20% 試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから世界の動きに注目し、新聞やインターネットなどで情報をキャッチしておくこと。また、時々、小課題を出すので、必要に応じて提出すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

世界と私たちが住む地域は恒常的に結びついています。その結びつきを最終的には理解できるようにします。

キーワード /Keywords

ガバナンス ミャンマー 韓国 バングラデシュ 米国 子供会 グループワーク

グローバル化する経済【昼】

担当者名
/Instructor

前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科, 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
魏 芳 / FANG WEI / 経済学科, 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程, 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I /
マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
					○	○	○	○	○	○	

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化した経済の枠組み、グローバル化によって世界と各国が受けた影響、グローバル化の問題点などを包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

木暮太一 (2010) 『経済が世界—シンプルにつかめる本』 明日香出版社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|---------------------------|-------------------|
| 1回 | シラバス詳細版配布、イントロダクション、概説 | 【グローバル化】 |
| 2回 | 自由貿易 | 【比較優位】 【貿易保護】 |
| 3回 | 自由貿易 | 【WTO】 【FTA】 【TPP】 |
| 4回 | 企業の海外進出と立地 | 【直接投資】 |
| 5回 | 企業の海外進出と立地 | 【人件費】 【為替レート】 |
| 6回 | 海外展開に関わる所有戦略 | 【合併】 【M&A】 |
| 7回 | 経営現地化の視点 | 【人事現地化】 |
| 8回 | 地場グローバル企業のケースI | 【SCM】 【OEM】 |
| 9回 | 地場グローバル企業のケースII | 【現地市場志向】 |
| 10回 | グローバル化と途上国の成長・発展 | 【開発経済】 【労働移動】 |
| 11回 | グローバル化と先進国の経済 | 【格差】 【ジニ係数】 |
| 12回 | グローバル化と金融危機 | 【サブプライムローン危機】 |
| 13回 | グローバル化と金融危機 | 【欧州危機】 【リーマンショック】 |
| 14回 | 産業・企業のグローバル展開 (ケーススタディ) | |
| 15回 | まとめと総復習 | |

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(ミニテストやレポートなど): およそ20%、学期末試験: およそ80%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経済関連のニュースや報道を視聴する習慣をつけましょう。授業ではプリントを多用します。学習支援フォルダにアップするので、予習・復習してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

テロリズム論 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

911以降の国際社会を考える上で、もはやテロリズム問題を避けて通ることはできない状況ですが、テロは当然、911以前から歴然と脅威の対象であり続けました。特にわが国は、日本赤軍やオウム真理教など、これまでのテロの「進化」に「貢献」してきたテロの先進国でもあるので、もっとテロリズム全般の知識があってもよいのかなと考えます。この授業は、テロリズムの体系的な理解を得ることを目的とします。

なお、この科目では、テロリズムに関する総合的な知識の獲得、理解、この分野に関する課題発見・分析能力の獲得により、および生涯にわたりこの問題と向き合っていく基盤を提供します。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～4回 テロリズムとは何か。
テロの定義の難しさ、佐賀散弾銃乱射事件や秋葉原連続殺傷事件はテロか、911の特異性、テロの定義、テロの特徴、テロのグレーゾーン
- 5回 テロの歴史
テロの起源、19世紀のテロ、アナキスト、国粹主義、ナショナリズム
- 6回～8回 現代テロの登場
国際化(1968年エルアル機ハイジャック)、反米化(TWA機ハイジャック)、無差別化・自爆テロ(1972年ロッド空港事件)、劇場型テロ(ミュンヘンオリンピック事件)
- 9回 反近代・脱近代のテロ
オクラホマシティー連邦ビル爆破テロ、ユナボマー、環境テロなど
- 10回～11回 無差別大量殺戮テロ
オウム真理教地下鉄サリン事件など
- 12回～14回 911米国同時多発テロ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会と日本【昼】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

近現代の国際社会、文化、政治、思想など諸分野の流れをポストコロニアリズムの議論を通じて捉えつつ、今なお継続する植民地主義とわれわれを支配している近代主義を批判的に省察する。

教科書 /Textbooks

姜尚中編『ポストコロニアリズム』作品社、2003、1800円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○本橋哲也『ポストコロニアリズム』岩波新書、2005

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 毎回、レジユメを配り、その内容について説明する。
- 1回 テクストの紹介、授業のガイダンス
 - 2回 第IV部の総論、姜尚中論文 【今なぜ、ポストコロニアリズムなのか】
 - 3回 前回の補足
 - 4回 第II部の総論、本橋哲也論文【私たちに与るポストコロニアリズム】
 - 5回 第II部の近代、松葉祥一論文
 - 6回 第II部の性・文化、竹村・毛利論文
 - 7回 第II部の日本、小森陽一論文
 - 8回 第II部の第三世界、小倉英敬論文
 - 9回 第II部の国家、嚮田竜蔵論文
 - 10回 第IV部の1、朴一・村井寛志論文【問題提起】
 - 11回 第IV部の2、趙慶喜論文
 - 12回 第IV部の3、高橋哲哉論文
 - 13回 第IV部の4、野村・鄭暎恵論文
 - 14回 第II部とIV部の総括
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

2~3回のレポート70%、授業への熱意30%.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習と復習をしてくること。教科書に登場する概念、人物について自分で調べて見ること。

履修上の注意 /Remarks

思想、哲学に関心を寄せること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

近代の呪縛、近代主義、オリエンタリズム、ナショナリズム、植民地主義、二元思考、三元思考、公共性

歴史の読み方I【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

ここでは明治時代をはじめとする、歴史上の人物や実際の史料を取り上げながら、今日の世界の中で日本の歴史がどう捉えられているのか、また私たち自身が歴史をどう見ているのかを考えることを目的とした歴史の見方を学びます。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

野口実『武家の棟梁の条件』(中公新書)
佐伯真一『戦場の精神史』(NHKブックス)
勝田政治『廃藩置県～「明治国家」が生まれた日～』(講談社)
イ・ヨンスク『国語という思想～近代日本の言語認識』(岩波書店)
網野善彦『日本社会の歴史(上)～(下)』(岩波新書)
門脇禎二『吉備の古代史』(NHKブックス)
鳥越信『桃太郎の運命』(ミネルヴァ書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 ガイダンス①授業の進め方
 - 2回 『ラスト・サムライ』と武士道
 - 3回 武士道の成立
 - 4回 『平家物語』を読む①二つの平家物語
 - 5回 『平家物語』を読む②騎馬戦と【言葉戦】
 - 6回 県名を読む①【国郡制】と【幕藩制】
 - 7回 県名を読む②県名と県庁所在地
 - 8回 県名を読む③戊辰戦争
 - 9回 「国語」とは何か?
 - 10回 『国語元年』(ビデオ)を読む(ビデオ)①方言とは何か?
 - 11回 『国語元年』(ビデオ)②標準語とは何か?
 - 12回 網野善彦と日本史の枠組み
 - 13回 『もののけ姫』を読む-網野史学と【縄文文化】
 - 14回 「桃太郎」と吉備王国
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

受講生100名以上の場合には筆記試験100%、受講生100名以下の場合には授業レポート50%筆記試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

シラバス・レジュメ・参考文献をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史の読み方II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業の概要 /Course Description

司馬遼太郎『坂の上の雲』で、「戦術的天才」として描き出された見玉源太郎（日露戦争時の満州軍総参謀長、台湾総督）の実像に実証的に迫り、その「立憲主義的軍人」としての生涯をたどることを通じて、歴史小説と政治外交史研究との関係について思いをめぐらすきっかけを作りたい。要するに、「歴史認識とはいったい何か」という問題を考察していく。

教科書 /Textbooks

小林道彦『見玉源太郎 - そこから旅順港は見えるか』（ミネルヴァ書房）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『桂太郎 - 予が生命は政治である』（ミネルヴァ書房）。その他、講義中に適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 政治的テロルの洗礼 - 徳山七土殉難事件 - 佐賀の乱 -
- 第3回 危機管理者 - 神風連の乱・西南戦争 -
- 第4回 雌伏の日々 - 佐倉にて -
- 第5回 洋行と近代陸軍の建設
- 第6回 陸軍次官 - 英米系知識人との出会い -
- 第7回 台湾経営 - 後藤新平を使いこなす -
- 第8回 政治への関わり - 第一次桂内閣
- 第9回 陸軍改革の模索 - 大山巖・山県有朋との対立 -
- 第10回 日露戦争 - 統帥権問題の噴出 -
- 第11回 旅順攻防戦 - 統帥権問題と明治国家の危機 -
- 第12回 見玉は「天才的戦術家」だったか - 危機における人間像 -
- 第13回 立憲主義的軍人
- 第14回 歴史小説と政治史研究の間
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと（必須）。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

見玉源太郎 陸軍 統帥権 帷幄上奏 日露戦争 西南戦争 伊藤博文 山県有朋

そのとき世界は【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター, 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科
岩本 真理子 / 比較文化学科, 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科
伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

世界史を日本史・東洋史・西洋史に分けてとらえるのではなく、同時代に世界ではいったい何が起こっていたのか、そしてそれはどのように相互に関連していたのか、という観点から世界の動きをよりいきいきととらえて、新しい「世界史」を学生諸君に提示したいと思います。今年度は「1980年代の世界」というテーマを設定して、その時の世界の有様を日本、東南アジア、ドイツ、中国、アメリカ（順序不同）、といった地域での動きを中心にオムニバス方式で講義していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示いたします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示いたします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN (小林)
 - 第2・3・4回 日本 (小林) 【バブル経済】、【昭和の終焉】
 - 第5・6・7回 東南アジア (伊野) 【ポルポト政権】
 - 第8・9回 ドイツ (岩本) 【ベルリンの壁崩壊】 【ドイツ統一】
 - 第10・11回 アメリカ (寺田) 【レーガン政権】
 - 第12・13回 中国 (下野) 【天安門事件】
 - 第14・15回 ポーランド (スピルマン) 【「連帯」運動】 【ソ連崩壊】
- 以上、順序不同。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20%小テスト...40%レポート...40%
上の数値は一応の目安です。実際には、1、各教員担当講義の2コマ目の最後に、出席者に「小テスト」を課します。一回でも未受験があったら、単位は認定されません。2、レポート提出...6人の教員の中から任意の講義を2つ選び、それについてのレポートを提出してもらいます（課題は別途指示。1,200字×2本）。コピーは不正行為と見なします。3、適宜出欠を取ります。4、以上の総合評価で成績評価とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

※講義の順番や担当者（地域）は変更になることもあります。「ただ聴くだけ」という受講態度は駄目です。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

戦後の日本経済【昼】

担当者名 迎 由理男 / mukai yurio / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

第2次世界大戦以降の日本経済の発展過程を講義します。第二次世界大戦の敗戦から日本経済がどのように立ち直り、いかに経済成長を遂げてきたのか、日本的経済システムというのはどのようなものなのか。これらの問題をできるだけ平易に説明してゆきます。

教科書 /Textbooks

毎回用意するレジユメにしたがって授業を進めます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 野口悠紀雄『戦後日本経済史』新潮選書、2008年
- 三橋規宏・内田茂男・池田吉紀『ゼミナール日本経済入門』日本経済新聞、2011年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の目標・戦前と戦後
- 2回 戦後改革
- 3回 経済復興
- 4回 高度成長とそのメカニズム(1)投資と技術革新
- 5回 高度成長とそのメカニズム(2) 対外経済・政府の役割
- 6回 高度成長期の企業システム(1) 企業統治・労使関係
- 7回 高度成長期の企業システム(2) 企業間関係・企業の資金調達
- 8回 高度成長のもたらしたもの
- 9回 高度成長の終焉
- 10回 日本企業の国際競争力
- 11回 バブル経済
- 12回 長期不況と不良債権
- 13回 アジアの成長と日本経済
- 14回 金融危機と日本
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小テスト・レポート25%、期末テスト70%、平常の学習状況5%で評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学習事項の復習をきちんとしておくこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

もの与人間の歴史【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

特定の「モノ」を取り上げ、「モノ」の製造 / 生産、流通、そして使用など、モノ与人間の関わり方の現場に焦点を絞り、その「モノ」と関わることで、私たちの生活そして社会のあり方などがどのように変容してきたか、「モノ」をめぐる歴史を検討する。今年度は自動車を取りあげる。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献リストは、ガイダンス時に配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 自動車がつくった社会【モータリゼーション】
- 第3回 カと近代【蒸気機関】、【内燃機関】、【原子力】
- 第4回 自動車の時代の終わり?【ICT】、【高付加価値生産】
- 第5回 自動車をめぐる国民文化【大衆社会】、【トクヴィル】、【ウェーバー】
- 第6回 自動車発明の前提1【職人文化】
- 第7回 自動車発明の前提2【互換性の思想】
- 第8回 自動車と20世紀文明【大衆社会、大量生産】
- 第9回 フォーディズムとは何か【ヘンリー・フォード】
- 第10回 自動車と道路【道路】
- 第11回 自動車と国家対立【貿易摩擦】
- 第12回 生産現場から見た自動車の歴史【自動車の構造】【生産工程】
- 第13回 自動車の開発1【電動化】【知能化】
- 第14回 自動車の開発2【電動化】【知能化】
- 第15回 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 70% レポート30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

近代化をめぐる政治、経済、文化の議論を展開しますので、政治学や経済学、カルチュラル・スタディとあわせて勉強すると、よく授業内容が分かります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自動車から開けていく様々な事柄を紹介しますので、多方面のことに興味を持って勉強して下さい。

キーワード /Keywords

大量生産システム、民主主義、比較文明論

人物と時代の歴史【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 勇治 / 国際教育交流センター, 乗口 眞一郎 / 北方キャンパス 非常勤講師
新村 昭雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

歴史の面白さを、特定の代表的な人物を中心として講義して、学生に知らせることを目的とする。
なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。
三人の教員が、イギリス・アメリカ・日本の代表的な人物について、人物と時代について語る。まず、イギリスについては1980年代の自由競争主義、民営化、ビッグバンなどグローバル化の基礎を築いたマーガレット・サッチャーについて述べる。
次にアメリカを代表する人物の話に移る。果たして、オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか。オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史について語る。そして、歴代大統領とその素顔（リンカーン、ケネディー、クリントン大統領）について。
最後は、「剣と禅」に生きた山岡鉄舟と幕末・明治維新について語る。今、武士道（Bushido）が見直されている。核兵器と原子力を抑止するのは結局のところ人間の心しかない。禅と武道を極めた鉄舟もその心を無刀流においた。江戸時代、上杉鷹山はその儒教的経営で壊滅的な上杉家の財政を見事に立て直した。その技を見てみよう。次に、徳川幕府が始まってまだその礎が固まっていないとき、3代将軍家光の弟・保科正之は江戸幕府の礎を築いた。長い平安の時代が終わり、貴族に代わって武士が台頭したとき、貴族のための仏教に代わって、庶民のために仏教が生まれた。それを代表するのが浄土真宗の親鸞であった。日本古来の縄文信仰（アイヌや南方諸島に残る）や弥生信仰に代わって、聖徳太子（厩戸皇子）は仏教を大和（やまと）の国の根本におかれた。飛鳥・奈良時代、なぜ、インド・中国から渡来した仏教が日本で繁栄したのか。これらを明らかにする。

教科書 /Textbooks

教科書 /Textbooks 資料を配付します。（新村）
口述講義（山崎）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 新渡戸稲造『武士道』（BUSHIDO）
- 藤沢周平『漆の実のみのる国』（文春文庫）
- 中村彰彦『保科正之』（中公新書）
- 山崎勇治『石炭で栄え滅んだ大英帝国一産業革命からサッチャー改革まで』（ミネルヴァ書房、2008年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- イギリス、アメリカ、日本の歴史の中からテーマを厳選し、講義をする
- 第1回 イギリスとはどんな国かー日英交流史ー
 - 第2回 サッチャー登場の歴史的背景ーイギリス病に悩むイギリス経済ー
 - 第3回 サッチャーと炭鉱ストライキ
 - 第4回 サッチャーと民営化政策
 - 第5回 サッチャーとNHS改革
 - 第6回 サッチャーとビッグバン
 - 第7回 サッチャーの大学改革と北九州市立大のカーティフ大学誘致合戦
 - 第8回 オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか
 - 第9回 オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史
 - 第10回 歴代大統領とその素顔（リンカーン、ケネディー、クリントン大統領）
 - 第11回 「ラスト・サムライ」山岡鉄舟と【幕末・明治維新】
 - 第12回 【江戸時代】、ギリシャと同様に壊滅的だった藩の財政を立て直した上杉鷹山と儒教的経営
 - 第13回 【3・11東日本大震災】同様の危機を乗り越えたり【江戸幕府】の礎を築いた三代将軍家光の弟・保科正之
 - 第14回 乱世の世に現れた宗教家・親鸞と【平安・鎌倉時代】
 - 第15回 聖徳太子と【飛鳥・奈良時代】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート（70%）と平常の学習状況（30%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

* 受講する際に、各回で取り上げる人物やテーマについて図書館等で調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

人物と時代の歴史【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養特講II (ホスピタリティ論) 【昼】

担当者名 /Instructor 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科, 西澤 律子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
								○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

【授業の概要】

ホスピタリティという言葉は、昨今、日常用語として定着してきたが、実際にはサービスやおもてなしなどの言葉と同義に使われており、正しい理解を得ていないように思われる。現時点においては、ホスピタリティという言葉が先行して、その意味内容と思想の重要性が説明されていない。人と人との関係をさらに良いものへと変えていこうという考え方ないし思想は、営利団体や非営利団体を問わず、重要度を増しており、理論的側面においても実践面においても、十分に認識される必要がある。地方自治体と住民との関係、企業と顧客の関係といった「関係性」を深く考察し、良好な関係作りを模索することは、今後の社会の在り方において重要な示唆を与えてくれる。

【授業のねらい】

1. ホスピタリティという言葉が、いかに、サービスや、おもてなしなどの言葉と異なるか、歴史や言葉の起源を辿ることにより固有の意味内容を明らかにする。
2. 現時点において、ホスピタリティについてどのような議論や学説があるか、問題点を整理する。
3. 今後の社会生活において「ホスピタリティ」をどのように活かしていくべきか考察する。

【到達目標】

1. ホスピタリティに関する総合的知識を深める。
2. ホスピタリティの視点を持って広く社会生活や企業活動の問題を発見し、より深く分析し解決していく能力を身に付ける。
3. ホスピタリティの理論を学ぶことにより、以後の社会生活の中で実践していく。

教科書 /Textbooks

教科書はなし。
講義の際、レジュメを配布するので、各自保管すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「ホスピタリティ・マネジメント原論」 服部勝人著 (丸善株式会社)
 「ホスピタリティ原論」 山本哲士著 (文化科学高等研究院出版局)
 「真実の瞬間」 ヤン・カールソン著 (ダイヤモンド社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 概要 【ホスピタリティの領域】 【授業の進め方】 【学習目標】 【評価方法】
- 2回 ホスピタリティとは何か 【ホスピタリティの歴史と文化】 【西洋のホスピタリティ】 【おもてなし】
- 3回 ホスピタリティの基本 【ホスピタリティとサービスの語源と概念比較】 【ホスピタリティの思考】
- 4回 ホスピタリティと心理学【EQ】 【交流分析】
- 5回 ホスピタリティとマナー 【プロ意識】 【身だしなみ】 【人間関係】 【電話やメール】
- 6回 ホスピタリティとコミュニケーション 【聴き方の基本】 【効果的な話し方】 【言語と非言語】
- 7回 ホスピタリティとビジネス【顧客心理】 【クレーム対応】 【CS他】
- 8回 中間まとめ
- 9回 ホスピタリティ産業の現状 その1 【近年の航空事業の動向】
- 10回 ホスピタリティ産業の現状 その2 【接客現場】 【国際線業務】 【社員教育】
- 11回 ホスピタリティ産業の現状 その3 【宿泊産業におけるホスピタリティ】
- 12回 ホスピタリティと企業 その1 【職場環境】 【内部顧客】 【メンタルヘルス】
- 13回 ホスピタリティと企業 その2 【企業の社会的責任】 【企業の商品開発と社会貢献】
- 14回 ホスピタリティの意義と可能性 【知識とホスピタリティ】 【暗黙知と形式知】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験の成績 70%
 日頃の取り組み 10%
 授業中に行うミニテストの提出 20%

教養特講II (ホスピタリティ論) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ホスピタリティの講座は、宿泊産業、旅行業などのホスピタリティ産業に関心がある学生はもちろんのこと、それ以外の業種を考えている学生にとっても、直接的に関わる内容が豊富に含まれています。ホスピタリティの発揮が求められる場合は、学生生活、就職活動、企業での活躍の場、社会生活等無限に広がっていることを知って下さい。講義全体を通して、ホスピタリティの感覚を自然に自分の中に取り込み実践できるように導きます。

キーワード /Keywords

ホスピタリティ サービス おもてなし EQ 交流分析 暗黙知

日本史【昼】

担当者名 /Instructor 内山 一幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

境界・領域・国家といった観点から、日本の歴史上の諸問題について考えていく。例えば現代において「国境」というものは容易に越えがたいものであるが、中世の日本では「境界」は容易に越えうるものであった。それはなぜか、そのことが意味するものは何か、といったことを考えてみることで、古代から現代に至る各時代の「日本」や「日本人」について理解を深めてもらいたい。

教科書 /Textbooks

使用しない。毎回資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 網野善彦『「日本」とは何か』(講談社、2000年 / 講談社学術文庫、2008年)
- 大石直正ほか編『周縁から見た中世日本』(講談社、2001年 / 講談社学術文庫、2009年)
- 小熊英二『「日本人」の境界』(新曜社、1998年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 日本史を学ぶこととは
- 第2回 「鎖国」と「開国」
- 第3回 蝦夷地とアイヌ
- 第4回 近代化とアイヌ社会
- 第5回 琉球の形成と環シナ海世界
- 第6回 琉球から沖縄へ
- 第7回 対馬からみた中世・近世初期の日朝関係
- 第8回 近世における日朝関係と対馬
- 第9回 台湾をめぐる同化と異化
- 第10回 韓国併合と「日本人」
- 第11回 満洲国と「民族協和」
- 第12回 南洋群島と委任統治
- 第13回 「大日本帝国」の解体
- 第14回 「外国」になった沖縄
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

西洋史【昼】

担当者名 /Instructor 曠谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。地中海や大西洋、インド洋、東・南シナ海といった海域世界の発展と相互の接続を見ることによって、ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、そして近代世界の形成を理解します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ 【バックス・モンゴリカ】
 - 2回 ヨーロッパ進出以前のアジア海域世界 【港市国家】
 - 3回 イベリア諸国の形成 【レコンキスタ】
 - 4回 「中世の危機」とポルトガルの海外進出【エンリケ航海王子】
 - 5回 新世界到達と「世界分割」【トルデシリャス条約】
 - 6回 ポルトガル海洋帝国の形成① 【香辛料】
 - 7回 ポルトガル海洋帝国の形成② 【点と線の支配】
 - 8回 スペインによる植民地帝国の形成① 【ポトシ】
 - 9回 スペインによる植民地帝国の形成② 【モナルキア・イスパニカ】
 - 10回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編①【東インド会社】
 - 11回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編②【砂糖革命】
 - 12回 環大西洋世界の展開① 【第二次英仏百年戦争】
 - 13回 環大西洋世界の展開② 【環大西洋革命】
 - 14回 ヨーロッパ勢力とアジアの海 【近代世界システム】
 - 15回 まとめ 【「コロンブスの交換」】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)。

履修上の注意 /Remarks

毎回講義プリントを配布し、それに基づいて講義します。講義後も配布プリントとノートを見直し、整理・復習を心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東洋史【昼】

担当者名 /Instructor 藤野 月子 / FUJINO TSUKIKO / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講義では、東アジアを中心としてその歴史的な変容を考察する。目標として、中国・朝鮮・日本をはじめとする東アジアの特異性について明らかにし、更には、それを通じて東アジアの今後の在り方を自らで模索出来る能力を養うことを目指す。
一般的に中国の歴史といえば、単に中国国内のみの問題と捉える傾向があるかもしれない。しかし、古来から中国は近隣の諸民族を吸収・同化しつつ、変容を繰り返しているのである。また、近隣諸民族もその影響を受けつつ、オリジナルな国家形成を行っているのである。つまり、東アジアにおいて両者を巡るこのような関わりは相互に密接なものを有しているといえよう。
よって、ここでは具体的に、中国における古代文明の誕生から隋唐による世界帝国の形成・衰退までを、中国のみに止まることなく、東アジアという包括的な視座に置き、各時代の政治・経済・外交・思想・文化等の多角的な方面から理解することを掲げる。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。講義では毎回プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

堀敏一『中国通史 - 問題史としてみる - 』(講談社学術文庫 2000年 1260円)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに - 講義のガイダンス・東洋史と中国 -
- 第2回 秦の始皇帝による統一 - 古代文明の誕生から中華思想の形成まで -
- 第3回 秦漢と匈奴 - 中国と北方遊牧騎馬民族との関係 -
- 第4回 中国の外交政策 - 羈縻・冊封・互市・和蕃公主の降嫁 -
- 第5回 前漢の政治と思想 - 儒教との関係 -
- 第6回 後漢の政治と思想 - 外戚と宦官 -
- 第7回 三国志の時代 - 三国の領土拡大と卑弥呼の朝貢 -
- 第8回 西晋による三国統一 - 西晋の内乱と近隣諸民族の動向 -
- 第9回 東晋南朝の社会 - 貴族とは -
- 第10回 五胡十六国北朝の時代 - 北中国における民族の融合 -
- 第11回 南北朝と朝鮮・日本 - 朝鮮・日本の中国外交 -
- 第12回 隋唐による統一 - 世界帝国の成立と政治制度 -
- 第13回 唐と朝鮮・日本 - 唐の朝鮮政策と白村江の戦い -
- 第14回 唐代の外交 - 唐の近隣支配体制と商業活動 -
- 第15回 安史の乱以降における唐の滅亡 - 世界帝国の衰退と東アジアへの影響 -

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習態度...20%・定期試験...80%
双方向の講義が目的であるため、毎回、出席感想カードを配布・回収する。
特に、講師及び他の学生の集中力を削ぐ行為(私語・音楽を聴く等)は授業妨害とみなし、これを強く禁止すると共に、違反する者には厳しい措置を取る。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習としては、参考書として紹介しているものをあらかじめ読んでおく。
復習としては、講義中に配布するプリントを見直しておく。

履修上の注意 /Remarks

出来れば高校において世界史B及び日本史Bを履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

先入観に振り回されず、
今後の世界に大きな影響を与えることが確実な中国の歴史について学ぶことは必要であると同時に大変有益です。

キーワード /Keywords

東アジア 中国 朝鮮 日本

社会学 【昼】

担当者名 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方と概念を身につけ、現代社会の諸問題を社会的に解釈していく力を身につけることにある。授業では、社会学の基本的な考え方についてデュルケムやウェーバーらの古典的著作を例にとりながら紹介していく。また、現代社会における論争的なトピックを例に社会的分析を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 社会的な考え方とは
- 第3回 社会的な問題の発見 - 「常識」を疑う
- 第4回 社会と個人をつなぐ1 - デュルケム1：集合意識と行為
- 第5回 社会と個人をつなぐ2 - デュルケム2：『自殺論』
- 第6回 社会と個人をつなぐ3 - ウェーバー1：理解社会学
- 第7回 社会と個人をつなぐ4 - ウェーバー2：『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』
- 第8回 現代社会の解釈1 - 社会的格差と社会的排除1：どうなっているのか
- 第9回 現代社会の解釈2 - 社会的格差と社会的排除2：なぜそうなるのか
- 第10回 現代社会の解釈3 - 社会的格差と社会的排除3：どうすればよいのか
- 第11回 現代社会の解釈4 - グローバル化とエスニシティ1：どうなっているのか
- 第12回 現代社会の解釈5 - グローバル化とエスニシティ2：なぜそうなるのか
- 第13回 現代社会の解釈6 - グローバル化とエスニシティ3：どうすればよいのか
- 第14回 現代社会の解釈7 - ナショナリズムと排外主義
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 15% 期末試験... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたって配布プリント等をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人文地理学【昼】

担当者名 /Instructor 外戸保 大介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講義では、人文地理学の基礎的な理論や概念を概説する。人文地理学は、地域、環境、空間に関する多様な対象を扱う学問領域である。具体的な事例を通じて、人文地理学のキーコンセプトに対する理解を深めてもらいたい。

教科書 /Textbooks

竹中克行・大城直樹・梶田真・山村亜希 編(2009)『人文地理学』ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (1)イントロダクション
- (2)人口からみる地域とその結びつき (テキスト1章)
- (3)都市のなりたち (テキスト2章)
- (4)都市社会の分断を読み解く (テキスト3章)
- (5)グローバル化する農業と農村の再編 (テキスト4章)
- (6)集中する工場、分散する工場 (テキスト5章)
- (7)情報化時代の流通システムと小売業 (テキスト6章)
- (8)地理情報システムが開く新しい社会 (テキスト12章)
- (9)地理学と公共政策 (テキスト13章)
- (10)市民・住民運動を通じてとらえる環境問題 (テキスト14章)
- (11)身近な地域の地誌 (北九州：工業都市の盛衰)
- (12)身近な地域の地誌 (筑豊：産炭地と産業遺産)
- (13)身近な地域の地誌 (福岡：広域中心都市)
- (14)身近な地域の地誌 (下関：交通の変化と地域の変貌)
- (15)まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (80%)、日常の授業の取り組み (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、教科書の該当箇所を事前に読み、予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

土地地理学【昼】

担当者名 /Instructor 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

地理学は、地球表面に生起する自然、人文の緒現象を「地域的観点」から究明する科学です。そのため、地理学を研究する場合、必ず必要になるのが地図です。この科目では、地理学の言語ともいわれる地図に関して学ぶとともに、地図や空中写真を利用した実習も行い、地理学的知見を高めることを目的とします。

この授業の主な到達目標は以下の通りです。

地域の分析・検討に役立つ地理学の基礎的な知識を習得する。

地域の地理学的分析に必要な基礎的技術を習得する。

習得した知識や技術をもとに、将来の社会実践のなかで、自らのキャリアアップや社会への貢献ができる。

教科書 /Textbooks

教科書はありません。適宜、プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「地理的情報の分析手法」(菅野峰明・安仁屋政武・高阪宏行著 古今書院)
- 「日本列島地図の旅 付・地図の読み方入門」大沼一雄著 東洋選書)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地理学では何を学ぶか。【自然地理学】【人文地理学】
- 2回 地図の役割。【地図の能力】
- 3回 地図の歴史。
- 4回 地図には、どのような種類があるか。【一般図】【主題図】
- 5回 地図は、どのように作られるか。【地図投影】【図法】
- 6回 地図記号と景観。【図式】
- 7回 山の地形を地形図から描くI (講義)。【等高線】
- 8回 山の地形を地形図から描くII (実習)。【地形】
- 9回 地図を利用して地表を計測する。【地形計測】
- 10回 地形図を利用して景観を読みとるI(実習)。海岸砂丘の環境と土地利用を読む。
- 11回 地形図を利用して景観を読みとるII(実習)。歴史景観を読む。
- 12回 空中写真の利用。【リモートセンシング】
- 13回 空中写真を利用して高さを測定する(講義・実習)。
- 14回 衛星データを利用して地表の環境を調べる。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...40% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参考書や配布する資料などを読んでおくとより理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地誌学 【昼】

担当者名 /Instructor 外戸保 大介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

グローバル化と情報化が進行しつつある現代世界において、世界の諸地域を正確に認識することがますます重要となっている。本年度は、ヨーロッパ地域の地誌をテーマとして扱う。ヨーロッパ地域は、古くから世界の政治・経済・文化の中心地であり続けてきた。20世紀後半以降、アメリカや日本・中国をはじめとする東アジア地域の台頭に伴い、その立場には変化が見られているものの、現在でもなお世界に大きな影響力を有している地域の一つであるといえる。ヨーロッパの経済のみならず、政治・文化や自然環境をも含めた総合的な地誌の理解に努めてもらいたい。

教科書 /Textbooks

加賀美雅弘 編(2011)『世界地誌シリーズ3 EU』朝倉書店

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (1) イントロダクション
- (2) 世界の自然・人文環境とグローバルな関係性① - 地形・気候
- (3) 世界の自然・人文環境とグローバルな関係性② - 人種・民族、産業
- (4) 世界の自然・人文環境とグローバルな関係性③ - 人口、交通、国家群
- (5) 総論-統合に向かうヨーロッパの地域特性 (テキスト1章)
- (6) 自然環境と伝統的農業 (テキスト2章)
- (7) 工業地域の形成と発展 (テキスト3章)
- (8) 都市の形成と再生 (テキスト4章)
- (9) 観光地域と観光客流動 (テキスト5章)
- (10) 移民と社会問題 (テキスト6章)
- (11) 地域主義と民族集団 (テキスト7章)
- (12) 東ヨーロッパの農村の変化と特色 (テキスト8章)
- (13) EU市民の暮らし (テキスト9章)
- (14) 統合するヨーロッパと国境地域 (テキスト10章)
- (15) 世界のなかのEU (テキスト11章)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (80%)、日常の授業の取り組み (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、教科書の該当箇所を事前に読み、予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本国憲法 【昼】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

我々の国家・社会の基本法である「憲法」の意義・概要について学ぶことによって、一人の人間として、あるいは主権者たる市民として、思索・行動する上での何らかのてがかりにしていきたい。

教科書 /Textbooks

大隈義和、大江正昭編『憲法学へのいざない(第2版)』(青林書院・2011年)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 浦部法穂『憲法学教室(全訂第2版)』(日本評論社・2006年)
- 高橋和之他編『憲法判例百選I・II(第5版)』別冊ジュリスト186・187号(有斐閣・2007年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 憲法の意義
- 第2回 憲法の展開
- 第3回 人権総論
- 第4回 人権各論①(人権享有主体)
- 第5回 人権各論②(幸福追求権)
- 第6回 人権各論③(平等原則)
- 第7回 人権各論④(信教の自由)
- 第8回 人権各論⑤(表現の自由)
- 第9回 統治機構①(国民主権)
- 第10回 統治機構②(権力分立)
- 第11回 統治機構③(日本の政治制度)
- 第12回 平和主義①(憲法9条の意義)
- 第13回 平和主義②(戦後日本の安全保障)
- 第14回 平和主義③(憲法9条と裁判所)
- 第15回 日本憲法史

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に必要なし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

倫理学 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 満 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

社会倫理の必要性が叫ばれている現代、古代から現代に至る倫理思想の基礎を学ぶことで、グローバルな視野をもち、公正な倫理観を獲得した人材の育成に資する。社会と個人、国家と個人との関係を倫理的にとらえることに重点を置き、現代にふさわしい社会倫理を各人が確立することを意図している。

教科書 /Textbooks

各回でレジュメ、資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じ、そのつど紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション 倫理学とは何か。
- 第2回 古代ギリシャの倫理(1) ソクラテスの倫理思想 【善と徳】
- 第3回 古代ギリシャの倫理(2) プラトンの倫理思想 【国家と個人】
- 第4回 古代ギリシャの倫理(3) アリストテレスの倫理思想 【賢慮と公共性】
- 第5回 キリスト教の倫理(1) イエスとパウロの倫理思想 【愛と福音】
- 第6回 キリスト教の倫理(2) アウグスティヌスの倫理思想 【神の国と地上の千年王国】
- 第7回 キリスト教の倫理(3) ルターの倫理思想 【召命と信仰義認】
- 第8回 近代の倫理思想(1) ホッブズの倫理思想 【リヴァイアタンと市民】
- 第9回 近代の倫理思想(2) スピノザの倫理思想 【知的愛とマルティチユード】
- 第10回 近代の倫理思想(3) カントの倫理思想 【定言命法と人格主義】
- 第11回 近代の倫理思想(4) フィヒテの倫理思想 【自覚と相互承認】
- 第12回 近代の倫理思想(5) ヘーゲルの倫理思想 【国家と理性】
- 第13回 現代の倫理思想(1) ローレンスの倫理思想 【正義とリベラリズム】
- 第14回 現代の倫理思想(2) ハーバマスの倫理思想 【討議とコミュニケーション理性】
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

平常時の学習状況(リアクション・ペーパーを含む)40パーセント
定期試験60パーセント

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で配布した資料を読み、自分なりの整理をしておく。授業中に問題を課すこともあるので、積極的に参加すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業計画を見るとむずかしそうですが、わかりやすい講義を心がけますので、わかりにくい場合にはどんどん質問をして下さい。

キーワード /Keywords

エンドユーザコンピューティング 【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、情報社会を総合的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎として、変化し続ける情報技術と正しくつき合い適応できる能力を身につけることを目指します。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『エンドユーザのための情報基礎』(浅羽 修丈他著) FOM出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル、炎上、情報漏洩、著作権問題】
- 2回 情報を伝えるもの【光、音、匂い、味、触覚、電気】
- 3回 コンピュータはどうやって情報を取り扱うか【2進数、ビット・バイト、文字コード】
- 4回 コンピュータを構成するもの【CPU、メモリ、記憶メディア、キーボード、マウス、ディスプレイ】
- 5回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS、拡張子とアプリケーション】
- 6回 電話網とインターネットの違い【回線、パケット、LAN、IPアドレス】
- 7回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名、DNS、サーバ/クライアント】
- 8回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン、位置情報、GPS、GIS、プライバシー】
- 9回 ネットワーク上の悪意【ウイルス、スパイウェア、不正アクセス、詐欺、なりすまし】
- 10回 自分を守るための知識【暗号化、ファイアウォール、クッキー、セキュリティ更新】
- 11回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア、防犯カメラ、ライフログ】
- 12回 集合知の可能性とネットワークサービス【Wikipedia、フリーミアム、クラウド】
- 13回 著作権をめぐる攻防【著作権、オープンソース、クリエイティブコモンズ】
- 14回 大規模データがもたらすもの【検索エンジン、データベース、データマイニング】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 75%
日常の授業への取り組み ... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

キーワード /Keywords

情報社会、ネットワーク、セキュリティ

データ処理【昼】

担当者名 /Instructor 岩田 一男 / KAZUO IWATA / 情報総合センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 中 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要です。この授業では、みなさんがコンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習します。具体的には以下のよう項目を身につけることができます：

- タイピングの基礎を習得することができます。
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎を習得することができます。
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎を習得することができます。
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎を習得することができます。
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎を習得することができます。

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】【添付ファイル】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50% ,
積極的な授業参加 (タイピング , 電子メール送受信 , 情報倫理の理解等を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの基本的な操作 (キーボードで文字を入力する , マウス操作など) ができるようになっておく受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

授業の進度、情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」に記入した内容の順番が入れ替わることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

コンピュータの操作が基本になるので、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切です。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

データ処理【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次
/Year

単位
/Credits

2単位

学期
/Semester

2学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス 再履
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得すること、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要です。この授業では、みなさんがコンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習します。具体的には以下のよう項目を身につけることができます：

- タイピングの基礎を習得することができます。
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎を習得することができます。
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎を習得することができます。
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎を習得することができます。
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎を習得することができます。

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】【添付ファイル】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50% ,
積極的な授業参加 (タイピング , 電子メール送受信 , 情報倫理の理解等を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの基本的な操作 (キーボードで文字を入力する , マウス操作など) ができるようになっておくと受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

授業の進度、情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」に記入した内容の順番が入れ替わることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

コンピュータの操作が基本になるので、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切です。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

情報表現【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力をみがきます。具体的には、以下のような項目を身につけることができます：

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の吟味
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指します。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現(ガイダンス)
- 2回 データの収集(検索エンジン, 情報の信頼性)
- 3回 データの加工(表計算の復習, グラフ, チャート)
- 4回 データの表現(レイアウト, デザイン)
- 5回 論理的な思考法の基礎1(課題発見)
- 6回 論理的な思考法の基礎2(原因分析, 解決手段検討)
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90% , 積極的な授業参加 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなります。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してください。

履修上の注意 /Remarks

教室のパソコン台数に限りがありますので、受講者数調整を実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問してください。また、この授業ではグループによる協同学習を導入しています。グループのメンバーで互いに協力して学習課題を進めるよう心がけてください。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション, ロジカルシンキング, マルチメディア

情報表現【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力をみがきます。具体的には、以下のような項目を身につけることができます：

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の吟味
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指します。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現 (ガイダンス)
- 2回 データの収集 (検索エンジン, 情報の信頼性)
- 3回 データの加工 (表計算の復習, グラフ, チャート)
- 4回 データの表現 (レイアウト, デザイン)
- 5回 論理的な思考法の基礎 1 (課題発見)
- 6回 論理的な思考法の基礎 2 (原因分析, 解決手段検討)
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90% , 積極的な授業参加 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなります。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してください。

履修上の注意 /Remarks

教室のパソコン台数に限りがありますので、受講者数調整を実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問してください。また、この授業ではグループによる協同学習を導入しています。グループのメンバーでお互いに協力して学習課題を進めるよう心がけてください。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション, ロジカルシンキング, マルチメディア

情報表現【昼】

担当者名 /Instructor 棚次 奎介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力をみがきます。具体的には、以下のような項目を身につけることができます：

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の吟味
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指します。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現(ガイダンス)
- 2回 データの収集(検索エンジン, 情報の信頼性)
- 3回 データの加工(表計算の復習, グラフ, チャート)
- 4回 データの表現(レイアウト, デザイン)
- 5回 論理的な思考法の基礎1(課題発見)
- 6回 論理的な思考法の基礎2(原因分析, 解決手段検討)
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90% , 積極的な授業参加 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなります。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してください。

履修上の注意 /Remarks

教室のパソコン台数に限りがありますので、受講者数調整を実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問してください。また、この授業ではグループによる協同学習を導入しています。グループのメンバーでお互いに協力して学習課題を進めるよう心がけてください。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション, ロジカルシンキング, マルチメディア

プログラミング基礎 【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

みなさんが利用しているコンピュータの中のソフトウェアは、すべてどこかの誰かが作成したプログラムによって出来ています。この授業では、「データ処理」で学習した表計算ソフトの高度な利用方法を学習し、コンピュータを思い通りに動かすプログラムを自分で作れるようになることを目指します。自分でプログラムを作成できるようになると、より賢くコンピュータを利用できるようになり、世界が広がります。

コンピュータプログラムは、機械が理解できる言葉（プログラミング言語）で書く必要があります。そのため、プログラムの学習は言葉の学習に似ています。この授業で使用するプログラミング言語はVBA（Visual Basic for Application）です。この言語は、表計算ソフトExcelに付属しており、Excelが利用できる環境であればVBAが利用できるようになっています。

この授業は、パソコンを利用して授業を行います。具体的には以下のような項目を身につけることができます：

- 表計算ソフトのマクロ機能を利用して、様々な表作成手順を自動的に処理できるようになります。
- 現在のコンピュータが行っている情報処理の流れを理解し、論理的な思考ができるようになります。
- プログラミングの基本を知り、VBAを用いたプログラムを自分で作成できるようになります。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 プログラミングとは何か 1【VBA】、【マクロ】
- 2回 プログラミングとは何か 2【フローチャート】
- 3回 プログラミングとは何か 3【構造化プログラミング】
- 4回 VBAの基本構文【Visual Basic Editor】、【Sub】、【デバッグ】
- 5回 VBAを用いた表作成【Borders】、【幅と高さ設定】、【線種設定】、【色設定】
- 6回 メッセージボックスとインプットボックス【MsgBox】、【InputBox】
- 7回 シートとセルの操作【Worksheets】、【Cells】
- 8回 変数【変数のデータ型】、【変数の宣言】、【演算】、【式】
- 9回 プログラムの構造 1：条件分岐構造【if文】
- 10回 プログラムの構造 2：多重の条件分岐構造【if文のネスト】
- 11回 プログラムの構造 3：ループ構造 1【for文】
- 12回 プログラムの構造 4：ループ構造 2【while文】
- 13回 プログラムの構造 5：多方向分岐構造【select文】
- 14回 フォームの作成【フォーム】、【ボタン】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%、積極的な授業参加... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」や「エンドユーザコンピューティング」を既に受講した場合は、本授業の理解がより深くなります。また、コンピュータの操作（タイピング等）をある程度経験しておくとう受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プログラミング初心者にも分かるように、基本的な内容から解説します。

キーワード /Keywords

プログラミング、VBA、マクロ、フローチャート

中国語7 (総合) 【昼】

担当者名 /Instructor 一木 達彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本授業では、中級レベルの文法・文型の習得とその運用能力の向上を目指し、「聞く」「話す」「読む」「書く」の四技能を総合的に培う。コミュニケーションには聞く、話す、読む、書くとさまざまな側面があるが、そのいずれの場合にも、正確な情報のやり取りを行うには、正確な理解能力・伝達能力が必要であり、豊富な情報のやり取りを行うには、豊富な理解能力・伝達能力が必要である。この点を踏まえた上で、理解・伝達能力の基礎としての読解力や文法事項を着実に身につけることを本授業の基本的ねらいとする。

教科書 /Textbooks

『標準中国語』（上野恵司監修、曹元春著、白帝社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ウォーミングアップ
- 2回 第1課 本文・ポイント（“把”構文、介詞“离”、“从”）
- 3回 第1課 練習問題
- 4回 第2課 本文・ポイント（可能表現、使役表現）
- 5回 第2課 練習問題
- 6回 第3課 本文・ポイント（疑問詞の不定用法、副詞）
- 7回 第3課 練習問題
- 8回 第4課 本文・ポイント（数量補語、方向補語）
- 9回 第4課 練習問題
- 10回 第5課 本文・ポイント（結果補語、可能補語、強調表現）
- 11回 第5課 練習問題
- 12回 第6課 本文・ポイント（程度補語、いくつかの副詞の用法1）
- 13回 第6課 練習問題
- 14回 長文 文法事項のまとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験・期末試験... 80% 小テスト・宿題... 20%
欠席や遅刻、課題の未提出等の場合は減点の対象となる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習（宿題）をやっていることを前提に進めていくので、しっかり予習・復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

注）中国語検定3級、HSK（過去問題）やそれに相当するテストを実施する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外国語学習は、そのままコミュニケーション学習と言い換えることができる。ただ単に中国語の語彙や文法を知識として知るだけではなく、その学習を通じてコミュニケーションについても学ばなくては意味が無い。普段の日常生活からコミュニケーションが如何に行われるべきかを常に心しておいてもらいたいし、授業という形式も一つのコミュニケーションであることも念頭に置いておいてもらいたい。

キーワード /Keywords

中国語、コミュニケーション

中国語7 (総合) 【昼】

担当者名 /Instructor 一木 達彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本授業では、中級レベルの文法・文型の習得とその運用能力の向上を目指し、「聞く」「話す」「読む」「書く」の四技能を総合的に培う。コミュニケーションには聞く、話す、読む、書くとさまざまな側面があるが、そのいずれの場合にも、正確な情報のやり取りを行うには、正確な理解能力・伝達能力が必要であり、豊富な情報のやり取りを行うには、豊富な理解能力・伝達能力が必要である。この点を踏まえた上で、理解・伝達能力の基礎としての読解力や文法事項を着実に身につけることを本授業の基本的ねらいとする。

教科書 /Textbooks

『標準中国語』（上野恵司監修、曹元春著、白帝社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ウォーミングアップ
- 2回 第1課 本文・ポイント（“把”構文、介詞“离”、“从”）
- 3回 第1課 練習問題
- 4回 第2課 本文・ポイント（可能表現、使役表現）
- 5回 第2課 練習問題
- 6回 第3課 本文・ポイント（疑問詞の不定用法、副詞）
- 7回 第3課 練習問題
- 8回 第4課 本文・ポイント（数量補語、方向補語）
- 9回 第4課 練習問題
- 10回 第5課 本文・ポイント（結果補語、可能補語、強調表現）
- 11回 第5課 練習問題
- 12回 第6課 本文・ポイント（程度補語、いくつかの副詞の用法1）
- 13回 第6課 練習問題
- 14回 長文 文法事項のまとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験・期末試験... 80% 小テスト・宿題... 20%
欠席や遅刻、課題の未提出等の場合は減点の対象となる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習（宿題）をやっていることを前提に進めていくので、しっかり予習・復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

注）中国語検定3級、HSK（過去問題）やそれに相当するテストを実施する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外国語学習は、そのままコミュニケーション学習と言い換えることができる。ただ単に中国語の語彙や文法を知識として知るだけではなく、その学習を通じてコミュニケーションについても学ばなくては意味が無い。普段の日常生活からコミュニケーションが如何に行われるべきかを常に心しておいてもらいたいし、授業という形式も一つのコミュニケーションであることも念頭に置いておいてもらいたい。

キーワード /Keywords

中国語、コミュニケーション

中国語7 (総合) 【昼】

担当者名 /Instructor 一木 達彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本授業では、中級レベルの文法・文型の習得とその運用能力の向上を目指し、「聞く」「話す」「読む」「書く」の四技能を総合的に培う。コミュニケーションには聞く、話す、読む、書くとさまざまな側面があるが、そのいずれの場合にも、正確な情報のやり取りを行うには、正確な理解能力・伝達能力が必要であり、豊富な情報のやり取りを行うには、豊富な理解能力・伝達能力が必要である。この点を踏まえた上で、理解・伝達能力の基礎としての読解力や文法事項を着実に身につけることを本授業の基本的ねらいとする。

教科書 /Textbooks

『標準中国語』（上野恵司監修、曹元春著、白帝社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ウォーミングアップ
- 2回 第1課 本文・ポイント（“把”構文、介詞“离”、“从”）
- 3回 第1課 練習問題
- 4回 第2課 本文・ポイント（可能表現、使役表現）
- 5回 第2課 練習問題
- 6回 第3課 本文・ポイント（疑問詞の不定用法、副詞）
- 7回 第3課 練習問題
- 8回 第4課 本文・ポイント（数量補語、方向補語）
- 9回 第4課 練習問題
- 10回 第5課 本文・ポイント（結果補語、可能補語、強調表現）
- 11回 第5課 練習問題
- 12回 第6課 本文・ポイント（程度補語、いくつかの副詞の用法1）
- 13回 第6課 練習問題
- 14回 長文 文法事項のまとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験・期末試験... 80% 小テスト・宿題... 20%
 欠席や遅刻、課題の未提出等の場合は減点の対象となる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習（宿題）をやっていることを前提に進めていくので、しっかり予習・復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

注）中国語検定3級、HSK（過去問題）やそれに相当するテストを実施する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外国語学習は、そのままコミュニケーション学習と言い換えることができる。ただ単に中国語の語彙や文法を知識として知るだけではなく、その学習を通じてコミュニケーションについても学ばなくては意味が無い。普段の日常生活からコミュニケーションが如何に行われるべきかを常に心しておいてもらいたいし、授業という形式も一つのコミュニケーションであることも念頭に置いておいてもらいたい。

キーワード /Keywords

中国語、コミュニケーション

中国語8 (総合) 【昼】

担当者名 /Instructor 一木 達彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス 2 - 1 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本授業では、中級レベルの文法・文型の習得とその運用能力の向上を目指し、「聞く」「話す」「読む」「書く」の四技能を総合的に培う。コミュニケーションには聞く、話す、読む、書くとさまざまな側面があるが、そのいずれの場合にも、正確な情報のやり取りを行うには、正確な理解能力・伝達能力が必要であり、豊富な情報のやり取りを行うには、豊富な理解能力・伝達能力が必要である。この点を踏まえた上で、理解・伝達能力の基礎としての読解力や文法事項を着実に身につけることを本授業の基本的ねらいとする。
なお、授業は教科書に沿って進めていくが、長文形式の読解能力については長文形式の教材を提供して行う。

教科書 /Textbooks

『標準中国語』（上野恵司監修、曹元春著、白帝社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ウォーミングアップ
- 2回 第7課 本文・ポイント (いくつかの副詞の用法2)
- 3回 第7課 練習問題
- 4回 第8課 本文・ポイント (複文に伴ういくつかの表現1)
- 5回 第8課 練習問題
- 6回 第9課 本文 (複文に伴ういくつかの表現2、場所を表す介詞)
- 7回 第9課 練習問題第8課 本文・ポイント
- 8回 第10課 本文・ポイント (複文に伴ういくつかの表現3、類義語の区別)
- 9回 第10課 練習問題
- 10回 長文① 本文読解
- 11回 長文① 文法解釈 (複文に伴う呼応の逆接表現)
- 12回 長文② 本文読解
- 13回 長文② 文法解釈 (複文に伴う呼応の譲歩表現)
- 14回 長文③ 本文解釈 (文法事項のまとめ)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験・期末試験... 80% 小テスト・宿題... 20%
欠席や遅刻、課題の未提出等の場合は減点の対象となる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習 (宿題) をやっていることを前提に進めていくので、しっかり予習・復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

(注) 中国語検定2級、HSK (過去問題) やそれに相当するテストを実施する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外国語学習は、そのままコミュニケーション学習と言い換えることができる。ただ単に中国語の語彙や文法を知識として知るだけでなく、その学習を通じてコミュニケーションについても学ばなくては意味が無い。普段の日常生活からコミュニケーションが如何に行われるべきかを常に心しておいてもらいたいし、授業という形式も一つのコミュニケーションであることも念頭に置いてもらいたい。

キーワード /Keywords

中国語、コミュニケーション

中国語8 (総合) 【昼】

担当者名 /Instructor 一木 達彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス 2 - 2 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本授業では、中級レベルの文法・文型の習得とその運用能力の向上を目指し、「聞く」「話す」「読む」「書く」の四技能を総合的に培う。コミュニケーションには聞く、話す、読む、書くとさまざまな側面があるが、そのいずれの場合にも、正確な情報のやり取りを行うには、正確な理解能力・伝達能力が必要であり、豊富な情報のやり取りを行うには、豊富な理解能力・伝達能力が必要である。この点を踏まえた上で、理解・伝達能力の基礎としての読解力や文法事項を着実に身につけることを本授業の基本的ねらいとする。
なお、授業は教科書に沿って進めていくが、長文形式の読解能力については長文形式の教材を提供して行う。

教科書 /Textbooks

『標準中国語』（上野恵司監修、曹元春著、白帝社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ウォーミングアップ
- 2回 第7課 本文・ポイント (いくつかの副詞の用法2)
- 3回 第7課 練習問題
- 4回 第8課 本文・ポイント (複文に伴ういくつかの表現1)
- 5回 第8課 練習問題
- 6回 第9課 本文 (複文に伴ういくつかの表現2、場所を表す介詞)
- 7回 第9課 練習問題 第8課 本文・ポイント
- 8回 第10課 本文・ポイント (複文に伴ういくつかの表現3、類義語の区別)
- 9回 第10課 練習問題
- 10回 長文① 本文読解
- 11回 長文① 文法解釈 (複文に伴う呼応の逆接表現)
- 12回 長文② 本文読解
- 13回 長文② 文法解釈 (複文に伴う呼応の譲歩表現)
- 14回 長文③ 本文解釈 (文法事項のまとめ)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験・期末試験... 80% 小テスト・宿題... 20%
欠席や遅刻、課題の未提出等の場合は減点の対象となる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習 (宿題) をやっていることを前提に進めていくので、しっかり予習・復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

(注) 中国語検定2級、HSK (過去問題) やそれに相当するテストを実施する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外国語学習は、そのままコミュニケーション学習と言い換えることができる。ただ単に中国語の語彙や文法を知識として知るだけでなく、その学習を通じてコミュニケーションについても学ばなくては意味が無い。普段の日常生活からコミュニケーションが如何に行われるべきかを常に心しておいてもらいたいし、授業という形式も一つのコミュニケーションであることも念頭に置いてもらいたい。

キーワード /Keywords

中国語、コミュニケーション

中国語8 (総合) 【昼】

担当者名 /Instructor 一木 達彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス 2 - 3 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本授業では、中級レベルの文法・文型の習得とその運用能力の向上を目指し、「聞く」「話す」「読む」「書く」の四技能を総合的に培う。コミュニケーションには聞く、話す、読む、書くとさまざまな側面があるが、そのいずれの場合にも、正確な情報のやり取りを行うには、正確な理解能力・伝達能力が必要であり、豊富な情報のやり取りを行うには、豊富な理解能力・伝達能力が必要である。この点を踏まえた上で、理解・伝達能力の基礎としての読解力や文法事項を着実に身につけることを本授業の基本的ねらいとする。
なお、授業は教科書に沿って進めていくが、長文形式の読解能力については長文形式の教材を提供して行う。

教科書 /Textbooks

『標準中国語』（上野恵司監修、曹元春著、白帝社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ウォーミングアップ
- 2回 第7課 本文・ポイント (いくつかの副詞の用法2)
- 3回 第7課 練習問題
- 4回 第8課 本文・ポイント (複文に伴ういくつかの表現1)
- 5回 第8課 練習問題
- 6回 第9課 本文 (複文に伴ういくつかの表現2、場所を表す介詞)
- 7回 第9課 練習問題第8課 本文・ポイント
- 8回 第10課 本文・ポイント (複文に伴ういくつかの表現3、類義語の区別)
- 9回 第10課 練習問題
- 10回 長文① 本文読解
- 11回 長文① 文法解釈 (複文に伴う呼応の逆接表現)
- 12回 長文② 本文読解
- 13回 長文② 文法解釈 (複文に伴う呼応の譲歩表現)
- 14回 長文③ 本文解釈 (文法事項のまとめ)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験・期末試験... 80% 小テスト・宿題... 20%
欠席や遅刻、課題の未提出等の場合は減点の対象となる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習 (宿題) をやっていることを前提に進めていくので、しっかり予習・復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

(注) 中国語検定2級、HSK (過去問題) やそれに相当するテストを実施する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外国語学習は、そのままコミュニケーション学習と言い換えることができる。ただ単に中国語の語彙や文法を知識として知るだけでなく、その学習を通じてコミュニケーションについても学ばなくては意味が無い。普段の日常生活からコミュニケーションが如何に行われるべきかを常に心しておいてもらいたいし、授業という形式も一つのコミュニケーションであることも念頭に置いてもらいたい。

キーワード /Keywords

中国語、コミュニケーション

英語I (中 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指す。

教科書 /Textbooks

Seize the Essence of the TOEIC Test 「TOEICテストのエッセンスを学ぶ」 安丸雅子 / 八尋真由実 他著 金星堂 ￥1995

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit1 Daily Life [名詞・主語と動詞の一致]
- 3回 Unit1 Daily Life [名詞・主語と動詞の一致]
- 4回 Unit2 Eating Out & Amusement [形容詞・副詞]
- 5回 Unit2 Eating Out & Amusement [形容詞・副詞]
- 6回 Unit3 Cooking & Purchasing [基本時制]
- 7回 Unit3 Cooking & Purchasing [基本時制]
- 8回 Unit4 Traffic & Travel [進行形・完了形]
- 9回 Unit4 Traffic & Travel [進行形・完了形]
- 10回 Unit5 Production & Logistics [受動態]
- 11回 Unit5 Production & Logistics [受動態]
- 12回 Unit6 Business & Economics [分詞・分詞構文]
- 13回 Unit6 Business & Economics [分詞・分詞構文]
- 14回 Review Test 1 (Unit1 ~ 6)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(20%)と筆記試験(80%)に、出席状況・学習態度・TOEICテストの結果を加味して総合的に評価する。
 TOEICスコアの評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単元毎に単語テストを実施するので、各自勉強して準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (中 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本授業では、TOEICテストについて、出題形式や問題の特徴の違いを踏まえ、基本的な英文法・語彙を復習するとともにTOEICテストで必要とされる英語のリーディング力・リスニング力の養成を図る。また新聞や雑誌、小説などを読んでいくことで、TOEIC以外の英文に触れ幅広い英語力の養成を図る。

教科書 /Textbooks

『TOEICテスト新公式問題集vol.5』（国際ビジネスコミュニケーション）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『TOEICテスト新公式問題集vol. 2, vol. 3, vol. 4』（国際ビジネスコミュニケーション協会）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 授業の進め方
- 2回 TOEICテスト：Part 1~4の概要
- 3回 TOEICテスト：Part 5~7の概要
- 4回 Part 1、Part 5と関連する文法の学習
- 5回 Part 2、Part 5と関連する文法の学習
- 6回 Part 3、Part 5と関連する文法の学習
- 7回 Part 4、Part 5と関連する文法の学習
- 8回 Part 1～Part 5の復習
- 9回 Part 6と関連する文法の学習
- 10回 Part 7（会社関連）と関連する文法の学習
- 11回 Part 7（その他）と関連する文法の学習
- 12回 Part 6～Part 7の復習
- 13回 Part 1～Part 7の復習
- 14回 読み物（新聞・雑誌）
- 15回 読み物（小説）

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験（50%）、日常の授業への取り組み（40%）、単語テスト（10%）
最終評価にはTOEICスコアが反映される。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回単語テストを実施した課題を出すので、必ず学習し授業に備えること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (中 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指す。

教科書 /Textbooks

Seize the Essence of the TOEIC Test 「TOEICテストのエッセンスを学ぶ」 安丸雅子 / 八尋真由実 他著 金星堂 ￥1995

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit7 Advertising & ICT [不定詞・動名詞]
- 3回 Unit7 Advertising & ICT [不定詞・動名詞]
- 4回 Unit8 Health & the Environment [助動詞]
- 5回 Unit8 Health & the Environment [助動詞]
- 6回 Unit9 Law & Administration [代名詞・関係詞]
- 7回 Unit9 Law & Administration [代名詞・関係詞]
- 8回 Unit10 Employment & Personnel [比較構文]
- 9回 Unit10 Employment & Personnel [比較構文]
- 10回 Unit11 Finance & Banking [前置詞]
- 11回 Unit11 Finance & Banking [前置詞]
- 12回 Unit12 Office Work & Correspondence [その他の構文]
- 13回 Unit12 Office Work & Correspondence [その他の構文]
- 14回 Review Test 2 (Unit7 ~ 12)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(20%)と筆記試験(80%)に、出席状況・学習態度・TOEICテストの結果を加味して総合的に評価する。
TOEICスコアの評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単元毎に単語テストを実施するので、各自勉強して準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (中 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本授業では、TOEICテストの問題の形式に習熟し、語彙を増やし、TOEICで必要とされるリスニング力、リーディング力の更なる向上をめざす。また英語で書かれた現代小説や新聞、雑誌を読むことで、TOEIC以外の英文にも触れ幅広い英語力の養成をはかる。

教科書 /Textbooks

『TOEICテスト新公式問題集vol. 5』国際コミュニケーション協会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『TOEICテスト新公式問題集vol. 2, vol. 3, vol. 4, vol. 5』国際コミュニケーション協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス・授業の進め方
- 2回 TOEIC リスニング、読み物 (1)
- 3回 TOEIC リスニング、読み物 (2)
- 4回 TOEIC リスニング、読み物 (3)
- 5回 TOEIC リーディング、読み物 (4)
- 6回 TOEIC リーディング、読み物 (5)
- 7回 TOEIC リーディング、読み物 (6)
- 8回 復習
- 9回 TOEIC リスニング、読み物 (7)
- 10回 TOEIC リスニング、読み物 (8)
- 11回 TOEIC リスニング、読み物 (9)
- 12回 TOEIC リーディング、読み物 (10)
- 13回 TOEIC リーディング、読み物 (11)
- 14回 TOEIC リーディング、読み物 (12)
- 15回 復習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (50%)、日常の授業への取り組み (40%)、単語テスト (10%)
最終評価にはTOEICスコアが反映される。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回単語テストを実施、課題を出すので、必ず学習し授業に備えること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語III (中 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 中 1 - A
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

『Conversations in class: new edition』 (2009) Richmond, S. and Vannieu, B., Alma Publishing (アルマ出版) ¥2520

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Explanation of the course
- 2回 Getting acquainted
- 3回 Sounding natural 1: silence and conversation
- 4回 Talking about daily life
- 5回 Sounding natural 2: dynamic conversations
- 6回 Giving longer answers and answering implicit questions
- 7回 Talking about university life
- 8回 Talking about skills
- 9回 Talking about family
- 10回 Talking about travel
- 11回 Talking about free time
- 12回 Talking about money
- 13回 Talking about our hometowns
- 14回 Talking about our futures
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on homework (33%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

無し

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語III (中 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor デビッド・ アダム・ ストット / David Adam Stott / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

This task-based course aims to improve students' ability to use English for daily communication. Speaking English individually and in small groups is required in each class.

教科書 /Textbooks

Hall & Blappert, First Class English for Tourism 2, Cengage

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回Orientation
- 2 回Asking for personal information.
- 3 回Giving directions
- 4 回Taking messages
- 5 回Ordering in restaurants
- 6 回Making recommendations
- 7 回Asking about preferences
- 8 回Offering alternatives
- 9 回Talking about schedules
- 1 0 回Complaining about problems
- 1 1 回Solving problems
- 1 2 回Travel itineraries
- 1 3 回Changing reservations
- 1 4 回Reacting to schedule changes
- 1 5 回Student Presentations

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% 学期末試験...30% プレゼンテーション...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's enjoy communicating in English. Good luck in 2012-13!

キーワード /Keywords

トラベル英会話

英語Ⅳ (中 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor デビッド・ アダム・ ストット / David Adam Stott / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

This task-based course aims to improve students' ability to use English for daily communication. Speaking English individually and in small groups is required in each class.

教科書 /Textbooks

Hall & Blappert, First Class English for Tourism 2, Cengage

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Student Presentations – Summer Holidays
- 2 回 Checking in
- 3 回 Checking out
- 4 回 Immigration controls
- 5 回 Discussing prices and bargaining
- 6 回 Changing money
- 7 回 Extra charges
- 8 回 Recommending and giving travel advice
- 9 回 Fixing problems
- 1 0 回 Clarifying information
- 1 1 回 Claiming VAT refunds
- 1 2 回 Applying for visas
- 1 3 回 Phone reservations
- 1 4 回 Online reservations
- 1 5 回 Saying goodbye to guests and customers

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% 学期末試験...30% プレゼンテーション...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's enjoy communicating in English. Good luck in 2013-14!

キーワード /Keywords

トラベル英会話

英語V (中 2 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 渡邊 嘉則 / WATANABE YOSHINORI / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 中 2 - A
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

TOEIC受験を前提にした、英語リスニングとリーディングの能力を伸ばすことをテーマとする。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 まとめ (1)
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 まとめ (2)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 30% 課題・小テスト ... 30% 期末試験 ... 40%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週、指示する予習・復習をして、授業に出席してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V (中 2 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中 2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業では、TOEIC対策テキストを使用し、英語運用4技能のうち特に「聴く・読む」技能の向上を目指す。すでに1年次において身につけていると思われる文法・語法の基礎力を、テキストおよび他の英語教材（新聞記事やエッセイなど）を用いた学習を通して発展させ、さらなる英語力の強化を図る。（TOEIC取得目標・・・前学期TOEICスコアの50%up）

教科書 /Textbooks

石井 隆之 他著 「Perfect Practice for the TOEIC Test」 成美堂 2200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

綿貫 陽, マーク・ピーターセン 「表現のための実践ロイヤル英文法」 旺文社 1800円
各個人の目標スコアにあったTOEIC問題集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Unit 1 Studying Abroad
- 第2回 Unit 2 International Conference
- 第3回 Unit 3 Holidays
- 第4回 Unit 4 Leisure
- 第5回 Unit 5 Restaurant
- 第6回 Unit 6 Online Shopping
- 第7回 Unit 7 Global Warming
- 第8回 Unit 8 Web Sites
- 第9回 Unit 9 Workplace
- 第10回 Unit 10 Nursing Care
- 第11回 Unit 11 Global Trading
- 第12回 Unit 12 Eco-Friendly Economy
- 第13回 Unit 13 Business Trips
- 第14回 Unit 14 Bybrid Cars
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義成績 小テスト・・・50% 期末テスト・・・50%
上記講義成績にTOEICスコアを反映させた成績が最終評価となる。反映方法は、初回授業で文書を配布し説明する。
欠席は2回まで。遅刻は2回で一回欠席とみなす。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

使用テキストの他に、新聞記事やエッセイのプリントを事前に配布するので、各自一通り目を通して授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (中 2 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 渡邊 嘉則 / WATANABE YOSHINORI / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 中 2 - A
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

TOEIC受験を前提にした、英語リスニングとリーディングの能力をさらに伸ばすことをテーマとする。時事英語を教材として、語彙力を伸ばし、迅速な内容把握ができるよう努める。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 まとめ (1)
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 まとめ (2)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 30% 課題・小テスト ... 30% 期末試験 ... 40%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週、指示する予習・復習をして、授業に出席してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (中 2 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中 2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description
 この授業では、毎回プリント配布でTOEIC対策問題に取り組む一方、リスニング力強化を目的としてVoice of America(VOA)のSpecial English を扱ったテキストを使用し、実践英語の強化を図っていく。

教科書 /Textbooks
 安浪 誠祐 他著 「To the Future: Topics in Health & Environment from VOA」 松柏社 1900円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 各個人のスコア目標レベルにあったTOEIC問題集 (解説付き)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Older is Better?
- 第2回 Baboons in Your Crops?
- 第3回 Bedtime Rules Help Children in School
- 第4回 Making a Beeline for Home
- 第5回 Reusing Pacemakers
- 第6回 Trees in the Desert
- 第7回 A Focus on Women on World No Tobacco Day
- 第8回 Lessons from Ancient Farmers
- 第9回 Laying the Roots for Healthy Teeth
- 第10回 Powered by Coconuts and Mangoes
- 第11回 More Nurses Required
- 第12回 Pesticides Causing Attention Deficits?
- 第13回 Losing Weight by Counting Calories
- 第14回 Weeding out Weeds
- 第15回 まとめ

※毎回の授業で上記のテキスト学習のほかにTOEIC問題をプリント配布し取り組む。

成績評価の方法 /Assessment Method
 講義成績 小テスト・・・ 50% 期末テスト・・・ 50%
 上記講義成績にTOEICスコアを反映させた成績が最終評価となる。反映方法は、初回授業で文書を配布し説明する。
 欠席は2回まで。遅刻は2回で一回欠席とみなす。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 予習・復習を怠らないこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII (中 2 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中 2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

Communication and fluency training for daily communication in English.

教科書 /Textbooks

WorldView 2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introductions and Orientation
- 2 回 Text Unit 1 "Weekends"
- 3 回 Text Unit 2 "Excuses"
- 4 回 Text Unit 3 "Life Events"
- 5 回 Text Unit 4 "Travel"
- 6 回 Text Unit 5 "Culture Shock"
- 7 回 Text Unit 6 "Party Time"
- 8 回 Text Unit 7 "Describing People"
- 9 回 Game Day!
- 1 0 回 Text Unit 8 "Movies"
- 1 1 回 Text Unit 10 "Big Issues"
- 1 2 回 Text Unit 13 "Keepsakes"
- 1 3 回 Test Preparation
- 1 4 回 Speaking Test
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Active participation in class...33.33% Homework...33.33% Final Test...33.33%

Being late to class or being absent will lower your grade. Being absent more than 3 times will result in you failing the course.

Late homework will not be accepted.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Homework must be completed for each class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Please be prepared to speak and be active in class. You will be graded in each class on how much you speak and how active you are during the class.

キーワード /Keywords

英語VII (中 2 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中 2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

Students will research, summarize and present both facts and opinions on topics related to international relations and contemporary social and cultural issues. Students will be expected to speak and discuss a wide variety of topics at a high intermediate level of English. Students will improve their English language listening and speaking skills, as well as critical thinking skills.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

none

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction and course objectives
- 2 回 Cultural issues in the world
- 3 回 Research of cultural issues
- 4 回 Expansion of cultural issues
- 5 回 Consolidation of cultural issues
- 6 回 First group: Presentation and discussion
- 7 回 Second Group: Presentation and discussion
- 8 回 Analysis and Advice
- 9 回 Environmental issues in the world
- 1 0 回 Research of environmental issues
- 1 1 回 Expansion of environmental issues
- 1 2 回 Consolidation of environmental issues
- 1 3 回 Third Group: Presentation and discussion
- 1 4 回 Fourth Group: Presentation and discussion
- 1 5 回 Summary and exam preparation

成績評価の方法 /Assessment Method

class participation 40%, homework 20%, presentations 20%, exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Japanese-English dictionary

履修上の注意 /Remarks

none

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VIII (中 2 - A) 【昼】

担当者名
/Instructor

ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 中 2 - A
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

Communication and fluency training for daily communication in English.

教科書 /Textbooks

WorldView 2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation “My Summer”
- 2 回 Text Unit 15 “Sports”
- 3 回 Text Unit 18 “Mysteries”
- 4 回 Text Unit 19 “Shopping”
- 5 回 Text Unit 21 “Long Life”
- 6 回 Text Unit 22 “Job Share”
- 7 回 Game Day!
- 8 回 Text Unit 24 “Take a Risk”
- 9 回 Text Unit 26 “On the Go”
- 1 0 回 Christmas Lesson
- 1 1 回 Text Unit 27 “Behave Yourself”
- 1 2 回 Text Unit 28 “Jobs”
- 1 3 回 Test Preparation
- 1 4 回 Speaking Test
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance & Classroom Work...33.33% Homework...33.33% Final Test...33.33%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Homework assignments will be required for each class.

履修上の注意 /Remarks

Being late to class or being absent will lower your grade. Being absent more than three times will result in you failing the course.

No late homework will be accepted.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VIII (中 2 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 中 2 - B /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description
Students will research, summarize and present both facts and opinions on topics related to international relations and contemporary social and cultural issues. Students will be expected to speak and discuss a wide variety of topics at a high intermediate level of English. Students will improve their English language listening and speaking skills, as well as critical thinking skills.

教科書 /Textbooks
No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
none

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1 回 Introduction and course objectives
 - 2 回 Social issues in the world
 - 3 回 Research of social issues
 - 4 回 Expansion of social issues
 - 5 回 Consolidation of social issues
 - 6 回 First group: Presentation and discussion
 - 7 回 Second Group: Presentation and discussion
 - 8 回 Analysis and Advice
 - 9 回 Political issues in the world
 - 1 0 回 Research of political issues
 - 1 1 回 Expansion of political issues
 - 1 2 回 Consolidation of political issues
 - 1 3 回 Third Group: Presentation and discussion
 - 1 4 回 Fourth Group: Presentation and discussion
 - 1 5 回 Summary and exam preparation

成績評価の方法 /Assessment Method
class participation 40%, homework 20%, presentations 20%, exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
Japanese-English dictionary

履修上の注意 /Remarks
none

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅸ (英中国 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

時事的な英文記事や学術的な英文テキストなどを用いて、英語力に磨きをかけることを目的とする。あわせて、関連する文化的事象についての理解を深めていくことも目的とする。授業全体のキーワードは「多読・精読」、「異文化理解」、「コミュニケーション力」です。

教科書 /Textbooks

配布プリント

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Pre-test
- 3回 時事英語①
- 4回 アカデミックリーディング①
- 5回 グループ討論①
- 6回 グループ討論②
- 7回 時事英語②
- 8回 アカデミックリーディング②
- 9回 グループ討論③
- 10回 グループ討論④
- 11回 時事英語③
- 12回 アカデミックリーディング③
- 13回 グループ討論⑤
- 14回 グループ討論⑥
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...30%、平常の学習状況 (小テストを含む)...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語X (英中国 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国 3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

言語に関するエッセイを読みながら、英語の読解力の向上だけでなく、言語そのものに対する理解を深めることを目標とする。毎回、一人ないし、二人担当者が教科書の内容をレポートしながら授業を進めていく。他の受講者は、十分に予習をし、積極的にディスカッションに参加することが、求められる。

教科書 /Textbooks

生協の教科書リストに掲載する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 オリエンテーション
- 2 回 Chapter 1
- 3 回 Chapter 2
- 4 回 Chapter 3
- 5 回 Chapter 4
- 6 回 Chapter 4
- 7 回 Chapter 5
- 8 回 Chapter 5
- 9 回 Chapter 6
- 10 回 Chapter 6
- 11 回 Chapter 7
- 12 回 Chapter 7
- 13 回 Chapter 8
- 14 回 Chapter 8
- 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...40% レポート...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業での質問等、授業への積極的な参加が求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語XI (英中国 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 英中国 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、外国語コミュニケーション能力の向上をねらいとする。

教科書 /Textbooks

Optimal Levels! Philosophy Flavor Book 1
Optimal Levels! Project Book

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 Introduction / Writing
- 第 2 回 Love-Introductions
- 第 3 回 Love-Building Skills
- 第 4 回 Love-Essay composition
- 第 5 回 Presentation
- 第 6 回 Justice-Introduction
- 第 7 回 Justice-Building Skills
- 第 8 回 Justice-Essay composition
- 第 9 回 Presentation
- 第10回 Humanity-Introduction
- 第11回 Humanity-Building Skills
- 第12回 Humanity-Essay Composition
- 第13回 Presentation
- 第14回 Test Practice / Composition
- 第15回 Test Practice / Composition

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーション 各25% (計3回) 試験(essay) 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストブックはModule 3 までしか使用しませんが、Module 4~6は休講期間等を利用して各自完成させておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の語りたいことを英語で語れるようになる、楽しいクラスです。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。文法の用法や単語、表現の方法など講義中の質問は大歓迎です。

キーワード /Keywords

英語XII (英中国 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、外国語コミュニケーション能力の向上をねらいとする。後期は加えて5段落エッセイを構成よくまとめる能力を養う。

教科書 /Textbooks

Optimal Levels! Philosophy Flavor Book 2
Optimal Levels! Project Book 2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction / Writing
- 第2回 Happiness-Introductions
- 第3回 Happiness-Building Skills
- 第4回 Happiness-Essay composition
- 第5回 Presentation
- 第6回 Religion-Introduction
- 第7回 Religion-Building Skills
- 第8回 Religion-Essay composition
- 第9回 Presentation
- 第10回 War-Introduction
- 第11回 War-Building Skills
- 第12回 War-Essay Composition
- 第13回 Presentation
- 第14回 Test Practice / Composition
- 第15回 Test Practice / Composition

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーション 各25% (計3回) 試験(essay) 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストブックはModule 3 までしか使用しませんが、Module 4-6は休講期間等を利用して各自完成させておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の語りたいことを英語で語れるようになる、楽しいクラスです。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。文法の用法や単語、表現の方法など講義中の質問は大歓迎です。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

日本語が母語である学習者にとって、他言語より習得しやすい言語であるといわれているのが韓国語である。ゆえに日本語と韓国語の対照言語的なアプローチから両言語の文法において、類似点と相違点を指導することで個々の学習能力を高めていくことを教育方針とする。もっとも重要なことは文字と発音を正確に習得することである。

この講義では韓国語を正確に読み書きできるようにすること、また自己紹介、初歩的な挨拶表現や簡単な文章を読み、理解できることを目標とする。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩(改訂版)』 厳基珠、金三順ほか(白水社) ISBN978-4-560-01784-5
、担当者が作ったプリントとメディア資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利他『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』(小学館)
李昌圭『韓国語を学ぼう』別冊練習長(朝日出版社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語及び授業の概要、文字の構成【ハングル】【基本挨拶】【母音発音及び書き順】
- 2回 文字の発音及び書き順1【基本母音のドリル】【基本子音の発音】【音節と単語読み】
- 3回 文字の発音及び書き順2【激音】
- 4回 文字の発音及び書き順3【濃音】【バッチム】【二重バッチム】【名札作り】
- 5回 文字の発音及び書き順4【母音2】
- 6回 文字の発音及び書き順5【バッチム】【二重バッチム】【名札作り】
- 7回 発音の法則【連音化】【激音化】【鼻音化】【濃音化】
- 8回 発音の法則【流音化】【その他の発音法則】単語読みと書き取りのドリル
- 9回 自然な発音で単語を読むドリル【国名と地名】【あいさつ文章】【漢字合成語】
- 10回 簡単な文章読み書き【自己紹介】【～です】【～は】【職業】
- 11回 疑問文と応答文【～ですか】【はい、いいえ】【～ではありません】【辞書調べ方】
- 12回 存在詞、場所名、位置名詞【ある・無い】【～に】
- 13回 指示・人称代名詞、疑問詞【こ・そ・あ・ど表】【何、なぜ、誰 等】
- 14回 かしこまった丁寧形1
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講生はこの講義と朝鮮語Ⅲの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

わかりやすい韓国語授業にしたいと思えます。そうするためには皆様の力も必要ですので、一緒に頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

初級レベルでは学習しなかった、より高度な会話や文章の読解を目指す。主として表現・文法の学習を中心とし、その学習を効果的に行うため、会話や読解、作文練習などに力を入れる。

教科書 /Textbooks

『楽しくできる韓国語初級II』（李志暎他、DEKIRU出版、2,000円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 用言活用の基本について
- 3回 第1課 食べ方がけっこう違いますね。【動詞の現在連体形】
- 4回 第2課 韓国へ行ったことがありますか？【動詞の過去連体形】【経験を述べる】
- 5回 第3課 卒業したら何をするつもりですか？【動詞の未来連体形】【予定を述べる】
- 6回 復習とフリーターキング
- 7回 第4課 背の高い男は誰ですか？【形容詞の現在連体形】
- 8回 第5課 お忙しいところすみません。【～のですが、～のに】
- 9回 第6課 熱いから気をつけてください。【は不規則活用】【理由】
- 10回 第7課 外国語は毎日聞かなければなりません。【に不規則活用】【義務】
- 11回 復習とフリーターキング
- 12回 第8課 風邪はすっかり治ったんですか？【人不規則活用】【理由②】
- 13回 第9課 A型とO型はどう違いますか？【三不規則活用】
- 14回 第10課 赤い色はありませんか？【を不規則活用】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

初級レベルでは学習しなかった、より高度な会話や文章の読解を目指す。1学期に引き続き、主として表現・文法の学習を中心とし、その学習を効果的に行うため、会話や読解、作文練習などに力を入れる。

教科書 /Textbooks

『楽しくできる韓国語初級II』（李志暎他、DEKIRU出版、2,000円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典 (必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 前期の復習
- 3回 第11課 私もメール送ります。【話者の意思・約束】
- 4回 第12課 あそこに何と書いてありますか？【完了状態の継続】【禁止】
- 5回 第13課 雨が降りそうですね。【過去・現在・未来の推量】
- 6回 復習とフリートーキング
- 7回 第14課 新年の挨拶をした後、お墓参りに行きます。【～する前に、～した後に】
- 8回 第15課 辛くして食べるほうです。【傾向を述べる】
- 9回 第16課 日本にいらしてからどれくらいになりましたか？【時間の経過】
- 10回 復習とフリートーキング
- 11回 第17課 こうすれば探しやすいです。【-기 名詞化】
- 12回 第18課 運転お上手でしょうね。【推測・予測、～するとき】
- 13回 第19課 私がお持ちしましょうか？【～あげる・～てくれる】
- 14回 第20課 何を召し上がりますか？【意思・話者の願望】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業では、1年次で朝鮮語の基礎を習得した受講者が朝鮮語の基本表現の理解や表現力をさらに深め、基礎的な日常会話の運用能力が身につくようになることを目標とする。

教科書 /Textbooks

金順玉 他 『ちょこっとチャレンジ! 韓国語』、白水社 (2011年3月)、2,400円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 お名前なんとおっしゃいますか?【インタビューする】
- 3回 お名前なんとおっしゃいますか?【インタビューする】
- 4回 朝子といいますが、日本から来ました。【自己紹介をする】
- 5回 朝子といいますが、日本から来ました。【自己紹介をする】
- 6回 朝子といいますが、日本から来ました。【自己紹介をする】
- 7回 魚は焼かないでください。【決まりを言う】
- 8回 魚は焼かないでください。【決まりを言う】
- 9回 ファンの集いに行くことにしました。【約束をする】
- 10回 ファンの集いに行くことにしました。【約束をする】
- 11回 ファンの集いに行くことにしました。【約束をする】
- 12回 道を渡って左にずっと行ってください。【道案内をする】
- 13回 道を渡って左にずっと行ってください。【道案内をする】
- 14回 道を渡って左にずっと行ってください。【道案内をする】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
平常点50% (発表・課題・小テスト・態度)、定期試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、先週のできことを発表してもらう。
予習・復習をすること。
特に予習の課題が多いので必ずノートを作ること。

履修上の注意 /Remarks

授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく話しましょう!

キーワード /Keywords

朝鮮語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業では、1年次で朝鮮語の基礎を習得した受講者が朝鮮語の基本表現の理解や表現力をさらに深め、基礎的な日常会話の運用能力が身につくようになることを目標とする。

教科書 /Textbooks

金順玉 他 『ちょこっとチャレンジ! 韓国語』、白水社 (2011年3月)、2,400円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自由会話【夏休みの出来事】
- 2回 ファンの集いへ行ってみてください。【感想を言う】
- 3回 ファンの集いへ行ってみてください。【感想を言う】
- 4回 少し安くしてください。【買い物をする】
- 5回 少し安くしてください。【買い物をする】
- 6回 少し安くしてください。【買い物をする】
- 7回 私の気持ちですから受け取ってください。【プレゼントをする】
- 8回 私の気持ちですから受け取ってください。【プレゼントをする】
- 9回 咳がひどくて眠れませんでした。【体の具合を言う】
- 10回 咳がひどくて眠れませんでした。【体の具合を言う】
- 11回 咳がひどくて眠れませんでした。【体の具合を言う】
- 12回 字幕を見ながら勉強します。【勉強の仕方を話す】
- 13回 字幕を見ながら勉強します。【勉強の仕方を話す】
- 14回 字幕を見ながら勉強します。【勉強の仕方を話す】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
平常点50% (発表・課題・小テスト・態度)、定期試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、先週のできことを発表してもらう。
予習・復習をすること。
特に予習の課題が多いので、必ずノートを作ること。

履修上の注意 /Remarks

授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく話しましょう！

キーワード /Keywords

上級朝鮮語I【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

日常の身近なできごとをテーマにした様々な文章を読むことを通して、読解力を身につけることを目標とする。同時に応用作文の練習を多く行い、文章力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

曹喜澈『ウリマル』、白帝社(2006年2月)、2,600円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』(小学館)など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自己紹介【講読】
- 3回 自己紹介【作文】
- 4回 私の家【講読】
- 6回 私の家【作文】
- 7回 私の学校【講読】
- 8回 私の学校【作文】
- 9回 病院と薬局【講読】
- 10回 病院と薬局【作文】
- 11回 手紙【講読】
- 12回 手紙【作文】
- 13回 趣味【講読】
- 14回 趣味【作文】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
平常点50% (作文・小テスト・課題・態度)、定期試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、訳を作成してもらうので必ず辞書を持参すること。
予習の課題が多いのでノートを作ること。
テキストに出る文型や語句を覚えること。

履修上の注意 /Remarks

授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく文章を作りましょう！

キーワード /Keywords

上級朝鮮語II 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

日常の身近なできごとをテーマにした様々な文章を読むことを通して、読解力を身につけることを目標とする。同時に応用作文の練習を多く行い、文章力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

曹喜澈 『ウリマル』、白帝社 (2006年2月)、2,600円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典 『朝鮮語辞典』 (小学館) など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 映画【講読】
- 3回 映画【作文】
- 4回 地下鉄【講読】
- 5回 地下鉄【作文】
- 6回 感想文【講読】
- 8回 感想文【作文】
- 9回 日記【講読】
- 10回 日記【作文】
- 11回 試験【講読】
- 12回 試験【作文】
- 13回 韓国と日本【講読】
- 14回 韓国と日本【作文】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
平常点50% (作文・小テスト・課題・態度)、 定期試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、訳を作成してもらうので必ず辞書を持参すること。
予習の課題が多いのでノートを作ること。
テキストに出る文型や語句を覚えること。

履修上の注意 /Remarks

授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく文章を作りましょう！

キーワード /Keywords

上級朝鮮語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

初級・中級まで学習してきたことを定着、さらに発展させて自信と実践力をつける。また、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

教科書 /Textbooks

『できる韓国語 中級II』（李志暎他、DEKIRU出版、2,500円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）、『韓国語上級表現ノート』（前田、明石書店、1890円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自己紹介とウォーミングアップ
- 3回 第1課 紹介①
- 4回 第1課 紹介②
- 5回 第2課 旅行①
- 6回 第2課 旅行②
- 7回 第3課 予約①
- 8回 第3課 予約②
- 9回 第4課 案内①
- 10回 第4課 案内②
- 11回 第5課 ショッピング①
- 12回 第5課 ショッピング②
- 13回 第6課 交通①
- 14回 第6課 交通②
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級朝鮮語Ⅳ 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

初級・中級まで学習してきたことを定着、さらに発展させて自信と実践力をつける。また、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

教科書 /Textbooks

『できる韓国語 中級Ⅱ』（李志暎他、DEKIRU出版、2,500円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）、『韓国語上級表現ノート』（前田、明石書店、1890円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 第7課 キャンセル①
- 3回 第7課 キャンセル②
- 4回 第8課 新聞①
- 5回 第8課 新聞②
- 6回 第9課 伝達①
- 7回 第9課 伝達②
- 8回 第10課 食事①
- 9回 第10課 食事②
- 10回 第11課 電話①
- 11回 第11課 電話②
- 12回 第12課 文化①
- 13回 第12課 文化②
- 14回 第13課 美容室①
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。
到達目標はロシア語の基礎学力を身につけ、簡単な会話と読み書きができるようになること。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語概論、アルファベット
- 2回 文字と発音：母音、子音(1)、アクセント、疑問詞のある疑問文と答え方(1)
- 3回 子音(2)、疑問詞のある疑問文と答え方(2)、硬子音と軟子音、名詞の性
- 4回 所有代名詞、疑問詞のある疑問文と答え方(3)、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、疑問詞のない疑問文と答え方、イントネーション
- 6回 50音のロシア文字表記法
- 7回 一課前半 テキストの読み、内容解説、挨拶表現、ロシア人の名、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの読み、内容解説、人称代名詞、国名・国民名、名詞複数形
- 9回 二課前半 テキストの読み、内容解説、動詞の現在変化、接続詞、副詞、練習問題
- 10回 二課後半 テキストの読み、内容解説、名詞格変化(対格)、和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの読み、内容解説、所有表現、名詞格変化(前置格)、練習問題
- 12回 三課後半 テキストの読み、内容解説、形容詞、複数専用名詞、前置詞用法、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの読み、内容解説、動詞過去、個数詞、時間表現、練習
- 14回 四課後半 テキストの読み、内容解説、動詞の体、名詞格変化(生格)、和文露訳
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2-3回毎に1回の割合で単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。習ったことの復習に時間をかけて授業準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。
到達目標はロシア語の基礎学力を身につけ、簡単な会話と読み書きができるようになること。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの読み、内容解説、動詞未来、前置詞句(1)、曜日
- 4回 五課後半 テキストの読み、内容解説、完了動詞未来、不定人称文、命令形、和文露訳
- 5回 六課前半 テキストの読み、内容解説、運動の動詞、行先表現、交通手段表現
- 6回 六課後半 テキストの読み、内容解説、出発と到着表現、場所に関する疑問詞、和文露訳
- 7回 七課前半 テキストの読み、内容解説、形容詞と副詞について、数量表現
- 8回 七課後半 テキストの読み、内容解説、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの読み、内容解説、無人称述語、動詞の格支配(1)(2)
- 10回 八課後半 テキストの読み、内容解説、義務・可能性表現、動詞の格支配(3)、和文露訳
- 11回 九課前半 テキストの読み、内容解説、年齢表現、年月日表現、比較級
- 12回 九課後半 テキストの読み、内容解説、値段表現、授与動詞、仮定法、和文露訳
- 13回 十課前半 テキストの読み、内容解説、関係代名詞、形容詞最上級、形容詞格変化
- 14回 十課後半 テキストの読み、内容解説、単文と複文、直接話法と間接話法、ことわざ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。復習に力を入れて授業準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤 厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語とはどんな言葉か？【母音と母音文字】、【こんにちは】
- 2回 ロシア語のアルファベット【交際】
- 3回 短文のイントネーション 【これは誰ですか】、【これは何ですか】
- 4回 簡単な問いと答え 【あなたは学生ですか】、【お元気ですか】
- 5回 第1課① 【挨拶】、【紹介】
- 6回 第1課② 【ロシア人の名前】、【これは誰のものですか】
- 7回 第1課③ 会話
- 8回 第2課① 【教室でロシア語】
- 9回 第2課② 【動詞現在変化】、【私は本を読んでいます】
- 10回 第2課③ 【趣味】、【私はロシア語を話します】
- 11回 第3課① 【家族の紹介】
- 12回 第3課② 【名詞の前置格】、【あなたの家族はどこにお住まいですか】
- 13回 第3課③ 【形容詞】、【これは新しい車です】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤 厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第4課① 【一日の生活】、【過去の表現】
- 2回 第4課② 【時間表現】
- 3回 第4課③ 【動詞の体】、【昨日あなたは何をしましたか】
- 4回 第4課④ 【不完了体と完了体】、【あなたは宿題をしまいましたか】
- 5回 第5課① 【休日】、【動詞の未来】
- 6回 第5課② 【曜日名】、【明日あなたは何をしますか】
- 7回 第5課③ 【名詞の造格】、【命令形】
- 8回 第5課④ 【どうぞ、午後に私に電話してください】
- 9回 第6課① 【交通】、【運動の動詞】
- 10回 第6課② 【交通手段と行先】、【あなたはどこへ行くのですか】
- 11回 第6課③ 【電話】、【出発と到着の表現】
- 12回 第6課④ 【あなたはどこから来ましたか】
- 13回 会話 【どこへ】、【どこに】、【どこから】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上を目指す。「読解・解釈」と「文法・語法」に重点を置く。
到達目標は、辞書を使って中級の読み物が理解できるようになる。

教科書 /Textbooks

プリント配布（「百万人のロシア語」）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

博友社「ロシア語辞典」、研究社「露和辞典」、岩波書店「ロシア語辞典」のいずれかが必要

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 <СКОРО ПЕРВОЕ СЕНТЯБРЯ> 名詞の性、不規則変化動詞、形容詞前置格
- 2回 <МАМА И ФУТБОЛ> 多義動詞の用法、関係副詞構文、形容詞短語尾、全否定構文
- 3回 <МАТЬ> 関係副詞構文、関係代名詞構文、不規則変化動詞、名詞単数・複数の使分け
- 4回 <САЛЮТ> 複文の種類と構造、不規則変化動詞、第二生格
- 5回 <ГИПНО'З> 不定人称文、「・・・する」の後結合、完了動詞・不完了動詞
- 6回 <ВАЖНЫЙ РАЗГОВОР> 願望を意味する動詞と複文、運動の動詞の派生語
- 7回 <ТРУДНЫЙ ЭКЗАМЕН> 動詞の格支配、複文、否定生格
- 8回 <ДОМ ОТДЫХА> 時の表現、動詞の体
- 9回 <БАБУШКА И ВОВКА> 動詞の格支配、不規則変化動詞
- 10回 <ВТОРАЯ МОЛОДОСТЬ> 複文、動詞の体
- 11回 <О ЧЁМ ДУМАЕТ МАРАБУ> 年月日表現、年齢表現、形容詞格変化復習
- 12回 <КАК Я ВСТРЕЧАЛ НОВЫЙ ГОД> 不定法構文、無人称文
- 13回 <ЛЮБИМЫЙ ПРАЗДНИК> 個数詞+形容詞+名詞の語結合、所有形容詞
- 14回 <ЭТО СЛУЧИЛОСЬ В ВОЗДУХЕ> 「互いに」の表現、運動の動詞、不定代名詞
- 15回 まとめと復習：構文

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

出席者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので、予習が必要。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 中国2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

会話テキスト「ロシアでの一ヶ月」の読み、訳、練習問題をこなすことで、ロシア語運用力の向上を目指す。
到達目標は、ノーマルなスピードのやさしい会話が理解できるようになること。

教科書 /Textbooks

プリント配布（「ロシアでの一ヶ月」）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

博友社「ロシア語辞典」、研究社「露和辞典」、岩波書店「ロシア語辞典」のいずれかが必要

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ГОСТИНИЦА	その1	読み、訳、練習問題
2回	ГОСТИНИЦА	その2	読み、訳、練習問題
3回	СТОЛОВАЯ	その1	読み、訳、練習問題
4回	СТОЛОВАЯ	その2	読み、訳、練習問題
5回	ГАСТРОНОМ		読み、訳、練習問題
6回	УНИВЕРМАГ		読み、訳、練習問題
7回	ТРАНСПОРТ		読み、訳、練習問題
8回	ПОЧТА		読み、訳、練習問題
9回	ТЕЛЕФОН		読み、訳、練習問題
10回	ВОКЗАЛ		読み、訳、練習問題
11回	ПОЛИКЛИНИКА		読み、訳、練習問題
12回	ПАРИКМАХЕРСКАЯ		読み、訳、練習問題
13回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ	その1	読み、訳、練習問題
14回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ	その2	読み、訳、練習問題
15回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ	その3	読み、訳、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

出席者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので、予習が必要。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅶ【昼】

担当者名
/Instructor

ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス 中国2年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

これまでに習ったロシア語の語彙、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上をめざす。「聞き取り・会話」と「作文」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第7課① 【天候】、【КАКАЯ СЕГОДНЯ ПОГОДА?】
- 2回 第7課② 【気温】、【雨が降る】
- 3回 第7課③ 【四季】、【КАКОЕ ВРЕМЯ ГОДА ВЫ ЛЮБИТЕ?】
- 4回 ビデオ学習① 【В ГОСТИНИЦЕ】
- 5回 ビデオ学習② 会話練習
- 6回 第8課① 【病気と健康】、【ЧТО У ВАС БОЛИТ?】
- 7回 第8課② 【必要性】、【可能】、【不可能】、【許可】、【禁止】
- 8回 第8課③ 【ЧТО ВЫ ДОЛЖНЫ СДЕЛАТЬ ЧЕРЕЗ НЕДЕЛЮ?】
- 9回 ビデオ学習③ 【ЗИМНЯЯ СЮИТА】
- 10回 ビデオ学習④ 会話練習【У ВРАЧА】
- 11回 ビデオ学習⑤ 作文【Я И СПОРТ】
- 12回 第9課① 【年齢】、【年月日の表現】、【КОГДА ВЫ РОДИЛИСЬ?】
- 13回 第9課② 【買い物】、【値段】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 30% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 中国2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上を目指す。「読解・解釈」と「文法・語法」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオ学習① 【В ГОСТЯХ】
- 2回 ビデオ学習② 会話練習【В ГОСТЯХ】
- 3回 ビデオ学習③ 作文【КАК ПРИГЛАШАЮТ В ГОСТИ В ЯПОНИИ】
- 4回 第10課①【モスクワの町】
- 5回 第10課②【関係代名詞 КОТОРЫЙ】、
【КАКАЯ ГОРА САМАЯ ВЫСОКАЯ?】
- 6回 第10課③【モスクワの町】、【単文と複文】
- 7回 第10課④【ことわざ】、【МОЙ РОДНОЙ ГОРОД】
- 8回 ビデオ学習④【ИСТОРИЯ С УЧЕБНИКОМ ИСТОРИИ】
- 9回 ビデオ学習⑤ 会話【В МАГАЗИНЕ】、【ПОКУПКА КНИГИ】
- 10回 ビデオ学習⑥ 作文
- 11回 読み物 【СОВЕТ ВРАЧА】
- 12回 読み物 【ДВА ТОВАРИЩА】
- 13回 読み物 【ЛЕГЕНДА ОБ АНГАРЕ】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 30% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語I【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じること。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ドイツの若者をビデオで見る【アルファベット・発音】
- 2回 自己紹介【動詞の現在人称変化(1)、名詞】
- 3回 英語の君は話すの?【動詞の現在人称変化(2)、数詞】
- 4回 あなたの名前は何か?【動詞の現在人称変化(2)、時刻】
- 5回 私は父にこの本を贈ります。【人称代名詞、家族】
- 6回 私の夫はオーストリア人です。【冠詞類、月・季節】
- 7回 君は今日、暇ですか?【定形の位置(1)、曜日】
- 8回 もし私に暇があれば、小倉へ行きます。【定形の位置(2)】
- 9回 母の代わりに父が料理をします。【前置詞(1)】
- 10回 私は明日、街へ行きます。【前置詞(2)】
- 11回 ここに車を停めることができますか?【話法の助動詞(1)】
- 12回 私はこの手紙を日本へ送りたいのですが。【話法の助動詞(2)】
- 13回 なぜ君はパーティーにいかなかったの?【動詞の3基本形(1)】
- 14回 私には熱がありました。【動詞の3基本形(2)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語II【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じることに。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオで「グリム兄弟の生涯」を見る。【(現在)完了形(1)】
- 2回 君は昨日何をしましたか？【(現在)完了形(2)】
- 3回 フランクフルト行きの列車はいつ発車するのですか？【分離動詞(1)】
- 4回 私はどこで下車しますか？【分離動詞(2)】
- 5回 私達はドイツのレストランへ行きます。【形容詞】
- 6回 私はベンチの上に座ります。【再帰動詞】
- 7回 雨が降っています。【esの用法】
- 8回 あなたが訪ねるその男性は私の友人です。【関係代名詞(1)】
- 9回 私が昨日見た映画は面白かった。【関係代名詞(2)】
- 10回 オーストリアではドイツ語が話されます。【受動(1)】
- 11回 山々は雪で覆われています。【受動(2)】
- 12回 夏にヨーロツパへ行く、と山下さんは言っています【接続法(1)】
- 13回 暇があれば、私もヨーロツパへ行くのになあ。【接続法(2)】
- 14回 ドイツ語を学ぶことは難しくありません。【分詞・zu不定詞】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じることに。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン 1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名前、出身、住所、挨拶。【規則動詞の現在人称変化、1・2人称、】
- 2回 名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
- 3回 紹介、数字、電話番号【3人称、数詞】
- 4回 各国の国名、車のナンバープレート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
- 5回 履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
- 6回 ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
- 7回 趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
- 8回 ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
- 9回 好物、外国料理【接続詞】
- 10回 ドイツの食事【頻度を表す副詞】
- 11回 家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、1(主)格】
- 12回 ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン 1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
- 2回 傘はドイツ語でなんと言うか【4(直接目的)格】
- 3回 住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の3格、】
- 4回 家賃はいくらですか、部屋の広さは
- 5回 時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
- 6回 日付、曜日、誕生日、今週の予定
- 7回 大学の建物、道案内、【副詞】
- 8回 交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
- 9回 休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
- 10回 ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
- 11回 過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
- 12回 クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語V 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 /Class クラス 中国2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ザビーネとパウルはハンブルクへ行きます。【時刻表】
- 2回 駅の券売窓口で。【列車の乗り換え】
- 3回 私達は注文したいのですが。【レストランで】
- 4回 部屋は空いていますか？【ホテルで】
- 5回 郵便局へはどう行けばいいですか？【道を教える】
- 6回 円をユーロに両替したいのですが。【銀行で】
- 7回 フライブルクはミュンヘンより暖かいです。【天気】
- 8回 ドイツの休暇の過ごし方。【長期休暇】
- 9回 どこが悪いのですか？【病気】
- 10回 頭痛に効く薬が欲しいのですが。【薬局で】
- 11回 君は彼女に何をプレゼントしますか？【贈り物】
- 12回 ドイツ人はお祝いをするのがとても好きです。【誕生祝い】
- 13回 ドイツ語でクロスワード遊び。
- 14回 一日の活動を日記に書く。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 中国2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 パーティーに何を着ますか？【服装】
- 2回 このグレーのスラックスはいいかがですか？【お店で】
- 3回 家庭のゴミはどのように分類しますか？【環境問題】
- 4回 ドイツの学校の環境プロジェクト。【無駄を省く】
- 5回 ここで犬を放してはいけません。【禁止】
- 6回 何歳になったら何ができますか？【選挙権】
- 7回 ドイツの学校制度。【教育】
- 8回 パン屋になるためには大学へ行く必要はありません。【資格】
- 9回 あなたは何に興味がありますか？【職業】
- 10回 イースターはなぜ特別なお祭りなのですか？【祝日】
- 11回 イースターのウサギが語ります【祭り】
- 12回 君はクリスマスを楽しみにしていますか？【年末】
- 13回 君達はクリスマスには何をしますか。【年末】
- 14回 クリスマスクッキーの作り方。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自己紹介、人の紹介、お礼をいうとき、お礼をいわれたとき
- 2回 人に会ったとき、人と別れるとき、知人に会ったとき、人と別れるとき
- 3回 軽く詫げて話しかけるとき、謝るとき、ちょっと席をはずすとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 人と別れるとき、相手の成功を祈るとき、お礼を言うとき
- 6回 相手の言うことが聞き取れないとき
- 7回 理解できないとき、単語が分からないとき、ドイツ語で何と言うか聞くととき
- 8回 綴りを聞くととき、英語の分る人を探すととき、いい直しをするとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 場所を聞くととき、道順・方向を聞くととき、距離を聞くととき
- 11回 時刻を聞くととき、時間を聞くととき、曜日を聞くととき、日付を聞くととき
- 12回 値段を聞くととき、数量を聞くととき、方法を聞くととき、理由を聞くととき
- 13回 目的を聞くととき、住所を聞くととき、出身地を聞くととき、生年月日を聞くととき
- 14回 ドイツのビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましよう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 中国2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『びっくり先進国ドイツ』 熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 事情を聞くとき、あることを頼むとき、人に何かを頼むとき
- 2回 両替を頼むとき、助力を求めるとき、助言を求めるとき
- 3回 服を買うとき、席・切符の予約をするとき、人に助言をするとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 相手の助言に応じるとき、相手の助言に応じられないとき、人を誘うとき
- 6回 自分の考え・意見を言うとき、相手の意見を聞くとき、相手の感想を聞くとき
- 7回 相手の発言・意見に同意するとき、関心事について言うとき、希望を言うとき
- 8回 予定・計画を言うとき、相手の都合が合わないとき、相手が気の毒な状態のとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 病状を言うとき、身体の具合を聞くとき、体調を言うとき
- 11回 会う日を相談するとき、会う場所を相談するとき、相手の都合を聞くとき
- 12回 自分の都合を説明するとき、場所と時間を確認するとき、招待に感謝するとき
- 13回 贈り物・お土産を渡すとき、飲み物を聞くとき、料理を勧めるとき
- 14回 ドイツビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語I【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

基礎文法の習得を目標とします。具体的には、簡単な文章を作るために必要な要素である名詞・代名詞・動詞・形容詞・冠詞・前置詞や、文の種類（肯定文、否定文、疑問文）を学びます。音声化を重視するのでつづり字の読み方を早く覚え、積極的に発音し、文を音で覚えるようにします。6月に実施される実用フランス語技能検定試験（仏検）5級を合格すれば成績Cを保証されます。その場合でも定期試験は必ず受けます。

教科書 /Textbooks

太田浩一他著 『フランス語文法の基礎』（白水社）2625円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 発音の方法とつづり字の読み方
- 2回 名詞・冠詞、エリズイオン
- 3回 人称代名詞1（主語） 動詞 <etre> と形容詞
- 4回 動詞 <avoir>、il y a 構文、否定文の作り方
- 5回 1群動詞 <-er> の活用
- 6回 疑問文1 疑問詞のない疑問文の作り方
- 7回 指示形容詞、所有形容詞
- 8回 中間まとめ
- 9回 動詞 <aller> 活用、前置詞の縮約形、近接未来形について
- 10回 動詞 <venir> 活用、前置詞の縮約形、近接過去形について
- 11回 疑問文2 疑問代名詞・疑問形容詞・疑問副詞を用いる疑問文の作り方
- 12回 2群動詞 <-ir> の活用
- 13回 比較級・最上級
- 14回 命令文、非人称構文
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験70%、平常の授業への取り組み30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語II 【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

一学期に引き続き文法の基礎知識を広げて表現力の充実を目標とします。具体的には、過去・未来時制・複文・代名詞などを学びます。11月の仏検4級を合格すると、成績Cが保証されます。その場合でも、定期試験は必ず受験します。

教科書 /Textbooks

太田浩一 他著 『フランス語文法の基礎』 (白水社)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期の復習
- 2回 人称代名詞(2)直接目的語、その語順
- 3回 人称代名詞(2)間接目的語、その後準
- 4回 直説法複合過去
- 5回 代名動詞
- 6回 中性代名詞
- 7回 直説法半過去
- 8回 複合過去復習
- 9回 半過去の復習
- 10回 代名動詞の複合過去
- 11回 複合過去と半過去の使い分け
- 12回 過去時制のまとめと復習
- 13回 単純未来
- 14回 関係代名詞
- 15回 現在分詞とジェロンティフ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験70%、平常の授業への取り組み30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。1学期は「実用フランス語検定5級」相当のフランス語力をつけることを目指します。

教科書 /Textbooks

『新・彼女は食いしん坊! 1』 (藤田裕二著 朝日出版社 ¥2520)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全12課、配列に従って原則各回1課進み、1学期で終了。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 フランス語の発音とつづり字
- 2回 国籍・職業をいう
- 3回 名前・持ち物をいう
- 4回 友人・家族を紹介する
- 5回 人・物を説明する
- 6回 電話をかける、近い未来・過去についていう
- 7回 人、物、場所、時についてたずねる
- 8回 食べ物・飲み物についていう
- 9回 時刻・天候をいう
- 10回 人・物を比較する
- 11回 人称代名詞目的語を使った表現
- 12回 過去のことを話す
- 13回 代名動詞を使った表現
- 14回 未来のことを話す
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 定期試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞典を各自用意すること。

遅くとも3回目の講義までには教科書を用意しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

連続して欠席すると、講義内容についていくのが困難となります。

正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

キーワード /Keywords

はじめて学ぶフランス語

フランス語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。2学期は「実用フランス語検定4級」相当のフランス語力をつけることを目指します。

教科書 /Textbooks

『彼女は食いしん坊！2 -フランス美味探訪の旅-』（藤田裕二著 朝日出版社 ￥2625）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全10課、配列に従って原則毎回3ページずつ進む。

Eメールの文章を中心に、文法、練習問題、聞き取りなどを通して、「読む」、「書く」、「聴く」、「話す」といった総合的な語学能力の習得を目指す。

- 1回 アルザス地方への旅
- 2回 複合過去を使った表現
- 3回 半過去と大過去を使った表現
- 4回 ブルゴーニュ地方への旅
- 5回 関係代名詞を使った表現
- 6回 現在分詞・ジェロンディフを使った表現
- 7回 ローヌ・アルプ地方への旅
- 8回 受動態の表現
- 9回 強調構文
- 10回 プロヴァンス地方への旅
- 11回 条件法を使った表現
- 12回 接続法の表現
- 13回 ブルターニュ地方への旅
- 14回 間接話法と時制の一致について
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 定期試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞典を各自用意すること。
教科書は1回目の講義から用意しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

1学期に最低1科目はフランス語の講義を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

キーワード /Keywords

フランスの地方料理を巡る旅、フランス語を生きた言葉として実感

フランス語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

1年時に習得した基礎文法を復習しながら、さらにフランス語表現力アップを目指します。同時にフランス社会や、その奥深い文化への知見を広げます。

教科書 /Textbooks

沼田五十六 他著 『カジュアルにフランス語2』（朝日出版社）2200円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 <avoir> を使う複合過去
- 2回 <etre> を使う複合過去
- 3回 代名動詞の復習
- 4回 代名動詞の複合過去
- 5回 中性代名詞の復習
- 6回 中性代名詞と人称代名詞
- 7回 単純未来
- 8回 前未来
- 9回 半過去の復習
- 10回 半過去と複合過去
- 11回 大過去
- 12回 現在分詞とジェロンディフ
- 13回 過去分詞のまとめ
- 14回 lecture (1)
- 15回 lecture (2)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験の結果70%、平常の授業への取り組み30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業中の発音練習では不十分なので、各自練習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 中国2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

基礎文法から、いよいよ中級文法の習得を完成する。法（モード）を学ぶことによって、表現力が確実にアップする。

教科書 /Textbooks

沼田五十六 他著 『カジュアルにフランス語2』（朝日出版社） 2200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 関係代名詞 qui,que,ou
- 2回 関係代名詞 dont
- 3回 時、理由を表す接続詞
- 4回 条件を表す接続詞
- 5回 条件法現在
- 6回 条件法過去
- 7回 接続法(1)
- 8回 接続法(2)
- 9回 直接話法と間接話法
- 10回 時制の一致
- 11回 単純過去
- 12回 手紙を書く
- 13回 lecture (1)
- 14回 lecture (2)
- 15回 知っておきたい動詞の復習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験の結果70%、平常の授業への取り組み30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VII 【昼】

担当者名 /Instructor ドゥラボード・ブランシュ / Blanche Delaborde / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

Ce cours a pour objectif de développer les capacités de l'étudiant à parler en français dans des situations courantes. L'accent sera mis sur l'acquisition d'un vocabulaire varié et le développement d'une expression fluide. Nous utiliserons comme support le manuel "En Scène I", ainsi que des documents extérieurs authentiques (vidéos, textes, etc.). Deux séances seront consacrées aux présentations faites en français par les étudiants à partir des phrases apprises durant le cours.
この授業の目標は、日常的なシーンでのフランス語会話を培うことです。語彙を増やし、ある程度のスピードでコミュニケーションがとれるよう、訓練することに重点を置きます。指定の教科書の他、様々な資料（テキスト、動画など）を使い授業を進めます。最後の2回の授業では、学習した表現を使って簡単な発表をしてもらう予定です。

教科書 /Textbooks

『EN SCENE I』（高橋百代、Nicolas Jégonday）三修社 2800 ¥

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 - Révisions des acquis de 1ère année 1年目の復習
- 2 - La communication en France フランスにおけるコミュニケーション
- 3 - Les salutations, se présenter (1) 挨拶、自己紹介 1
- 4 - Se présenter (2) 自己紹介 2
- 5 - Présenter quelqu'un 紹介する
- 6 - Les études et les loisirs 勉強と趣味
- 7 - La famille 家族
- 8 - Les objets 持ちもの
- 9 - La date et l'heure 日付と時刻
- 10 - L'expression du passé 過去の出来事
- 11 - L'expression du futur 未来の出来事
- 12 - Les expressions des jeunes 若者言葉
- 13 - Exposés 発表
- 14 - Exposés 発表
- 15 - Révisions まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 30% contrôles de vocabulaire 小テスト
- 30% exposé 発表
- 40% examen final 最終試験

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Il sera demandé chaque semaine d'apprendre par cœur une petite liste de vocabulaire de base. 毎週、語彙の小テストを行うので、準備してくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor ドウラボード・ブランシュ / Blanche Delaborde / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

Ce cours a pour objectif de développer les capacités de l'étudiant à parler en français dans des situations courantes. L'accent sera mis sur l'acquisition d'un vocabulaire varié et le développement d'une expression fluide. Nous utiliserons comme support le manuel "En Scène I", ainsi que des documents extérieurs authentiques (vidéos, textes, etc.). Deux séances seront consacrées aux présentations faites en français par les étudiants à partir des phrases apprises durant le cours.

この授業の目標は、日常的なシーンでのフランス語会話力を培うことです。語彙を増やし、ある程度のスピードでコミュニケーションがとれるよう、訓練することに重点を置きます。指定の教科書の他、様々な資料（テキスト、動画など）を使い授業を進めます。最後の2回の授業では、学習した表現を使って簡単な発表をしてもらう予定です。

教科書 /Textbooks

『EN SCENE I』（高橋百代、Nicolas Jégonday）三修社 2800 ¥

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 - Les aliments 食品
- 2 - La météo 天候
- 3 - La ville et l'université 街と大学
- 4 - Se repérer dans l'espace 位置関係
- 5 - L'humour français (1) フランスのユーモア 1
- 6 - L'humour français (2) フランスのユーモア 2
- 7 - Les bandes dessinées フランスのマンガ
- 8 - Le cinéma français フランスの映画
- 9 - La chanson française フランスのシャンソン
- 10 - Les relations hommes-femmes 男と女の関係性
- 11 - La vie en France フランスでの生活
- 12 - La culture japonaise en France フランスでの日本文化
- 13 - Exposés 発表
- 14 - Exposés 発表
- 15 - Révisions まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 30% contrôles de vocabulaire 小テスト
- 30% exposé 発表
- 40% examen final 最終試験

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Il sera demandé chaque semaine d'apprendre par cœur une petite liste de vocabulaire de base. 毎週、語彙の小テストを行うので、準備してくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語I【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 中国 1年

対象入学年度

/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

スペイン語を公用語とする国は、ヨーロッパに1つ、アフリカに1つ、中南米に19(含む1自治領)あり、その話者の数は、アメリカ合衆国にいる hispanicの人たちも含めると4億をはるかに超え、英語、中国語、ヒンズー語に続くと言われていています。ラテン語(ローマ帝国の言語)を起源とし、イタリア語、ポルトガル語、フランス語、ルーマニア語とともにロマンス語と呼ばれる仲間属します。コロンブスのアメリカ大陸発見(1492年)以降、スペイン語は中南米の植民地の言語になったので、現在のように多くの中南米の国で使われています。その特徴は、これだけ広い地域で用いられているのに、コミュニケーションの妨げになるほどの差がないことです。その広大な文化圏のドアを開けるための第1歩として、スペイン語の基礎を学びましょう。未知の世界が広がっていくはずで、具体的には、スペイン語の初級から中級程度の文法を学びながら基本的な表現をマスターします。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』(第2版)
青木文夫・辻博子・マリア エルナンデス(共著)、弘学社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞典：
スペイン語中辞典(小学館)
新スペイン語(研究社)
現代スペイン語辞典(白水社)
プログレッシブスペイン語辞典(小学館)
パスポート初級スペイン語辞典(白水社)
他多数有。
白水社の別の西和辞典(高橋編)は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。
和西辞典：
和西辞典(宮城、コントレラス監修：白水社)
クラウン和西辞典(三省堂)
その他
図説スペインの歴史(川成洋、中西省三編：河出書房新社)
スペインの歴史(立石、関、中川、中塚著：昭和堂)
スペイン(増田監修：新潮社)
スペインの社会(寿里、原編：早稲田大学出版)
スペインの政治(川成、奥島編：早稲田大学出版)
スペインの経済(戸門、原編：早稲田大学出版)
スペイン語とつきあう本(寿里著：東洋書店)
スペイン語基礎文法(口ボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション)
電子辞書も奨めます。辞書については最初の講義で詳しく説明するので、辞書の購入はそれまで待っててください。

スペイン語I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 導入：スペイン語とはこんな言語
- 2 発音の仕組み
- 3 発音の仕組み
- 4 発音の練習と簡単なテスト
- 5 性数の一致：冠詞と名詞
- 6 性数の一致：冠詞と名詞
- 7 規則動詞の現在形とその用法
- 8 規則動詞の現在形とその用法
- 9 規則動詞の現在形練習問題
- 10 規則動詞の現在形の活用
- 11 serとestarの活用と用法
- 12 serとestarの練習問題
- 13 serとestarの練習問題
- 14 serとestarの練習問題
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価（小テスト、口頭での答え、作文など）も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は下で述べる平常点を一切加味せず定期試験の点数だけで評価します。その1/3の条件を満たしている範囲での欠席は構いません。なお、クラブ活動など一切欠席届は認めません。

定期試験が60点以上ならば無条件で単位を認定しますが、60点を下回る場合にも平常点を加味して評価します。もちろん60点を超えている場合も平常点を加算して、成績を決めます。平常点は普通の教室でのやりとり（読む、書くなど）や小テストの点数を年間に亘って数値化します。その年度によって若干の差異はありますが、最大で30点くらいになるようにします。したがって、欠席が多い場合（例えば小テストを受けていないとか、授業中答えていないなど）で平常点が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

語学は基本的には演習科目なので出席は必要条件だけど、十分条件ではないので、そのことを自覚してしっかりと取り組んで欲しい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学、学習その他なんでも相談OKです！
メール：faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード /Keywords

スペイン語II 【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

初級から中級程度のスペイン語の文法と表現を学びながら、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします。具体的にはスペイン語Iのテキストの続きをある程度複雑な文や、スペイン語に独特な文を作れるようなレベルまで進みます。英語にない文のパターンも、最初は複雑だと思うかもしれませんが、慣れてくると簡潔な表現で多くの情報が伝わる面白さが理解できるでしょう。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』（第2版）青木・辻・エルナンデス共著 弘学社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図説スペインの歴史（川成洋、中西省三編：河出書房新社）
 スペインの歴史（立石、関、中川、中塚著：昭和堂）
 スペイン（増田監修：新潮社）
 スペインの社会（寿里、原編：早稲田大学出版）
 スペインの政治（川成、奥島編：早稲田大学出版）
 スペインの経済（戸門、原編：早稲田大学出版）
 スペイン語基礎文法（ロボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション）
 辞書についてはスペイン語Iで述べたのを参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 不規則動詞現在形の活用の仕組みと用法を中心に。
- 2回 不規則動詞現在形の活用の仕組みと用法を中心に。
- 3回 不規則動詞現在形の活用の仕組みと用法を中心に。
- 4回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 5回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 6回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 7回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 8回 日付の表現
- 9回 時刻
- 10回 天気表現
- 11回 不定語について
- 12回 スペイン語圏の国々について：視聴覚教材を用いて
- 13回 スペイン語圏の国々について：視聴覚教材を用いて
- 14回 まとめ
- 15回 スペイン語のさらなる習得に向けて

成績評価の方法 /Assessment Method

語学は基本的には演習科目なので出席は必要条件だけど、十分条件ではないので、そのことを自覚してしっかりと取り組んで欲しい。定期試験に授業中の評価（小テスト、口頭での答え、作文など）も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。定期試験に今述べた平常点を最大30点まで加算します。もちろん60点を超過している場合でも、平常点を加味して成績を算定します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

前期に比べて少し複雑な内容になると思いますが、ロマンス語（スペイン語、イタリア語、ポルトガル語、フランス語など）に共通する文法の基礎にもなるので、しっかりと取り組んで、将来の学習につなげましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール：faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

スペイン語の発音・読み方からはじめ、テキストの会話表現を学んでいきます。スペイン語の発音は日本語話者に易しいので、テキストの単語を発音しながらスペイン語の音に慣れましょう。
文法事項を押さえながら学ぶ会話表現なので、理解しやすくスペイン語の基礎固めになります。

教科書 /Textbooks

『コミュニケーションのためのスペイン語 (三訂版)』坂東省次 他著、2009、第三書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。
西和辞書については開講時に指示しますが、薦めるものとしては『クラウン西和辞典』三省堂2005、
『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語とスペイン語圏について、アルファベットの読み方
- 2回 発音とアクセント
- 3回 発音、挨拶 「お願いします」
- 4回 定冠詞、不定冠詞、hay 「空港に銀行はありますか」
- 5回 -ar動詞、否定文、疑問文I 「スペイン語を話しますか」
- 6回 数字1-100、動詞estar 「タクシー乗り場は何処ですか」
- 7回 動詞ir, dar 「どこに行きましようか」
- 8回 疑問文II、前置詞a
- 9回 estarとhayのまとめ
- 10回 形容詞 「感じのいい人たち」
- 11回 ser動詞、ser/estarと形容詞 「私はスペイン人です」
- 12回 ser/estarまとめ、時間表現 「何時ですか」
- 13回 -er動詞、-ir動詞 新聞は何処で売っていますか」
- 14回 所有詞 「アントニオは私の友人です」
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 70%、日常の授業への取り組み 30% (うち、小テストを行う場合は10%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

動詞の活用、既出単語などは授業前に覚えてきてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏

スペイン語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅲの続きから、更に表現を学んでいきます。Ⅲと同様、文法項目を押さえながら学ぶ会話表現です。理解したうえで聞き取り、会話表現を発展させていきます。

教科書 /Textbooks

Ⅲと同じテキストを使用。
(『コミュニケーションのためのスペイン語(三訂版)』坂東省次 他著、2009、第三書房)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞書についてはⅢの開講時に指示したものと同じです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Ⅲの復習、数字100-100.000
- 2回 語根母音変化動詞 「お勤めは何ですか」
- 3回 指示詞 「この果物は何ですか」
- 4回 間接目的格人称代名詞、感嘆文
- 5回 gustar構文 「頭が痛い」
- 6回 不規則動詞 「兄弟が二人います」
- 7回 不定詞の用法 「日曜の予約をしたい」
- 8回 直接目的格人称代名詞 「君にそれをあげる」
- 9回 命令(！) 「もう一度質問しなさい」
- 10回 再帰動詞 「何時に起きますか」
- 11回 「もう行っちゃうの」
- 12回 自己紹介 「私は石田です」
- 13回 現在分詞
- 14回 不定語と否定語
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ... 70% 日常の授業への取り組み ... 30% (うち、小テストを行う場合は10%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

動詞の活用、既出単語などは授業前に覚えてきてください

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語

スペイン語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 光博 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅰ・Ⅱを復習・継続し、初級の文法を完了します。

教科書 /Textbooks

スペイン語Ⅰ・Ⅱと同じ(青木・辻・マリア J. 共著『スペイン語で表現しよう』、弘学社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし。西和辞典又は電子辞書必携。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 接続法とは何か
- 2回 接続法現在・規則活用
- 3回 接続法現在・不規則活用
- 4回 接続法現在の用法
- 5回 命令法・命令形
- 6回 感嘆文
- 7回 比較級
- 8回 相対・絶対最上級
- 9回 不定詞を用いた放任・使役の動詞
- 10回 不定詞を用いた忠告・命令・許可・禁止の動詞
- 11回 SEの受身文
- 12回 SEの無人称文
- 13回 接続法の過去・現在完了・過去完了
- 14回 接続法の用法(独立文)
- 15回 接続法の例文

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

スペイン語Ⅰ・Ⅱを良く理解・学習しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

欠席は好ましくありません。

キーワード /Keywords

スペイン語圏

スペイン語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 光博 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

スペインの文化・風土・歴史などを織り込んだ中級程度のスペイン語の文章を読みます。スペイン語及びスペインに関する幅広い知識を身に付けます。

教科書 /Textbooks

青木文夫・辻光博共著『現代スペイン語：文法と表現』（弘学社）の、講読部分（別冊。500円）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。西和辞典又は電子辞書必携。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

* スペイン語講読・説明・解説

- 1回 第一課 【位置】
- 2回 第二課 【風土】
- 3回 第三課 【行政】
- 4回 第四課 【生活】
- 5回 第五課 【バルセローナ】
- 6回 第六課 【マドリード】
- 7回 第七課 【中世文学】
- 8回 第八課 【レコンキスタ】
- 9回 第九課前半 【古代ローマ治下】
- 10回 第九課後半 【イスラーム治下】
- 11回 第十課 【セビージャ】
- 12回 第十一課前半 【レコンキスタの完了】
- 13回 第十一課後半 【スペイン帝国】
- 14回 第十二課 【ドン・キホーテ】
- 15回 第十三課 【バスク自治州】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

スペイン語Ⅱ・Ⅴを良く理解・学習しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

欠席は好ましくありません。

キーワード /Keywords

古代ローマ帝国 イスラーム レコンキスタ

スペイン語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

前年度のスペイン語Ⅲ・Ⅳ(会話表現)を更に発展させていきます。スペイン語テキストの文法事項を押さえ、いろいろな場面に応じた会話表現を学んでいきます。また、適宜音声教材やDVD教材などを使用し、ネイティブの話すスペイン語理解(聞き取り)も行います。

教科書 /Textbooks

前年度と同じテキストを使用します。(『コミュニケーションのためのスペイン語 三訂版』坂東・仲井・太田・ガジェゴ共著、第三書房、2010、2版(三訂版)
他、プリント配布

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし。
辞書については開講時に指示します。西和辞書で薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、
『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前年度スペイン語Ⅲ・Ⅳの復習
- 2回 自己紹介、その他不規則動詞
- 3回 現在分詞、不定語と否定語「スペイン語を勉強しています。」
- 4回 過去分詞、現在完了「どうしましたか？」
- 5回 ser・estarの受身「泥棒は警察に逮捕された」
- 6回 接続法現在の活用
- 7回 接続法、名詞節「できたらこの本を送ってほしい」
- 8回 点過去「昨日パエージャを食べた」
- 9回 se受身、se 無人称「アパート貸します」
- 10回 線過去「昨日食事をしていたとき・・・」
- 11回 命令「口をあけて」
- 12回 比較「マリアは私より背が高い」
- 13回 相対・絶対最上級「高すぎる！」
- 14回 DVDなど視聴覚教材
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 60%、日常の授業への取り組み 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

辞書必携です。

履修上の注意 /Remarks

スペイン語初級(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

スペイン語Ⅷ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 中国2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅶを更に発展させていきます。いろいろな場面に応じた会話表現を学んでいきます。また、適宜音声教材やDVD教材などを使用し、ネイティブの話すスペイン語理解(聞き取り)も行います。

教科書 /Textbooks

スペイン語Ⅶと同じテキスト『スペイン語でコミュニケーション 三訂版』(坂東・仲井・太田・ガジェゴ共著、第三書房、2010、三訂版2版)をそのまま使用します。
他、プリントを配ります。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし。
辞書についてはスペイン語Ⅶに同じです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語Ⅶの復習
- 2回 関係詞「今朝来た人はなんていう名前？」
- 3回 関係副詞「バレンシアはよく米を食べる地域です」
- 4回 接続法の用法(形容詞節・副詞節)
- 5回 直説法未来「今度新しい車を買うだろう」
- 6回 直説法過去未来「昨日、今度新しい車を買うと言った」
- 7回 接続法過去「飛行機で旅行するよう勧めた」
- 8回 条件文「お金があったらもう一軒別荘を買うのに」
- 9回 短編教材と聞き取り
- 10回 短編教材と会話練習
- 11回 「自分の好きな有名人」
- 11回 「スペイン語圏で私が興味あること」
- 13回 スペイン語でDVDなどを見る(1)
- 14回 スペイン語でDVDなどを見る(2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 60% 日常の授業への取り組み 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

辞書必携です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語(I・II・III・IV・V・VII)の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

日本語 A 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Iでは、特に「大学生生活へのオリエンテーション」と「日本語発想力・表現力」に焦点を当てる。「大学生生活へのオリエンテーション」では、日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」を実際に体験しながら学ぶ。「日本語発想力・表現力」では、タスクを用いた自己発信型トレーニングにより、論理的思考力を伸ばす。

教科書 /Textbooks

『大学・大学院留学生のためのやさしい論理的思考トレーニング』(西隈俊哉、アルク)
『スタディスキルズ・トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○佐々木瑞枝他『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』The Japan Times

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 大学生生活(1)【高校・日本語学校と大学の違い・ 大学・学部・学科について学ぶ】
- 3回 大学生生活(2)【キャンパスツアー】
- 4回 論理的思考力(1)【大学生と論理的思考力・ リストアップする】
- 5回 大学生生活(3)【大学教員・ 職員との付き合い方】 論理的思考力(2)【マッピングする・ キーワードを繋げる】
- 6回 大学生生活(4)【図書館ツアー】
- 7回 大学生生活(5)【大学生生活のデザイン】 論理的思考力(3)【イラストから読み取ったことを表現する】
- 8回 大学生生活(6)【講義の上手な受け方】 論理的思考力(4)【定義をする】
- 9回 大学生生活(7)【演習に参加するコツ】 論理的思考力(5)【日本語の語順に沿って考える・ 時間軸に沿って考える】
- 10回 チュートリアル(1)【学習計画】
- 11回 チュートリアル(2)【振り返り】
- 12回 チュートリアル(3)【修正】
- 13回 チュートリアル(4)【評価】
- 14回 大学生生活(8)【大学の定期試験】 論理的思考力(6)【主張に理由や具体例を加えて表現する・ 論理的に考えて表現する】
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 30 %
ポートフォリオ評価 ... 70%(学習者評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。

履修上の注意 /Remarks

日本語Iと日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活日本語 大学生生活日本語 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) 日本語表現力

日本語 A 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Iでは、特に「大学生活へのオリエンテーション」と「日本語発想力・表現力」に焦点を当てる。「大学生活へのオリエンテーション」では、日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」を実際に体験しながら学ぶ。「日本語発想力・表現力」では、タスクを用いた自己発信型トレーニングにより、論理的思考力を伸ばす。

教科書 /Textbooks

『大学・大学院留学生のためのやさしい論理的思考トレーニング』(西隈俊哉、アルク)
『スタディスキルズ: トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○佐々木瑞枝他『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』The Japan Times

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 大学生生活(1)【高校・日本語学校と大学の違い・ 大学・学部・学科について学ぶ】
- 3回 大学生生活(2)【キャンパスツアー】
- 4回 論理的思考力(1)【大学生と論理的思考力・ リストアップする】
- 5回 大学生生活(3)【大学教員・ 職員との付き合い方】 論理的思考力(2)【マッピングする・ キーワードを繋げる】
- 6回 大学生生活(4)【図書館ツアー】
- 7回 大学生生活(5)【大学生生活のデザイン】 論理的思考力(3)【イラストから読み取ったことを表現する】
- 8回 大学生生活(6)【講義の上手な受け方】 論理的思考力(4)【定義をする】
- 9回 大学生生活(7)【演習に参加するコツ】 論理的思考力(5)【日本語の語順に沿って考える・ 時間軸に沿って考える】
- 10回 チュートリアル(1)【学習計画】
- 11回 チュートリアル(2)【振り返り】
- 12回 チュートリアル(3)【修正】
- 13回 チュートリアル(4)【評価】
- 14回 大学生生活(8)【大学の定期試験】 論理的思考力(6)【主張に理由や具体例を加えて表現する・ 論理的に考えて表現する】
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 30 %
ポートフォリオ評価 ... 70%(学習者評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。

履修上の注意 /Remarks

日本語Iと日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活日本語 大学生生活日本語 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) 日本語表現力

日本語 A 【昼】

担当者名 /Instructor 中山 亜紀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業では、「大学生活」をテーマに文章を読みます。そして、読解した内容について話し合ったり、自分の経験について振り返ったりします。

文章を読むことによって、日本語読解の基礎知識の底上げを図ります。

そして、ある文章を深く読むことによって、作者の主張と自分の体験や知識を照らし合わせ、批判的、反省的に読む体験をします。

また、グループで多くの活動を行うことによって、日本語での口頭活動も確保し、さらに、仲間に伝わるように日本語を話す能力、協同で活動する能力を養成します。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩波書店編集部『大学活用法』2000年 岩波ジュニア新書 882円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション お互いに知り合う
- 第2回 大学生活についての読解 1
- 第3回 読んできた内容について話し合う 1
- 第4回 大学生活についての読解 2
- 第5回 読んできた内容について話し合う
- 第6回 図式化して理解する
- 第7回 大学生活についての読解 3
- 第8回 読んできた内容について話し合う
- 第9回 大学生活についての読解 4
- 第10回 読んできた内容について話し合う
- 第11回 先輩の大学生活についてインタビューする
- 第12回 インタビューの内容についてまとめる
- 第13回 インタビューの内容を発表する
- 第14回 自分の大学生活について考える

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出30 期末テスト40 授業への参加30 授業を1 / 3以上欠席したのものには単位を与えない

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習をし、ワークシートに記入してくること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語 A 【昼】

担当者名 /Instructor 中山 亜紀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業では、「大学生活」をテーマに文章を読みます。そして、読解した内容について話し合ったり、自分の経験について振り返ったりします。
文章を読むことによって、日本語読解の基礎知識の底上げを図ります。
そして、ある文章を深く読むことによって、作者の主張と自分の体験や知識を照らし合わせ、批判的、反省的に読む体験をします。
また、グループで多くの活動を行うことによって、日本語での口頭活動も確保し、さらに、仲間に伝わるように日本語を話す能力、協同で活動する能力を養成します。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩波書店編集部『大学活用法』2000年 岩波ジュニア新書 882円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション お互いに知り合う
- 第2回 大学生活についての読解 1
- 第3回 読んできた内容について話し合う 1
- 第4回 大学生活についての読解 2
- 第5回 読んできた内容について話し合う
- 第6回 図式化して理解する
- 第7回 大学生活についての読解 3
- 第8回 読んできた内容について話し合う
- 第9回 大学生活についての読解 4
- 第10回 読んできた内容について話し合う
- 第11回 先輩の大学生活についてインタビューする
- 第12回 インタビューの内容についてまとめる
- 第13回 インタビューの内容を発表する
- 第14回 自分の大学生活について考える

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出30 期末テスト40 授業への参加30 授業を 1 / 3 以上欠席したのものには単位を与えない

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習をし、ワークシートに記入してくること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語 B 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を滋養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語IIIでは、大学生に求められる日本語文章表現能力の育成を目指す。具体的には、TAE(THINKING AT THE EDGE)を用い日常的な身体感覚を日本語で展開できるようになることを目標とする。留学生にとっては、第二言語である日本語で自己表現を行うためには、自己の身体感覚を第二言語で言語化する経験が重要となる。

教科書 /Textbooks

『TAEによる文章表現ワークブック』(得丸さと子、図書文化)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション
TAE「ウォーミングアップ編」【フェルトセンス】【リラクスのワーク】
- 2回 「ウォーミングアップ編」【色模様のワーク】
- 3回 「ウォーミングアップ編」【オノマトペのワーク】
- 4回 「ウォーミングアップ編」【比喩のワーク】
- 5回 「ウォーミングアップ編」【花束のワーク】
- 6回 「初級編」【コツのワーク】【共同詩のワーク】
- 7回 「初級編」【励ます言葉のワーク】
- 8回 「初級編」【マイセンテンス】
- 9回 「中級編」【パターンを見つける】
- 10回 「中級編」【パターンを交差させる】
- 11回 「中級編」【自己PR文を作ろう】
- 12回 「中級編」【資料を使って論じよう】
- 13回 「中級編」【経験から論じよう】
- 14回 「中級編」【感想文を書こう】
- 15回 評価【学びを振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み・・・30% 発表・課題・・・30% 自己評価...20% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。日頃から、身体や気持ちの感覚に注意を払っててください。

履修上の注意 /Remarks

日本語IとIIIは授業内容の関連が深いので同時受講が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

TAE 身体を感じ

日本語 B 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を滋養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語IIIでは、大学生に求められる日本語文章表現能力の育成を目指す。具体的には、TAE(THINKING AT THE EDGE)を用い日常的な身体感覚を日本語で展開できるようになることを目標とする。留学生にとっては、第二言語である日本語で自己表現を行うためには、自己の身体感覚を第二言語で言語化する経験が重要となる。

教科書 /Textbooks

『TAEによる文章表現ワークブック』(得丸さと子、図書文化)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション
TAE「ウォーミングアップ編」【フェルトセンス】【リラクスのワーク】
- 2回 「ウォーミングアップ編」【色模様のワーク】
- 3回 「ウォーミングアップ編」【オノマトペのワーク】
- 4回 「ウォーミングアップ編」【比喩のワーク】
- 5回 「ウォーミングアップ編」【花束のワーク】
- 6回 「初級編」【コツのワーク】【共同詩のワーク】
- 7回 「初級編」【励ます言葉のワーク】
- 8回 「初級編」【マイセンテンス】
- 9回 「中級編」【パターンを見つける】
- 10回 「中級編」【パターンを交差させる】
- 11回 「中級編」【自己PR文を作ろう】
- 12回 「中級編」【資料を使って論じよう】
- 13回 「中級編」【経験から論じよう】
- 14回 「中級編」【感想文を書こう】
- 15回 評価【学びを振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み・・・30% 発表・課題・・・30% 自己評価...20% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。日頃から、身体や気持ちの感覚に注意を払っててください。

履修上の注意 /Remarks

日本語IとIIIは授業内容の関連が深いので同時受講が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

TAE 身体を感じ

日本語 B 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を滋養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Bでは、大学生に求められる日本語文章表現能力の育成を目指し、2つの授業内容を並行する。一つは、TAE(THINKING AT THE EDGE)を用い、日常的な身体感覚を日本語で展開できるようになることを目標とする。留学生にとっては、第二言語である日本語で自己表現を行うためには、自己の身体感覚を第二言語で言語化する経験が重要となる。もう一つは、論理的な文章表現能力である。独りよがりの表現にならないようにするためには、コミュニケーションを通して課題発見解決能力と批判的思考力を共に育成することが欠かせない。

教科書 /Textbooks

- 『TAEによる文章表現ワークブック』(得丸さと子、図書文化)
- 『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション - プレゼンテーションとライティング』(大島弥生他、ひつじ書房)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』(二通信子他、東京大学出版会)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

< 清水担当回 >	< 小林担当回 >
1回 授業オリエンテーション TAE「ウォーミングアップ編」【フェルトセンス】	1回 授業オリエンテーション
2回 「ウォーミングアップ編」【色模様のワーク】	2回 自己PR(1)【自分を伝える】
3回 「ウォーミングアップ編」【オノマトペのワーク】	3回 自己PR(2)【情報を整理する】
4回 「ウォーミングアップ編」【比喩のワーク】	4回 自己PR(3)【スピーチの準備をする】
5回 「ウォーミングアップ編」【花束のワーク】	5回 自己PR(4)【スピーチをする】
6回 「初級編」【コツのワーク】【共同詩のワーク】	6回 自己PR(5)【志望動機書 / 学習計画書を読みあう】
7回 「初級編」【励ます言葉のワーク】	7回 ブックトーク(1)【情報を探す】
8回 「初級編」【マイセンテンス】	8回 ブックトーク(2)【情報を読んで伝える】
9回 「中級編」【パターンを見つける】	9回 ブックトーク(3)【アウトラインを書く】
10回 「中級編」【パターンを交差させる】	10回 ブックトーク(4)【ポスター発表を準備する】
11回 「中級編」【自己PR文を作ろう】	11回 ブックトーク(5)【発表する】
12回 「中級編」【資料を使って論じよう】	12回 ブックレポート(1)【情報を引用する】
13回 「中級編」【経験から論じよう】	13回 ブックレポート(2)【内容を検討する】
14回 「中級編」【感想文を書こう】	14回 ブックレポート(3)【表現や形式を点検する】
15回 評価【学びを振り返る】	15回 評価【学びを振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み・・・30% 発表・課題・・・30% 自己評価...20% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日頃から、身体や気持ちの感覚に注意を払っててください。

履修上の注意 /Remarks

日本語AとBは授業内容の関連が深いので同時受講が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ノートテイキング デイバート TAE 身体を感じ

日本語 B 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を滋養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Bでは、大学生に求められる日本語文章表現能力の育成を目指し、2つの授業内容を並行する。一つは、TAE(THINKING AT THE EDGE)を用い、日常的な身体感覚を日本語で展開できるようになることを目標とする。留学生にとっては、第二言語である日本語で自己表現を行うためには、自己の身体感覚を第二言語で言語化する経験が重要となる。もう一つは、論理的な文章表現能力である。独りよがりの表現にならないようにするためには、コミュニケーションを通して課題発見解決能力と批判的思考力を共に育成することが欠かせない。

教科書 /Textbooks

- 『TAEによる文章表現ワークブック』(得丸さと子、図書文化)
- 『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション - プレゼンテーションとライティング』(大島弥生他、ひつじ書房)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』(二通信子他、東京大学出版会)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

< 清水担当回 >	< 小林担当回 >
1回 授業オリエンテーション TAE「ウォーミングアップ編」【フェルトセンス】	1回 授業オリエンテーション
2回 「ウォーミングアップ編」【色模様のワーク】	2回 自己PR(1)【自分を伝える】
3回 「ウォーミングアップ編」【オノマトペのワーク】	3回 自己PR(2)【情報を整理する】
4回 「ウォーミングアップ編」【比喩のワーク】	4回 自己PR(3)【スピーチの準備をする】
5回 「ウォーミングアップ編」【花束のワーク】	5回 自己PR(4)【スピーチをする】
6回 「初級編」【コツのワーク】【共同詩のワーク】	6回 自己PR(5)【志望動機書 / 学習計画書を読みあう】
7回 「初級編」【励ます言葉のワーク】	7回 ブックトーク(1)【情報を探す】
8回 「初級編」【マイセンテンス】	8回 ブックトーク(2)【情報を読んで伝える】
9回 「中級編」【パターンを見つける】	9回 ブックトーク(3)【アウトラインを書く】
10回 「中級編」【パターンを交差させる】	10回 ブックトーク(4)【ポスター発表を準備する】
11回 「中級編」【自己PR文を作ろう】	11回 ブックトーク(5)【発表する】
12回 「中級編」【資料を使って論じよう】	12回 ブックレポート(1)【情報を引用する】
13回 「中級編」【経験から論じよう】	13回 ブックレポート(2)【内容を検討する】
14回 「中級編」【感想文を書こう】	14回 ブックレポート(3)【表現や形式を点検する】
15回 評価【学びを振り返る】	15回 評価【学びを振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み・・・30% 発表・課題・・・30% 自己評価...20% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日頃から、身体や気持ちの感覚に注意を払っててください。

履修上の注意 /Remarks

日本語AとBは授業内容の関連が深いので同時受講が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ノートテイキング デイバート TAE 身体を感じ

日本語C 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語IVでは、特に「読むこと」に焦点を当てる。タスクを用いた読解トレーニングにより、論理的思考力を伸ばすことと、ピア・リーディングによる読み方の変化と読みにおける他者の存在の有用性に気付くことで、留学生一人一人に「日本語で読むこととは何か」を問いかける。また、日本語Iに続き、アカデミックなスタディスキルの練習を行う。

教科書 /Textbooks

『大学・大学院留学生のためのやさしい論理的思考トレーニング』(西隈俊哉、アルク)
『スタディスキルズ: トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○一橋大学留学生センター『留学生のためのストラテジーを使って学ぶ文章の読み方』スリーエーネットワーク

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 大学生に求められる読む力・自己評価
- 3回 絵やイラストを読む・表やグラフを読み取る
- 4回 表やグラフ以外のものを読み取る
- 5回 マッピングしながら読む・図解で考える
- 6回 文章を読んで図や表にする
- 7回 登場人物になったつもりで読む・どちらがいいかを考えながら読む
- 8回 理由を考えながら読む・前後の文脈から推論しながら読む
- 9回 資料を探す(スキミングとスキミング)
- 10回 資料を読む(批判的な読み方)
- 11回 レポートの特徴・ブックレポートを書く
- 12回 レジюмеを作成する
- 13回 パソコンを使ったプレゼン・ポスターを使ったプレゼン
- 14回 日本語で読むことと自分について考える
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...30%
ポートフォリオ評価 ...70%(自己評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する予定である。

履修上の注意 /Remarks

日本語IVと日本語VIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論理的思考 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) ピア・リーディング スタディスキル

日本語C 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語IVでは、特に「読むこと」に焦点を当てる。タスクを用いた読解トレーニングにより、論理的思考力を伸ばすことと、ピア・リーディングによる読み方の変化と読みにおける他者の存在の有用性に気付くことで、留学生一人一人に「日本語で読むこととは何か」を問いかける。また、日本語Iに続き、アカデミックなスタディスキルの練習を行う。

教科書 /Textbooks

『大学・大学院留学生のためのやさしい論理的思考トレーニング』(西隈俊哉、アルク)
『スタディスキルズ: トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○一橋大学留学生センター『留学生のためのストラテジーを使って学ぶ文章の読み方』スリーエーネットワーク

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 大学生に求められる読む力・自己評価
- 3回 絵やイラストを読む・表やグラフを読み取る
- 4回 表やグラフ以外のものを読み取る
- 5回 マッピングしながら読む・図解で考える
- 6回 文章を読んで図や表にする
- 7回 登場人物になったつもりで読む・どちらがいいかを考えながら読む
- 8回 理由を考えながら読む・前後の文脈から推論しながら読む
- 9回 資料を探す(スキミングとスキミング)
- 10回 資料を読む(批判的な読み方)
- 11回 レポートの特徴・ブックレポートを書く
- 12回 レジюмеを作成する
- 13回 パソコンを使ったプレゼン・ポスターを使ったプレゼン
- 14回 日本語で読むことと自分について考える
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...30%
ポートフォリオ評価 ...70%(自己評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する予定である。

履修上の注意 /Remarks

日本語IVと日本語VIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論理的思考 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) ピア・リーディング スタディスキル

日本語C 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業では、「学び」をテーマに文章を読みます。そして、読解した内容について話し合ったり、自分の経験について振り返ったりします。文章を読むことによって、日本語読解の基礎知識の底上げを図ります。そして、いくつかの文章を深く読むことによって、それぞれの筆者の意見を比較したり、自分の体験や知識を照らし合わせ、批判的、反省的に読む体験をします。また、グループで多くの活動を行うことによって、日本語での口頭活動も確保し、さらに、仲間に伝わるように日本語を話す能力、協力で活動する能力を養成します。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配ります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

渡部信一 (2005) 『ロボット化する子どもたち-「学び」の認知科学』大修館書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション お互いに知り合う
- 第2回 「学び」についての読解1
- 第3回 読んできた内容について話し合う1
- 第4回 「学び」についての読解2
- 第5回 読んできた内容について話し合う
- 第6回 比較してみよう
- 第7回 「学び」についての読解3
- 第8回 読んできた内容について話し合う
- 第9回 引用の仕方
- 第10回 「学び」についての読解4
- 第11回 読んできた内容について話し合う
- 第12回 図式化してみよう
- 第13回 自分の学びを振り返る
- 第14回 よく学べる環境とはどんな環境なのか話し合う
- 第15回 話し合う

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出30 期末テスト40 授業への参加30 授業を1 / 3以上欠席したのものには単位を与えない

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習をしてこよう

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語C 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業では、「学び」をテーマに文章を読みます。そして、読解した内容について話し合ったり、自分の経験について振り返ったりします。文章を読むことによって、日本語読解の基礎知識の底上げを図ります。そして、いくつかの文章を深く読むことによって、それぞれの筆者の意見を比較したり、自分の体験や知識を照らし合わせ、批判的、反省的に読む体験をします。また、グループで多くの活動を行うことによって、日本語での口頭活動も確保し、さらに、仲間に伝わるように日本語を話す能力、協力で活動する能力を養成します。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配ります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

渡部信一 (2005) 『ロボット化する子どもたち-「学び」の認知科学』大修館書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション お互いに知り合う
- 第2回 「学び」についての読解1
- 第3回 読んできた内容について話し合う1
- 第4回 「学び」についての読解2
- 第5回 読んできた内容について話し合う
- 第6回 比較してみよう
- 第7回 「学び」についての読解3
- 第8回 読んできた内容について話し合う
- 第9回 引用の仕方
- 第10回 「学び」についての読解4
- 第11回 読んできた内容について話し合う
- 第12回 図式化してみよう
- 第13回 自分の学びを振り返る
- 第14回 よく学べる環境とはどんな環境なのか話し合う
- 第15回 話し合う

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出30 期末テスト40 授業への参加30 授業を1 / 3以上欠席したのものには単位を与えない

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習をしてこよう

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語D 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を滋養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIでは、前半で『留学生のための懸賞論文コンクール』に応募するための小論文をピア・レスポンスで作成する。自分の意見を、ピア(仲間の学習者)同士で話し合い、書いたものが読み手によく伝わるように遂行する。後半では、スタディスキルのうちの聴解に焦点をしばり、聞き取りや講義を聴く技術、ノートテイキングを行う。さらに、音読発音練習として、シャドーイングを随時取り入れる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『聴解・発表ワークブック』(犬飼康弘、スリーエーネットワーク)
- 『シャドーイングで日本語発音レッスン』(戸田貴子、スリーエーネットワーク)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション
- 2回 小論文①【マッピングでテーマを決める】
- 3回 小論文②【アウトラインを書く】
- 4回 小論文③【ピア・レスポンスで推敲する】
- 5回 聞き取り【音の変化】【キーワード】
- 6回 講義を聴く①【新聞】
- 7回 講義を聴く②【まなごしの心理学】
- 8回 メモを取る【記号・略語】
- 9回 発表の構成を知る【序・本・結】
- 10回 発表を聞いてメモを取る①【グラフの読み取り】
- 11回 ピア・ノートテイキング【ノートの使い方】
- 12回 メモを見て発表を再現する【発表の表現】
- 13回 シャドーイング①【音読】【マンプリング】
- 14回 シャドーイング②【パラレル・リーディング】
- 15回 総括【自己評価・ピア評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み・・・30% 課題・レポート・発表・・・30% 自己評価...20% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。自分が履修している授業でそれぞれどのように聞き取り、ノートを取っているか意識しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

日本語IVとVIは授業内容の関連が深いので同時受講が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ピア・レスポンス ノートテイキング シャドーイング

日本語D 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を滋養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIでは、前半で『留学生のための懸賞論文コンクール』に応募するための小論文をピア・レスポンスで作成する。自分の意見を、ピア(仲間の学習者)同士で話し合い、書いたものが読み手によく伝わるように遂行する。後半では、スタディスキルのうちの聴解に焦点をしぼり、聞き取りや講義を聴く技術、ノートテイキングを行う。さらに、音読発音練習として、シャドーイングを随時取り入れる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『聴解・発表ワークブック』(犬飼康弘、スリーエーネットワーク)
- 『シャドーイングで日本語発音レッスン』(戸田貴子、スリーエーネットワーク)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション
- 2回 小論文①【マッピングでテーマを決める】
- 3回 小論文②【アウトラインを書く】
- 4回 小論文③【ピア・レスポンスで推敲する】
- 5回 聞き取り【音の変化】【キーワード】
- 6回 講義を聴く①【新聞】
- 7回 講義を聴く②【まなごしの心理学】
- 8回 メモを取る【記号・略語】
- 9回 発表の構成を知る【序・本・結】
- 10回 発表を聞いてメモを取る①【グラフの読み取り】
- 11回 ピア・ノートテイキング【ノートの使い方】
- 12回 メモを見て発表を再現する【発表の表現】
- 13回 シャドーイング①【音読】【マンプリング】
- 14回 シャドーイング②【パラレル・リーディング】
- 15回 総括【自己評価・ピア評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み・・・30% 課題・レポート・発表・・・30% 自己評価...20% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

自分が履修している授業でそれぞれどのように聞き取り、ノートを取っているか意識しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。
日本語IVとVIは授業内容の関連が深いので同時受講が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ピア・レスポンス ノートテイキング シャドーイング

日本語D 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス 留学生1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を滋養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。

日本語Dでは、2つの授業目標を持つ。

まず、日本語で書くことを中心とする。特に、論拠を基に意見を述べる「論証型レポート」を作成することを目標とする。レポートを作成しながら課題に取り組むことで、日本語表現の学習だけではなく、構想からレポートの完成に至る一連の過程を学ぶ。授業ではピア(仲間)活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聴くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

もう一つは、この授業では、前半で『留学生のための懸賞論文コンクール』に応募するための小論文をピア・レスポンスで作成する。自分の意見を、ピア(仲間の学習者)同士で話し合い、書いたものが読み手によく伝わるように推敲する。後半では、スタディスキルのうちの聴解に焦点を絞り、聞き取りや講義を聴く技術、ノートテイキングを行う。さらに、音読発音練習として、シャドーイングを随時取り入れる。

教科書 /Textbooks

<小林担当分>『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』(大島弥生他、ひつじ書房)
<清水担当分>なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポートの組み立て方』(木下是雄、筑摩書房)
- 『聴解・発表ワークブック』(犬飼康弘、スリーエーネットワーク)
- 『シャドーイングで日本語発音レッスン』(戸田貴子、スリーエーネットワーク)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

< 清水担当回 >	< 小林担当回 >
1回 オリエンテーション	1回 授業の目的及び必要性【知る】【課題の条件を確認する】
2回 小論文①【マッピングでテーマを決める】	2回 レポートとは何か【論証型レポート】【根拠の大切さ】
3回 小論文②【アウトラインを書く】	3回 レポートのテーマを考える【構想マップ】【思考マップ】
4回 小論文③【ピア・レスポンスで推敲する】	4回 情報をカード化する【情報の信頼性】【テーマを練る】
5回 聞き取り【音の変化】【キーワード】	5回 目標を仮に規定する【情報の整理】
6回 講義を聞く①【新聞】	6回 目標を仮に規定する【絞る】【テーマを練る】
7回 講義を聞く②【まなごしの心理学】	7回 アウトラインを作る【序論・本論・結論】
8回 メモをとる【記号・略語】	8回 アウトラインを作る【組み立てる】
9回 発表の構成を知る【序・本・結】	9回 パラグラフライティング【中心文】
10回 発表を聞いてメモをとる①【グラフの読み取り】	10回 パラグラフライティング【説明文・指示文】
11回 ピア・ノートテイキング【ノートの使い方】	11回 パラグラフライティング【引用文献リスト】
12回 メモを見て発表を再現する【発表の表現】	12回 レポートの完成【文章の点検】【校正】
13回 シャドーイング①【音読】【マンプリング】	13回 発表を準備する【発表の意義・レジュメの作成】【練習】
14回 シャドーイング②【パラレル・リーディング】	14回 発表する【話し手】【聞き手】
15回 総括【自己評価・ピア評価】	15回 学習プロセスを振り返る【自己評価・ピア評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...30% 課題・レポート・発表...30% 自己評価...20% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日頃から時事問題に関心を持ち、それに対して自分の意見を考えていてください。
自分が履修している授業でそれぞれどのように聞き取り、ノートを取っているか意識しておいてください。

日本語D 【昼】

履修上の注意 /Remarks

日本語C及びDは、授業内容の関連性が深いので同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論証型レポート ピア・ラーニング 論理的思考 小論文 ノートテイキング シャドーイング

日本語D 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス 留学生1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を滋養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。

日本語Dでは、2つの授業目標を持つ。

まず、日本語で書くことを中心とする。特に、論拠を基に意見を述べる「論証型レポート」を作成することを目標とする。レポートを作成しながら課題に取り組むことで、日本語表現の学習だけではなく、構想からレポートの完成に至る一連の過程を学ぶ。授業ではピア(仲間)活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聴くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

もう一つは、この授業では、前半で『留学生のための懸賞論文コンクール』に応募するための小論文をピア・レスポンスで作成する。自分の意見を、ピア(仲間の学習者)同士で話し合い、書いたものが読み手によく伝わるように推敲する。後半では、スタディスキルのうちの聴解に焦点を絞り、聞き取りや講義を聴く技術、ノートテイキングを行う。さらに、音読発音練習として、シャドーイングを随時取り入れる。

教科書 /Textbooks

<小林担当分>『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』(大島弥生他、ひつじ書房)
<清水担当分>なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポートの組み立て方』(木下是雄、筑摩書房)
- 『聴解・発表ワークブック』(犬飼康弘、スリーエーネットワーク)
- 『シャドーイングで日本語発音レッスン』(戸田貴子、スリーエーネットワーク)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

< 清水担当回 >	< 小林担当回 >
1回 オリエンテーション	1回 授業の目的及び必要性【知る】【課題の条件を確認する】
2回 小論文①【マッピングでテーマを決める】	2回 レポートとは何か【論証型レポート】【根拠の大切さ】
3回 小論文②【アウトラインを書く】	3回 レポートのテーマを考える【構想マップ】【思考マップ】
4回 小論文③【ピア・レスポンスで推敲する】	4回 情報をカード化する【情報の信頼性】【テーマを練る】
5回 聞き取り【音の変化】【キーワード】	5回 目標を仮に規定する【情報の整理】
6回 講義を聞く①【新聞】	6回 目標を仮に規定する【絞る】【テーマを練る】
7回 講義を聞く②【まなごしの心理学】	7回 アウトラインを作る【序論・本論・結論】
8回 メモをとる【記号・略語】	8回 アウトラインを作る【組み立てる】
9回 発表の構成を知る【序・本・結】	9回 パラグラフライティング【中心文】
10回 発表を聞いてメモをとる①【グラフの読み取り】	10回 パラグラフライティング【説明文・指示文】
11回 ピア・ノートテイキング【ノートの使い方】	11回 パラグラフライティング【引用文献リスト】
12回 メモを見て発表を再現する【発表の表現】	12回 レポートの完成【文章の点検】【校正】
13回 シャドーイング①【音読】【マンプリング】	13回 発表を準備する【発表の意義・レジュメの作成】【練習】
14回 シャドーイング②【パラレル・リーディング】	14回 発表する【話し手】【聞き手】
15回 総括【自己評価・ピア評価】	15回 学習プロセスを振り返る【自己評価・ピア評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...30% 課題・レポート・発表...30% 自己評価...20% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日頃から時事問題に関心を持ち、それに対して自分の意見を考えていてください。
自分が履修している授業でそれぞれどのように聞き取り、ノートを取っているか意識しておいてください。

日本語D 【昼】

履修上の注意 /Remarks

日本語C及びDは、授業内容の関連性が深いので同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論証型レポート ピア・ラーニング 論理的思考 小論文 ノートテイキング シャドーイング

日本事情 (人文) A 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

日本事情(人文)Aでは、「歌舞伎」を日本語で学ぶことを通して、日本社会・日本文化・日本人を理解する視点を獲得。歌舞伎に関する読み物を読み、歌舞伎鑑賞を行い、クラス内で議論し、レポートにまとめていく。それらの過程で一人ひとりが、改めてそれぞれの文化を見つめ直し、気づきを得ることをねらいとする。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『歌舞伎入門事典』(和角仁・樋口和宏・雄山閣出版)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 歌舞伎の歴史・江戸の町について
- 3回 歌舞伎鑑賞(1)【大序】
- 4回 登場人物造形(1)【高師直・若狭之助】
- 5回 歌舞伎鑑賞(2)【三段目】
- 6回 登場人物造形(2)【塩治判官】
- 7回 歌舞伎鑑賞(3)【四段目】
- 8回 切腹と武士道
- 9回 博多座6月大歌舞伎鑑賞
- 10回 振り返り
- 11回 忠臣蔵の世界観(1)
- 12回 忠臣蔵の世界観(2)
- 13回 現代日本を考える【インタビュー発表】
- 14回 歌舞伎と外国人・歌舞伎が外国へ与えた影響
- 15回 総括【文化継承の視点から私たちにできること】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 50% 自己評価 ... 30% ピア評価 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

6月中に一度、博多座へ歌舞伎鑑賞に行きます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歌舞伎 日本文化 自文化

日本事情 (人文) B 【昼】

担当者名 家根橋 伸子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

日本事情(人文)Bでは、現代日本社会・文化事情についての様々なトピックを通して、前期「日本事情(人文)A」同様、日本社会・日本文化・日本人を理解する視点を得る。前半は設定されたトピックについて資料の読み込み、ディスカッション、そこから得られた自身の考えを表現する活動を中心に行う。後半は受講者それぞれがトピックを見つけ、資料を用意し、それをクラスで検討し各自の考えを構築することを中心とする。この過程を通して一人ひとりが、改めてそれぞれの文化を見つめ直し、気づきを得、さらに行動へと動き出す契機となることをねらいとする。

教科書 /Textbooks

※資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

※授業において紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 トピック1①：資料1講読・ディスカッション1・記述1
- 3回 トピック1②：記述1のシェア・資料2・ディスカッション2・レポート(宿題)
- 4回 トピック2①：資料1講読・ディスカッション1・記述1
- 5回 トピック2②：記述1のシェア・資料2・ディスカッション2・レポート(宿題)
- 6回 トピック3①：資料1講読・ディスカッション・記述1
- 7回 トピック3②：記述1のシェア・資料2・ディスカッション2・レポート(宿題)
- 8回 第2回～第7回の振り返り / 各自のトピック選定
- 9回 学生選定トピック1：発表と資料講読・ディスカッション・記述
- 10回 学生選定トピック2：発表と資料講読・ディスカッション・記述
- 11回 学生選定トピック3：発表と資料講読・ディスカッション・記述
- 12回 学生選定トピック4：発表と資料講読・ディスカッション・記述
- 13回 学生選定トピック4：発表と資料講読・ディスカッション・記述
- 14回 レポートピア評価
- 15回 レポートピア評価と総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 50% 自己評価 ... 30% ピア評価 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

資料を前もって熟読し、自分の考えを持って授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一人一人が主体的に授業に参加することを求めます。発表やレポート記述では文法的な正しさより内容を重視します。

キーワード /Keywords

日本文化 日本社会 日本人 自文化

日本事情 (社会) A 【昼】

担当者名 山崎 勇治 / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

授業概要

第二次世界大戦後、日本経済はどのようにして発展してきたか、発展の過程でどんな問題が生じたかを知り、今後の日本経済のあり方について考えることがこの講義の目標である。日本が経済大国になった高度経済成長の時代、石油ショックとそれを克服した時代、その後のバブル経済とその崩壊、そして“失われた10年”からの回復から現代にいたる問題を取りあげ考えていく。

到達目標

1. 第二次世界大戦後、日本経済がどのような経過をたどって現在に至ったかを理解できる。
2. 1973年、1979年の石油ショックを契機に、日本経済が大きく変わったことを理解できる。
3. 1985年のプラザ合意以降、急激な円高に直面し、対外進出を強めたことを理解できる。
4. バブル経済とその崩壊後の日本経済の諸問題について理解できる。
5. 今後の日本経済のゆくえについて述べるができる。

教科書 /Textbooks

口講義のため指定の教科書なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考図書等

- 半藤利一『昭和史』平凡社、2004年、『昭和史 戦後篇』平凡社2006年
- 井村喜代子『現代日本経済論』(有斐閣)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 戦後の荒廃から復興へ

- ①第2次世界大戦後の日本経済 - 戦災と経済の混乱

第2回 ②経済復興へ - 戦後の諸改革

省エネ・省力、ファクトリー・オートメーション、貿易・経済摩擦

第3回 ③占領下の経済から復興へ

第4回 2. 高度経済成長

- ① 高度経済成長へ

第5回 ②重化学工業の発展、国土開発政策の展開

第6回 ③経済発展と公害、四大公害訴訟

- ④円高と対外直接投資の増大・日本企業の対外進出

第7回 3. 石油ショックと低成長

- ① 石油ショックとその影響

第8回 ②“重厚長大”から“軽薄短小”へ

第9回 ③貿易・経済摩擦

第10回 ④円高と対外直接投資の増大・日本企業の対外進出

第11回 4. バブル崩壊、不況

- ①バブル経済、バブル崩壊と不況、不良債権問題

第12回 ②長引く不況 - 失業の増加、非正規労働者(パートタイマー、派遣労働者、フリーター等)の増加

第13回 ③アジア諸国、中国経済の発展と日本経済

第14回 5. 現在の日本経済の諸問題

- ①少子高齢化社会保障

第15回 ②財政危機と国民生活

成績評価の方法 /Assessment Method

授業貢献度20%、レポート30%、期末試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日本事情 (社会) A 【昼】

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業以外の学習方法: 受講生へのメッセージ

- ・ 新聞の経済、政治、社会面を毎日読むようにしてほしい。重要な内容の記事は、切り抜いてレポート、報告等に利用する。
- ・ 講義であげる参考文献を読むようにしてほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本事情 (社会) B 【昼】

担当者名 山崎 勇治 / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

日本は公的医療制度たる国民皆保険制度のおかげで、世界一の長寿国となった。男性は79歳、女性は86歳である。しかし医療費が年間30兆円を超えて財政難に直面している。

日本の将来の公的医療制度は如何にあるべきか。解答を得るために世界各国から来ている留学生に自国の公的医療制度を語ってもらう。その上でどの医療制度が我が国に最適かについて考えることができるようになる。

教科書 /Textbooks

留学生の説明を元に講義を行うので教科書は使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度指示するが、さしあたり、池上直己『ベーシック 医療問題』(日本経済新聞社)を挙げておく。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 日本、イギリス、アメリカの医療制度の特徴
- 第2回 イギリスのNHS(ナショナル・ヘルスサービス)の歴史展開過程
- 第3回 第2次世界大戦とヘバリッジ報告書
- 第4回 大戦後のアトリー労働政権と福祉国家政策
- 第5回 ベバン保健大臣とNHS発足
- 第6回 NHSの組織とヘルスセンターの役割
- 第7回 サッチャー政権とNHS改革(1)
- 第8回 サッチャーの経済改革(2)
- 第9回 トニー・ブレア労働党のNHS改革
- 第10回 アメリカの医療制度
- 第11回 クリントンの医療改革
- 第12回 戦後日本経済史
- 第13回 国民皆保険制度の確立とその特徴
- 第14回 国民会保険制度の問題点
- 第15回 老人介護

成績評価の方法 /Assessment Method

授業貢献度20%、レポート20%、定期試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新聞を毎日読んで 自国の政治や経済、社会文化に目を通しておくこと。特に公的医療制度の変更事項には注意すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語初級会話A1【昼】

担当者名 /Instructor 張 景珊 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国学科1年生を対象に、集中的に中国語の発音を強化しつつ、会話の訓練を行い、中国語の総合的なコミュニケーション能力を養成していく。
 (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させる。
 (2)日常会話に必要な語彙力を増やし、様々な場面で会話できるように図る。

教科書 /Textbooks

『中国語実習コース』 張 乃方 著 (白水社)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書(CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 概説、発音練習 【中国と中国語について】【単母音、声調】
- 2回 発音練習 【子音、複合母音】
- 3回 発音練習 【鼻母音、声調の変化など】
- 4回 暗誦練習 【第1課「自己紹介」、第2課「家庭」、第3課「父母」の内容】
- 5回 会話練習 【自己紹介】
- 6回 会話練習 【私の家庭・両親】
- 7回 暗誦練習 【第4課「友達」、第5課「私の家」の内容】
- 8回 会話練習 【友達】
- 9回 会話練習 【私の家】
- 10回 暗誦練習 【第6課「通学」、第7課「お茶とお酒」の内容】
- 11回 会話練習 【通学】
- 12回 会話練習 【お茶とお酒】
- 13回 暗誦練習 【第8課「休日」の内容】
- 14回 会話練習 【休日】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・25% 暗誦テスト・・・25% 日常の授業への取り組み・・・50%(発表)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、必ず予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語初級会話AII【昼】

担当者名 /Instructor 張 景珊 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国学科1年生を対象に、集中的に中国語の発音を強化しつつ、会話の訓練を行い、中国語の総合的なコミュニケーション能力を養成していく。
(1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させる。
(2)日常会話に必要な語彙力を増やし、様々な場面で会話できるように図る。

教科書 /Textbooks

『中国語実習コース』 張 乃方 著 (白水社)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 暗誦練習 【第9課「電話をかけて休暇をとる」、第10課「診察を受ける」の内容】
- 2回 会話練習 【電話をかけて休暇をとる】
- 3回 会話練習 【診察を受ける】
- 4回 暗誦練習 【第11課「入院」、第12課「旅行記」の内容】
- 5回 会話練習 【入院】
- 6回 会話練習 【旅行記】
- 7回 暗誦練習 【第13課「意外なこと」、第14課「テレビ番組」の内容】
- 8回 会話練習 【意外なこと】
- 9回 会話練習 【テレビ番組】
- 10回 暗誦練習 【第15課「書留郵便」、第16課「月賦」の内容】
- 11回 会話練習 【書留郵便】
- 12回 会話練習 【月賦】
- 13回 暗誦練習 【第17課「梅雨」の内容】
- 14回 会話練習 【梅雨】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・25% 暗誦テスト・・・25% 日常の授業への取り組み・・・50% (発表)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、必ず予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語初級会話BⅠ【昼】

担当者名 /Instructor 葉言材 / ye yancai / 中国学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国学科1年生を対象に、中国語初級のコミュニケーションが取れることを目指しながら中国の様々な都市や文化、地理、又は歴史等の知識を習得します。

- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
- (2)日常会話に必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、会話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『西遊記』 <試用本> (『中国秀シリーズ』編集委員会)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

1. 「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)
2. 『中国文学の昨日と今日』 郝世峰主編 (中国書店) ○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【軽声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 発音の総合練習
- 5回 第四課 自己紹介
- 6回 第四課 自己紹介 練習問題
- 7回 第五課 北京紹介
- 8回 第五課 飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
- 9回 第六課 天津紹介
- 10回 第六課 レストランにて、練習問題
- 11回 第七課 上海紹介
- 12回 第七課 交通、練習問題
- 13回 第八課 蘇州と杭州紹介
- 14回 第八課 観光、練習問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・40% 暗誦テスト・・30% 日常の授業への取り組み・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語初級会話BⅠ【昼】

担当者名 /Instructor 葉言材 / ye yancai / 中国学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国学科1年生を対象に、中国語初級のコミュニケーションが取れることを目指しながら中国の様々な都市や文化、地理、又は歴史等の知識を習得します。

- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
- (2)日常会話に必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、会話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『西遊記』 <試用本> (『中国秀シリーズ』編集委員会)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

1. 「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)
2. 『中国文学の昨日と今日』 郝世峰主編 (中国書店) ○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【軽声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 発音の総合練習
- 5回 第四課 自己紹介
- 6回 第四課 自己紹介 練習問題
- 7回 第五課 北京紹介
- 8回 第五課 飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
- 9回 第六課 天津紹介
- 10回 第六課 レストランにて、練習問題
- 11回 第七課 上海紹介
- 12回 第七課 交通、練習問題
- 13回 第八課 蘇州と杭州紹介
- 14回 第八課 観光、練習問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・40% 暗誦テスト・・30% 日常の授業への取り組み・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語初級会話BⅠ【昼】

担当者名 /Instructor 葉言材 / ye yancai / 中国学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国学科1年生を対象に、中国語初級のコミュニケーションが取れることを目指しながら中国の様々な都市や文化、地理、又は歴史等の知識を習得します。

- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
- (2)日常会話に必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、会話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『西遊記』<試用本> (『中国秀シリーズ』編集委員会)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

1. 「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)
2. 『中国文学の昨日と今日』 郝世峰主編 (中国書店) ○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【軽声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 発音の総合練習
- 5回 第四課 自己紹介
- 6回 第四課 自己紹介 練習問題
- 7回 第五課 北京紹介
- 8回 第五課 飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
- 9回 第六課 天津紹介
- 10回 第六課 レストランにて、練習問題
- 11回 第七課 上海紹介
- 12回 第七課 交通、練習問題
- 13回 第八課 蘇州と杭州紹介
- 14回 第八課 観光、練習問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・40% 暗誦テスト・・30% 日常の授業への取り組み・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語初級会話BII【昼】

担当者名 /Instructor 葉 言材 / ye yancai / 中国学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国学科1年生を対象に、中国語初級のコミュニケーションが取れることを目指しながら中国の様々な都市や文化、地理、又は歴史等の知識を習得します。

- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
- (2)日常会話に必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、会話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『西遊記』 <試用本> (『中国秀シリーズ』編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1. 「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)
2. 『中国文学の昨日と今日』 郝 世峰主編 (中国書店) ○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 義烏紹介
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 西安と洛陽紹介
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 成都紹介
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 昆明紹介
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 広州紹介
- 10回 第十三課 趣味、練習問題
- 11回 第十四課 大連紹介
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 日本の紹介
- 14回 第十五課 空港での搭乗手続き・免税店にて、練習問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・40% 暗誦テスト・・30% 日常の授業への取り組み・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語初級会話BII【昼】

担当者名 /Instructor 葉 言材 / ye yancai / 中国学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国学科1年生を対象に、中国語初級のコミュニケーションが取れることを目指しながら中国の様々な都市や文化、地理、又は歴史等の知識を習得します。

- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
- (2)日常会話に必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、会話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『西遊記』 <試用本> (『中国秀シリーズ』編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1. 「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)
2. 『中国文学の昨日と今日』 郝 世峰主編 (中国書店) ○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 義烏紹介
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 西安と洛陽紹介
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 成都紹介
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 昆明紹介
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 広州紹介
- 10回 第十三課 趣味、練習問題
- 11回 第十四課 大連紹介
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 日本の紹介
- 14回 第十五課 空港での搭乗手続き・免税店にて、練習問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・40% 暗誦テスト・・30% 日常の授業への取り組み・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語初級会話BⅡ【昼】

担当者名 /Instructor 葉 言材 / ye yancai / 中国学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国学科1年生を対象に、中国語初級のコミュニケーションが取れることを目指しながら中国の様々な都市や文化、地理、又は歴史等の知識を習得します。

- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
- (2)日常会話に必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、会話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『西遊記』 <試用本> (『中国秀シリーズ』編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1. 「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)
2. 『中国文学の昨日と今日』 郝 世峰主編 (中国書店) ○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 義烏紹介
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 西安と洛陽紹介
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 成都紹介
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 昆明紹介
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 広州紹介
- 10回 第十三課 趣味、練習問題
- 11回 第十四課 大連紹介
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 日本の紹介
- 14回 第十五課 空港での搭乗手続き・免税店にて、練習問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・40% 暗誦テスト・・30% 日常の授業への取り組み・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語中級会話A1【昼】

担当者名 /Instructor 馬 叢慧 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、この授業では、中国語で日中の歴史、文化などを紹介、説明することを通じて会話力の向上を図ります。近年、日本を訪れる中国人観光客は増加しています。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

- (1)会話の練習などを通して、正しい発音をしっかり定着させます。
- (2)様々な場面で使う表現を習得し、会話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『東遊記』（『中国秀シリーズ』編集委員会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 日本紹介(本文) 会話「我想到日本去旅行」 練習
- 2回 第二課 東京(本文)
- 3回 第二課 会話「欢迎您来到日本」 練習
- 4回 第三課 横浜(本文)
- 5回 第三課 会話「东京的交通真是太方便了」 練習
- 6回 第四課 富士山と東照宮(本文)
- 7回 第四課 会話「一级棒」 練習
- 8回 第五課 静岡と名古屋(本文)
- 9回 第五課 会話「这里飞往中国的航班有很多」 練習
- 10回 第六課 京都(本文)
- 11回 第六課 会話「日本的新干线很人性化」 練習
- 12回 第七課 奈良と神戸(本文)
- 13回 第七課 会話「圣德太子是日本的骄傲」 練習
- 14回 第八課 大阪(本文)
- 15回 第八課 会話「上海和大阪是友好城市」 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・40% 暗唱テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ずCDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で会話しましょう。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語中級会話A1【昼】

担当者名 /Instructor 馬 叢慧 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、この授業では、中国語で日中の歴史、文化などを紹介、説明することを通じて会話力の向上を図ります。近年、日本を訪れる中国人観光客は増加しています。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

- (1) 会話の練習などを通して、正しい発音をしっかりと定着させます。
- (2) 様々な場面で使う表現を習得し、会話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『東遊記』（『中国秀シリーズ』編集委員会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 日本紹介(本文) 会話「我想到日本去旅行」 練習
- 2回 第二課 東京(本文)
- 3回 第二課 会話「欢迎您来到日本」 練習
- 4回 第三課 横浜(本文)
- 5回 第三課 会話「东京的交通真是太方便了」 練習
- 6回 第四課 富士山と東照宮(本文)
- 7回 第四課 会話「一级棒」 練習
- 8回 第五課 静岡と名古屋(本文)
- 9回 第五課 会話「这里飞往中国的航班有很多」 練習
- 10回 第六課 京都(本文)
- 11回 第六課 会話「日本的新干线很人性化」 練習
- 12回 第七課 奈良と神戸(本文)
- 13回 第七課 会話「圣德太子是日本的骄傲」 練習
- 14回 第八課 大阪(本文)
- 15回 第八課 会話「上海和大阪是友好城市」 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・40% 暗唱テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ずCDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で会話しましょう。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語中級会話A1【昼】

担当者名 /Instructor 馬 叢慧 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、この授業では、中国語で日中の歴史、文化などを紹介、説明することを通じて会話力の向上を図ります。近年、日本を訪れる中国人観光客は増加しています。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

- (1) 会話の練習などを通して、正しい発音をしっかりと定着させます。
- (2) 様々な場面で使う表現を習得し、会話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『東遊記』（『中国秀シリーズ』編集委員会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 日本紹介(本文) 会話「我想到日本去旅行」 練習
- 2回 第二課 東京(本文)
- 3回 第二課 会話「欢迎您来到日本」 練習
- 4回 第三課 横浜(本文)
- 5回 第三課 会話「东京的交通真是太方便了」 練習
- 6回 第四課 富士山と東照宮(本文)
- 7回 第四課 会話「一级棒」 練習
- 8回 第五課 静岡と名古屋(本文)
- 9回 第五課 会話「这里飞往中国的航班有很多」 練習
- 10回 第六課 京都(本文)
- 11回 第六課 会話「日本的新干线很人性化」 練習
- 12回 第七課 奈良と神戸(本文)
- 13回 第七課 会話「圣德太子是日本的骄傲」 練習
- 14回 第八課 大阪(本文)
- 15回 第八課 会話「上海和大阪是友好城市」 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・40% 暗唱テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ずCDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で会話しましょう。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語中級会話AII【昼】

担当者名 /Instructor 馬 叢慧 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、この授業では、中国語で日中の歴史、文化などを紹介、説明することを通じて会話力の向上を図ります。近年、日本を訪れる中国人観光客は増加しています。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れていないかもしれません。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができると思います。

- (1) 会話の練習などを通して、正しい発音をしっかりと定着させます。
- (2) 様々な場面で使う表現を習得し、会話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『東遊記』（『中国秀シリーズ』編集委員会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 宮島と下関 (本文)
- 2回 第九課 会話「北九州是个环保模范城市」 練習
- 3回 第十課 九州 (本文)
- 4回 第十課 会話「沖縄是日本最长寿的地方」 練習
- 5回 第十一課 福岡 (本文)
- 6回 第十一課 会話「我有一个好朋友住在福冈」 練習
- 7回 第十二課 佐賀 (本文)
- 8回 第十二課 会話「佐贺不再是超级乡下了」 練習
- 9回 第十三課 長崎 (本文)
- 10回 第十三課 会話「这是中国送的」 練習
- 11回 第十四課 四国 (本文)
- 12回 第十四課 会話「这次没时间了,真可惜」 練習
- 13回 第十五課 仙台と北海道 (本文)
- 14回 第十五課 会話「一部电影的力量」 練習
- 15回 後期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・ 40% 暗唱テスト・・ 30% 日常の授業への取り組み・・ 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ずCDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で会話しましょう。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語中級会話AII【昼】

担当者名 /Instructor 馬 叢慧 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、この授業では、中国語で日中の歴史、文化などを紹介、説明することを通じて会話力の向上を図ります。近年、日本を訪れる中国人観光客は増加しています。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

- (1)会話の練習などを通して、正しい発音をしっかりと定着させます。
- (2)様々な場面で使う表現を習得し、会話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『東遊記』（『中国秀シリーズ』編集委員会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 宮島と下関 (本文)
- 2回 第九課 会話「北九州是个环保模范城市」 練習
- 3回 第十課 九州 (本文)
- 4回 第十課 会話「沖縄是日本最长寿的地方」 練習
- 5回 第十一課 福岡 (本文)
- 6回 第十一課 会話「我有一个好朋友住在福冈」 練習
- 7回 第十二課 佐賀 (本文)
- 8回 第十二課 会話「佐贺不再是超级乡下了」 練習
- 9回 第十三課 長崎 (本文)
- 10回 第十三課 会話「这是中国送的」 練習
- 11回 第十四課 四国 (本文)
- 12回 第十四課 会話「这次没时间了,真可惜」 練習
- 13回 第十五課 仙台と北海道 (本文)
- 14回 第十五課 会話「一部电影的力量」 練習
- 15回 後期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・ 40% 暗唱テスト・・ 30% 日常の授業への取り組み・・ 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ずCDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で会話しましょう。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語中級会話AII【昼】

担当者名 /Instructor 馬 叢慧 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・実習
クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、この授業では、中国語で日中の歴史、文化などを紹介、説明することを通じて会話力の向上を図ります。近年、日本を訪れる中国人観光客は増加しています。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

- (1)会話の練習などを通して、正しい発音をしっかりと定着させます。
- (2)様々な場面で使う表現を習得し、会話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『東遊記』（『中国秀シリーズ』編集委員会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 宮島と下関 (本文)
- 2回 第九課 会話「北九州是个环保模范城市」 練習
- 3回 第十課 九州 (本文)
- 4回 第十課 会話「沖縄是日本最长寿的地方」 練習
- 5回 第十一課 福岡 (本文)
- 6回 第十一課 会話「我有一个好朋友住在福冈」 練習
- 7回 第十二課 佐賀 (本文)
- 8回 第十二課 会話「佐贺不再是超级乡下了」 練習
- 9回 第十三課 長崎 (本文)
- 10回 第十三課 会話「这是中国送的」 練習
- 11回 第十四課 四国 (本文)
- 12回 第十四課 会話「这次没时间了,真可惜」 練習
- 13回 第十五課 仙台と北海道 (本文)
- 14回 第十五課 会話「一部电影的力量」 練習
- 15回 後期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・ 40% 暗唱テスト・・ 30% 日常の授業への取り組み・・ 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ずCDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で会話しましょう。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語中級会話BⅠ【昼】

担当者名 /Instructor 王 曉芳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、実用的なレベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

- (1)会話文の練習などを通して、正しい発音をしっかり定着させます。
- (2)ビジネスに必要な語彙力を増やし、業務の様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

- 『体験汉语・公務編』中国・高等教育出版社(褚佩如 等)
- 『体験漢語100句 公務類』中国・高等教育出版社(褚佩如 等)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO 等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第1課 紹介 (1)
- 2回 第2課 紹介 (2)
- 3回 総合練習 挨拶・紹介フレーズ 1 ~ 1 2
- 4回 第3課 記者に渡す資料 (1)
- 5回 第3課 記者に渡す資料 (2)
- 6回 総合練習 事務関係フレーズ 1 3 ~ 1 8
- 7回 第4課 パソコンの故障 (1)
- 8回 第4課 パソコンの故障 (2)
- 9回 総合練習 スケジュールの手配フレーズ 1 9 ~ 2 8
- 1 0回 第5課 食事のお誘い (1)
- 1 1回 第5課 食事のお誘い (2)
- 1 2回 総合練習 場所の確認フレーズ 2 9 ~ 3 4
- 1 3回 第6課 宴会の時 (1) 称賛・褒め称える フレーズ 3 5 ~ 3 9
- 1 4回 第6課 宴会の時 (2) 連絡 フレーズ 4 0 ~ 4 5
- 1 5回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 4 0 % 暗唱テスト・ 3 0 % 日常の授業への取り組み・ 3 0 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ずCDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で会話しましょう。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語中級会話BⅠ【昼】

担当者名 /Instructor 王 曉芳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、実用的なレベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

- (1)会話文の練習などを通して、正しい発音をしっかり定着させます。
- (2)ビジネスに必要な語彙力を増やし、業務の様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

- 『体験汉语・公務編』中国・高等教育出版社(褚佩如 等)
- 『体験漢語100句 公務類』中国・高等教育出版社(褚佩如 等)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「中日・日中」電子辞書 (CASIO 等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第1課 紹介 (1)
- 2回 第2課 紹介 (2)
- 3回 総合練習 挨拶・紹介フレーズ 1 ~ 1 2
- 4回 第3課 記者に渡す資料 (1)
- 5回 第3課 記者に渡す資料 (2)
- 6回 総合練習 事務関係フレーズ 1 3 ~ 1 8
- 7回 第4課 パソコンの故障 (1)
- 8回 第4課 パソコンの故障 (2)
- 9回 総合練習 スケジュールの手配フレーズ 1 9 ~ 2 8
- 1 0回 第5課 食事のお誘い (1)
- 1 1回 第5課 食事のお誘い (2)
- 1 2回 総合練習 場所の確認フレーズ 2 9 ~ 3 4
- 1 3回 第6課 宴会の時 (1) 称賛・褒め称える フレーズ 3 5 ~ 3 9
- 1 4回 第6課 宴会の時 (2) 連絡 フレーズ 4 0 ~ 4 5
- 1 5回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 4 0 % 暗唱テスト・ 3 0 % 日常の授業への取り組み・ 3 0 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ずCDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で会話しましょう。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語中級会話BⅠ【昼】

担当者名 /Instructor 王 曉芳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、実用的なレベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

- (1)会話文の練習などを通して、正しい発音をしっかり定着させます。
- (2)ビジネスに必要な語彙力を増やし、業務の様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

- 『体験汉语・公務編』中国・高等教育出版社(褚佩如 等)
- 『体験漢語100句 公務類』中国・高等教育出版社(褚佩如 等)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO 等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第1課 紹介 (1)
- 2回 第2課 紹介 (2)
- 3回 総合練習 挨拶・紹介フレーズ 1 ~ 12
- 4回 第3課 記者に渡す資料 (1)
- 5回 第3課 記者に渡す資料 (2)
- 6回 総合練習 事務関係フレーズ 13 ~ 18
- 7回 第4課 パソコンの故障 (1)
- 8回 第4課 パソコンの故障 (2)
- 9回 総合練習 スケジュールの手配フレーズ 19 ~ 28
- 10回 第5課 食事のお誘い (1)
- 11回 第5課 食事のお誘い (2)
- 12回 総合練習 場所の確認フレーズ 29 ~ 34
- 13回 第6課 宴会の時 (1) 称賛・褒め称える フレーズ 35 ~ 39
- 14回 第6課 宴会の時 (2) 連絡 フレーズ 40 ~ 45
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 40% 暗唱テスト・ 30% 日常の授業への取り組み・ 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ずCDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で会話しましょう。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語中級会話BII【昼】

担当者名 王 曉芳 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 1
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。
(1)会話文の練習などを通して、正しい発音をしっかり定着させます。
(2)ビジネスに必要な語彙力を増やし、業務の様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『体験汉语・公務編』中国・高等教育出版社(褚佩如等)
『体験漢語100句 公務類』中国・高等教育出版社(褚佩如等)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第7課 来る前に電話で再度確認(1)
- 2回 第7課 来る前に電話で再度確認(2)
- 3回 総合練習 招請・宴席への招待フレーズ46~56 感謝フレーズ57~59
- 4回 第8課 詳しい場所を教えて(1)
- 5回 第8課 詳しい場所を教えて(2)
- 6回 総合練習 クレーム・催促フレーズ60~67
- 7回 第9課 ビザの延長手続き(1)
- 8回 第9課 ビザの延長手続き(2)
- 9回 総合練習 要求・任務フレーズ68~77
- 10回 第10課 部屋の手配(1)
- 11回 第10課 部屋の手配(2)
- 12回 総合練習 アポイント・変更フレーズ78~87
- 13回 第11課 書類を送る問い合わせ フレーズ88~94
- 14回 第12課 お別れ・見送り フレーズ95~100
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・40% 暗唱テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ずCDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で会話しましょう。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語中級会話BII【昼】

担当者名 /Instructor 王 曉芳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。
(1)会話文の練習などを通して、正しい発音をしっかり定着させます。
(2)ビジネスに必要な語彙を増やし、業務の様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『体験汉语・公務編』中国・高等教育出版社(褚佩如等)
『体験漢語100句 公務類』中国・高等教育出版社(褚佩如等)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第7課 来る前に電話で再度確認(1)
- 2回 第7課 来る前に電話で再度確認(2)
- 3回 総合練習 招請・宴席への招待フレーズ46~56 感謝フレーズ57~59
- 4回 第8課 詳しい場所を教えて(1)
- 5回 第8課 詳しい場所を教えて(2)
- 6回 総合練習 クレーム・催促フレーズ60~67
- 7回 第9課 ビザの延長手続き(1)
- 8回 第9課 ビザの延長手続き(2)
- 9回 総合練習 要求・任務フレーズ68~77
- 10回 第10課 部屋の手配(1)
- 11回 第10課 部屋の手配(2)
- 12回 総合練習 アポイント・変更フレーズ78~87
- 13回 第11課 書類を送る問い合わせ フレーズ88~94
- 14回 第12課 お別れ・見送り フレーズ95~100
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・40% 暗唱テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ずCDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で会話しましょう。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語中級会話BII【昼】

担当者名 王 曉芳 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 3
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。
(1)会話文の練習などを通して、正しい発音をしっかり定着させます。
(2)ビジネスに必要な語彙力を増やし、業務の様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『体験汉语・公務編』中国・高等教育出版社(褚佩如等)
『体験漢語100句 公務類』中国・高等教育出版社(褚佩如等)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第7課 来る前に電話で再度確認(1)
- 2回 第7課 来る前に電話で再度確認(2)
- 3回 総合練習 招請・宴席への招待フレーズ46~56 感謝フレーズ57~59
- 4回 第8課 詳しい場所を教えて(1)
- 5回 第8課 詳しい場所を教えて(2)
- 6回 総合練習 クレーム・催促フレーズ60~67
- 7回 第9課 ビザの延長手続き(1)
- 8回 第9課 ビザの延長手続き(2)
- 9回 総合練習 要求・任務フレーズ68~77
- 10回 第10課 部屋の手配(1)
- 11回 第10課 部屋の手配(2)
- 12回 総合練習 アポイント・変更フレーズ78~87
- 13回 第11課 書類を送る問い合わせ フレーズ88~94
- 14回 第12課 お別れ・見送り フレーズ95~100
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・40% 暗唱テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ずCDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で会話しましょう。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語講読I【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 俊生 / 中国学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

初中級中国語の文法事項を確認しながら、さらにその上を目指して総合的に学習していく。
20世紀中国の五・四新文化運動から中華人民共和国建国までの文学運動史を俯瞰し、代表的作家および作品（主に短編）を講読する。そして現代の文学に橋渡しする。特に翻訳技術の向上を目指すとともに当時の社会的背景について学習する。
この授業の主な到達目標は以下のとおりである。
①中国近現代文学に関する知識を養う。
②翻訳技術の養成・向上を目指す。
③作品執筆時の社会的背景について理解を深める。

教科書 /Textbooks

プリント教材。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 吉田富夫『中国現代文学史』（朋友書店2002年）
- 『中国語大辞典』（角川書店1993年）
- 『現代漢語詞典』（商務印書館2004年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 胡適『文学改良芻議』、「新詩-嘗試集」、戯曲『終身大事』について
- 2回 魯迅『狂人日記』について
- 3回 魯迅『一件小事』について
- 4回 巴金『一件小事』と父子について
- 5回 巴金『一件小事』と当時の社会状況について
- 6回 田漢の映画『風雲児女』と義勇軍進行曲について
- 7回 李健吾『十三年』-黄天利の人物像について
- 8回 李健吾『十三年』-向慧の人物像について
- 9回 李健吾『十三年』-その他の人物像について
- 10回 曹禺『雷雨』とギリシャ悲劇『オイディプス王』について
- 11回 曹禺『雷雨』と繁漪の人物像について
- 12回 曹禺『雷雨』と周萍の人物像について
- 13回 曹禺『雷雨』とその他の人物群像について
- 14回 曹禺『雷雨』とその後の劇作について
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み・発表（小テスト含む）...40% 期末試験...60%
原則、授業回数の3分の1以上欠席をした場合は学期末試験を受けることができない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ピンインが一切ついていないものを教材として使用する。輪読の形態（音読重視）で授業を進めるので必ず発表の準備をしておくこと。小テストを実施する。辞書必携。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

しっかり授業の予習復習をしてください。

キーワード /Keywords

中国近現代文学、胡適、魯迅、巴金、田漢、李健吾、曹禺

中国語講読I【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 俊生 / 中国学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

初中級中国語の文法事項を確認しながら、さらにその上を目指して総合的に学習していく。
20世紀中国の五・四新文化運動から中華人民共和国建国までの文学運動史を俯瞰し、代表的作家および作品（主に短編）を講読する。そして現代の文学に橋渡しする。特に翻訳技術の向上を目指すとともに当時の社会的背景について学習する。
この授業の主な到達目標は以下のとおりである。
①中国近現代文学に関する知識を養う。
②翻訳技術の養成・向上を目指す。
③作品執筆時の社会的背景について理解を深める。

教科書 /Textbooks

プリント教材。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 吉田富夫『中国現代文学史』（朋友書店2002年）
- 『中国語大辞典』（角川書店1993年）
- 『現代漢語詞典』（商務印書館2004年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 胡適『文学改良芻議』、「新詩-嘗試集」、戯曲『終身大事』について
- 2回 魯迅『狂人日記』について
- 3回 魯迅『一件小事』について
- 4回 巴金『一件小事』と父子について
- 5回 巴金『一件小事』と当時の社会状況について
- 6回 田漢の映画『風雲児女』と義勇軍進行曲について
- 7回 李健吾『十三年』-黄天利の人物像について
- 8回 李健吾『十三年』-向慧の人物像について
- 9回 李健吾『十三年』-その他の人物像について
- 10回 曹禺『雷雨』とギリシャ悲劇『オイディプス王』について
- 11回 曹禺『雷雨』と繁漪の人物像について
- 12回 曹禺『雷雨』と周萍の人物像について
- 13回 曹禺『雷雨』とその他の人物群像について
- 14回 曹禺『雷雨』とその後の劇作について
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み・発表（小テスト含む）...40% 期末試験...60%
原則、授業回数の3分の1以上欠席をした場合は学期末試験を受けることができない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ピンインが一切ついていないものを教材として使用する。輪読の形態（音読重視）で授業を進めるので必ず発表の準備をしておくこと。小テストを実施する。辞書必携。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

しっかり授業の予習復習をしてください。

キーワード /Keywords

中国近現代文学、胡適、魯迅、巴金、田漢、李健吾、曹禺

中国語講読I【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 俊生 / 中国学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

初中級中国語の文法事項を確認しながら、さらにその上を目指して総合的に学習していく。
20世紀中国の五・四新文化運動から中華人民共和国建国までの文学運動史を俯瞰し、代表的作家および作品（主に短編）を講読する。そして現代の文学に橋渡しする。特に翻訳技術の向上を目指すとともに当時の社会的背景について学習する。
この授業の主な到達目標は以下のとおりである。
①中国近現代文学に関する知識を養う。
②翻訳技術の養成・向上を目指す。
③作品執筆時の社会的背景について理解を深める。

教科書 /Textbooks

プリント教材。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 吉田富夫『中国現代文学史』（朋友書店2002年）
- 『中国語大辞典』（角川書店1993年）
- 『現代漢語詞典』（商務印書館2004年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 胡適『文学改良芻議』、「新詩-嘗試集」、戯曲『終身大事』について
- 2回 魯迅『狂人日記』について
- 3回 魯迅『一件小事』について
- 4回 巴金『一件小事』と父子について
- 5回 巴金『一件小事』と当時の社会状況について
- 6回 田漢の映画『風雲児女』と義勇軍進行曲について
- 7回 李健吾『十三年』-黄天利の人物像について
- 8回 李健吾『十三年』-向慧の人物像について
- 9回 李健吾『十三年』-その他の人物像について
- 10回 曹禺『雷雨』とギリシャ悲劇『オイディプス王』について
- 11回 曹禺『雷雨』と繁漪の人物像について
- 12回 曹禺『雷雨』と周萍の人物像について
- 13回 曹禺『雷雨』とその他の人物群像について
- 14回 曹禺『雷雨』とその後の劇作について
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み・発表（小テスト含む）...40% 期末試験...60%
原則、授業回数の3分の1以上欠席をした場合は学期末試験を受けることができない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ピンインが一切ついていないものを教材として使用する。輪読の形態（音読重視）で授業を進めるので必ず発表の準備をしておくこと。小テストを実施する。辞書必携。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

しっかり授業の予習復習をしてください。

キーワード /Keywords

中国近現代文学、胡適、魯迅、巴金、田漢、李健吾、曹禺

中国語講読II【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 俊生 / 中国学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

初中級中国語の文法事項を確認しながら、さらにその上を目指して総合的に学習していく。
20世紀から21世紀までの文学史を俯瞰し、代表的作家 夏衍、茹志娟、沙葉新、高行健、鉄凝、余華、莫言をとりあげ、彼らの代表的作品を講読する。特に翻訳技術の向上を目指すとともに当時の社会的背景についても学習する。
この授業の主な到達目標は以下のとおりである。
①中国現代文学及び同時代文学に関する知識を養う。
②翻訳技術の養成・向上を目指す。
③作品執筆当時の社会的背景について理解を深める。

教科書 /Textbooks

プリント教材。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 吉田富夫『中国現代文学史』(朋友書店2002年)
- 『中国語大辞典』(角川書店1997年)
- 『現代漢語詞典』(商務印書館2004年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 夏衍『法西斯細菌』と俞実夫の人物像について
- 2回 夏衍『法西斯細菌』と静子の人物像について
- 3回 茹志娟『白百合』の時代背景について
- 4回 茹志娟『白百合』の人物群像について
- 5回 沙葉新『假如我是真的』と官僚批判ゴーゴリ『検察官』について
- 6回 沙葉新『假如我是真的』の時代背景について
- 7回 高行健『車站』とベケット『ゴドーを待ちながら』について
- 8回 高行健『車站』の時代背景について
- 9回 鉄凝『秀色』の時代背景について
- 10回 鉄凝『秀色』の人物像について
- 11回 余華『朋友』の時代背景について
- 12回 余華『朋友』の人物像について
- 13回 莫言『秋水』の時代背景
- 14回 莫言『秋水』の人物像について
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み・発表(小テスト含む)...40% 期末試験...60%
原則、授業回数の3分の1以上欠席をした場合は学期末試験を受けることができない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ピンインが一切ついていないものを教材として使用する。輪読の形態(音読重視)で授業を進めるので必ず発表の準備をしておくこと。小テストを実施する。辞書必携。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

しっかりと予習復習をしてください。

キーワード /Keywords

中国現代文学芸術、夏衍、茹志娟、沙葉新、高行健、鉄凝、余華、莫言

中国語講読II【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 俊生 / 中国学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

初中級中国語の文法事項を確認しながら、さらにその上を目指して総合的に学習していく。
20世紀から21世紀までの文学史を俯瞰し、代表的作家 夏衍、茹志娟、沙葉新、高行健、鉄凝、余華、莫言をとりあげ、彼らの代表的作品を講読する。特に翻訳技術の向上を目指すとともに当時の社会的背景についても学習する。
この授業の主な到達目標は以下のとおりである。
①中国現代文学及び同時代文学に関する知識を養う。
②翻訳技術の養成・向上を目指す。
③作品執筆当時の社会的背景について理解を深める。

教科書 /Textbooks

プリント教材。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 吉田富夫『中国現代文学史』(朋友書店2002年)
- 『中国語大辞典』(角川書店1997年)
- 『現代漢語詞典』(商務印書館2004年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 夏衍『法西斯細菌』と俞実夫の人物像について
- 2回 夏衍『法西斯細菌』と静子の人物像について
- 3回 茹志娟『白百合』の時代背景について
- 4回 茹志娟『白百合』の人物群像について
- 5回 沙葉新『假如我是真的』と官僚批判ゴーゴリ『検察官』について
- 6回 沙葉新『假如我是真的』の時代背景について
- 7回 高行健『車站』とベケット『ゴドーを待ちながら』について
- 8回 高行健『車站』の時代背景について
- 9回 鉄凝『秀色』の時代背景について
- 10回 鉄凝『秀色』の人物像について
- 11回 余華『朋友』の時代背景について
- 12回 余華『朋友』の人物像について
- 13回 莫言『秋水』の時代背景
- 14回 莫言『秋水』の人物像について
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み・発表(小テスト含む)...40% 期末試験...60%
原則、授業回数の3分の1以上欠席をした場合は学期末試験を受けることができない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ピンインが一切ついていないものを教材として使用する。輪読の形態(音読重視)で授業を進めるので必ず発表の準備をしておくこと。小テストを実施する。辞書必携。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

しっかりと予習復習をしてください。

キーワード /Keywords

中国現代文学芸術、夏衍、茹志娟、沙葉新、高行健、鉄凝、余華、莫言

中国語講読II【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 俊生 / 中国学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

初中級中国語の文法事項を確認しながら、さらにその上を目指して総合的に学習していく。
20世紀から21世紀までの文学史を俯瞰し、代表的作家 夏衍、茹志娟、沙葉新、高行健、鉄凝、余華、莫言をとりあげ、彼らの代表的作品を講読する。特に翻訳技術の向上を目指すとともに当時の社会的背景についても学習する。
この授業の主な到達目標は以下のとおりである。
①中国現代文学及び同時代文学に関する知識を養う。
②翻訳技術の養成・向上を目指す。
③作品執筆当時の社会的背景について理解を深める。

教科書 /Textbooks

プリント教材。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 吉田富夫『中国現代文学史』(朋友書店2002年)
- 『中国語大辞典』(角川書店1997年)
- 『現代漢語詞典』(商務印書館2004年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 夏衍『法西斯細菌』と俞実夫の人物像について
- 2回 夏衍『法西斯細菌』と静子の人物像について
- 3回 茹志娟『白百合』の時代背景について
- 4回 茹志娟『白百合』の人物群像について
- 5回 沙葉新『假如我是真的』と官僚批判ゴーゴリ『検察官』について
- 6回 沙葉新『假如我是真的』の時代背景について
- 7回 高行健『車站』とベケット『ゴドーを待ちながら』について
- 8回 高行健『車站』の時代背景について
- 9回 鉄凝『秀色』の時代背景について
- 10回 鉄凝『秀色』の人物像について
- 11回 余華『朋友』の時代背景について
- 12回 余華『朋友』の人物像について
- 13回 莫言『秋水』の時代背景
- 14回 莫言『秋水』の人物像について
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み・発表(小テスト含む)...40% 期末試験...60%
原則、授業回数の3分の1以上欠席をした場合は学期末試験を受けることができない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ピンインが一切ついていないものを教材として使用する。輪読の形態(音読重視)で授業を進めるので必ず発表の準備をしておくこと。小テストを実施する。辞書必携。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

しっかりと予習復習をしてください。

キーワード /Keywords

中国現代文学芸術、夏衍、茹志娟、沙葉新、高行健、鉄凝、余華、莫言

中国語中級作文I 【昼】

担当者名 陳 振華 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 1
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、基本的な文法を整理しながら、数多くの作文を練習することにより、簡単な中国語の文章が書けるようになることを目指す。

教科書 /Textbooks

相原茂著『作文ルール66』（朝日出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

内藤正子著『中国語研究のこぼの性相』 白帝社
遠藤紹徳著『中←→日翻訳表現文法』 中文日訳・日文中訳の原点とテクニック バベル・フレス
李培元監修 武柏索 許維翰など編著『中国語慣用型』 中華書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション 日中言語習慣の違いは(グループ討論)【文脈依存】【状況依存】
- 第2回 単文作りの基本、教科書第1~2課ウォームアップ1、2 応用練習
- 第3回 第3課 ある・いる、及び並列関係の複文、応用練習
- 第4回 第4課 疑問詞、及び因果関係の複文、応用練習
- 第5回 作文練習1 説明文
- 第6回 第5課 反語文、及び仮定関係の複文 応用練習
- 第7回 第6課 動詞、及び目的関係の複文 応用練習
- 第8回 第7課 "来"と"去"、及び選択関係の複文 応用練習
- 第9回 第8課 「思う」あれこれ、および連続関係の複文 応用練習
- 第10回 作文練習2 叙事文
- 第11回 第9課 代名、及び累加関係の複文 応用練習
- 第12回 第10課 副詞1、及び逆接関係の複文 応用練習
- 第13回 第11課 副詞2、及び条件関係の複文 応用練習
- 第14回 第12課 副詞3、及び譲歩関係の複文 応用練習
- 第15回 作文練習3 小論文

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・40% 日常の授業への取り組み(テキストの作文課題)・・・60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業前に、テキストの「練習問題」を翻訳しておくこと。
二週間に一回、中国語の作文を宿題とするのできちんと課題をこなすこと。
また授業で指示されたことを必ず準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

語彙力 作文 表現

中国語中級作文I【昼】

担当者名 陳 振華 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 2
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、基本的な文法を整理しながら、数多くの作文を練習することにより、簡単な中国語の文章が書けるようになることを目指す。

教科書 /Textbooks

相原茂著『作文ルール66』（朝日出版社）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

内藤正子著『中国語研究のこぼの性相』 白帝社
遠藤紹徳著『中←→日翻訳表現文法』 中文日訳・日文中訳の原点とテクニック バベル・フレス
李培元監修 武柏索 許維翰など編著『中国語慣用型』 中華書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション 日中言語習慣の違いは(グループ討論)【文脈依存】【状況依存】
- 第2回 単文作りの基本、教科書第1~2課ウォームアップ1、2 応用練習
- 第3回 第3課 ある・いる、及び並列関係の複文、応用練習
- 第4回 第4課 疑問詞、及び因果関係の複文、応用練習
- 第5回 作文練習1 説明文
- 第6回 第5課 反語文、及び仮定関係の複文 応用練習
- 第7回 第6課 動詞、及び目的関係の複文 応用練習
- 第8回 第7課 "来"と"去"、及び選択関係の複文 応用練習
- 第9回 第8課 「思う」あれこれ、および連続関係の複文 応用練習
- 第10回 作文練習2 叙事文
- 第11回 第9課 代名、及び累加関係の複文 応用練習
- 第12回 第10課 副詞1、及び逆接関係の複文 応用練習
- 第13回 第11課 副詞2、及び条件関係の複文 応用練習
- 第14回 第12課 副詞3、及び譲歩関係の複文 応用練習
- 第15回 作文練習3 小論文

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・40% 日常の授業への取り組み(テキストの作文課題)・・・60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業前に、テキストの「練習問題」を翻訳しておくこと。
二週間に一回、中国語の作文を宿題とするのできちんと課題をこなすこと。
また授業で指示されたことを必ず準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

語彙力 作文 表現

中国語中級作文I【昼】

担当者名 陳 振華 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 3
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、基本的な文法を整理しながら、数多くの作文を練習することにより、簡単な中国語の文章が書けるようになることを目指す。

教科書 /Textbooks

相原茂著『作文ルール66』（朝日出版社）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

内藤正子著『中国語研究のこぼの性相』 白帝社
遠藤紹徳著『中↔日翻訳表現文法』 中文日訳・日文中訳の原点とテクニック バベル・フレス
李培元監修 武柏索 許維翰など編著『中国語慣用型』 中華書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション 日中言語習慣の違いは(グループ討論)【文脈依存】【状況依存】
- 第2回 単文作りの基本、教科書第1~2課ウォームアップ1、2 応用練習
- 第3回 第3課 ある・いる、及び並列関係の複文、応用練習
- 第4回 第4課 疑問詞、及び因果関係の複文、応用練習
- 第5回 作文練習1 説明文
- 第6回 第5課 反語文、及び仮定関係の複文 応用練習
- 第7回 第6課 動詞、及び目的関係の複文 応用練習
- 第8回 第7課 "来"と"去"、及び選択関係の複文 応用練習
- 第9回 第8課 「思う」あれこれ、および連続関係の複文 応用練習
- 第10回 作文練習2 叙事文
- 第11回 第9課 代名、及び累加関係の複文 応用練習
- 第12回 第10課 副詞1、及び逆接関係の複文 応用練習
- 第13回 第11課 副詞2、及び条件関係の複文 応用練習
- 第14回 第12課 副詞3、及び譲歩関係の複文 応用練習
- 第15回 作文練習3 小論文

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・40% 日常の授業への取り組み(テキストの作文課題)・・・60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業前に、テキストの「練習問題」を翻訳しておくこと。
二週間に一回、中国語の作文を宿題とするのできちんと課題をこなすこと。
また授業で指示されたことを必ず準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

語彙力 作文 表現

中国語中級作文II 【昼】

担当者名 /Instructor 陳 振華 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、基本的な文法を整理しながら、数多くの作文を練習することにより、やや高度な中国語の文章(記事・レポート等)が書けるようになることを目指す。

教科書 /Textbooks

相原茂著『作文ルール66』(朝日出版社)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

内藤正子著『中国語研究のこぼの性相』 白帝社
遠藤紹徳著『中←→日翻訳表現文法』 中文日訳・日文中訳の原点とテクニック バベル・フレス
李培元監修 武柏索 許維翰など編著『中国語慣用型』 中華書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 第13課 介詞 応用練習
- 第2回 第14課 強調文 応用練習
- 第3回 第15課 介詞フレーズ 応用練習
- 第4回 第16課 「ちょっと・少し」の表し方 応用練習
- 第5回 翻訳練習1 新聞記事
- 第6回 第17課 量詞 応用練習
- 第7回 第18課 形容詞 応用練習
- 第8回 第19課 補語 応用練習
- 第9回 第20課 助動詞 応用練習
- 第10回 翻訳練習2 エッセイ
- 第11回 第21課 "被"構文と能動文 応用練習
- 第12回 第22課 "把"構文 応用練習
- 第13回 第23課 やりもらい表現 応用練習
- 第14回 第24課 否定と肯定、逆転の発想 応用練習
- 第15回 翻訳練習3 小説の一節

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・40% 日常の授業への取り組み(テキストの作文課題)・・・60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業前に、テキストの「練習問題」を翻訳しておくこと。
二週間に一回、中国語の作文を宿題とするのできちんと課題をこなすこと。
また授業で指示されたことを必ず準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

語彙力 作文 表現

中国語中級作文II【昼】

担当者名 /Instructor 陳 振華 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、基本的な文法を整理しながら、数多くの作文を練習することにより、やや高度な中国語の文章(記事・レポート等)が書けるようになることを目指す。

教科書 /Textbooks

相原茂著『作文ルール66』(朝日出版社)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

内藤正子著『中国語研究のこぼの性相』 白帝社
遠藤紹徳著『中←→日翻訳表現文法』 中文日訳・日文中訳の原点とテクニック バベル・フレズ
李培元監修 武柏索 許維翰など編著『中国語慣用型』 中華書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 第13課 介詞 応用練習
- 第2回 第14課 強調文 応用練習
- 第3回 第15課 介詞フレーズ 応用練習
- 第4回 第16課 「ちょっと・少し」の表し方 応用練習
- 第5回 翻訳練習1 新聞記事
- 第6回 第17課 量詞 応用練習
- 第7回 第18課 形容詞 応用練習
- 第8回 第19課 補語 応用練習
- 第9回 第20課 助動詞 応用練習
- 第10回 翻訳練習2 エッセイ
- 第11回 第21課 "被"構文と能動文 応用練習
- 第12回 第22課 "把"構文 応用練習
- 第13回 第23課 やりもらい表現 応用練習
- 第14回 第24課 否定と肯定、逆転の発想 応用練習
- 第15回 翻訳練習3 小説の一節

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・40% 日常の授業への取り組み(テキストの作文課題)・・・60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業前に、テキストの「練習問題」を翻訳しておくこと。
二週間に一回、中国語の作文を宿題とするのできちんと課題をこなすこと。
また授業で指示されたことを必ず準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

語彙力 作文 表現

中国語中級作文II【昼】

担当者名 /Instructor 陳 振華 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、基本的な文法を整理しながら、数多くの作文を練習することにより、やや高度な中国語の文章(記事・レポート等)が書けるようになることを目指す。

教科書 /Textbooks

相原茂著『作文ルール66』(朝日出版社)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

内藤正子著『中国語研究のこぼの性相』 白帝社
遠藤紹徳著『中↔日翻訳表現文法』 中文日訳・日文中訳の原点とテクニック バベル・フレス
李培元監修 武柏索 許維翰など編著『中国語慣用型』 中華書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 第13課 介詞 応用練習
- 第2回 第14課 強調文 応用練習
- 第3回 第15課 介詞フレーズ 応用練習
- 第4回 第16課 「ちょっと・少し」の表し方 応用練習
- 第5回 翻訳練習1 新聞記事
- 第6回 第17課 量詞 応用練習
- 第7回 第18課 形容詞 応用練習
- 第8回 第19課 補語 応用練習
- 第9回 第20課 助動詞 応用練習
- 第10回 翻訳練習2 エッセイ
- 第11回 第21課 "被"構文と能動文 応用練習
- 第12回 第22課 "把"構文 応用練習
- 第13回 第23課 やりもらい表現 応用練習
- 第14回 第24課 否定と肯定、逆転の発想 応用練習
- 第15回 翻訳練習3 小説の一節

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・40% 日常の授業への取り組み(テキストの作文課題)・・・60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業前に、テキストの「練習問題」を翻訳しておくこと。
二週間に一回、中国語の作文を宿題とするのできちんと課題をこなすこと。
また授業で指示されたことを必ず準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

語彙力 作文 表現

中国語上級会話AI【昼】

担当者名 胡 玉華 / 中国学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 3 - 1
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

さまざまな教室活動を通して、日常生活、学校生活、旅行などの場面での「会話」能力を鍛えながら、決まったトピックについての「プレゼンテーション」能力もアップさせるのがこの授業のねらいである。

教科書 /Textbooks

『体験汉语口语教程4』（陈作宏 主编；赵永宏，陈作宏 编）、高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『汉语中級口语教程 上册』（杨寄洲，贾永芬）、北京大学出版社
『汉语中級口语教程 下册』（杨寄洲，贾永芬）、北京大学出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1課の授業は、①予備知識の復習、②場面付き会話の学習、③定着活動、④まとめという4つのプロセスからなる。
- 1回 第1課(いろいろな場面でのあいさつ)①、②、③
 - 2回 第1課④；第2課(買い物)①、②
 - 3回 第2課③、④
 - 4回 第3課(食生活)①、②、③
 - 5回 第3課④；第4課(交通)①、②
 - 6回 第4課③、④
 - 7回 第5課(トラブルの解決)①、②、③
 - 8回 第5課④；第6課(通信手段)①、②
 - 9回 第6課③、④
 - 10回 中間復習
 - 11回 第7課(装飾の文化)①、②、③
 - 12回 第7課④；第8課(季節)①、②
 - 13回 第8課③、④
 - 14回 第9課(スポーツ)①、②、③
 - 15回 第9課④；総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50%、平常点(授業中の積極性、活動や宿題の出来ばえ、小テスト等)...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業後に必ず復習すること。特に、本文を暗唱できるまで音読すること。

履修上の注意 /Remarks

コミュニケーション能力として、授業中の積極性を高く評価する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国語のみの授業を目指しましょう。

キーワード /Keywords

コミュニケーション能力 会話 プレゼンテーション

中国語上級会話AI【昼】

担当者名 胡 玉華 / 中国学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 3 - 2
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

さまざまな教室活動を通して、日常生活、学校生活、旅行などの場面での「会話」能力を鍛えながら、決まったトピックについての「プレゼンテーション」能力もアップさせるのがこの授業のねらいである。

教科書 /Textbooks

『体験汉语口语教程4』（陈作宏 主编；赵永宏，陈作宏 编）、高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『汉语中级口语教程 上册』（杨寄洲，贾永芬）、北京大学出版社
『汉语中级口语教程 下册』（杨寄洲，贾永芬）、北京大学出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1課の授業は、①予備知識の復習、②場面付き会話の学習、③定着活動、④まとめという4つのプロセスからなる。

- 1回 第1課(いろいろな場面でのあいさつ)①、②、③
- 2回 第1課④；第2課(買い物)①、②
- 3回 第2課③、④
- 4回 第3課(食生活)①、②、③
- 5回 第3課④；第4課(交通)①、②
- 6回 第4課③、④
- 7回 第5課(トラブルの解決)①、②、③
- 8回 第5課④；第6課(通信手段)①、②
- 9回 第6課③、④
- 10回 中間復習
- 11回 第7課(装飾の文化)①、②、③
- 12回 第7課④；第8課(季節)①、②
- 13回 第8課③、④
- 14回 第9課(スポーツ)①、②、③
- 15回 第9課④；総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50%、平常点(授業中の積極性、活動や宿題の出来ばえ、小テスト等)...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業後に必ず復習すること。特に、本文を暗唱できるまで音読すること。

履修上の注意 /Remarks

コミュニケーション能力として、授業中の積極性を高く評価する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国語のみの授業を目指しましょう。

キーワード /Keywords

コミュニケーション能力 会話 プレゼンテーション

中国語上級会話AI【昼】

担当者名 胡 玉華 / 中国学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 3 - 3
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

さまざまな教室活動を通して、日常生活、学校生活、旅行などの場面での「会話」能力を鍛えながら、決まったトピックについての「プレゼンテーション」能力もアップさせるのがこの授業のねらいである。

教科書 /Textbooks

『体験汉语口语教程4』（陈作宏 主编；赵永宏，陈作宏 编）、高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『汉语中級口语教程 上册』（杨寄洲，贾永芬）、北京大学出版社
『汉语中級口语教程 下册』（杨寄洲，贾永芬）、北京大学出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1課の授業は、①予備知識の復習、②場面付き会話の学習、③定着活動、④まとめという4つのプロセスからなる。

- 1回 第1課(いろいろな場面でのあいさつ)①、②、③
- 2回 第1課④；第2課(買い物)①、②
- 3回 第2課③、④
- 4回 第3課(食生活)①、②、③
- 5回 第3課④；第4課(交通)①、②
- 6回 第4課③、④
- 7回 第5課(トラブルの解決)①、②、③
- 8回 第5課④；第6課(通信手段)①、②
- 9回 第6課③、④
- 10回 中間復習
- 11回 第7課(装飾の文化)①、②、③
- 12回 第7課④；第8課(季節)①、②
- 13回 第8課③、④
- 14回 第9課(スポーツ)①、②、③
- 15回 第9課④；総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50%、平常点(授業中の積極性、活動や宿題の出来ばえ、小テスト等)...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業後に必ず復習すること。特に、本文を暗唱できるまで音読すること。

履修上の注意 /Remarks

コミュニケーション能力として、授業中の積極性を高く評価する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国語のみの授業を目指しましょう。

キーワード /Keywords

コミュニケーション能力 会話 プレゼンテーション

中国語上級会話AII 【昼】

担当者名 胡 玉華 / 中国学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 3 - 1
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

さまざまな教室活動を通して、日常生活、学校生活、旅行などの場面での「会話」能力を鍛えながら、決まったトピックについての「プレゼンテーション」能力もアップさせるのがこの授業のねらいである。

教科書 /Textbooks

『体験汉语口语教程4』（陈作宏 主编；赵永宏，陈作宏 编）、高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『汉语中级口语教程 上册』（杨寄洲，贾永芬）、北京大学出版社
『汉语中级口语教程 下册』（杨寄洲，贾永芬）、北京大学出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 課の授業は、①予備知識の復習、②場面付き会話の学習、③定着活動、④まとめという4つのプロセスからなる。
- 1回 第10課(健康と生活習慣)①、②、③
 - 2回 第10課④；第11課(旅行)①、②
 - 3回 第11課③、④
 - 4回 第12課(美意識)①、②、③
 - 5回 第12課④；中間復習
 - 6回 第13課(学習方法)①、②、③
 - 7回 第13課④；第14課(就職)①、②
 - 8回 第14課③、④
 - 9回 第15課(祝日)①、②、③
 - 10回 第15課、④；第16課(教育)①、②
 - 11回 第16課③、④
 - 12回 第17課(伝統文化)①、②、③
 - 13回 第17課④、第18課(海外生活)①、②
 - 14回 第18課③、④
 - 15回 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50%、平常点(授業中の積極性、活動や宿題の出来ばえ、小テスト等)...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業前に必ず前回の内容の復習すること、及び次回の内容の予習すること。

履修上の注意 /Remarks

コミュニケーション能力として、授業中の積極性を高く評価する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国語のみの授業を目指しましょう。

キーワード /Keywords

コミュニケーション能力 会話 プレゼンテーション

中国語上級会話AII 【昼】

担当者名 /Instructor 胡 玉華 / 中国学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

さまざまな教室活動を通して、日常生活、学校生活、旅行などの場面での「会話」能力を鍛えながら、決まったトピックについての「プレゼンテーション」能力もアップさせるのがこの授業のねらいである。

教科書 /Textbooks

『体験汉语口语教程4』（陈作宏 主编；赵永宏，陈作宏 编）、高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『汉语中级口语教程 上册』（杨寄洲，贾永芬）、北京大学出版社
『汉语中级口语教程 下册』（杨寄洲，贾永芬）、北京大学出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1課の授業は、①予備知識の復習、②場面付き会話の学習、③定着活動、④まとめという4つのプロセスからなる。
- 1回 第10課(健康と生活習慣)①、②、③
 - 2回 第10課④；第11課(旅行)①、②
 - 3回 第11課③、④
 - 4回 第12課(美意識)①、②、③
 - 5回 第12課④；中間復習
 - 6回 第13課(学習方法)①、②、③
 - 7回 第13課④；第14課(就職)①、②
 - 8回 第14課③、④
 - 9回 第15課(祝日)①、②、③
 - 10回 第15課、④；第16課(教育)①、②
 - 11回 第16課③、④
 - 12回 第17課(伝統文化)①、②、③
 - 13回 第17課④、第18課(海外生活)①、②
 - 14回 第18課③、④
 - 15回 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50%、平常点(授業中の積極性、活動や宿題の出来ばえ、小テスト等)...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業前に必ず前回の内容の復習すること、及び次回の内容の予習すること。

履修上の注意 /Remarks

コミュニケーション能力として、授業中の積極性を高く評価する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国語のみの授業を目指しましょう。

キーワード /Keywords

コミュニケーション能力 会話 プレゼンテーション

中国語上級会話AII 【昼】

担当者名 胡 玉華 / 中国学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 3 - 3
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

さまざまな教室活動を通して、日常生活、学校生活、旅行などの場面での「会話」能力を鍛えながら、決まったトピックについての「プレゼンテーション」能力もアップさせるのがこの授業のねらいである。

教科書 /Textbooks

『体験汉语口语教程4』（陈作宏 主编；赵永宏，陈作宏 编）、高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『汉语中级口语教程 上册』（杨寄洲，贾永芬）、北京大学出版社
『汉语中级口语教程 下册』（杨寄洲，贾永芬）、北京大学出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 課の授業は、①予備知識の復習、②場面付き会話の学習、③定着活動、④まとめという4つのプロセスからなる。
- 1回 第10課(健康と生活習慣)①、②、③
 - 2回 第10課④；第11課(旅行)①、②
 - 3回 第11課③、④
 - 4回 第12課(美意識)①、②、③
 - 5回 第12課④；中間復習
 - 6回 第13課(学習方法)①、②、③
 - 7回 第13課④；第14課(就職)①、②
 - 8回 第14課③、④
 - 9回 第15課(祝日)①、②、③
 - 10回 第15課、④；第16課(教育)①、②
 - 11回 第16課③、④
 - 12回 第17課(伝統文化)①、②、③
 - 13回 第17課④、第18課(海外生活)①、②
 - 14回 第18課③、④
 - 15回 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50%、平常点(授業中の積極性、活動や宿題の出来ばえ、小テスト等)...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業前に必ず前回の内容の復習すること、及び次回の内容の予習すること。

履修上の注意 /Remarks

コミュニケーション能力として、授業中の積極性を高く評価する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国語のみの授業を目指しましょう。

キーワード /Keywords

コミュニケーション能力 会話 プレゼンテーション

中国語上級作文I 【昼】

担当者名 /Instructor 篠原 征子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

日中言語習慣の違いや発想法の差異を把握した上で、複文の作り方、及び作文の書き方の学習・練習を通して、自分の伝えたいことを中国語の言語習慣にあった自然な文で正確に表現できるようにする。また、日本語の文章を適切に中国語に訳せるようにする。

教科書 /Textbooks

高橋海生・程美珍 著『中国語上級作文』（白帝社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 呂叔湘主編 牛島徳次・菱沼透監訳『中国語文法用例辞典』（東方書店）
- 王占華・篠原征子・苞山武義・一木達彦著『中国語常用フレーズ辞典』（光生館）
- 李次嗣明著『中国語のニュアンス』まちがえやすい類義語・同義語（東方書店）
- 遠藤紹徳著『中←→日翻訳表現文法』中文日訳・日文中訳の原点とテクニク
- 李培元監修 武柏索 許維翰など編著『中国語慣用型』（中華書店）
- 劉月華など著 相原茂監訳『現代中国語文法総覧』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 第1課 他不是去看电影，而是去医院看朋友。 [並列関係の複文1]
- 2 回 第2課 咱们一边走，一边谈吧。 [並列関係の複文2]
- 3 回 第3課 高原的气候变化很大，有时晴，有时雨。 [並列関係の複文3]
- 4 回 第4課 她姐姐的孩子既聪明，又用功。 [並列関係の複文4]
- 5 回 第5課 或者去广州，或者去上海，咱们再商量。 [選択関係の複文1]
- 6 回 第6課 首先我们应当学好基础课，然后再学习专业。 [連続関係の複文1]
- 7 回 第7課 因为今天很冷，所以我多穿了件毛衣。 [因果関係の複文1]
- 8 回 第8課 茶不但是很好的饮料，而且有医疗作用。 [累加関係の複文1]
- 9 回 第9課 虽然雨下得很大，但是他还是来了。 [逆接関係の複文1]
- 10 回 第10課 如果每天坚持运动，就可以少生病。 [仮定関係の複文1]
- 1 1 回 第11課 除了打篮球以外，他还喜欢爬山。 [累加関係の複文2]
- 1 2 回 第12課 这片土地除了修建住宅，就是建造学校。 [選択関係の複文2]
- 1 3 回 第13課 为了节省时间，您就坐飞机去吧。 [目的関係の複文1]
- 1 4 回 第14課 代表团一下飞机，就受到热烈的欢迎。 [連続関係の複文2]
- 1 5 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50%、日常の授業への取り組み...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

語彙力 作文 表現

中国語上級作文I 【昼】

担当者名 /Instructor 篠原 征子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

日中言語習慣の違いや発想法の差異を把握した上で、複文の作り方、及び作文の書き方の学習・練習を通して、自分の伝えたいことを中国語の言語習慣にあった自然な文で正確に表現できるようにする。また、日本語の文章を適切に中国語に訳せるようにする。

教科書 /Textbooks

高橋海生・程美珍 著『中国語上級作文』（白帝社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 呂叔湘主編 牛島徳次・菱沼透監訳『中国語文法用例辞典』（東方書店）
- 王占華・篠原征子・苞山武義・一木達彦著『中国語常用フレーズ辞典』（光生館）
- 李次嗣明著『中国語のニュアンス』まちがえやすい類義語・同義語（東方書店）
- 遠藤紹徳著『中←→日翻訳表現文法』中文日訳・日文中訳の原点とテクニク
- 李培元監修 武柏索 許維翰など編著『中国語慣用型』（中華書店）
- 劉月華など著 相原茂監訳『現代中国語文法総覧』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 第1課 他不是去看电影，而是去医院看朋友。 [並列関係の複文1]
- 2 回 第2課 咱们一边走，一边谈吧。 [並列関係の複文2]
- 3 回 第3課 高原的气候变化很大，有时晴，有时雨。 [並列関係の複文3]
- 4 回 第4課 她姐姐的孩子既聪明，又用功。 [並列関係の複文4]
- 5 回 第5課 或者去广州，或者去上海，咱们再商量。 [選択関係の複文1]
- 6 回 第6課 首先我们应当学好基础课，然后再学习专业。 [連続関係の複文1]
- 7 回 第7課 因为今天很冷，所以我多穿了件毛衣。 [因果関係の複文1]
- 8 回 第8課 茶不但是很好的饮料，而且有医疗作用。 [累加関係の複文1]
- 9 回 第9課 虽然雨下得很大，但是他还是来了。 [逆接関係の複文1]
- 10 回 第10課 如果每天坚持运动，就可以少生病。 [仮定関係の複文1]
- 1 1 回 第11課 除了打篮球以外，他还喜欢爬山。 [累加関係の複文2]
- 1 2 回 第12課 这片土地除了修建住宅，就是建造学校。 [選択関係の複文2]
- 1 3 回 第13課 为了节省时间，您就坐飞机去吧。 [目的関係の複文1]
- 1 4 回 第14課 代表团一下飞机，就受到热烈的欢迎。 [連続関係の複文2]
- 1 5 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50%、日常の授業への取り組み...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

語彙力 作文 表現

中国語上級作文I 【昼】

担当者名 /Instructor 篠原 征子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

日中言語習慣の違いや発想法の差異を把握した上で、複文の作り方、及び作文の書き方の学習・練習を通して、自分の伝えたいことを中国語の言語習慣にあった自然な文で正確に表現できるようにする。また、日本語の文章を適切に中国語に訳せるようにする。

教科書 /Textbooks

高橋海生・程美珍 著『中国語上級作文』（白帝社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 呂叔湘主編 牛島徳次・菱沼透監訳『中国語文法用例辞典』（東方書店）
- 王占華・篠原征子・苞山武義・一木達彦著『中国語常用フレーズ辞典』（光生館）
- 李次嗣明著『中国語のニュアンス』まちがえやすい類義語・同義語（東方書店）
- 遠藤紹徳著『中←→日翻訳表現文法』中文日訳・日文中訳の原点とテクニク
- 李培元監修 武柏索 許維翰など編著『中国語慣用型』（中華書店）
- 劉月華など著 相原茂監訳『現代中国語文法総覧』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 第1課 他不是去看电影，而是去医院看朋友。 [並列関係の複文1]
- 2 回 第2課 咱们一边走，一边谈吧。 [並列関係の複文2]
- 3 回 第3課 高原的气候变化很大，有时晴，有时雨。 [並列関係の複文3]
- 4 回 第4課 她姐姐的孩子既聪明，又用功。 [並列関係の複文4]
- 5 回 第5課 或者去广州，或者去上海，咱们再商量。 [選択関係の複文1]
- 6 回 第6課 首先我们应当学好基础课，然后再学习专业。 [連続関係の複文1]
- 7 回 第7課 因为今天很冷，所以我多穿了件毛衣。 [因果関係の複文1]
- 8 回 第8課 茶不但是很好的饮料，而且有医疗作用。 [累加関係の複文1]
- 9 回 第9課 虽然雨下得很大，但是他还是来了。 [逆接関係の複文1]
- 10 回 第10課 如果每天坚持运动，就可以少生病。 [仮定関係の複文1]
- 1 1 回 第11課 除了打篮球以外，他还喜欢爬山。 [累加関係の複文2]
- 1 2 回 第12課 这片土地除了修建住宅，就是建造学校。 [選択関係の複文2]
- 1 3 回 第13課 为了节省时间，您就坐飞机去吧。 [目的関係の複文1]
- 1 4 回 第14課 代表团一下飞机，就受到热烈的欢迎。 [連続関係の複文2]
- 1 5 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50%、日常の授業への取り組み...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

語彙力 作文 表現

中国語上級作文II【昼】

担当者名 /Instructor 篠原 征子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

日中言語習慣の違いや発想法の差異を把握した上で、作文ルールの学習及び応用練習を通して、自分の伝えたいことを中国語の言語習慣にあった自然な文で正確に表現できるよう、日本語の文章を適切に中国語に訳せるようにする。

教科書 /Textbooks

高橋海生・程美珍 著『中国語上級作文』（白帝社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 呂叔湘主編 牛島徳次・菱沼透監訳『中国語文法用例辞典』（東方書店）
- 王占華・篠原征子・苞山武義・一木達彦著『中国語常用フレーズ辞典』（光生館）
- 李次嗣明著『中国語のニュアンス』まぢがえやすい類義語・同義語（東方書店）
- 遠藤紹徳著『中↔日翻訳表現文法』中文日訳・日文中訳の原点とテクニク
- 李培元監修 武柏索 許維翰など編著『中国語慣用型』（中華書店）
- 劉月華など著 相原茂監訳『現代中国語文法総覧』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | | |
|-----|------|-----------------------|------------|
| 1回 | 第15課 | 今年冬天连大阪都这么冷，何况北海道。 | [選択関係の複文3] |
| 2回 | 第16課 | 只要你的意见正确，我就改正。 | [条件関係の複文1] |
| 3回 | 第17課 | 只有你去请他，他才肯来。 | [条件関係の複文2] |
| 4回 | 第18課 | 无论刮风还是下雪，他早晨都要去散步。 | [条件関係の複文3] |
| 5回 | 第19課 | 即使失败，也不要灰心。 | [譲歩関係の複文1] |
| 6回 | 第20課 | 尽管文章短小，还是很有分量的。 | [譲歩関係の複文2] |
| 7回 | 第21課 | 既然来了，你就多住几天。 | [因果関係の複文2] |
| 8回 | 第22課 | 父亲不但反对，反而鼓励我去中国留学。 | [累加関係の複文4] |
| 9回 | 第23課 | 你果然对水墨画感兴趣，应该下功夫去掌握它。 | [仮定関係の複文2] |
| 10回 | 第24課 | 明天我还有事，不然我可以陪你去博物馆。 | [仮定関係の複文3] |
| 11回 | 第25課 | 我不知道他来东京，不然我早就去看他了。 | [逆接関係の複文2] |
| 12回 | 第26課 | 他不仅会写钢笔字，就是毛笔字也写得很好。 | [累加関係の複文5] |
| 13回 | 第27課 | 各种电器应该注意保养，以延长使用寿命。 | [目的関係の複文2] |
| 14回 | 第28課 | 这种电视之所以受欢迎，是因为它物美价廉。 | [因果関係の複文3] |
| 15回 | まとめ | | |

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50%、日常の授業への取り組み...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

語彙力 作文 表現

中国語上級作文II【昼】

担当者名 /Instructor 篠原 征子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

日中言語習慣の違いや発想法の差異を把握した上で、作文ルールの学習及び応用練習を通して、自分の伝えたいことを中国語の言語習慣にあった自然な文で正確に表現できるよう、日本語の文章を適切に中国語に訳せるようにする。

教科書 /Textbooks

高橋海生・程美珍 著『中国語上級作文』（白帝社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 呂叔湘主編 牛島徳次・菱沼透監訳『中国語文法用例辞典』（東方書店）
- 王占華・篠原征子・苞山武義・一木達彦著『中国語常用フレーズ辞典』（光生館）
- 李次嗣明著『中国語のニュアンス』まぢがえやすい類義語・同義語（東方書店）
- 遠藤紹徳著『中↔日翻訳表現文法』中文日訳・日文中訳の原点とテクニク
- 李培元監修 武柏索 許維翰など編著『中国語慣用型』（中華書店）
- 劉月華など著 相原茂監訳『現代中国語文法総覧』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | | |
|-----|------|-----------------------|------------|
| 1回 | 第15課 | 今年冬天连大阪都这么冷，何况北海道。 | [選択関係の複文3] |
| 2回 | 第16課 | 只要你的意见正确，我就改正。 | [条件関係の複文1] |
| 3回 | 第17課 | 只有你去请他，他才肯来。 | [条件関係の複文2] |
| 4回 | 第18課 | 无论刮风还是下雪，他早晨都要去散步。 | [条件関係の複文3] |
| 5回 | 第19課 | 即使失败，也不要灰心。 | [譲歩関係の複文1] |
| 6回 | 第20課 | 尽管文章短小，还是很有分量的。 | [譲歩関係の複文2] |
| 7回 | 第21課 | 既然来了，你就多住几天。 | [因果関係の複文2] |
| 8回 | 第22課 | 父亲不但反对，反而鼓励我去中国留学。 | [累加関係の複文4] |
| 9回 | 第23課 | 你果然对水墨画感兴趣，应该下功夫去掌握它。 | [仮定関係の複文2] |
| 10回 | 第24課 | 明天我还有事，不然我可以陪你去博物馆。 | [仮定関係の複文3] |
| 11回 | 第25課 | 我不知道他来东京，不然我早就去看他了。 | [逆接関係の複文2] |
| 12回 | 第26課 | 他不仅会写钢笔字，就是毛笔字也写得很好。 | [累加関係の複文5] |
| 13回 | 第27課 | 各种电器应该注意保养，以延长使用寿命。 | [目的関係の複文2] |
| 14回 | 第28課 | 这种电视之所以受欢迎，是因为它物美价廉。 | [因果関係の複文3] |
| 15回 | まとめ | | |

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50%、日常の授業への取り組み...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

語彙力 作文 表現

中国語上級作文II 【昼】

担当者名 /Instructor 篠原 征子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

日中言語習慣の違いや発想法の差異を把握した上で、作文ルールの学習及び応用練習を通して、自分の伝えたいことを中国語の言語習慣にあった自然な文で正確に表現できるよう、日本語の文章を適切に中国語に訳せるようにする。

教科書 /Textbooks

高橋海生・程美珍 著『中国語上級作文』（白帝社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 呂叔湘主編 牛島徳次・菱沼透監訳『中国語文法用例辞典』（東方書店）
- 王占華・篠原征子・苞山武義・一木達彦著『中国語常用フレーズ辞典』（光生館）
- 李次嗣明著『中国語のニュアンス』まちがえやすい類義語・同義語（東方書店）
- 遠藤紹徳著『中↔日翻訳表現文法』中文日訳・日文中訳の原点とテクニク
- 李培元監修 武柏索 許維翰など編著『中国語慣用型』（中華書店）
- 劉月華など著 相原茂監訳『現代中国語文法総覧』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | | |
|-----|------|-----------------------|------------|
| 1回 | 第15課 | 今年冬天连大阪都这么冷，何况北海道。 | [選択関係の複文3] |
| 2回 | 第16課 | 只要你的意见正确，我就改正。 | [条件関係の複文1] |
| 3回 | 第17課 | 只有你去请他，他才肯来。 | [条件関係の複文2] |
| 4回 | 第18課 | 无论刮风还是下雪，他早晨都要去散步。 | [条件関係の複文3] |
| 5回 | 第19課 | 即使失败，也不要灰心。 | [譲歩関係の複文1] |
| 6回 | 第20課 | 尽管文章短小，还是很有分量的。 | [譲歩関係の複文2] |
| 7回 | 第21課 | 既然来了，你就多住几天。 | [因果関係の複文2] |
| 8回 | 第22課 | 父亲不但反对，反而鼓励我去中国留学。 | [累加関係の複文4] |
| 9回 | 第23課 | 你果然对水墨画感兴趣，应该下功夫去掌握它。 | [仮定関係の複文2] |
| 10回 | 第24課 | 明天我还有事，不然我可以陪你去博物馆。 | [仮定関係の複文3] |
| 11回 | 第25課 | 我不知道他来东京，不然我早就去看他了。 | [逆接関係の複文2] |
| 12回 | 第26課 | 他不仅会写钢笔字，就是毛笔字也写得很好。 | [累加関係の複文5] |
| 13回 | 第27課 | 各种电器应该注意保养，以延长使用寿命。 | [目的関係の複文2] |
| 14回 | 第28課 | 这种电视之所以受欢迎，是因为它物美价廉。 | [因果関係の複文3] |
| 15回 | まとめ | | |

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50%、日常の授業への取り組み...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

語彙力 作文 表現

中国語リスニングI【昼】

担当者名 /Instructor 宋 健華 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国学科の2年生を対象に、学校、買物、病院など様々な場面を設定した対話や短文の形式を用い、それらの内容を聞き取ることによって日常会話や短い文章に対する理解力を高めることが目的である。

教科書 /Textbooks

『汉语听力速成 基础编』毛悦主编 / 北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 第一课 买东西(1)	一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
2回 第一课 买东西(2)	四、听课文做练习 五、泛听练习
3回 第二课 看病(1)	一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
4回 第二课 看病(2)	四、听课文做练习 五、泛听练习
5回 第三课 去餐厅吃饭(1)	一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
6回 第三课 去餐厅吃饭(2)	四、听课文做练习 五、泛听练习
7回 第四课 问路(1)	一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
8回 第四课 问路(2)	四、听课文做练习 五、泛听练习
9回 第五课 寄东西(1)	一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
10回 第五课 寄东西(2)	四、听课文做练习 五、泛听练习
11回 第六课 旅游(1)	一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
12回 第六课 旅游(2)	四、听课文做练习 五、泛听练习
13回 第七课 修理(1)	一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
14回 第七课 修理(2)	四、听课文做练习 五、泛听练习
15回 まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況10%、小テスト20%、期末試験70%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず単語を覚えること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

リスニング 聴力 単語

中国語リスニングI【昼】

担当者名 /Instructor 宋 健華 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国学科の2年生を対象に、学校、買物、病院など様々な場面を設定した対話や短文の形式を用い、それらの内容を聞き取ることによって日常会話や短い文章に対する理解力を高めることが目的である。

教科書 /Textbooks

『汉语听力速成 基础编』毛悦主编 / 北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|-----------------|---------------------|
| 1回 第一課 买东西(1) | 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习 |
| 2回 第一課 买东西(2) | 四、听课文做练习 五、泛听练习 |
| 3回 第二課 看病(1) | 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习 |
| 4回 第二課 看病(2) | 四、听课文做练习 五、泛听练习 |
| 5回 第三課 去餐厅吃饭(1) | 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习 |
| 6回 第三課 去餐厅吃饭(2) | 四、听课文做练习 五、泛听练习 |
| 7回 第四課 问路(1) | 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习 |
| 8回 第四課 问路(2) | 四、听课文做练习 五、泛听练习 |
| 9回 第五課 寄东西(1) | 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习 |
| 10回 第五課 寄东西(2) | 四、听课文做练习 五、泛听练习 |
| 11回 第六課 旅游(1) | 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习 |
| 12回 第六課 旅游(2) | 四、听课文做练习 五、泛听练习 |
| 13回 第七課 修理(1) | 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习 |
| 14回 第七課 修理(2) | 四、听课文做练习 五、泛听练习 |
| 15回 まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況10%、小テスト20%、期末試験70%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず単語を覚えること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

リスニング 聴力 単語

中国語リスニングI【昼】

担当者名 /Instructor 宋 健華 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国学科の2年生を対象に、学校、買物、病院など様々な場面を設定した対話や短文の形式を用い、それらの内容を聞き取ることによって日常会話や短い文章に対する理解力を高めることが目的である。

教科書 /Textbooks

『汉语听力速成 基础编』毛悦主编 / 北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 第一課 买东西(1)	一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
2回 第一課 买东西(2)	四、听课文做练习 五、泛听练习
3回 第二課 看病(1)	一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
4回 第二課 看病(2)	四、听课文做练习 五、泛听练习
5回 第三課 去餐厅吃饭(1)	一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
6回 第三課 去餐厅吃饭(2)	四、听课文做练习 五、泛听练习
7回 第四課 问路(1)	一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
8回 第四課 问路(2)	四、听课文做练习 五、泛听练习
9回 第五課 寄东西(1)	一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
10回 第五課 寄东西(2)	四、听课文做练习 五、泛听练习
11回 第六課 旅游(1)	一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
12回 第六課 旅游(2)	四、听课文做练习 五、泛听练习
13回 第七課 修理(1)	一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
14回 第七課 修理(2)	四、听课文做练习 五、泛听练习
15回 まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況10%、小テスト20%、期末試験70%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず単語を覚えること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

リスニング 聴力 単語

中国語リスニングII 【昼】

担当者名 /Instructor 宋 健華 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国学科の2年生を対象に、1学期の引き続き、学校、買物、病院など様々な場面を設定した対話や短文の形式を用い、それらの内容を聞き取ることによって日常会話や短い文章に対する理解力を高めることが目的である。

教科書 /Textbooks

『汉语听力速成 基础编』毛悦主编 / 北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1回 第八课 休闲娱乐 (1) | 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习 |
| 2回 第八课 休闲娱乐 (2) | 四、听课文做练习 五、泛听练习 |
| 3回 第九课 谈学习 (1) | 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习 |
| 4回 第九课 谈学习 (2) | 四、听课文做练习 |
| 5回 第九课 谈学习 (3) | 五、泛听练习 |
| 6回 第十课 家庭 (1) | 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习 |
| 7回 第十课 家庭 (2) | 四、听课文做练习 |
| 8回 第十课 家庭 (3) | 五、泛听练习 |
| 9回 第十一课 北京见闻 (1) | 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习 |
| 10回 第十一课 北京见闻 (2) | 四、听课文做练习 |
| 11回 第十一课 北京见闻 (3) | 五、泛听练习 |
| 12回 第十二课 社会问题 (1) | 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习 |
| 13回 第十二课 社会问题 (2) | 四、听课文做练习 |
| 14回 第十二课 社会问题 (3) | 五、泛听练习 |
| 15回 まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 10%、小テスト 20%、期末試験 70% で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず単語を覚えること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

リスニング 聴力 単語

中国語リスニングII 【昼】

担当者名
/Instructor

宋 健華 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

授業形態 講義・実習
/Class Format

クラス 2 - 2
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国学科の2年生を対象に、1学期の引き続き、学校、買物、病院など様々な場面を設定した対話や短文の形式を用い、それらの内容を聞き取ることによって日常会話や短い文章に対する理解力を高めることが目的である。

教科書 /Textbooks

『汉语听力速成 基础编』毛悦主编 / 北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|-----------------|---------------------|
| 1回 | 第八课 休闲娱乐 (1) | 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习 |
| 2回 | 第八课 休闲娱乐 (2) | 四、听课文做练习 五、泛听练习 |
| 3回 | 第九课 谈学习 (1) | 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习 |
| 4回 | 第九课 谈学习 (2) | 四、听课文做练习 |
| 5回 | 第九课 谈学习 (3) | 五、泛听练习 |
| 6回 | 第十课 家庭 (1) | 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习 |
| 7回 | 第十课 家庭 (2) | 四、听课文做练习 |
| 8回 | 第十课 家庭 (3) | 五、泛听练习 |
| 9回 | 第十一课 北京见闻 (1) | 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习 |
| 10回 | 第十一课 北京见闻 (2) | 四、听课文做练习 |
| 11回 | 第十一课 北京见闻 (3) | 五、泛听练习 |
| 12回 | 第十二课 社会问题 (1) | 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习 |
| 13回 | 第十二课 社会问题 (2) | 四、听课文做练习 |
| 14回 | 第十二课 社会问题 (3) | 五、泛听练习 |
| 15回 | まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 10%、小テスト 20%、期末試験 70% で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず単語を覚えること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

リスニング 聴力 単語

中国語リスニングII 【昼】

担当者名 /Instructor 宋 健華 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国学科の2年生を対象に、1学期の引き続き、学校、買物、病院など様々な場面を設定した対話や短文の形式を用い、それらの内容を聞き取ることによって日常会話や短い文章に対する理解力を高めることが目的である。

教科書 /Textbooks

『汉语听力速成 基础编』毛悦主编 / 北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|-----------------|---------------------|
| 1回 | 第八课 休闲娱乐 (1) | 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习 |
| 2回 | 第八课 休闲娱乐 (2) | 四、听课文做练习 五、泛听练习 |
| 3回 | 第九课 谈学习 (1) | 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习 |
| 4回 | 第九课 谈学习 (2) | 四、听课文做练习 |
| 5回 | 第九课 谈学习 (3) | 五、泛听练习 |
| 6回 | 第十课 家庭 (1) | 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习 |
| 7回 | 第十课 家庭 (2) | 四、听课文做练习 |
| 8回 | 第十课 家庭 (3) | 五、泛听练习 |
| 9回 | 第十一课 北京见闻 (1) | 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习 |
| 10回 | 第十一课 北京见闻 (2) | 四、听课文做练习 |
| 11回 | 第十一课 北京见闻 (3) | 五、泛听练习 |
| 12回 | 第十二课 社会问题 (1) | 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习 |
| 13回 | 第十二课 社会问题 (2) | 四、听课文做练习 |
| 14回 | 第十二课 社会问题 (3) | 五、泛听练习 |
| 15回 | まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 10%、小テスト 20%、期末試験 70% で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず単語を覚えること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

リスニング 聴力 単語

中国語リスニングⅢ 【昼】

担当者名 /Instructor 王 雲燕 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国学科の3年生を対象に、基本的な対話文や短文の聞き取りに慣れた上で、運動や旅行、職業などをテーマとした長い文章に対する聴解力と読解力の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

『汉语听力速成 提高编』毛悦主编 / 北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 校园生活 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 2回 第一課 校园生活 四、听课文做练习
- 3回 第二課 饮食 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 4回 第二課 饮食 四、听课文做练习
- 5回 第三課 购物 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 6回 第三課 购物 四、听课文做练习
- 7回 第四課 寻求帮助 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 8回 第四課 寻求帮助 四、听课文做练习
- 9回 第五課 休闲娱乐 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 10回 第五課 休闲娱乐 四、听课文做练习
- 11回 第六課 交通状况 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 12回 第六課 交通状况 四、听课文做练习
- 13回 第七課 婚姻与家庭 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 14回 第七課 婚姻与家庭 四、听课文做练习
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・ 50% 小テスト・・・ 20% 日常の学習状況・・・ 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず単語を覚えること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

リスニング 聴力 単語

中国語リスニングⅢ 【昼】

担当者名 /Instructor 王 雲燕 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国学科の3年生を対象に、基本的な対話文や短文の聞き取りに慣れた上で、運動や旅行、職業などをテーマとした長い文章に対する聴解力と読解力の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

『汉语听力速成 提高编』毛悦主编 / 北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 校园生活 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 2回 第一課 校园生活 四、听课文做练习
- 3回 第二課 饮食 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 4回 第二課 饮食 四、听课文做练习
- 5回 第三課 购物 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 6回 第三課 购物 四、听课文做练习
- 7回 第四課 寻求帮助 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 8回 第四課 寻求帮助 四、听课文做练习
- 9回 第五課 休闲娱乐 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 10回 第五課 休闲娱乐 四、听课文做练习
- 11回 第六課 交通状况 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 12回 第六課 交通状况 四、听课文做练习
- 13回 第七課 婚姻与家庭 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 14回 第七課 婚姻与家庭 四、听课文做练习
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・ 50% 小テスト・・・ 20% 日常の学習状況・・・ 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず単語を覚えること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

リスニング 聴力 単語

中国語リスニングⅢ 【昼】

担当者名 /Instructor 王 雲燕 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国学科の3年生を対象に、基本的な対話文や短文の聞き取りに慣れた上で、運動や旅行、職業などをテーマとした長い文章に対する聴解力と読解力の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

『汉语听力速成 提高编』毛悦主编 / 北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 校园生活 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 2回 第一課 校园生活 四、听课文做练习
- 3回 第二課 饮食 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 4回 第二課 饮食 四、听课文做练习
- 5回 第三課 购物 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 6回 第三課 购物 四、听课文做练习
- 7回 第四課 寻求帮助 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 8回 第四課 寻求帮助 四、听课文做练习
- 9回 第五課 休闲娱乐 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 10回 第五課 休闲娱乐 四、听课文做练习
- 11回 第六課 交通状况 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 12回 第六課 交通状况 四、听课文做练习
- 13回 第七課 婚姻与家庭 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 14回 第七課 婚姻与家庭 四、听课文做练习
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・ 50% 小テスト・・・ 20% 日常の学習状況・・・ 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず単語を覚えること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

リスニング 聴力 単語

中国語リスニングⅣ 【昼】

担当者名 王 雲燕 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 3 - 1
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国学科3年生を対象に、1学期の引き続き、基本的な対話文や短文の聞き取りに慣れた上で、運動や旅行、職業などをテーマとした長い文章に対する聴解力と読解力の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

『汉语听力速成 提高编』毛悦主编 / 北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第八课 体育运动 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 2回 第八课 体育运动 四、听课文做练习
- 3回 第九课 参观旅游 一、生词 二、格式与范句
- 4回 第九课 参观旅游 三、热身练习
- 5回 第九课 参观旅游 四、听课文做练习
- 6回 第十课 疾病与治疗 一、生词 二、格式与范句
- 7回 第十课 疾病与治疗 三、热身练习
- 8回 第十课 疾病与治疗 四、听课文做练习
- 9回 第十一课 职业工作 一、生词 二、格式与范句
- 10回 第十一课 职业工作 三、热身练习
- 11回 第十一课 职业工作 四、听课文做练习
- 12回 第十二课 健康 一、生词 二、格式与范句
- 13回 第十二课 健康 三、热身练习
- 14回 第十二课 健康 四、听课文做练习
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・ 50% 小テスト・・・ 20% 日常の学習状況・・・ 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず単語を覚えること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

リスニング 聴力 単語

中国語リスニングⅣ 【昼】

担当者名 /Instructor 王 雲燕 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国学科3年生を対象に、1学期の引き続き、基本的な対話文や短文の聞き取りに慣れた上で、運動や旅行、職業などをテーマとした長い文章に対する聴解力と読解力の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

『汉语听力速成 提高编』毛悦主编 / 北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第八课 体育运动 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 2回 第八课 体育运动 四、听课文做练习
- 3回 第九课 参观旅游 一、生词 二、格式与范句
- 4回 第九课 参观旅游 三、热身练习
- 5回 第九课 参观旅游 四、听课文做练习
- 6回 第十课 疾病与治疗 一、生词 二、格式与范句
- 7回 第十课 疾病与治疗 三、热身练习
- 8回 第十课 疾病与治疗 四、听课文做练习
- 9回 第十一课 职业工作 一、生词 二、格式与范句
- 10回 第十一课 职业工作 三、热身练习
- 11回 第十一课 职业工作 四、听课文做练习
- 12回 第十二课 健康 一、生词 二、格式与范句
- 13回 第十二课 健康 三、热身练习
- 14回 第十二课 健康 四、听课文做练习
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・ 50% 小テスト・・・ 20% 日常の学習状況・・・ 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず単語を覚えること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

リスニング 聴力 単語

中国語リスニングⅣ 【昼】

担当者名 王 雲燕 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 3 - 3
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国学科3年生を対象に、1学期の引き続き、基本的な対話文や短文の聞き取りに慣れた上で、運動や旅行、職業などをテーマとした長い文章に対する聴解力と読解力の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

『汉语听力速成 提高编』毛悦主编 / 北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第八课 体育运动 一、生词 二、格式与范句 三、热身练习
- 2回 第八课 体育运动 四、听课文做练习
- 3回 第九课 参观旅游 一、生词 二、格式与范句
- 4回 第九课 参观旅游 三、热身练习
- 5回 第九课 参观旅游 四、听课文做练习
- 6回 第十课 疾病与治疗 一、生词 二、格式与范句
- 7回 第十课 疾病与治疗 三、热身练习
- 8回 第十课 疾病与治疗 四、听课文做练习
- 9回 第十一课 职业工作 一、生词 二、格式与范句
- 10回 第十一课 职业工作 三、热身练习
- 11回 第十一课 职业工作 四、听课文做练习
- 12回 第十二课 健康 一、生词 二、格式与范句
- 13回 第十二课 健康 三、热身练习
- 14回 第十二课 健康 四、听课文做练习
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・ 50% 小テスト・・・ 20% 日常の学習状況・・・ 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず単語を覚えること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

リスニング 聴力 単語

研究演習 1 A 【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 俊生 / 中国学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

最近の中国語圏における音楽事情の研究。主に香港、台湾、大陸の歌手、作詞家、作曲家の代表的な音楽活動を調査・分析する。各時期、各地域の主要な歌手、作品を系統的に、ジャンル別にサンプルを採り上げ、時代の流れ、音楽の背後にあるもの等を研究する。
到達目標は、中国語圏における音楽事情の研究をとおして、現代の中国語圏の各地域文化等について説明できるようになることである。

教科書 /Textbooks

プリント教材

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 中国語圏における現代ポップスの概要について
- 2回 香港四大天王 (1)
- 3回 香港四大天王 (2)
- 4回 香港男性歌手 (1)
- 5回 香港男性歌手 (2)
- 6回 香港女性歌手 (1)
- 7回 香港女性歌手 (2)
- 8回 台湾男性歌手 (1)
- 9回 台湾男性歌手 (2)
- 10回 台湾女性歌手 (1)
- 11回 台湾女性歌手 (2)
- 12回 大陸男性歌手 (1)
- 13回 大陸男性歌手 (2)
- 14回 大陸女性歌手 (1)
- 15回 大陸女性歌手 (2)

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の授業への取り組み状況・・・50% 研究成果・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前の資料収集・翻訳が必要となります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語圏現代ポップス

研究演習 3 A 【昼】

担当者名 /Instructor 平田 直子 / HIRATA NAOKO / 中国学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

普通話と方言音との関係を中心に、中国諸方言音の多様性について理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

趙元任著「私の語言自伝」(授業時に資料を配布する)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

《現代漢語方言音庫シリーズ》(上海教育出版社)
○中国語のエッセンス 遠藤光暁 白帝社 2006年
橋本萬太郎 「訳者あとがき」(ユアン・レン・チャオ『言語学入門—言語と記号システム』 岩波書店 1980年)
小川環樹「趙元任の追憶」(小川環樹著作集 第4巻 筑摩書房 1997年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

これまで普通話を学んできた立場から、北京語やその他の方言音の特徴を知り、普通話との相違点を考える。また中国語話者にとって、普通話と方言とはどのようなものなのかを理解する。

- 1回 中国語の方言について
- 2回 普通話と北京語(1)
- 3回 普通話と北京語(2)
- 4回 「私の語言自伝」輪読
- 5回 「私の語言自伝」輪読
- 6回 「私の語言自伝」輪読
- 7回 「私の語言自伝」輪読
- 8回 「私の語言自伝」輪読
- 9回 「私の語言自伝」輪読
- 10回 「私の語言自伝」輪読
- 11回 「私の語言自伝」輪読
- 12回 「私の語言自伝」輪読
- 13回 「私の語言自伝」輪読
- 14回 「私の語言自伝」輪読
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(担当箇所の発表など)・・・50%、レポート・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当者はきちんと責任をもって担当箇所の発表ができるように準備しておくこと。
担当者以外の者でも、練習問題や専門用語についてはしっかり調べて発表できるようにしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

普通話 北京話 趙元任 方言

研究演習 4 A 【昼】

担当者名 /Instructor 白石 麻保 / 中国学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国経済を社会科学的視点から分析する力を養成することを目的とする。
現代中国の経済・社会をより深く理解するために、テキストをもとにレジュメを作成し報告・討論を行う。また同時に中国経済分析を行うための様々な社会科学的手法の習得、プレゼンテーション、ディスカッションの力を養っていくことも目指す。

教科書 /Textbooks

ゼミ生と相談の上、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ① 深尾光洋編『シリーズ：現代経済研究25 中国経済のマクロ分析』日本経済新聞社 2006年
 - ② 南亮進・牧野文夫編『中国経済入門』日本評論社 2006年
 - ③ 加藤弘之・上原一慶編著『中国経済論』ミネルヴァ書房 2011年
 - ④ 丸川知雄『市場発生のダイナミクス 移行期の中国経済』アジア経済研究所 1999年
 - ⑤ 中兼和津次編著『』歴史的視野からみた現代中国経済』ミネルヴァ書房 2010年
- 他の参考文献は授業中に提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーリングと打ち合わせ
- 2回 テキスト輪読、ディスカッション(1)
- 3回 テキスト輪読、ディスカッション(2)
- 4回 テキスト輪読、ディスカッション(3)
- 5回 テキスト輪読、ディスカッション(4)
- 6回 テキスト輪読、ディスカッション(5)
- 7回 テキスト輪読、ディスカッション(6)
- 8回 テキスト輪読、ディスカッション(7)
- 9回 テキスト輪読、ディスカッション(8)
- 10回 テキスト輪読、ディスカッション、データの読み方(1)
- 11回 テキスト輪読、ディスカッション、データの読み方(2)
- 12回 テキスト輪読、ディスカッション、データの読み方(3)
- 13回 テキスト輪読、ディスカッション、データの読み方(4)
- 14回 テキスト輪読、ディスカッション、データの読み方(5)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度や出席状況、発表・討論への参加状況や課題の内容により概ね以下のように評価する。

輪読・報告準備及びゼミでの報告 50% ディスカッションへの参加状況 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

中国経済論III、時事中国語講読IIIを履修していることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

研究演習 6 A 【昼】

担当者名 /Instructor 西 香織 / KAORI NISHI / 中国学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

テーマ：日中言語文化対照研究
本演習を通して、「ことば」という角度から日本と中国を見つめる目を養い、日中両言語及びその背景にある文化や思想に対する理解をより理解を深めることを目的とする。
本演習では、主として「語用論」という言語学の角度から「ことば」を分析していく。「ことば」は絶えず変化しており、話す相手によって、場所によって、時によって、使用する「ことば」も変わる。
真の言語コミュニケーション能力をつけるためには、文法知識（どのように文を組み立てるか）はもちろんのこと、語用論的知識（ことばをどのように用いるか）も欠かせない。
本演習では主に「語用論」レベルで、日本語と中国語の表現等について比較・対照を行うが、英語その他の言語などと比較・対照を行うこともある。

教科書 /Textbooks

資料を配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に、随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎授業のはじめに中国語で話す時間を設ける。現代中国語で書かれた文学作品（小説等）を用いて、文法や表現などの問題を受講者それぞれが見つけ解決していく。さらに、日本語等との比較・対照を行い、日本語と中国語の共通点、相違点を見つける訓練を行なう。

- 1回 対照研究とは何か（概説）
- 2回 語用論とは何か（概説）
- 3回 文学作品講読と問題点の発見・解決 1
- 4回 文学作品講読と問題点の発見・解決 2
- 5回 文学作品講読と問題点の発見・解決 3
- 6回 文学作品講読と問題点の発見・解決 4
- 7回 文学作品講読と問題点の発見・解決 5
- 8回 文学作品講読と問題点の発見・解決 6
- 9回 文学作品講読と問題点の発見・解決 7
- 10回 文学作品講読と問題点の発見・解決 8
- 11回 学術論文の読み方（概説）
- 12回 学術論文講読と解釈 1
- 13回 学術論文講読と解釈 2
- 14回 学術論文講読と解釈 3
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題... 80% 受講態度等... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習では言語学の知識が必要となる。授業でも取り上げるが、受講前に基本的な言語学の知識を身につけておくことが望ましい。参考文献等を紹介するので、受講前に読んでおきたい場合は、担当者まで問い合わせること。

履修上の注意 /Remarks

本演習（ゼミ）は、4年次に卒業作品（論文、報告集、翻訳等）の提出を義務付けている。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

言語学、語用論、言語文化

研究演習 7 A 【昼】

担当者名 /Instructor 堀地 明 / 中国学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

<北京-今日の都市再開発と悠久の歴史>
2008年8月にオリンピックを開催した北京市は、元明清各王朝と中華民国前半期、及び中華人民共和国の首都であり、故宮や天壇などの建築群が配置された特色ある歴史的大都市である。近年、急速な都市再開発により、歴史的な町並みは破壊され、高層ビル群が雨後の竹の子のように出現している。その一方、歴史的建築物・名所旧跡への再評価もなされ、一定の条件で歴史的建築物・遺跡が保存され、これまで非公開であった名所旧跡も修繕を施し一般公開されつつある。歴史的町並みへの関心も高まり、胡同(路地)歩き用の個人向け旅行ガイドブックも何冊か出版されている。本演習では、北京の現状とその歴史、都市や名所旧跡の成り立ち・その現況について理解を深める。

教科書 /Textbooks

春名徹『北京—都市の記憶』(岩波新書、2008)
倉沢進・李国慶『北京—皇都の歴史と空間』(中公新書、2007)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『地球の歩き方 北京』等、個人旅行むけのガイドブック

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 春名徹『北京—都市の記憶』輪読と討論
- 3回 春名徹『北京—都市の記憶』輪読と討論
- 4回 春名徹『北京—都市の記憶』輪読と討論
- 5回 春名徹『北京—都市の記憶』輪読と討論
- 6回 春名徹『北京—都市の記憶』輪読と討論
- 7回 倉沢進・李国慶『北京』
- 8回 倉沢進・李国慶『北京』輪読と討論
- 9回 倉沢進・李国慶『北京』輪読と討論
- 10回 個人報告「私がすすめる北京の名所旧跡」
- 11回 個人報告「私がすすめる北京の名所旧跡」
- 12回 個人報告「私がすすめる北京の名所旧跡」
- 13回 個人報告「私がすすめる北京の名所旧跡」
- 14回 個人報告「私がすすめる北京の名所旧跡」
- 15回 個人報告「私がすすめる北京の名所旧跡」

成績評価の方法 /Assessment Method

報告と討論 (70%) 学期末のレポート (30%) による。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当者以外も文献を事前に読み発言を準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北京に興味のある方の受講歓迎します。悠久の歴史的古都と変動する現代都市を通観的に観察する視点を養いたと思います。現地の名所旧跡を踏査するさいに非常に有益な知識が得られます。

キーワード /Keywords

北京、元・明・清、名所旧跡、歴史景観保存

研究演習 8 A 【昼】

担当者名 山本 進 / Yamamoto Susumu / 中国学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

史料講読を通して中国史や朝鮮史を学ぶ。

教科書 /Textbooks

史料を適宜プリントして配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

不要。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 史料の講読とディスカッション
- 第3回 史料の講読とディスカッション
- 第4回 史料の講読とディスカッション
- 第5回 史料の講読とディスカッション
- 第6回 史料の講読とディスカッション
- 第7回 史料の講読とディスカッション
- 第8回 史料の講読とディスカッション
- 第9回 史料の講読とディスカッション
- 第10回 史料の講読とディスカッション
- 第11回 史料の講読とディスカッション
- 第12回 史料の講読とディスカッション
- 第13回 史料の講読とディスカッション
- 第14回 史料の講読とディスカッション
- 第15回 史料の講読とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

史料講読能力50% + ディスカッションでの発言50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高等学校水準の漢文が読めることが必要。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

研究演習 9 A 【昼】

担当者名 /Instructor 葉言材 / ye yancai / 中国学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国語の新聞・雑誌・映像などの教材を使い、中国人と中国の言語・文化・社会に対する理解を深めながら、高度な中国語のコミュニケーション能力を身に付けさせる。
ほぼ毎回発表と討論を行う。

教科書 /Textbooks

授業時配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1. 中国と日本両国の文学・歴史・思想・風習・政治・経済・映画などに関するもの。
2. 『中国文学の昨日と今日』 郝世峰主編(中国書店)○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 資料を配布
- 2回 発表
- 3回 発表
- 4回 画像を見る
- 5回 発表
- 6回 発表
- 7回 資料を配布
- 8回 発表
- 9回 発表
- 10回 画像を見る
- 11回 発表
- 12回 発表
- 13回 資料を配布
- 14回 発表
- 15回 発表

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発表・・・50% 日常の学習状況・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習と準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

時事 新聞 雑誌 記事 映画

研究演習 1 B 【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 俊生 / 中国学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

20～21世紀の中国文学史、中国演劇史、中国映画史の研究。代表的な作家、監督、俳優を紹介し、作品を鑑賞、解説する。彼らやその作品を通して中国の文化、社会を理解するのがテーマである。
到達目標は、現代中国の文学、演劇、映画に関する知識を養い、現代中国の文化、社会等について説明できるようになることである。

教科書 /Textbooks

プリント教材

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 文学革命について
- 2回 魯迅について
- 3回 茅盾「文学研究会」と郭沫若「創造社」について
- 4回 老舍について
- 5回 延安整風と文芸講話について
- 6回 中国話劇「春柳社」と日本新派劇の関わりについて
- 7回 イプセン劇と胡適・欧陽予倩の劇作との関わりについて
- 8回 夏衍の演劇活動について
- 9回 曹禺の悲劇について
- 10回 老舍の演劇について
- 11回 張藝謀の映画について
- 12回 鞏俐について
- 13回 章子怡について
- 14回 賈樟柯の映画について
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の授業への取り組み状況・・・50% 研究成果・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前の資料収集やレジュメ作成等の準備が必要になります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代中国の文学、演劇、映画

研究演習 3 B 【昼】

担当者名 平田 直子 / HIRATA NAOKO / 中国学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

テーマ：方言と中国文化

- ①中国語の方言音から見てくる中国文化について理解を深めると同時に、中国語の歴史的な方言、音韻の研究に関する基礎的な知識を獲得する。
- ②中国語の一方言を学ぶことで共時的な観点からの研究にも関心をもってもらう。普通話を別の側面から見直す。

教科書 /Textbooks

周振鶴・游汝傑 著『方言与中国文化』上海教育出版社
榎本英雄著『ニューエクスプレス 上海語』白水社 (¥2800 + 税)
授業中にプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①テキストの輪読を中心に授業を進めていく。
- ②上海語の初歩を学ぶ

- 1回 オリエンテーション (授業の進め方・担当者決めなど)
- 2回 『方言与中国文化』の輪読
- 3回 『方言与中国文化』の輪読
- 4回 『方言与中国文化』の輪読
- 5回 『方言与中国文化』の輪読
- 6回 『方言与中国文化』の輪読
- 7回 『方言与中国文化』の輪読
- 8回 『方言与中国文化』の輪読
- 9回 『上海語エクスプレス』文字と発音
- 10回 『上海語エクスプレス』文字と発音
- 11回 『上海語エクスプレス』文字と発音
- 12回 『上海語エクスプレス』会話
- 13回 『上海語エクスプレス』会話
- 14回 『上海語エクスプレス』会話
- 15回 『上海語エクスプレス』会話

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の積極的な態度40%、レポート・・・60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

文献の輪読については、担当者はきちんと担当日に出席し、内容のレジユメを作成して発表すること。
上海語については予習・復習をしてこよう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

研究演習 4 B 【昼】

担当者名 白石 麻保 / 中国学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国経済を社会科学的視点から分析する力を養成することを目的とする。
現代中国の経済・社会をより深く理解するために、テキストをもとにレジュメを作成し報告・討論を行う。また同時に中国経済分析を行うための様々な社会科学的手法の習得、プレゼンテーション、ディスカッションの力を養っていくことも目指す。

教科書 /Textbooks

ゼミ生と相談の上、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ① 深尾光洋編『シリーズ：現代経済研究25 中国経済のマクロ分析』日本経済新聞社 2006年
 - ② 南亮進・牧野文夫編『中国経済入門』日本評論社 2006年
 - ③ 加藤弘之・上原一慶編著『中国経済論』ミネルヴァ書房 2011年
 - ④ 丸川知雄『市場発生のダイナミクス 移行期の中国経済』アジア経済研究所 1999年
 - ⑤ 中兼和津次編著『歴史的視野からみた現代中国経済』ミネルヴァ書房 2010年
- 他の参考文献は授業中に提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーリングと打ち合わせ
- 2回 テキスト輪読、ディスカッション(1)
- 3回 テキスト輪読、ディスカッション(2)
- 4回 テキスト輪読、ディスカッション(3)
- 5回 テキスト輪読、ディスカッション(4)
- 6回 テキスト輪読、ディスカッション(5)
- 7回 テキスト輪読、ディスカッション(6)
- 8回 テキスト輪読、ディスカッション、分析手法の習得(1)
- 9回 テキスト輪読、ディスカッション、分析手法の習得(2)
- 10回 テキスト輪読、ディスカッション、分析手法の習得(3)
- 11回 テキスト輪読、ディスカッション、分析手法の習得(4)
- 12回 テーマ選定、分析、ディスカッション(1)
- 13回 テーマ選定、分析、ディスカッション(2)
- 14回 テーマ選定、分析、ディスカッション(3)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度や出席状況、発表・討論への参加状況や課題の内容により概ね以下のように評価する。

輪読・報告準備及びゼミでの報告 50% ディスカッションへの参加状況 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

中国経済論III、時事中国語講読IIIを履修していることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

研究演習 6 B 【昼】

担当者名 /Instructor 西 香織 / KAORI NISHI / 中国学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

テーマ：日中言語文化対照研究
本演習を通して、「ことば」という角度から日本と中国を見つめる目を養い、日中両言語及びその背景にある文化や思想に対する理解をより深めることを目的とする。特に、当該分野における日本語及び簡単な中国語の学術論文を読み、中国語の語法や表現等についての理解を深め、日中両言語の比較・対照の方法を身につける。英語その他の言語などと比較・対照を行うこともある。

教科書 /Textbooks

資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎授業の初めの20分は、これまでに身につけた中国語能力を維持するための訓練(ディベート等)を行う。
映像作品の台本(字幕)中に出た疑問点等に関連する文献を、担当者を決めて読み進める。

- 1回 学術論文の読み方(概論)
- 2回 映像作品台本(字幕)講読と問題点の発見・解決 1
- 3回 映像作品台本(字幕)講読と問題点の発見・解決 2
- 4回 日本語で書かれた学術論文(1)の講読
- 5回 日本語で書かれた学術論文(2)の講読
- 6回 映像作品台本(字幕)講読と問題点の発見・解決 3
- 7回 映像作品台本(字幕)講読と問題点の発見・解決 4
- 8回 日本語で書かれた学術論文(3)の講読
- 9回 日本語で書かれた学術論文(3)の講読
- 10回 映像作品台本(字幕)講読と問題点の発見・解決 5
- 11回 映像作品台本(字幕)講読と問題点の発見・解決 6
- 12回 映像作品台本(字幕)講読と問題点の発見・解決 7
- 13回 中国語で書かれた学術論文(1)の講読
- 14回 中国語で書かれた学術論文(2)の講読
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題... 80% 受講態度等... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

原則として、担当制によって授業を進めていくので、自分の担当箇所は早めに準備を始めること。

履修上の注意 /Remarks

本演習(ゼミ)は、4年次に卒業作品(論文、報告集、翻訳等)の提出を義務付けている。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

言語学、語用論、言語文化

研究演習 7 B 【昼】

担当者名 /Instructor 堀地 明 / 中国学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

<北京-今日の都市再開発と悠久の歴史>
2008年8月にオリンピックを開催した北京市は、元明清各王朝と中華民国前半期、及び中華人民共和国の首都であり、故宮や天壇などの建築群が配置された特色ある歴史的大都市である。近年、急速な都市再開発により、歴史的な町並みは破壊され、高層ビル群が雨後の竹の子のように出現している。その一方、歴史的建築物・名所旧跡への再評価もなされ、一定の条件で歴史的建築物・遺跡が保存され、これまで非公開であった名所旧跡も修繕を施し一般公開されつつある。歴史的町並みへの関心も高まり、胡同(路地)歩き用の個人向け旅行ガイドブックも何冊か出版されている。本演習では、北京の現状とその歴史、都市や名所旧跡の成り立ち・その現況について理解を深める。

教科書 /Textbooks

北京史に関する中文文献(コピーして配布する)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『地球の歩き方 北京』等、個人旅行向けのガイドブック

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 北京史に関する中文文献の輪読
- 3回 北京史に関する中文文献の輪読
- 4回 北京史に関する中文文献の輪読
- 5回 北京史に関する中文文献の輪読
- 6回 北京史に関する中文文献の輪読
- 7回 北京史に関する中文文献の輪読
- 8回 北京史に関する中文文献の輪読
- 9回 北京史に関する中文文献の輪読
- 10回 個人報告「私がすすめる北京の名所旧跡」
- 11回 個人報告「私がすすめる北京の名所旧跡」
- 12回 個人報告「私がすすめる北京の名所旧跡」
- 13回 個人報告「私がすすめる北京の名所旧跡」
- 14回 個人報告「私がすすめる北京の名所旧跡」
- 15回 個人報告「私がすすめる北京の名所旧跡」

成績評価の方法 /Assessment Method

報告と討論 (70%) 学期末のレポート (30%) による。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当者以外も文献を事前に読み発言を準備すること。

履修上の注意 /Remarks

中文文献の輪読は、文法と単語の意味を正確に読み取りながらの直訳を重視します。教師の解説はなるべく日本語訳を除いて、解説と質問を中国語で行います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北京に興味のある方の受講歓迎します。悠久の歴史的古都と変動する現代都市を通観的に観察する視点を養いたいと思います。現地の名所旧跡を踏査するさいに非常に有益な知識が得られます。

キーワード /Keywords

北京、元・明・清、名所旧跡、歴史景観保存

研究演習 8 B 【昼】

担当者名 山本 進 / Yamamoto Susumu / 中国学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

史料講読を通して中国史や朝鮮史を学ぶ。

教科書 /Textbooks

史料を適宜プリントして配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

不要。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 史料の講読とディスカッション
- 第3回 史料の講読とディスカッション
- 第4回 史料の講読とディスカッション
- 第5回 史料の講読とディスカッション
- 第6回 史料の講読とディスカッション
- 第7回 史料の講読とディスカッション
- 第8回 史料の講読とディスカッション
- 第9回 史料の講読とディスカッション
- 第10回 史料の講読とディスカッション
- 第11回 史料の講読とディスカッション
- 第12回 史料の講読とディスカッション
- 第13回 史料の講読とディスカッション
- 第14回 史料の講読とディスカッション
- 第15回 史料の講読とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

史料講読能力50% + ディスカッションでの発言50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高等学校水準の漢文が読めることが必要。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

研究演習 9 B 【昼】

担当者名 /Instructor 葉言材 / ye yancai / 中国学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

1学期の引き続き、中国語の新聞・雑誌・映像などの教材を使い、中国人と中国の言語・文化・社会に対する理解を深めながら、高度な中国語のコミュニケーション能力を身に付けさせる。
ほぼ毎回発表と討論を行う。

教科書 /Textbooks

授業時配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1. 中国と日本両国の文学・歴史・思想・風習・政治・経済・映画などに関するもの。
2. 『中国文学の昨日と今日』 郝世峰主編(中国書店)○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 資料を配布
- 2回 発表
- 3回 発表
- 4回 画像を見る
- 5回 発表
- 6回 発表
- 7回 資料を配布
- 8回 発表
- 9回 発表
- 10回 画像を見る
- 11回 発表
- 12回 発表
- 13回 資料を配布
- 14回 発表
- 15回 発表

成績評価の方法 /Assessment Method

学習態度(50%)・平常点(50%)により総合評価。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習と準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

時事 新聞 雑誌 記事 映画

卒業研究演習 1 A 【昼】

担当者名 板谷 俊生 / 中国学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国演劇研究を通して中国全般、特に文化社会に関する理解を深める。シナリオ決定後は徹底的に中国語発音クリニック、抑揚、感情表現の学習を行う。中国の逐次刊行物の中からプロの作家が書いたシナリオを選び、その原書講読および翻訳に始まり、日本語字幕作成、舞台稽古、そして劇場の舞台に立ち中国語劇を発表する。

教科書 /Textbooks

プリント教材。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『劇本』
- 『中国戯劇』
- 『新劇本』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 中国演劇史概説
- 第2回 原書講読①
- 第3回 原書講読②
- 第4回 原書講読③
- 第5回 原書講読④
- 第6回 原書講読⑤
- 第7回 原書講読⑥
- 第8回 原書講読⑦
- 第9回 原書講読⑧
- 第10回 原書講読⑨
- 第11回 原書講読⑩
- 第12回 原書講読⑪
- 第13回 原書講読⑫
- 第14回 原書講読⑬
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み...50% 発表...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ゼミ生一人ひとりが積極的に、且つ各々の創造性の探求に自発的・意欲的に取り組み、新しい形での大学4年間の集大成とする。

履修上の注意 /Remarks

なし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

少々難易度の高い授業になるので集中して受講すること。

キーワード /Keywords

中国演劇(話劇)、中国文化社会、演劇的表現

卒業研究演習 2 A 【昼】

担当者名 /Instructor 金縄 初美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

テーマ：民族文化から中国文化を観る
文化の研究において重要となる基本的視点や概念を学習した上で、物質文化・社会文化などの視点から中国文化への理解を深め、現代中国を文化的側面から捉えることを目指す。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 文化と民族文化 (文化とは何か、民族文化とは何かを考える)
- 2回 物質文化
- 3回 服飾文化
- 4回 建築文化
- 5回 交通・運輸
- 6回 経済政治制度
- 7回 婚姻家庭制度
- 8回 儀礼
- 9回 言語
- 10回 文字
- 11回 調査方法について
- 12回～14回 各自レポートのテーマに基づいて発表
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...50% 授業での発表内容...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講者は指定された中国語文献の和訳を準備し、授業で発表することが求められる。
レポートのテーマについて各自発表し、その内容に関してディスカッションする。
学期末にはレポートを提出してもらう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習 3 A 【昼】

担当者名 平田 直子 / HIRATA NAOKO / 中国学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

テーマ < 方言と中国文化 >

学習の目標：中国語の音声・音韻についての基礎的な知識を学び、同時に中国語の音韻変遷と関係する中国文化について理解を深める。

教科書 /Textbooks

受講生と相談して決める。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『中国語音声学』佐藤昭著、2011年
- 『中国語の歴史』大島正二著、大修館書店 2011年
- 『方言与中国文化』周振鶴・游汝傑著、上海人民出版社 1986年

その他、必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 卒業論文の書き方(1)
- 第3回 卒業論文の書き方(2)
- 第4回 卒業論文の構想発表(1)
- 第5回 文献輪読
- 第6回 文献輪読
- 第7回 文献輪読
- 第8回 論文の構想発表(2)
- 第9回 文献輪読
- 第10回 文献輪読
- 第11回 文献輪読
- 第12回 文献輪読
- 第13回 文献輪読
- 第14回 卒業論文の書き方(3)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発表・発言など30%、レポート70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当者は、内容をまとめて発表する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習 4 A 【昼】

担当者名 /Instructor 白石 麻保 / 中国学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

個別にテーマを設定し、それに沿って資料・データ収集、分析、報告を行う。
本講義はテキスト輪読、及び現代中国経済分野での卒業研究報告を並行する。
・現代中国の経済・社会をより深く理解するために、テキストをもとにレジュメを作成し報告・討論を行う。また同時に中国経済分析を行うための様々な社会科学的手法の習得も目指す。
・現代中国経済分野で個別に設定されたテーマに基づいて研究を行い、その進捗状況について随時報告を行う。この過程でプレゼンテーションのやり方にも習熟することを目指す。

教科書 /Textbooks

ゼミ生と相談の上、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ① 深尾光洋編『シリーズ：現代経済研究25 中国経済のマクロ分析』日本経済新聞社 2006年
 - ② 南亮進・牧野文夫編『中国経済入門』日本評論社 2006年
 - ③ 加藤弘之・上原一慶編『中国経済論』ミネルヴァ書房 2004年
 - ④ 丸川知雄(1999) 「市場発生のダイナミクス 移行期の中国経済」 アジア経済研究所 ￥1400
- ※他の参考文献は授業中に提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーリングと打ち合わせ
- 2回 卒業研究テーマの選定等
- 3回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
- 4回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
- 5回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
- 6回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
- 7回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
- 8回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
- 9回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
- 10回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
- 11回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
- 12回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
- 13回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
- 14回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度や出席状況、発表・討論への参加状況や課題の内容により概ね以下のように評価する。

輪読・報告準備及びゼミでの報告 50% ディスカッションへの参加状況 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

中国経済論IIIや時事中国語講読IIIを履修しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業研究演習 4 A 【昼】

専門教育科目
必修科目
演習科目

キーワード /Keywords

卒業研究演習 6 A 【昼】

担当者名 /Instructor 西 香織 / KAORI NISHI / 中国学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

テーマ：日中言語文化対照研究
本演習を通して、「ことば」という角度から日本と中国を見つめる目を養い、日中両言語及びその背景にある文化や思想に対する理解を深める。本演習は主として語用論的な角度からことばの分析を試みる。中国語で書かれた専門分野の学術論文も読み進めていく。

教科書 /Textbooks

なし。
履修学生と相談の上、決定するが、主にプリント配布。映像教材を用いる場合もある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎授業のはじめに、これまでに身につけた中国語能力を維持するための訓練(ディベート等)を行う。
中国の小説など文学作品により多くあたり、日本語の表現やそれに付随するジェスチャー、日本の文化・習俗、発想との比較対照を行う。その中で、自分の興味・関心のあるものを探し、それぞれの研究テーマを決定する。さらに、中国語で書かれた学術論文を読み進め、同時に、卒業論文(課題)執筆のための基礎作りを行う。

- 1回 論文の書き方 1
- 2回 論文の書き方 2
- 3回 文学作品講読と問題点の発見・解決 1
- 4回 文学作品講読と問題点の発見・解決 2
- 5回 学術論文(中国語)講読 1
- 6回 学術論文(中国語)講読 2
- 7回 文学作品講読と問題点の発見・解決 3
- 8回 文学作品講読と問題点の発見・解決 4
- 9回 学術論文(中国語)講読 3
- 10回 学術論文(中国語)講読 4
- 11回 文学作品講読と問題点の発見・解決 5
- 12回 文学作品講読と問題点の発見・解決 6
- 13回 論文の書き方 3
- 14回 論文の書き方 4
- 15回 卒業作品構想発表

成績評価の方法 /Assessment Method

研究成果... 80% 平常点(発表・課題等)... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

原則として、担当制によって授業を進めていくので、自分の担当箇所は早めに準備を始めること。

履修上の注意 /Remarks

本演習では、これまでの学習、研究の集大成として、最後に研究成果(論文、報告集、翻訳等)の提出を義務付ける。
「卒業論文」を執筆する場合は、本演習とは別に「卒業論文」の履修登録をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

言語学、語用論、言語文化

卒業研究演習 7 A 【昼】

担当者名 /Instructor 堀地 明 / 中国学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

「中国の社会と歴史」「中国歴史及び現代中国分野での卒業論文等作成指導」
本授業は①テキスト輪読、及び②中国史及び現代中国分野での自由卒業研究報告を並行する。
①はテキストを輪読しながら、討論する。
②は中国史(政治・経済・社会の分野)及び現代中国論で卒論等執筆を目指し、随時研究報告を行う。

教科書 /Textbooks

現代中国語の研究文献をこちらで用意する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

研究する時代やテーマは執筆希望者の自由とし、テーマ選択にさいしては個別の相談に応じる。
卒業論文は必修ではないが、可能な限り執筆することを強く推奨する。履修ガイドの卒業論文の項目を熟読すること。

- 1回 オリエンテーリングと打ち合わせ 必ずテキストを購入の上、持参のこと
- 2回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 3回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 4回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 5回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 6回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 7回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 8回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 9回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 10回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 11回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 12回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 13回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 14回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 15回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・討論・論文提出により総合的に評価する。卒論執筆を希望しない者は400字換算で30枚以上のゼミ論文を提出し、演習の4単位が取得可能である。卒論執筆希望者は400字換算で30枚以上の卒業論文を提出し口頭試験をへて、演習4単位と卒業論文8単位が取得可能である。卒論・ゼミ論とも基本的には同様の扱いとする。
報告と討論... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告担当時に入念に準備すること。

履修上の注意 /Remarks

卒業論文は4年間の学生生活の集大成として、必ず執筆して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎年4月に卒論執筆のガイダンスをすると、学生諸君の表情は不安でいっぱいですが、夏休み前に論文テーマが決まり、研究が進展すると、課題を追求する学究の表情になってきます。卒業論執筆を通じて、課題発見力・発表するスキル・文章作成能力を習得してほしいと思います。前期の目標は夏休み前に、研究題目をほぼ確定することです。

キーワード /Keywords

文献輪読、卒業研究

卒業研究演習 8 A 【昼】

担当者名 山本 進 / Yamamoto Susumu / 中国学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

3年次の演習では史料講読を通して中国史や朝鮮史を学ばせてきたが、4年次の演習では更に講読能力を高めるとともに、受講生の希望に応じて卒業論文指導も行う。

教科書 /Textbooks

3年次と同様、史料を適宜プリントして配布する。4年次は受講生の研究テーマに沿った史料を選択的に講読する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

不要。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 史料の講読とディスカッション
- 第3回 史料の講読とディスカッション
- 第4回 史料の講読とディスカッション
- 第5回 史料の講読とディスカッション
- 第6回 史料の講読とディスカッション
- 第7回 史料の講読とディスカッション
- 第8回 史料の講読とディスカッション
- 第9回 史料の講読とディスカッション
- 第10回 史料の講読とディスカッション
- 第11回 史料の講読とディスカッション
- 第12回 史料の講読とディスカッション
- 第13回 史料の講読とディスカッション
- 第14回 史料の講読とディスカッション
- 第15回 史料の講読とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

史料講読能力50% + ディスカッションでの発言50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高等学校水準の漢文が読めることが必要。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習 9 A 【昼】

担当者名 /Instructor 葉 言材 / ye yancai / 中国学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国語の表現と中国人社会をテーマとして、主に日本語の新聞・雑誌などの教材を使い、中国語に翻訳しながら、中国人と中国の言語・文化・社会に対する理解を深める。又は、高度な中国語のコミュニケーション能力を身に付けさせる。中国語の映像教材も使用。ほぼ毎回発表と討論を行う。

教科書 /Textbooks

授業時配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1. 中国と日本両国の文学・歴史・思想・風習・政治・経済・映画などに関するもの。
2. 『中国文学の昨日と今日』 郝 世峰主編(中国書店)○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 資料を配布
- 2回 発表
- 3回 発表
- 4回 画像を見る
- 5回 発表
- 6回 発表
- 7回 資料を配布
- 8回 発表
- 9回 発表
- 10回 画像を見る
- 11回 発表
- 12回 発表
- 13回 資料を配布
- 14回 発表
- 15回 発表

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発表・・・50% 日常の学習状況・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習と準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

時事 新聞 雑誌 記事 映画

卒業研究演習 1 B 【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 俊生 / 中国学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国演劇研究を通して中国理解を深める。中国の逐次刊行物の中からプロの作家が書いたシナリオを選び、その原書講読および翻訳に始まり、日本語字幕作成、舞台稽古、そして劇場の舞台に立ち中国語劇を発表する。原書講読、立ち稽古の開始、大道具・小道具・衣装の制作、音楽・音響収集、日本語字幕作成、ポスター・パンフレット作成、卒業公演と銘打って中国語劇を上演する。

教科書 /Textbooks

プリント教材。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『劇本』
- 『中国戯劇』
- 『新劇本』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	中国語による立ち稽古、大道具・小道具・衣装の制作、音響収集、	日本語字幕作成、ポスター・パンフレット作成
第2回	中国語による立ち稽古、大道具・小道具・衣装の制作、音響収集、	日本語字幕作成、ポスター・パンフレット作成
第3回	中国語による立ち稽古、大道具・小道具・衣装の制作、音響収集、	日本語字幕作成、ポスター・パンフレット作成
第4回	中国語による立ち稽古、大道具・小道具・衣装の制作、音響収集、	日本語字幕作成、ポスター・パンフレット作成
第5回	中国語による立ち稽古、大道具・小道具・衣装の制作、音響収集、	日本語字幕作成、ポスター・パンフレット作成
第6回	中国語による立ち稽古、大道具・小道具・衣装の制作、音響収集、	日本語字幕作成、ポスター・パンフレット作成
第7回	中国語による立ち稽古、大道具・小道具・衣装の制作、音響収集、	日本語字幕作成、ポスター・パンフレット作成
第8回	中国語による立ち稽古、大道具・小道具・衣装の制作、音響収集、	日本語字幕作成、ポスター・パンフレット作成
第9回	中国語による立ち稽古、大道具・小道具・衣装の制作、音響収集、	日本語字幕作成、ポスター・パンフレット作成
第10回	中国語による立ち稽古、大道具・小道具・衣装の制作、音響収集、	日本語字幕作成、ポスター・パンフレット作成
第11回	中国語による立ち稽古、大道具・小道具・衣装の制作、音響収集、	日本語字幕作成、ポスター・パンフレット作成
第12回	中国語による立ち稽古、大道具・小道具・衣装の制作、音響収集、	日本語字幕作成、ポスター・パンフレット作成
第13回	中国語による立ち稽古、大道具・小道具・衣装の制作、音響収集、	日本語字幕作成、ポスター・パンフレット作成
第14回	中国語による立ち稽古、大道具・小道具・衣装の制作、音響収集、	日本語字幕作成、ポスター・パンフレット作成
第15回	卒業記念公演と銘打って中国語劇を上演する	

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み・発表...50% 研究成果発表...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ゼミ生一人ひとりが積極的に、且つ各々の創造性の探求に自発的・意欲的に取り組み、新しい形での大学4年間の集大成とする。

履修上の注意 /Remarks

なし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

少々難易度の高い授業になるので集中して受講すること。

キーワード /Keywords

中国話劇、卒業記念中国語劇公演

卒業研究演習 2 B 【昼】

担当者名 /Instructor 金縄 初美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

これまでの演習での学習をふまえ、各自テーマを決めて発表する。互いの発表を聞いてディスカッションすることを通じて中国文化への理解を深める。

教科書 /Textbooks

授業中に適宜指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 現代中国における文化に関する諸問題について (概要)
- 2回 現代中国における文化に関する諸問題について
- 3回 発表とディスカッションについての説明とテーマ設定
- 4回 発表とディスカッション (テーマは発表者が決める)
- 5回 発表とディスカッション (テーマは発表者が決める)
- 6回 発表とディスカッション (テーマは発表者が決める)
- 7回 発表とディスカッション (テーマは発表者が決める)
- 8回 発表とディスカッション (テーマは発表者が決める)
- 9回 発表とディスカッション (テーマは発表者が決める)
- 10回 発表とディスカッション (テーマは発表者が決める)
- 11回 発表とディスカッション (テーマは発表者が決める)
- 12回 発表とディスカッション (テーマは発表者が決める)
- 13回 発表とディスカッション (テーマは発表者が決める)
- 13回 発表とディスカッション (テーマは発表者が決める)
- 14回 発表とディスカッション (テーマは発表者が決める)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...50 % 授業での課題発表...50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講生は発表テーマを各自で決めて授業で発表し、学期末にレポートを提出することが求められる。教員が各発表テーマに補足説明を加えた後、問題点や疑問点を討論する形で授業をすすめる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習 3 B 【昼】

担当者名 /Instructor 平田 直子 / HIRATA NAOKO / 中国学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

テーマ < 方言と中国文化 >

学習の目標：①中国語の音声・音韻についての基礎的な知識を学び、同時に中国語の音韻変遷と関係する中国文化について理解を深める。
②卒業論文執筆のための指導を行う。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 前期レポートの内容についての報告と論文構想発表 (4)
- 第3回 ゼミ生 参考文献の紹介とディスカッション
- 第4回 ゼミ生 参考文献の紹介とディスカッション
- 第5回 ゼミ生 参考文献の紹介とディスカッション
- 第6回 ゼミ生 参考文献の紹介とディスカッション
- 第7回 ゼミ生 参考文献の紹介とディスカッション
- 第8回 ゼミ生 参考文献の紹介とディスカッション
- 第9回 ゼミ生 参考文献の紹介とディスカッション
- 第10回 ゼミ生 参考文献の紹介とディスカッション
- 第11回 仮論文提出
- 第12回 仮論文返却と論文指導
- 第13回 論文指導
- 第14回 論文発表のプレゼン指導
- 第15回 論文発表会

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発表・発言など30%、レポート70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当者は必ずレジュメを用意して発表すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習 4 B 【昼】

担当者名 /Instructor 白石 麻保 / 中国学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

現代中国の経済分析を主体的に行い、一定の分析結果、結論を導くことを目的とする。具体的には、個別にテーマを設定し、それに沿って資料・データ収集、分析、報告を行う。
本講義はテキスト輪読、及び現代中国経済分野での卒業研究報告を並行する。
・現代中国の経済・社会をより深く理解するために、テキストをもとにレジュメを作成し報告・討論を行う。また同時に中国経済分析を行うための様々な社会科学的手法の習得も目指す。
・現代中国経済分野で個別に設定されたテーマに基づいて研究を行い、その進捗状況について随時報告を行う。この過程でプレゼンテーションのやり方にも習熟することを目指す。

教科書 /Textbooks

ゼミ生と相談の上、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ① 深尾光洋編『シリーズ：現代経済研究25 中国経済のマクロ分析』日本経済新聞社 2006年
 - ② 南亮進・牧野文夫編『中国経済入門』日本評論社 2006年
 - ③ 加藤弘之・上原一慶編『中国経済論』ミネルヴァ書房 2004年
 - ④ 丸川知雄(1999) 「市場発生のダイナミクス 移行期の中国経済」 アジア経済研究所 ¥1400
- ※他の参考文献は授業中に提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーリングと打ち合わせ
- 2回 研究報告、ディスカッション
- 3回 研究報告、ディスカッション
- 4回 研究報告、ディスカッション
- 5回 研究報告、ディスカッション
- 6回 研究報告、ディスカッション
- 7回 研究報告、ディスカッション
- 8回 研究報告、ディスカッション
- 9回 研究報告、ディスカッション
- 10回 研究報告、ディスカッション
- 11回 研究報告、ディスカッション
- 12回 研究報告、ディスカッション
- 13回 研究報告、ディスカッション
- 14回 研究報告、ディスカッション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度や出席状況、発表・討論への参加状況や課題の内容により概ね以下のように評価する。

輪読・報告準備及びゼミでの報告 50% ディスカッションへの参加状況 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

中国経済論IIIや時事中国語講読IIIを履修しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習 6 B 【昼】

担当者名 /Instructor 西 香織 / KAORI NISHI / 中国学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

テーマ：日中言語文化対照研究
本演習を通して、「ことば」という角度から日本と中国を見つめる目を養い、日中両言語及びその背景にある文化や思想に対する理解を深める。本演習は主として語用論的な角度からことばの分析を試みる。同時に、自分のテーマに関わることをまとめる力と発表する力を身につける。

教科書 /Textbooks

なし。
履修学生と相談の上、決定するが、主にプリント配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各自が決めたテーマについて、調査、分析を進め、調べた結果を担当者に発表してもらおう。関連の文献を読むこともある。
卒業論文(課題)発表は、第1期中間発表、第2期中間発表、最終発表の3回を予定している。

- 1回 個人調査報告
- 2回 学術論文等講読1
- 3回 学術論文等講読2
- 4回 学術論文等講読3
- 5回 卒業作品第1期中間発表
- 6回 学術論文等講読4
- 7回 学術論文等講読5
- 8回 学術論文等講読6
- 9回 学術論文等講読7
- 10回 卒業作品第2期中間発表
- 11回 学術論文等講読8
- 12回 学術論文等講読9
- 13回 学術論文等講読10
- 14回 学術論文等講読11
- 15回 卒業作品最終発表

成績評価の方法 /Assessment Method

研究成果...80% 平常点(発表・課題等)...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

原則として、担当制によって授業を進めていくので、自分の担当箇所は早めに準備を始めること。

履修上の注意 /Remarks

本演習では、これまでの学習、研究の集大成として、最後に研究成果(論文、報告集、翻訳等)の提出を義務付ける。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

言語学、語用論、言語文化

卒業研究演習 7 B 【昼】

担当者名 /Instructor 堀地 明 / 中国学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

「中国の社会と歴史」「中国歴史及び現代中国分野での卒業論文等作成指導」
本授業は①テキスト輪読、及び②中国史及び現代中国分野での自由卒業研究報告を並行する。
①はテキストを輪読しながら、討論する。
②は中国史(政治・経済・社会の分野)及び現代中国論で卒論等執筆を目指し、随時研究報告を行う。

教科書 /Textbooks

現代中国語の研究文献をこちらで用意する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

研究する時代やテーマは執筆希望者の自由とし、テーマ選択にさいしては個別の相談に応じる。
卒業論文は必修ではないが、可能な限り執筆することを強く推奨する。履修ガイドの卒業論文の項目を熟読すること。

- 1回 オリエンテーリングと打ち合わせ 必ずテキストを購入の上、持参のこと
- 2回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 3回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 4回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 5回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 6回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 7回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 8回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 9回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 10回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 11回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 12回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 13回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 14回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 15回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・報告・討論・論文提出により総合的に評価する。卒論執筆を希望しない者は400字換算で30枚以上のゼミ論文を提出し、演習の4単位が取得可能である。卒論執筆希望者は400字換算で30枚以上の卒業論文を提出し口頭試験をへて、演習4単位と卒業論文8単位が取得可能である。卒論・ゼミ論とも基本的には同様の扱いとする。

報告と討論... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告担当時に入念に準備すること。

履修上の注意 /Remarks

卒業論文は4年間の学生生活の集大成として、必ず執筆して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

後期の目標は12月中旬までに論文の章立てを完成させ、論文を執筆し完成させることです。前期の報告をふまえて、数回の研究報告を行い、過去の研究報告をまとめながら論文の章立てを完成させます。

キーワード /Keywords

文献輪読、卒業研究

卒業研究演習 8 B 【昼】

担当者名 山本 進 / Yamamoto Susumu / 中国学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

3年次の演習では史料講読を通して中国史や朝鮮史を学ばせてきたが、4年次の演習では更に講読能力を高めるとともに、受講生の希望に応じて卒業論文指導も行う。

教科書 /Textbooks

3年次と同様、史料を適宜プリントして配布する。4年次は受講生の研究テーマに沿った史料を選択的に講読する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

不要。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 史料の講読とディスカッション
- 第3回 史料の講読とディスカッション
- 第4回 史料の講読とディスカッション
- 第5回 史料の講読とディスカッション
- 第6回 史料の講読とディスカッション
- 第7回 史料の講読とディスカッション
- 第8回 史料の講読とディスカッション
- 第9回 史料の講読とディスカッション
- 第10回 史料の講読とディスカッション
- 第11回 史料の講読とディスカッション
- 第12回 史料の講読とディスカッション
- 第13回 史料の講読とディスカッション
- 第14回 史料の講読とディスカッション
- 第15回 史料の講読とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

史料講読能力50% + ディスカッションでの発言50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高等学校水準の漢文が読めることが必要。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習 9 B 【昼】

担当者名 /Instructor 葉言材 / ye yancai / 中国学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国語の表現と中国人社会をテーマとして、1学期の引き続き、主に日本語の新聞・雑誌などの教材を使い、中国語に翻訳しながら、中国人と中国の言語・文化・思想・社会に対する理解を深める。又は、高度な中国語のコミュニケーション能力を身に付けさせる。中国語の映像教材も使用。
ほぼ毎回発表と討論を行う。

教科書 /Textbooks

授業時配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1. 中国と日本両国の文学・歴史・思想・風習・政治・経済・映画などに関するもの。
2. 『中国文学の昨日と今日』 郝世峰主編(中国書店)○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 資料を配布
- 2回 発表
- 3回 発表
- 4回 画像を見る
- 5回 発表
- 6回 発表
- 7回 資料を配布
- 8回 発表
- 9回 発表
- 10回 画像を見る
- 11回 発表
- 12回 発表
- 13回 資料を配布
- 14回 発表
- 15回 発表

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発表・・・50% 日常の学習状況50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習と準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

時事 新聞 雑誌 記事 映画

中国文学史I【昼】

担当者名 劉 丹 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国文学史を学習することにより、中国文学の基礎的な知識を身につけながら、中国語学習の興味を深めること。

教科書 /Textbooks

『中国文学の昨日と今日』 主編 郝世峰 張菊香 副主編 葉言材 出版社 中国書店

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 中国文学の各時代の特徴
- 2回目 原始歌謡と原始神話
- 3回目 『詩経』
- 4回目 先秦時代の散文
- 5回目 屈原と『楚辞』
- 6回目 『史記』と漢代の歴史散文
- 7回目 漢代の楽府民歌と古詩十九首
- 8回目 建安文学と曹氏父子(1)
- 9回目 建安文学と曹氏父子(2)
- 10回目 正始文学について
- 11回目 陶淵明・謝靈運他
- 12回目 新体詩と宮体歌
- 13回目 南北朝時代の楽府民歌
- 14回目 南北朝時代の小説
- 15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50% 小テスト 20% 日常授業への取組 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容について、予習、復習すること。『中日大辞典』(出版社 愛知大学)の使用

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国文学史II 【昼】

担当者名 /Instructor 劉 丹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国文学史を学習することにより、中国文学の基礎的な知識を身につけながら、中国語学習の興味を深めること。

教科書 /Textbooks

『中国文学の昨日と今日』 主編 郝世峰 張菊香 副主編 葉言材 出版社 中国書店

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 唐代文学の概況
- 2回目 初唐の詩人
- 3回目 盛唐の詩人
- 4回目 中唐の詩人
- 5回目 晩唐の詩人
- 6回目 唐代の散文と伝奇小説
- 7回目 唐五代詞
- 8回目 宋代文学の概況
- 9回目 宋代の詞(北宋詞)
- 10回目 宋代の詞(南宋詞)
- 11回目 宋元話本・散曲・南戲
- 12回目 元雜劇と明伝奇
- 13回目 明・清時代の文学(1)
- 14回目 明・清時代の文学(2)
- 15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50% 小テスト 20% 日常授業への取組 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容について、予習、復習すること。『中日大辞典』(出版社 愛知大学)の使用
できるだけ中国語で詩を朗読しましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

時事中国語講読I【昼】

担当者名 /Instructor 白石 麻保 / 中国学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国の時事問題に関する文献を読解することを通じて、現在の中国経済・社会の状況をさまざまな角度から理解していく。
2年次配当科目のため、当初は基本的な中国経済・社会に関する知識の習得、及び資料読解力の養成を目指していく。

教科書 /Textbooks

講読資料は担当者より提示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

丸川知雄(1999) 「市場発生のダイナミクス 移行期の中国経済」 アジア経済研究所 ￥1400
日本経済新聞社編(2002)「中国-世界の「工場」から「市場」へ」 日経ビジネス人文庫 ￥630
高井潔司(2002)「中国報道の読み方」岩波アクティブ新書 ￥700 この他適宜授業中に提示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 文献輪読及び説明, 議論・地域社会(1) 【テーマ、背景の説明】 【読解】
- 3回 文献輪読及び説明, 議論・地域社会(2) 【読解】
- 4回 文献輪読及び説明, 議論・地域社会(3) 【読解】 【議論】
- 5回 文献輪読及び説明, 議論・時事ニュース(1) 【テーマ、背景の説明】 【読解】
- 6回 文献輪読及び説明, 議論・時事ニュース(2) 【読解】
- 7回 文献輪読及び説明, 議論・時事ニュース(3) 【読解】 【議論】
- 8回 文献輪読及び説明, 議論・経済、社会(1) 【テーマ、背景の説明】 【読解】
- 9回 文献輪読及び説明, 議論・経済、社会(2) 【読解】
- 10回 文献輪読及び説明, 議論・経済、社会(3) 【読解】 【議論】
- 11回 文献輪読及び説明, 議論・国際的な話題(1) 【テーマ、背景の説明】 【読解】
- 12回 文献輪読及び説明, 議論・国際的な話題(2) 【読解】
- 13回 文献輪読及び説明, 議論・国際的な話題(3) 【読解】 【議論】
- 14回 文献輪読及び説明, 議論・全体討論
- 15回 まとめ

*但し、講義の進捗状況によって、もしくは時事問題の適時性の確保のために、取り上げる話題には変更の可能性がある

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 70% 課題・レポート提出 10% 輪読・発表等授業への参加 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本、中国及びアジアを中心とした地域のニュース等を日ごろからチェックしてください。また輪読がスムーズに行われるように、事前に文献に目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

時事中国語講読II【昼】

担当者名 白石 麻保 / 中国学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国の時事問題に関する文献を読解することを通じて、現在の中国経済・社会の状況をさまざまな角度から理解していく。当初は基本的な中国経済・社会に関する知識の習得、及び資料読解力の養成を目指していくが、出来るだけ現地で出版された個別時事問題に関する文献を扱うことも目指す。

教科書 /Textbooks

講読資料は担当者より提示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

丸川知雄(1999) 「市場発生のダイナミクス 移行期の中国経済」 アジア経済研究所 ￥1400
日本経済新聞社編(2002)「中国-世界の「工場」から「市場」へ」 日経ビジネス人文庫 ￥630
高井潔司(2002)「中国報道の読み方」岩波アクティブ新書 ￥700 この他適宜授業中に提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 文献輪読及び説明, 議論・地域社会(1) 【テーマ、背景の説明】 【読解】
- 3回 文献輪読及び説明, 議論・地域社会(2) 【読解】
- 4回 文献輪読及び説明, 議論・地域社会(3) 【読解】 【議論】
- 5回 文献輪読及び説明, 議論・時事ニュース(1) 【テーマ、背景の説明】 【読解】
- 6回 文献輪読及び説明, 議論・時事ニュース(2) 【読解】
- 7回 文献輪読及び説明, 議論・時事ニュース(3) 【読解】 【議論】
- 8回 文献輪読及び説明, 議論・経済、社会(1) 【テーマ、背景の説明】 【読解】
- 9回 文献輪読及び説明, 議論・経済、社会(2) 【読解】
- 10回 文献輪読及び説明, 議論・経済、社会(3) 【読解】 【議論】
- 11回 文献輪読及び説明, 議論・国際的な話題(1) 【テーマ、背景の説明】 【読解】
- 12回 文献輪読及び説明, 議論・国際的な話題(2) 【読解】
- 13回 文献輪読及び説明, 議論・国際的な話題(3) 【読解】 【議論】
- 14回 文献輪読及び説明, 議論・全体討論
- 15回 まとめ

* 但し、講義の進捗状況によって、もしくは時事問題の適時性の確保のために、取り上げる話題には変更の可能性がある

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 70% 課題・レポート提出 10% 輪読・発表等授業への参加 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本、中国及びアジアを中心とした地域のニュース等を日ごろからチェックしてください。また輪読がスムーズに行われるように、事前に文献に目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国の政治外交I 【昼】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

世界有数の経済大国となった共産主義国家・中華人民共和国について研究するための基礎知識を習得する。授業では、中国の近現代史を政治的観点から振り返り、「中国の社会主義」と改革開放の行方について検討する。また、ポスト鄧小平の時代に顕在化した問題群と政治・政策との関連についても解説する。

教科書 /Textbooks

天児慧『中国の歴史11 巨龍の胎動 毛沢東vs 鄧小平』講談社、2004年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN~中国研究の動向と文献紹介、授業の進め方について
- 2回 中国概観~中華民族の偉大な復興
- 3回 エリート革命から人民戦争へ
- 4回 揺れる新国家建設
- 5回 中国独自の社会主義への挑戦
- 6回 プロレタリア文化大革命
- 7回 革命と近代化の確執
- 8回 改革開放・近代化へ邁進
- 9回 六四事件
- 10回 毛沢東と鄧小平
- 11回 大国化する中国の光と影
- 12回 21世紀中国~毛沢東と鄧小平を超えて
- 13回 中国の政治経済構造の構築と変化
- 14回 社会主義市場経済の帰結
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト ... 30 % 期末試験 ... 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストや授業で指定した資料・文献を熟読した上で授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国の政治外交II 【昼】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

授業の狙いは、中国の外交政策・対外関係・台湾問題について総合的に学ぶことである。国内政治、政策の変化、国際環境の変化と、中国外交の変化との関連性を示し、主要国との二国間関係や台湾問題を検討する。また、東アジアあるいは国際社会における中国の台頭について多面的に考える。

教科書 /Textbooks

オリエンテーションの時に知らせる。
その他、授業中に配布する資料・レジュメ。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション～文献紹介と授業の進め方
- 2回 中国の外交方針と国内政治
- 3回 中国外交と国際環境の変化
- 4回 日中関係I
- 5回 日中関係II
- 6回 日中関係III (現状分析と課題)
- 7回 米中関係I
- 8回 米中関係II
- 9回 台湾と中華民国～蔣介石時代
- 10回 台湾と中華民国～民主化へ
- 11回 中国と東アジアの国際関係
- 12回 その他の主要国・地域と中国との二国間関係
- 13回 国際機関と中国
- 14回 近年の中国外交の特徴
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト ... 30 % 期末試験 ... 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストや授業で指定した資料・文献を熟読した上で授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国文化論 【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国文化を古代文明から現代に至るプロセスの中で、キーワードを拾い、それを解明することで独自性と普遍性を見つけてみる。

教科書 /Textbooks

プリント教材を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『図説 中国文化百華』全18巻 農文協

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 古代文明遺跡が伝えるもの 「三星堆」に見る揚子江文明
- 第2回 中国シャーマニズムに現れる仮面劇
- 第3回 「十二支」という暦の考え方
- 第4回 古代楽器が伝えたもの
- 第5回 孔子の存在 儒教の意義
- 第6回 中国に於ける仏教文化の変遷
- 第7回 書道の意義
- 第8回 絵画の伝統
- 第9回 国技としての気功、太極拳
- 第10回 漢語のパワー
- 第11回 科学文明の受容 ①写真、映画
- 第12回 科学文明の受容 ②家電、携帯電話
- 第13回 科学文明の受容 ③IT産業
- 第14回 東洋医学の現況
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み・・・20% レポート評価・・・80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回の講義内容をまとめて要点を整理しておく。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日中文化比較 【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

日本と中国の交流を歴史的に鳥瞰し、文化面を細分化して、その特徴を捉えてみる。視聴覚教材を随時使用し、理解を深める。

教科書 /Textbooks

プリント教材を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『東方栄養新書』(メディカルユーコン社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 歴史年表にみる日中比較 概説
- 第2回 漢字文化の伝来 ①漢字という文字
- 第3回 漢字文化の伝来 ②音声の比較
- 第4回 仏教の伝来と日中の差異 ①
- 第5回 仏教の伝来と日中の差異 ②
- 第6回 日中食文化の比較 ①主食穀物
- 第7回 日中食文化の比較 ②肉食比較
- 第8回 日中食文化の比較 ③茶の伝来と現況
- 第9回 書と絵画 小史①
- 第10回 書と絵画 小史②
- 第11回 芸能史が伝えるもの ①
- 第12回 芸能史が伝えるもの ②
- 第13回 自然保護と環境問題 ①
- 第14回 自然保護と環境問題 ②
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の講義への取り組み・・・20% レポート評価・・・80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミニレポート作成、アンケート調査に回答する

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

知りたい・観たい・聴きたい

比較中国思想 【昼】

担当者名 鄧 紅 / DENG HONG / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国の思想、文学、文化を研究する学問について、日本では、古くから「漢学」(Sinology)と、現在では「中国学」(Chinese Studies)と呼ばれている。同様、中国の言語も、「漢文」から「中国語」に変化した。

本講義のねらいは、「漢学」から「中国学」へ、「漢文」から「中国語」への発展軌跡を究明することである。

本授業の内容は、中国人学者の著作『从汉学到中国学』(漢学から中国学へ)の関連部分の中国語原文を、演習の形で日本語に翻訳したうえで、講読し理解することである。

教科書 /Textbooks

『从汉学到中国学』(中華書局2007年)
授業ごとにプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『中国文化叢書』、大修館書店1980年。○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一回 近代大学建制与伝統漢学的式微
- 第二回 東京大学古典講習科
- 第三回 過渡期人材の学術成就
- 第四回 東洋史、東洋学的建立
- 第五回 史哲双星
- 第六回 京都支那学
- 第七回 京都学派及其学術特徴
- 第八回 漢学与中国学
- 第九回 借用、仮名与和訓
- 第十回 近代大学中的「清語」教育
- 第十一回 善隣書院、東亜同文書院
- 第十二回 唐通事、旗人与外交官
- 第十三回 中国語教育的時代背景
- 第十四回 教科書体系化与專業雜誌
- 第十五回 中国語教育与近代日中關係

成績評価の方法 /Assessment Method

出席態度30%、演習結果50%、レポート20%。
演習担当日の欠席あるいは遅刻(30分以上)は、一発「不可」。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

最初の授業から担当者、担当部分を分配するので、第一回目から積極的に参加し、様子見(オリエンテーション的)しないこと。
演習担当の際、よく辞書などで調べること。
演習本番の前に、よく原文を大声で練習すること。

履修上の注意 /Remarks

欠席と遅刻を重要視する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外国語が、普通の学生にとってはこれからの人生の武器に過ぎざるも、外国語学部の学生にとってはすべてである。

キーワード /Keywords

中国社会経済史I【昼】

担当者名 /Instructor 山本 進 / Yamamoto Susumu / 中国学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

明代に成立した伝奇小説である『三国志通俗演義』を通して、中国の社会と文化、経済と政治を包括的に学ぶ。三国志に描かれている人物の行動様式から、中国人がいかなる社会を構成し、いかなる経済を営んでいたかを、事例研究的に学ぶ。特に日本社会との相違点について論じる。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。ビデオとプリントを中心教材とする。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山本進『清代社会経済史』創成社、2002年。
山本進『清代の市場構造と経済政策』名古屋大学出版会、2002年。
山本進『清代財政史研究』汲古書院、2002年。
山本進『明清時代の商人と国家』研文出版、2002年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 桃園の誓い(中国の農村部における定期市について学ぶ)
- 第3回 桃園の誓い(中国の農村部における地方政治について学ぶ)
- 第4回 三顧の礼(ドラマに出てくる故事成語を学ぶ)
- 第5回 三顧の礼(ドラマに出てくる故事成語を学ぶ)
- 第6回 三顧の礼(ドラマに出てくる故事成語を学ぶ)
- 第7回 三顧の礼(ドラマに出てくる故事成語を学ぶ)
- 第8回 三顧の礼(ドラマに出てくる故事成語を学ぶ)
- 第9回 赤壁の戦い(曹操の華北と孫権の江南との経済の違いを学ぶ)
- 第10回 赤壁の戦い(曹操の華北と孫権の江南との経済の違いを学ぶ)
- 第11回 五丈原(蜀軍を率いた諸葛亮を通して組織原理を学ぶ)
- 第12回 五丈原(蜀軍を率いた諸葛亮を通して組織原理を学ぶ)
- 第13回 五丈原(蜀軍を率いた諸葛亮を通して組織原理を学ぶ)
- 第14回 五丈原(蜀軍を率いた諸葛亮を通して組織原理を学ぶ)
- 第15回 まとめの回

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ビデオは中国語で放送するが、日本語字幕が付く。「東洋史」を履修していることが好ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国社会経済史II 【昼】

担当者名 /Instructor 山本 進 / Yamamoto Susumu / 中国学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

韓国ドラマ『李示示(イ・サン)』を通して中国・朝鮮のような官僚専制社会と日本のような共同体社会との相違点について論じる。また、朝鮮と中国・日本との関係に触れられた部分などを素材として、近世東アジア社会の外交関係と貿易関係について論ずる。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。DVDと配布プリントを使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山本進『清代社会経済史』創成社、2002年。
山本進『清代の市場構造と経済政策』名古屋大学出版会、2002年。
山本進『清代財政史研究』汲古書院、2002年。
山本進『明清時代の商人と国家』研文出版、2002年。
山本進『環渤海交易圏の形成と変容』当用書店、2009年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 中国や朝鮮の宮殿構造
- 第3回 中国や朝鮮の都市景観
- 第4回 清国使節団
- 第5回 中朝貿易・留学
- 第6回 銅銭不足
- 第7回 ファワン翁主・紅蔘
- 第8回 乱塵①
- 第9回 乱塵②・褌負商と松商
- 第10回 火縄銃の歴史
- 第11回 燕行使
- 第12回 ソンヨンの北京からの帰還
- 第13回 承政院日記の洗草
- 第14回 朝鮮の対清外交
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「日本史」や「東洋史」を履修していることが好ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国経済論I【昼】

担当者名 /Instructor 白石 麻保 / 中国学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

語学というスキルを十分に生かすための基礎知識として中国経済のしくみやそこでの人々の行動を理解することを本講義の目的とします。中国経済論Iでは、中国で行われてきた経済改革の流れとそれに伴う中国経済・社会の変容をトピック別に解説し、中国経済が現在に至った経緯について理解を深めます。これによって現在中国経済が抱える諸問題についてその問題が生じた経緯を理解しそれらの解決・解消の可能性を探ります。

教科書 /Textbooks

指定しない。資料は担当者より提示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ① 深尾光洋編『シリーズ：現代経済研究25 中国経済のマクロ分析』日本経済新聞社 2006年
 - ② 南亮進・牧野文夫編『中国経済入門』日本評論社 2006年
 - ③ 加藤弘之・上原一慶編著『中国経済論』ミネルヴァ書房 2011年
 - ④ 丸川知雄『市場発生のダイナミクス 移行期の中国経済』アジア経済研究所 1999年
 - ⑤ 中兼和津次編著『』歴史的視野からみた現代中国経済』ミネルヴァ書房 2010年
- 他の参考文献は授業中に提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 ガイダンス
 - 2回 経済発展の概観(1)【経済発展】【開発】
 - 3回 経済発展の概観(2)【経済発展】【市場経済化】
 - 4回 中国経済を見る視点と枠組(1)【企業制度 利潤最大化 政府】
 - 5回 中国経済を見る視点と枠組(2)【SNA】
 - 6回 農業・農村(1)【インセンティブ】【請負制】
 - 7回 農業・農村(2)【インセンティブ】【農村工業化】
 - 8回 農業・農村(3)【土地請負制】【三農問題】
 - 9回 農業・農村(4)【経済発展】【生産性】
 - 10回 製造業・企業(1)【国有企業】【規制緩和】
 - 10回 製造業・企業(2)【予算制約】【所有権改革】
 - 11回 製造業・企業(3)【上場企業】【民営企業】
 - 12回 製造業・企業(4)【企業制度】【企業データ】
 - 13回 経済発展の課題(1)
 - 14回 経済発展の課題(2)
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

70%：期末試験の成績 30%：平常点(講義中に提示する課題の提出等)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経済問題に関するニュースを日ごろからチェックしてみてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国経済論II 【昼】

担当者名 /Instructor 白石 麻保 / 中国学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

語学というスキルを十分に生かすための基礎知識として中国経済のしくみやそこでの人々の行動を理解することを本講義の目的とします。中国経済論IIでは、改革開放後に行われた経済諸政策の内容とその効果に着目しながら、経済改革に伴う各経済制度の変容と経済の構造的変化について理解を深めていきます。

教科書 /Textbooks

指定しない。資料は担当者より提示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ① 深尾光洋編『シリーズ：現代経済研究25 中国経済のマクロ分析』日本経済新聞社 2006年
 - ② 南亮進・牧野文夫編『中国経済入門』日本評論社 2006年
 - ③ 加藤弘之・上原一慶編著『中国経済論』ミネルヴァ書房 2011年
 - ④ 丸川知雄『市場発生のダイナミクス 移行期の中国経済』アジア経済研究所 1999年
 - ⑤ 中兼和津次編著『』歴史的視野からみた現代中国経済』ミネルヴァ書房 2010年
- 他の参考文献は授業中に提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 ガイダンス
 - 2回 中国の経済発展の特徴(1)【改革開放】【市場経済化】
 - 3回 中国の経済発展の特徴(2)【財政政策】【金融政策】
 - 4回 金融政策と金融システム(1)【間接金融】【直接金融】【中央銀行】
 - 5回 金融政策と金融システム(2)【引き締め政策】【緩和政策】
 - 6回 金融政策と金融システム(3)【金融政策の方法と中国での効果】
 - 7回 通貨・為替制度の変遷(1)【変動相場制】【為替レート】
 - 8回 通貨・為替制度の変遷(2)【輸出】【輸入】【人民元】
 - 9回 通貨・為替制度の変遷(3)【国際資本移動】【金融政策】
 - 10回 労働市場の動向(1)【労働力移動】【戸籍制度】
 - 11回 労働市場の動向(2)【レイオフ】【契約法】
 - 12回 労働市場の動向(3)【余剰労働力】【労働力不足】【新契約法】
 - 13回 持続的成長への課題(1)
 - 14回 持続的成長への課題(2)
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

70%：期末試験の成績 30%：平常点(講義中に提示する課題の提出等)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経済問題に関するニュースを日ごろからチェックしてみてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

漢文学 【昼】

担当者名 /Instructor 榎崎 洋一郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

いわゆる「漢文」は、中国において数千年に及ぶ歴史を有することは言うまでもないが、日本でも奈良時代以来、千年を超える伝統を保ちつつ、現在に至っている。したがって、漢文を学ぶことは、それによって、隣国である中国の歴史や文明について理解を深めることができるだけでなく、日本人として、自国の文化的ルーツを知ろうとする上でも、欠かすことのできないことであると言える。この授業では、中国の歴代の「漢文」の代表的作品について読み進めていき、意外なまでの懐の深さをもつ「漢文」の世界の全貌を窺うこととする。また、大陸から渡来した外国語としての「漢文」を、昔の日本人がどのように「読み下して」いったかを、訓点の歴史などを通して時代を追って見ていく。日本人が書いた「日本漢文」についても、代表的な作品を読解し、日本人独特の「漢文」の特色を見ていくことにする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに
- 2回 甲骨文から詩書へ【宗教から人間主義へ】
- 3回 経書の世界【四書五経】
- 4回 孔子のことば【論語】
- 5回 諸子百家【百家争鳴】
- 6回 古詩の世界【歓楽と哀情】
- 7回 六朝志怪【人鬼の世界】
- 8回 唐詩と宋詩【情念と理知】
- 9回 明清期の詩文【近代の芽生え】
- 10回 漢字漢文の伝来【漢文と万葉仮名】
- 11回 訓点の歴史【日本語と漢文】
- 12回 日本漢文(1)【奈良～室町】
- 13回 日本漢文(2)【戦国～江戸】
- 14回 日本漢文(3)【江戸末期～明治】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(授業中のレポートなど) ... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業中に配布するプリントに、よく目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

漢文 甲骨文 詩書 経書 経史子集 漢詩 唐宋八大家 六朝志怪 日本漢文 訓点

文学作品講読A 【昼】

担当者名 /Instructor 与小田 隆一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

現代中国語の標準的文章を精読し、読解力を養成する。音読を重視し、表現力の向上にもつなげたい。小説を読むことは、現代中国の今を生きる人々の内面の世界に立ち入ることになるので、中国理解のためにも有益な授業となる。なお、取り上げる具体的作品や具体的なスケジュールなどについては、初回授業の際、受講者数や受講者の中国語能力を見たうえで再検討する。

教科書 /Textbooks

必要に応じ、プリントを用意する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	ガイダンス	
第2回	作品の概説	
第3回	魯迅「狂人日記」講読	(1)
第4回	同上	(2)
第5回	同上	(3)
第6回	同上	(4)
第7回	同上	(5)
第8回	郭沫若「残春」講読	(1)
第9回	同上	(2)
第10回	同上	(3)
第11回	同上	(4)
第12回	同上	(5)
第13回	同上	(6)
第14回	同上	(7)
第15回	まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み : 60% レポート : 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当者は自分の担当範囲について、音読・日本語訳ができるよう準備しておくこと。また担当者以外の受講生も、その回に取り上げる範囲については、必ず読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

受講者が比較的少数人数と思われるので、演習形式での授業を想定している。よって、無断欠席(特にその回の担当者)は厳禁。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文学作品講読B 【昼】

担当者名 与小田 隆一 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

現代中国語の標準的文章を精読し、読解力を養成する。音読を重視し、表現力の向上にもつなげたい。小説を読むことは、現代中国の今を生きる人々の内面の世界に立ち入ることになるので、中国理解のためにも有益な授業となる。なお、取り上げる具体的作品や具体的なスケジュールなどについては、初回授業の際、受講者数や受講者の中国語能力を見たうえで再検討する。

教科書 /Textbooks

必要に応じ、プリントを用意する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	ガイダンス	
第2回	作品の概説	
第3回	穆時英「夜」講読(1)	
第4回	同上	(2)
第5回	同上	(3)
第6回	同上	(4)
第7回	同上	(5)
第8回	施蛰存「梅雨之夕」講読(1)	
第9回	同上	(2)
第10回	同上	(3)
第11回	同上	(4)
第12回	同上	(5)
第13回	同上	(6)
第14回	同上	(7)
第15回	まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み: 60% レポート: 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当者は自分の担当範囲について、音読・日本語訳ができるよう準備しておくこと。また担当者以外の受講生も、その回に取り上げる範囲については、必ず読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

受講者が比較的少数人数と思われるので、演習形式での授業を想定している。よって、無断欠席(特にその回の担当者)は厳禁。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国歴史社会研究I【昼】

担当者名 /Instructor 山本 進 / Yamamoto Susumu / 中国学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

韓国ドラマ「大長今(宮廷女官チャングムの誓い)」を通して、前近代東アジアの政治・経済・社会・文化・国際関係について学ぶ。ドラマの舞台は15世紀の朝鮮であるが、当時の朝鮮は漢字文化圏の一部であった。朝鮮(韓国)での漢字文化受容の在り方を通して、中国文化の普遍性について考察する。Iでは主として政治・経済・国際関係の実態と思想との整合性について述べる。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。毎回ドラマ1話を見せ、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山本進『清代社会経済史』創成社、2002年。
山本進『清代の市場構造と経済政策』名古屋大学出版会、2002年。
山本進『清代財政史研究』汲古書院、2002年。
山本進『明清時代の商人と国家』研文出版、2002年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 中国や韓国の子供観・文字学習と千字文
- 第3回 鶏肋の意味
- 第4回 朝鮮の秩序意識・大陸における面子の重要性
- 第5回 饅頭・親孝行①
- 第6回 ヨンセンと人間関係
- 第7回 冊封体制・明の使節
- 第8回 満漢全席・食器
- 第9回 料理
- 第10回 親孝行②
- 第11回 衣装と服制
- 第12回 白米・貨幣
- 第13回 上司の条件
- 第14回 東アジアにおける銀の流通
- 第15回 まとめの回

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国歴史社会研究II 【昼】

担当者名 /Instructor 山本 進 / Yamamoto Susumu / 中国学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

韓国ドラマ「大長今(宮廷女官チャングムの誓い)」を通して、前近代東アジアの政治・経済・社会・文化・国際関係について学ぶ。ドラマの舞台は15世紀の朝鮮であるが、当時の朝鮮は漢字文化圏の一部であった。朝鮮(韓国)での漢字文化受容の在り方を通して、中国文化の普遍性について考察する。IIではこれまでこの地域の普適的思想と考えられてきた「儒教」が、実際には地域の社会的・文化的特性に応じて、固有の変化を遂げていたことを述べる。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。毎回ドラマ1話を見せ、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山本進『清代社会経済史』創成社、2002年。
山本進『清代の市場構造と経済政策』名古屋大学出版会、2002年。
山本進『清代財政史研究』汲古書院、2002年。
山本進『明清時代の商人と国家』研文出版、2002年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 医女の歴史・中国の年号を朝鮮で用いた理由
- 第3回 儒教の経典
- 第4回 復讐と報恩・ヨンセンの面子
- 第5回 東洋医学・己卯士禍
- 第6回 華佗
- 第7回 脚気
- 第8回 宮廷の構成
- 第9回 胡椒の流入・韓国人と漢字
- 第10回 裁判制度・密貿易
- 第11回 親孝行③
- 第12回 大長今の称号
- 第13回 チャングムの時代の東アジア儒教(朱子学の伝播)
- 第14回 チャングムの時代の東アジア外交(漢字文化圏の一体性)
- 第15回 まとめの回

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス中国語A 【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国ビジネスに役立つ人材の育成を目標に、ビジネスに関するイロハを丁寧に説明し、ビジネスに必要な単語、実務に使われる基本会話を習得し、実用的なコミュニケーション能力とビジネス文章の読む力を身につける。また進学・就職に有利になるBCT上級レベルを目指し、短期間で合格することを目的とする。

教科書 /Textbooks

最初授業のときに説明する。また必要な資料を授業中に配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「BCTビジネス中国語検定試験パーフェクトトレーニング」
セリングビジョン株式会社発行

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1学期 (A)

ビジネス基本単語の発音と日本語の意味合いを繰り返して覚える。実務に使われる基本会話を学習する。BCT試験内容「ヒアリング・閲読」を理解し、受験する試験会場での実際の試験プロセスを把握する。模擬問題集の問題を練習し、模擬テストを体験する。BCT問題集に挑戦する。

- 1回 オリエンテーション
- 2回 ヒアリング練習
- 3回 単語テスト・閲読練習I
- 4回 単語テスト・閲読練習II
- 5回 ヒアリング練習
- 6回 単語テスト・閲読練習I
- 7回 単語テスト・閲読練習II
- 8回 ヒアリング練習
- 9回 単語テスト・閲読練習
- 10回 会話練習I
- 11回 会話練習II
- 12回 単語テスト・作文練習I
- 13回 単語テスト・作文練習II
- 14回 ヒアリング練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度20%、単語小テスト35%、定期試験45%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語小テストを行うため、単語予習に時間をかける必要がある。

履修上の注意 /Remarks

できるだけ欠席しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常生活に関わる中国語の単語をより多く聞き取れるように勉強してほしい。

キーワード /Keywords

ビジネス専門用語、BCT受験

ビジネス中国語A 【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国ビジネスに役立つ人材の育成を目標に、ビジネスに関するイロハを丁寧に説明し、ビジネスに必要な単語、実務に使われる基本会話を習得し、実用的なコミュニケーション能力とビジネス文章の読む力を身につける。また進学・就職に有利になるBCT上級レベルを目指し、短期間で合格することを目的とする。

教科書 /Textbooks

最初授業のときに説明する。また必要な資料を授業中に配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「BCTビジネス中国語検定試験パーフェクトトレーニング」
セリングビジョン株式会社発行

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1学期 (A)

ビジネス基本単語の発音と日本語の意味合いを繰り返して覚える。実務に使われる基本会話を学習する。BCT試験内容「ヒアリング・閲読」を理解し、受験する試験会場での実際の試験プロセスを把握する。模擬問題集の問題を練習し、模擬テストを体験する。BCT問題集に挑戦する。

- 1回 オリエンテーション
- 2回 ヒアリング練習
- 3回 単語テスト・閲読練習I
- 4回 単語テスト・閲読練習II
- 5回 ヒアリング練習
- 6回 単語テスト・閲読練習I
- 7回 単語テスト・閲読練習II
- 8回 ヒアリング練習
- 9回 単語テスト・閲読練習
- 10回 会話練習I
- 11回 会話練習II
- 12回 単語テスト・作文練習I
- 13回 単語テスト・作文練習II
- 14回 ヒアリング練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度20%、単語小テスト35%、定期試験45%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語小テストを行うため、単語予習に時間をかける必要がある。

履修上の注意 /Remarks

できるだけ欠席しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常生活に関わる中国語の単語をより多く聞き取れるように勉強してほしい。

キーワード /Keywords

ビジネス専門用語、BCT受験

ビジネス中国語B 【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国ビジネスに役立つ人材の育成を目標に、ビジネスに関するイロハを丁寧に説明し、ビジネスに必要な単語、実務に使われる基本会話、作文を習得し、実用的なコミュニケーション能力を身につけ、進学・就職に有利になるBCT上級に短期間で合格することを目的とする。

教科書 /Textbooks

最初授業のときに説明する。
必要に応じて参考資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「BCTビジネス中国語検定試験パーフェクトトレーニング」
セリングビジョン株式会社発行

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第2学期(B)
ビジネス基本単語を繰り返して覚える。実務に使われる基本会話を学習する。BCT問題集を学習する。
「ヒアリング・ 閲読」と「会話・ 作文」の得意、不得意を検討し、弱い分野について繰り返して学習する。
BCT会話、作文問題集に挑戦する。

- 1回 オリエンテーション
- 2回 単語練習
- 3回 閲読練習I
- 3回 単語テスト・ ヒアリング練習
- 4回 単語テスト・ 閲読練習II
- 5回 ヒアリング練習
- 6回 単語テスト・ 閲読テスト練習I
- 7回 ビジネス会話作文I
- 8回 実践会話練習
- 9回 ビジネス会話作文練習II
- 10回 実践会話練習
- 11回 ビジネス会話作文練習III
- 12回 実践会話練習
- 13回 ビジネス会話作文練習IV
- 14回 実践会話練習
- 15回 まどめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度20%、小テスト35%、定期試験45%。

事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語テストの予習、作文練習、会話発表の準備

履修上の注意 /Remarks

できるだけ欠席しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常生活に関わる中国語の単語をより多く覚えてほしい。

キーワード /Keywords

ビジネス専門用語、BCT受験

ビジネス中国語B 【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国ビジネスに役立つ人材の育成を目標に、ビジネスに関するイロハを丁寧に説明し、ビジネスに必要な単語、実務に使われる基本会話、作文を習得し、実用的なコミュニケーション能力を身につけ、進学・就職に有利になるBCT上級に短期間で合格することを目的とする。

教科書 /Textbooks

最初授業のときに説明する。
必要に応じて参考資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「BCTビジネス中国語検定試験パーフェクトトレーニング」
セリングビジョン株式会社発行

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第2学期(B)
ビジネス基本単語を繰り返して覚える。実務に使われる基本会話を学習する。BCT問題集を学習する。
「ヒアリング・ 閲読」と「会話・ 作文」の得意、不得意を検討し、弱い分野について繰り返して学習する。
BCT会話、作文問題集に挑戦する。

- 1回 オリエンテーション
- 2回 単語練習
- 3回 閲読練習I
- 3回 単語テスト・ ヒアリング練習
- 4回 単語テスト・ 閲読練習II
- 5回 ヒアリング練習
- 6回 単語テスト・ 閲読テスト練習I
- 7回 ビジネス会話作文I
- 8回 実践会話練習
- 9回 ビジネス会話作文練習II
- 10回 実践会話練習
- 11回 ビジネス会話作文練習III
- 12回 実践会話練習
- 13回 ビジネス会話作文練習IV
- 14回 実践会話練習
- 15回 まどめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度20%、小テスト35%、定期試験45%。

事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語テストの予習、作文練習、会話発表の準備

履修上の注意 /Remarks

できるだけ欠席しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常生活に関わる中国語の単語をより多く覚えてほしい。

キーワード /Keywords

ビジネス専門用語、BCT受験

中国の社会【昼】

担当者名 鄧 紅 / DENG HONG / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国に関する基本知識を講義し、中国の社会、文化、歴史、文学などを知る。

教科書 /Textbooks

授業ごとにプリントを配る。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『図解雑学・中国』（ナツメ社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一回：中国の社会
- 第二回：中国の人と自然
- 第三回：中国の国家体制
- 第四回：中国の政治
- 第五回：中国の地方
- 第六回：中国の文化と暮らし
- 第七回：中国の経済（1）
- 第八回：中国の経済（2）
- 第九回：中国の歴史（1）
- 第十回：中国の歴史（2）
- 第十一回：中国の文学（1）
- 第十二回：中国の文学（2）
- 第十三回：世界の中の中国
- 第十四回：日中関係
- 第十五回、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加態度（30%）+課題（30%）+レポート（40%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- よく予習すること。
- 与えられたキーワードを暗記すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東アジア経済論【昼】

担当者名 /Instructor 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

東アジア地域は長い期間にわたって経済発展を続けてきた地域であり、今後東アジア経済の動向が世界の中で重要な意味を持つようになる。この授業のねらいは、東アジア地域が経験してきた発展と挫折、また挫折からの回復の過程をたどっていくことで、東アジア経済に対する理解を深めていき、受講生にとってこれから日本と東アジアの経済関係がどのようなものであるべきかを考える契機とすることである。

授業では、東アジア地域は多くの国が含まれ多様性に富んだ地域であるので、第1部で、まず東アジア地域全体の統計データを確認して、東アジア経済の全体像を把握し、東アジアの代表的な国の経済を見る。東アジア地域は経済発展に成功した経験を持つが、その反面で発展過程で内包されていた問題点が吹き出して、その対応に追われた時期もある。そのため、第2部では東アジアの経済発展を可能にした要因を検討していき、第3部では発展過程で現れてきた問題点（アジア通貨危機）とその対応策を明らかにする。そして、第4部では近年活発になってきたアジアにおける地域協力（自由貿易協定やTPPなど）とそれに対する日本の対応を取り上げる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業ではプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

尹 明憲『韓国の発展パラダイムの転換』、明石書店(○)
大野健一・桜井宏二郎『東アジアの開発経済学』、有斐閣(○)
北原淳・西澤信善『アジア経済論』、ミネルヴァ書房(○)
渡辺利夫編『アジア経済読本 第4版』、東洋経済新報社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1部 東アジア経済の概観
 - 1回 データで見る東アジア経済
 - 2回 東アジア主要国の経済(1) アジアNIEs
 - 3回 東アジア主要国の経済(2) ASEAN・中国
 - 4回 東アジア主要国の経済(3) ベトナム・ミャンマー
- 第2部 東アジア経済の発展要因
 - 5回 国際的要因
 - 6回 工業化戦略(1)
 - 7回 工業化戦略(2)
 - 8回 技術進歩・人材育成
 - 9回 成長志向の金融政策
- 第3部 経済発展にともなう問題点と対応策
 - 10回 アジア通貨危機(1)
 - 11回 アジア通貨危機(2)
 - 12回 通貨危機に対する対策
- 第4部 経済統合の動向と日本の対応
 - 13回 東アジアにおける地域協力
 - 14回 日本の対応
 - 15回 日本と東アジアとの経済関係のあり方

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...30% 学期末試験またはレポート...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

普段から東アジアの政治経済情勢について新聞、ニュースなどで接するようにしてください。また、経済学の入門書を読んでください。

履修上の注意 /Remarks

この授業では複数の学科の学生が受講し、経済学科の3年以上の学生も受講します。経済学科以外の学科の人は、世界経済論などの授業を受講するか、初心者向けの経済学の入門書を必ず読んだ上で受講して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

工業化戦略、技術進歩、グローバル化、通貨危機、地域協力

地域研究入門 (朝鮮半島) 【昼】

担当者名 /Instructor 総田 芳憲 / Kaseda Yoshinori / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

- ・ 近代朝鮮、並びに、韓国・北朝鮮の政治外交について概観する。
- ・ 特に焦点を当てる事項は、朝鮮文化・社会の特徴、近代朝鮮を巡る日中露の対立、日本による朝鮮植民地支配の経緯と実態、米ソ対立と韓国・北朝鮮の建国、朝鮮戦争、日韓国交正常化、韓国の経済発展、韓国の政治体制の変遷、日韓の歴史問題、冷戦後の北朝鮮の政治経済状況と対日関係、北朝鮮の大量破壊兵器開発問題である。
- ・ 近代以降、朝鮮半島は大国の利害が錯綜してきた国際政治の中心舞台であり、その経緯を学ぶことで、国際政治に対する理解を深める。
- ・ 近代朝鮮、並びに、韓国・北朝鮮の政治外交についての調査、分析することを通じて、情報収集能力、思考力を養う。

教科書 /Textbooks

中塚明『これだけは知っておきたい 日本と韓国・朝鮮の歴史』高文研、2002年
姜尚中『増補版 日朝関係の克服』集英社<集英社新書>、2007年
(注)教科書の変更を行う場合あり。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○谷岡一郎『「社会調査」のウソ』文藝春秋<文春文庫>、2000年。その他、授業で適宜紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業内容の説明
- 2回 近代日本と朝鮮①：アヘン戦争、日清戦争など
- 3回 近代日本と朝鮮②：日露戦争、韓国併合など
- 4回 日本の朝鮮植民地支配①：植民地経営政策など
- 5回 日本の朝鮮植民地支配②：反日運動、在日朝鮮人問題など
- 6回 日本の朝鮮植民地支配③：皇民化政策など
- 7回 日本の朝鮮植民地支配④：戦争への朝鮮人動員など
- 8回 戦後、冷戦期の朝鮮半島①：分断国家の誕生、竹島問題など
- 9回 戦後、冷戦期の朝鮮半島②：朝鮮戦争など
- 10回 戦後、冷戦期の朝鮮半島③：日韓国交正常化、韓国の経済発展など
- 11回 戦後、冷戦期の朝鮮半島④：日韓歴史問題など
- 12回 冷戦末期と終焉後の朝鮮半島①：韓国の民主化、冷戦終焉の韓国・北朝鮮への影響など
- 13回 冷戦末期と終焉後の朝鮮半島②：北朝鮮の大量破壊兵器開発問題など
- 14回 冷戦末期と終焉後の朝鮮半島③：拉致問題、日韓国交正常化問題など
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

質疑応答...10%、読書感想文...10%、ニュース論評...20%、期末試験...60%。その他、詳細については、第1回授業で説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは、講義と相互補完的關係にあるので、きちんと読むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域研究入門 (東南アジア) 【昼】

担当者名 篠崎 香織 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業では、東南アジアという地域の特徴をとらえるとともに、自らを東南アジアという地域に位置づけている11カ国について各国の特徴をとらえることを目的とする。東南アジアに関する専門書を読みこなすうえで必要となる基本的な地理や現代史、今日的な課題を中心に説明していく。

教科書 /Textbooks

講義資料を毎回配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○清水一史・田村慶子・横山豪志編著『東南アジア現代政治入門』ミネルヴァ書房、2011年。
このほかにも講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 「東南アジア」という地域概念の展開&地理の把握
- 3回 東南アジアの脱植民地化(1940年代~60年代)
- 4~6回 東南アジア6カ国のプロフィール
- 7回 世界の冷戦とアジアの熱戦(1960年代~70年代)
- 8~10回 東南アジア5カ国+ASEANのプロフィール
- 11回 経済発展と民主化(1970年代~1990年代)
- 12回 「周縁」で文明を継承する(1) 東南アジアの華人
- 13回 「周縁」で文明を継承する(2) 東南アジアのムスリム
- 14回 日本と東南アジアとの結びつき
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト ... 30% 期末試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

小テストを3回実施する予定です。細かい事項の暗記ではなく、一つの出来ごとの大まかな流れとその意義を、説明できるように復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英米文化概論I 【昼】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

イギリスを中心に、アメリカ等も含む英語圏の文化を幅広く検討する。異文化に接近するための方法論と基礎知識を身につける。

教科書 /Textbooks

各回でレジュメ等を配布し、スライド・映像を適宜用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 英米文化への接近方法【英米文化】【コミュニケーション】
- 第3回 イギリスには建国記念日がない【アングロ・サクソン】【ノルマン征服】
- 第4回 イギリスの国王は(意外と)権力が強い【立憲君主政】【マグナ・カルタ】
- 第5回 20世紀まで英語は国際言語ではなかった【英語】【百年戦争】
- 第6回 イギリス国旗には緑がない【国旗】【ウェールズ】
- 第7回 スコットランド人は「秘密の多い世界」を好むといわれる【帝国】【スコットランド】
- 第8回 イギリス国歌には歌われない歌詞がある【国歌】【名誉革命体制】
- 第9回 イギリスでは厳格な政教分離がなされていない【政教分離】【国教会】
- 第10回 アイルランドは「ケルト」ではない(1)【アイルランド】【カソリック】
- 第11回 アイルランドは「ケルト」ではない(2)【アイルランド】【北アイルランド問題】
- 第12回 ホワイトハウスが白いのはイギリスのせいでもある【アメリカ独立】【自由】
- 第13回 イギリスの覇権は奴隷貿易がもたらした【奴隷貿易】【産業革命】
- 第14回 イギリスにもねじれ国会があった【貴族】【国制】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験(小テスト含む)...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英米文化概論II 【昼】

担当者名 /Instructor 川上 耕平 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

アメリカ合衆国の社会を織りなす精神文化、精神的遺産について植民地から21世紀までの歴史的発展を通じて概説する。ピューリタニズム、共和主義、自由主義、民主主義、保守主義といった政治文化から、人種差別、女性差別といった人権を侵害するものまで取り扱う。講義では、アメリカにおける公共性をめぐる視点の転換を説明するため、アメリカ特有の社会構造に焦点を当てる。

教科書 /Textbooks

講義冒頭のガイダンスで説明する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義冒頭のガイダンスで、講義の理解を深めるための文献リストを配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 アメリカ建国の「神話」と現実 【ピューリタニズム】
- 第3回 アメリカ独立をめぐる思想対立 【自由】 【共和主義】
- 第4回 アメリカ的思想の形成 【啓蒙主義】 【超絶主義】 【プラグマティズム】
- 第5回 フロンティアと西部 【フロンティア】 【西部】 【民主主義】
- 第6回 南北戦争と奴隷制度 【奴隷制】
- 第7回 世紀転換期アメリカの変容 【移民】 【都市化】 【産業化】
- 第8回 革新主義の時代 【ポピュリズム】 【革新主義】 【社会ダーウィニズム】
- 第9回 1920年代アメリカと消費社会 【フォーティズム】 【大量消費】 【ジャズ・エイジ】
- 第10回 冷戦期アメリカの社会思想-1940~80年代 【反共主義】 【リベラリズム】 【保守主義】
- 第11回 1950年代のアメリカ社会-E.プレスリーの音楽を題材に 【人種差別】 【南部】
- 第12回 1960年代のアメリカ社会-J.ジョプリンの音楽を題材に 【カウンター・カルチャー】
- 第13回 1970年代のアメリカ社会-イーグルスの音楽を題材に 【アメリカの保守化】
- 第14回 1980年代のアメリカ社会-マドンナの音楽を題材に 【フェミニズム】
- 第15回 講義のまとめ (または進度の調整)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ... 70 % レポートあるいは小テスト ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この講義はアメリカの社会史・文化史を扱っているため、政治史については、「アメリカの政治」を履修することをおすすめする。

履修上の注意 /Remarks

特に予備知識がなくとも理解できる説明を心がけるが (それは水準が低いということの意味しない)、復習に重点を置いてほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「アメリカの文化」を扱うということで、映像や音楽などの題材を利用する予定である。特に、近年の冷戦史研究においては、「冷戦と文化の関係」(Cultural Cold War) を扱った分野も発展しており、第二次大戦後の説明ではそうした研究も視野に入れて説明をしたい。

キーワード /Keywords

国際関係論I【昼】

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

国際化やグローバル化の進展は国際関係に大きな変容をもたらしました。それは、紛争の形態が国家間戦争から内戦、テロといった錯綜した状況へと移行したこと、国家以外のアクター（国際機関や多国籍企業、国際NGO）の影響力が増大したこと、各国が単独では解決しえない「グローバル・アジェンダ」への対応の必要性に注目が集まるようになったことなどで表されます。

この授業では、このような国際社会の新たな動向と課題を理解するための方法と基礎知識の獲得をめざします。具体的には、第二次世界大戦後の冷戦期からポスト冷戦期である今日に至るまでの国際関係の流れや国際問題に焦点をあてながら、国際関係の主要な理論について学習します。

教科書 /Textbooks

テキストは特に指定せず、毎回レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 山田高敬、大矢根聡 [編] 『グローバル社会の国際関係論』 [新版] (有斐閣、2011年)。
- 村田晃嗣、君塚直隆、石川卓、他 [著] 『国際政治学をつかむ』 (有斐閣、2009年)
- 山影進 『国際関係論講義』 (東京大学出版会、2012年)
- 田中明彦、中西寛 [編] 『新・国際政治経済の基礎知識』 [新版] (有斐閣、2010年)

その他の文献・論文については授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【】内はキーワード)
1. 国際関係学の誕生と展開【理想主義、現実主義】
 2. 国際社会と主権国家【主権、国民国家】
 3. 国際関係の分析視角【自由主義、現実主義、マルクス主義】
 4. リアリズム【パワー・ポリティクス、勢力均衡】
 5. リベラリズム【相互依存、制度、機能主義】
 6. ネオリベラリズム【合理選択論、国際レジーム】
 7. コンストラクティヴィズム【理念、間主観性、アイデンティティ】
 8. 前半の総括
 9. 国際社会の制度化(1)：安全保障【安全保障のジレンマ、安全保障システムの類型、CTBT】
 10. 国際社会の制度化(2)：貿易・金融【GATT/WTO、IMF、資本移動の自由化】
 11. ポスト冷戦期の戦争と平和(1)【強制措置、人道的介入】
 12. ポスト冷戦期の戦争と平和(2)【地域紛争、内戦、テロリズム】
 13. 地域主義の進展【EU、ASEAN、APEC】
 14. 人権と人間の安全保障【難民問題、人権問題】
 15. 講義のまとめ【グローバル化と国際社会】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート課題ないし小テスト：40% 期末試験：60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参考文献を事前に読んで上で受講することが望ましいです。
日頃から国際関係に関する出来事について関心を持ち、日々新聞を読む習慣を身につけておくことを期待します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際関係論II 【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この講義では、現代の国際社会が抱える様々な課題を取り上げ、その課題を解決するために取り組まれている諸活動を概観します。その際、単に諸問題の表層を捉えるのではなく、解決を困難にしている要因を歴史的文脈からも分析します。また、様々な課題が互いに関連し合っていることを横断的に捉え直すことで、複雑な現代世界の諸相を捉える視点を養います。

この授業での主な到達目標は、以下の通りです。

- ① 複雑な現代の国際社会の諸相を捉え、その相互関連性を理解出来るようになる。
- ② 関連領域における情報を収集し、自らの考えや意見をもてるようになる。
- ③ 世界的な諸問題の解決を自らの問題として捉え、その解決策を探索出来るようになる。
- ④ 常日頃から世界の諸問題に関心を持ち、情報にアクセスする意欲を持てるようになる。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。随時、プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

細谷千博監修、滝田賢治・大芝亮編『国際政治経済 - 「グローバル・イシュー」の解説と資料』有信堂高文社、2008年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
「暴力と平和」 【構造的暴力】 【積極的平和】 【消極的平和】
- 第2回 「非国家アクターの役割」 【NGO/NPO】 【社会的企業】 【企業の社会的貢献 (CSR)】 【世界社会フォーラム】
- 第3回 「新興国の台頭」 【BRICS】 【G20】 【上海協力機構】
- 第4回 「領土・国境問題」 【国境線】 【国際紛争】
- 第5回 「人の非自発的移動」 【難民】 【国内避難民】
- 第6回 「人間の安全保障」 【恐怖からの自由】 【欠乏からの自由】
- 第7回 「人道的介入と保護する責任」 【NATO空爆】
- 第8回 「民主化とガバナンス」 【アラブの春】
- 第9回 「21世紀における軍事」 【米軍再編】 【テロとの戦い】 【基地問題】
- 第10回 「エネルギー問題」 【原子力】 【再生可能エネルギー】
- 第11回 「食と環境」 【アグリビジネス】 【遺伝子組み換え (GM) 作物】
- 第12回 「感染症」 【HIV/AIDS】 【結核】 【マラリア】
- 第13回 「国家間貿易」 【WTO】 【TPP】 【EPA/FTA】
- 第14回 「公正な取引」 【フェアトレード】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・・・40% 学期末試験・・・60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

平素から新聞を読んだり、関連の新書を読むように心がけると授業内容の理解に役立ちます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中の私語は厳禁です。他の受講生の迷惑になりますので、途中入退室は原則として禁止します。

キーワード /Keywords

アメリカの政治I【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

現代アメリカ政治の基礎を講じる。

教科書 /Textbooks

久保文明ほか『アメリカ政治』（有斐閣 2010年）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

オリエンテーションで参考文献リストを配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス
- 第2回アメリカ政治の輪郭
- 第3回合衆国憲法の形成
- 第4回合衆国憲法の特徴
- 第5回大統領制
- 第6回議会
- 第7回司法
- 第8回連邦制
- 第9回選挙と政党制
- 第10回政党の機能
- 第11回メディアと圧力団体
- 第12回イデオロギー対立
- 第13回政策形成過程
- 第14回アメリカ民主政の現在
- 第15回授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

テスト ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この講義の内容はアメリカ政治II, III, IVであつかう内容や、国際関係史Iであつかうアメリカ外交とあわせて学習すると、アメリカ国家の発展をよく理解することができるようになります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ 政治

アメリカの政治II【昼】

担当者名 /Instructor 川上 耕平 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講義は、冷戦の始まりから現在にいたるアメリカの政治を対象とするが、内政よりも外交にウエイトを置き、各大統領ごとに最も象徴的と思われる事象を1つ取り上げ概説していく。その際、できるだけ新しい研究成果に基づき、通説を相対化するような知見を紹介していきたい。戦後のアメリカ外交史を学ぶことは、そのまま現代の世界情勢を理解するための基礎体力をつけることにつながる。したがって履修者は、この講義を通して、国際社会の表層部分にとどまらない成り立ちの部分を理解することができるであろう。

教科書 /Textbooks

「アメリカの政治I」と併せて履修する学生が多いと思われるので、以下の同一のテキストに準拠する。

- ・ 斎藤眞、古矢旬『アメリカ政治外交史』第2版、東京大学出版会、2012年。
- ・ 久保文明、砂田一郎、松岡泰、森脇俊雅『アメリカ政治』新版、有斐閣アルマ、2010年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義冒頭のガイダンスで、講義の理解を深めるための文献リストを配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 アメリカ政治・外交の特徴【孤立主義】【国際主義】
- 3回 トルーマン政権の政治・外交(1)【原爆投下】【冷戦の起源】
- 4回 トルーマン政権の政治・外交(2)【対日占領】【封じ込め】【日米安保】
- 5回 アイゼンハワー政権の政治・外交【大量報復戦略】
- 6回 ケネディ政権の政治・外交【キューバ・ミサイル危機】
- 7回 ジョンソン政権の政治・外交【ベトナム戦争】
- 8回 ニクソン政権の政治・外交【米中国交回復】
- 9回 カーター政権の政治・外交【新冷戦】
- 10回 レーガン政権の政治・外交【日米経済摩擦】
- 11回 ブッシュ(父)政権の政治・外交【湾岸戦争】【冷戦の終焉】
- 12回 クリントン政権の政治・外交【社会保障改革の失敗】
- 13回 ブッシュ(子)政権の政治・外交【イラク戦争】【ネオコン】
- 14回 オバマ政権の政治・外交【金融危機】
- 15回 講義のまとめ(または進度の調整)

成績評価の方法 /Assessment Method

テスト ... 70% レポートあるいは小テスト ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この講義はアメリカの政治史を扱っているため、社会史・文化史については、「英米文化概論II」を履修することをおすすめする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特に予備知識がなくとも理解できる説明を心がけるが(それは水準が低いということではない)、復習に重点を置いてほしい。

キーワード /Keywords

東アジア地域秩序論I【昼】

担当者名 /Instructor 久芳 崇 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講義では、中国を中心とする東アジアの歴史を、現在の我々の生活に密接に関わり、なおかつ歴史的に重要な役割を果たした様々な諸問題や事象、モノの動向に着目して考察する。そして、こうした考察を通じて、現在の視点から中国を中心とする東アジア世界の歴史を巨視的・客観的に捉え、その共通点・相違点を包括的に理解する能力を養う一助としたい。

具体的には、まずはじめに裁判員制度実施により近年注目される死刑の中国での実態とその意味について検討を行う。古来、中国での処刑は如何なる場所で行われたのか。それには如何なる意味があったのか。かかる一連の諸事象を、新旧史資料を利用しながら追究し、中国独自の秩序世界の実態について検討してみたい。

次に、我々にとって重要な関心事の一つであるファッションと美意識の展開・変遷について、中国における纏足普及の側面から検討してみたい。本講義における上記の検討を通して、歴史が我々にとって極めて身近なものであることを理解することができるようになればと考えている。

教科書 /Textbooks

適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【第1回】 イントロダクション
- 【第2回】 裁判員制度と死刑
- 【第3回】 近現代中国における処刑
- 【第4回】 公開処刑と棄市
- 【第5回】 祝祭としての棄市
- 【第6回】 戦争と献俘式
- 【第7回】 皇帝に献納された日本人
- 【第8回】 処刑の意味するもの
- 【第9回】 現代ファッションと美意識
- 【第10回】 纏足とは
- 【第11回】 纏足の起源
- 【第12回】 纏足の普及
- 【第13回】 ヨーロッパ人の来航と纏足
- 【第14回】 纏足と美意識
- 【第15回】 コルセット・ダイエット・纏足

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験により評価 (100%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回多くの資料を配布する。
配布資料は毎回持参することはもちろん、内容を熟読し十分に把握することが必要となる。

履修上の注意 /Remarks

資料の再配布は基本的に一切行わないので注意が必要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義では現代日本の諸問題と関連づけて東アジアの歴史を検討しようとするものである。
講義内容を念頭におきつつ日頃より新聞・雑誌等の記事を読むことが重要となる。

キーワード /Keywords

中国 処刑 纏足 美意識

東アジア地域秩序論II 【昼】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

近代における東アジア地域秩序の形成と変容を論じ、将来の東アジア地域秩序を構想すること。そのため、今年度の講義II（後期）の授業では、東アジア三国（日本、清国・中国、朝鮮・韓国）のナショナリズムの形成と展開を考察する。その過程で、三国それぞれのナショナリズムの特徴を比較考察する。また、ナショナリズム論も考察する。最後に、三国のナショナリズムと「グローバル化時代の東アジア」を対比し、それを調和させるべく、「東アジア共同体論」を検討する。講義全体のキーワードは【アジアからの視点】【文明論的な視点】【ナショナリズム】【東アジア共同体】

教科書 /Textbooks

米原謙・金鳳珍・區建英著『東アジアのナショナリズムと近代-なぜ対立するのか-』大阪大学出版会、2011、3700円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

金鳳珍『東アジア「開明」知識人の思惟空間』九州大学出版会、2004
茂木敏夫『変容する近代東アジアの国際秩序』山川出版社、1997
浜下武志『東アジアの地域ネットワーク』山川出版社、1999

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストの精読、学生の報告、補足講義という形で行う。
1回 概説と教科書の序章【アジアからの視点】【文明論的視点】
2回 第一章の一【国体論】【国体ナショナリズム】
3回 第一章の二、三【中華世界像】【国民国家】【明治儒学と国体】
4回 第二章の一、二【原初ナショナリズム】【近代ナショナリズム】
5回 第二章の三、四【ナショナリズムの噴出と相克】
6回 第三章の一、二【洋務運動】【戊術変法】【ナショナリズムの萌芽】
7回 第三章の三【辛亥革命】【民族主義】【国粋主義】
8回 第四章の一【脱亜】【興亜】【帝国日本】
9回 第四章の二、三【戦争】【東亜協同体論】
10回 第五章の一、二【抵抗ナショナリズムの離散と噴出】【分極】
11回 第五章の三、四【ナショナリズムの離合集散】【分裂と変質】
12回 第六章の一、二【アジア主義】【抗日ナショナリズム】
13回 第六章の三【アジア民族同盟】【統一戦線】【抗日戦争】
14回 終章【ナショナリズムの相克】
15回 まとめ【相生と相克】【東アジア共同体】

成績評価の方法 /Assessment Method

受講生の報告、2~3回のレポート、授業への熱意など

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参考文献等、自主的に勉強すること。予習と復習。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際経済論I【昼】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、海外直接投資、経済・通貨統合など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済論の習得が必要不可欠である。

< 本講義の概要 >

- 1, 国家間の貿易がなぜ発生するのかその仕組みを学ぶ。
- 2, 関税、補助金など貿易政策の経済効果を図解分析を通じて学ぶ。
- 3, 自由貿易協定、海外直接投資などについての理解を深める。

< 本講義の主な到達目標 >

- 1, 国際経済に関する諸問題を理解するために必要な専門知識を習得する。
- 2, 貿易政策の経済効果を理解するために部分均衡分析の手法を身につける。
- 3, グローバル社会が抱える諸問題を考察し、いかに解決できるか経済学の視点から理解できるようになる。

教科書 /Textbooks

大川昌幸『コア・テキスト国際経済学』（新世社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

石川城太他『国際経済学をつかむ』（有斐閣）
石井安憲他『入門・国際経済学』（有斐閣）
浦田秀次郎『国際経済学入門（経済学入門シリーズ）』（日経文庫）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 リカード・モデル（1）【絶対優位】【比較優位】
- 3回 リカード・モデル（2）【貿易パターン】
- 4回 ヘクシャー＝オリーン・モデル（1）【要素賦存】【要素集約度】
- 5回 ヘクシャー＝オリーン・モデル（2）【リプチンスキー定理】【ストルパー＝サミュエルソン定理】
- 6回 貿易政策分析の基礎（1）【部分均衡分析】【消費者余剰】【生産者余剰】
- 7回 貿易政策分析の基礎（2）【自由貿易の利益】
- 8回 小国の貿易政策（1）【関税政策】、【補助金政策】
- 9回 小国の貿易政策（2）【数量割当政策】
- 10回 大国の貿易政策（1）【関税政策】
- 11回 大国の貿易政策（2）【数量割当政策】
- 12回 経済統合【FTA】【CU】
- 13回 国際要素移動（1）【海外直接投資】
- 14回 国際要素移動（2）【国際労働移動】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出 10~20 % 期末試験 80~90 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミクロ経済学をすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになる。
主に図解分析で講義を進めるので、国際経済論の勉強を通じて論理的思考力を身につけてほしい。
部分均衡分析に関しては、清野著『ミクロ経済学入門』（日本評論社）を参照されたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際経済のメカニズム及び国際経済問題を包括的に理解するためには、「国際経済論II」と併せて履修することが望ましい。

キーワード /Keywords

自由貿易、貿易政策、経済統合、海外直接投資

国際経済論II 【昼】

担当者名 /Instructor 福間 比呂志 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講座では、「国際経済論I」の内容を踏まえて、国際マクロ経済学の応用として、国際金融論の基本的な考え方とその周辺知識について、出来るだけ数式を使わず平易に解説します。それによって、多国籍企業と直接投資および国際分業体制の構築、国際的な資本・労働移転、TPP（環太平洋経済連携協定）等、昨今のグローバル経済を取り巻く諸問題が起こる要因とそれらが国内外経済に及ぼすインパクトについて論理的に思考するための基礎力を養成します。

教科書 /Textbooks

大川昌幸『コア・テキスト国際経済学』（新世社）及びレジュメ

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小川英治『国際金融入門（経済学入門シリーズ）』（日経文庫）
橋本優子他『国際金融論をつかむ』（有斐閣）
岩本武和『国際経済学（国際金融編）』（ミネルヴァ書房）
ポール・R・クルーグマン他『クルーグマンの国際経済学（下巻（金融編））理論と政策』（ピアソン桐原）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 海外取引と国際収支（1）
- 3回 海外取引と国際収支（2）
- 4回 外国為替市場と為替レート（1）
- 5回 外国為替市場と為替レート（2）
- 6回 先物為替市場と通貨オプション
- 7回 為替レートの決定理論（1）
- 8回 為替レートの決定理論（2）
- 9回 開放経済と国民所得（1）
- 10回 開放経済と国民所得（2）
- 11回 開放経済のマクロ経済政策（1）- マンデル=フレミング・モデル -
- 12回 開放経済のマクロ経済政策（2）- 固定相場制の財政・金融政策 -
- 13回 開放経済のマクロ経済政策（3）- 変動相場制の財政・金融政策 -
- 14回 国際資本市場と金融のグローバル化
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・課題 20~30% 期末試験 70~80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予備知識を特に前提としませんが、マクロ経済学の基本知識を事前に習得していると理解が一層容易になります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際経済学をミクロとマクロの両面で一通り概観するためには、「国際経済論I」と併せて履修することが望ましい。

キーワード /Keywords

国際収支、為替レート、マンデル=フレミング・モデル、国際資本市場

アジア地域統合論 【昼】

担当者名 /Instructor 篠崎 香織 / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

今日、アジア・太平洋地域で展開する様々な地域協力の枠組みは、ASEAN (東南アジア諸国連合) が中核となっているものが少なくない。それは、独立したばかりの東南アジアの発展途上の小国が、自国の将来や自国の安全保障に大きく影響を与えようとする地域全体の将来を、大国に翻弄されることなく自らの意志で方向づけようと不断に工夫を積み重ねてきた結果である。現在アジア・太平洋地域で進展する地域統合を理解するには、東南アジア諸国がおかれてきた国際関係の理解が不可欠であるといっても過言ではない。

この授業では、東南アジアの国際関係を理解することにより、今日アジア・太平洋地域で展開している様々な地域協力の枠組みをとらえることを目的とする。そのために、ASEANをめぐる動きを軸として見ていく。

教科書 /Textbooks

毎回講義資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 山影進『ASEAN-シンボルからシステムへ』東京大学出版会、1991年
- 山影進『ASEAN/パワー-アジア太平洋の中核へ』東京大学出版会、1997年。
- 山影進『転換期のASEAN—新たな課題への挑戦』日本国際問題研究所、2001年。
- 黒柳米司『ASEAN35年の軌跡—'ASEAN Way'の効用と限界』有信堂高文社、2003年。
- 黒柳米司編著『アジア地域秩序とASEANの挑戦—「東アジア共同体」をめざして』、明石書店、2005年。
- 山影進『新しいASEAN-地域共同体とアジアの中心性を目指して』アジア経済研究所、2012年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 東南アジアにおける国民国家の成立
- 3回 東南アジア最初の地域協力機構：ASA (東南アジア連合)
- 4回 流動的な国境線：マレーシア成立とマフィリンド
- 5回 ASEANの成立
- 6回 ASEANの始動と変容
- 7回 冷戦とASEAN(1) ベトナムからの出国者問題
- 8回 冷戦とASEAN(2) カンボジア紛争
- 9回 ポスト冷戦期のASEAN(1) ASEANの拡大：ASEAN10
- 10回 ポスト冷戦期のASEAN(2) 経済協力への取り組み：AFTA
- 11回 ASEANの国際経済秩序形成への参画：APEC
- 12回 ASEANの広域安全保障秩序形成への参画：ARF
- 13回 「東アジア共同体」への関わり
- 14回 アジア・太平洋の地域協力における新たな動き：TPP、EPA
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト ... 30% 期末試験 ... 70%

小テスト実施日に欠席する / した場合、それがやむを得ない理由によることを証明する書類があれば、次の授業までに別途日時を設定して、追試を行うことが可能です。欠席が分かり次第、メールにて担当者にご連絡ください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「地域研究入門 (東南アジア) 」をすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになります。

小テストを3回実施する予定です。細かい事項の暗記ではなく、一つの出来ごとの大まかな流れとその意義を、説明できるように復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

韓国・北朝鮮の政治外交I【昼】

担当者名 /Instructor 総田 芳憲 / Kaseda Yoshinori / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

- ・ この授業では、現代の韓国・北朝鮮と日本との関係について理解を深める。
- ・ 特に焦点を当てる事項は、日韓国交正常交渉の内容と問題点、歴史問題（強制連行問題、従軍慰安婦問題、歴史教科書問題、竹島問題、靖国神社参拝問題）、拉致問題、日朝国交正常化交渉問題、在日朝鮮・韓国人の問題である。
- ・ 韓国・北朝鮮の政治外交についての調査、分析することを通じて、情報収集能力、思考力を養う。
- ・ 尚、北朝鮮の大量破壊兵器開発問題に関しては、「韓国・北朝鮮の政治外交II」で更に詳しく検討する。

教科書 /Textbooks

内海愛子『戦後補償から考える日本とアジア』山川出版社、2002年
(注)教科書の変更を行う場合あり。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 高橋哲哉『靖国問題』筑摩書房<ちくま新書>、2005年。その他、随時紹介。
- 姜尚中『増補版 日朝関係の克服』集英社<集英社新書>、2007年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業内容の説明。
- 2回 朝鮮半島と日本との近現代史の概要
- 3回 日韓国交正常化交渉における歴史問題の扱い①：NHK特集番組の視聴
- 4回 日韓国交正常化交渉における歴史問題の扱い②：NHK特集番組の視聴(続き)
- 5回 日韓国交正常化交渉における歴史問題の扱い③：日韓双方の立場の整理
- 6回 日韓国交正常化交渉における歴史問題の扱い④：日韓双方の立場の批評
- 7回 従軍慰安婦問題①：概要
- 8回 従軍慰安婦問題②：争点の整理
- 9回 従軍慰安婦問題②：解決方法の考察
- 10回 歴史教科書問題①：概要
- 11回 歴史教科書問題②：考察
- 12回 拉致問題と日朝国交正常化問題①：概要
- 13回 拉致問題と日朝国交正常化問題②：考察
- 14回 在日韓国・朝鮮人の問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

質疑応答...10%、読書感想文...10%、ニュース論評...20%、期末試験...60%。
詳細は第1回授業で説明。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは、講義と相互補完的関係にあるので、きちんと読むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

韓国・北朝鮮の政治外交II【昼】

担当者名 総田 芳憲 / Kaseda Yoshinori / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

- ・ この授業では、冷戦後の国際社会における主要な安全保障問題の一つと位置付けられる北朝鮮の核兵器・ミサイル開発問題に焦点を当て、その起源、展開、解決の困難性など、この問題について理解を深める。
- ・ 北朝鮮の核兵器・ミサイル開発問題に対する日米韓中露と国連の対応を検討し、これらの国々の安全保障政策、国連の役割についても理解を深める。
- ・ この問題について調査、分析することを通じて、情報収集能力、思考力を養う。

教科書 /Textbooks

姜尚中『増補版 日朝関係の克服』集英社<集英社新書>、2007年
(注)教科書の変更を行う場合あり。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- リッツ・ピース・メッセンジャーズ『北朝鮮の核実験をどう見るか』かもがわ出版、2006年
- ドン・オーバードーフアー『二つのコリア：国際政治の中の朝鮮半島』共同通信社、2002年
- 船橋洋一『ザ・ペニンシュラ・クエスチョン：朝鮮半島第二次核危機』朝日新聞社、2006年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業内容の説明。北朝鮮の核開発問題の概要①
- 2回 北朝鮮の核開発問題の概要②
- 3回 北朝鮮の原子力開発の始まり
- 4回 原子力開発の進展
- 5回 核兵器開発疑惑の浮上
- 6回 第1次核危機①
- 7回 第1次核危機②
- 8回 米朝枠組合意
- 9回 ウラン濃縮疑惑
- 10回 第2次核危機
- 11回 6カ国協議の始まり
- 12回 6カ国協議の進展
- 13回 6カ国協議の行き詰まり
- 14回 北朝鮮の核・ミサイル問題の解決方法
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・質疑応答...10%、読書感想文...10%、ニュース論評...20%、期末試験...60%。
その他、詳細については、第1回授業で説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは、講義と相互補完的関係にあるので、きちんと読むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

世界経済論I【昼】

担当者名 /Instructor 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

経済問題は、私たちの日常生活にも、地域にも国にも、また国際社会にも大きな影響を及ぼしている。経済を理解することで国際関係分野でも地域研究分野でもより深い理解を得ることができる。この授業では、経済の仕組みを理解するうえで最低限必要な経済学の知識と見方・考え方を身に付けることをめざす。この授業では、テキストにしたがって日常の経済取引を扱う「市場」に関する項目(ミクロ経済)から始めて、国全体の経済を扱う項目(マクロ経済)へと進めていく。説明では複雑な数式は使わず、できるだけ具体的な事例を出しながら説明していく。また、随時国際経済に関する時事トピックを取り上げて解説する。

教科書 /Textbooks

中谷武・中村保編著「1からの経済学」、碩学舎、2010年

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

伊藤元重「はじめての経済学」(上・下)、日本経済新聞出版社、2004年 (○)
岩田規久男「経済学への招待」、新生社、2007年
宮崎勇・田谷禎三「世界経済図説 第三版」、岩波新書、2012年 (○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 イントロダクション：経済学とわたしたち
- 2 分業の利益
- 3 価格メカニズム
- 4 市場の効率性
- 5 市場の失敗
- 6 市場の限界
- 7 労働市場
- 8 GDPとは何か
- 9 何がGDPを決めるか
- 10 消費需要と投資需要
- 11 貨幣と金融
- 12 政府の役割
- 13 外国貿易と為替レート
- 14 経済成長と国民生活
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

テスト(2回) ... 70%、平常点および課題... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

普段から身近な雇用・就職状況だけでなく、貿易や為替レートなどの状況にも関心を向けて、新聞や雑誌の経済記事に目を通しておくと、授業が理解しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

市場 GDP 貿易

世界経済論II 【昼】

担当者名 /Instructor 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業は、現実の世界経済の動きを理解するための基本的な知識と考え方を身につけることを目的とする。この授業では、直接投資と多国籍企業、南北問題(先進国と発展途上国の経済格差)や地球環境問題、国際人口移動など、世界が抱えている諸問題を経済の視点から考察していく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩本武和・奥和義・小倉明浩・金早雪・星野郁『新版グローバルエコノミー』有斐閣
東京経済大学国際経済グループ『私たちの国際経済 見つめてみよう、考えよう、世界のこと』有斐閣
石田修・板木雅彦・櫻井公人・中本悟編『現代世界経済をとらえるVer.5』東洋経済新報社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の流れ、世界経済の概観
- 2回 直接投資と多国籍企業(1) : 企業・会社とは?
- 3回 直接投資と多国籍企業(2) : 直接投資と多国籍企業とは?
- 4回 世界の中の貧困と格差(1) : 発展途上国の現状と貧困認識
- 5回 世界の中の貧困と格差(2) : 南北問題の出現(1950年代)と開発援助アプローチの変遷(1960、70年代)
- 6回 世界の中の貧困と格差(3) : 開発援助アプローチの変遷(1980年代)、新展開(1990年代以降)
- 7回 アジアにおける地域統合(1) : 戦後アジアの政治経済、地域統合の背景
- 8回 アジアにおける地域統合(2) : アジア地域統合の歩み、ASEANとAPECの新たな展開
- 9回 アジアにおける地域統合(3) : TPPと日本の対応
- 10回 地球環境問題(1) : 地球環境の現状と持続可能な開発
- 11回 地球環境問題(2) : 地球温暖化の原因と現状
- 12回 地球環境問題(3) : 地球温暖化への取り組み
- 13回 国際人口移動(1) : 移民と国際労働力移動、主要国の移民政策
- 14回 国際人口移動(2) : 移民の社会・経済的効果、日本での現状
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストおよび平常の学習状況 ... 30% 期末試験またはレポート ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参考文献の他に、経済に関する入門書をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新聞やニュースを見ると、世界情勢は特に経済の面で激動していることが分かります。この授業をきっかけにして世界経済に関心を持ち、世界経済について正しく理解した上で自分の意見を持てるようになればいいと思います。

キーワード /Keywords

直接投資・多国籍企業、南北問題、開発援助、地域統合、地球環境問題、国際人口移動

途上国開発論 【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

グローバル化の波によって、めまぐるしく変化している現在の世界において、今世紀は開発途上国がその中心舞台に躍り出ることが予想されています。そのテーマといえば、貧困問題、環境問題、人口問題、民族紛争、人権問題など枚挙にいとまがないほどです。本講義では、途上国の開発と環境に焦点を絞り（事例としてはバングラデシュ）、数々のテーマと切り口で臨みます。日本の若者が海外に出ていくことを躊躇していると言われてはいますが（隣国の韓国とは大違い）、同じ地球に生きる人間として途上国の問題にも真正面からぶつかり、世間で言われる途上国の違った側面を捉えることに挑戦してください。最後に、本授業は、日本の過去・現在・将来において重要な関係を持つ途上国の諸問題の知識の吸収や理解に重点を置き、卒業以前に途上国そのものを自らの眼で見極めるといった実践力、卒業後も、途上国に関心を持ち学習するといった能力を培うことを主な目標としています。

教科書 /Textbooks

○三宅博之『開発途上国の都市環境 - バングラデシュ・ダカ 持続可能な社会の希求』明石書店、2008年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ジェニファー・ エリオット著、古賀正則訳『持続可能な開発』古今書院、2003年
- * 中村尚司『人びとのアジア - 民際学の視座から』岩波新書、1994年
- * 菊地京子編『開発学を学ぶ人のために』世界思想社、2001年、1900円
- * 恩田守雄『開発社会学 理論と実践』ミネルヴァ書房、3800円
- * Robert B.Potter et al., Geographies of Development 3rd ed. Pearson Education, Harlow, 2008

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|---|---------------|
| 第1回 「途上国開発論（途上国の開発政策）」のねらい、担当教員の途上国での体験からの受講生への問題提起 | |
| 第2回 開発概念の検討～歴史的推移と「持続可能な開発（SD）」の定義 | 【持続可能な開発（SD）】 |
| 第3回 成長概念と貧困概念～貧困線をめぐって | 【貧困概念】 |
| 第4回 アマルティア・センと社会・人間開発 | 【アマルティ・セン】 |
| 第5回 人口問題～中国の1人っ子政策と先進国の少子化対策 | 【一人っ子政策】 |
| 第6回 都市問題～インフォーマルセクターの存在 | 【インフォーマルセクター】 |
| 第7回 居住問題～スラム・スクオッタ居住区 | 【スクオッタ居住区】 |
| 第8回 資源分配をめぐって（エネルギー技術のあり方） | 【資源配分】 |
| 第9回 環境問題～森林破壊、海洋汚染など | 【森林破壊】 |
| 第10回 環境問題～都市問題、特に廃棄物管理問題を中心に | 【廃棄物管理問題】 |
| 第11回 保健・医療問題 ～感染症、下痢を中心に | 【感染症】 |
| 第12回 途上国での農漁村での農業・漁業の在り方 | 【農業・漁業】 |
| 第13回 途上国の諸問題の解決への取り組みと結果～国連とODA | 【ODA】 |
| 第14回 台頭するNGO～インド・バングラシユの事例より | 【NGO】 |
| 第15回 まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の内容にかかわる日常的姿勢...20% 小課題の提出 ... 20% 試験 ... 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

時々小課題の提出を求めます。努めて途上国に関する様々なテレビ番組を視聴していただきます。

履修上の注意 /Remarks

英語の文章も少しは読むので、日頃から英語の勉強も怠りなりのないようにしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

途上国の現実を知り、興味深い事象を探し、もっと足を踏み入れてほしい。

キーワード /Keywords

開発途上国、アマルティ・セン、環境問題、持続可能な開発（SD）

アメリカの社会I【昼】

担当者名 /Instructor 朝立 康太郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

アメリカ合衆国の民族的・人種的多様性をその起源にさかのぼり歴史的に概観する。とりわけ本講義では、植民地時代からアメリカ独立革命を経て南北戦争・再建期に至る時代に注目しつつ、同国社会の歴史的な発展に関する理解を目指す。また、近年アメリカ合衆国で起こった、ないし起こりつつある出来事の中から、顕著なものを取り上げ、各項目について具体的な事例、その歴史的背景、争点、多様な見解についても解説する。

教科書 /Textbooks

講義ごとにプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義ごとにプリントを配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 環大西洋システムと南北アメリカ大陸①
- 第3回 環大西洋システムと南北アメリカ大陸②
- 第4回 北米英領植民地社会の展開①
- 第5回 北米英領植民地社会の展開②
- 第6回 北米英領植民地社会の展開③
- 第7回 航海法体制と植民地戦争①
- 第8回 航海法体制と植民地戦争②
- 第9回 アメリカ革命と建国①
- 第10回 アメリカ革命と建国②
- 第11回 アメリカ革命と建国③
- 第12回 「市場革命」の時代①
- 第13回 「市場革命」の時代②
- 第14回 「市場革命」の時代③
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講にあたって、高等学校での世界史・日本史履修の有無は問わないが、世界史の教科書を読んでおくと良い。個人的な学習のための参考図書などは、授業中に指示する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカの社会II【昼】

担当者名 /Instructor 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

アメリカ合衆国の民族的・人種的多様性をその起源にさかのぼり歴史的に概観すると共に、現在のエスニック状況も考察する。また、近年アメリカ合衆国で起こった、ないし起こりつつある出来事の中から、顕著なものを取り上げ、各項目について具体的な事例、その歴史的背景、争点、多様な見解を解説する。授業を通して、アメリカ合衆国社会の特性について、総合的に理解することを目標とする。

教科書 /Textbooks

講義ごとにプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス—近年のトピック / 文献紹介
- 第2回 19世紀前半までの黒人
- 第3回 南北戦争と奴隷制① - 綿花王国
- 第4回 南北戦争と奴隷制② - 戦争の経過
- 第5回 南部再建と人種関係の再編
- 第6回 近代黒人解放運動
- 第7回 二つの世界大戦と「市民」への道程
- 第8回 公民権運動と映画
- 第9回 公民権運動① - ブラウン判決以前の公民権運動
- 第10回 公民権運動② - 1950年代後半から1960年代前半
- 第11回 公民権運動③ - 混迷の時代へ
- 第12回 アファーマティヴ・アクションとは何か
- 第13回 アメリカにおけるアファーマティヴ・アクションの導入と展開
- 第14回 今後のエスニック状況の展望
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...20% 課題(復習小テスト)...20% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講にあたって、高等学校での世界史・日本史履修の有無は問わないが、世界史の教科書を読んでおくが良い。個人的な学習のための参考図書などは、授業中に指示する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際貿易論I【昼】

担当者名 /Instructor 水戸 康夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

現在の日本では、国際貿易と関係なく暮らすことはできない。朝食として、コメ、パン、お味噌汁、牛乳、卵、ベーコン、豆腐等を食べている人は多いと思う。コメを生産するには、トラクター等を使うが、輸入する原油が必要である。パンの原料の多くは輸入する小麦である。味噌や豆腐の原料の多くは、輸入大豆である。牛乳や卵やベーコンのためには、牛や豚や鶏の飼育が必要であり、そのためには輸入するトウモロコシからなる配合飼料が必要である。つまり、朝食を食べるときにも、貿易は関係している。

このような状況にありながら、保護貿易的な考えを持つ政治家や官僚などが存在する。なぜ、保護貿易が間違いであるのか、また、なぜ誤った考え方である保護貿易的な考えを持つ人がなくなるのかを示し、自由貿易を推進すべき理由を示す。その際、小学校レベルの算数は使うが、それ以上のレベルのものは使わないように努力する。

この講義の目的は、国際経済関連のニュースに興味を持つようになり、ニュースを自分なりに判断できるようになることである。

テーマ：自由貿易と保護貿易

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

水戸康夫『海外進出リスク分析』創成社、2,000円
その他の国際貿易に関わる一般的な参考書は、最初の講義時に示す。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 貿易理論を学ぶべき理由【楽市楽座、自給自足経済】
- 第3回 保護貿易の問題点【保護貿易主義者の主張】
- 第4回 自由貿易の歴史【英仏戦争、第2次世界大戦】
- 第5回 重商主義の問題点【ヒュームの理論】
- 第6回 絶対優位【A.スミス、2国2財1生産要素モデル】
- 第7回 比較優位【D.リカード、2国2財1生産要素モデル】
- 第8回 比較優位成立の確認【数値例を通じて】
- 第9回 貿易利益1【計算を通じて】
- 第10回 貿易利益2【図を用いて】
- 第11回 ヘクシャー=オリーソン理論【2国2財2生産要素モデル】
- 第12回 リプチンスキー理論【2国2財2生産要素モデル】
- 第13回 要素価格均等化定理【2国2財2生産要素モデル】
- 第14回 ストルパー=サムエルソン定理【2国2財2生産要素モデル】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20% 学期末試験80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

国際経済論を受講すると、より深く講義を理解できるかもしれない。

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

出席は重視している。

キーワード /Keywords

自由貿易 保護貿易 TPP 比較優位

国際貿易論II 【昼】

担当者名 /Instructor 水戸 康夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

各国政府は自由貿易をめざすべきであるが、自由貿易が実現しているとはいえない状況にある。自由貿易が実現していない理由については、国際貿易論1において講義している。自由貿易が実現しないとすれば、自由貿易未実現による国際経済の不効率を改善するものとして、直接投資が求められることになる。では、自由貿易を補完・代替するものである直接投資とはどのような特徴を持つのであろうか。講義に参加された人に対して、海外進出先に関してどのような選択をするのが尋ねた後、みなさんの先輩方に対して行なった実験結果を紹介し、海外進出先選択において偏りが見られることを紹介していきたい。その際、行動経済学を利用するので、行動経済学の紹介を行なう。

ゲーム理論も紹介するので、算数レベルものに対してアレルギーのある人は避けた方が良いかもしれないが、算数に対して苦手レベルであれば、ついていけるような講義を目指す。

この講義の目的は、国際経済関連および海外に進出する日本企業にかかわるニュースに関心を持ち、ニュースに対して自分なりの判断ができるようになることである。

テーマ：経済的に合理的な選択と非合理的な選択

教科書 /Textbooks

水戸康夫『海外進出リスク分析』創成社、2009年、2,000円。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN
- 2回 行動経済学を紹介【行動経済学】
- 3回 ゲーム理論紹介【ゲーム理論】
- 4回 ゲーム理論の解き方【ゲーム理論】
- 5回 直接投資理論の紹介【直接投資理論】
- 6回 チキンゲーム【ゲーム理論】【標準偏差】【中央値】
- 7回 3状況提示【意思決定原理】
- 8回 認識と選択【認識と選択の乖離】
- 9回 ストライキリスクと地震リスク【コンジョイント分析】
- 10回 ライバル参入リスク【コンジョイント分析】
- 11回 「対日感情」と「親近感」【コンジョイント分析】
- 12回 模倣リスク【コンジョイント分析】
- 13回 低確率リスク：SARS反日感情
- 14回 反日感情(中国での反日デモ)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20% 期末試験80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

行動経済学の関わることを多く説明するので、行動経済学の本に注目しているほうが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

出席は重視する。

キーワード /Keywords

コンジョイント分析 ゲーム理論 経済的に合理的な選択 反日感情 直接投資理論

地域研究入門 (中国) 【昼】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業は、主に社会科学的な観点から中国を研究するための基礎知識を養うことを目的とする。建国から60年以上を経て中国は世界有数の経済大国となったが、その未来は決して楽観できない状況にある。日本にとって重要な隣国であり、国際社会へも大きな影響を及ぼす中国を、どのように理解すればよいのか。そのような問題意識をもって、授業の前半では、共産党一党独裁下の政治経済体制への理解を深めるとともに、経済格差や少数民族問題など多くの問題を抱えたまま経済成長路線を走り続けなくてはならない中国の現状について解説する。後半では、国際社会との関係を軸に中国を論じる。

教科書 /Textbooks

オリエンテーションの時に知らせる。
その他、授業中に配布する資料・レジュメ。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 毛里和子『日中関係 戦後から新時代へ』岩波新書、2006年
- 吉岡桂子『愛国経済 中国の全球化』朝日新聞出版、2008年
- 興梠一郎『中国激流 13億のゆくえ』岩波新書、2005年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション～地域研究としての中国研究、授業の進め方について
- 2回 20世紀の中国を概観するI
- 3回 20世紀の中国を概観するII
- 4回 共産党一党独裁の政治経済体制を概観する
- 5回 13億人国家の経済・社会
- 6回 発展と格差
- 7回 中華民族と少数民族
- 8回 中央と地方
- 9回 アジアの中の中国
- 10回 台湾の人々と政治
- 11回 中台関係
- 12回 中国の主要な二国間外交
- 13回 中国脅威論
- 14回 国際社会と中国
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト ... 30 % 期末試験 ... 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストや授業で指定した資料・文献を熟読した上で授業に臨むこと。
新聞(紙面)を読む習慣をつけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国近現代史Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 堀地 明 / 中国学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

「19世紀後半～20世紀初頭の中国」
アヘン戦争による五港開港から辛亥革命までの政治・外交・社会・経済等の諸問題を講義し、中国近現代史への基本的理解を深める。

教科書 /Textbooks

池田誠・安井三吉等著『図説中国近現代史(新版)』(法律文化社)
※初回に必ずテキストを持参のこと。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 現代中国への視座と中国近現代史を学ぶ意味
- 2回 大清帝国素描(1): 統治理念と版図の形成
- 3回 大清帝国素描(2): 対外観念と国際関係
- 4回 アヘン貿易とアヘン戦争
- 5回 太平天国
- 6回 洋務運動
- 7回 辺境の喪失
- 8回 朝鮮問題と日清戦争(1)
- 9回 朝鮮問題と日清戦争(2)
- 10回 変法自強運動
- 11回 義和団事件
- 12回 光緒新政
- 13回 反清朝革命運動
- 14回 辛亥革命と清朝の滅亡
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...80% その他小テスト等...20%
試験を主に評価する。必要に応じてレポートを課す。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業前にテキストに目を通して出席すること。

履修上の注意 /Remarks

高校時代に日本史か世界史を受験科目として学習しなかった学生は、授業前にテキストを読んでから授業に出席して下さい。高校レベルの日本史・世界史よりも、やや難しい内容を扱います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生諸君は、「歴史学習はひたすら暗記することである」との認識をお持ちではないでしょうか。大学での歴史学習は、そのような暗記中心とは無縁です。当時の人々や国家が直面する課題を当時の政治等の環境から理解できる歴史的思考を訓練する機会となれば幸いです。

キーワード /Keywords

19世紀後半～20世紀初頭、大清帝国、アヘン戦争、太平天国、洋務運動、辺境喪失、変法自強運動、義和団事件、光緒新政、反清革命運動、辛亥革命

中国近現代史II 【昼】

担当者名 /Instructor 堀地 明 / 中国学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

「20世紀の中国」
中華民国(1912～49年)の政治・外交・社会・経済等の諸問題を講義し、中国近現代史への基本的理解を深める。また、中華人民共和国の歩みも講じる。

教科書 /Textbooks

池田誠・安井三吉等著『図説中国近現代史(新版)』(法律文化社)
※初回に必ずテキストを持参のこと。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 中華民国の出発と軍閥混戦(1)：袁世凱政権の諸相
- 2回 中華民国の出発と軍閥混戦(2)：北洋軍閥の抗争
- 3回 日本の対華21ヶ条要求
- 4回 新文化運動・五四運動
- 5回 第一次世界大戦下の経済発展
- 6回 戦間期とワシントン体制
- 7回 第一次国共合作と国民革命(1)：国共合作の成立
- 8回 第一次国共合作と国民革命(2)：上海政変と国共分離
- 9回 九・一八事変と抗日民族統一戦線(1)：柳条湖事件と満州国の成立
- 8回 九・一八事変と抗日民族統一戦線(2)：西安事変と抗日民族統一政権の成立
- 9回 日中全面戦争の勃発
- 10回 日中全面戦争からアジア太平洋戦争へ
- 11回 国共内戦と中華人民共和国の成立
- 12回 毛沢東時代の中華人民共和国
- 13回 鄧小平と改革開放
- 14回 戦後の日中関係
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...80% その他小テスト等...20%
試験を主に評価する。必要に応じてレポートを課す。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業前にテキストに目を通して出席すること。

履修上の注意 /Remarks

高校時代に日本史か世界史を受験科目として学習しなかった学生は、授業前にテキストを読んでから授業に出席して下さい。高校レベルの日本史・世界史よりも、やや難しい内容を扱います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生諸君は、「歴史学習はひたすら暗記することである」との認識をお持ちではないでしょうか。大学での歴史学習は、そのような暗記中心とは無縁です。当時の人々や国家が直面する課題を当時の政治等の環境から理解できる歴史的思考を訓練する機会となれば幸いです。

キーワード /Keywords

中華民国、軍閥混戦、対華21ヶ条要求、新文化運動、五四運動、ワシントン体制、第一次国共合作、国民革命、九・一八事変、日中全面戦争、国共内戦、中華人民共和国、毛沢東、鄧小平、日中関係

中国語学概論I【昼】

担当者名 西 香織 / KAORI NISHI / 中国学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

世界には何千種類もの言語が存在するが、その中で中国語とはどのような言語であるかについて、言語学及び周辺学問の角度から学んでいく。本講義では、中国語の概説のほか、中国語の辞書の扱い方、音声、文字、語彙等について論ずる。

教科書 /Textbooks

なし（毎回、資料を配布）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『中国語学習ハンドブック(改訂版)』相原茂編著、大修館書店
その他、授業中に随時紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 中国語とはどんな言語か：概説
- 2回 中国語とはどんな言語か：中国語の特徴、歴史
- 3回 中国語とはどんな言語か：中国語の共通語と方言、中国語の辞書
- 4回 中国語とはどんな言語か：中国語の音声1（母音、声調）
- 5回 中国語とはどんな言語か：中国語の音声2（子音）
- 6回 中国語とはどんな言語か：中国語の音声2（多音語、異読語）
- 7回 世界の言語と中国語：言語学の基礎1
- 8回 世界の言語と中国語：言語学の基礎2
- 9回 世界の言語と中国語：言語と文化
- 10回 中国語の文字1：漢字の起源と変化、構造
- 11回 中国語の文字2：文字改革（簡体字化と規範化）
- 12回 中国語の語彙1：語彙の形成、語の構造、形態素、語
- 13回 中国語の語彙2：語の意味、同音語、異形語、同形語
- 14回 中国語の語彙3：日中同形語、外来語比較
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...70% 平常点（課題・小テスト・受講態度等）...30%
出席が全受講回数の3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を失うので注意すること。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

期末試験の他、課題や小テストなどもあるので、きちんと準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語学概論II 【昼】

担当者名 /Instructor 西 香織 / KAORI NISHI / 中国学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

日本語や英語との比較・対照という視点も取り入れながら、中国語とはどのような言語かについて、言語学及び周辺学問の角度から学んでいく。本講義では特に中国語の文法、表現（発想の違い）について論ずる。

教科書 /Textbooks

なし（毎回、資料を配布）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『誤用から学ぶ中国語』（郭春貴著、白帝社）
『中国語わかる文法』（興水優・島田亜実著、大修館書店）
『イメージでスッキリわかる中国語文法』（古川裕著、アルク）
その他、授業中に随時紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 中国語の文法1：文法基礎知識
- 2回 中国語の文法2：中国語の品詞1
- 3回 中国語の文法3：中国語の品詞2
- 4回 中国語の文法4：中国語の品詞3
- 5回 中国語の文法5：フレーズ1
- 6回 中国語の文法6：フレーズ2
- 7回 中国語の文法7：文1
- 8回 中国語の文法8：文2
- 9回 文法のまとめ
- 10回 中国語の表現1：あいさつ、親族名称と呼称
- 11回 中国語の表現2：人称代名詞、指示代名詞
- 12回 中国語の表現3：敬語、ボディランゲージ
- 13回 中国語の表現4：日中英語の発想の違い1
- 14回 中国語の表現5：日中英語の発想の違い2
- 15回 表現のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...70% 平常点（小テスト、課題・受講態度等）...30%
出席が全受講回数数の3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を失うので注意すること。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

期末試験の他、課題や小テストなどもあるので、きちんと準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語音声学I【昼】

担当者名 平田 直子 / HIRATA NAOKO / 中国学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国語の標準語である「普通話」の音声について、その理論を総合的、体系的に理解し、マスターすることを目的とする。

教科書 /Textbooks

佐藤昭 編著 「中国語音声学I・II」(出版社未定)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

漢字と音声、中国語と日本語、「普通話」の音節構造とその特色、発音表記法の問題、発音に関する諸現象(見化韻、轻声、変調など)、方言との相違や音韻学とのかかわりなど、中国語の音声に関わるさまざまな事象をテーマ別に講義していく。

- 1回 文字と音声
- 2回 日本漢字と中国漢字
- 3回 発音器官と言語音の分類
- 4回 日本語の音節と中国語の音節
- 5回 外国語音の発音習得
- 6回 中国語の音節頭子音
- 7回 中国語の韻母
- 8回 音節主母音
- 9回 中国語の基本音節表
- 10回 声調について
- 11回 轻声について
- 12回 3音節の連読(3字連結)
- 13回 中国語のさまざまな発音変化
- 14回 アル化(見化)韻母
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験…60% その他(小テスト、授業中の態度など)…40%
授業中の能動的態度は特に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回のテーマについて、教科書に目を通し問題意識を持って授業に出席すること。
小テストを実施する場合は、直前の授業で周知する。

履修上の注意 /Remarks

実際に発音を確認することが多い。授業では大きな声で発音を積極的に行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語 言語 音声 音節 声調 頭子音 韻母 発音 漢字

中国語音声学II 【昼】

専門教育科目
選択科目
基礎教育科目

担当者名 /Instructor 平田 直子 / HIRATA NAOKO / 中国学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国語の標準語である「普通話」の音声について、その理論を総合的、体系的に理解し、マスターすることを目的とする。

教科書 /Textbooks

佐藤昭編著『中国語音声学I・II』（価格未定[コピー製本代]）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

漢字と音声、中国語と日本語、「普通話」の音節構造とその特色、発音表記法の問題、発音に関する諸現象（見化韻、軽声、変調など）、方言との相違や音韻学とのかわりなど、中国語の音声に関わるさまざまな事象をテーマ別に講義していく。

- 1回 導入
- 2回 中国語の重音音節と軽音音節
- 3回 イントネーションとプロミネンス
- 4回 語気助詞「啊」・感嘆詞・あいづち用語の発音
- 5回 中国語文の朗読法とポーズ
- 6回 擬声音・音訳語・アルファベット語など
- 7回 漢字の一字多音について
- 8回 形声文字の声符と発音
- 9回 中国古典詩の韻律と読み方
- 10回 言葉の押韻と音楽
- 11回 方言の発音と方言区分(1)
- 12回 方言の発音と方言区分(2)
- 13回 中国語の古代音と現代音
- 14回 中国諸民族の言語と文字
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・50% その他（小テスト、授業中の態度など）・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にまじめに出席し、積極的に発音練習や練習問題に取り組んでほしい。
小テストを実施する場合は、直前の授業で周知する。きちんと準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語科教育法Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 胡 玉華 / 中国学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講義では、まず中国の言語・文化・社会に対する基本的事項を確認した上で、主に中国語学習の動機付け、入門・初級における発音、ピンイン表記、音読指導、シャドウイング指導について検討する。外国語学習の動機付けは学習者の学習意欲持続に大きく影響する。また、入門期における発音指導の良し悪しは学習者の語学の習得を左右する。そのため、まず学習者をいかにして楽しく積極的な学習に導くかについて考え、その後に発音指導、音読、シャドウイング指導をどのような順序でどのように行うかについて考える。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『中国語の教え方・学び方 - 中国語科教育法概説』(興水優著、日本大学文理学部)
 『中国語教育とコミュニケーション能力の育成 - 「わかる」中国語から「できる」中国語へ』(胡玉華著、東方書店)
 中学校学習指導要領 第9節 外国語(文部科学省)
 高等学校学習指導要領 第8節 外国語(文部科学省)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 中国の言語・文化・社会について
- 3回 学習指導要領について
- 4回 中国語学習の動機付け(1) - 理論
- 5回 中国語学習の動機付け(2) - 実践
- 6回 学習指導案について
- 7回 発音指導の順序と方法
- 8回 声調、基本母音、複母音に関する問題点とその指導
- 9回 子音に関する問題点とその指導
- 10回 轻声・ア - ル化に関する問題点とその指導
- 11回 ピンインに関する概説と問題点
- 12回 ピンインの指導
- 13回 音読の効用とその指導
- 14回 シャドウイングの効用とその指導
- 15回 まとめ：レポート作成指導

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み(小テストを含む)...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1年次の中国語の授業で使用したテキストを教える立場から再読してください。

履修上の注意 /Remarks

中国語初級レベルの知識を習得していることを前提とします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業で得た知識を定着させ、指示された宿題や準備を必ず行ってください。

キーワード /Keywords

中国語教育、動機づけ、発音指導、音読指導、シャドウイング指導

中国語科教育法Ⅳ【昼】

担当者名 胡 玉華 / 中国学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講義では、中国語によるコミュニケーション能力を高めるための初級レベルの文法指導及び教室活動のあり方、評価のしかたについて検討する。真のコミュニケーション能力を高めるためにどのように文法事項を学習者に提示し、どのような教室活動を行うかについて模擬授業も交えながら受講生と共に考える。最後にどのように言語能力の評価のしかたについて考える。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『中国語の教え方・学び方 - 中国語科教育法概説』(輿水優著、日本大学文理学部)
『中国語教育とコミュニケーション能力の育成 - 「わかる」中国語から「できる」中国語へ』(胡玉華著、東方書店)
中学校学習指導要領 第9節 外国語(文部科学省)
高等学校学習指導要領 第8節 外国語(文部科学省)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 中国語の基本文型
- 3回 初級教育で扱う語彙と文法事項の選定
- 4回 学習目標と年間授業計画表について
- 5回 文法指導法(1) - “有”を中心に
- 6回 文法指導法(2) - 能願動詞を中心に
- 7回 文法指導法(3) - “了”を中心に
- 8回 文法指導法(4) - 比較構文を中心に
- 9回 模擬授業
- 10回 模擬授業
- 11回 スピーキング能力の評価
- 12回 リスニング能力の評価
- 13回 ライティング能力の評価
- 14回 リーディング能力の評価
- 15回 まとめ：レポート作成指導

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み(小テストを含む)...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1年次の中国語の授業で使用したテキストを教える立場から再読してください。

履修上の注意 /Remarks

中国語初級レベルの知識を習得していることを前提とします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業で得た知識を定着させ、指示された宿題や準備を必ず行ってください。

キーワード /Keywords

中国語教育、文法指導、コミュニケーション指導、教室活動

教師論 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

教職の意義、教員の役割、教員の職務内容等に関する知識を習得し、教職についての理解を深め、教職について多角的に考察し、教職についての意欲や適性等を熟考し、「学生が教員としての適格性を持つためにどのような努力をしなければよいか」ということを含めて、進路選択について指導・助言を受ける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【】 内はキーワード)	
1回 学校教育と教職の意義	【学校教育】 【教職】
2回 学校教育と教員の役割	【学校】 【教育】 【教員の役割】
3回 学校教育の「目的」	【教育目的論】
4回 学校教育の「内容」と「方法」	【教育課程】 【教育課程の編成原理】
5回 教員の職務内容と「生徒指導」	【教員の職務】 【生徒指導の伝統】
6回 キャリア教育	【職業選択の基礎理論】 【進路選択】
7回 教員の使命	【教育の論理】 【生活の論理】
8回 「生きる力」と教員の役割	【青少年の意識】 【愛と要求】
9回 「自主的な問題解決」と教員の役割	【自主性】 【生徒の意識】
10回 「いのちの教育」と教員の役割	【生と死の教育課程】
11回 「身体の教育」と教員の役割	【健康管理】 【食教育】 【排便教育】
12回 「喫煙防止」と教員の役割	【未成年者喫煙防止法】
13回 「掃除」と教員の役割	【学校掃除】 【掃除の指導】
14回 「評価」「懲戒」と「体罰」の相違	【評価の種類】 【体罰】
15回 教員の「資質」と「適格性」/まとめ	【指導】 【管理】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育原理 【昼】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

課題

教育に関わる基礎的な知識を習得し、現代の教育における問題について学ぶ。

目標

- ①教育に関わる基礎的な知識を習得する。
- ②教育の課題について整理し、対応策を考えることができるようになる。

教科書 /Textbooks

なし。プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 発達と教育
- 2回 教育の方法
- 3回 教育の関係
- 4回 諸外国の教育思想
- 5回 日本の教育思想
- 6回 諸外国の教育史
- 7回 日本の教育史
- 8回 学校とは何か
- 9回 現代の学校が抱える課題
- 10回 家庭教育の基礎と現代的課題
- 11回 メディアと教育
- 12回 職業と教育
- 13回 国際化と教育
- 14回 生涯学習社会における教育
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 20% 課題 20% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

乳児期から老年期までの各発達段階における特徴的なテーマを通して人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。

同時に、発達の過程で生じる障害の発生機序について、発達障害、知的障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解を築いていく。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①人間の発達について理解し、基礎的な専門知識を身につける
- ②人間関係や発達に関する諸課題を的確に捉え、総合的な視点から考察することができる。
- ③人間と社会との関係に問題意識をもち、主体的に学習できる。

教科書 /Textbooks

藤村 宣之 編著
『発達心理学 周りの世界とかがわりながら人はいかに育つか (いちばんはじめに読む心理学の本3)』
ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 乳児期①【知覚、認知、言語の発達】
- 第3回 乳児期②【発達のメカニズム】
- 第4回 乳児期③【人との関係のはじまり】
- 第5回 幼児期①【知能・認知の発達】
- 第6回 幼児期②【表象能力、心の理論】
- 第7回 幼児期③【自己の育ちと他者との関係】
- 第8回 児童期①【思考の深まり】
- 第9回 児童期②【友人とのかがりわりと社会性の発達】
- 第10回 青年期①【アイデンティティの形成】
- 第11回 青年期②【人間関係、青年期の問題行動】
- 第12回 成人期【家族形成、成熟】
- 第13回 老年期【人生の振り返り】
- 第14回 発達障害の発生機序について【発達障害、知的障害を中心に】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育制度【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

概要

教育制度に関わる基礎的な知識を習得し、現代の教育制度における課題について学ぶ。

目標

- ①教育制度についての基礎的な知識を習得する。
- ②教育制度における課題について整理し、対応策などを考えることができるようになる。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本原理解 教育制度とは 日本の教育法制
- 2回 学校制度の基本的事項 (1) 機会均等、学校教育における中立性等
- 3回 学校制度の基本的事項 (2) 義務教育,学校体系等
- 4回 教員に関する制度 教員免許法制、公務員としての教師,教員の指導力と研修等
- 5回 教育行財政の仕組み 中央教育行政、地方教育行政、教育委員会と学校等
- 6回 生涯学習の制度 成人教育、学校教育と社会教育の連携等
- 7回 教育制度改革の動向 学校選択制、学校評価等
- 8回 教育課程の意義と編成 (1) 学習指導要領、教科書・教材等
- 9回 教育課程の意義と編成 (2) 学校の教育課程編成
- 10回 学校における教育課程経営
- 11回 「カリキュラム・マネジメント」と学校改善
- 12回 教育課程の評価
- 13回 教育課程の開発
- 14回 今日の課題と教育課程
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題 (試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育の研究【昼】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業では、「学習指導要領」に規定されている「学校教育」（中学校・高等学校の教育；参考のために小学校の教育も含む）における「道徳教育」の理念と具体的な実践方法について学習する。

教科書 /Textbooks

『中学校学習指導要領』及び『高等学校学習指導要領』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

1回 「学校教育」における道徳教育の構造	【学校教育の全領域】
2回 「各教科」と道徳教育	【陶冶】【訓育】
3回 「特別活動」と道徳教育	【学級活動】【生徒会活動】【学校行事】
4回 「総合的な学習の時間」と道徳教育	【横断的・総合的な学習】【活動】
5回 「道徳の時間」と道徳教育	【道徳の時間の指導内容】【全体計画】
6回 「道徳の時間」の指導過程	【指導方法】
7回 「道徳の時間」の指導技術	【学習指導案】【指導技術】
8回 「道徳の時間」と「モラルジレンマ」	【ジレンマ教材】【対立・葛藤】
9回 「道徳の時間」と「役割演技」	【動作化】【ロール・プレイ】
10回 「道徳の時間」と「アサーション」	【主張】
11回 「道徳の時間」と「エンカウンター」	【出会い】【構成的グループエンカウンター】
12回 「道徳の時間」と「作文」	【教育的リアリズム】【教育的ヒューマニズム】
13回 「道徳の時間」と「体験」	【自然体験】【社会体験】
14回 「道徳の時間」の「指導事例」	【指導技術】
14回 「道徳の時間」の「模擬授業」	【評価】
15回 まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動の研究【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講義では、以下の課題を柱として取り組んでいきたい。

- ① 「中学校学習指導要領」及び「高等学校学習指導要領」の「特別活動」の目的、領域(学級活動、生徒会活動、学校行事)の理解を理論的、実践的に深めること。
- ② 子どもたちがお互いの生きづらさや葛藤を理解し、表現しあう中で、お互いを支え合える関係づくりを学級活動の中で築いていくための課題と実践方法を検討していくこと。
- ③ 市民社会の担い手に求められる市民的スキルを学級活動などを通じて獲得させていく方法を実践的に学習すること。
- ④ 子どもたちの自己効力感、自己有用感を育み、自治の力を育む生徒会活動、学校行事のあり方について、具体的な実践報告を踏まえつつ検討していくこと。
- ⑤ 上記の理念と実践を踏まえて、学級経営、学校行事の指導計画の作成方法を学習すること

教科書 /Textbooks

楠 凡之著「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)、主要には第7章を使用する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

中学校学習指導要領 及び高等学校学習指導要領 特別活動
折出健二編 2008 「特別活動」(教師教育テキストシリーズ) 学文社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体オリエンテーション - 「特別活動」の意義
- 2回 「中学校学習指導要領」及び「高等学校学習指導要領」の「特別活動」の目的・領域について
- 3回 参加者の現実の学校体験から、学級活動の課題を考える。
- 4回 子ども達の対人関係スキルを育てるHR活動 その1
- 対立解決 (conflict resolution) の多様なパターン
- 5回 子どもたちの対人関係スキルを育てるHR活動 その2 - WinWin型で解決するために
- 6回 子どもたちの対人関係スキルを育てるHR活動 その3 - ロールプレイの取り組み
- 7回 すべての子どもの居場所となる学級集団指導の留意点
- 8回 学級経営の指導計画案について
- 9回 子どもたちの自治の力を育てる生徒会活動の課題と方法
- 10回 子ども達の自治の力を育てる学校行事の課題 - 体育祭の取り組み
- 11回 子ども達の自治の力を育てる学校行事の課題 - 文化祭・合唱コンクールの取り組み
- 12回 子どもたちの自治の力を育てる学校行事の課題 - 修学旅行の取り組み
- 13回 荒れている学級をどう立て直すか? - 中学校の実践
- 14回 荒れている学級をどう立て直すか? - 高等学校の実践
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40%、期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受け身的な参加では実践的指導力は身に付かない。積極的な態度での参加を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は人間関係学科の専門科目にもなっていますが、基本的には教職課程の科目です。教師をめざす学生に求められる真摯な授業態度や積極的な活動への参加を期待します。

キーワード /Keywords

学級づくり、対立解決のスキル、自治能力の育成

教育方法学【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本授業では、各教科を実際に指導する授業の場面を想定し、学習指導案の作成や教材研究等を組み入れて、将来の高度情報社会に生きる生徒に必要な資質を養うための、情報機器及び教材の活用を含んだ実践的な教育の方法の理論と技術を習得する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山下政俊・湯浅恭編著『教育の方法』ミネルヴァ書房、他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 「教育の方法」とは何か 【教育の方法の形態】 【比喻・モデル】
- 2回 20世紀までの「教育の方法」の遺産 【指導】 【管理】 【生活と文化】 【対話】
- 3回 「現代」の「教育の方法」 【連続と非連続】 【現代化】
- 4回 「新しい時代」の教師の「指導技術」 【教師の資質能力】 【ファシリテーター】
- 5回 「情報機器」と「教材」の活用 【メディアリテラシー】 【情報活用能力】
- 6回 「情報化社会」における生徒の指導 【情報化社会】 【インターネット】
- 7回 「学習遅滞」の指導 【学習遅滞】 【SHELLモデル】
- 8回 教師と生徒の「コミュニケーション」 【話す】 【聞く】
- 9回 「学習規律」を育てる指導方法 【出席と参加】 【学習規律】
- 10回 各教科指導の「具体的システム」 【学習指導要領】 【学習のシステム】
- 11回 各教科指導の「構想」と「教材研究」 【授業の三角形モデル】 【事前の教材解釈】
- 12回 各教科指導の「学習指導案」 【指導】 【学習活動】 【指導上の留意点】
- 13回 各教科指導の「展開過程」における「指導技術」 【発問】 【説明】 【指示】 【助言】
- 14回 各教科指導における「評価」 【授業評価】 【自己評価】
- 15回 「模擬授業」 - 各教科指導に向けて - 【実践的な指導】 【各教科の授業】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育工学【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講義は、教員免許を取得するにあたって必要な教育方法・技術、教材と教具、指導方法を学び、授業の実践的指導力の基礎を養うことを目標とする。また近年の著しいICT(情報通信技術)の進展を踏まえ、PCやWebを活用した教材作成の方法・技術の修得の基礎についても概観する。さらに、模擬授業の実施及び評価等を通して、教育の方法と技術の実践的活用能力の基礎を育成し、各教科等の指導に最小限必要な資質について学ぶことを主なねらいとする。

教科書 /Textbooks

指定しない。必要な資料を適宜事業で配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中学校学習指導要領 平成20年3月告示 東山書房 244円
 高等学校学習指導要領 平成21年3月告示 東山書房 588円
 平沢茂編著 教育の方法と技術 図書文化2000円
 小川哲生他著 教育方法の理論と実践 明星大学出版部 1500円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
1. オリエンテーション【本授業の内容・進行・評価方法】
 2. 授業と教育方法【教育方法】
 3. 授業と教育技術【教育技術】
 4. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順【授業設計】
 5. 授業過程の分析と改善【授業過程】
 6. 授業実施の技術【授業技術】
 7. 授業の評価【授業評価】
 8. 教育における情報化社会の影響【情報化社会】
 9. 教育におけるICT(情報通信技術)の活用【ICT】
 10. 学習指導案の作成【学習指導案】
 11. 教材研究【教育メディアとその活用】
 12. 模擬授業【模擬授業】
 13. テストと学習内容の評価【テスト】
 14. 授業実践能力の改善と向上【教育の方法と技術の実践能力】
 15. 現代の教育課題と講義のまとめ【現代の教育課題】

成績評価の方法 /Assessment Method

教材研究課題(20%)、模擬授業(30%)、試験(50%)により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教材研究、模擬授業等に関する課題の提出は必須の課題となります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 1 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 兎玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」(実習校実習)に向けて、実習生として必要な心構えや学習指導及び生徒指導等の理論や知識・技術を習得する。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 オリエンテーション	【教育実習】 【実習校】
2回 教育実習の1日	【教育実習の実態】 【教師の勤務】
3回 教育実習の体験から学ぶ(中学)	【教科指導】 【学級経営】
4回 教育実習の体験から学ぶ(高校)	【教科指導】 【学級経営】
5回 生徒の人権と教育	【人権】 【自尊感情】
6回 授業観察の方法	【授業観察の視点】 【授業記録シート】
7回 学級経営について	【学級集団づくり】 【学級通信】
8回 生徒の問題状況と生徒指導	【生徒指導】 【生徒理解】
9回 生徒指導と教育相談	【生徒理解】 【生徒指導体制】
10回 教育実習における特別活動の指導	【特別活動】 【参加】
11回 教材研究と授業構想	【教材研究】 【学習指導案】
12回 模擬授業①(中学/高校:学習指導案)	【学習指導案】 【導入】
13回 模擬授業②(中学/高校:授業構成)	【授業構成】 【目標】
14回 模擬授業③(中学/高校:授業展開)	【授業展開】 【練習】 【応用】
15回 模擬授業④(中学/高校:指導技術)	【指導技術】 【発問】 【説明】 【指示・助言】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(25%) 学期末の提出物の評価(75%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の事前に指示されたことを準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 2 【昼】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 兎玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な心構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 第 1回 ; オリエンテーション | 【勤務】【連絡】 |
| 第 2回 ; 中学校における教育実習 | 【中学生の特質】【中学生への支援】 |
| 第 3回 ; 高等学校における教育実習 | 【高校生の特質】【高校生への支援】 |
| 第 4回 ; 実習校実習① | 【教育実習指導】 |
| 第 5回 ; 実習校実習② | 【教育実習指導】 |
| 第 6回 ; 実習校実習③ | 【教育実習指導】 |
| 第 7回 ; 実習校実習④ | 【教育実習指導】 |
| 第 8回 ; 実習校実習⑤ | 【教育実習指導】 |
| 第 9回 ; 実習校実習⑥ | 【教育実習指導】 |
| 第 10回 ; 実習校実習⑦ | 【教育実習指導】 |
| 第 11回 ; 実習校実習⑧ | 【教育実習指導】 |
| 第 12回 ; 実習校実習⑨ | 【教育実習指導】 |
| 第 13回 ; 実習校実習⑩ | 【教育実習指導】 |
| 第 14回 ; 実習校実習⑪ | 【教育実習指導】 |
| 第 15回 ; 教育実習反省会 | 【教師の資質】 |

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

授業の目的は以下のとおりである。

1. 学校での教育相談の意義と課題、教育相談の領域(開発的教育相談、予防的教育相談、治療的教育相談(問題解決的教育相談)、学校教育の中での位置づけについての基本的な理解を持つこと。
2. 教育相談、カウンセリングの基本的な理念と技法(傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など)を修得すること。
3. 不登校やいじめなど、様々な問題を表出している児童、生徒に対する理解を深めていくと同時に、児童・生徒に対する指導、援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を紹介しつつ、検討していきたい。
4. 子どもの「最善の利益」を一致点とした保護者との共同、関係諸機関との共同に向けての課題を明らかにしていくこと。

教科書 /Textbooks

「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)をテキストとして使用する。本授業では主に第一部(1~4章)を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 広木克行 「教育相談」(教師教育テキストシリーズ) 学文社
- 吉田圭吾 教師のための教育相談の技術 金子書房
- 日本学校教育相談学会 学校教育相談学ハンドブック ほんの森出版
- 一丸藤太郎・菅野信夫編著 学校教育相談 ミネルヴァ書房
- 伊藤美奈子・春日井敏之編 よくわかる教育相談 ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 教育相談の意義と3つの領域(開発的教育相談、予防的教育相談、治療的教育相談(問題解決的教育相談))
- 3回 学校カウンセリングの教育相談の基本的な理念について
- 4回 教育相談の基本的なスキルについて - 共感的応答
- 5回 教育相談の基本的なスキルについて - 開かれ質問
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ実習
- 7回 不登校の子どもに対する教育相談
- 8回 発達障害の子どもに対する教育相談
- 9回 子どもの問題をめぐる保護者との共同・連携の課題
- 10回 教育相談活動における連携について - スクールカウンセラーとの連携に視点をあてて
- 11回 教育相談活動における連携について - スクールソーシャルワーカー等との連携
- 12回 薬物問題に対する理解と援助(北九州ダルクの講演)
- 13回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談① - 前思春期
- 14回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談② - 思春期
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポート等)30%、レポート15%、期末試験55%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは早めに読み、基本的な知見をもった上で授業に望むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育相談【昼】

キーワード /Keywords

教育相談の理念と技法、いじめ問題、不登校問題

生徒・進路指導論【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 生徒指導の意義と課題について、生徒指導の目的、生徒指導の3機能(①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること)を理解するとともに、開発的生徒指導、予防的生徒指導、治療的生徒指導)の区別と関連などを検討していくこと
- ② 養育環境や発達上の困難な課題を抱える子どもの内面に寄り添う生徒指導の課題について検討していくこと。
また、実際の生徒指導の場面を想定して、その場面での対応を考える力を養うこと。
- ③ 思春期の人格発達(「価値的自立」)の過程を踏まえた進路学習、進路指導の意義と課題について、今日の若者の就労をめぐる問題状況も含めつつ検討していくこと。
また、実際の進路指導の場面に関する適切な指導のあり方を考える力を養うこと。

教科書 /Textbooks

テキストとして、「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)の第II部と第III部8章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 片山紀子 入門 生徒指導 - 「生徒指導提要」を踏まえた新しい生徒指導のありかた 学事出版
- 桑原憲一編 中学校教師のための生徒指導提要実践ガイド 明治図書
- 文部科学省 中学校キャリア教育の手引き
- 国立教育政策研究所生徒指導研究センター 「キャリア教育のすすめ」
- 日本キャリア教育学会 キャリア教育概説 東洋館出版
- 見美川孝一郎 権利としてのキャリア教育 明石書店
- キャリア発達論 - 青年期のキャリア形成と進路指導の展開 ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション - 生徒・進路指導論の課題
- 2回 学校現場での生徒指導の実際
- 3回 生徒指導の基本 その1 生徒指導の三機能と、開発的生徒指導、予防的生徒指導、治療的生徒指導
- 4回 生徒指導の基本 その2 毅然たる指導、ゼロトランス他
- 5回 実際の生徒指導場面での紙上応答練習
- 6回 「我が子の非行と向き合う親たちの会」の方の講演
- 7回 対人関係でのトラブルを繰り返す生徒に対する理解と指導(女子生徒の事例から)
- 8回 対人関係でのトラブルを繰り返す生徒に対する理解と指導(男子生徒の事例から)
- 9回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路学習
- 10回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取り組み
- 11回 中学校における職場体験学習と進路指導
- 12回 今日の高등학교の問題状況と進路指導の課題
- 13回 被虐待児に対する理解と援助 - 感想レポートの紹介
- 14回 被虐待児に対する理解と援助の課題
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポートなど)30%、レポート20%、期末試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの5, 6章, 8章をしっかりと読み込んで授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

生徒・進路指導論【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は教職課程を履修する学生の必修科目ですが、人間関係学科の学生でスクールカウンセラーなどの援助専門職につきたいと考えている学生にも役立つ授業だと思います。積極的に受講してください。

キーワード /Keywords

生徒指導の三機能、児童虐待、激しい行動化を表出する生徒への指導、進路指導

教育心理学【昼】

担当者名 五十嵐 亮 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講義では、学校教育現場や地域社会、家庭における子どもの「学び」と、それらを育む学習教育環境（教育測定・評価、教師、カリキュラム、学級集団など）の在り様に関して、主に心理学的側面に注目しながら理解を深めていく。

本講義では、子どもの「学び」に関わる理論や実践例を、代表的な研究者の考え方、日常的な具体例を取り上げながら学習することを通して、上記の問題に関して、「心理学的視点から自分の考えを持てるようになること」を目標とする。

講義を中心としながら、日常的な具体例を通して実際の関わり方を考えることのできる機会を毎回設けていく。

教科書 /Textbooks

指定せず（毎回配布資料を用いる）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に随時情報を提供する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回オリエンテーション
- 2回教育心理学の理論と方法
- 3回子どもの「学力」(1)：関心・意欲
- 4回子どもの「学力」(2)：知識・理解
- 5回子どもの「学力」(3)：思考・判断
- 6回子どもの「学力」(4)：表現・技能
- 7回教育測定・評価(1)
- 8回教育測定・評価(2)
- 9回教師と授業づくり(1)
- 10回教師と授業づくり(2)
- 11回学習環境と教育方法(1)
- 12回学習環境と教育方法(2)
- 13回カリキュラムと学習材
- 14回発達障害
- 15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況（学習態度、ミニレポート等）...30%
レポート...20%
学期末試験...50%
（ミニレポートは、毎回講義時間内（10分）に記述する）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 3 【昼】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 兎玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- | | |
|-----------------|----------|
| 第 1 回 ; 実習校実習① | 【教育実習指導】 |
| 第 2 回 ; 実習校実習② | 【教育実習指導】 |
| 第 3 回 ; 実習校実習③ | 【教育実習指導】 |
| 第 4 回 ; 実習校実習④ | 【教育実習指導】 |
| 第 5 回 ; 実習校実習⑤ | 【教育実習指導】 |
| 第 6 回 ; 実習校実習⑥ | 【教育実習指導】 |
| 第 7 回 ; 実習校実習⑦ | 【教育実習指導】 |
| 第 8 回 ; 実習校実習⑧ | 【教育実習指導】 |
| 第 9 回 ; 実習校実習⑨ | 【教育実習指導】 |
| 第 10 回 ; 実習校実習⑩ | 【教育実習指導】 |
| 第 11 回 ; 実習校実習⑪ | 【教育実習指導】 |
| 第 12 回 ; 実習校実習⑫ | 【教育実習指導】 |
| 第 13 回 ; 実習校実習⑬ | 【教育実習指導】 |
| 第 14 回 ; 実習校実習⑭ | 【教育実習指導】 |
| 第 15 回 ; 実習校実習⑮ | 【教育実習指導】 |

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害児の心理と指導【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

「障害」とは何か。その社会的定義、障害者観を踏まえ、障害を有する人々が示す特徴について理解を深める。また、障害児・者の抱える発達課題、支援のあり方について具体的なアセスメント・臨床技法を交えながら考える。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①障害の基本的概念を理解し、障害理解と障害をもつ子どもたちの指導に必要となる基礎的な専門知識を身につける。
- ②人間の健康的な生活を実現するための社会実践の技法を修得する。
- ③人間や社会の關係に内在する障害の諸問題を的確に捉え、総合的な視点から考察することができる。
- ④人間と社会の關係を多角的に考えながら、人間の健康的な生活の実現に向けた行動ができる。
- ⑤人間と社会との關係に問題意識をもち、主体的に学習できる。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：障害児・者心理学について
- 第2回 障害の概念とノーマライゼーション
- 第3回 人々の障害者観：障害をどう捉えるか
- 第4回 障害の重積・深化の過程と発達援助
- 第5回 障害のアセスメント【発達評価・心理検査】
- 第6回 視覚障害について
- 第7回 聴覚障害について
- 第8回 姿勢・運動の障害について
- 第9回 知的障害について
- 第10回 自閉症スペクトラム障害について
- 第11回 注意欠陥多動性障害について
- 第12回 学習障害について
- 第13回 青年期以降に診断される障害について
- 第14回 障害児・者への地域支援の在り方
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育社会学【昼】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

概要

教育社会学の基礎的な概念や教育に関する諸事象についての社会的な視点からの分析を学ぶ。

目標

- ①教育社会学における基礎的な知識を習得する。
- ②教育に関する諸事象について、社会的な見方、考え方ができるようになる。

教科書 /Textbooks

プリント (講義レジュメ・資料) を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

配布プリントに提示する他、授業中、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育社会学の対象と方法
- 2回 家族の諸形態と教育の機能
- 3回 子どもの社会化の課題
- 4回 学校・教室空間と教育過程
- 5回 教師文化と生徒文化の生成・葛藤
- 6回 若者と職業をめぐる課題
- 7回 学校と地域の歴史
- 8回 「地域の教育力」をめぐる課題
- 9回 生涯学習社会における学び
- 10回 友人関係における葛藤
- 11回 高度消費社会に生きる若者
- 12回 新たなメディアのなかの関係
- 13回 少年非行と教育・社会の課題】
- 14回 教育における格差
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 20% 課題 30% 最終課題 (試験) 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたり、配布したレジュメ・資料をよく読むこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権教育論 【昼】

担当者名 /Instructor 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

教育現場及び日常生活での人権問題の具体的な事象に学びながら、人権教育の知識を豊かにするとともに、人権感覚を研ぎ、人権問題解決への技能・スキル・態度を培う。

教科書 /Textbooks

「手作り資料」を活用します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

人権の絵本(大月書房)、みんなの人権(明石書店)、世界が100人の村だったら(マガジンハウス)、人権・同和問題一問一答(解放出版社)、差別と日本人(角川書店)、もののけ姫(徳間書店)、他。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「世界が100人の村だったら」【世界共通の偏見や差別の根っ子と差別のしくみ】【非識字者・同性愛者の人権】【人権教育のスキル・技能】
- 第2回 いじめ差別①(現状認識)【いじめ差別の事例(新聞記事・中高生・大学生の体験)】【各種調査(教育白書・国際調査等)】
- 第3回 いじめ差別②(構図と課題、解決への基礎基本の知識)【いじめ差別の構図(しくみ)と加害者・傍観者の心理】【文部科学省のいじめ定義】【道徳教育と人権教育の相違点】
- 第4回 いじめ差別③(解決への教育創造)【文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」】【金子みすず「教科書の詩」「東大入試問題」】【自尊感情と学力形成の相関関係】【学校文化と子どもの居場所づくり】
- 第5回 子どもの人権と児童虐待防止法【児童虐待の現状認識(新聞記事・教育白書等)】【教師の責務と教育・啓発の教育創造】
- 第6回 ものけ姫①(メッセージからの課題)【物語の時代背景と登場人物から課題の整理】【ハンセン病問題と国の隔離政策】【国家賠償と社会復帰】
- 第7回 ものけ姫②(メッセージからの課題)【女性差別の歴史】【学校現場における「改正男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」を考える】
- 第8回 同和問題との出会い直し①(身分制度の歴史・中世)【身分差別をつくったのは、誰?】【中世の社会や文化のしくみと、国民的課題の意義】
- 第9回 同和問題との出会い直し②(身分制度の歴史・近世)【身分制度(身分統制令)をつくったのは、誰?】【「賤民」身分にされたのは、どんな人々?】【一向一揆、鉄砲・キリスト教の伝来、島原の乱と身分制度の確立の歴史と国の責務の意義】
- 第10回 同和問題との出会い直し③(解体新書、俳人と身分制度)【解体新書の腑分けをしたのは、どんな人?】【一茶・蕪村・芭蕉の人権感覚】
- 第11回 同和問題との出会い直し④(文学者と部落差別)【小説「破戒」(島崎藤村)と「橋のない川」(住井すゑ)】
- 第12回 同和問題との出会い直し⑤(結婚差別)【結婚差別の事例からの課題と解決への展望】【しきたり・ならわし・慣習との出会い直し】
- 第13回 同和問題との出会い直し⑥(人権文化の創造)【教科書無償・全国統一応募用紙・奨学金制度】
- 第14回 同和問題との出会い直し⑦(国の施策)【1965年の同和対策審議会・答申の意義】【1996年の地域改善対策協議会・意見具申の意義】
- 第15回 同和問題との出会い直し⑧(人権文化のまちづくり)【各地の人権文化のまちづくりの現状】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(30%)及び学期末のレポートによる評価(70%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の中で課題を出します

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史と政治【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

ペリー来航（1853）から1970年代までの日本政治の歩みを外交政策の展開と関連させて概説します。日本のことを知らないで、国際化社会に対処することはできません。この講義では、日本近代史を学び直すことを通じて、21世紀にふさわしい歴史的感覚を涵養していきます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○伊藤之雄『明治天皇』（ミネルヴァ書房）、○小林道彦『児玉源太郎』・『桂太郎』（ともにミネルヴァ書房）、○岡義武『山県有朋』（岩波新書）、○岡義武『近衛文麿』（岩波新書）、○高坂正堯『宰相吉田茂』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 明治維新【木戸孝允】【大久保利通】【西郷隆盛】
- 第3回 明治憲法と自由民権運動【伊藤博文】【井上毅】【板垣退助】【大隈重信】
- 第4回 日清戦争【伊藤博文】【陸奥宗光】
- 第5回 立憲政友会の成立【伊藤博文】【山県有朋】【星亨】
- 第6回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第7回 政党内閣への道【原敬】【山県有朋】【桂太郎】
- 第8回 憲政の常道【浜口雄幸】【田中義一】
- 第9回 満州事変【関東軍】
- 第10回 日中戦争【軍部】【近衛文麿】
- 第11回 太平洋戦争【昭和天皇】
- 第12回 敗戦と戦後改革【マッカーサー】【吉田茂】
- 第13回 55年体制と日米安保【吉田茂】【鳩山一郎】【岸信介】
- 第14回 高度経済成長【池田勇人】【佐藤栄作】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...10% 期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義前に最低限高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間と文化【夜】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

「文化」という言葉から伝統芸能や芸術活動を連想する受講者も多いかもしれない。本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。(おそらく大部分が)北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではごくまれたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。

本講義は、A文化とB文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既存概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身に着ける手掛かりを学んでほしい。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかり取ること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 田中雅一ほか(編)2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
- 波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：グローバルでローカルな世界を理解するてがかりとしての文化

第I部 文化の基礎としての家族

第2回 家族は普遍的な概念か？

第3回 生殖医療の時代の家族・親族関係を考える

第4回 近代家族 / 伝統的家族？

第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張

第6回 ジェンダーと文化

第7回 伝統について：構築主義と本質主義

第8回 文化相対主義の考え方

第9回 中間試験

第II部 文化と世界観

第10回 現代社会における儀礼の役割

第11回 不幸への対処と文化

第12回 宗教紛争と日常の中の宗教

第13回 中間試験の講評 / 呪術・占いとリスク社会① 呪術とは

第14回 呪術・占いとリスク社会② 現代社会のなかの呪術

第15回 講義のまとめ：人権と文化の独自性

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 30%、期末試験 70% を基本に、エッセイによる授業貢献を適宜加点する。

※受講者の数によっては中間試験はレポートになることもあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回最後の10-15分は授業の感想と、指定するトピック(次回のテーマに関するもの)についてのエッセイを記述し、提出してもらいます。次の講義の冒頭で、提出されたエッセイの中から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進めます。専門分野に関わらず、日常的に新聞、雑誌、書籍などを読む習慣をつけ、自分の考えをまとめる訓練を心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 出席しただけでは評価しません。講義に9割出席していても、偶然1回休んだ日の内容がテストに出て回答できなければ、結果として単位を落とすこともあります（ほかの日の内容が完全に理解できているならばそんなことはありませんが）。出席することより理解することを心がけてください。質問は歓迎します。
- ・ 中間試験の無断欠席者および授業態度が目に見えて余る受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。
- ・ 受講者が多い場合は受講制限をします。第1回目は来てください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義「異文化理解の基礎」の応用編はテーマ科目「政治のなかの文化（新カリのみ）」とビジョンII「現代社会と文化（旧カリ：文化と政治）」です。基礎が分かるからこそ面白いと思える内容ですので、受講すると、文化についてより包括的な理解が深まります。

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、共同体、社会関係

ことばの科学【夜】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語はじめその他の言語のデータや最近の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』大津由紀雄編著、ミネルヴァ書房、2009年。
- 『言語を生み出す本能(上)・(下)』スティーヴン・ピンカー著、椋田直子訳、NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序(1)：ことばの不思議
- 第2回 序(2)：ことばの習得
- 第3回 ことばの単位(1)：音韻
- 第4回 連濁
- 第5回 鼻濁音
- 第6回 ことばの単位(2)：語
- 第7回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第8回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第9回 ことばの単位(3)：文
- 第10回 動詞の自他
- 第11回 日本語と英語の受動態
- 第12回 数量詞
- 第13回 時制と相：方言比較
- 第14回 ことばと脳：言語野と他の領域
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度...10% 課題...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門【夜】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究(国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など)と②世界の多様化に対応するための研究(地域研究、比較文化論、比較政治論など)である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、「地域研究のルーツ」
- 第4回～6回：「地域研究」における総合的認識。【総合化】【全体像の把握】
- 第7回～9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ。【文化主義】【オリエンタリズム】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題。
- 第13回～14回：地域研究の視点、ミャンマー研究を事例として。
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養としての平和学 【夜】

担当者名
/Instructor

戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 1年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

1学期

授業形態 講義
/Class Format

講義

クラス 1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

皆さんがこれまで漠然と認識してきた「戦争」や「平和」という既成概念を改めて真剣に問い返して、戦争アレルギーに基づく思考停止的反戦主義や現実性に乏しい理想主義的平和主義を廃し、現実的な平和思考を養うことを目的とします。一言で言えば「平和とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～5回 問題提起、戦争の定義
- 6回～8回 平和の定義、積極平和論
- 9回～11回 日本の平和主義
- 12回～13回 正戦論(正義の戦争はあるか)
- 14回 二重結果の原則
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活世界の哲学【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
								○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、マックス・ヴェーバーからフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明したあと、近年盛んに論じられている公共性と親密圏の交錯という問題に取り組む。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 姜尚中『マックス・ヴェーバーと近代—合理化論のプロブレマティーク』御茶ノ水書房
- ハンナ・アーレント『人間の条件』(志水速雄訳)ちくま学芸文庫
- 斎藤純一『公共性(思考のフロンティア)』岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション【成績評価およびテスト日程について】
- 2回 「近代」とはいかなる時代だったのか(1)【形式合理性】
- 3回 「近代」とはいかなる時代だったのか(2)【官僚制】
- 4回 「近代」とはいかなる時代だったのか(3)【工場労働】
- 5回 「近代」とはいかなる時代だったのか(4)【物象化】
- 6回 「近代」とはいかなる時代だったのか(5)【啓蒙の逆説】
- 7回 中間のまとめ(確認テスト)
- 8回 生活世界論のはじまり(1)【ガリレオ・ガリレイと科学革命】
- 9回 生活世界論のはじまり(2)【フッサールの科学批判】
- 10回 生活世界論のひろがり【アーレントの近代批判】
- 11回 公私の区別とその起源(1)【古代ギリシャ概説】
- 12回 公私の区別とその起源(2)【古代ギリシャにおける公と私】
- 13回 宗教の私事性と公的領域(1)【迫害と弾圧】
- 14回 宗教の私事性と公的領域(2)【社会との確執】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...50% 学期末試験...50%
(第7回に予定している確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業前に高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。初回の授業で確認テストの方法・日程に関する詳しい説明を実施するので、受講予定者は必ず出席すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1年生向け科目であることを考慮に入れ、分かりやすい講義となるよう心がけたい。しかし、2回にわたって実施する試験はいずれも難度の高いものであり、単位取得のためには相当な努力が求められる。

キーワード /Keywords

生活世界 形式合理性 活動 ポリス

メンタル・ヘルスI【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルのタフさがなければ生活人としての活動は難しい。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされる。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。本講義では一般的な心理学を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を生涯発達（エリクソン理論）の視点からとらえながら、日々の生活を充実させるための、人生でのその時期、その時期でのストレスマネジメントの力を身につけることを大きな目的とする。

またこの授業での本大学の学位授与方針に関わる到達目標は、以下のとおりである。1．自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができるようになる。（自己管理）2．現実の諸問題を一面的な価値観にとらわれることなく多面的に考え解決策を考えることができる（思考判断）3．卒業後も現実社会で理想を失うことなく主体的に学ぶ姿勢を持ちつづける事ができる（生涯学習）。以上の到達を目標とする。

教科書 /Textbooks

教科書はない。適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「こころの旅」神谷美恵子著 みすず書房
「こころと人間」中島俊介著,ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 以下のスケジュールで行う（【 】はキーワード）
- 1回 オリエンテーション, 受講上の注意, 講師自己紹介など。
 - 2回 心の健康を学ぶ目的。「心」とは「健康」とは。【心の健康】【生涯発達心理学】
 - 3回 乳幼児の心の健康を知る。【エリクソンの自我発達理論】
 - 4回 児童期の心の健康を知る 【勤勉性と劣等感】
 - 5回 思春期の心のありよう【第二反抗期】
 - 6回から11回 青年期から壮年期までの人生と心の健康 【豊かな心とは】
同一性の視点から ・遊びと人生
配偶者の選択 ・病いと人生
 - 12回から13回 発達の障がいについての理解 【自閉症】【アスペルガー - 】
 - 14回 健康な心と身体が行く末について。【老いと死の受容】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績評価の方法
定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

当該個所に対する自分の課題や疑問を整理しておくこと。自分なりの意見をまとめておいて授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会調査【夜】

担当者名 /Instructor 山本 努 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

- 1) 新聞を開けば、社会調査の結果が載っていない日はないかもしれない。我々は新聞やテレビやインターネットなどを通して、膨大な調査結果や統計データに日々、さらされている。社会調査から生み出されるこれらの情報や知見や現状分析(認識)などを批判的に読み込む力を培う。
 - 2) また、社会調査の方法を学ぶことは、社会科学の問題構築、仮説検討、現状分析などのよき入門(つまり、社会科学のよき入門)ともなる。
- 本講義では社会調査の基礎を学ぶが、上記の二つをねらった講義を計画している。

教科書 /Textbooks

谷富夫・山本努編『よくわかる質的社会調査(プロセス編)』ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

轟亮・杉野勇編『入門・社会調査法—2ステップで基礎から学ぶ』法律文化社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会調査のよい例、わるい例
- 2回 社会調査とは何か
- 3回 社会調査の種類
- 4回 量的(統計)調査の方法
- 5回 質問文の作り方
- 6回 量的(統計)調査の難点
- 7回 質的調査の方法
- 8回 質的調査のフィールドの実際
- 9回 質的調査の意義、量的(統計)調査との関係
- 10回 量的(統計的)社会調査の作品群の概要
- 11回 ミクロの量的(統計)分析の代表事例
- 12回 マクロの量的(統計)分析の代表事例
- 13回 ミクロの実験(統計)の代表事例
- 14回 質的・量的(統計)調査の作品の対比
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験(あるいは定期試験の時に課題提出)・・・70%、
 普段の授業への取り組み・・・30%
 * 授業出席不振の学生には単位は認定しません。
 * 成績評価の詳細は初回の授業でお話します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

普段から社会的な事象や問題に関心をもっておいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会調査、質的社会調査、量的社会調査、社会的世界

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【夜】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(3) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(4) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地球の生いたち【夜】

担当者名 /Instructor 長井 孝一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

我々の住む地球は太陽系の第3惑星として、今から約46億年前に誕生した。その46億年の地球史の中で、大地や海、大気が形成され、地球生命が誕生し、さらに、そのそれぞれが進化あるいは変遷を繰り返してきた。地球生命は約38億年前に誕生し、長大な時間をかけて進化を繰り返してきた。我々人類は今、地球の生物史上初めて地球に能動的にかかわる生物として、その長大な時間の延長線上にいる。高度文明社会が人類や地球の未来を危うくしかねない問題を次々と引き起こしている現在、我々はこれまでも増して地球のしくみと地球史について正しく理解する必要がある。

この授業では、地球のしくみと地球史に対する講義を通して、地球と人間とのあるべき関係を正しく理解するとともに、地球と人間との共生の道をさぐる。

教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、プリントを適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川上伸一『生命と地球の共進化』(日本放送協会), 1071円
丸山茂徳・磯崎行雄著『生命と地球の歴史』(岩波書店), 861円
田近英一著『地球環境46億年の大変動史』(化学同人), 1680円
その他の参考書については授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目: 地球の歴史の表し方【地質時代と絶対年代】
- 2回目: 生きている地球1【プレートテクトニクス】
- 3回目: 生きている地球2【ウエゲナーと大陸移動説】
- 4回目: 地球惑星の起源と進化【水の惑星の誕生】
- 5回目: 地球生命の起源と目に見えない生物の長い長い時代【先カンブリア時代】
- 6回目: 先カンブリア時代末の大事変【全球凍結】
- 7回目: 生物進化史上最大の事変1【カンブリア爆発】
- 8回目: 生物進化史上最大の事変2【カンブリア爆発の意義】
- 9回目: 顕生累代の生物の変遷史1【古生代】
- 10回目: 繰り返す大量絶滅1【ペルム紀末の大量絶滅】
- 11回目: 顕生累代の生物の変遷史2【中生代】
- 12回目: 繰り返す大量絶滅2【白亜紀末の大量絶滅】
- 13回目: 顕生累代の生物の変遷史3【新生代】
- 14回目: 人間圏の成立と地球環境問題【人類と環境】
- 15回目: まとめと演習

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験: 90%, ミニレポート: 10%
欠席の多い学生は減点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回配布する資料プリントの説明文や図表類を帰宅後に読み直し、授業の内容を復習すること。また、シラバスによって次回の授業内容の確認を行ない、可能であればシラバスに載せている参考書を用いて、授業に関係する部分を適宜予習・復習すること。

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地球史を学ぶ事を通して、地球と人間との関係について考えましょう。

キーワード /Keywords

地球史, 生命と地球, 共進化

思想と現代【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

19世紀末から20世紀にかけて発展してきた重要な思想の流れを解説する。この時代がいわゆる「哲学の終焉」以降の時代であることを意識しつつ、その中から生まれてきた新たな哲学的発想（実存思想・精神分析・フェミニズム）に着目してゆく。これらの発想をヒントにすることで、自我の成立、および他者との関係性について複眼的な思索ができるようになることを本授業の目的とする。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『哲学の歴史 第9巻—反哲学と世紀末』中央公論新社、2007年。
- 『哲学の歴史 第12巻—実存・構造・他者』中央公論新社、2008年。
- 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社現代新書、2002年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 実存の思想(1)【概説】
- 3回 実存の思想(2)【キルケゴール】
- 4回 実存の思想(3)【ハイデガー】
- 5回 実存の思想(4)【サルトル】
- 6回 実存の思想(5)【メルロ=ポンティ】
- 7回 中間総括(確認テスト)
- 8回 精神分析の思想(1)【前期フロイト】
- 9回 精神分析の思想(2)【後期フロイト】
- 10回 精神分析の思想(3)【メラニー・クライン】
- 11回 フェミニズムの思想(1)【第一波~第二派】
- 12回 フェミニズムの思想(2)【日本のウーマン・リブ】
- 13回 フェミニズムの思想(3)【フレンチ・フェミニズム】
- 14回 フェミニズムの思想(4)【クエア】
- 15回 全体総括

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト... 50% 期末テスト... 50%
(※確認テストを受験していない者は、期末テスト受験の権利を失う)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

第7回に確認テスト(第3回~第6回が試験範囲)を実施するので、受講希望者は遅くとも第3週目から出席しておく必要がある。テスト予定日は授業内で早めに通知するつもりである。原則としてこのテストを受験していない者には単位を認めないので、あらかじめ注意しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文学を読む【夜】

担当者名
/Instructor

馬場 美佳 / MIKA BABA / 比較文化学科, 岩本 真理子 / 比較文化学科
五月女 晴恵 / 比較文化学科, 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科
福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科, 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科
木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

◎総合テーマ 大学に入るまでに私たちは「国語」という科目の中で「文学」に触れ、また自ら図書館や書店の棚で「文学」を手にとってきた体験があります。こうした「文学を読む」という行為は、人間にとって当たり前前の営みだと感じられがちなのですが、それは本当なのでしょうか?さらには「古典」「名作」と名づけられた作品は、今なお読むに値するどのような意味・意義を有しているのでしょうか。一見自明に見える課題を再度問い直し、私たちにとって現実的な営みとしての「文学」を捉えなおすことが、この科目の目的です。

◎2013年のテーマ:「言葉の力」文学とは、言語を用いた芸術作品である、という当たり前のことがわかっていながら、ひとつひとつの言葉の持つ深い意味や、そこから広がる世界の大きさをじっくり考えながら文学作品を読んでいる人は、一体どのくらいいるのでしょうか。たとえば文学の中でも「詩」という表現形式は、芸術作品としての「言葉」の密度がきわめて高いものです。また、「言葉」はその力を拡大して、文学というジャンルを超えた表現形式へ生まれ変わることもあります。この授業では、複数の教員がオムニバス方式で各国言語で書かれた詩や警句・ことわざ、また言語芸術から生まれた造形芸術について講義し、芸術作品としての「言葉」の深さ、可能性、美しさなどの発見を促します。

この授業の主な到達目標は、以下の通りです。

- 1言語芸術に関する基本的・総合的な知識を獲得する。
- 2「言葉」の意味の深さや可能性について考え、自分で課題を設定し、解決する能力を磨く。
- 3修得した知識を今後の知的生活の中で応用できるようになる。

教科書 /Textbooks

特定のテキストを使用するのではなく、各教員が講義ごとにプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に各教員が指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入・言語芸術の可能性
 - 2回 岩本(文学部比較文化学科)
 - 3回 岩本
 - 4回 馬場(文学部比較文化学科)
 - 5回 馬場
 - 6回 田部井(文学部比較文化学科)
 - 7回 田部井
 - 8回 福島(文学部比較文化学科)
 - 9回 福島
 - 10回 伊藤(外国語学部英米学科)
 - 11回 伊藤
 - 12回 五月女(文学部比較文化学科)
 - 13回 五月女
 - 14回 木原(外国語学部英米学科)
 - 15回 木原
- (各講義の題目や順番は変更になる場合があります。第1回に詳細な予定表を配布します。)

成績評価の方法 /Assessment Method

各教員ごとのレポートまたは小テスト・100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私語と授業中の教室への出入りは厳禁します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に関する問い合わせはコーディネーターの馬場まで

キーワード /Keywords

民主主義とは何か【夜】

担当者名 /Instructor 中道 壽一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

今年度は、「比較民主主義論」というテーマで講義を行います。

民主主義を理論、運動（組織）、制度の3つのレベルに区分し、まず、民主主義の理論の比較として、同質性民主主義論、エリート主義的民主主義論、参加民主主義論、共生の民主主義論、熟議民主主義論等について考察します。次に、運動（組織）のレベルでは、1938年と1968年における日独の青年の政治的位置の比較を行い、制度のレベルでは、議院内閣制民主主義と大統領制民主主義を比較します。そして、こうした比較を通じて見えてくる差異性（多様性）や共通性から、「新しい政治」について検討します。

教科書 /Textbooks

テキストはなし。
基本的にレジュメを配布して講義します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献としては、
○中道『政治思想のデッサン』（ミネルヴァ書房）、
○J・リンズ他『大統領制民主主義の失敗』（南窓社）、
○中道編『現代デモクラシー論のトポグラフィー』（日本経済評論社）、
○イアン・シャピロ『民主主義理論の現在』（慶應義塾大学出版会）
を挙げておきます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

「授業計画・内容」としては、下記の通りです。

第1回 はじめに・・・民主主義の3レベルについて
第2回 民主主義の理論の比較・・・同質性民主主義論、エリート主義的民主主義論
第3回 参加民主主義論、共生の民主主義論
第4回 熟議民主主義論、ラディカル・デモクラシー論
第5回 民主主義理論の比較のまとめ
第6回 まとめのグループ討論、グループ発表
第7回 民主主義の運動（組織）の比較・・・1989年の東欧革命について
第8回 1968年の「青年の反乱」の日独比較
第9回 1938年の日独青少年交歓事業について
第10回 民主主義の運動の比較についてのまとめ・・・1938、68、89年の日独青年の政治的位置の比較について（グループ討論、グループ発表）
第11回 民主主義の制度の比較について・・・議院内閣制と大統領制
第12回 議院内閣制民主主義の諸問題について
第13回 大統領制民主主義の諸問題について
第14回 民主主義制度の比較のまとめ・・・首相公選制について
第15回 全体のまとめ・・・「新しい政治」について

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は、下記のような配分で、総合評価します。

日常の授業への取り組み	20%
小テスト	10%
レポート	20%
定期試験	50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

民主主義に興味があれば、どなたでも受講できますが、国内外のニュースを読んだり見たりしておいてください。多くの情報を持っていれば、それだけ講義の内容に興味を持つようになります。

民主主義とは何か【夜】

履修上の注意 /Remarks

毎回、講義のレジユメを配布しますので、紛失ないようにファイルし、毎回の講義に持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

3人一組のグループを作り、グループ内で議論したことを、代表者に発表してもらおうという、「まとめ」を2回ほど行うつもりですので、講義に積極的に参加してほしいし、講義を楽しんでください。

キーワード /Keywords

講義を楽しむ

人権論 【夜】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

「人権」といえば「特別なこと」というイメージを持つかもしれないが、実際には「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無意識に他者の「人権」を侵害しているということがある。

本講義では、「人権とは何か」という基本的な概念をふまえて、現存する「人権課題」の実情や社会的背景を考察していく。その上で、自分自身がどのように「人権」と向き合っていくのかを問う。

目標

1. 人権とは何かについての理論的概念が理解できる。
2. 人権獲得の歴史を体系的に理解できる。
3. 現代社会における様々な人権課題についての認識を深め、自分との関係を知る。
4. 自分自身にとっての人権課題を明確にする。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / 福岡県人権研究所発行 ¥1000）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『部落問題資料と解説』（解放出版社発行）
必要な参考書は授業時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 「自分にとっての人権課題」：自分と人権との関わりを考える。
- 2 「人権とは何か」：人権とは何かについて解説する。
- 3 「人権獲得の歴史」：人権獲得の歴史を近代革命を中心に解説する。
- 4 「世界人権宣言と人権条約」：世界人権宣言採択の歴史的経緯や意義などを解説する。
- 5 「部落問題について」：現存する部落問題の事例から部落問題とは何かを解説する。
- 6 「部落問題について」：当事者の思いを聞き、部落差別とは何かを考える。
- 7 「在日外国人と人権課題」：急増する在日外国人の現状と人権課題を解説する。
- 8 「在日コリアンについて」：在日コリアンの歴史、現状、課題などを解説する。
- 9 「ハンセン病について」：ハンセン病についての認識を深めることや元患者を取り巻く日本社会の歴史や現状を解説する。
- 10 「教育と人権～識字問題」：読み書きができないことがもたらす人権侵害などを解説する。
- 11 「教育と人権～夜間中学」：教育を受ける権利の保障とは何かを事例を交えて解説する。
- 12 「障害者と人権」：障害者の立場からみる人権課題を知る。
- 13 「アジアの人権状況」：アジアの人権問題を事例を交えて解説する。
- 14 「アジアの人権状況」：アジアの人権問題を事例を交えて解説する。
- 15 「まとめ」：現代社会の人権課題に自分たちはどう向き合うのか、共に考える。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 50% 期末テスト・ミニレポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日常生活の中にあるさまざまな人権課題に関心をもち、授業のミニレポートまたは感想用紙に反映させることが望ましい。

人権論【夜】

履修上の注意 /Remarks

私語は厳禁
出席回数が基準を満たさない場合は期末テストの受験資格を失う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生自身が持つ「学ぶ権利」を意識して授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

「すべての人」「人間らしく生きる」

ジェンダー論 【夜】

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

なぜ男言葉と女言葉があるのか、なぜ女性の大芸術家は現れないのか、「男は仕事、女は家庭」は自然な役割なのか、なぜ政治学や法学・科学の分野に女性教員や女子学生が少ないのか、なぜ戦時・平時にかかわらず女性に対して暴力が振るわれるのか—そのような日常的に「当たり前」となっていることをジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を学ぶ。

教科書 /Textbooks

牟田和恵編『ジェンダー・スタディーズ—女性学・男性学を学ぶ』（大阪大学出版会、2009）
適宜、補足資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編『岩波女性学辞典』（岩波書店、2002）
マギー・ハム『フェミニズム理論辞典』（明石書店、1997）
R.W. Connell, Gender: Short Introduction. Polity, 2002.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本語とジェンダー—戦後から現代までの日本歌謡曲【女言葉】【男言葉】
- 2回 ジェンダー・リテラシーで読み解く文学—村上春樹作・小説『ノルウェイの森』【眼差し】
- 3回 現代アートとジェンダー—映画『ロダンが愛したカミーユ・クローデル』【制度】
- 4回 男もつらいよ—アーサー・ミラー作・戯曲『セールスマンの死』【男らしさ】【性別分業】
- 5回 ジェンダー—家族を超えて—週刊誌『女性自身』にみる皇室家族の肖像【近代家族】
- 6回 セクシュアリティを考える—あだち充作・マンガアニメ『タッチ』【ホモソーシャル】
- 7回 学校教育の今昔—学園TVドラマの系譜【隠れたカリキュラム】
- 8回 社会保障とジェンダー—津村記久子作・小説『ポトスライムの舟』【貧困の女性化】
- 9回 ジェンダーの視点からみる農業—エレン・グラスゴー作・小説『不毛の大地』【農業経営】
- 10回 アジア現代女性史の試み—ミュージカル『ミス・サイゴン』【女性に対する暴力】
- 11回 女性差別撤廃条約と人権—絵本『世界中のひまわり姫へ』【民法】【均等法】【DV防止法】
- 12回 ジェンダーと平和学—女性戦士の系譜『リボンの騎士』『風の谷のナウシカ』【平和構築】
- 13回 グローバリゼーションと労働市場—国連『人間開発計画報告書』【移住労働】
- 14回 デートDV—TVドラマ「ラスト・フレンズ」【ドメスティック・バイオレンス(DV)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の積極的な発言...25%、プレゼン...25%、レポート...25%、期末試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1)法制度改正の動きを新聞等で把握しておく。(2)メディア表現を含め日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発言、プレゼン、レポート、期末試験に反映させる。(3)プレゼンにはパワーポイント使用のためプレゼンおよびPPTスキルを身につけておく。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

「ジェンダー」「セクシュアリティ」「ポリティクス」

市民活動論【夜】

担当者名 /Instructor 西田 心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものが、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 枠組みの設定
 - 3回 民衆行動の分析①
 - 4回 民衆行動の分析②
 - 5回 市民運動の分析
 - 6回 市民の活動の展開 / 戦前 (上)
 - 7回 市民の活動の展開 / 戦前 (下)
 - 8回 市民の活動の展開 / 戦後 (上)
 - 9回 市民の活動の展開 / 戦後 (下)
 - 10回 市民の活動の展開 / 高度成長期 (上)
 - 11回 市民の活動の展開 / 高度成長期 (下)
 - 12回 市民の活動の展開 / ポスト高度成長期 (上)
 - 13回 市民の活動の展開 / ポスト高度成長期 (下)
 - 14回 市民活動の現在
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極参加... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業と社会【夜】

担当者名 /Instructor 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

我が国は、アジア太平洋戦争に敗北した。しかし、その後の日本は、日米同盟という軍事的・政治的・経済的枠組みのもとで、奇跡的とも言うべき復活・再生（高度成長から安定成長）を果たした。そして、その後の不況下の物価上昇というスタグフレーションをひとまず克服した日本経済は、欧米からジャパンアズナンバーワン[日本の経営(温情主義的経営)]とも賞賛された。しかし、こうした日本の企業社会であるが、その「ピーク=破壊」たる1990年代前半のバブル崩壊を契機として、一転して失われた10年さらには15年とも評価されるにいたっている。

終身雇用 (= ライフタイム・コミットメントという英語の日本語訳、広義には職場共同体という感覚)・年功制や労使協調型経営のシステムは、今や、液化して剥き出しの資本制経済の荒波(マーケット中心主義)にさらされている。日く、ワーキングプア(働いていても生活がいよいよ苦しい)・ネットカフェ難民(帰るべく家がない)・格差から貧困(経済的格差・貧困から意欲の格差が目される)・99%対1%、等々。

にもかかわらず、経済政策をリードしている新自由主義(マーケット型資本主義)路線。すなわち「市場=マーケット」万能路線である。ここでは、市場から脱落・排除(彼女/彼らはこれを退出という)された者は、もはや回帰不可能な存在として処理されているかのようである(例えば、退場をしたサッカー選手は、帰るべく家があるが、市場から退場を命じられた労働者に帰るべく家は必ずしも存在しない)。

だからこそ、これまでの日本経済においては、ケインズ型経済政策を基底にして、社会そのものがこうした人々を支えるセーフティネットをもってたと判断される(社会統合機能)。しかし、赤字財政と経済危機という観点から、いよいよ新自由主義なる路線が浸透しているかのようである(社会統合機能の麻痺と当該社会の正統性の危機)。

そうすると行き着くところ、社会(資本制経済あるいは資本家の生産社会)というものは、必ずしも人々の生命の再生産を所与としないかのように振る舞うことが可能なのだろうか？

こうした問題を、日本の企業社会という文脈にひきつけて展開してみようというのが講義のねらいである。

教科書 /Textbooks

テキストは、竹内章郎『新自由主義の嘘』岩波書店、2007年。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 1、市場を扱った文献については、カール・ポランニー『市場社会と人間の自由』大月書店、2012』(○)
- 2、格差と貧困に関わるテーマを扱った文献については、①雑誌『世界』(○)・岩波新書(白波佐和子『生き方の不平等』2010(○)等の最新の文献、②『私たちは"99%"だ』(岩波書店、2012)』(○)、③國島・重本・山崎編『「社会と企業」の経営学～新自由主義的経営から社会共生的経営へ～』ミネルヴァ書房(2009年)(○)、森岡孝二編『貧困社会ニッポンの断層』桜井書店、2012。
- 3、社会統合と社会の正統性に関する議論については、ハバースとルーマンの議論を紹介した文献を参照。①山之内靖『システム社会の現代的位相』岩波書店、2011、②尾関周二『言語的コミュニケーションと労働の弁証法』大月書店、2002。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会とは(社会認識の諸類型)。資本制経済(資本家の生産様式)。【社会認識】
- 2回 資本主義という俗語と市民社会という講学用語。【資本主義】【市民社会】
- 3回 市場とは。買い物を通して。日常的に観察される買い物すなわち商品流通から、ふたつの人間類型が見いだされる。→「C(商品) - M(貨幣) - C(商品)」[私達]と「M(貨幣) - C(商品) - M(貨幣)」[資本家]。私達と資本家は、商品流通レベルでは平等。【商品流通】【資本家】【労働者】【市民社会】【資本制経済】
- 4回 商品流通(商品交換)の次元における私達→私達は平等である(等価交換と市民法)。【商品流通(商品交換)】【平等・自由】
- 5回 商品流通の次元における私達は平等であるのに、何故、格差・貧困・「99%対1%」なのか。【格差】・【貧困】
- 6回 市民社会の歴史的創出 = 本源的蓄積過程。商品流通 (C - M - C) の内実たる(M - C - M)での剰余価値の生産。資本家と労働者。【本源的蓄積過程】【剰余価値】【賃労働関係】
- 7回 労働者および資本家の歴史的誕生。英国のケース。【本源的蓄積過程】
- 8回 商品流通と生産過程・利潤の源泉【剰余価値】【賃労働関係】
- 9回 長時間労働・過労死そして格差・貧困の発生【剰余価値】【絶対的剰余価値】【相対的剰余価値】
- 10回 戦後資本主義の特性=恐慌と危機。ケインズ政策の登場。【恐慌】【危機】【ケインズ政策】
- 11回 セーフティネット装置のビルトインされた国家=福祉国家(混合経済)の登場。【福祉国家】
- 12回 福祉国家の危機=赤字財政というシステム統合危機。市場回帰志向の新自由主義の台頭。【赤字財政】【新自由主義】
- 13回 新自由主義の台頭とセーフティネット装置の浸食。システム統合危機から社会統合危機へ。【危機】【統合】
- 14回 システム統合と社会統合。マーケットとその外側(生活世界)。【システム統合】【社会統合】【生活世界】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%、およびボーナスとして、レポート...10%と小テスト...10%。この配分を100点満点に換算して評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ①、テキストを用意すること。②、レジュメだけにしがみつかない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

最近では、ブラック企業という言葉が頻繁に聞きます。就活にとって無視できません。私たちは、次々とこうした魔物にからめとられてしまうのでしょうか。だから、私達にとって社会とは、単なる観察対象ではなく、観察主体である自らも観察対象であることを常に意識してもらいたい。

キーワード /Keywords

【商品流通】 【資本家】 【労働者】 【市民社会】 【資本制経済】 【市民法】 【本源的蓄積過程】 【剰余価値】 【賃労働関係】 【福祉国家】 【ケインズ政策】 【新自由主義】 【システム統合】 【社会統合】 【生活世界】

現代の国際情勢【夜】

担当者名
/Instructor

下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科, 板谷 俊生 / 中国学科
 総田 芳憲 / Kaseda Yoshinori / 国際関係学科, 篠崎 香織 / 国際関係学科
 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科, 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科
 鄧 紅 / DENG HONG / 比較文化学科, 横山 宏章 / Yokoyama Hiroaki / 社会システム研究科 博士後期課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

東アジア現代の国際情勢を政治・経済・思想などを中心に考察する。近年、国際関係分野において注目されている諸理論・現象を紹介しながら講義を進める。

教科書 /Textbooks

各担当教員が適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各担当教員が適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

この授業は複数の教員が各自の専門と関心からアジアと国際関係を論じるオムニバス授業である。授業テーマと担当者については初回授業で紹介するので、必ず出席すること。

※授業では出席をとることがある。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 下野寿子「グローバル化の中の中国」
- 第3回 " "
- 第4回 尹明憲「北東アジアの経済事情」
- 第5回 " "
- 第6回 鄧紅「日中関係の過去、現在と未来」
- 第7回 " "
- 第8回 総田芳憲「日本の安全保障」
- 第9回 " "
- 第10回 山本直「アジアとヨーロッパ」
- 第11回 " "
- 第12回 板谷俊生「中国のノーベル文学賞作家」
- 第13回 横山宏章「東アジアの安全保障」
- 第14回 篠崎香織「東南アジア：『周縁』で形成される文明の新たなかたち」
- 第15回 " "

※都合により、講義の順番は変わることがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートで評価する(100%)。

レポートの本数・形式など詳細については初回のオリエンテーションで指示する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

適宜参考文献などを紹介するので自主的に読むこと。

平素から新聞や関連する本を読んで、授業内容への理解を深める努力をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際紛争と国連【夜】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

国際紛争に対し国連がどのような対応を取ってきているのかについて、法的・制度的枠組みや実際の活動の紹介・分析を通じ、学習することで、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題についての認識を深めてもらうことを目指します。

まずは国際紛争とは何か、時間経過軸による紛争の分類 (Phase化)の議論を紹介し、紛争の各段階における国連の対応の必要性を認識してもらいます。次に、その分析軸を基に、総論として、国連における国際の平和と安全のための活動の基本的枠組みと、そこでの加盟国が果たすべき役割を認識してもらった上で、各論として、①平和的解決の手法を駆使し平和を創出する段階、②停戦合意後の暫定的な平和を維持する段階、③政治的意思の欠如から平和を強制せざるを得ない段階、④紛争後の平和を持続・定着させる段階についてそれぞれ取り上げ、Case Studyとしての事例の紹介も交えながら、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題について、学んでもらいます。

教科書 /Textbooks

テキストは設定しません。
講義の理解に必要な参考資料を、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書 財団法人日本国際連合協会『わかりやすい国連の活動と世界(改訂版)』(三修社・2007)○
その他の参考文献は、適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 国連を知る【国連の生立ち】【国連の目的】【国連の組織構造】
- 第3回 国際紛争を見る分析軸【DisputeとConflict】【紛争のPhase】
- 第4回 国連における紛争処理のメカニズム【国連憲章上の枠組み】
- 第5回 国連による国際の平和と安全のための活動と加盟国【加盟国の地位の二重性】
- 第6回 国連による平和の創出【和平合意の形成】【勧告】【事務総長による周旋】
- 第7回 国連による平和の維持【国連平和維持活動(PKO)】
- 第8回 国連による平和の強制【平和に対する脅威等の認定】【強制措置】
- 第9回 Case Study①: 湾岸戦争と国連【多国籍軍】
- 第10回 Case Study②: ソマリア問題と国連【平和執行型PKO】
- 第11回 Case Study③: リビア問題と国連【保護する責任】
- 第12回 国連による持続的平和の定着【和解】【国家再建】【平和構築】
- 第13回 Case Study④: アフガニスタン問題と国連【平和構築】
- 第14回 Case Study⑤: PKOと日本の国際平和協力【PKO協力法】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題等への対応および学期末試験で評価します。
課題等への対応...30% 学期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、予習を前提とした講義を展開します。
指示された課題に誠実に取り組んでから、授業に臨むようにしてください。
詳細は、学習支援フォルダーで確認してください。

履修上の注意 /Remarks

成績評価において、授業を通じ提出を求められる課題への対応の比率が高く設定されています。
そのため単位取得のためには、提出を求められた課題に対し、誠実に取り組むことが必要となりますので、受講の決定の際には、この点に注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

3つの願いがあります。
国際問題に関心を持ってほしい。国連の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際問題は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

キーワード /Keywords

【国際紛争】 【国連】 【平和創出】 【平和維持】 【平和強制】 【平和構築】

開発と統治【夜】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

グローバル化が刻々と進行している中、現在、持続可能な社会の構築が求められています。なかにはその目標に向かって進んでいる国や地域がある一方で、紛争や対立を繰り返している国や地域もあります。本講義では各国や地域を熟知・精通した教員が、各自が考える「ガバナンス(統治)」の意味を世界各地の国(ミャンマー、バングラデシュ、韓国、米国と日本が対象国)や地域社会の具体的な実例を用いて説明します。そして、最後に受講生にとって「ガバナンス」とは何なのかについてグループワークを通じて回答を出してもらいます。

以上の概要を通して、ガバナンス概念の知識を吸収すると同時に理解し、地域においては自らもガバナンスの一翼を担えるような能力を付けてもらいたいと考えています。

教科書 /Textbooks

その都度指定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『○○を知るための○章』のシリーズ(授業の該当国)、明石書店
 (特に、米国、韓国、ミャンマーやバングラデシュ版)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「開発と統治」をはじめるとあたって 担当: 三宅
- 第2回 民主化問題を考える視座(1) 【民主化問題】 担当: 伊野
- 第3回 民主化問題を考える視座(2) 担当: 伊野
- 第4回 理論と現実-ミャンマーの民主化をめくって 【ミャンマー】 担当: 伊野
- 第5回 もっと知りたいアジア-ソーシャルビジネスとユニクロ 【ソーシャルビジネス】
 担当: チョウドリ・三宅
- 第6回 お祭り騒ぎ・内戦模様の今年の総選挙を通して見たバングラデシュの政治活動
 【バングラデシュ】 担当: チョウドリ・三宅
- 第7回 途上国と一村一品運動 【一村一品運動】 担当: チョウドリ・三宅
- 第8回 NGOs活動としめ社会のガバナンスの変化 【BRAC】 担当: チョウドリ・三宅
- 第9回 韓国の民主化とガバナンスの形成過程 【韓国】 担当: 申
- 第10回 アメリカにおけるガバナンスと環境 【米国】 担当: 申
- 第11回 エネルギー問題にみるガバナンス形成 【エネルギー問題】 担当: 申
- 第12回 地域社会から見たガバナンス 【地域社会】 担当: 三宅
- 第13回 日本の子ども会を取り巻く環境 【子ども会】 担当: 三宅
- 第14回 ガバナンスについてのグループ・ワーク 【グループワーク】 担当: 三宅
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加態度...30% 小課題の提出...20% 試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

様々な国々を対象とするので、参考書は読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

各教員が対象国での研究や生活経験が長いので、現場に由来する非常に面白い事項を盛り込み授業を展開する予定。

キーワード /Keywords

ガバナンス ミャンマー 韓国 バングラデシュ 米国 子供会 グループワーク

歴史の読み方I【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

ここでは明治時代をはじめとする、歴史上の人物や実際の史料を取り上げながら、今日の世界の中で日本の歴史がどう捉えられているのか、また、私たち自身が歴史をどう見ているのかを考えることを目的とした歴史の見方を学びます。具体的には、明治維新から敗戦までの一次史料を直接読み、さまざまな歴史認識の可能性を探っていきます。

教科書 /Textbooks

講義の中で適宜史料プリントを配布致します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○外務省編『日本外交文書』、○『山県有朋意見書』、○『原敬日記』、○『牧野伸顕日記』、○『木戸幸一日記』、○『西園寺公と政局』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 西南戦争【木戸孝允】
- 第3回 日清戦争【山県有朋】
- 第4回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第5回 韓国併合と「満州」経営【伊藤博文】【山県有朋】
- 第6回 辛亥革命【伊藤博文】【山県有朋】
- 第7回 政治家の肉筆書簡【田中義一】
- 第8回 政党政治(1)【原敬】【山県有朋】
- 第9回 政党政治(2)【牧野伸顕】
- 第10回 山東出兵と張作霖爆殺【牧野伸顕】
- 第11回 満州事変(1)【木戸幸一】【西園寺公望】
- 第12回 満州事変(2)【石原莞爾】
- 第13回 日中戦争【近衛文麿】
- 第14回 太平洋戦争【昭和天皇】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な取り組み... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義前に最低限高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人物と時代の歴史【夜】

担当者名 /Instructor 山崎 勇治 / 国際教育交流センター, 新村 昭雄 / 北方キャンパス 非常勤講師
乗口 眞一郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

歴史の面白さを、特定の代表的な人物を中心として講義して、学生に知らせることを目的とする。
なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。
三人の教員が、イギリス・アメリカ・日本の代表的な人物について、人物と時代について語る。まず、イギリスについては1980年代の自由競争主義、民営化、ビッグバンなどグローバル化の基礎を築いたマーガレット・サッチャーについて述べる。
次にアメリカを代表する人物の話に移る。果たして、オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか。オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史について語る。そして、歴代大統領とその素顔（リンカーン、ケネディー、クリントン大統領）について。
最後は、「剣と禅」に生きた山岡鉄舟と幕末・明治維新について語る。今、武士道（Bushido）が見直されている。核兵器と原子力を抑止するのは結局のところ人間の心しかない。禅と武道を極めた鉄舟もその心を無刀流においた。江戸時代、上杉鷹山はその儒教的経営で壊滅的な上杉家の財政を見事に立て直した。その技を見てみよう。次に、徳川幕府が始まってまだその礎が固まっていないとき、3代将軍家光の弟・保科正之は江戸幕府の礎を築いた。長い平安の時代が終わり、貴族に代わって武士が台頭したとき、貴族のための仏教に代わって、庶民のために仏教が生まれた。それを代表するのが浄土真宗の親鸞であった。日本古来の縄文信仰（アイヌや南方諸島に残る）や弥生信仰に代わって、聖徳太子（厩戸皇子）は仏教を大和（やまと）の国の根本におかれた。飛鳥・奈良時代、なぜ、インド・中国から渡来した仏教が日本で繁栄したのか。これらを明らかにする。

教科書 /Textbooks

教科書 /Textbooks 資料を配付します。（新村）
口述講義（山崎）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 新渡戸稲造『武士道』（BUSHIDO）
- 藤沢周平『漆の実のみのる国』（文春文庫）
- 中村彰彦『保科正之』（中公新書）
- 山崎勇治『石炭で栄え滅んだ大英帝国一産業革命からサッチャー改革まで』（ミネルヴァ書房、2008年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- イギリス、アメリカ、日本の歴史の中からテーマを厳選し、講義をする
- 第1回 イギリスとはどんな国かー日英交流史ー
 - 第2回 サッチャー登場の歴史的背景ーイギリス病に悩むイギリス経済ー
 - 第3回 サッチャーと炭鉱ストライキ
 - 第4回 サッチャーと民営化政策
 - 第5回 サッチャーとNHS改革
 - 第6回 サッチャーとビッグバン
 - 第7回 サッチャーの大学改革と北九州市立大のカーティフ大学誘致合戦
 - 第8回 オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか
 - 第9回 オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史
 - 第10回 歴代大統領とその素顔（リンカーン、ケネディー、クリントン大統領）
 - 第11回 「ラスト・サムライ」山岡鉄舟と【幕末・明治維新】
 - 第12回 【江戸時代】、ギリシャと同様に壊滅的だった藩の財政を立て直した上杉鷹山と儒教的経営
 - 第13回 【3・11東日本大震災】同様の危機を乗り切ったり【江戸幕府】の礎を築いた三代将軍家光の弟・保科正之
 - 第14回 乱世の世に現れた宗教家・親鸞と【平安・鎌倉時代】
 - 第15回 聖徳太子と【飛鳥・奈良時代】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート（70%）と平常の学習状況（30%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

* 受講する際に、各回で取り上げる人物やテーマについて図書館等で調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

人物と時代の歴史【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

西洋史【夜】

担当者名 /Instructor 曠谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。地中海や大西洋、インド洋、東・南シナ海といった海域世界の発展と相互の接続を見ることによって、ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、そして近代世界の形成を理解します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 内はキーワード)

- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ 【バックス・モンゴリカ】
- 2回 ヨーロッパ進出以前のアジア海域世界 【港市国家】
- 3回 イベリア諸国の形成 【レコンキスタ】
- 4回 「中世の危機」とポルトガルの海外進出【エンリケ航海王子】
- 5回 新世界到達と「世界分割」【トルデシリャス条約】
- 6回 ポルトガル海洋帝国の形成① 【香辛料】
- 7回 ポルトガル海洋帝国の形成② 【点と線の支配】
- 8回 スペインによる植民地帝国の形成① 【ポトシ】
- 9回 スペインによる植民地帝国の形成② 【モナルキア・イスパニカ】
- 10回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編①【東インド会社】
- 11回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編②【砂糖革命】
- 12回 環大西洋世界の展開① 【第二次英仏百年戦争】
- 13回 環大西洋世界の展開② 【環大西洋革命】
- 14回 ヨーロッパ勢力とアジアの海 【近代世界システム】
- 15回 まとめ 【「コロンブスの交換」】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)。

履修上の注意 /Remarks

毎回講義プリントを配布し、それに基づいて講義します。講義後も配布プリントとノートを見直し、整理・復習を心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東洋史【夜】

担当者名 藤野 月子 / FUJINO TSUKIKO / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講義では、東アジアを中心としてその歴史的な変容を考察する。目標として、中国・朝鮮・日本をはじめとする東アジアの特異性について明らかにし、更には、それを通じて東アジアの今後の在り方を自らで模索出来る能力を養うことを目指す。
一般的に中国の歴史といえば、単に中国国内のみの問題と捉える傾向があるかもしれない。しかし、古来から中国は近隣の諸民族を吸収・同化しつつ、変容を繰り返しているのである。また、近隣諸民族もその影響を受けつつ、オリジナルな国家形成を行っているのである。つまり、東アジアにおいて両者を巡るこのような関わりは相互に密接なものを有しているといえよう。
よって、ここでは具体的に、中国における古代文明の誕生から隋唐による世界帝国の形成・衰退までを、中国のみに止まることなく、東アジアという包括的な視座に置き、各時代の政治・経済・外交・思想・文化等の多角的な方面から理解することを掲げる。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。講義では毎回プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

堀敏一『中国通史 - 問題史としてみる - 』(講談社学術文庫 2000年 1260円)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに - 講義のガイダンス・東洋史と中国 -
- 第2回 秦の始皇帝による統一 - 古代文明の誕生から中華思想の形成まで -
- 第3回 秦漢と匈奴 - 中国と北方遊牧騎馬民族との関係 -
- 第4回 中国の外交政策 - 羈縻・冊封・互市・和蕃公主の降嫁 -
- 第5回 前漢の政治と思想 - 儒教との関係 -
- 第6回 後漢の政治と思想 - 外戚と宦官 -
- 第7回 三国志の時代 - 三国の領土拡大と卑弥呼の朝貢 -
- 第8回 西晋による三国統一 - 西晋の内乱と近隣諸民族の動向 -
- 第9回 東晋南朝の社会 - 貴族とは -
- 第10回 五胡十六国北朝の時代 - 北中国における民族の融合 -
- 第11回 南北朝と朝鮮・日本 - 朝鮮・日本の中国外交 -
- 第12回 隋唐による統一 - 世界帝国の成立と政治制度 -
- 第13回 唐と朝鮮・日本 - 唐の朝鮮政策と白村江の戦い -
- 第14回 唐代の外交 - 唐の近隣支配体制と商業活動 -
- 第15回 安史の乱以降における唐の滅亡 - 世界帝国の衰退と東アジアへの影響 -

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習態度...20%・定期試験...80%
双方向の講義が目的であるため、毎回、出席感想カードを配布・回収する。
特に、講師及び他の学生の集中力を削ぐ行為(私語・音楽を聴く等)は授業妨害とみなし、これを強く禁止すると共に、違反する者には厳しい措置を取る。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習としては、参考書として紹介しているものをあらかじめ読んでおく。
復習としては、講義中に配布するプリントを見直しておく。

履修上の注意 /Remarks

出来れば高校において世界史B及び日本史Bを履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

先入観に振り回されず、
今後の世界に大きな影響を与えることが確実な中国の歴史について学ぶことは必要であると同時に大変有益です。

キーワード /Keywords

東アジア 中国 朝鮮 日本

地誌学 【夜】

担当者名 /Instructor 外戸保 大介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

グローバル化と情報化が進行しつつある現代世界において、世界の諸地域を正確に認識することがますます重要となっている。本年度は、ヨーロッパ地域の地誌をテーマとして扱う。ヨーロッパ地域は、古くから世界の政治・経済・文化の中心地であり続けてきた。20世紀後半以降、アメリカや日本・中国をはじめとする東アジア地域の台頭に伴い、その立場には変化が見られているものの、現在でもなお世界に大きな影響力を有している地域の一つであるといえる。ヨーロッパの経済のみならず、政治・文化や自然環境をも含めた総合的な地誌の理解に努めてもらいたい。

教科書 /Textbooks

加賀美雅弘 編(2011)『世界地誌シリーズ3 EU』朝倉書店

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (1) イントロダクション
- (2) 世界の自然・人文環境とグローバルな関係性① - 地形・気候
- (3) 世界の自然・人文環境とグローバルな関係性② - 人種・民族・産業
- (4) 世界の自然・人文環境とグローバルな関係性③ - 人口、交通、国家群
- (5) 総論-統合に向かうヨーロッパの地域特性 (テキスト1章)
- (6) 自然環境と伝統的農業 (テキスト2章)
- (7) 工業地域の形成と発展 (テキスト3章)
- (8) 都市の形成と再生 (テキスト4章)
- (9) 観光地域と観光客流動 (テキスト5章)
- (10) 移民と社会問題 (テキスト6章)
- (11) 地域主義と民族集団 (テキスト7章)
- (12) 東ヨーロッパの農村の変化と特色 (テキスト8章)
- (13) EU市民の暮らし (テキスト9章)
- (14) 統合するヨーロッパと国境地域 (テキスト10章)
- (15) 世界のなかのEU (テキスト11章)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (80%)、日常の授業の取り組み (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、教科書の該当箇所を事前に読み、予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

エンドユーザコンピューティング 【夜】

担当者名 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

データ処理【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 再履 夜間主コー ス

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要です。この授業では、みなさんがコンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習します。具体的には以下のよう項目を身につけることができます：

- タイピングの基礎を習得することができます。
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎を習得することができます。
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎を習得することができます。
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎を習得することができます。
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎を習得することができます。

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】【添付ファイル】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50% ,
積極的な授業参加 (タイピング , 電子メール送受信 , 情報倫理の理解等を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの基本的な操作 (キーボードで文字を入力する , マウス操作など) ができるようになっておくと受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

授業の進度、情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」に記入した内容の順番が入れ替わることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

コンピュータの操作が基本になるので、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切です。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

データ処理【夜】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 群・再履・夜間主
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class コース

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要です。この授業では、みなさんがコンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習します。具体的には以下のよう項目を身につけることができます：

- タイピングの基礎を習得することができます。
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎を習得することができます。
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎を習得することができます。
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎を習得することができます。
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎を習得することができます。

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】【添付ファイル】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50% ,
積極的な授業参加 (タイピング , 電子メール送受信 , 情報倫理の理解等を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの基本的な操作 (キーボードで文字を入力する , マウス操作など) ができるようになっておくと受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

授業の進度、情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」に記入した内容の順番が入れ替わることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

コンピュータの操作が基本になるので、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切です。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

情報表現【夜】

担当者名
/Instructor

中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 2年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 2年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力をみがきます。具体的には、以下のような項目を身につけることができます：

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の吟味
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指します。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現(ガイダンス)
- 2回 データの収集(検索エンジン, 情報の信頼性)
- 3回 データの加工(表計算の復習, グラフ, チャート)
- 4回 データの表現(レイアウト, デザイン)
- 5回 論理的な思考法の基礎1(課題発見)
- 6回 論理的な思考法の基礎2(原因分析, 解決手段検討)
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90% , 積極的な授業参加 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなります。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してください。

履修上の注意 /Remarks

教室のパソコン台数に限りがありますので、受講者数調整を実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問してください。また、この授業ではグループによる協同学習を導入しています。グループのメンバーでお互いに協力して学習課題を進めるよう心がけてください。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション, ロジカルシンキング, マルチメディア

中国語1 (総合) 【夜】

担当者名 /Instructor 一木 達彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

受講者が中国語に対して関心を持つような内容を織り交ぜながら、初級レベルの文法、文型の習得とその運用能力の向上を目指し、「話す」「聴く」「読む」「書く」の四技能を総合的に培う。

教科書 /Textbooks

『現代漢語基礎』（木村英樹・張麗群・楊凱榮・吉川雅之著、白帝社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 概説、発音（声調、単母音、声母等）
- 2回 概説、発音（複母音、鼻母音等）
- 3回 発音（声調変化、軽声、r化等）、第1課（人称代名詞、動詞述語文、否定文、当否疑問文等）
- 4回 第2課（動詞“在”“是”、指示詞等）
- 5回 第3課（数詞、名詞述語文1等）
- 6回 第4課（前置詞“在”、疑問詞疑問文、正反疑問文、形容詞述語文、能願動詞“会”等）
- 7回 第5課（人称代名詞、動詞“有”、数量詞、金銭の表現等）
- 8回 第6課（指示句、能願動詞“能”、経験相“過”、副詞“再”等）、まとめ
- 9回 第7課（句末の“了”、主述述語文、連動文、選択疑問文、主題化構文、時刻の表現等）
- 10回 第8課（反語文、能願動詞“要”、結果補語、完了相“了”等）
- 11回 第9課（存現文、副詞“就”、時間詞、様態補語等）
- 12回 第10課（時量表現、方位詞、兼語文等）
- 13回 第11課（使役構文、副詞“剛”、接続詞“所以”等）
- 14回 第12課（前置詞“比”、比較表現、副詞“才”、名詞述語文等）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験・期末試験... 80% 小テスト・宿題... 20%
欠席や遅刻、その他、受講態度などが悪い場合は減点対象となる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習（宿題）をやっていることを前提に進めていくので、しっかり予習・復習を行うこと。
一つの課が終わるごとに、小テスト（書き取り）を行なう。

履修上の注意 /Remarks

中国語1・3・5は一冊のテキストを用いて、連続して進められる授業である。試験は別々に実施する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語2 (総合) 【夜】

担当者名 /Instructor 一木 達彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

受講者が中国語に対して関心を持つような内容を織り交ぜながら、初級レベルの文法、文型の習得とその運用能力の向上を目指し、「話す」「聴く」「読む」「書く」の四技能を総合的に培う。

教科書 /Textbooks

『現代漢語基礎』（木村英樹・張麗群・楊凱榮・吉川雅之著、白帝社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第13課（“聽說”、前置詞“往”“從”、能願動詞“可以”“会”等）
- 2回 第14課（前置詞“給”“離”、“把”構文、持續相“着”等）
- 3回 第15課（接続詞“而且”、能願動詞“得”、“是～的”構文等）
- 4回 第16課（方向補語、疑問詞“怎麼”、“給”を用いた兼語文等）
- 5回 第17課（受身文、能願動詞“想”、禁止表現等）、まとめ
- 6回 第18課（形容詞の重ね型、名詞の重ね型、二重目的語構文等）
- 7回 第19課（方向補語“起来”“出来”の派生用法、連動文の“着”等）
- 8回 第20課（副詞“多”“都”、“像～似的”、疑問詞連鎖構文等）
- 9回 第21課（仮定表現、“越～越...”、副詞“在”“再”等）
- 10回 まとめ
- 11回 第22課（接続詞“其实”、前置詞“跟”等）
- 12回 第23課（感嘆表現“多麼”、前置詞“对”等）
- 13回 第24課（“只見”、能願動詞“敢”、方向補語“下去”の派生用法等）
- 14回 第25課（“有些”、譲歩表現、“動詞+“着””の重ね型等）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験・期末試験... 80% 小テスト・宿題... 20%
欠席や遅刻、その他、受講態度などが悪い場合は減点対象となる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習（宿題）をやっていることを前提に進めていくので、しっかり予習・復習を行うこと。
一課が終わるごとに、小テスト（書き取り）を行なう。

履修上の注意 /Remarks

中国語2・4・6は一冊のテキストを用いて、連続して進められる授業である。ただし、試験は別々に実施する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語3 (音声中心) 【夜】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

受講者が中国語に対して関心を持つような内容を織り交ぜながら、初級レベルの文法、文型の習得とその運用能力の向上を目指し、「話す」「聴く」「読む」「書く」の四技能を総合的に培う。特に本講義では、発音面の指導に重点を置く。

教科書 /Textbooks

『現代漢語基礎』（木村英樹・張麗群・楊凱榮・吉川雅之著、白帝社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 概説、発音（声調、単母音、声母等）
- 2回 概説、発音（複母音、鼻母音等）
- 3回 発音（声調変化、軽声、r化等）、第1課（人称代名詞、動詞述語文、否定文、当否疑問文等）
- 4回 第2課（動詞“在”“是”、指示詞等）
- 5回 第3課（数詞、名詞述語文等）
- 6回 第4課（前置詞“在”、疑問詞疑問文、正反疑問文、形容詞述語文、能願動詞“会”等）
- 7回 第5課（人称代名詞、動詞“有”、数量詞、金銭の表現等）
- 8回 第6課（指示句、能願動詞“能”、経験相“過”、副詞“再”等）、まとめ
- 9回 第7課（句末の“了”、主述述語文、連動文、選択疑問文、主題化構文、時刻の表現等）
- 10回 第8課（反語文、能願動詞“要”、結果補語、完了相“了”等）
- 11回 第9課（存現文、副詞“就”、時間詞、様態補語等）
- 12回 第10課（時量表現、方位詞、兼語文等）
- 13回 第11課（使役構文、副詞“剛”、接続詞“所以”等）
- 14回 第12課（前置詞“比”、比較表現、副詞“才”、名詞述語文等）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験・期末試験... 80% 小テスト・宿題... 20%
欠席や遅刻、その他、受講態度などが悪い場合は減点対象となる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習（宿題）をやっていることを前提に進めていくので、しっかり予習・復習を行うこと。
一課が終わるごとに、小テスト（書き取り）を行なう。

履修上の注意 /Remarks

中国語1・3・5は一冊のテキストを用いて、連続して進められる授業である。ただし、試験は別々に実施する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

付属のCDをしっかりと活用すること。

キーワード /Keywords

中国語4 (音声中心) 【夜】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

受講者が中国語に対して関心を持つような内容を織り交ぜながら、初級レベルの文法、文型の習得とその運用能力の向上を目指し、「話す」「聴く」「読む」「書く」の四技能を総合的に培う。特に本講義では、発音面の指導に重点を置く。

教科書 /Textbooks

『現代漢語基礎』（木村英樹・張麗群・楊凱榮・吉川雅之著、白帝社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第13課（“聽說”、前置詞“往”“從”、能願動詞“可以”“会”等）
- 2回 第14課（前置詞“給”“離”、“把”構文、持續相“着”等）
- 3回 第15課（接続詞“而且”、能願動詞“得”、“是～的”構文等）
- 4回 第16課（方向補語、疑問詞“怎麼”、“給”を用いた兼語文等）
- 5回 第17課（受身文、能願動詞“想”、禁止表現等）、まとめ
- 6回 第18課（形容詞の重ね型、名詞の重ね型、二重目的語構文等）
- 7回 第19課（方向補語“起来”“出来”の派生用法、連動文の“着”等）
- 8回 第20課（副詞“多”“都”、“像～似的”、疑問詞連鎖構文等）
- 9回 第21課（仮定表現、“越～越...”、副詞“在”“再”等）
- 10回 まとめ
- 11回 第22課（接続詞“其实”、前置詞“跟”等）
- 12回 第23課（感嘆表現“多麼”、前置詞“对”等）
- 13回 第24課（“只見”、能願動詞“敢”、方向補語“下去”の派生用法等）
- 14回 第25課（“有些”、譲歩表現、“動詞+“着””の重ね型等）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験・期末試験... 80% 小テスト・宿題... 20%
欠席や遅刻、その他、受講態度などが悪い場合は減点対象となる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習（宿題）をやっていることを前提に進めていくので、しっかり予習・復習を行うこと。
一課が終わるごとに、小テスト（書き取り）を行なう。

履修上の注意 /Remarks

中国語2・4・6は一冊のテキストを用いて、連続して進められる授業である。ただし、試験は別々に実施する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

付属のCDをきちんと活用すること。

キーワード /Keywords

中国語5 (文法中心) 【夜】

担当者名 /Instructor 一木 達彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

受講者が中国語に対して関心を持つような内容を織り交ぜながら、初級レベルの文法、文型の習得とその運用能力の向上を目指し、「話す」「聴く」「読む」「書く」の四技能を総合的に培う。特に本講義では、文法面の指導に重点を置く。

教科書 /Textbooks

『現代漢語基礎』（木村英樹・張麗群・楊凱榮・吉川雅之著、白帝社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 概説、発音（声調、単母音、声母等）
- 2回 概説、発音（複母音、鼻母音等）
- 3回 発音（声調変化、軽声、r化等）、第1課（人称代名詞、動詞述語文、否定文、当否疑問文等）
- 4回 第2課（動詞“在”“是”、指示詞等）
- 5回 第3課（数詞、名詞述語文等）
- 6回 第4課（前置詞“在”、疑問詞疑問文、正反疑問文、形容詞述語文、能願動詞“会”等）
- 7回 第5課（人称代名詞、動詞“有”、数量詞、金銭の表現等）
- 8回 第6課（指示句、能願動詞“能”、経験相“過”、副詞“再”等）、まとめ
- 9回 第7課（句末の“了”、主述述語文、連動文、選択疑問文、主題化構文、時刻の表現等）
- 10回 第8課（反語文、能願動詞“要”、結果補語、完了相“了”等）
- 11回 第9課（存現文、副詞“就”、時間詞、様態補語等）
- 12回 第10課（時量表現、方位詞、兼語文等）
- 13回 第11課（使役構文、副詞“剛”、接続詞“所以”等）
- 14回 第12課（前置詞“比”、比較表現、副詞“才”、名詞述語文等）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験・期末試験... 80% 小テスト・宿題... 20%
欠席や遅刻、その他、受講態度などが悪い場合は減点対象となる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習（宿題）をやっていることを前提に進めていくので、しっかり予習・復習を行うこと。
一課が終わるごとに、小テスト（書き取り）を行なう。

履修上の注意 /Remarks

中国語1・3・5は一冊のテキストを用いて、連続して進められる授業である。ただし、試験は別々に実施する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語6 (文法中心) 【夜】

担当者名 /Instructor 一木 達彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

受講者が中国語に対して関心を持つような内容を織り交ぜながら、初級レベルの文法、文型の習得とその運用能力の向上を目指し、「話す」「聴く」「読む」「書く」の四技能を総合的に培う。特に本講義では、文法面の指導に重点を置く。

教科書 /Textbooks

『現代漢語基礎』（木村英樹・張麗群・楊凱榮・吉川雅之著、白帝社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第13課（“聽說”、前置詞“往”“從”、能願動詞“可以”“会”等）
- 2回 第14課（前置詞“給”“離”、“把”構文、持續相“着”等）
- 3回 第15課（接続詞“而且”、能願動詞“得”、“是～的”構文等）
- 4回 第16課（方向補語、疑問詞“怎麼”、“給”を用いた兼語文等）
- 5回 第17課（受身文、能願動詞“想”、禁止表現等）、まとめ
- 6回 第18課（形容詞の重ね型、名詞の重ね型、二重目的語構文等）
- 7回 第19課（方向補語“起来”“出来”の派生用法、連動文の“着”等）
- 8回 第20課（副詞“多”“都”、“像～似的”、疑問詞連鎖構文等）
- 9回 第21課（仮定表現、“越～越...”、副詞“在”“再”等）
- 10回 まとめ
- 11回 第22課（接続詞“其实”、前置詞“跟”等）
- 12回 第23課（感嘆表現“多麼”、前置詞“对”等）
- 13回 第24課（“只見”、能願動詞“敢”、方向補語“下去”の派生用法等）
- 14回 第25課（“有些”、譲歩表現、“動詞+“着””の重ね型等）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験・期末試験... 80% 小テスト・宿題... 20%
欠席や遅刻、その他、受講態度などが悪い場合は減点対象となる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習（宿題）をやっていることを前提に進めていくので、しっかり予習・復習を行うこと。
一つの課が終わるごとに、小テスト（書き取り）を行なう。

履修上の注意 /Remarks

中国語2・4・6は一冊のテキストを用いて、連続して進められる授業である。ただし、試験は別々に実施する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (中夜 1 年) 【夜】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中夜 1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description
 TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、また比較的平易な読み物を用いて文法能力と英語読解力の伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks
 生協の教科書リストを確認されたい。
 その他、適宜、プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	プレテスト
2回	リスニング ユニット1~5、リーディング ユニット1
3回	リスニング ユニット5~10、リーディング ユニット2
4回	リスニング ユニット11~13、リーディング ユニット3
5回	リスニング ユニット14~16、リーディング ユニット4
6回	リスニング ユニット17~19、リーディング ユニット5
7回	リスニング ユニット20~22、リーディング ユニット6
8回	リスニング ユニット23~25、リーディング ユニット7
9回	リスニング ユニット26~28、リーディング ユニット8
10回	リスニング ユニット29~31、リーディング ユニット9
11回	リスニング ユニット32~34、リーディング ユニット10
12回	リスニング ユニット35~37、リーディング ユニット11
13回	リスニング ユニット38~40、リーディング ユニット12
14回	ポストテスト
15回	まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 学期末試験・小テスト 80%
 課題 20%
 欠席が授業実施回数3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 指定された課題とリーディング教材の予習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (中夜 1 年) 【夜】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中夜 1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description
 TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、また比較的平易な読み物を用いて文法能力と英語読解力の伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks
 生協の教科書リストを確認されたい。
 その他、適宜、プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	プレテスト
2回	リスニング ユニット 1~5、リーディング ユニット 1
3回	リスニング ユニット5~10、リーディング ユニット2
4回	リスニング ユニット11~13、リーディング ユニット3
5回	リスニング ユニット14~16、リーディング ユニット4
6回	リスニング ユニット17~19、リーディング ユニット5
7回	リスニング ユニット20~22、リーディング ユニット6
8回	リスニング ユニット23~25、リーディング ユニット7
9回	リスニング ユニット26~28、リーディング ユニット8
10回	リスニング ユニット29~31、リーディング ユニット9
11回	リスニング ユニット32~34、リーディング ユニット10
12回	リスニング ユニット35~37、リーディング ユニット 11
13回	リスニング ユニット38~40、リーディング ユニット 12
14回	ポストテスト
15回	まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 学期末試験・小テスト 80%
 課題 20%
 欠席が授業実施回数3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 指定された課題とリーディング教材の予習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語III (中夜 1 年) 【夜】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中夜 1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

This course will focus on writing and discussion. The topic will change weekly and students will be asked to write their creative compositions in class for marking and evaluating. During this course, students will be able to improve their English language communication skills using a variety of interesting topics.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1)Introduction to the course: Self introduction
- 第2回My favourite place in Japan
- 第3回My important friends
- 第4回The sports I enjoy to watch and play
- 第5回The places I want to visit
- 第6回The food I like and what I can make
- 第7回My favourite movies and actors/actresses
- 第8回Countries of the world
- 第9回What I would buy with 10 million yen
- 第10回My family
- 第11回The music I like
- 第12回What I want to have for my dinner
- 第13回What I do in the morning (routine)
- 第14回The season I like
- 第15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam, class participation and positive attitude. To be explained in more detail in the first lesson.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

英語Ⅳ (中夜 1 年) 【夜】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中夜 1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

This course will focus on writing and discussion. The topic will change weekly and students will be asked to write their creative compositions in class for marking and evaluating. During this course, students will be able to improve their English language communication skills using a variety of interesting topics.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1)My summer holiday
- 第2回The pets I like / the animals I hate
- 第3回Health and fitness
- 第4回The crossword puzzle
- 第5回The person I want to meet
- 第6回What I want to do over New Year
- 第7回My stress in my life and how I relieve stress
- 第8回Sporting heros
- 第9回The TV programmes I like to watch
- 第10回My skills
- 第11回My future dream
- 第12回How I get the news in my life
- 第13回My three most important possessions
- 第14回My biggest worry at the moment
- 第15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam, class participation and positive attitude. To be explained in more detail in the first lesson.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

英語V (中夜 2 年) 【夜】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中夜 2 年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

Successful Keys to the TOEIC Test 1 (Second Edition)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Daily Life
- 2 回 Places
- 3 回 People
- 4 回 Travel
- 5 回 Business
- 6 回 Office
- 7 回 Technology
- 8 回 Personnel
- 9 回 Management
- 1 0 回 Purchasing
- 1 1 回 Finances
- 1 2 回 Media
- 1 3 回 Entertainment
- 1 4 回 Health
- 1 5 回 Restaurants

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ... 90% 日常の授業への取り組み ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の前半は、テキストを使ってTOEICの問題演習を行い、授業の後半は、プリントを使ってリーディングを行う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (中夜 2 年) 【夜】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中夜 2 年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

Successful Keys to the TOEIC Test 2 (Second Edition)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Daily Life
- 2 回 Places
- 3 回 People
- 4 回 Travel
- 5 回 Business
- 6 回 Office
- 7 回 Technology
- 8 回 Personnel
- 9 回 Management
- 1 0 回 Purchasing
- 1 1 回 Finances
- 1 2 回 Media
- 1 3 回 Entertainment
- 1 4 回 Health
- 1 5 回 Restaurants

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ... 90% 日常の授業への取り組み ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の前半は、テキストを使ってTOEICの問題演習を行い、授業の後半は、プリントを使ってリーディングを行う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

朝鮮語（韓国語）を基礎から学ぶ。入門段階ではハングル文字と発音を正確に習得することを目指す。ハングル文字はまるで記号のようにみえるが、実はとても科学的かつ合理的に作られている文字であり、パズルのように子音と母音を組み合わせれば容易に覚えらる。この講義では一言会話とともに、ハングルを見て正確に声に出して読めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

教科書：『韓国語の初歩（改訂版）』（巖基珠・金三順・金天鶴・申鉉竣・吉川友丈、白水社）定価2,200円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考図書：辞典『朝鮮語辞典』（小学館）定価8,000円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンス
2. 母音（1）
3. 子音（1）
4. 子音（2）
5. 子音（3）
6. 子音（4）
7. 子音（5）
8. 母音（2）
9. 終声（1）
10. 発音の変化（1）
11. 発音の変化（2）
12. 【指定詞の丁寧形】
13. 【指定詞の丁寧形・疑問】
14. 【指定詞の丁寧形・否定】
15. 【指定詞の丁寧形・否定の疑問】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・30%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・20%
学期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題への取り組み、小テストに向けた復習を十分に行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅱ【夜】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

日常会話程度の短いダイアログを覚えて、対話形式で話すことができる。初級テキストにあげる朝鮮語の基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようにする。また、日本語に訳すことができるようにする。

教科書 /Textbooks

教科書：『韓国語の初歩（改訂版）』（巖基珠・金三順・金天鶴・申鉉竣・吉川友丈、白水社）定価2,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考図書：辞典『朝鮮語辞典』（小学館）定価8,000円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 前期のまとめ、
2. 【指示代名詞】【疑問代名詞】
3. 【動詞と形容詞の丁寧形・疑問】
4. 【動詞と形容詞の丁寧形】
5. 【漢数詞】【固有数詞】
6. 【動詞と形容詞の丁寧形・否定】
7. 【指定詞の打ちとけた丁寧形・疑問と否定】
8. 【動詞と形容詞のうちとけた丁寧形】
9. 【動詞と形容詞のうちとけた丁寧形・変則活用】
10. 【尊敬表現の丁寧形・疑問と否定】
11. 【尊敬表現のうちとけた丁寧形・疑問と否定】
12. 【動詞と形容詞の丁寧形・過去】
13. 【動詞と形容詞のうちとけた丁寧形・過去】
14. 【意思・推量・婉曲表現】
15. 【願望表現】【勧誘表現】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・30%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・20%
学期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題への取り組み、小テストに向けた復習を十分に行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

朝鮮語（韓国語）を基礎から学ぶ。入門段階ではハングル文字と発音を正確に習得することを目指す。ハングル文字はまるで記号のようにみえるが、実はとても科学的かつ合理的に作られている文字であり、パズルのように子音と母音を組み合わせれば容易に覚えらる。この講義では一言会話とともに、ハングルを見て正確に声に出して読めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

教科書：『新チャレンジ！韓国語』（金順玉・阪堂千津子、白水社）定価2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考図書：辞典『朝鮮語辞典』（小学館）定価8,000円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 【基本母音と基本子音①】
2. 【基本子音と基本子音②】
3. 【激音と濃音】【合成母音字】
4. 【終声①】
5. 【終声②】
6. 発音のルール【連音化】【濃音化】
7. 発音のルール【激音化】【鼻音化】
8. その他の発音法則
9. 【指定詞の丁寧形】
10. 【指定詞の丁寧形・疑問と否定】
 - 1 1. 自己・物を紹介する時の表現（～といます）
 - 1 2. 【存在詞のうちとけた丁寧形】【場所をあらわす助詞】
 - 1 3. 【存在詞のうちとけた丁寧形・疑問】【時を表す単語および助詞】
 - 1 4. 【存在詞のうちとけた丁寧形・否定】【位置を表す単語および助詞】
 - 1 5. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・30%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・20%
学期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題への取り組み、小テストに向けた復習を十分に行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

日常会話程度の短いダイアログを覚えて、対話形式で話すことができる。初級テキストにあげる朝鮮語の基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようにする。また、日本語に訳することができるようにする。

教科書 /Textbooks

教科書：『新チャレンジ！韓国語』（金順玉・阪堂千津子、白水社）定価2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考図書：辞典『朝鮮語辞典』（小学館）定価8,000円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 前期のまとめ
2. 【指示代名詞】【疑問代名詞】
3. 【指定詞の打ちとけた丁寧形・疑問と否定】
4. 【動詞のうちとけた丁寧形】【固有数詞】
5. 【漢数詞】
6. 【一週間の予定】
7. 【動詞と形容詞のうちとけた丁寧形・疑問と否定】
8. 【目的表現】
9. 【動詞・形容詞の変則活用】
10. 【動詞と形容詞のうちとけた丁寧形・過去】
11. 【願望表現】
12. 【接続表現】【確認表現】
13. 【意思表現】【推測表現】
14. 【進行や状態の継続表現】
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・30%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・20%
学期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題への取り組み、小テストに向けた復習を十分に行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語概論、アルファベット
- 2回 文字と発音：母音、子音(1)、アクセント、疑問詞のある疑問文と答え方(1)
- 3回 子音(2)、疑問詞のある疑問文と答え方(2)、硬子音と軟子音、名詞の性
- 4回 所有代名詞、疑問詞のある疑問文と答え方(3)、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、疑問詞のない疑問文と答え方、イントネーション
- 6回 50音のロシア文字表記法
- 7回 一課前半 テキストの読み、内容解説、挨拶表現、ロシア人の名、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの読み、内容解説、人称代名詞、国名・国民名、名詞複数形
- 9回 二課前半 テキストの読み、内容解説、動詞の現在変化、接続詞、副詞、練習問題
- 10回 二課後半 テキストの読み、内容解説、名詞格変化(対格)、和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの読み、内容解説、所有表現、名詞格変化(前置格)、練習問題
- 12回 三課後半 テキストの読み、内容解説、形容詞、複数専用名詞、前置詞用法、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの読み、内容解説、動詞過去、個数詞、時間表現、練習
- 14回 四課後半 テキストの読み、内容解説、動詞の体、名詞格変化(生格)、和文露訳
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2 - 3回毎に1回の割合で単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。習ったことの復習に時間をかけて授業準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅱ【夜】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの読み、内容解説、動詞未来、前置詞句(1)、曜日
- 4回 五課後半 テキストの読み、内容解説、完了動詞未来、不定人称文、命令形、和文露訳
- 5回 六課前半 テキストの読み、内容解説、運動の動詞、行先表現、交通手段表現
- 6回 六課後半 テキストの読み、内容解説、出発と到着表現、場所に関する疑問詞、和文露訳
- 7回 七課前半 テキストの読み、内容解説、形容詞と副詞について、数量表現
- 8回 七課後半 テキストの読み、内容解説、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの読み、内容解説、無人称述語、動詞の格支配(1)(2)
- 10回 八課後半 テキストの読み、内容解説、義務・可能性表現、動詞の格支配(3)、和文露訳
- 11回 九課前半 テキストの読み、内容解説、年齢表現、年月日表現、比較級
- 12回 九課後半 テキストの読み、内容解説、値段表現、授与動詞、仮定法、和文露訳
- 13回 十課前半 テキストの読み、内容解説、関係代名詞、形容詞最上級、形容詞格変化
- 14回 十課後半 テキストの読み、内容解説、単文と複文、直接話法と間接話法、ことわざ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。復習に力を入れて授業準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅲ【夜】

担当者名 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 中国夜1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

聞き取り・発音、会話に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 アルファベットの読み
- 2回 文字と発音：母音と母音文字、アクセント、母音の発音規則
- 3回 発音しにくい子音、硬子音と軟子音、名詞の性の判別
- 4回 所有代名詞表現、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、文の種類とイントネーション型
- 6回 50音のロシア文字表記法、文字の書き方練習
- 7回 一課前半 テキストの繰り返し読み、挨拶表現、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの繰り返し読み、人称代名詞、名詞複数形、所有表現の練習
- 9回 二課前半 テキストの繰り返し読み、動詞の現在変化練習
- 10回 二課後半 テキストの繰り返し読み、動詞を使った和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの繰り返し読み、所有表現練習、場所表現問題
- 12回 三課後半 テキストの繰り返し読み、形容詞変化の練習、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの繰り返し読み、1-10までの個数詞と時間表現の練習
- 14回 四課後半 テキストの繰り返し読み、生格用法の練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2 - 3回に1回の割合で単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。習ったことの復習に時間をかけて授業準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

聞き取り・発音、会話に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの繰り返し読み、動詞未来表現、「・・・と一緒に」の表現練習
- 4回 五課後半 テキストの繰り返し読み、与格表現の練習、命令形の作り方練習
- 5回 六課前半 テキストの繰り返し読み、行先表現の練習、不規則動詞の発音練習
- 6回 六課後半 テキストの繰り返し読み、「どこへ」「どこで」「どこから」の表現練習
- 7回 七課前半 テキストの繰り返し読み、数量表現の練習、「雨・雪が降る」の表現
- 8回 七課後半 テキストの繰り返し読み、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの繰り返し読み、無人称文における述語表現の練習、月名の発音
- 10回 八課後半 テキストの繰り返し読み、義務・可能性表現の練習、「・・・は・・・が痛い」表現
- 11回 九課前半 テキストの繰り返し読み、年齢表現・年月日表現の練習
- 12回 九課後半 テキストの繰り返し読み、値段表現・仮定法表現の練習
- 13回 十課前半 テキストの繰り返し読み、関係代名詞構文の練習、形容詞格変化練習
- 14回 十課後半 テキストの繰り返し読み、単文と複文の練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。復習に力を入れて授業準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語I【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じること。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ドイツの若者をビデオで見る【アルファベット・発音】
- 2回 自己紹介【動詞の現在人称変化(1)、名詞】
- 3回 英語の君は話すの?【動詞の現在人称変化(2)、数詞】
- 4回 あなたの名前は何か?【動詞の現在人称変化(2)、時刻】
- 5回 私は父にこの本を贈ります。【人称代名詞、家族】
- 6回 私の夫はオーストリア人です。【冠詞類、月・季節】
- 7回 君は今日、暇ですか?【定形の位置(1)、曜日】
- 8回 もし私に暇があれば、小倉へ行きます。【定形の位置(2)】
- 9回 母の代わりに父が料理をします。【前置詞(1)】
- 10回 私は明日、街へ行きます。【前置詞(2)】
- 11回 ここに車を停めることができますか?【話法の助動詞(1)】
- 12回 私はこの手紙を日本へ送りたいのですが。【話法の助動詞(2)】
- 13回 なぜ君はパーティーにいかなかったの?【動詞の3基本形(1)】
- 14回 私には熱がありました。【動詞の3基本形(2)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語II【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じること。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオで「グリム兄弟の生涯」を見る。【(現在)完了形(1)】
- 2回 君は昨日何をしましたか？【(現在)完了形(2)】
- 3回 フランクフルト行きの列車はいつ発車するのですか？【分離動詞(1)】
- 4回 私はどこで下車しますか？【分離動詞(2)】
- 5回 私達はドイツのレストランへ行きます。【形容詞】
- 6回 私はベンチの上に座ります。【再帰動詞】
- 7回 雨が降っています。【esの用法】
- 8回 あなたが訪ねるその男性は私の友人です。【関係代名詞(1)】
- 9回 私が昨日見た映画は面白かった。【関係代名詞(2)】
- 10回 オーストリアではドイツ語が話されます。【受動(1)】
- 11回 山々は雪で覆われています。【受動(2)】
- 12回 夏にヨーロツパへ行く、と山下さんは言っています【接続法(1)】
- 13回 暇があれば、私もヨーロツパへ行くのになあ。【接続法(2)】
- 14回 ドイツ語を学ぶことは難しくありません。【分詞・zu不定詞】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じることに。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名前、出身、住所、挨拶。【規則動詞の現在人称変化、1・2人称、】
- 2回 名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
- 3回 紹介、数字、電話番号【3人称、数詞】
- 4回 各国の国名、車のナンバープレート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
- 5回 履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
- 6回 ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
- 7回 趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
- 8回 ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
- 9回 好物、外国料理【接続詞】
- 10回 ドイツの食事【頻度を表す副詞】
- 11回 家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、1(主)格】
- 12回 ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
- 2回 傘はドイツ語でなんと言うか【4(直接目的)格】
- 3回 住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の3格、】
- 4回 家賃はいくらですか、部屋の広さは
- 5回 時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
- 6回 日付、曜日、誕生日、今週の予定
- 7回 大学の建物、道案内、【副詞】
- 8回 交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
- 9回 休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
- 10回 ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
- 11回 過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
- 12回 クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語I【夜】

担当者名 福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 中国夜1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

最初の一步として、フランス語の基本文法を習得してもらいます。この授業の内容を理解すれば、辞書の引きかたはもちろん、簡単なフランス語の文章を読み解けるようになります。

教科書 /Textbooks

太田浩一・前田保他『[新装版]フランス語文法の〈基礎〉』（駿河台出版社、2500円）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『でる順 仏検単語集』駿河台出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名詞の性と数
- 2回 冠詞
- 3回 人称代名詞(1) : 主語
- 4回 動詞êtreとavoirの活用
- 5回 否定形
- 6回 形容詞
- 7回 第1群規則動詞
- 8回 疑問形
- 9回 指示形容詞
- 10回 所有形容詞
- 11回 動詞allerとvenirの活用
- 12回 近接未来と近接過去
- 13回 前置詞à、deと定冠詞の縮約
- 14回 疑問形容詞・疑問副詞
- 15回 疑問代名詞

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...30% 小テスト...20% 学期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞書(電子でも紙でもよい)必携のこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

仏検5級に合格できる程度の文法力をつけることを目指します。

キーワード /Keywords

フランス語II 【夜】

担当者名 /Instructor 福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

次の一歩として、フランス語の初級文法のほぼ全体を習得してもらいます。この授業の内容を理解すれば、辞書さえあれば、基本的なフランス語の文章を読み解けるようになります。

教科書 /Textbooks

太田浩一・前田保他『[新装版] フランス語文法の〈基礎〉』（駿河台出版社、2500円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『でる順 仏検単語集』駿河台出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第2群規則動詞
- 2回 比較級と最上級
- 3回 命令法
- 4回 非人称表現
- 5回 人称代名詞(2) : 目的語、強勢形
- 6回 複合過去
- 7回 関係代名詞
- 8回 指示代名詞
- 9回 代名動詞
- 10回 単純未来
- 11回 特殊な代名詞
- 12回 半過去
- 13回 受動態
- 14回 現在分詞とジェロンディフ
- 15回 条件法・接続法

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...30% 小テスト...20% 学期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞書(電子でも紙でもよい)必携のこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

仏検4級に合格できる程度の文法力をつけることを目指します。

キーワード /Keywords

フランス語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

DVD付きの教科書を使って、目と耳と口からフランス語の初歩的な会話表現を学びます。フランス語Ⅳとあわせて履修することで、一年間で日常的なフランス語を理解できるようになります。

教科書 /Textbooks

小笠原洋子『ピエールとユゴー [DVD付]』(白水社、2500円)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『でる順 仏検単語集』駿河台出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN
- 2回 あいさつ(1) : 自己紹介
- 3回 持ちものをたずねる
- 4回 趣味をたずねる
- 5回 onを使った表現
- 6回 あいさつ(2) : お元気ですか?
- 7回 年齢の言い方
- 8回 名前を聞く
- 9回 好きな色を聞く
- 10回 飲み物を頼む
- 11回 時刻の表現
- 12回 あいさつ(3) : 人を紹介する
- 13回 デザートを頼む
- 14回 代名動詞を使った表現
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...30% 小テスト...20% 学期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞書(電子でも紙でもよい)必携のこと。

履修上の注意 /Remarks

自宅で教材のDVDを再生できる環境を用意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

仏検5級に合格できる程度の力をつけることを目指します。

キーワード /Keywords

フランス語Ⅳ 【夜】

担当者名 /Instructor 福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

DVD付きの教科書を使って、目と耳と口からフランス語の初歩的な会話表現をさらに学んでいきます。フランス語Ⅲとあわせて履修することで、一年間で日常的なフランス語を理解できるようになります。

教科書 /Textbooks

小笠原洋子『ピエールとユゴー [DVD付] 』（白水社、2500円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『でる順 仏検単語集』駿河台出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 カフェで注文する
- 2回 曜日
- 3回 C'est + 形容詞の表現
- 4回 疑問代名詞のまとめ
- 5回 値段を聞く
- 6回 12ヶ月
- 7回 mondeを使った表現
- 8回 「～できる」という表現
- 9回 季節
- 10回 感嘆文
- 11回 依頼・願望の表現
- 12回 感情の表現
- 13回 義務の表現
- 14回 お礼のメールを出す
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...30% 小テスト...20% 学期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞書(電子でも紙でもよい)必携のこと。

履修上の注意 /Remarks

自宅で教材のDVDを再生できる環境を用意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

仏検4級に合格できる程度の力をつけることを目指します。

キーワード /Keywords

スペイン語I【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

スペイン語は「エスパニョール」といいます。この授業では、アルファベットから発音練習に慣れ親しみながら、文法・講読に重点的に学び、スペイン語の入門的基礎力を習得します。授業はテキストの練習のほか、動詞を中心にスペイン語文の構造を理解したいと思います。また映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会の諸相を学びます。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』（青木・辻・マリアJ、弘学社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語とは? その歴史
- 2回 アルファベット・発音・アクセント
- 3回 名詞の性・数・冠詞
- 4回 人称代名詞・基本動詞の変化
- 5回 直説法現在形の規則活用
- 6回 文の種類、肯定文、否定文、特殊疑問文
- 7回 基本的文章表現
- 8回 不規則動詞の活用と基本表現
- 9回 形容詞の性・数変化
- 10回 指示詞、所有形容詞
- 11回 代名詞目的格と基本表現
- 12回 不規則動詞と慣用的表現
- 13回 不定詞の用例
- 14回 重要表現の反復練習(プリント)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

スペイン語の動詞活用はやや難解です。連続して欠席するとついて行けません。分からない語彙は事前に辞書で調べることを。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語II【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

スペイン語Iの続編です。この授業で、スペイン語の初級文法を習得します。映像などを利用してスペインの歴史・文化・社会の諸相を学びたいと思います。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』（青木・辻・マリアJ, 弘学社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 現在完了形
- 2回 過去形(完了過去・不完了過去)
- 3回 不定語とその例文
- 4回 天候表現
- 5回 不規則動詞の過去形
- 6回 現在分詞、進行形と例文
- 7回 名詞節・副詞節・形容詞節
- 8回 未来形・条件未来・過去完了
- 9回 同上
- 10回 直接話法・間接話法(時制の一致)
- 11回 再帰動詞(1)
- 12回 再帰動詞(2)その用例
- 13回 接続法現在形と命令文
- 14回 接続法とその用例
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

辞書は必要です。授業にも辞書を持参すること。予習・復習を行い、スペイン語検定4級くらいは合格しよう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

スペイン語は「エスパニョール」といいます。授業では、アルファベットから発音練習に慣れ親しみながら、日常の生きた初歩的な会話表現を重点的に学び、スペイン語の入門の基礎力を習得します。授業は教員からの一方的な講義ではなく、「聴く・話す(発音)」方式を採用いたします。また、ときどき、映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会の諸相を学びたいと思います。

教科書 /Textbooks

『コミュニケーションのためのスペイン語』第三書房、2006年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウン西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入的なお話、スペイン語とスペイン語圏について
- 2回 アルファベット、単語の読み方
- 3回 人称代名詞、名詞の性と数、冠詞、挨拶表現
- 4回 規則動詞(1)、基本的表現
- 5回 動詞estar, ir を用いた表現
- 6回 動詞ser、形容詞・指示形容詞を用いた表現
- 7回 規則動詞(2) 基本的表現
- 8回 規則動詞(3) 基本的表現
- 9回 動詞(tener), 所有形容詞
- 10回 3つの規則動詞活用の復習
- 11回 動詞(estar, hay..)の基本用例
- 12回 動詞活用と基本表現のプラクティス
- 13回 重要な不規則動詞の基本表現
- 14回 便利な日常会話表現
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

外国語を学ぶには辞書は不可欠です。聴いて話す(発声)ことを反復すること。動詞の活用が難解です。この入門編でスペイン語の基礎を学部こととなりますが、出だしが肝心です。意欲的に取り組んでください

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業は1学期開講のスペイン語Ⅲの続編です。初歩的な会話表現に重点を置き、入門的基礎力を習得します。授業は教員からの一方的な講義ではなく、「聴く・話す(発音)」方式で行われます。また映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会の諸相を学びたいと思います。

教科書 /Textbooks

『コミュニケーションのためのスペイン語』第三書房、2006年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語Ⅲの復習-動詞の活用と基本表現
- 2回 直説法現在：不規則動詞、人称代名詞(目的格)
- 3回 人称代名詞を用いた表現
- 4回 近接未来表現など天候表現、時刻表現
- 5回 不規則動詞、不定詞表現、所有形容詞(その2)
- 6回 gustar(～が好きです)系の表現、間接目的格
- 7回 前置詞に導かれる人称代名詞
- 8回 復習：日常的表現
- 9回 再帰動詞(1)
- 10回 再帰動詞(2)
- 11回 ビデオでイスパニア圏を旅する
- 12回 比較級と最上級
- 13回 現在完了形
- 14回 現在進行形
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 70% 小テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから動詞の活用を繰り返し練習。辞書はいつでも携帯する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習 7 A 【夜】

担当者名
/Instructor

堀地 明 / 中国学科

履修年次 4年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

1学期

授業形態 演習
/Class Format

クラス 4年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

「中国の社会と歴史」「中国歴史及び現代中国分野での卒業論文等作成指導」
本授業は①テキスト輪読、及び②中国史及び現代中国分野での自由卒業研究報告を並行する。
①はテキストを輪読しながら、討論する。
②は中国史(政治・経済・社会の分野)及び現代中国論で卒論等執筆を目指し、随時研究報告を行う。

教科書 /Textbooks

現代中国語の研究文献をこちらで用意する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

研究する時代やテーマは執筆希望者の自由とし、テーマ選択にさいしては個別の相談に応じる。
卒業論文は必修ではないが、可能な限り執筆することを強く推奨する。履修ガイドの卒業論文の項目を熟読すること。

- 1回 オリエンテーリングと打ち合わせ 必ずテキストを購入の上、持参のこと
- 2回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 3回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 4回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 5回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 6回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 7回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 8回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 9回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 10回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 11回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 12回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 13回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 14回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 15回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・討論・論文提出により総合的に評価する。卒論執筆を希望しない者は400字換算で30枚以上のゼミ論文を提出し、演習の4単位が取得可能である。卒論執筆希望者は400字換算で30枚以上の卒業論文を提出し口頭試験をへて、演習4単位と卒業論文8単位が取得可能である。卒論・ゼミ論とも基本的には同様の扱いとする。
報告と討論... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告担当時に入念に準備すること。

履修上の注意 /Remarks

卒業論文は4年間の学生生活の集大成として、必ず執筆して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎年4月に卒論執筆のガイダンスをすると、学生諸君の表情は不安でいっぱいですが、夏休み前に論文テーマが決まり、研究が進展すると、課題を追求する学究の表情になってきます。卒業論執筆を通じて、課題発見力・発表するスキル・文章作成能力を習得してほしいと思います。前期の目標は夏休み前に、研究題目をほぼ確定することです。

キーワード /Keywords

文献輪読、卒業研究

卒業研究演習 7 B 【夜】

担当者名
/Instructor

堀地 明 / 中国学科

履修年次 4年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

2学期

授業形態 演習
/Class Format

クラス 4年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

「中国の社会と歴史」「中国歴史及び現代中国分野での卒業論文等作成指導」
本授業は①テキスト輪読、及び②中国史及び現代中国分野での自由卒業研究報告を並行する。
①は中国の社会と歴史を深く理解するべく、レジユメを作成し報告・討論。
②は中国史（政治・経済・社会の分野）及び現代中国論で卒論等執筆を目指し、随時研究報告を行う。

教科書 /Textbooks

入江曜子『溥儀』岩波新書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

研究する時代やテーマは執筆希望者の自由とし、テーマ選択にさいしては個別の相談に応じる。
卒業論文は必修ではないが、可能な限り執筆することを強く推奨する。履修ガイドの卒業論文の項目を熟読すること。

- 1回 オリエンテーリングと打ち合わせ 必ずテキストを購入の上、持参のこと
- 2回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 3回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 4回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 5回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 6回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 7回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 8回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 9回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 10回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 11回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 12回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 13回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 14回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告
- 15回 テキスト輪読ないしは卒論研究報告

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・報告・討論・論文提出により総合的に評価する。卒論執筆を希望しない者は400字換算で30枚以上のゼミ論文を提出し、演習の4単位が取得可能である。卒論執筆希望者は400字換算で30枚以上の卒業論文を提出し口頭試験をへて、演習4単位と卒業論文8単位が取得可能である。卒論・ゼミ論とも基本的には同様の扱いとする。

出席... % 報告と討論... %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告担当時に入念に準備すること。

履修上の注意 /Remarks

卒業論文は4年間の学生生活の集大成として、必ず執筆して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

後期の目標は12月中旬までに論文の章立てを完成させ、論文を執筆し完成させることです。前期の報告をふまえて、数回の研究報告を行い、過去の研究報告をまとめながら論文の章立てを完成させます。

キーワード /Keywords

文献輪読、卒業研究

国際経済論I【夜】

担当者名 /Instructor 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、海外直接投資、経済・通貨統合など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済論の習得が必要不可欠である。

< 本講義の概要 >

- 1, 国家間の貿易がなぜ発生するのかその仕組みを学ぶ。
- 2, 関税、補助金など貿易政策の経済効果を図解分析を通じて学ぶ。
- 3, 自由貿易協定、海外直接投資などについての理解を深める。

< 本講義の主な到達目標 >

- 1, 国際経済に関する諸問題を理解するために必要な専門知識を習得する。
- 2, 貿易政策の経済効果を理解するために部分均衡分析の手法を身につける。
- 3, グローバル社会が抱える諸問題を考察し、いかに解決できるか経済学の視点から理解できるようになる。

教科書 /Textbooks

大川昌幸『コア・テキスト国際経済学』（新世社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

石川城太他『国際経済学をつかむ』（有斐閣）
石井安憲他『入門・国際経済学』（有斐閣）
浦田秀次郎『国際経済学入門（経済学入門シリーズ）』（日経文庫）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 リカード・モデル（1）【絶対優位】【比較優位】
- 3回 リカード・モデル（2）【貿易パターン】
- 4回 ヘクシャー＝オリーン・モデル（1）【要素賦存】【要素集約度】
- 5回 ヘクシャー＝オリーン・モデル（2）【リプチンスキー定理】【ストルパー＝サミュエルソン定理】
- 6回 貿易政策分析の基礎（1）【部分均衡分析】【消費者余剰】【生産者余剰】
- 7回 貿易政策分析の基礎（2）【自由貿易の利益】
- 8回 小国の貿易政策（1）【関税政策】、【補助金政策】
- 9回 小国の貿易政策（2）【数量割当政策】
- 10回 大国の貿易政策（1）【関税政策】
- 11回 大国の貿易政策（2）【数量割当政策】
- 12回 経済統合【FTA】【CU】
- 13回 国際要素移動（1）【海外直接投資】
- 14回 国際要素移動（2）【国際労働移動】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出 10~20 % 期末試験 80~90 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミクロ経済学をすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになる。
主に図解分析で講義を進めるので、国際経済論の勉強を通じて論理的思考力を身につけてほしい。
部分均衡分析に関しては、清野著『ミクロ経済学入門』（日本評論社）を参照されたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際経済のメカニズム及び国際経済問題を包括的に理解するためには、「国際経済論II」と併せて履修することが望ましい。

キーワード /Keywords

自由貿易、貿易政策、経済統合、海外直接投資

国際経済論II 【夜】

担当者名 /Instructor 福間 比呂志 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講座では、「国際経済論I」の内容を踏まえて、国際マクロ経済学の応用として、国際金融論の基本的な考え方とその周辺知識について、出来るだけ数式を使わず平易に解説します。それによって、多国籍企業と直接投資および国際分業体制の構築、国際的な資本・労働移転、TPP（環太平洋経済連携協定）等、昨今のグローバル経済を取り巻く諸問題が起こる要因とそれらが国内外経済に及ぼすインパクトについて論理的に思考するための基礎力を養成します。

教科書 /Textbooks

大川昌幸『コア・テキスト国際経済学』（新世社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小川英治『国際金融入門（経済学入門シリーズ）』（日経文庫）
橋本優子他『国際金融論をつかむ』（有斐閣）
岩本武和『国際経済学（国際金融編）』（ミネルヴァ書房）
ポール・R・クルーグマン他『クルーグマンの国際経済学（下巻（金融編））理論と政策』（ピアソン桐原）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 海外取引と国際収支（1）
- 3回 海外取引と国際収支（2）
- 4回 外国為替市場と為替レート（1）
- 5回 外国為替市場と為替レート（2）
- 6回 先物為替市場と通貨オプション
- 7回 為替レートの決定理論（1）
- 8回 為替レートの決定理論（2）
- 9回 開放経済と国民所得（1）
- 10回 開放経済と国民所得（2）
- 11回 開放経済のマクロ経済政策（1）- マンデル＝フレミング・モデル -
- 12回 開放経済のマクロ経済政策（2）- 固定相場制の財政・金融政策 -
- 13回 開放経済のマクロ経済政策（3）- 変動相場制の財政・金融政策 -
- 14回 国際資本市場と金融のグローバル化
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・課題 20~30% 期末試験 70~80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予備知識を特に前提としませんが、マクロ経済学の初歩的知識を事前に習得していると理解が一層容易になります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際経済学をミクロとマクロの両面で一通り概観するためには、「国際経済論I」と併せて履修することが望ましい。

キーワード /Keywords

国際収支、為替レート、マンデル＝フレミング・モデル、国際資本市場

国際法I【夜】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。
国際法とは何か【法源論】【法の性質】、それはどのように形成され【法の定立】、実際に運用されていくのか【法の実施・履行】、【法の適用・解釈】、紛争はどのように処理されるのか【紛争解決】などの問題を取り扱うとともに、国際法上の国家とは何か【国家の要件】【承認】、国家にはどのような権利が認められ、義務が課されるのか【国家の基本的権利・義務】、それはどのように行使され、どこまで認められるのか【領域】【管轄権の競合と調整】【法の支配】などを取り扱います。

教科書 /Textbooks

杉原高嶺編『コンサイス条約集』（三省堂，2009年） 1500円＋税
講義の理解に必要な参考資料を、適宜配布、します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書・参考文献は、初回講義時に、また適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス，国際法の法源

第I部「条約の締結，留保，国内実施，履行確保 - 女子差別撤廃条約を題材に」

第2回 女子差別撤廃条約が結ばれるまで

第3回 女子差別撤廃条約の条約上の義務の履行

第4回 女子差別撤廃条約委員会による締約国の履行状況の監視

第II部「主権国家，平等権，不干渉義務」

第5回 国際法上の国家とは

第6回 国家は法的に平等って言うけれど・・・

第7回 外国は他国の国内問題にどこまで関与できるのか

第8回 第I部・第II部のまとめ

第III部「領域と国際法」

第9回 領域制度

第10回 日本と領土問題

第11回 領域国による海・空の実効的支配

第IV部「国際社会における秩序の維持，法の支配の確立への挑戦」

第12回 戦争の違法化と平和的解決の義務化の流れ

第13回 国際司法裁判所(ICJ)と法の支配

第14回 国際刑事裁判所(ICC)と法の支配

第15回 第III部・第IV部のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題および学期末試験で評価します。
課題...30% 学期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、予習を前提とした講義を展開します。
指示された課題に誠実に取り組んでから、授業に臨むようにしてください。
詳細は、学習支援フォルダーで確認してください。

履修上の注意 /Remarks

「国際法II」と併せて受講すると学習効果があがります。
成績評価において、授業を通じ提出を求められる課題への対応の比率が高く設定されています。
そのため単位取得のためには、提出を求められた課題に対し、誠実に取り組むことが必要となりますので、受講の決定の際には、この点に注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

5つの願いがあります。
国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国際法の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。国際社会における主権国家の機能・役割を正しく理解してほしい。そして国際法は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

キーワード /Keywords

【国際法の定立】、【国際法の実施・履行】、【国際法の適用・解釈】、【紛争解決】【国家の要件】【承認】【国家の基本的権利・義務】【領域】【管轄権の競合と調整】【法の支配】

国際法II【夜】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。
地球規模の課題とされる「安全保障、核兵器、軍縮・軍備管理」「人権、人道」「開発」「環境」「貿易」などの国際問題をとりあげ、その問題解決のために「国家」「国際機構」「個人」がどのように国際的に協力・協働してきているのかについて、「国益」「共通利益」「国際社会の公益」という3つの異なるレベルの視点に留意しながら、考察していきます。

教科書 /Textbooks

杉原高嶺編『コンサイス条約集』（三省堂、2009年） 1500円＋税
講義の理解に必要な参考資料を、適宜配布、します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書 横田洋三編『国際法入門（第2版）』（有斐閣・2005）○
参考文献は、初回講義時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス

第I部「安全保障、核兵器、軍縮・軍備管理」

- 第2回 国連の集団安全保障体制とその実効性
- 第3回 核兵器と国際法
- 第4回 通常兵器

第II部「人権・人道」

- 第5回 人権の普遍性と国籍 - 外国人との共生を考える
- 第6回 難民の国際的保護
- 第7回 国際人道法

第8回 第I部・第II部のまとめ

第III部「開発」

- 第9回 開発と国際法
- 第10回 開発援助と人権
- 第11回 国連開発計画（UNDP）の人間開発指数（HDI）が提起した問題

第IV部「環境・貿易」

- 第12回 地球環境を保護する責任 - 共通だが差異のある責任の議論と世代間倫理の観点から
- 第13回 貿易自由化の推進と国内生産の保護とのほざまで
- 第14回 環境と貿易 2つの価値の衝突と調整

第15回 第III部・第IV部のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題等への対応および学期末試験で評価します。
課題等への対応...30% 学期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、予習を前提とした講義を展開します。
指示された課題に誠実に取り組んでから、授業に臨むようにしてください。
詳細は、学習支援フォルダーで確認してください。

国際法Ⅱ【夜】

履修上の注意 /Remarks

「国際法Ⅰ」と併せて受講すると学習効果があがります。
成績評価において、授業を通じ提出を求められる課題への対応の比率が高く設定されています。
そのため単位取得のためには、提出を求められた課題に対し、誠実に取り組むことが必要となりますので、受講の決定の際には、この点に注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

4つの願いがあります。
国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国際社会における、主権国家の機能・役割や、国際機構の機能・役割、個人（NGO等）の機能・役割を正しく理解してほしい。そして国益、共通利益、国際社会の公益について、積極的に考えてほしい。

キーワード /Keywords

【地球的規模の課題】 【国際協力】 【国家】 【国際機構】 【個人】 【国益】 【共通利益】 【国際社会の公益】

アメリカ経済【夜】

担当者名 /Instructor 山崎 好裕 / Yoshihiro Yamazaki / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

世界金融危機の発信地となったアメリカは、昨年末の大統領選でオバマ氏を再選しました。そのオバマ大統領の2期目は「財政の崖」問題で始まるなど、経済面で目の離せない大国アメリカです。それでも、日本・アジアと貿易や金融取引の面で関係の深いアメリカですし、世界最大の経済ですから、それを学ぶことの意味は非常に大きいでしょう。でも、そもそもアメリカって...? 経済って...? 授業では、研究者としてアメリカに住んでいた時期や学会出席時の私の体験談、また、南北戦争マニアの私ならではの歴史上のエピソードもたっぷり交え、楽しくアメリカについて学びます。

教科書 /Textbooks

山崎好裕『目からウロコの経済学入門』ミネルヴァ書房、2004年11月。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山口義行編『終わりなき世界金融危機 - バブルレス・エコノミーの時代』岩波書店、2012年9月。
町山智浩『99%対1%アメリカ格差ウォーズ』講談社、2012年9月。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 アメリカの産業と所得
- 2 アメリカの所得分配と社会保障
- 3 アメリカ家計の消費と貯蓄
- 4 アメリカの社会階層と失業
- 5 アメリカ企業と収益
- 6 アメリカ企業と投資
- 7 アメリカ政府と税制
- 8 アメリカの政府支出と財政
- 9 アメリカの通貨制度
- 10 アメリカの金融システム
- 11 アメリカ経済と金利
- 12 アメリカの国際収支
- 13 アメリカ経済と為替レート
- 14 アメリカ経済と物価
- 15 アメリカの経済成長と景気

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...80% レポート...20%

定期試験では、アメリカ経済の制度的特徴についての穴埋め問題が6問、全体的特色についての○×問題が8問、テキストのコラムにある計算問題が1問出題されます。レポートはアメリカ経済についてのプリントを読んでまとめてもらい、自分の感想・見解と一緒に2000字程度にまとめてもらいます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講すれば、みんなの頭にアメリカのはっきりしたイメージが浮かび、なおかつ、経済というものを身近に感じるはずで。経済学を学んだことがある人もない人も、安心して受講してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私は福岡大学教授(経済学部・大学院経済学研究科)・東京大学経済学博士なので、普段は北方キャンパスにいません。質問や相談はメール(yamazaki@cis.fukuoka-u.ac.jp)に送ってください。

キーワード /Keywords

World Largest Economy 消費大国 サービス経済化 QE3 「財政の崖」 経常収支赤字 所得格差 投資銀行 ファンド 住宅投資 基軸通貨

国際貿易論I【夜】

担当者名 /Instructor 山口 実 /YAMAGUCHI, Minoru / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

日本は明治維新以降、貿易立国として発展繁栄して来たが、少子高齢化なのでの影響で国内の需要が伸び悩み、需要を海外に求めざる状況となっている。従って、このようなボーダレス社会に対応できる人材の育成が急務である。この講義では、①国際貿易を通じて、日本経済が国際的に直面している課題を考える。②日本経済の変化に応じて貿易についての最新動向を伝える。③「貿易理論」を偏重せず、貿易を巡る現状を解説し、その対応について各自考え、議論していく。そして④将来の国際貿易のあり方について具体的に考えて行く。また、⑤九州の地域特性を生かした、貿易のあり方についても考える。

教科書 /Textbooks

教材用のプリントを事前に配布する。
国際貿易の最新動向を報道や情報のビデオを視聴する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

立石揚志「海外直接投資とアジアの貿易循環」ふくろう出版(2007年)○
小川雄平編「新版貿易論を学ぶ人のために」世界思想社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 国際貿易とは何か、現代の貿易と経済、貿易の基礎知識
- 2回 貿易と経済・社会
- 3回 貿易と国際収支、為替レート
- 4回 貿易を巡る国際的枠組みとIMF(国際通貨基金)体制
- 5回 GATT(関税と貿易に関する一般協定)からWTO(世界貿易機関)体制へ
- 6回 FTA(自由貿易協定) / EPA(経済連携協定)を巡る国際的動き
- 7回 東アジア共同体構想の現状と将来
- 8回 日本経済と貿易の歩み
- 9回 貿易摩擦の変遷と日本の対応
- 10回 アジアとの生産分業が進んだ90年代以降の貿易
- 11回 貿易を巡る新しい動き(TPP環太平洋経済連携協定)「
- 12回 日中、日韓、日ASEANの貿易
- 13回 直接投資の増大と貿易
- 14回 日本の貿易の将来
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(議論参加・発表を含む)...25%、課題...25%、期末レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

前もってプリントを配布するので、良く読んでおくこと。
講義の項目について、自分でも考える習慣をつけること。

履修上の注意 /Remarks

新聞や経済雑誌・インターネットを中心とする貿易に関する情報に常に興味をもち、それらの情報を検証すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際貿易を20数年間担当統括し、10数年の海外駐在と数十ヶ国で貿易交渉をしてきた講師が、当事者としての経験や智慧を伝えますので、これからの日本の国際貿易のあり方について当事者意識を持って考え学んで行きましょう。

キーワード /Keywords

互助共生、現場主義

国際貿易論II 【夜】

担当者名 /Instructor 山口 実 / YAMAGUCHI, Minoru / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

日本は明治維新以降、貿易立国として発展繁栄して来たが、現在少子高齢化なので影響で国内の需要が伸び悩み、需要を海外に求めざる状況となっている。従って、このようなボーダレス社会に対応できる人財の育成が急務である。この講義では、①国際貿易を通じて、日本経済が国際的に直面している課題を考える。②日本経済の変化に応じて貿易についての最新動向を伝える。③「貿易理論」を偏重せず、貿易を巡る現状を解説し、その対応について各自考え、議論していく。そして④将来の国際貿易のあり方について具体的に考えて行く。また、⑤九州の地域特性を生かした、貿易のあり方についても考える。

教科書 /Textbooks

教材用のプリントを事前に配布する。
国際貿易の最新動向を報道や情報のビデオを視聴する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

立石揚志「海外直接投資とアジアの貿易循環」ふくろう出版(2007年)○
小川雄平編「新版貿易論を学ぶ人のために」世界思想社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 貿易決済(貿易用語のおさらい)
- 2回 日本の財務・金融政策の現状
- 3回 直接投資の増大と貿易
- 4回 アジアを中心とするFTA、EPAの動き
- 5回 TPP(環太平洋経済連携協定)との関連
- 6回 九州地域とTPP
- 7回 東アジア共同体構想の推移
- 8回 日中韓のFTAの歴史
- 9回 東アジア共同体の課題
- 10回 アメリカのアジア回帰(TPPと東アジア共同体)
- 11回 東北アジアの発展とLogistics
- 12回 日本のエネルギー政策と国際貿易
- 13回 TPPの今後と国際貿易に関するトピックス
- 14回 アメリカ、中国、日本の協力と国際貿易の発展
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(議論参加・発表を含む)...25%、課題...25%、期末レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

前もってプリントを配布するので、良く読んでおくこと。
講義の項目について、自分でも考える習慣をつけること。

履修上の注意 /Remarks

新聞や経済雑誌・インターネットを中心とする貿易に関する情報に常に関心をもち、それらの情報を検証すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際貿易を20数年間担当統括し、10数年の海外駐在と数十ヶ国で貿易交渉をしてきた講師が、当事者としての経験や智恵を伝えますので、これからの日本の国際貿易のあり方について当事者意識を持って考え学んで行きましょう。

キーワード /Keywords

互助共生、現場主義

教師論 【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

教職の意義、教員の役割、教員の職務内容等に関する知識を習得し、教職についての理解を深め、教職について多角的に考察し、教職についての意欲や適性等を熟考し、「学生が教員としての適格性を持つためにどのような努力をしていけばよいのか」ということを含めて、進路選択について指導・助言を受ける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【】内はキーワード)	
1回 学校教育と教職の意義	【学校教育】【教職】
2回 学校教育と教員の役割	【学校】【教育】【教員の役割】
3回 学校教育の「目的」	【教育目的論】
4回 学校教育の「内容」と「方法」	【教育課程】【教育課程の編成原理】
5回 教員の職務内容と「生徒指導」	【教員の職務】【生徒指導の伝統】
6回 キャリア教育	【職業選択の基礎理論】【進路選択】
7回 教員の使命	【教育の論理】【生活の論理】
8回 「生きる力」と教員の役割	【青少年の意識】【愛と要求】
9回 「自主的な問題解決」と教員の役割	【自主性】【生徒の意識】
10回 「いのちの教育」と教員の役割	【生と死の教育課程】
11回 「身体の教育」と教員の役割	【健康管理】【食教育】【排便教育】
12回 「喫煙防止」と教員の役割	【未成年者喫煙防止法】
13回 「掃除」と教員の役割	【学校掃除】【掃除の指導】
14回 「評価」「懲戒」と「体罰」の相違	【評価の種類】【体罰】
15回 教員の「資質」と「適格性」/まとめ	【指導】【管理】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育原理【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

課題

教育に関わる基礎的な知識を習得し、現代の教育における問題について学ぶ。

目標

- ①教育に関わる基礎的な知識を習得する。
- ②教育の課題について整理し、対応策を考えることができるようになる。

教科書 /Textbooks

なし。プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 発達と教育
- 2回 教育の方法
- 3回 教育の関係
- 4回 諸外国の教育思想
- 5回 日本の教育思想
- 6回 諸外国の教育史
- 7回 日本の教育史
- 8回 学校とは何か
- 9回 現代の学校が抱える課題
- 10回 家庭教育の基礎と現代的課題
- 11回 メディアと教育
- 12回 職業と教育
- 13回 国際化と教育
- 14回 生涯学習社会における教育
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 20% 課題 20% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

乳児期から老年期までの各発達段階における特徴的なテーマを通して人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。

同時に、発達の過程で生じる障害の発生機序について、発達障害、知的障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解を築いていく。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①人間の発達について理解し、基礎的な専門知識を身につける。
- ②人間関係や発達に関する諸課題を的確に捉え、総合的な視点から考察することができる。
- ③人間と社会との関係に問題意識をもち、主体的に学習できる。

教科書 /Textbooks

藤村 宣之 編著
『発達心理学 周りの世界とかがわりながら人はいかに育つか (いちばんはじめに読む心理学の本3)』
ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 乳児期①【知覚、認知、言語の発達】
- 第3回 乳児期②【発達のメカニズム】
- 第4回 乳児期③【人との関係のはじまり】
- 第5回 幼児期①【知能・認知の発達】
- 第6回 幼児期②【表象能力、心の理論】
- 第7回 幼児期③【自己の育ちと他者との関係】
- 第8回 児童期①【思考の深まり】
- 第9回 児童期②【友人とのかがりわりと社会性の発達】
- 第10回 青年期①【アイデンティティの形成】
- 第11回 青年期②【人間関係、青年期の問題行動】
- 第12回 成人期【家族形成、成熟】
- 第13回 老年期【人生の振り返り】
- 第14回 発達障害の発生機序について【発達障害、知的障害を中心に】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育制度【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

概要

教育制度に関わる基礎的な知識を習得し、現代の教育制度における課題について学ぶ。

目標

- ①教育制度についての基礎的な知識を習得する。
- ②教育制度における課題について整理し、対応策などを考えることができるようになる。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本原則 教育制度とは 日本の教育法制
- 2回 学校制度の基本的事項(1) 機会均等、学校教育における中立性等
- 3回 学校制度の基本的事項(2) 義務教育、学校体系等
- 4回 教員に関する制度 教員免許法制、公務員としての教師、教員の指導力と研修等
- 5回 教育行財政の仕組み 中央教育行政、地方教育行政、教育委員会と学校等
- 6回 生涯学習の制度 成人教育、学校教育と社会教育の連携等
- 7回 教育制度改革の動向 学校選択制、学校評価等
- 8回 教育課程の意義と編成(1) 学習指導要領、教科書・教材等
- 9回 教育課程の意義と編成(2) 学校の教育課程編成
- 10回 学校における教育課程経営
- 11回 「カリキュラム・マネジメント」と学校改善
- 12回 教育課程の評価
- 13回 教育課程の開発
- 14回 今日の課題と教育課程
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育の研究【夜】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業では、「学習指導要領」に規定されている「学校教育」（中学校・高等学校の教育；参考のために小学校の教育も含む）における「道徳教育」の理念と具体的な実践方法について学習する。

教科書 /Textbooks

『中学校学習指導要領』及び『高等学校学習指導要領』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 「学校教育」における道徳教育の構造	【学校教育の全領域】
2回 「各教科」と道徳教育	【陶冶】【訓育】
3回 「特別活動」と道徳教育	【学級活動】【生徒会活動】【学校行事】
4回 「総合的な学習の時間」と道徳教育	【横断的・総合的な学習】【活動】
5回 「道徳の時間」と道徳教育	【道徳の時間の指導内容】【全体計画】
6回 「道徳の時間」の指導過程	【指導方法】
7回 「道徳の時間」の指導技術	【学習指導案】【指導技術】
8回 「道徳の時間」と「モラルジレンマ」	【ジレンマ教材】【対立・葛藤】
9回 「道徳の時間」と「役割演技」	【動作化】【ロール・プレイ】
10回 「道徳の時間」と「アサーション」	【主張】
11回 「道徳の時間」と「エンカウンター」	【出会い】【構成的グループエンカウンター】
12回 「道徳の時間」と「作文」	【教育的リアリズム】【教育的ヒューマニズム】
13回 「道徳の時間」と「体験」	【自然体験】【社会体験】
14回 「道徳の時間」の「指導事例」	【指導技術】
14回 「道徳の時間」の「模擬授業」	【評価】
15回 まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動の研究【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講義では、以下の課題を柱として取り組んでいきたい。

- ① 「中学校学習指導要領」及び「高等学校学習指導要領」の「特別活動」の目的、領域(学級活動、生徒会活動、学校行事)の理解を理論的、実践的に深めること。
- ② 子どもたちがお互いの生きづらさや葛藤を理解し、表現しあう中で、お互いを支え合える関係づくりを学級活動の中で築いていくための課題と実践方法を検討していくこと。
- ③ 市民社会の担い手に求められる市民的スキルを学級活動などを通じて獲得させていく方法を実践的に学習すること。
- ④ 子どもたちの自己効力感、自己有用感を育み、自治の力を育む生徒会活動、学校行事のあり方について、具体的な実践報告を踏まえつつ検討していくこと。
- ⑤ 上記の理念と実践を踏まえて、学級経営、学校行事の指導計画を学習すること

教科書 /Textbooks

楠 凡之著「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)、主要には第7章を使用する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

中学校学習指導要領 及び高等学校学習指導要領 特別活動
折出健二編 2008 「特別活動」(教師教育テキストシリーズ) 学文社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体オリエンテーション - 「特別活動」の意義
- 2回 「中学校学習指導要領」及び「高等学校学習指導要領」の「特別活動」の目的・領域について
- 3回 参加者の現実の学校体験から、学級活動の課題を考える。
- 4回 子ども達の対人関係スキルを育てるHR活動 その1
- 対立解決 (conflict resolution) の多様なパターン
- 5回 子どもたちの対人関係スキルを育てるHR活動 その2 - WinWin型で解決するために
- 6回 子どもたちの対人関係スキルを育てるHR活動 その3 - ロールプレイの取り組み
- 7回 すべての子どもの居場所となる学級集団指導の留意点
- 8回 学級経営の指導計画案について
- 9回 子どもたちの自治の力を育てる生徒会活動の課題と方法
- 10回 子ども達の自治の力を育てる学校行事の課題 - 体育祭の取り組み
- 11回 子ども達の自治の力を育てる学校行事の課題 - 文化祭・合唱コンクールの取り組み
- 12回 子どもたちの自治の力を育てる学校行事の課題 - 修学旅行の取り組み
- 13回 荒れている学級をどう立て直すか? - 中学校の実践
- 14回 荒れている学級をどう立て直すか? - 高等学校の実践
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40%、期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受け身的な参加では実践的指導力は身に付かない。積極的な態度での参加を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は人間関係学科の専門科目にもなっていますが、基本的には教職課程の科目です。教師をめざす学生に求められる真摯な授業態度や積極的な活動への参加を期待します。

キーワード /Keywords

学級づくり、対立解決のスキル、自治能力の育成

教育方法学【夜】

担当者名 田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本授業では、各教科を実際に指導する授業の場面を想定し、学習指導案の作成や教材研究等を組み入れて、将来の高度情報社会に生きる生徒に必要な資質を養うための、情報機器及び教材の活用を含んだ実践的な教育の方法の理論と技術を習得する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山下政俊・湯浅恭編著『教育の方法』ミネルヴァ書房、他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 「教育の方法」とは何か 【教育の方法の形態】【比喻・モデル】
- 2回 20世紀までの「教育の方法」の遺産 【指導】【管理】【生活と文化】【対話】
- 3回 「現代」の「教育の方法」 【連続と非連続】【現代化】
- 4回 「新しい時代」の教師の「指導技術」 【教師の資質能力】【ファシリテーター】
- 5回 「情報機器」と「教材」の活用 【メディアリテラシー】【情報活用能力】
- 6回 「情報化社会」における生徒の指導 【情報化社会】【インターネット】
- 7回 「学習遅滞」の指導 【学習遅滞】【SHELLモデル】
- 8回 教師と生徒の「コミュニケーション」 【話す】【聞く】
- 9回 「学習規律」を育てる指導方法 【出席と参加】【学習規律】
- 10回 各教科指導の「具体的システム」 【学習指導要領】【学習のシステム】
- 11回 各教科指導の「構想」と「教材研究」 【授業の三角形モデル】【事前の教材解釈】
- 12回 各教科指導の「学習指導案」 【指導】【学習活動】【指導上の留意点】
- 13回 各教科指導の「展開過程」における「指導技術」 【発問】【説明】【指示】【助言】
- 14回 各教科指導における「評価」 【授業評価】【自己評価】
- 15回 「模擬授業」 - 各教科指導に向けて - 【実践的な指導】【各教科の授業】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育工学【夜】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講義は、教員免許を取得するにあたって必要な教育方法・技術、教材と教具、指導方法を学び、授業の実践的指導力の基礎を養うことを目標とする。また近年の著しいICT(情報通信技術)の進展を踏まえ、PCやWebを活用した教材作成の方法・技術の修得の基礎についても概観する。さらに、模擬授業の実施及び評価等を通して、教育の方法と技術の実践的活用能力の基礎を育成し、各教科等の指導に最小限必要な資質について学ぶことを主なねらいとする。

教科書 /Textbooks

指定しない。必要な資料を適宜事業で配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中学校学習指導要領 平成20年3月告示 東山書房 244円
 高等学校学習指導要領 平成21年3月告示東山書房 588円
 平沢茂編著 教育の方法と技術 図書文化2000円
 小川哲生他著 教育方法の理論と実践 明星大学出版部 1500円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
1. オリエンテーション【本授業の内容・進行・評価方法】
 2. 授業と教育方法【教育方法】
 3. 授業と教育技術【教育技術】
 4. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順【授業設計】
 5. 授業過程の分析と改善【授業過程】
 6. 授業実施の技術【授業技術】
 7. 授業の評価【授業評価】
 8. 教育における情報化社会の影響【情報化社会】
 9. 教育におけるICT(情報通信技術)の活用【ICT】
 10. 学習指導案の作成【学習指導案】
 11. 教材研究【教育メディアとその活用】
 12. 模擬授業【模擬授業】
 13. テストと学習内容の評価【テスト】
 14. 授業実践能力の改善と向上【教育の方法と技術の実践能力】
 15. 現代の教育課題と講義のまとめ【現代の教育課題】

成績評価の方法 /Assessment Method

教材研究課題(20%)、模擬授業(30%)、試験(50%)により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教材研究、模擬授業等に関する課題の提出は必須の課題となります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 1 【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」(実習校実習)に向けて、実習生として必要な心構えや学習指導及び生徒指導等の理論や知識・技術を習得する。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 オリエンテーション	【教育実習】 【実習校】
2回 教育実習の1日	【教育実習の実態】 【教師の勤務】
3回 教育実習の体験から学ぶ(中学)	【教科指導】 【学級経営】
4回 教育実習の体験から学ぶ(高校)	【教科指導】 【学級経営】
5回 生徒の人権と教育	【人権】 【自尊感情】
6回 授業観察の方法	【授業観察の視点】 【授業記録シート】
7回 学級経営について	【学級集団づくり】 【学級通信】
8回 生徒の問題状況と生徒指導	【生徒指導】 【生徒理解】
9回 生徒指導と教育相談	【生徒理解】 【生徒指導体制】
10回 教育実習における特別活動の指導	【特別活動】 【参加】
11回 教材研究と授業構想	【教材研究】 【学習指導案】
12回 模擬授業①(中学/高校:学習指導案)	【学習指導案】 【導入】
13回 模擬授業②(中学/高校:授業構成)	【授業構成】 【目標】
14回 模擬授業③(中学/高校:授業展開)	【授業展開】 【練習】 【応用】
15回 模擬授業④(中学/高校:指導技術)	【指導技術】 【発問】 【説明】 【指示・助言】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(25%) 学期末の提出物の評価(75%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の事前に指示されたことを準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 2 【夜】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な心構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- | | |
|----------------------|-------------------|
| 第 1 回 ; オリエンテーション | 【勤務】【連絡】 |
| 第 2 回 ; 中学校における教育実習 | 【中学生の特質】【中学生への支援】 |
| 第 3 回 ; 高等学校における教育実習 | 【高校生の特質】【高校生への支援】 |
| 第 4 回 ; 実習校実習① | 【教育実習指導】 |
| 第 5 回 ; 実習校実習② | 【教育実習指導】 |
| 第 6 回 ; 実習校実習③ | 【教育実習指導】 |
| 第 7 回 ; 実習校実習④ | 【教育実習指導】 |
| 第 8 回 ; 実習校実習⑤ | 【教育実習指導】 |
| 第 9 回 ; 実習校実習⑥ | 【教育実習指導】 |
| 第 10 回 ; 実習校実習⑦ | 【教育実習指導】 |
| 第 11 回 ; 実習校実習⑧ | 【教育実習指導】 |
| 第 12 回 ; 実習校実習⑨ | 【教育実習指導】 |
| 第 13 回 ; 実習校実習⑩ | 【教育実習指導】 |
| 第 14 回 ; 実習校実習⑪ | 【教育実習指導】 |
| 第 15 回 ; 教育実習反省会 | 【教師の資質】 |

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行う

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

授業の目的は以下のとおりである。

1. 学校での教育相談の意義と課題、教育相談の領域(開発的教育相談、予防的教育相談、治療的教育相談(問題解決的教育相談)、学校教育の中での位置づけについての基本的な理解を持つこと。
2. 教育相談、カウンセリングの基本的な理念と技法(傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など)を修得すること。
3. 不登校やいじめなど、様々な問題を表出している児童、生徒に対する理解を深めていくと同時に、児童・生徒に対する指導、援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を紹介しつつ、検討していきたい。
4. 子どもの「最善の利益」を一致点とした保護者との共同、関係諸機関との共同に向けての課題を明らかにしていくこと。

教科書 /Textbooks

「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)をテキストとして使用する。本授業では主に第一部(1~4章)を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 広木克行 「教育相談」(教師教育テキストシリーズ) 学文社
- 吉田圭吾 教師のための教育相談の技術 金子書房
- 日本学校教育相談学会 学校教育相談学ハンドブック ほんの森出版
- 一丸藤太郎・菅野信夫編著 学校教育相談 ミネルヴァ書房
- 伊藤美奈子・春日井敏之編 よくわかる教育相談 ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 教育相談の意義と3つの領域(開発的教育相談、予防的教育相談、治療的教育相談(問題解決的教育相談))
- 3回 学校カウンセリングの教育相談の基本的な理念について
- 4回 教育相談の基本的なスキルについて - 共感的応答
- 5回 教育相談の基本的なスキルについて - 開かれ質問
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ実習
- 7回 不登校の子どもに対する教育相談
- 8回 発達障害の子どもに対する教育相談
- 9回 子どもの問題をめぐる保護者との共同・連携の課題
- 10回 教育相談活動における連携について - スクールカウンセラーとの連携に視点をあてて
- 11回 教育相談活動における連携について - スクールソーシャルワーカー等との連携
- 12回 薬物問題に対する理解と援助(北九州ダルクの講演)
- 13回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談① - 前思春期
- 14回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談② - 思春期
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポート等)30%、レポート15%、期末試験55%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは早めに読み、基本的な知見をもった上で授業に望むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育相談【夜】

キーワード /Keywords

教育相談の理念と技法、いじめ問題、不登校問題

生徒・進路指導論【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 生徒指導の意義と課題について、生徒指導の目的、生徒指導の3機能(①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること)を理解するとともに、開発的生徒指導、予防的生徒指導、治療的生徒指導)の区別と関連などを検討していくこと
- ② 養育環境や発達上の困難な課題を抱える子どもの内面に寄り添う生徒指導の課題について検討していくこと。
また、実際の生徒指導の場面を想定して、その場面での対応を考える力を養うこと。
- ③ 思春期の人格発達(「価値的自立」)の過程を踏まえた進路学習、進路指導の意義と課題について、今日の若者の就労をめぐる問題状況も含めつつ検討していくこと。
また、実際の進路指導の場面に関する適切な指導のあり方を考える力を養うこと。

教科書 /Textbooks

テキストとして、「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)の第II部と第III部8章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 片山紀子 入門 生徒指導 - 「生徒指導提要」を踏まえた新しい生徒指導のありかた 学事出版
- 桑原憲一編 中学校教師のための生徒指導提要実践ガイド 明治図書
- 文部科学省 中学校キャリア教育の手引き
- 国立教育政策研究所生徒指導研究センター 「キャリア教育のすすめ」
- 日本キャリア教育学会 キャリア教育概説 東洋館出版
- 見美川孝一郎 権利としてのキャリア教育 明石書店
- キャリア発達論 - 青年期のキャリア形成と進路指導の展開 ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション - 生徒・進路指導論の課題
- 2回 学校現場での生徒指導の実際
- 3回 生徒指導の基本 その1 生徒指導の三機能と、開発的生徒指導、予防的生徒指導、治療的生徒指導
- 4回 生徒指導の基本 その2 毅然たる指導、ゼロトランス他
- 5回 実際の生徒指導場面での紙上応答練習
- 6回 「我が子の非行と向き合う親たちの会」の方の講演
- 7回 対人関係でのトラブルを繰り返す生徒に対する理解と指導(女子生徒の事例から)
- 8回 対人関係でのトラブルを繰り返す生徒に対する理解と指導(男子生徒の事例から)
- 9回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路学習
- 10回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取り組み
- 11回 中学校における職場体験学習と進路指導
- 12回 今日の高등학교の問題状況と進路指導の課題
- 13回 被虐待児に対する理解と援助 - 感想レポートの紹介
- 14回 被虐待児に対する理解と援助の課題
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポートなど)30%、レポート20%、期末試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの5, 6章, 8章をしっかりと読み込んで授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

生徒・進路指導論【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は教職課程を履修する学生の必修科目ですが、人間関係学科の学生でスクールカウンセラーなどの援助専門職につきたいと考えている学生にも役立つ授業だと思います。積極的に受講してください。

キーワード /Keywords

生徒指導の三機能、児童虐待、激しい行動化を表出する生徒への指導、進路指導

教職実践演習 (中・高) 【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 兎玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
									○	○	○	

授業の概要 /Course Description

授業のねらい

在学中に学んだ教職に関する知識と教育実習で得られた教科指導等の基礎的指導力をもとに、教職課程履修のプロセスで見えてきた自己の資質能力の現段階の達成度と課題をそれぞれ把握させ、実践的指導力を発揮する教員としての最低限の資質能力についての確認と定着を図る。

授業内容

教員としての使命感・責任感、社会性や対人関係能力、生徒理解や学級経営、教科の指導力に関する内容について、実際の教育場面を想定した課題を取り扱う。また、その際には、模擬授業などにおいて、中・高の現職教員の参加、協力も得ながら、授業を実施する。

授業形態

講義、グループ討論、プレゼンテーションなどを組み合わせて実施する。

教科書 /Textbooks

適宜、レジュメ、ワークシート、資料などを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーションと自己評価シートに基づく課題の整理
- 第2回 これからの教師に求められる資質とは
- 第3回 教師の使命感、責任感、教育的愛情とは(グループ討論)
- 第4回 教員に求められる対人関係能力について
- 第5回 生徒理解についての事例研究(グループ討論とプレゼンテーション)
- 第6回 教育実習等の体験を踏まえた学級経営案の作成
- 第7回 保護者との信頼関係づくりの課題
- 第8回 家庭・地域との連携・協力に向けての課題(グループ討論)
- 第9回 教科の授業のスキルアップその1(わかりやすい話し方、板書の仕方等(模擬授業及びグループ討論))
- 第10回 教科の授業のスキルアップその2(生徒の意欲を引き出す発問や質問の仕方等(模擬授業及びグループ討論))
- 第11回 教科の授業のスキルアップその3(わかりやすい資料提示、情報機器の活用仕方等(模擬授業及びグループ討論))
- 第12回 教科の授業のスキルアップその4(効果的な一斉指導、個別指導、グループ学習等の進め方(模擬授業及びグループ討論))
- 第13回 学校現場でのフィールドワークの報告 その1(教科教育を中心に)
- 第14回 学校現場でのフィールドワークの報告 その2(教科外教育を中心に)
- 第15回 教員として必要な資質・能力の到達点と課題の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加状況 50%、期末レポート 50% で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本授業が始まるまでに、自己評価シートを記入し、教員としての最低限の資質を獲得していくうえでの自己教育の課題を明確化しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教員としての最低限の資質、自己教育力

教育心理学【夜】

担当者名 /Instructor 五十嵐 亮 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講義では、学校教育現場や地域社会、家庭における子どもの「学び」と、それらを育む学習教育環境（教育測定・評価、教師、カリキュラム、学級集団など）の在り様に関して、主に心理学的側面に注目しながら理解を深めていく。

本講義では、子どもの「学び」に関わる理論や実践例を、代表的な研究者の考え方、日常的な具体例を取り上げながら学習することを通して、上記の問題に関して、「心理学的視点から自分の考えを持てるようになること」を目標とする。

講義を中心としながら、日常的な具体例を通して実際の関わり方を考えることのできる機会を毎回設けていく。

教科書 /Textbooks

指定せず（毎回配布資料を用いる）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に随時情報を提供する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回オリエンテーション
- 2回教育心理学の理論と方法
- 3回子どもの「学力」(1)：関心・意欲
- 4回子どもの「学力」(2)：知識・理解
- 5回子どもの「学力」(3)：思考・判断
- 6回子どもの「学力」(4)：表現・技能
- 7回教育測定・評価(1)
- 8回教育測定・評価(2)
- 9回教師と授業づくり(1)
- 10回教師と授業づくり(2)
- 11回学習環境と教育方法(1)
- 12回学習環境と教育方法(2)
- 13回カリキュラムと学習材
- 14回発達障害
- 15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況（学習態度、ミニレポート等）...30%
レポート...20%
学期末試験...50%
(ミニレポートは、毎回講義時間内（10分）に記述する）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回講義中に情報提供する参考書を読んでもみると、理解がより深まると思われる。
(可能な限り、図書館利用可能な書籍を提示する)
自らの教授学習経験と重ね合わせながら、「自分だったらどうするだろうか」「どうしてほしいだろうか」という当事者意識を持って、積極的に受講してほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 3 【夜】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

第 1 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 2 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 3 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 4 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑫	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑬	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑭	【教育実習指導】
第 15 回 ; 実習校実習⑮	【教育実習指導】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行う

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育法規【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

概要

教育法規に関わる基礎的な知識を習得し、教育法規における諸課題について学ぶ。

目標

- ①教育法規に関わる基礎的な知識を習得する。
- ②教育法規をめぐる課題について整理し、具体的な対応策を考えることができる。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 生徒指導と教育法規
- 2回 生徒の懲戒
- 3回 いじめ・不登校と教育指導
- 4回 組織としての学校における教員
- 5回 教員の指導力と研修
- 6回 教員の懲戒
- 7回 教育活動と著作権
- 8回 教育情報の取り扱い
- 9回 教育情報の発信
- 10回 子どもの健康と学校の安全
- 11回 中央教育行政と地方教育行政
- 12回 地方教育行政と学校
- 13回 保護者・地域と学校
- 14回 保護者・地域の教育参加・連携
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 50% 最終課題(試験) 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

それぞれの回において積極的に臨めるよう、十分な準備を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権教育論【夜】

担当者名 /Instructor 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

教育現場及び日常生活での人権問題の具体的な事象に学びながら、人権教育の知識を豊かにするとともに、人権感覚を研ぎ、人権問題解決への技能・スキル・態度を培う。

教科書 /Textbooks

「手作り資料」を活用します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

人権の絵本(大月書房)、みんなの人権(明石書店)、世界が100人の村だったら(マガジンハウス)、人権・同和問題一問一答(解放出版社)、差別と日本人(角川書店)、もののけ姫(徳間書店)、他。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「世界が100人の村だったら」【世界共通の偏見や差別の根っ子と差別のしくみ】【非識字者・同性愛者の人権】【人権教育のスキル・技能】
- 第2回 いじめ差別①(現状認識)【いじめ差別の事例(新聞記事・中高生・大学生の体験)】【各種調査(教育白書・国際調査等)】
- 第3回 いじめ差別②(構図と課題、解決への基礎基本の知識)【いじめ差別の構図(しくみ)と加害者・傍観者の心理】【文部科学省のいじめ定義】【道徳教育と人権教育の相違点】
- 第4回 いじめ差別③(解決への教育創造)【文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」】【金子みすず「教科書の詩」「東大入試問題」】【自尊感情と学力形成の相関関係】【学校文化と子どもの居場所づくり】
- 第5回 子どもの人権と児童虐待防止法【児童虐待の現状認識(新聞記事・教育白書等)】【教師の責務と教育・啓発の教育創造】
- 第6回 ものけ姫①(メッセージからの課題)【物語の時代背景と登場人物から課題の整理】【ハンセン病問題と国の隔離政策】【国家賠償と社会復帰】
- 第7回 ものけ姫②(メッセージからの課題)【女性差別の歴史】【学校現場における「改正男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」を考える】
- 第8回 同和問題との出会い直し①(身分制度の歴史・中世)【身分差別をつくったのは、誰?】【中世の社会や文化のしくみと、国民的課題の意義】
- 第9回 同和問題との出会い直し②(身分制度の歴史・近世)【身分制度(身分統制令)をつくったのは、誰?】【「賤民」身分にされたのは、どんな人々?】【一向一揆、鉄砲・キリスト教の伝来、島原の乱と身分制度の確立の歴史と国の責務の意義】
- 第10回 同和問題との出会い直し③(解体新書、俳人と身分制度)【解体新書の腑分けをしたのは、どんな人?】【一茶・蕪村・芭蕉の人権感覚】
- 第11回 同和問題との出会い直し④(文学者と部落差別)【小説「破戒」(島崎藤村)と「橋のない川」(住井すゑ)】
- 第12回 同和問題との出会い直し⑤(結婚差別)【結婚差別の事例からの課題と解決への展望】【しきたり・ならわし・慣習との出会い直し】
- 第13回 同和問題との出会い直し⑥(人権文化の創造)【教科書無償・全国統一応募用紙・奨学金制度】
- 第14回 同和問題との出会い直し⑦(国の施策)【1965年の同和対策審議会・答申の意義】【1996年の地域改善対策協議会・意見具申の意義】
- 第15回 同和問題との出会い直し⑧(人権文化のまちづくり)【各地の人権文化のまちづくりの現状】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(30%)及び学期末のレポートによる評価(70%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の中で課題を出します

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords